るに硯見ゆれば、枕のしやうじに、ふしながら書きつけつ。　なほさりにみるめはかりをかり枕むすびおきつと人にかたるな」〔清見寺〕　臨済寺。圓東十刹の一。足利尊氏中興、豊臣・徳川氏共に外護す。勝景を以て世に知られ、御親賞のため明治天皇が始め行幸啓相踵ぐ。〔清見寺庭園〕指定名勝。本堂並に書院の北方に自然傾斜地を背景として築かれた庭園にして、池の東北方に高く懸れる瀑布は九曲と稱し、東西に長く穿たれたる苑池の水源となる。また池に石橋を架し園内多少の苑路を設けたるも畢竟屋内よりの観賞を目的とせる書院庭に過ぎず。而して本堂並に書院の前面には京都に於ける寺院庭園に慣用せらるゝ白川砂に散ひて海濱の小砂利を盛り等目を施したり。蓋し京都風庭園の漸く地方化せられんとする過程を窺ひ得べき好適例ともいふべきものなり。〔永元寺〕　大字永元寺にあり。臨済宗妙心寺派。神護山と號す。貞治年中の草創。開基は足利氏。開山は謙貪建長寺の梅溪禪師。當時七堂伽藍悉く完備し寺領若干を有する巨刹たり。中世兵火に罹りて衰微し今往時の観なし。〔瑞雲寺〕臨済宗妙心寺派。本尊、釋迦如来。最勝山と號す。往昔清見寺の山號勝松の上にあり、後今の地に移す。駿豆祖師の札所として寒者多し。〔東勝院〕　大字薩埵にあり。真言宗醍醐派。草創年代不詳。今川義元領主たりし時、薩埵佐印と號し一騎の軍役を勤む。徳川氏に至り寺領若干の朱印を賜ふ。寺内に薩埵地蔵あり。もと田子浦の漁人の網にかかりて出現せるを薩埵峠に安置す、故にこの稱あり。〔理源寺〕大字中宿にあり。日蓮宗。本尊、得日脱上人筆十界曼荼羅・日蓮上人木像。當山は日像上人薩埵弘教の旅蹟。寺内に上人腰掛の石あり、里人之を説法石・臨牛石と稱す。上人これに倚りて安國の義を講ぜしと傳ふ。〔靈泉寺〕　大字薩埵にあり。臨済宗妙心寺派。永禄十二年の創建。開基は武田氏の宿將穴山梅雪、開山は遠傳和尚。後衰廢せしを享保年中龍田和尚再建す。因つて之を中興開山とす。境内に梅雪の墓あり。又武田信玄の位牌を存す。〔興海寺〕　日蓮宗。教敬山と號す。草創年次不詳。寺内に夏心了道の祠あり、俗に興津の夏心と呼ばる。往昔一武士病を病みて此地に殁す。臨終にのぞみ雪ひて曰く、殁後我を祈らば病を癒さんと、即ち遺骸を當寺に葬る。爾來驗ありと稱し祠前香華絶えず。

【興津川】　静岡縣庵原郡内にある川。甲斐駿河の國界恵間峠に源を發して東南流し、途中中河内川・小河内川を併せ、興津町に於て駿河灣に注ぐ、流程約二二粁。東海道線は興津町の東部に於てこの河口を横斷す。近時この川の水が興津町の北方高地に揚げて清水市の水道貯水池とする設備進行しつつあり。興津よりこの川の谷を遡り富士見峠を越えて富士川畔の萬澤に出づる街道は甲州入りの捷路として昔時よく利用せらる。またこの川は鮎の產多し。また古來多く歌に詠まる。夫木・二四「清みかた月にむかへるおきつかはなかるる影やうみにいつちん　承澄」雅經家集「海にいつるみなとはおなし興津河たへすや瀬々の網深くして」

【興津】　大阪府泉北郡大津町大字字多大津の海濱をいふ。小津「土佐日記」にも作る。古今・一七「君が思ひおきつの濱に鳴くたつの等れくればそ有りとたに聞く忠房」夫木「打よする汀のなみも昔さえておきつのうちに千鳥なくなり　爲家」

オギツ　小木津　茨城縣多賀郡日高村の大字。常磐線の小木津驛（明治四十三年設置）を置く。

オキツカリ　奥津借島　長門國（山口縣）の歌枕。今その所在詳かならず。萬葉・六「長門なる神つ借島奥まへて吾か念ふ君は千歳にもがも　長門守巨曾倍對馬朝臣」

オキドノ　隱岐殿坂　東京市板橋區志村西臺町清水坂の舊名。昔、千葉隱岐守某圖かれし故の稱と。一名、地蔵坂。寛保年間この地の檜組なるにより、寛保年間大澤寺の住職直正和尚、酣西岸と共に勧進して木を伐り料を刈りて石階を作し、行人の苦難を除けり。

オキナ　置勿　大和國（奈良縣）高市郡の古地名。今その所在詳ならざるも、大和志に「置勿（高市郡）、奥山村淡岡等舊名」とあり。名處考に「歌詞によるに、高市郡にて、飛鳥より桃花鳥野に至るまでにある地の名なるべし」とあるか妥當とすべし。萬葉・一七「押照るや　難波の小江に　盧作り　蘆作り居る　葦蟹を　王召すと　何せむに　吾か召すらめや　明けく　吾知ることを　歌人と　吾か召すらめや　笛吹と　吾か召すらめや　琴彈と　吾か召すらめや　飛も此も　命受けむと　今日今日と　飛鳥に到り　立てとも　置勿に到り　筆かねとも　桃花鳥野に到り　東の　中門ゆ　參納り来て　命受くれば　馬にこそ　絆掛く・の　牛にこそ　鼻縄はくれ　あしひきの　この片山の　もむ榆を　五百枝剝き垂り　天照るや　日の氣に干し　鳴つるや　柄碓に舂き　庭に立つ　稚子に舂き　押照るや　難波の小江の　初垂鹽を　辛く垂り来て　陶人の　作れる瓶を　今日往き　明日取り持ち来　吾か目らに　鹽漬り給ひ　もち賞すも　もち賞すも」

オキナ　翁島　鳥取縣耶麻郡翁島村の西南方、猪苗代湖岸に近き島。周囲約一粁。湖岸に峙つ名倉山と相對し、風景美を以て著はる。

オキナ　翁峠　奥羽火山脈南方部の一峯。山形縣最上郡東小國村・戸澤村と宮城縣加美郡宮崎村の三村境界に峙つ。標高一〇七五米。南麓は吹越山（九三九米）に連る。東南麓は魚取沼あり。南斜面より鳴瀬川東南流す。

オキナガ　息長

【息長村】　滋賀縣坂田郡の中部。彦根市の東北方約八粁。米原町の北に隣り、西約四粁にして琵琶湖に達す。北部及び南部は丘陵起伏するも中部一帯は開けて天ノ川西流す。米原町にバス通じ交通稍々便なり。米を主産し麥・蕎・桑等これに次ぐ。古くは和名抄、坂田郡阿邪郷の内に當ると云ふも確證なし。中世は箕浦村と呼ばれし處。のちこれを南北の二村に分け、本村の地は北箕浦村と云ひしが、明治二十三年息長村と改稱。息郷と云ふは、此地に敏達天皇皇后廣姫の御陵息長墓と傳ふる古墳あるに因めるものなるも、姫の御陵は、明治に御治定せられし大原村大字村居田の息長陵とす。息長氏は近江の名族にして神功皇后も息長宿禰の女にましまし、敏達天皇の皇后廣姫も此氏より出づ。大字新庄は新庄氏の發祥地。子孫常陸麻生の城主となり、明治に至り宗族に列し子爵を授けらる。〔山津照神社〕大字能登瀬にあり。縣社。國常立神を祀る。創立年代を詳にせざるも、地方の古名社にて大同元年神封六戸を充てられ、貞觀八年正四位下を授けられ、延喜の制小社に列す。もと俗に青木大梵天王社とも稱す。例祭五月五日。〔皆圓寺〕大字能登瀬にあり。真宗本願寺派。明向山と號す。もと天台宗にて明向院と號す。元龜の兵燹に罹り堂宇灰燼に歸せしを信雲法師小菴を結び、澄如上人に歸依して本宗に改宗す。〔西圓寺〕　大字西圓寺にあり。黄檗宗。大峰山と號す。往昔天台宗の瓦刹にて足利義滿の祈願所たり、長禄年中義政寺領の課役を免ず。元龜・天正年間兵燹に罹り、後光山玄明一寺を再建し、現宗に改む。〔善性寺〕真宗佛光寺派。平尾山と號す。延喜年間の草創。山津神社の別當にて本願坊と稱す。もと天台宗なりしが中古改宗して今の寺號を稱す。神社は朝廷及び武人の崇敬篤かりし故、別當の坊も亦隆運に向ひ近衛家等に猶子を出せり。〔總寧寺〕　大字寺倉にあり。曹洞宗。安國山と號す。草創開山共に不詳。もと新庄（筏名）家の菩提所たり。永禄年中六角氏縁當寺に寄依す。享禄年中兵燹に罹り堂宇燒失、後新庄氏之を再建す。〔日光寺〕　大字日光寺にあり。天台宗。本尊に聖徳太子作聖觀音菩薩。貞觀・元慶頃の草創。開基は名越宣子。往昔七堂伽藍完備し壮觀を極め、醍醐天皇皇子宗貞親王の編旨、後小松天皇曾綱補任の編旨等を賜ふ。後元龜の兵燹漸く衰廢に歸す。〔寶圓寺〕　大字箕浦にあり。真言宗本願寺派。もと天台宗寶願寺と稱す。元和二年大阪落城の時、豊臣方の浪士を隱匿せしにより隣滅せしめ河内大井村に移す。時に一族法音この地に留まり里人の畫力にて草堂を結ぶ。後寂如上人より許されて他道場正源寺と號す。正德二年いまの寺號に改む。

【息長川】　滋賀縣坂田郡にある川。いま天野川、また箕浦川といふ。其源を伊吹山の西南麓高附近に發し、西南流して長岡・醒井を經て、西に折れ、朝妻筑摩の北に至りて琵琶湖に入る。全長凡そ一九粁。壬申の亂に、村國男依等の近江軍を破りし古戰場もこの附近なるべし。書紀天武紀に「男依等與二近江軍一戰、息長横河破之」と見ゆ。横河の驛は今の醒ヶ井にして今の息長村に往時の名を留むるものとす。萬葉・二〇「鳥の息長何ぞ絶えぬ」とも君に語らむ言葉さめやも　大伴宿禰」

オキナガノヨカワ　息長横河　→息長川

オキナクラ　翁倉山　北上山脈の一峯にして、石巻市の東北方約二十粁に位し、壮鹿半島の基部に峙つ。宮城縣本吉郡横山村と桃生郡橋浦村に跨る。標高五三二米にして、中世層より成る。南西に黒森山（三八三米）聳ゆ。山頂より東方には追波湾の碧波を望み、西方には登米郡に横はる大小數多き沼澤を俯瞰す。

オキナサワ　翁澤　岩手縣和賀郡にある鑛山。我國重要鑛山の一。釜石區は湯田村にあり全銀銅鉛を採鑛す。昭和十年の銅鑛は約一・五〇〇瓩にして、鑛石は荒川鑛山に送りその他の鑛山より來る鑛石と共に製錬す。

オキナジマ　翁島村　福島縣岩代國耶麻郡の南部。猪苗代湖の北岸、猪苗代町の西南約二粁。東に千里村に、西に猪苗代湖に發する日橋川を隔て河沼郡日橋村と界す。磐梯山の南麓地帶に當り、西南部は長瀬川の扇狀地にて所謂猪苗代湖盆地の一部を占め、西南部日高川の河口、猪苗代湖岸に名倉山（六四五米）聳え、その南方に翁島浮かび景勝に富み、長濱に高松宮別邸置かる。東南低地は灌漑の便よく地味肥沃にして米作を主とし、山麓周縁は養蠶・林産行はれ、其の他温泉業落による商業盛なり。縣道越後街道湖岸に沿うて通じ、省線磐越西線また中央を東西に通じ、翁島驛（明治三十三年設置）を置き、また温泉・名所に通ずる自動車の便あり。村名は蓋し翁島に因みしもの。磐梯山の裾野附近に摺上原・妙法原・長峰原・七森原・六郎原等連り、摺上原に天正十七年伊達政宗、その將片倉小十郎景綱・伊達藤五郎成實と共に蘆名義廣を敗りし古戰場にて、ここにて戰死せし蘆名氏の三勇士金上盛備・佐瀬種常・同常雄の三忠碑あり。大字三和にもと三城潟と稱し、古へ三浦經連の子經泰・赤房・義泰等ここに三館を築き居せしにより名づくといひ、五十軒部落に松平氏の陣足軽の屯田兵村なりと。〔翁島鑛泉〕猪苗代湖に近く背に磐梯山を負ひ景勝に富む。泉質は鹽類泉にて温度二十七度、加熱浴用。〔押立温泉〕本村西北部にあり。東北に磐梯山を仰ぎ南は曠野に續く。附近はスキー場として近年漸く喧傳せらる。泉質は炭酸泉にて温度三十七度。〔西ノ澤鑛泉〕翁島より東約〇・五粁。磐梯山

の秀姿を背ひ猪苗代湖畔の長濱まで自動車の便あり。泉質は鹽類泉にて加熱して浴用に供し、神經系統病・婦人病・脊髓病等の療養に適す。〔新磐梯鑛泉〕北方磐梯山上の磐梯温泉に對してかく稱す。附近地は磐梯山麓にて猪苗代湖に近く、附近は冬季スキーの好適地。泉質アルカリ泉。〔猪苗代湖みづすぎごけ群落〕指定天然記念物。湖の北岸に近き深さ三米の水底の粘土上にあり。蘚體の波動によりて引拔かれたるものは水流の作用によりて大小無數の球狀又は楕圓狀の蘚を成し、湖岸に打上げらるるを見る。珍稀なる沈水蘚群として學術上有益なるものなり。

オキナワ　沖繩(おきなは)

【沖繩縣】　九州地方の南部。琉球弧狀列島の南半部を占め、縣下に屬するもの四群島にして即ち沖繩群島・八重山群島・尖閣諸島・大東諸島等の大小五五の島嶼より成り、是等群島の最北は北緯二七度五四分の島々に起り、南端は北緯二四度六分の波照間島に達し、東は東經一三一度一九分の沖大東島に起り、東經一二二度四五分の與那國島を以て西端となす。面積二三八六・二四平方粁。人口五九二四九四人(昭和十年)。〔地形・地質〕沖繩列島は東支那海大陸棚東緣部の隆起による一大海底褶曲山地の峯線の一部が海水面上に露出して形成す。列島の東部即ち外側は平均深度六〇〇〇米を有し、最深部は沖繩島の南方二五〇粁の地點に位置し其深度實に七四八一米にて、更にその東南五〇粁に七一三〇米、その西南一〇〇粁に七一八三米の深部を發見し所謂琉球海溝があり、更にその外側に於て再び海底隆起して太平洋の平均深度四〇〇〇米を示し、其處に大東諸島が横たはる。要するに沖繩列島の隆起帶は我南彎山系の雁行狀山脈の一部を成すものにて、南端は地殼の褶曲に際して捩轉して臺灣山系に及ぶ。地質構造は明瞭な三帶を成し内帶は火山岩にて鳥島・伊平屋島・粟國島・久米島及び尖閣諸島之に屬す。中帶は古生層より成り沖繩島の北部・慶良間諸島・石垣島を含む。外帶は第三紀層より形成され南部沖繩島・西表島之に屬す。今縣下の最大島たる沖繩島に就て見るに東北より西南に長く横たはり全長一六〇粁餘其幅最大幅員に於て僅に三六粁、その最小地峽部に於て四粁を出でず。島形「く」の字型を成し、北部は島の北端邊戸(へど)崎より西南に走りて、島の北部及び中部の國頭郡地方を包括し、其大部分は古生層より成る山岳起伏し森林蓊鬱として之を被ひ、土俗山原(やんばる)地方と稱する地域を成す。南部は中頭・島尻二郡の地方を占め、島軸屈曲して北々東より南々西に向ひ其地盤は主として第三紀層より成り之を被うて隆起珊瑚礁の廣く發達せるものあり。之等は最近の隆起を示す海蝕臺地の發達と共に特色あるものにて、現生の珊瑚礁は勿論裾礁となりて列島中到る處に見らるるものなり。地形概して低き丘陵著くは臺地を成し、其間に平野を控へ、地味豐饒、田園耕地よく發達す〔氣候・生物〕琉球は帝國の南翼をなし前記の如き低緯度にありて亞熱帶圏に位置せるため、氣溫一般に高きも島嶼の常として、海洋的氣候の特性を保持し、較差小にして、那覇市に於ける最低平均一五・九度(一二月)、最高平均二八・〇度(七月)、年平均二二・一度、石垣島は一七・二度(二月)、二八・二度(七月)、年平均二三・二度を示し九州南部よりも凡そ六乃至七度高く、臺灣北部とほぼ相等し。降水量は一般に多くして其累年平均總量は石垣島の二〇五六粍より那覇市の二一八四粍の間にて列島中にて名瀨の三二四〇粍に一籌を輸し、內地の多雨地たる九州南部と伯仲の間にあり。年最も多きは夏季五月より八月の間にして多雨に過ぐるの感あるも、驟雨沛然として通過し、炎塵を一掃するの快は又多く之を內地に求むべからず。加之本地方は海陸風の作用一般に顯著にして夏季は之により大いに其の炎暑を和がしむ。唯々低氣壓の襲來夏季殊に頻繁なると、冬季の天氣陰鬱なるとは本地方に於ける風土の二缺點とも稱すべきなり。要するに琉球の風土は概して臺灣と甚だしき逕庭なきもその海洋性の顯著なる事に於て聊か趣を異にするものあり。風力は一般に大にて那覇市の年平均風力は五秒米を示し低氣壓の進行方向を轉回する彎曲部に近きため進行遲々として數日間に亙る暴風雨の襲來珍しからず。殊に石垣島は强風地域をなし明治三十年には實に風速七〇・七秒米の記録を示せり。さればその聚落構造に於て著しく耐風・防風に注意せるを見る。即ちその家屋は一般に低く、爲に通風を不良にし夏季の苦熱を忍びても尚家屋の周圍に高き石垣を繞らし、竹或は榕樹の防風林を圍繞せるは風害を可及的小ならしめん爲なり。植物は氣溫高く降水量多く霜雪絶えて無く爲に四時草木蓊鬱としてよく繁茂し沖繩松・榕樹・フタギ・アカギ・梯梧・紅樹・林投樹・蘇鐵等よく繁り、八重山諸島には紫檀・黑檀等生育し、又甘蔗・甘藷・バナナ・木瓜(パパイヤ)等の栽培行はれ其植物景觀は本土と著しく異なるを見る。動物は島嶼の常として野獸少なく、猪・鹿・黑兎等の棲息するに過ぎず。爬蟲類には猛毒を有する飯匙倩(はぶ)、巨大なる蛇類、蜥蜴(とかげ)等屋内を横行し奇聲を擧ぐる守宮等が棲み昆蟲類ではアブラムシ・赤蟻等が多く咬傷を受くる事珍しからず。蚊は終年棲息しマラリヤ蚊は先島諸島に多し。また魚類・貝類等の種類に富めるも一般に粗味なり、海蛇の一種なる永良部鰻は頗る珍重され其名著はる。〔產業〕農業耕地は約十二萬五千ヘクタールにして全面積の三分の一以上を占め、島尻・中頭地方の如きは殆んど拓き盡され、丘陵の中腹に至るまで耕作せられざるなきも面積大なる國頭・八重山二郡の如き未墾の地多く、殊に八重山郡にありては石垣・西表二島に於ける原野は徒らに放置せられ一部分牧場として利用せらるるものあるのみ。耕地は水利の便を缺くため水田比較的少なく、二回の收穫を得らるるも單位面積の收穫量は內地の一回作に及ばず加ふるに米質不良にして、最近米食の風高まると共に泡盛製造の原料として米の移入を增加し本縣輸移入品の筆頭なり。畑作は甘藷・甘蔗の栽培最も卓越し、殊に甘藷は米穀に乏しき本縣の主要食物を成し本縣隨一の農作物にして其產額全國の首位に在り。甘藷は單に主食物たるのみならず芋葛製造原料・アルコール製造原料等にも使用せらる。甘蔗は本縣唯一の換金作物として廣く栽培せられ逐年作付面積を增加しつつあり。其他大豆・粟・小麥・大麥・小豆等の雜穀類稍多く、特殊農作物として香蕉・鳳梨・百合根・藺・茶・珈琲・薄荷・薬煙草等あり、果物には支那傳來の荔枝・龍眼肉等の珍果を始め蜜柑・桃も亦風土に適す。又香料或は藥草として胡椒・肉桂・ヒハツモドキ等、又工藝用作物として山藍・實棉・苧麻糸・芭蕉・七島藺・備後藺等あり。畜產の主要なるものは牛・馬・豚・山羊・鷄・鶩等なり。牛は中頭・國頭・八重山・宮古に多く總頭數五萬餘頭、性質溫良、體軀偉大、四肢殊に蹄の發育よく、使役に適し、耕作運搬に使用され肉は美味なり。八重山・宮古にありては主として放牧し之を肉牛として神戸方面へ移出するもの少なからず。馬は島尻・中頭・八重山・宮古に多く、体軀小なるも強健、蹄鐵を用ひずよく險路を驅騁し、貨物運搬用として重要視さる。豚は本縣特產の一にして縣下至る所每戶一二頭乃至四五頭宛飼育せられ農家或は酒造家にありては副業として數十頭を飼ひ、全頭數は、全國に首位たり。品種多樣なるも肉の美にして飼養容易なるは在來種なりとす。アメリカ水師提督ペルリは其日記に本縣產豚は世界第一と稱せることあり。要するに養豚業は本縣に於て最も有望なる事業の一なり。肉は鹽豚・罐詰として阪神地方に移出せらる。養蠶業は桑樹の成長著しく殊に春季は桑葉に富むを以て各地に擴がりつつあるも濕氣多く蠶病を誘致し易く、糸質良好ならず。本縣は四面渺茫たる蒼海を繞らし加ふるに黑潮の通路に當るを以て、鰹・鰛等の魚族近海に群をなし、又鱶・烏賊・海鼠其他種々の貝類を產し水產の富少なからざるも、漁撈の法未だ幼稚にして他府縣よりの進出者に漁利を恣にさるるの狀にあり只八重山地方の鰹漁は最も著ばれ、鰹節は移出の最たるものなり。工產中重要なるものは紬上布(白は八重山、黑は宮古より產す)・絣・漆器・陶器等なるも、移出の販路運賃の關係上甚しく大ならず。琉球泡盛は首里市內三個の原產にて米を原料として蒸溜せるものにて獨特の芳烈なる風味を有し、舊家の珍藏には三〇〇年以上經過の古酒あり。製糖も分蜜工場は何れも規模小にして大部分在來式搾汁機車を畜力にて動かし黑砂糖を生產す。

〔交通〕「琉球と鹿兒島と地續きならば」と詠歎せし如く其間に奄美大島を中心に七島灘の難航路あり此高きうねりが琉球の開發を妨げしことよ。されどこの離陸性よくその古風を保持せりともいふべく然るに今や千六百噸級の汽艇二隻、月十回の定期往復航路ありて鹿兒島港、那覇港間を四十時間にて結び、又大阪・那覇間にも定期航路開かる。鐵道は沖繩島南部に那覇を中心として南方糸滿へ一八・三粁、東北與那原へ九・四粁、北方嘉手納へ二三・六粁の縣營による輕便鐵道あり。最近福岡臺北間に定期航空路の開通を見るに及び中間着陸の便開かれ福岡とは三時間半、臺北とは二時間四〇分を以て連絡するに至れり。〔人口〕住民は離島の關係上他の府縣と著しく異なり、一般に保守的にして言語・風俗の異なるものあり。人口密度は一平方粁二六〇餘人(昭和十年)密度の大なること純農業地域として類少なく、爲に阪神・京濱等の工業地域へ又ハワイ・南洋・フィリッピン等へ出稼並に出稼住する者多し。〔沿革〕本地域は薩南諸島と共に古くは南島と汎稱し、その大部分は琉球王國の管轄なりしが慶長十五年島津家久の琉球征伐により奄美大島・德・永良部・鬼界・與論の五島、謂ゆる奄美五島を薩摩に分轄し、明治五年王國を廢して琉球藩を置く。同八年更に藩を廢して沖繩縣を置く。同十三年那覇・首里・島尻・中頭・國頭・伊平屋・久米・宮古・八重山に役所を設け郡內の事務を管掌せしむ。二十九年に至り、那覇・首里に區制を施し、島尻・中頭・國頭・宮古・八重山の五郡を置く、即ち沖繩本島を三分して其北部を國頭郡、中部を中頭郡、其南部を島尻郡となし、別に宮古・伊良部・池間・大神(おおがみ)・來間(くりま)・下地(しもぢ)・多良間(たらま)・水納の八島を宮古郡、石垣・西表・竹富・黑島・新城(あらぐすく)・小濱(こはま)・波照間(はてるま)・與那國の八島及び其他二三の小島嶼を八重山郡と定め、宮古・八重山の兩群島には島廳を設けたり。次で四十一年町村制を布き、間切を村、村を字と改む。蓋し舊制、村を最小とし、村を集めて間切といひ、間切を集めて方といふ。內地の郡・村・字に當るものなりしが、制度の統一を圖るの必要上この際に出でたるものにして、また方は古く島尻方・中頭方・國頭方等と唱へたれど、既に郡の設置ありしが爲め改稱の事要せずして現在に至る。

【沖繩群島(諸島)】　沖繩縣の東北部をなす島群。縣の主部をなす沖繩島とその北方より西方海上に浮ぶ伊平屋(いへや)・粟國・久米等の諸島を含む。※沖繩縣

【沖繩島】　琉球列島の中央部に位する列島中の最大島にして沖繩縣の主要部を形成す。長軸約一三五粁、幅最大三五粁、最

小五軒、極めて狭長なる島形を成す。周囲約四〇〇粁。面積一二一平方粁（小豆島に併す）。〔島の北部〕（國頭郡）は主として古生層にて構成さるゝ山岳地域にて東北より西南に走る背梁山脈は概して低く興那覇（五〇二米）・久志（三四〇米）恩納（三七五米）を主峯とし、西岸には高津宇岳（四四二米）を載せて本部半島突出し、其頸部の南岸に名護湾、北岸に羽地湾入込み、附近に伊江・瀬底・屋我地等の小島點在す。隆起珊瑚礁の分布は比較的少なきも、半島部及び北端の邊戸岬より東北岸にかけては散設の見事なる海蝕段丘發達す。山嶺より山腹にかけては榕樹等の亞熱帯性植物繁茂し且つ近時植林も行はる。從つて本島に於ける木材・薪炭の主要產地を成す。島内は概して平地少なき爲、集落の位置は狹隘な海濱及び溺谷の灣頭に決定せられ、主要道路は東西の海岸を繞つて走る。主邑名護町は本部半島の頸部を占め、半島部の淺久地（本部村）は漁港として稍〻榮え、爲朝上陸地と傳へらるゝ運天は昔日の面影なし。〔島の南部〕（那覇・首里の二市及び中頭郡と島尻郡の大部）は第三紀層或はその上に珊瑚石灰岩を載く高度二〇〇米に達せざる臺地より成り、處々にカルスト地形散在す。平時の河谷は殆ど流水なく從つて水田少なく、急崖の蘇鐵、臺地上の琉球松の疎林を除く以外は一帶の畑地にして、食糧作物なる甘藷と最も需要のある甘藷となる以て大部分を占む。集落は概ね散在し多く決定され、ガソユマル樹にて蔽はるゝを常とし、飲料水の不足を來し雨水の補助を仰ぐ場合少なからず。舊都首里市及び現縣廳所在地那覇市は此の地域の中央に位し、前者は過去の都會として發達の一路を辿るに反し、後者は縣政の中心地として又唯一の港市として益〻繁榮す。其地の中にて最も特色あるは糸満町にして、ここの漁夫は列島の漁業を獨占するの狀態なり。本島の人口の自然增加率は小なるも、人口密度は農耕地域として他に類例なき程大にして、從つて出移民は多數にして、內地にては阪神及び京濱の工業地帶、外國にてはハワイ・フイリピンに赴くもの多し。

【沖繩縣魯鈍道】 沖繩縣那覇市下泉町二丁目の那覇より島尻郡大里村の與那原まで九・四粁、那覇の隣郡古波蔵より中頭郡北谷村の嘉手納まで二二・四粁及び島尻郡眞和志村の國場より同郡豊城村照屋の糸満まで一五粁、計四六・八粁と、外に那覇より後橋宮投所に至る一・〇粁の線路を有する地方鐵道。軌間は〇・七六二米にて蒸氣及びガソリン動車運轉、省線とは勿論非連帶なり。

オキノ　沖野島　廣島縣佐伯郡にある島。本郡の東南東能美島の西方に浮び西方遙かに大黒神島と相對し大原灣口を扼す。東能美島の西端深江村に屬す。全島丘陵に覆はれ樹木繁茂す。

オキノ　荻野　【荻野】 弊越西線の驛（大正三年設置）。福島縣耶麻郡山郷村にあり。

【荻野村】 神奈川縣相模國愛甲郡の中部・厚木町の西北約八粁。西北部に經ヶ岳（六三四米）等聳ゆるも徐々に低下し、東南部は低平にして、相模川の小支流中部に發源して東南流す。主生業は農にして繭の產最も多く、麥・大豆・甘藷等これに次ぐ。厚木町にバス通ずるも交通なほ便ならず。此地は和名抄、愛甲郡印山郷の內にして、のち荻野郷と稱し、近世毛利庄に屬す。もと荻野村と稱せしも慶長八年上下の二村に分れ、中荻野村は下荻野より分る。俗に山中と稱す。中世荻野氏の起りし地。文和の頃は鎌倉圓覺寺の所領なりしも後小田原北條氏之を領す。享保年間大久保忠朝の次子教寛、一萬三千石を以て此地に封ぜられ以て明治維新に至る。大字上荻野は荻野四郎忠義の居住せる所にして、忠義保元の亂に左馬頭義朝に屬し白河殿を襲ひしこと保元物語に見ゆ。安元年間、荻野五郎季重（東鑑に俊重に作る）なるものあり、海老名源三季貞の子にして此地に住す、治水四年石橋山の役に大庭三郎景親に當し頼朝に敵し斬罪に處せらる。上荻野は文和の頃に鎌倉圓覺寺の所領なりしも北條氏割據の時は田中某領し、のち大久保佐渡守忠保の領となる。北方の曾山は建久四年頼朝富士の裾野に狩せし時山上に小屋を立てて守衛を置きし所なりと傳ふ。大字中荻野の東南山中に大久保出雲守教孝の居所あり。古は陣屋なりしが天明三年駿州の居所を此處に移す。後年代官の住居となる。大字下荻野は永祿十二年、三增合戰の時、北條氏康父子荻野の宿迄出馬せしこと小田原記・甲陽軍鑑に見ゆ。また新編相模風土記によれば往昔此地に市場開かれしことありと。天正十三年北條氏市場の制札を出し時の地頭、松田右兵衛大夫康長に下知せるにより知らる。小田原記「氏康父子三里此方荻野の宿迄、馳著給へども、信玄早々引入ければ、勞して無功として御馬を入給ふ」〔荻野山中落〕享保三年小田原城主大久保忠朝の次子教寛、別に山中に封を受け一萬三千石を領し、子孫世襲して明治維新に至る。明治四年藩は一旦縣となりしも間もなく廢せられて足柄縣に入る。藩校興讓館は明治元年大久保教義の創立にして、同四年廢校、同六年小學令により舊名を用ひ校命を置く。〔荻野神社〕 大字上荻野にあり。郷社、祭神、大己貴命。創立年代未詳なるも地方の古社にして、江戸時代には德川幕府から三石の朱印領を安堵せらる。もと石神大明神と稱せしも、慶應三年現社號に改稱す。又白川神祇伯から正一位の神位を授けらる。例祭、九月十日。

オキノアキメ　沖秋目島　鹿兒島縣薩摩郡西南方村の屬島。最高點は一四四米にして周圍みな海岸を以て繞らされ

南方に南ノ諸、西方に西ノ諸なる小突出あり。枇榔生字るより枇榔島の名あり。

オキノウラ　沖ノ浦　兵庫縣城崎郡にある鐵山。鐵鉱は口佐津村に屬し、金銀銅を採掘し、昭和十年に於ける產額は約五萬瓩。

オキノエラブ　沖永良部島　鹿兒島縣大島郡の一島。總之島の南西約三三粁、與論島の北東約三〇粁に位す。島形北東より南西に狹長にして二〇粁、最大幅七粁、周圍五二粁、面積九七・五平方粁。基盤は古生層にして、南島の大山（二四六米）は砂岩、中央の越山（一八九米）を最高とし、他に緩れ緩傾斜の隆起珊瑚礁にして各所に、特に大山の山腹には無數のドリル（石灰岩地域に多き擂鉢狀の凹地）點在す。海岸線は單調にして北側には海星よく發達し南側には原生珊瑚發育す。東北岸に和泊港、西南岸に小米港あるも暗礁多く、汽船は二粁の沖に碇泊す。餘多川、淺瀬約三粁）の他、何港と稱すべきものなく、從つて灌漑の便に乏しく約六五〇ヘクタールの田は多く旱天田なり。地は粘土質にして概して肥沃、甘藷・甘蔗を主作物とし、猶ほ輸出向の花百合の栽培行はる。いま和泊・知名の二村に分れ、集落に大山の麓に纏を作りて點在す。何れも集村型にして家屋は一般に小さくガウユマルの防風林に圍まる。出稼者非常に多く、本籍人口の二六%に出寄留し、男女の割合も著しく不平均なり。

オキノカミ　沖神島　沖繩縣八重山郡西表島の西南海上一四粁にある岩礁。青草繁茂し、海鳥の群棲地ななり。

オキノサト　置郷　島根縣簸川郡鹽冶村大字上鹽冶附近の古稱。出雲風土記神門郡「置郷、郡家正東四里。志紀島宮御宇天皇（崇神）之御世、置伴部等所遣、來宿停而爲レ政之所。故云二置郷一」天平十一年大税帳に神門郡日置郷とあり。和名抄にも日置郷とあれば或は風土記傳寫の際誤つて日の字を脱せしものか。

オキノシマ　奥島・奥之島・億岐洲・隱岐洲・淤岐島　隱岐國の別稱。※隱岐國・大八洲國

オキノシマ　沖ノ島村　高知縣土佐國幡多郡の西南海上にある沖ノ島を主島とし、その西北の瀬島・鵜來島を含む。主島沖ノ島に奥內村の西南海上約六粁。本島は東西約二粁、南北約四粁、周圍約二〇粁。高知縣の屬島中最大島にて島の略〻中央に標高四〇四米の山峰ち、海上よりの好目標となり晴天の日には三〇浬の沖より望むを得。其山麓四周に下りて海岸に迫り砂濱殆んどなく海蝕多く、西海岸に東海岸に比し屈曲に富み西北に島頭子崎、中部西方に白岩岬、西南端に櫛ヶ鼻突出す。耕地乏しく水田なく僅かに陸田あるも畑地に比し其率極めて尠く、漁業を主生業とし農產物に麥・甘藷・里芋あり、また養蜂行はるゝも米・鹽及び日用雜貨品は多く本土より移入す。その外東方沖合は土佐海の特有物產の一たる珊瑚の採掘場なり。又本島は黑潮流の激衝する所にて氣溫高く植物には熱帯性の綜樹最も多く蒲葵赤繁茂し就中蓬の大なるは約一米に及ぶものありといふ。島內の道路は海岸に沿うて一周するものあるもその密度絨極めて薄くまた幡多本土との間には毎日一回定期船の便あり。集落また東海岸に多く弘瀨（大字）はその主邑たり。昔本島に始めて人の入りし年代は詳ならざるも、此島の無人島なりし頃兄妹にて漂著し、何時しか夫婦となりて子供を儲け次第に繁榮し村里をなすに至りしものとの傳說あり。これより此島を妹兄島と稱するに至るといふ。即ち宇治拾遺物語・今昔物語等に見ゆる妹背島に此島なるべし。其後中世に至り土佐領と伊豫宇和島領とに分屬し明暦前後に沖島境界爭論起り幕府に訴へ出づ。當時土佐國の國學に野中兼山にてその證據を檢出し所領の貫徹に力む。老中阿部豐後守・松平伊豆守等兼山の主張を認め萬治二年その裁判決定し土佐側の勝訴となり沖島の境界確定す。今當時幕府よりの沖島界分の檜圖は舊土佐藩主山內侯爵家に藏し又縣廳にも其時作りし本島の模型あり。本島の三浦家に鎌倉時代以來の舊家といふ。また村營水力電氣及び土佐沖ノ島燈臺（明和八年四月設置）あり。燈質は連閃白光にて光達距離三二浬。艶來島は沖ノ島の西北方約七粁。周圍約八粁。もと伊豫宇和島領なりしも維新後高知縣管轄となり本村に屬す。又島民物を選ぶに皆頭上に載する風習あり。

オキノダイトー　沖大東島　沖縄の俗、大東をすーアガリと訓むも近時多く文字に從ふ。沖縄縣島尻郡に屬する島。那覇港の東南二三六浬。北方八七浬に南大東島浮ぶ。本島は卽ち隆起珊瑚礁にして、周圍僅に四粁、海面上約四〇米の丘陵をなすのみにて航海上望見すること困難なり。本島は燐鑛の產地なる以て知られ、其採掘は一時中止せしも近年再び採掘するに至り年額一五萬噸に及ぶ。

オキノハタ　沖端村　福岡縣筑後國山門郡の西北部。沖ノ端川のガ岸に位し柳河町の西に隣る。此地は卽ち筑後平野の南部を占め、地平坦にして水利の便よく水田多し。また沖ノ端川により小港を成し穀物の移出・移入盛んなり。交通は柳河町に近く便なり。いま沖端町・筑紫・稻荷町・矢留町・矢留村の五大字より成り役場を沖端町に置く。

オキノハマ　荻濱村　宮城縣陸前國牡鹿郡牡鹿半島の山央西岸にあり。荻濱灣及び一部大原灣に沿へる一帶の地方にして、海に瀕する僅少の部分の外は一—四〇〇米の丘陵相重り、耕地極めて少し。荻濱港は海水深く陸地に灣入し、風波穏かにして好錨地たり。主生業は漁業を主とする農村にして、農產に米、

麥を產し、養蠶も行はる。金華山街道は淺渡町より大字萩濱を經て大字萩濱に至り大原村へ通ずるも、陸上交通は便ならず、小學校も部落毎に分教場を設くる程なり。海上交通は發達し横濱・函館兩港間の定期船の寄航地たりしことあり。今石卷港より渡波港を經て本町に至る金華山航路寄港す。此の地古くは和名抄、牡鹿郡俘戸郷の地。大字月の浦は金華山道路の海岸に沿へる漁村の一部落なり。前面に小出島(小網島)あるを以て風波を防ぐべく海深くして船舶の碇泊に適せり。往時難破船を修繕せしところなり、今尙南蟹小屋の跡と稱す。其の跡、陸地の陷沒によりて、大部分海水の浸すところとなる。慶長十八年支倉六右衛門が羅馬に使せし時、船を出したるは此の地なりと。萩濱灣南部の一支灣。東に向ひ灣入すること約二粁、港内風波平穩なるも規模頗る狹く海岸も市街發展の餘地なきを缺點とす。(萩濱港)明治十三年、三菱會社の帆前船、渋路島丸パラスが積みて入港し、灣内を測量す。其の後又九州丸來りて港灣の精査を遂げ、翌十四年支店を石卷本町に設け大字萩濱の伏見貞之助邸宅を出張所とし、臨時汽船を寄港せしむ。其後出張所の成るに及び、貨物及び旅客を積載して定期の寄港をなすに至り殷盛を極めしも、省線東北本線の開通なるに及び旅客の大半之に奪はれ、加之歐洲大戰の影響は汽船の欠乏を告げ大正六年寄港を廢止す。又一時本港を根據地とする捕鯨業も今は鮎川港に奪はれ、近年は地方漁船の出入、沿岸航行の汽船の避難港たるに過ぎず。併も今内務省指定港灣にして、移出は魚糖(約一五萬圓)・鮮魚介(約七萬圓)を主とし其の他物品約二萬圓その合計約二五萬圓、移入は鮮魚介(約八萬圓)を主とし其他物品約十四萬圓。その合計約二一萬圓にして石卷・塩釜二港をその主たる取引港とす。

オキノミツゴノシマ 隱岐之三子島 隱岐國の別稱。子は雫宇、小の意。記・上「次生隱岐之三子島、亦名天之忍許呂別」

オキノムク 沖ノ無垢島 大分縣北海部郡にある島。臼杵灣の沖に浮び補屋鼻の東北方約七粁。地ノ無垢島と共に無垢島をなす。

オキノヤマ 沖ノ山 山口縣宇部市にある炭坑。宇部炭田に屬し我國重要炭山の一。礦區は厚狹郡厚南村にも亘る。塊炭・粉炭・切込炭・粗炭として採掘し昭和十年の產額は約一一五萬瓲にして礦夫四三四七人を使用す。

オギハラ 荻原 【荻原】→千町村(千葉縣夷隅郡)

【荻原村】 三重縣伊勢國多氣郡の中部。東は三瀨谷村に西は領内村に隣り、南は度會郡に、北は飯南郡に境す。此地は所謂大杉谷の内にして中部を宮川東流し其沿岸に僅少の低地を見る外全村殆んど山地を成す。省線紀勢東線三瀨谷驛へ約四粁、バス通ずるも交通未だ便ならず。林產多く米・繭・茶・鷄卵の產これに次ぐ。〔大陽寺〕 大字栗谷にあり。曹洞宗。靈符山と號し俗に山號を以て呼ぶ。花山法皇の參籠せられし所と傳ふ。聖德太子の創建、大永年間國司北畠材親の再修。本尊は木造北辰妙見大菩薩描像なり。

オギフシ 荻伏村 北海道日高國浦河郡の村。浦河町の西北に隣り、西北は三石村に接し、東北は日高山脈の分水界に於いて十勝國と界し、西南は海に臨む。村域の東北部は高山性山地にして古生層・中生層帶狀に配列し、海岸近くに花崗岩あり、これより西南分水界近くに花崗岩あり、これより西南の高度二百米以下の低山性山地に於いて第三紀層をみる。元浦川は東北部山地に發して西南に貫流す。東北部は森林地にして農耕は元浦川の下流河岸平野に行はる。ケバウ・上野の桑畑は上・下二段の河岸段丘の畑作地に發達し、野深・東姉茶・西姉茶は河岸氾濫層にあり。省線日高線は海岸に沿ひ通じ、荻伏驛(昭和十年設置)開設せられ、材木・薪炭の他物資の供給に便なり。この地は明治十四年、宗教團體赤心社の斡旋により廣島・兵庫の二縣より五十餘名の移民を送りしに始まると云ふ。

オキベ 意岐部 もと大阪府中河内郡にありし村。昭和十二年四月廢して布施市に入る。

オギヘ 荻戸 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄山名郡に荻戸郷あり、今の磐田郡内なるも、何れの地なるか詳ならず。

オキホ 興保・奥保 中世、陸奥國の津輕地方に私に置きし六郡の一。暴和(花輪)・田舍(黄中・稻我)・平賀・興保(奥保)・江流末(入潟)・鼻野(馬)の六郡とす。興保郡は其位置明らかならざれども凡そ今の青森縣南津輕郡の北部より北津輕郡の南部に亘る地、卽ち南は淺瀨石川(黒石川)以北、西は岩木川以東の地なるべし。

オキミ 沖見 【沖見山】 棒太東北山脈の一峯。歌香支庫の北端、北緯五十度日ソ國境の東方に聳え、第六界標設けらる。標高三四五米。

【沖見村】 新潟縣越後國東頸城郡の西部。高田市の東方約一〇粁。東北は安塚村に南は牧村に隣り、西は中頸城郡上杉・里五十公野二村と界す。越後山脈の西北斜面に當り平坦面をなす。丘陵の間桁差田畑よく拓け米・繭を產す。安塚村より高田市に至る縣道北部を掠むるも交通便ならず。村は大字神谷・大月・川井驛・池船・七森・吉坪・片町・平山・平方・坪山より成り役場は神谷に置く。大正七年本縣模範村に指定さる。

【沖見峠】 三重縣西南部、多氣郡大杉谷村にありて、和歌山縣北牟婁郡との境界に近き峠。伊勢國と紀伊國の境界を乘越す交通路の一。最高點一二一一米。西方

施野灘を展望する故にこの名あり。

オキミズ 沖水 宮崎縣北諸縣郡にありし村。昭和十一年五月都城市に入る。

オギュー 荻生村 富山縣越中國下新川郡の西部。黒部川の左岸に沿ひ三日市町の東北に隣る。全村土地低平地味肥沃にして水田拓く。此線黒部鐵道の荻生・長屋(共に大正十一年設置)を置き、また三日市町にバス通じ、交通便なり。米・麥を主產す。村名は承元元年親鸞上人北越巡行の砌偶〻此地に至りしが、荻の多生せるを賞して荻生と命名せしより起るといはる。

オギワラ 荻原 愛知縣碧豆郡にありし村。明治三十九年横須賀町・瀨門村・厨村・富田村と共に廢せられ新に横須賀町を置く。此地は往昔荻原里と稱せられ、歌枕の名所なり。夫木・三一「風ふかぬ恨やすらむうしろめたのとかにおもへ荻はらのさと 實方」

オク 邑久 【邑久郡】 岡山縣三市十九郡の一。備前國の一部にて縣の東南部に位し北は和氣郡に隣り、西は吉井川を境として上道郡と限られ東と南は瀨戸内海に面し、東南に小豆島を望み、西南部は兒島半島の東北部に對す。東西約十二粁、南北約十五粁、面積一七七方粁餘。北部・東北部と南部の東西には一—二百米臺の丘陵性山地あるもそれら山地の中間所〻に小平地あり田畑よく拓け米・麥を主とする農產地區をなす。海岸は出入鳥嶼少からず東北部に鶴山・裏掛、東南部に長濱・牛窓等の灣入あり海上の交通不便ならず。吉井川に沿ふ地域は低濕にて水田連り、產物は農產最も多く工業・漁業これにつぐ。農產物は米・麥・大豆・甘藷・馬鈴薯・蘿蔔・南瓜・蘭等を主とし、漁獲物・鹽・花莚・織物・足袋・瓦・清酒・醬油其他麥稈・藺田等を產す。本郡二町十八箇村を包含し、牛窓・鹿忍等その主邑をなし、牛窓は漁港として知らる。和名抄は於保久と訓じ大伯に作り、邑久・穂負・土師・須惠・長沼・尾沼・尾張・柘榴・石上・服部の十郷を置く。舊事本紀によれば應神帝の朝、大伯國を置き、國造に佐紀足尼を任ぜり。大化二年に至りて邑久郡を置く。養老五年の紀に備前國邑久・赤坂二郡の郷を分つて藤野郡を置くとあるも、藤野は御野の誤りならん。天平十五年紀に邑久郡新羅の邑久の浦とあり、天平神護二年紀に邑久郡香登郷、神護景雲三年紀に邑久郡の人別部比治の名あり、寶龜十一年紀には邑久郡有大臣大中臣の清麻呂に賜ふとあり、續古今集に於久乃海と作る。江戸時代以後はオク・オホクの兩樣に訓ずしが今オクと稱す。

【邑久村】 岡山縣備前國邑久郡の中部。東は美和村・本庄村に、北は笠加村に隣り、西は福田村及び今城村と界す。北部に低山性の丘陵蟠るも他の大部分は低地にして千町平野の一部に當り、南境を吉井川の一支西流して平野を潤し、耕地拓け水田卓越し米・麥・繭を主產しその外薄荷及び柿を特產し薄荷は阪神方面に移出す。本庄村より笠加村に至る道路東部を南北に通じ、また福田村より本庄村に至る道路東西に通じ、この兩者合する所に尾張(大字)の集落あり。また本村に尾張氣象觀測所・縣立邑久高等女學校及び邑久實科女學校あり。此地は和名抄、邑久郡尾張郷の地なるべし。大字尾張はその遺稱ならん。中世また山田庄に屬せしか大字に山田庄の名殘る。また尾張及び山田は共にもと尾張の連氏及びその一門の居りし所といふ。往時邑久郡一帶の地は海にしてこれを大伯の海といひ(今本郡に太伯村あり)これより郡名起り、両して本村本郡の中心なるにより村名起るといふ。村内古墳に富み、大字山手の八本山は内行花文鏡や硬玉・勾玉を出土せる圓墳にして、大字山田庄にある一古墳よりは神獸鏡を始め多くの副葬品を發見せり。又この地方に著しき陶棺が、本村内からも多く發見されたり。

オク 尾久 【尾久】 東京市荒川區にある町。荒川區の西北部、荒川の南岸に位す。東は三河島町に、西南は日暮里・瀧野川に、西北は王子の諸町に相隣接す。域内は極めて低平にして平均高度およそ三米の荒川の沖積地帶にあり、嘗ては府下東北部の蔬菜なる米產地帶に屬せしも、近時東京市の發展は此地域にも影響し、荒川の水運の利と、工場設立に好條件の沖積河岸低地とは王子に連なる一の工業地域をなすに至る。殊に電氣事業に關する諸會社の營造物は最も早くより設立を見、中央に猪苗代水電變電所、西南隅には鬼怒川水電變電所、西北端の荒川沿岸小臺渡の附近には利根川水電變電所等あり。また東北端の新渡場附近には人造肥料會社があり、荒川沿岸には大小工場立並ぶ。東北線その他の省線は域内に通ずるも、西方近く省線田端驛(瀧野川區田端町)及び尾久驛(同區昭和町)を持ち、域内の略〻中央を東から西へ、王子電氣軌道線通じ下尾久停留場始め數個所に停留場あり、交通至便なり。本町は近世豐島郡峡田領に屬し、明治十三年豐島郡が東西南北の四郡に分郡の際に北豐島郡に屬す。もと上尾久村・下尾久村及び船方村に分れ、上尾久村は東叡山寺領或は知行所にして一部は幕領たり。下尾久村は正保の頃幕領及び東叡山寺領となり、船方村も幕領及び東叡山寺領たり。斌上三村は明治二十二年尾久村となり、大正十二年町制を布く。昭和七年東京市域擴張の際南千住・日暮里・三河島の三町と共に荒川區をなす。里見八犬傳・三ノ一「粤に武藏國豐島郡豐島の領主に、豐島勘解由左衛門尉、平信盛といふ武士ありけり。さぜる大名ならざれども、志村、十條、尾久、神宮

なんど貴郷ハ管領し、その弟練馬平左衛門信盛は、同練馬の館にあり」

【尾久】東北本線の一驛（昭和四年設置）。東京市滝野川區昭和町一丁目にあり。

オク　奥

【奥】　みちのく（陸奥）の前略にて、陸奥國をいふ。東海・東山兩道の奥地なれば此名あり。もと東山道は下野まで六國にて、その以北は道の奥と云ひ化外の地とされ、ミチノオクのオを略してミチノクと呼ぶ。文武天皇の頃ににこれを一國として東山道に配し陸奥の字を充つ。これをムツと稱するはミチノクのミチに對する京北地方の訛りより來りしものなるべし。また奥國ともいふ。夫木・秋・四「なかは月の月の有明のけしきをはおくのみひすもあはれとやみん　上西門院兵衛」現葉「かよふへき道たにあれな色みえぬ人のこころのおくの山路に　定經」

【奥國】　前項に同じ。

【奥郡】　奈良時代の頃までは、今の陸前（宮城縣）の邊より以北は全く蝦夷の地にして平安時代の初に於て其の經略の歩武大に進みしと雖もなほ黒川郡以北を稱して奥郡と云ふ。續紀「寶龜七年十二月、陸奥諸郡百姓、皮・奥郡者、便則古着、給復三年」、又同書「延暦元年五月陸奥國頃年兵亂、奥郡百姓、並來、來梁、勤給復三年」とあり、次いで日本後紀「大同三年十二月、降者之徒、奥郡既見一回」

【奥郡】　信濃國（長野縣）の北部川中島四郡（更科・埴科・高井・水内）の別稱。又一に善光寺平ともいふ。信濃國の奥地なるを以て此稱あり。

【奥七郡】　中世佐竹氏の領せる那珂郡以北の常陸國の奥七郡を稱す。七郡とは多賀・佐都東・佐都西・久慈東・久慈西・那珂東・那珂西を云ふ。（東鑑、文治三年）

【奥町】　愛知縣尾張國中島郡の西北部。一宮市の西北方約四粁。木曾川の左岸に沿ひ、北は葉栗郡に界す。全町土地低平にして田畑拓く。社線名古屋鐵道尾西線の奥町驛（大正三年設置）ありて交通稍〻便なり。農產に米・麥等あるも古來機業地として知らる。もと綿結城・絣留の木綿織最も盛んなりしも近年瓦斯絲織・綿一樂等を產出す。此地は和名抄、中島郡神戸郷の内なるべく、村内の了泉寺の寺寶に方便法身の像あり、永正十年の款知上人裏書に中島郡笑留莊内、龍郷奥村、龍泉坊屬中莊とあれば笑留莊龍郷に屬せしものか。明治二十七年町制を布き以て今日に至る。（大明神社）　大字起に鎮座。郷社。天兒屋根命を祀る。創立年代不詳なるも、地方の古社にして、江戸時代には尾張藩主德川氏及び家老石河氏の崇信を受く。又近郷の產土神として一般に崇めらる。（了泉寺）　淨土眞宗。一向宗濃部七門徒の一たり。寺寶に方便法身の像あり。永正十年の款知上人の裏書に「中島郡笑留莊内、龍郷奥村、龍泉坊屬中莊」とあり。

【奥島】　盆賀縣蒲生郡島村の大字。琵琶湖の南岸に近く浮ぶ沖ノ島の東南。琵琶湖の陷沒により殘され一島（周圍約一六粁）をなし津田の細江により湖岸と隔たりしも其後土砂堆積して陸地と連結す。南部の大字北津田に縣社大島神社・奥津島神社あり、西南岸の大字長命寺に西國三十一番の札所として名高き長命寺あり。

【奥村】　廣島縣備後國御調郡の北部。尾道市の西北約十三粁。東に市村、北は諸田村・字津戸村に隣り、南は今津野村及び河内村と界す。北境に高度約五〇〇米の山嶺略〻東西に連亘しその山麓東南に下り概ね山地にて是等北境山嶺を刺める小溪集りて御調川の一支谷となりて東南に流れ、その流域に低地ありて田畑拓け產額最も多くその外米產赤少からず。街道赤溪流に沿うて隣村に通じ社線尾道電氣鐵道の市驛（市村地内）に最も近し。本村にもと綾目村・公文村・大原村・野間村（今何れも大字）の四箇村なりしも町村制實施に際し合併し、古來此地方奥筋と稱せしにより村名とすといふ。

【奥國】　神巷談苑によれば古へ大隅薩摩なりしものの如し。神巷談苑「檜垣嵓家集に年など老い衰へてここちのみ常ならず苦しく覺えて悩ましきに哀と思ふべき子なきが悲しとてとかくなる人を子といひ名づけたのむにおくのくにに下りけり、おくといふは大隅薩摩の所なるべしとあり。これを見れば大隅薩摩ら奥の國といふにや」

オクアラカワ　奥安樂川村

和歌山縣紀伊國那賀郡の中部。和歌山市の東約一八粁。東は猪鼻村に、南は御野村・眞國村に、西は安樂川村に、北は龍門村に隣る。北部に龍門山聳え、村内縱れ山地を成すも、紀ノ川の支流東部に發源して中央を西流し、其沿岸に僅少の低地を見る。西方省線和歌山縣の岩出驛にバス通ずるも交通なほ便ならず。丘陵地帶には柑橘栽培盛んにして米・麥の產これ

に次ぐ。

オクイズ　奥伊豆

伊豆國南部の稱。伊豆國のほぼ中部より東方に聳ゆる天城火山群とその西に位する猿越火山以南の地をいふ。國の北部狩野川の流域と熱海市・伊東町邊を含む地域を口伊豆といふに對する稱呼にて、ほゞ賀茂郡の地域を含む。※伊豆半島・天城山

オクウチ　奥内村

高知縣土佐國幡多郡の西南端。宿毛町の南方約八粁。東は月灘村に、東北は小筑紫村と界し、西は鼻面沖に南は月灘灣に臨む。西部に偏し大洞山（四六五米）の山嶺南北に連亘しその南端は種崎の突出となり更に延びて柏島・瀧奏島等點在し遙かに沖ノ島に相對す。村内縱れ山地にて海岸は屈曲多く特に西岸は卵端灣入に富みリアス式海岸の形態を呈す。產物は水產最も多く農產之につぐ、漁獲物は鰹・鯉・鮪・鰹・鳥賊を主とし敷網漁業發達し是等の漁期には遠く愛媛・山口・大分・宮崎・鹿兒島諸縣よりの漁船の集散場となり、其他本村沖海面は土佐海產第一の名物たる桃色珊瑚の採取場たり。かく漁獲に富むは一に本村の位置四國の南端に當り且つ黒潮の直に沖を流るるによるものとす。農產物は米・麥・薯を主產し柿を特產す。道路は海岸及び谷間に沿ふて縱れ南北に通じ、東部海岸に沿ふ街道はバスの便あり。また海上にも定期船の便あり。此地もと小筑紫村・月灘村と共に奥内郷と稱すといふ。〔柏島〕　大字一切の西南に浮び本陸と相距ること六—七〇〇米、周圍約四粁。昔野中兼山の經營に係る漁場あり。本島は四國の西南端に位置し潮流風力常に激しく、家屋は平家建にて瓦葺藁葺の何れにても貉硫壊せらるることあり屋上に人頭大の瓦石を並べきたる網をかけ其風害を防ぐ。又波濤の浸蝕甚しきにより承應年間野中兼山本島に來り本島の南北及び東方の三面に堤防を築き島地の浸蝕破壊の保護につとめ、就中東部業落の地には馬蹄形の堤防を築き、長さ約六〇〇米、高さ平均三米餘、幅平均二米餘、水面よりの高さは滿潮時を標準とせしにより島民業に安んずるに至るといふ。尙兼山は此邊の潮流の關係により漁場に適すべきを察し承應明暦の頃より七年に亙る工事を起し、本島の東端本陸との狹き水道に長さ約三〇〇米、高さ平均三米餘、幅平均四米餘の長堤を突出せしめ潮流の勢を和らげ、又切戸には白砂を敷き淺瀬とし、魚族のこの切戸を遡み來るもの淺瀬に遮ひ方向を轉じ港内に廻り行く途中に網代を設けその一網に魚族を捕獲するの計を設く。これ有名なる柏島の大漁場なり。冬春の鰹・鮪の漁期に際し一網に數千尾を獲る樣は實に壯觀にして、また此堤築成以來一石の動搖なく其堅牢以て窺ふに足る。この堤内の網代は良港となり定期船・漁船の集散港となり、港上業落は漁村業落の形態をなす。〔稲荷神社裕樹〕　大字柏島の港上稲荷神社境内東側にあり周圍約七米。枝々根を下し奇觀を呈し四國島中に類稀なる瓦榕樹といふ。野中兼山本島經營の時其氣候地質を試みんとし承應元年八丈島より榕樹を取寄せ之を沖ノ島・柏島に移植せしも沖ノ島は風害少きにより能く成長せり。然るに本島は俗に風島と稱する程にて四季風害强くために榕樹成長し得ず。兼山島民に榕樹は安產の靈木なり宜しく保護し倒枯せしむ可からずと告げしにより島民これより暴風毎に護り其生育を助けよく保存せりと。〔柏島大漁大黒〕　大字柏島大黒山下にあり。眞宗護念寺の保管。野中兼山本島の堤防工事中當寺に泊り、工成り歸府に際し住職榮寞坊に銀十八貫、木造恵美須・大國の二像を寄せ、且後世不漁の事あらば此二像に祈願せよと告げしといふ。後百年にして不漁あり、時の住職三本秀岸榮寞の遺言に則り漁師に、昨夜夢に野中兼山に逢ひ兼山その時近年の不漁は一に漁民の其業を忘るるによる、今汝に大國主命・事代主命の二尊像を與へん、大黒山下に齋き漁民をして忘らざるを誓はしめよと告ぐ、夢覺め、果して二尊像を拾ひ得たりといふ。島民大に驚き二尊像を奉じ島山下に祀りこれに因み其山を大黒山と名づくと。かくて漁民漁業を忘らざれば旬日を出でずして大漁あり、島民尊像を崇敬すること篤く漁ある毎に其最鮮魚を供へ鮮血を手に染め像を室り祀すといふ。

オクイ——オクウ

大字柏島の西南端に浮び周圍約七米。枝々根を下し奇觀を呈し四國島中に類稀なる瓦榕樹といふ。野中兼山本島經營の時其氣候地質を試みんとし承應元年八丈島より榕樹を取寄せ之を沖ノ島・柏島に移植せしも沖ノ島は風害少きにより能く成長せり。然るに本島は俗に風島と稱する程にて四季風害强くために榕樹成長し得ず。兼山島民に榕樹は安產の靈木なり宜しく保護し倒枯せしむ可からずと告げしにより島民これより暴風毎に護り其生育を助けよく保存せりと。〔柏島大漁大黒〕　大字柏島大黒山下にあり。眞宗護念寺の保管。野中兼山本島の堤防工事中當寺に泊り、工成り歸府に際し住職榮寞坊に銀十八貫、木造恵美須・大國の二像を寄せ、且後世不漁の事あらば此二像に祈願せよと告げしといふ。後百年にして不漁あり、時の住職三本秀岸榮寞の遺言に則り漁師に、昨夜夢に野中兼山に逢ひ兼山その時近年の不漁は一に漁民の其業を忘るるによる、今汝に大國主命・事代主命の二尊像を與へん、大黒山下に齋き漁民をして忘らざるを誓はしめよと告ぐ、夢覺め、果して二尊像を拾ひ得たりといふ。島民大に驚き二尊像を奉じ島山下に祀りこれに因み其山を大黒山と名づくと。かくて漁民漁業を忘らざれば旬日を出でずして大漁あり、島民尊像を崇敬すること篤く漁ある毎に其最鮮魚を供へ鮮血を手に染め像を室り祀すといふ。後島外の漁民等之を倣み去り大漁を祈るに至り今は一大石像に改め魚神となす。〔浦奏島〕　柏島の西南約三粁。周圍約二粁。全島山地にして榕樹・檳榔樹等各種の熱帶植物繁茂す。島名も檳郷より轉訛せしものの如し。本島はもと無人島にて僅かに漁期その一中心となるのみ。海濱に濱菅の野草雜生しその根元に形鳴に似羽毛黒き鳶鳥、巣を作る。島は日中海上を飛翔し魚族を見れば群集し啄食する習あり、故に魚民此鳥の所在により魚族の來去を卜すといふ。又此鳥の糞堆積し二米餘の表土と化し皆肥料として採る。〔恭日神社〕　大字古滿目に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命・建御雷神・齊主神・築大神・大山祇命。もと恭日四社大明神と稱す。室町時代の古社にして、嘗て領主三浦氏武運の祈願を爲す。又近郷の氏神として崇敬篤し。例祭、七月廿八日・十月廿四日。〔稲荷神社〕　大字柏島に鎮座。郷社。祭神、倉稲魂命・埴山姫命・猿田彦命。創立年代不詳。もと稲荷大明神と稱す。文政五年拜殿類燒す。當時社域にアコギと稱する二株の神木ありて、若し懷胎の婦女この木葉を拜戴せば靈驗ありとて遠近よりの參者多し。仍て「安子木」と稱せらる。例祭、七月廿八日・十月十八日。

オクウラ　奥浦村

長崎縣肥前國南松浦郡福江島の東北部。東方田ノ浦瀬戸を隔てて久賀島村と對す。南は福江町、

西は岐宿村に隣る。村々概れ山地を成し山脚海に迫りて海岸を成す。海岸線は出入に富み奥浦灣・戸岐灣・牛泊浦・鯨瀬代浦等の灣入あり。両し何れも良港ならず。交通は福江町に里道通ずるのみにして不便なり。此地は中世以降五島氏の支配下に屬す。

オクエリ　奥蝦夷　津太・北海道の古稱。往時津太か奥蝦夷と稱せしも、その範圍は時代により相違し、多少の廣狭ありしものの如し。又、北海道に於いて鄂霞岬附近をも境として、口蝦夷・奥蝦夷と稱せしことあり。或は北海道に於いて、往時、石狩支廳千歳村を界とし、本州に近き方を口蝦夷と稱し、遠き方を奥蝦夷と呼び、地域的には不明なるも比較呼稱に用ひしものの如し。※蝦夷

オクオートンビ　奥大鳶山　大鳶山・鳶山とも稱す。日本北アルプス臺飯連峯に屬し、五色ヶ原の西方の山。富山縣上新川郡大山村に聳え、標高二六一四米。北接は大鷲岳(二六一四米)、南接は越中澤岳(二五九一米)に續く。大鷲岳との中間なる大スロープを五色ヶ原と稱し、眺望頗る廣大、高山植物に富み、開花期は五色に亂れ咲く。東麓を黒部川長蛇の如く北流し、中腹下の絵俎を形成す。西麓を常願寺川西流す。登山は西北方立山温泉・ザラ峠を經て鷲岳より縱走するか、東方黒部川畔より五色ヶ原を經て至るか、南方臺飯岳方面より尾根傳ひにて至る。

オクオーノ　奥大野村　京都府丹後國中郡の南部。峰山町の南約六粁。東は三重村、南は常吉村、西は五箇村、北は口大野村に境す。東部竹野川上流沿岸に小低地を見る外、村内概れ丘陵地を成す。省線宮津線の口大野驛及社線加悦鐵道の四辻驛へ夫々バスの便あり。米・麥等の農産あるも、機業地として知られ絹織物多産す。此地は口大野村・常吉村と共に和名抄、丹波郡大野郷の地なり。もと大野村と稱せしが、明治二十二年分割して口大野・奥大野の二村となる。

オクカイタ　奥海田村　廣島縣安藝國安藝郡の北部。海田市町の東に隣り、東は熊野町に、北は中野村と界す。東南部に金ヶ峰鷲山聳えその山嶺東境を南北に迷亙し、山麓は西に下り東部を瀬野川西南に流れ、東部山地の小渓流を容れ、その流域に低地あり可田畑拓け、繭の產額最も多く米產亦少からず。省線山陽本線及び山陽道並行して瀬野川に沿ひ通じ、前者の海田市驛(海田市町地内)に最も近し。此地は東北隣畑賀村及び中野村と共に和名抄、安藝郡驛家郷の地なるべし。古へ今の海田市町・船越町の地域と共に海田と稱し本村また廣島灣の一支灣海田灣に臨みしものか。

オクカエラズ　奥不歸岳　天狗南岳の別名あり。後立山山脈の北方部、白馬岳(二九三三米)の南方に位する山。富山縣下新川郡黒部國有林地域と長野縣北安曇郡北城村に跨り標高二八一二米。北接は鉢ヶ岳(白馬鉢ヶ岳、二九〇三・一米)、南接は唐松岳(二八九六・四米)に續く。西南斜面より奥不歸谷の渓水源流して西流し、北走する黒部川に落つ。西方五粁餘に祖母谷温泉湧く。この山には北方乃至南方より縱走して至る。東西両斜面とも絶壁を連ね、人を近附けず。

オクカネ　奥鐘山　黒部川中流の右岸に聳立する一峯。富山縣下新川郡愛本村に所在、標高一五〇七米。北麓に祖母谷温泉湧く。又西方に鉱脈の奇勝あり、西麓に於て黒部川の一支オヲオ谷渓河、本流に右岸より落合ふ。

オクガワ　奥川村　福島縣岩代國耶麻郡の西部。全村山を以て蔽はる。飯豐山(二一〇五米)の分脈南に延び一つは東境の鳥屋森(九六五米)の支脈、一つは新潟縣と境する荒岩山(一六五四米)・高陽山(一一二七米)の支脈となりて略ゝ南北に連亙し、此間荒岩山の南部斜面に發する阿賀野川の一支奥川は幾多の小渓流を合せて村の中央を西南に流れ谷盆地を作り耕地・聚落發達す。谷面に米・大豆を產し酒造・味噌・醬油の製造、山地は桐の加工・箱・ぶな・松・栗の木炭を出し、なほこの雄詰を產し、奏算・寄產も行はる。省線磐越西線の山都・徳澤の二驛へ通ずる道路あり。又林用軌道は奥川の谷沿ひに走るも便なら ず。磐越西線にて木炭・桐材を東京・新潟方面へ移出す。村名は蓋し奥川の川名に因みしものの如し。大字飯里・元島・豐島・飯澤・高根・高陽根・大綱木の七部落よりなり、投場は飯里に置く。

オクカワカミ　奥川上　省線川上線の一驛、大正三年設置。總太豐原郡豐北村にあり。

オクカンバヤシ　奥上林村　京都府丹波國何鹿郡の東北端。鄕鶴町の東南約十二粁。南は北桑田・船井両郡に、北の一部は加佐郡に境し、東北は福井縣大飯・遠敷両郡と界す。上林川村の東北部に發源し其沿岸に小低地を見る外全村殆んど丘陵起伏して山地を成す。從つて木炭・薪等の林產多く、米・繭・麥・茶等の農產之に次ぐ。南方省線山陰本線山家驛へバス通ずるも交通未だ便ならず。いまロ・中・奥の三村に分るるも往時は上林と總稱せり。和名抄、何鹿郡拜師郷はいま上林の三村の地ならん。本村に眞言宗の名刹光明寺あり。推古天皇七年勅願により聖徳太子の創建と傳へ、延喜年中觀寶理源大師眞言秘密の大道場を開き、寺領上林全部及び坊舎七十有二、寺運頗る隆盛を極めたり。然るに其後火災に遇ひ山門を殘すのみにて全部烏有に歸す。天保七年領主藤堂左京の助力を得て今の堂宇を再建せしもの。仁王門は白鳳年間創ち千百年前の建築にして保護建造物に編入せらる。楼門は三間一戸、屋根入母屋

造、扮板葺、その構造形式より見れば、鎌倉時代後期の建築と判ぜられ、いま國寶たり。

オクキ　憶岐面　成鍵南道永興郡に屬す。郡管内一三面中の一。郡の東南端に位置し龍興江の下流デルタ地域を占む。北東は鏡坪、北は仁興、北西は順寧、西は郡内、下鉢の諸面と相隣接し、南は箭灘江を距てて文川郡の龜山面と相對し、東南は永興灣に面す。本面は成鍵南道に於ける大平野成興につぐ永興平野の中心を占め、域内殆ど低平にして龍興江両の中央を貫流し其他、徳池江・箭灘江等域内を網狀を成して流れ所謂水郷を成し、江口に淺地を造り既に隆起して鳥を成すもの柳島外數島を數ふ。舟運の便よく郡邑永興、及び西方穆池・箭灘に舟を通じ、鍵道成鍵線の永興・徳池・箭灘と連絡し、又柳島より面内を縱斷して永興に至る二等道路には永興驛より乘合自動車の聯絡便ありて交通頗る便なり。本地域は集落密度頗る大にして、面事務所所在地美陽里を始め、主要なるもの三〇を數へ何れも農業を主とし副業として養蠶盛なり。產物には大豆を第一位とし、米・麥・粟・煙草・明釉等を產し柳島には食鹽を產す。人口昭和十年八八八三。

オククロホーシ　奥黒法師岳　赤石山脈西南支脈南端部の堆峯。静岡縣周智郡水窪町と棒原郡上川根村に跨り標高二〇六七・四米。北接は丸盆岳(二〇六八米)、東接は黒法師岳(一九四三米)に連る。山麓附近は戸中山御料林をなす。

オクコガ　奥古閑村　熊本縣飽託郡の西南部。熊本市の西南約八粁。東は中緯村、南は川口村、西は海路口村、北は鍵塘村にそれぞれ境す。地は熊本平野の西部に位し、概ね低平にて耕地多し。東約四粁川尻町に里道通ず。いま海路口村と組合村を成し役場を本村に置く。本村は昭和二年海路口村と共に大潮害を蒙り耕地殆んど全滅するの惨狀を呈せり。

オクサツ　奥佐津村　兵庫縣但馬國城崎郡の北部。香住町の東南に隣り、西南は美方郡に境す。北部の一部に平地を見る外全村殆んど山地にして林野多し。省線山陰本線の佐津驛に約四粁、軌道の便あり。主生業は農にして米・繭を主產し、蔬菜及び花卉・大麻等の特產あり。口佐津村と共に和名抄の美含郡佐須郷の地なり。〔佐受神社〕　大字米地に鎮座。村社。保食神を祀る。創立年代不詳。延喜式内社にして猶來近郷の尊崇篤し。例祭一月十五日。〔美伊神社〕　大字三河に鎮座。村社。伊弉册尊を祀る。創立年代不詳なるも、延喜式内の古社にして、猶來郷民の尊信篤し。例祭、九月七日。

オクザワ　奥澤　東京府荏原郡にありし村。のち玉川村となる。玉川村は昭和七年東京市域擴張の際、駒澤・松澤・世田谷と共に世田谷區なる。奥澤は、近世荏原郡雪苅庄世田谷領に屬す。貞和の頃は吉良治部大輔治家の所領となり、爾後左兵衛佐氏朝に至る二百數十年其の領地たり。天正十八年吉良氏、北條早雲に從ひ小田原城と運命を共にし、この地兵火の爲めに一寒村となる。正保の頃に渡邊孫三郎の知行所たり。大正十二年目黒蒲田電鐵この地に開通し、奥澤驛を置くに及び、住宅地として發展しつつあり。此處に淨土宗の名刹淨心寺あり。寺地はもと世田谷吉良家の家人大平出羽守の館址にて、寛文五年寺地とし、延寶六年珂碩上人を請して住持とす。因つて珂碩上人を開基とす。本堂背後に茅葺寶形造の佛殿三宇並び建ち、各阿彌陀像三軀を安置し、中央を上品堂、向つて右を中品堂、左は下品堂と呼び、九品佛の名これより出づ。境内廣く館址の土壘殘存す。毎年五月七・八・九日は千部會、八月十六・七・八日は盂蘭盆會、十一月十三・四・五は千夜法要にして、四年目毎に盂蘭盆會は來迎會と稱し參詣者頗る多し。

オクサンカイ　奥三界岳　飛騨山脈南端部の一峯。長野縣西筑摩郡大桑村と岐阜縣惠那郡付知町・川上村の一町二村の境界に跨り、標高一八一一米。北西方は井出ノ小路山(一八〇六米)と、南西方は三界山(一六〇〇米)と連嶺をなし、西方には南乞嶺山(一三九一米)峙つ。西北斜面よりは付知川の一支流、北斜面よりは阿寺川の一支流發す。

オクサンボー　奥三法山　白山火山脈に屬する一峯。石川縣石川郡の東南方、河内村と吉野谷村との境界に峙つ。標高一六〇三米にして、石英粗面岩より成る。東接は奈良岳(一六四四米)、西接は松尾山(一一六三米)に連り、北西方には口笠山(一八二二米)に連り、北西方には口三方岳(一一六九米)聳ゆ。西麓より手取川の一支流發す。

オグシ　小串　群馬縣吾妻郡にある鎖山。鎖區は嬬恋村及び長野縣上高井郡高井村に跨る。御飯鼠(二一六〇二米)の南、毛無峠の南にあり。交通不便の山間にして、硅藻を產し、年額七千瓩内外、品質よく五〇—四〇%を含む。附近は輝石安山岩・角塊岩・燐岩等よりなり、不規則な塊狀の鎖床をなす。

オクシカ　奥鹿村　香川縣讃岐國木田郡の東南端。井戸村・氷上村の南に隣り、西は田中村に、東は大川郡長尾町・多和村に接し、南は徳島縣美馬郡江原町と界す。讃岐山脈の一峯矢筈山の山麓にぼ村の中部を東西に走り、北に緩やかに傾斜し、南は急斜し、また南端は大龍山の山麓及び其間に狹長な低地あるも概ね山地をなす。產業は農業を主とし繭・木炭の產も少なからず。また近年養雞行はる。徳島縣美馬郡脇町より香川郡佛生山町に至る中山越えの街道北部低地を東西に通じバスの便あり。此地の大字鹿庭は氷上村と共に和名抄三木郡氷上郷の地な

るべし。村名は奥山村と鹿庭村（共にいま大字）の合併の當時はオガムラと稱せしが今はオタジカムラと讀む。

オクジョーシュー　奥上州　群馬縣北部の奥地、新潟縣との境界に近き地域を稱す。此附近は利根郡に屬し、利根川の源流地をなし、北方新潟縣北魚沼郡との境界には、三國山脈ほぼ東西に走り、那須火山脈これに直走し、火山・高峰群立す。三國山脈に屬するものには、三國山（一六三六米）・大源太山（一七六四米）・谷川岳（一九六三米）・茂倉岳（一九七八米）・清水峠（最高點一四四八米）等聳立し、那須火山脈に屬するものには温泉岳（二三三三米）・武尊山（二一五八米）等聳立し、この間に湯檜曾・谷川・法師の温泉湧く。又東北方利根郡と郷島縣南會津郡との境界には豐富なる温性植物・水中植物の一大群落を見る尾瀬ヶ原・尾瀬沼あり。この南に片品川の本支流の曲折するあり。又これ等を北方に於て氣狀に圍み流域をなすものに至佛山（二二二八米）・燧岳（二一四六米）・黒石山（二一六五米）等の高峯あり、山水の神祕境としてその名高し。この附近は奥日光とも稱せられ、日光國立公園の一部をなす。

オクジラ　男鯨山　靜岡縣小笠郡日坂村日坂に近き山。東海道名所記・三「山ふたつあり鯨（おくじら）山鯢（おくじらかたみ）山といふ此山より蒼石いづるなり」

オクシラタキ　奥白瀧　省線石北線の一驛。昭和七年設置。北海道北見國紋別郡遠軽町にあり。

オクシラネ　奥白根山　那須火山脈の最高峯にして、日光山塊の西端に位す。栃木縣上都賀郡日光町と群馬縣利根郡片品村に跨る。標高二五七八米にして、螺石安山岩より成る。白根山の中央火口丘にして、東北方に續く前白根山（二三七七米）は外輪山の一峯たり。頂峯の中間に五色沼を湛ふ。※白根山

オクシリ　奥尻
【奥尻郡】→奥尻村
【奥尻島】→奥尻村
【奥尻村】北海道後志國奥尻郡奥尻島にあり。檜山支廳管内。全郡一島一村をなす。北海道の西南、渡島半島の西方海上約二〇粁にあり。本島及びその南方の大島（七一四米）は共に寒風火山帶の連續にして、北端稻穂岬より南端青苗岬間約二四粁、東西の幅約一〇粁なり。島の大部は火山岩にて、西北部に花崗岩、東部に石英粗面岩、南部に第三紀層が介在す。最高地神威山（五八四・五米）は中央よりやや西に偏し、北に勝淵山（四二七・七米）あり。これより河は四方に流れ、東に鹽釜川・釣懸川・鳥頭川・赤石川・小倉澤・フゲ歌澤、南に青苗川あり、西に流出するは短くしてホヤ石川・鄙内川・幌内川等に過ぎず。勝淵山・神威山の東方には高度四百米級の平夷面が發達し、二百米級の海岸段丘は東部に見事に發達す。南部青苗附近には百米級の海岸段丘見事にして、畑作地として利用せらる。東部赤石附近には百米乃至六十米の段丘あるも面積狹く、澤の開析甚ま寸南部ほど水田發達せず。西部海岸には段丘の發達惡く、島頂より直ちに海に至り、急海崖多し。稻穂岬・青苗岬は見事な砂嘴なり。西南部の青苗、東南部の藥師、東部の赤石、東北部の釣懸の四大字よりなる。東部及び南部に發達せる海岸段丘は農耕地として開發され、畑地約五五〇ヘクタール。段丘開析谷に若干の水田あり。北東部の幌内川下流の幌内鐵山は硫黄鐵山にて河口幌内にはアルカリ泉なる幌内温泉あり。島の大部分を占める山地は特に山毛欅繁茂し、薪炭を供給す。海産及び製造物は鯖・柔魚・帆立貝等を主とす。海岸は海崖多く、好錨地少く、東北の幌内、南部の青苗、東北部の釣懸・東風泊は漁港にて、青苗と函館・小樽間に定期航路開かる。交易は青苗港が第一位にして五十餘萬圓、釣懸港は五十萬圓、茶津港は九萬圓、幌内港は一萬圓に過ぎず。村内の交通路は海岸に沿うて走り、釣懸・赤石・藥師・青苗等の集落を結ぶ。就中釣懸は本村唯一の錨地にて、江差に六〇粁、瀬棚より四五粁あり。函館・小樽間の最良の避難港なるも、港灣の修築未だ十分ならざるが遺憾とす。北端に稻穂岬燈臺（明治二十四年設置）あり、燈質は閃白光にて光達距離一八・五浬。濃霧中は霧笛を吹鳴す。この地凡そ五百年前北海道開拓の祖、武田信廣が本邦内地より渡道の途次本島に上陸居住したる處なりと。當時既に島内各部落に人口點在したるものの如く、今なほ城郭・寺院等の廢墟・舊跡ありて其事實を證する事を得。然るに其後島内各所に火山噴火爆發起り途に人獣・木草の生物は其影を没したるが如く關後久しき間渡航居住者なかりしが、明和四年田口久兵衛、亀田郡小安村釜谷より移住し來れるを以て、現代に於ける航來の嚆矢とす。爾來本島は松前氏累世の封にて安政元年徳川氏函館を以て五市の地と定め函館奉行を置くに及んで其の所轄に屬す。明治元年函館知府所轄に歸し、同二年福岡藩黒田長知の所轄に屬し、同五年更に開拓使に屬す。同十一年開拓使函館縣令時任氏、屬山田字峠をして本島を探討せしめ行政の實と爲せしは蓋し最も注目に値するものと謂ふべく、當時戸數四二、人口一二二に過ぎずといふ。同十二年戸長役場を置き、同三十九年二級町村制施行せらる。氣候は多季温暖、夏季清涼にて初霜は十二月上旬・晩霜は四月上旬なり。降雪は十二月中旬より二月下旬にて當地方としては短期間なり。本村には蘭記幌内温泉の外、鈴釣岩・大泉寺址・武田信廣城址・神威山・慰霊碑等の名勝地あり、また避暑地として好適たり。

【奥尻海峡】北海道の渡島半島とその西方に横はる奥尻島との間の水道。奥尻島の稻穂岬と相對する帆越岬の間に約一八粁。對馬海流の一部は此海峡に北進す。函館・小樽間の常航路に當り稻穂岬に燈臺あり、航海者に便す。

オクス　小楠　豐前國（大分縣）の古地名。和名抄下毛郡に小楠郷あり訓を闕くも手久須と讀むべし。高山寺本は小橋に作り手波世と讀む。太宰府管内志に小伏村を呼んで手布須といふ。疑ふらくは小楠の轉なるかとあるも小伏の地なく、今何れの地なるか詳かならざるも下毛郡鶴居村の邊なるべし。或は同郡小楠村（今中市に編入さる）に郷名の遺稱か。

オグス　小楠　大分縣下毛郡にありし村。昭和四年四月本村の地を中津町に編入し同時に市制を施行す。

オクスズヤ　奥鈴谷　豐沢線の一驛（昭和三年設置）。樺太豐原郡豐北村にあり。

オクセンジョー　奥千丈岳　關東山脈・秩父山塊中の最高峯にして、山梨縣東山梨郡の北部、西保・三富二村に跨り、標高二四〇九米。頂上に大岳山大權現碑あり。北麓は國師ヶ岳（二五九一米）、南西麓は劍ノ峰（二〇五三米）に續く。又東北方に甲武信ヶ岳（二四八三米）・鶏冠山（二一一二米）・破末山（二二三一八米）、西北に朝日岳（二五八一米）・金峰山（二五九五米）・八幡山（二〇八八米）等の群峯聳立す。

オクタ　奥田
【奥田】富山縣上新川郡にありし村。昭和十年四月富山市に編入す。
【奥田】愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年本村は島田・日下部・市田・四家の四箇村と共に廢せられ其區域を以て大里村を置く。
【奥田】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年本村は野田村と共に廢せられ野間村を置く。

オクダ　遠管　安藝國（廣島縣）の古地名。三代實錄貞觀十六年の條に、安藝國遠管驛の名見え、また延喜兵部省式に安藝國遠管驛馬二十疋とあり。和名抄佐伯郡に遠管郷あり、諸本は建管郷に作り、高山寺本に建部に作るも、此の郷驛馬の事を兼ねしものにして遠管を正しとすべし。佐伯郡の西南端に小方村あり、これ蓋しチクダなるべく、卽ち其地今の佐伯郡小方村・玖波町・大竹町等の地なるべし。

オクダイニチ　奥大日岳　大日岳とも云ふ。日本北アルプス立山連峯北方部の一。富山縣中新川郡立山村と白萩村の境界に跨り、標高二六〇六米。片麻岩よりなる。北方に北大谷山（一八二六米）、北西方に早乙女岳（二〇二五米）聳ゆ。早乙女岳との鞍部を小又川乘越と云ふ。東方は長大なる山稜をなし東方の別山（二八八五米）との中間鞍部を室堂乘越と稱し、北方の立山川と南方の海名川の分水嶺をなす。奥大日岳頂上は長堤の如き岩石壯大を極め、また殘雪多く、雷鳥の群棲を以て知られ、また日本海・富山灣の碧波を望む。頂上附近の岩の中に源頼光の匿渡邊綱が、黄金の佛像を藏せりとの傳説あり。

オクダイラ　奥平（群馬縣）→岩平村

オクタカノ　奥竹野村　兵庫縣但馬國城崎郡の中部。豐岡町の西約一〇粁。東は五莊村・奈佐村に、南は三椒村に、西は奥佐津村に、北は中竹野村に境す。竹野川上流の山谷の地を占め全村殆ど山地を成す。主生業は農にて米・繭・麥を産し、また蔬菜及び花卉・大麻の特産あり。豐岡町及び西北方香住町に縣道通じバスの便あり。古くは和名抄美含郡竹野郷の内に屬し、中世畠に森本市場と稱せらる。いま河内・河南内・桑野本・大森・須野谷・門谷・御又・小城・二速原・森本・坊岡の十一大字ありて大字河内に役場を置く。

オクタニ　奥谷村　兵庫縣揖磨國宍粟郡の北部。東北は美作國に境し、西北は鳥取縣八頭郡に界す。卽ち宍粟川上源の地。南北約二〇粁、東西約一一粁の大村なるも、全村殆ど千米前後の山地を成す。米・繭・蔬菜及び花卉等を産す。國道因幡街道南方山崎町方面より來り、村の北部に於て東方に縣道を岐ち戸倉峠を越えて鳥取縣に入る。この街道により山崎町にバス通ず。此地は古くは和名抄伊和郷の内に屬せしものの如し。いま原村・飯見・野尻・引原・音水・鹿伏・戸倉・道谷の八大字より成り原村に役場を置く。

オクタマ　奥多摩　東京府西多摩郡西部、多摩川上流地附近一帶を云ふ。その限界は一定せざるも、凡そ北方は埼玉縣秩父郡との境界上なる仙元峠（最高點一四七三米）及び天目山（一七一八米）、西方は山梨縣北都留郡との境上なる三頭山（一五二七米）、南方は東京府南多摩郡との境界に囲まるる地域を指す。この間清流多摩川の上流東に走り、渓流・森林・山岳の美景諸處に展開し、山水美豊かなる幽邃境をなし、帝都人の行樂探勝の地として賑ふ。吉野梅林・大日本寂山寺・射山渓・御岳山・鳩ノ巣・數馬の石門・日原鍾乳洞・倉澤鍾乳・小河内温泉等見るべきもの多し。山岳としては北方多摩川左岸に高水山（七九三米）・川乘山（一三六四米）・天目山（一七一八米）・鷹ノ巣山（一七三七米）等東西に連嶺をなし。又南方多摩川右岸には御岳山（一〇七〇米）・大岳山（一二六七米）・鋸山（一〇四七米）・御前山（一四〇五米）・三頭山（一五二七米）等同じく東西に連互し、この南麓には多摩川の支流秋川東に流る。これ等の連峯は時により奥多摩アルプスと總稱せらる。帝都より奥多摩に入るには中央線立川驛より青梅電車に乘換へ、青梅町を

經て懸點御岳驛に下車するを便とす。

オクタマ　奥玉村　岩手縣陸中國東磐井郡の東部。東磐井郡の二中心地千厩町と大原町との中間の丘陵地の大部分を占む。村のほゞ中央を北上川の支流千厩川の上流地域にして深萱澤・川原町・中目前・長者・根山の部落散在す。主産品は米・麥・大豆の農産最も多く繭・桑葉の養蠶も又盛んにして葉煙草の栽培産出も多し。鍋卿・獣皮・羽毛の畜産もあり、林産としては用材・薪炭あり、其の他各種飲食品・漆器の工産物あり。道路は四隣の各町村に通ずれども何れも三百米内外の峠を越ゆる不便あり。驛の利用は省線大船渡線千厩或は折壁の二驛に依るを便とす。本村は明治八年上・中・下の奥玉三村を合して建てしもの。村の東北隅折壁村・大原町との境界に東磐井郡第一の名山にて高山の室根山(八九五米)巍然として聳え、古くは鬼首山と云はれ奥郡の高山なりと仙臺封内風土記に見ゆ。南麓折壁村に縣社室根神社あり、其の傍より清泉湧出す。山甚だ高からずと云へども温容整然君子然たる姿態にして四方より望み得らる。〔地藏院〕曹洞宗。本尊は延命地藏尊。開祭和尚の草創。中興開山は道榮和尚。本堂は一に水引地藏と稱す。往昔當院門前に乾田數歩あり、水持あしくために獏秧後は濕潤に暇なし、或年近隣高屋敷の老翁水引に赴き、水懸口に居りし和尚と爭論し、鍬にて和尚を毆打す。翌日寺に至りしに和尚に異狀なく、本尊の片腕なかりしと云ふ。爾後水引地藏と稱し崇者多し。

オグチ　小口　【小口】愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年、野田村と共に廢せられ、新たに野間村を置く。

【小口】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄丹羽郡に郷名見ゆ。諸本口を誤りて目に作るも今高山寺本により訂す。其地今の丹羽郡大口村及び布袋町・古知野町・扶桑村の一部なり。

【小口原】紀伊國(和歌山縣)の歌枕。其地今の東牟婁郡小口村の地なり。山家集「くもとりやしこの山ちはさておきてなくちかばらのさひしかりける」

オグチ　尾口村　石川縣加賀國能美郡の東部。北は尾添川を以て石川郡に、東南は岐阜縣大野郡に界す。全村山岳重疊し山地に屬す。西部を牛首川北流するも、其沿岸殆んど峡谷を成して平地を見ず。牛首川に沿ひて縣道走りバス通ずるも交通の便よろしからず。僅に米・繭を産す。岩間温泉あるを以て著名なり。泉質はアルカリ性の炭酸泉。古くより其附近の岩間より湧出し、泉量極めて豐富なりしが、如何にも僻遠の地にして發達を見ざりしも、大正十一年白峯街道より此地に到る郡道設けられてより密命御側はり、更に此地より白山(への登山道造られ、爾來漸次浴客の多きを數ふるに至る。温泉は岩石の間より或は河中より湧出せるものを引きしものにて、岩間の名稱も蓋しこれより起る。

オクチチブ　奥秩父　埼玉縣秩父郡の奥地一帶を云ふ。二五〇〇米より一〇〇〇米に至る連峯に圍まれ、谿澗混淆の美林あり、曲折する深谿ありて、深山性地域を形成す。主脈は長野縣と山梨縣の境界に跨る瑞籠山(二二三〇米)より始り、東方(金峰山(二五九五米)・國師ヶ岳(二五九一米)・奥千丈岳(二四〇九米)を經て長野縣南佐久郡・山梨縣東山梨郡・埼玉縣秩父郡に跨る甲武信ヶ岳(二四八三米)に達す。甲武信岳の東北斜面よりは千曲川源流して東流し、南斜面よりは荒川源流して西南流し、又東北斜面よりは荒川源流して東流す。主脈は甲武信岳より次第に低夷し、北方の秩父郡と南方の山梨縣東山梨郡・北都留郡の境界を東方に向ひ、破不山(二三一八米)・古礫山(二二一二米)・牛王院山(二二〇九米)・大洞山(二〇六九米)を經て秩父郡・北都留郡並に東京府西多摩郡に跨る雲取山(二〇一八米)に至る。多摩川は右の牛王院山の南斜面より發して東流す。これより次第に丘陵性となり、北方の秩父郡と南方の西多摩郡の境界を東方に走り、天目山(一七一八米)・大平山(一六〇三米)・川乘山(一三六四米)・棒ノ嶺(九七六米)を起す。なほ甲武信岳より北方に支脈を發し、大山(二二九〇米)を經て秩父郡・南佐久郡並びに群馬縣多野郡に跨る三國山(一八二八米)に至る。ここより東北方に轉じ、北方の多野郡、南方の秩父郡との境界上に兩神山(一七二四米)・父不見山(一〇六六米)等を起し、次第に低夷す。この連嶺は北方の御荷鉾山塊と相對し、中間に神流川東流し溪谷を作る。秩父郡と南佐久郡を結ぶ交通路としては大山の北方を横斷する十文字峠あり、また秩父郡と多野郡を連絡するものには志賀坂峠・坂丸峠あり。

オクチャウス　奥茶臼山　日本南アルプス赤石山脈の一峯。長野縣下伊那郡大鹿・上伊那郡村界に聳ゆ。標高二四七四米にして秩父古生層より成る。東麓は丸山(二三七四米)・西南麓は尾高山(二二一二米)に連る。東方小渋川の水源地の彼方に赤石岳(三一二〇米)・荒川岳(三〇八三米)峠立し、北方は前茶臼山(二三四七米)に續く。

オクツ　奥津村　岡山縣美作國苫田郡の西部。津山市の西北約十六粁。東は香香美北村に、北は上齋原村に隣り、西は羽出村と界す。東北境に花知ヶ山(一二四八米)、東南境に泉山(一二一〇米)聳え、その山嶺南北に連亙し村境となり西に傾斜し、西境にも一〇〇〇米餘の山嶺南北に連り、この兩山地間を吉井川の上流奥津川南に流れ、其岸に狭長なる低地ありて田畑拓け集落またここに發達す。主産物は米・繭、木炭、これに次ぎ、また酒造も行はれ、柿を特産す。道路は奥津川に沿うて南北に通じ津山市にバスの便あり。この地は古くより奥津川の溪谷美とその流域に湧く温泉と相俟ちて温泉郷として知らる。〔奥津溪〕指定名勝。吉井川の上流奥津川の花崗岩中を流るる峡谷にて特に奥津温泉中の一なる大釣附近最も溪谷美に富む。峡谷は岩床の高低屈曲に伴ひ隨所に瀑潭をなし、其間天狗岩・女窟・琴潭・白潭・鮎返瀑・井字瀑・石割櫻・般若寺の太子堂の八勝祥に稱へらる。又溪中に大釣瓢穴あり、瓢穴は河底及び其沿岸花崗岩地帶に發達しその數九個、その穴は平均徑一米以上に達し最も大なるものは東西約四・五米、南北約三・五米、深さ約二・一米に及ぶものあり。その中の轉石は卵形をなし長徑約一・八米、短徑約一米。なほ峡谷一帶は石南・鄙鵑・紅葉の美、河鹿・杜鵑も多く、之に因みて錦川の名あり。〔奥津温泉〕奥津川の沿岸泉ヶ山の西麓にあり。温泉は字奥津・川西・大釣に湧出するもの。奥津温泉と總稱す。無色清澄・無味無臭の弱鹽類泉にて温度四三度。河中に露天風呂あり。急湍その間に流れ幾多の水瀑相連り飛沫逆るが如く、溶槽流れに彌し河水澱るときは溶槽砂礫に埋没することあり。附近に名勝奥津溪・瓢穴・般若寺・笠ヶ瀧・鮎返瀑等の奇觀あり。兩岩赤石楠多く花時の景最も佳にて、夏候は溶客多く又附近の萬燈ヶ原・大神宮ヶ原には冬季スキー行はれ、何この地の婦女の足踏洗濯は奇習として湯治者か慰むるものあり。

オクテイネ　奥手稲山　札幌市の西方約十粁に位する山。北海道石狩支廳札幌郡の北方、手稲村・豐平町に跨り、北麓は後志支廳小樽郡朝里村に亙る。標高九四九米。東南は手稲山(八一〇二三米)、西北は春香山(九〇七米)、南方は米澤山(八一〇〇六米)に續き、北方は天狗山(五三七米)・石山(三七七米)を經て石狩灣岸に達す。西北斜面より小樽内川發して南流し、東南斜面よりは豊川發して東南流す。山麓針葉樹林を以て掩はる。山スキーの好適地にして、南斜面に札幌藏道局直營の山の家あり。小樽・余市・定山溪方面にも降るを得、スキーツーアの中心地たり。

オクデラ　奥寺用水　岩手縣和賀郡にある用水。横川目村・藤根村・笹間村・飯豊村の四旧村の灌漑用水なり。江戸時代奥寺八左衛門定恒なるもの南部重信公に仕へ二百石を食む。たまたま本郡の此地を過ぎ土地を開墾し國の富を增さんとし親族の某と謀り松前藩より三千兩を借り、寛文五年より阿仁鑛山の坑夫を雇ひ延寶七年に至るまで十五年を經て漸く完成し、附近に美田を得るに成功せり。

オクド　奥戸　東京市葛飾區の町名。東は江戸川區に接し、西は中川により本區本田町に對す。もと東京府南葛飾郡の町なりしも昭和七年東京市城擴張の際、金町・水元村・新宿町・本田町・龜青村・南綾瀬村と共に東京市に編入され葛飾區となる。隣奥戸町は近世東葛西領に屬し、明治二十二年、上小松村・下小松村・奥戸村・奥戸新田・細田村・龜令村の六舊村が合併し奥戸村となり。昭和五年町制を布けるもの。此地戰國時代は葛西氏の所領にして德川時代は幕府の直領となり代官の治下にあり、以て明治維新に至り武藏縣・小菅縣・東京府と轉屬す。

オクドノ　奥殿　愛知縣額田郡にあり。明治二十九年本村は細川村・岩津村・大樹寺村と共に廢せられ其區域を以て岩津村を置き、岩津村は昭和三年町制を布く。※岩津町

オクトミ　奥富村　埼玉縣武藏國入間郡の中部。川越市の西南方約六粁、入間川町の東に接す。全村土地低平、入間川村の西部を北流して良く桑園・水田拓け、繭を主産し米・麥の産之に次ぐ。省線川越線入間川驛に近くバス通じ、交通便なり。此地は近世山田庄に屬す。村内の梅宮神社に存する應永年中の鰐口に入東郡奥富郷とあり、北條役帳に三田弾正少弼の領地八十貫文入東郡上奥富(泉は富の誤なるべし)とあるも本村なるべし。天文の頃上下の二村に分れ、德川氏關東入國後は川越領たり。寛永元年支配地となり、上奥富は天明元年再び川越領となりて松平大和守に屬し、次で松平周防守に屬し、明治維新以來川越藩・川越縣等の變遷を經て、下奥富は延享三年田安家の領となり、文政年中復た支配地となり、天保年中その一部を割きて栄地とし明治元年知縣事、同二年品川縣・韮山縣を經て、同四年上下兩奥富は入間縣に入り同九年埼玉縣に屬す。柏原新田は寛永年中柏原の農民五郎右衛門なるもの此地を開發せるを以て名附く。開發の始めは堀田加賀守に屬し、次いで松平伊豆守・松平美濃守・秋元但馬守に屬しなりしが其後支配地となり、維新以來の變遷は下奥富に同じ。江戸末期の勤王家西川練造(贈從五位)は川越市外小仙波に生れ、本村に寓居す。醫師にして兵法・儒學・劍道をよくし皇政恢復に盡力、幕吏に捕へられ、文久三年江戸傳馬町の獄に死す、年五十五。

オクナ　奥南村　愛媛縣伊豫國北宇和郡の西北端。吉田町の西に隣り、北は喜佐方村と界し、西南は宇和島海に臨む。村内概ね山地にて西南端は地頭部を以て大良島に連續し、宇和島灣と法花津灣を分つ。鮫海村なるも農業を主とし、低地少く水田に乏しきをもつて蚕作と甘藷の栽培を專らにす。併し本村は養蠶は盛にて其繭産は縣下有數なり又特産物いりこの産も少からず。宇和島市に汽船便あるも交通便ならず。本村は大字奥浦と大字南君の二部落より成るを以て村名に兩地の頭字をとりて奥南と名附けしといふ。

オクナイ　奥内村　青森縣陸奥國東

津輕郡の中部。青森灣の西南岸に臨み、油川町の西北に隣り、北は後潟村に、西南は新城村に、西は北津輕郡寒良市村と界す。本村は海岸平野と、津輕半島の背陵山脈地帶と、丘陵地帶の三地域より成り、海岸平野は水田、他は森林なり。川は背陵山脈に發す。北より内潟部川・奥内川・瀬戸子川等東流して青森灣に注ぐ。本村は主として米・蔬菜を産出す。林産赤蝦がらず。山地には日本三大美林の一なるヒバ林あり。此ヒバ林は津輕藩初代爲政公これを愛護し、四代信政公林制を確立し現在に至る。大字内潟部には宮林署あり。本村は青森市を距る十二粁にて、油川町より三厩村に至る縣道碇前道海岸沿ひに南北に走り、乘合自動車の便あり。又山麓に沿ひ森林鐵道あり。海上には沿岸定期(青森より)航路寄港し交通至便なり。建武の頃は外ヶ濱と稱し、南部師行一族の領地なりしも、天正年間に奥瀬善九郎に、天正十三年三月には津輕爲信の領有となり、其後變遷ありしも明治二十二年村制實施の際今日の村となる。

オクナカヤマ　奥中山　省線東北本線の一驛(明治二十四年設置)。岩手縣二戸郡小鳥谷村小繁にあり。

オクナダ　奥名田村　福井縣若狹國遠敷郡の西部。小濱町の西南約一五粁。北は大飯郡に境し、南は京都府北桑田郡に、西は同府何鹿郡に隣す。地勢山岳地に屬し村内高山起伏す。小流西部に發源して東流し其沿岸に僅少の耕地を見るのみ。交通は小濱町にバス通ずるも便ならず。農産は米・繭を主産し、また木材・木炭の産あり。この地域は和名抄遠敷郡丹生郷の内か。中世名田庄に屬せり。大字坂本に城跡ありて石垣殘存す。傳ふるところに據れば淺谷金王丸の城きしものと。今この地の標現祠の下に金王丸を祀るといふ石碑あり。大字井上に朝日ノ湯あり。高き約一二米。昔朝比奈三郎戰に敗れ此地に逃げて來りしが、敵の馬の嘶きに應じて朝比奈の馬も嘶きしを以て發見せられ、遂に鑑壺に馬諸共に嚙び込めりと。故に此鑑を朝日ノ鑑或は朝比奈ノ鑑ともいふ。今猶ほ鑑の附近の岩石に馬の蹄の跡殘るといふ。

オクニ　小國　【小國】秋田縣由利郡にある油田。院内村大字小國を中心とする第三紀層の含油層にて、上層は深さ一二〇米内外、中層は深さ二〇〇米内外、下層は深さ四〇〇米内外。小國の原油は延長六粁の鐵管にて羽越本線の羽後平澤驛前に送油し、油槽本車にて秋田製油所に送る。

【小國】山形縣羽前國最上郡の地名。古より小國郷と通稱し、北羽前街道此處を過る。今東小國村・西小國村に分る。傳へいふ源義經の北陸を經て平泉に走るや此谷を通過すと。今陸羽本線を通じ堺田・富澤・羽前向町・瀬見等の數驛を置く。

【小國】備後國(廣島縣)の古地名。和名抄、御調郡小國郷ありて乎久爾と訓ず。其地今の御調郡下川邊村・諸田村等の地に當るなるべし。

オクニ　少國之峯　豐後風土記に見ゆる肥後國阿蘇郡の山。阿蘇外輪山の一部を稱せしものか。阿蘇川(杖立川)の發源地。いま熊本縣阿蘇郡に小國町・南小國村あり外輪山の北麓に位す。

オクニ　雄國　【雄國山】那須火山脈に屬する一峯にして、磐梯山(一九一八米)の北方に位す。福島縣耶麻郡大豐・檜原兩村界に跨り、標高一二七一米。南東方に猫魔ヶ岳(一四〇四米)、北方に八森山(一一五〇米)峰つ。北西方に檜原湖(水面高度八一九米)擴がり、南麓に雄國沼を湛ふ。

【雄國沼】福島縣耶麻郡にある沼。磐梯山(一八一九米)の西方、檜原村にあり。猫魔ヶ獄(一四〇四米)の西北斜面にあり、北に近く雄國山(一二七一米)聳え景勝に富む。沼の水は東北の檜原湖に注ぐ。此沼は火口湖にしてその噴火は磐梯山より古しといふ。周圍には舊火口壁創立す。沼の成生は古く從つて樹木繁茂し環壁も水餌により崩壞し現形を留むる所少く、所々に圓錐狀を呈する凸起を僅に遺す。

オグニ　小國　【小國村】岩手縣陸中國下閉伊郡の南部。南は早池峯山地にて上閉伊郡に隣す。北上山脈の最高峰一九一四米の早池峯山を頭上に頂く本村は全くの山村にして、僅に閉伊川の支流小國川沿岸に細長き低地を見る。小國川は源を本村南部山地に發し、村を南より北に流れ川井村にて閉伊川に注ぐ。藥師川は源を西部藥師岳(一六四五米)に發し東に流れて小國川に入る。共に谷間を深く浸蝕し殆ど灌漑の用をなさず、僅に木材輸送に利用さる。農地少きをもつて林業を主とし、牧畜之に次ぐ。木炭の産額多し。また早池峯山より切出さる濁藥樹木材の繊出多し。また村内各戸に牛の飼育盛なり。遠野町より宮古町に至る街道村の中央小國川に沿ひ南北に走り、バス通ずるも交通便ならず。本村の開創は其年代を詳ならざるも、閉伊綱基の閉伊郡に封ぜられしは文治五年にて、當時人家少く應永元年には大圓寺の創建あり部落漸く發達せるを知る。初め宮古代官所の支配下なるも後大槌代官所の所轄となり明治維新に至る。村の西南に曾呂瀧あり、兩岸絶壁屹立して瀑布直下十米に及び其の壯觀言ふべからず。

【小國盆地】山形縣最上郡にあり。東西約十一粁、南北約一—二粁の楕圓形の盆地にして總面積三二二方粁に達す。現在東西小國の二村に分轄さる。奥羽中央分水嶺中の盆地にて、標高は一八〇米乃至二二〇米にして小國川に潤さる。此の川は黒森・瀬見の峡中を貫流し、舟形村を過ぎ大字富田にて最上川に注ぐ。盆地の北方は木像獄・発獄(一二六二米)等の舊火山あり急崖を以て盆地に臨む。瀬見川の

出口の右岸に龜割山(五九三米)あり、南方尾花澤盆地との境界を爲す丘陵は五—七〇〇米にて、背振(六二〇米)・山刀伐(四七〇米)の兩峠にて通ず。東方の分水界は標高二九〇米にして縣境の高度としては最も低き場所をなし、此の間狹き谷間が長く續き、陸前の玉造郡に連り、道路平易なるも背より利用少き峠にして、中山越又は屎前越とも云ふ。盆地内は低地稍ゝ廣く米を生産し、周縁の緩傾斜地の草を利用して牧馬盛んなり。風土略記には「馬を多く野に移し置き、入用の時は野より牽來り用ゆ」とあり。總戸數千九百八十七戸中、七百四十一戸に二歳駒以下二四五頭、二歳以上八百八十六頭飼育せらる。二歳駒は年々十月十三日より十五日に至る東小國村大字向町の馬市に賣り出され、軍馬となるものは其の内一割内外なり。此の馬市は縣内にては勿論隣一のものなるも、小國郷最大の市にて一萬三千の全住民みな之に集る程の盛觀を極む。特に瀬戸物は一年分が此の日に賣買されると云ふ。東小國村大字富澤の馬頭觀音は馬の神として土民の信仰頗る厚し。大正五年陸羽西線全通し、堺田・富澤・向町・瀬見の各驛が設けられしも大移出物は增加せず、両も昭和五年には今迄自由に耕作し來りたる官有地を約十五萬圓にて拂下げせしため、世中の不況に伴ひて金に困窮するに至り、又馬の下落と繭の金にならざる苦しさに娘や子供を賣る家續出し、新聞紙上・雑誌等の問題となるに及びしことあり。最近は此の弊風も大部改まると云ふ。

【小國川】山形縣最上郡を流るる川。最上川の一支。山形・宮城縣境をなす奥羽脊梁山脈に屬する小鍋山(一二六二米)・小柴山(一〇五六米)・奥羽山(八七六六米)・田代峠(五五九米)等の西南斜面に發する渓流合して小國盆地を西流し、大熊黒山(七一五米)の北麓にて流路を西南に變じ、舟形村の中央を曲流して氾濫原を作り最上川に合す。流程約四〇粁。渓間は縣道北羽前街道及び省線陸羽東線の通路となる。

【小國谷】山形縣西置賜郡の荒川と其支流横川に流水せられる小國盆地にして、一に小國郷と稱す。總面積七五四・五方粁なるも西方の越後境には境界未定の地域數千ヘクタールあり。南小國・北小國・津川村、及び小國本村の四村の人口は合計一萬二千餘人程度なるも、目下工事中の日本電興株式會社の五〇ヘクタール餘の工場完成後の人口は著しき變化あるべし。上杉鷹山公時代に十五歳以下五人の子供を有する者に一人扶持を與へ保護を加へし事あるも、此の時には小國郷に限り。三人に一人扶持を與ふる事を指令せりと。恐らく當時は甚しく間引が行はれしなるべし。小國街道は米澤盆地と越後を結ぶ幹線なるため、古くより重要視せらる。最初のものは女川に沿うて長井盆地に出でしものと傳へらるるも、慶應三年石瀧より寺泉に出づる新道を開けり。恐らく昔の交通路に近きものなるべし。記錄に見ゆるは越戸を經て小國に出づる舊道を廢して大永七年伊達稙宗の開きし尾折峠を過る十三峠の街道最も古し。越後の關より玉川・小國・手子と通る街道に大小十三の峠あり。此の道路に沿うて越後の魚類と鹽・織物等入り、煙草・馬・米等が西に向つて運ばれしといふ。明治二十一年字津峠を折り曲りて馬車の通行する新道開け、米澤・小國間の交通は主として馬車にて行はるるに至る。昭和十年より米澤線の全通するに至りしため、再びこの交通路は米澤と越後の交通に利用せらる。往時、小國郷の行政は小國小坂町の御役屋附の郷士と、代官所の手により行はれしものなるべし。産物はナメコ・センマイの外木炭・木材等。昭和十二年の産額はセンマイ・ナメコ各三萬圓づつに達す。近時は品質も向上し。センマイの産額は現下の總高額五萬貫の二割程度なるも、主として關西方面に移出さる。一方ナメコは關東特に東京に送らる。津川村沼澤方面は頗る多雪にて、四米を越ゆる事珍しからず、全國有數なり。

【小國】省線米坂東線の一驛(昭和十年設置)。山形縣西置賜郡小國本村にあり。

【小國村】福島縣岩代國伊達郡の南部。掛田町の西南に隣り、西北は宮成村に、東は月館町・小手林に接し、西は信夫郡岡山・渡利の二村と界す。全村掛田丘陵の高位面にあり、廣瀬川の一支小國川及びその支流大波川の谷がY字狀の低地を作り、その谷面が主たる經濟面をなす。本村東境の御幸山(四七七米)・女神山(五九九米)は殘丘にて南の天井山は五三二米にて最高とす。農蠶業は最も盛んにして經濟面がY字狀の谷面に限られ非常に狹く從つて經濟的に餘り裕福ならず。薪炭の産もあり山村型をなす。桑畑は傾斜面に作る。縣道中村街道が福島市より小國川の谷を通り掛田町を經て中村町に至りバスを通じ、福島市との交通も容易なり。大字大波に大波城あり、正平七年大將軍源顯信多賀國府に敗れし時、この城に入り、また文明中大波伊賀守照成ここに居すといふ。德川時代になり幕府の天領に屬す。

【小國谷】新潟縣刈羽郡に於ける信濃川の一支流海川の渓谷の刈羽郡にある部分をいふ。西に八石連山あり七星山と分つ。中に上小國・中里・七日町・千谷澤・武石・横澤・山横澤の七箇村あり。中世この地に源三位頼政の裔小國氏あり、武功を以て著はる。

【小國村】廣島縣備後國世羅郡の中部。津久志村の東、北に津名村に隣り、西は吉川村と界す。村内概ね三—四〇〇米の山地に被るるも中部西北より東南に狹長なる低地ありて耕地拓け、稍ゝ水田卓越し米・麥・甘藷を主産し、養蠶も行はれ

其外林産も少からず。道路は低地の間を通じ又吉川村より津久志村に至る街道西北を過ぎりバスの便あり。また世屋西女學校・區裁判所出張所あり。本村字に郷の地あり、もと私に此地及び津久志村・大見村に亙り山中郷を置きその遺稱ならんといふも詳ならず。〔潮音寺〕 臨濟宗鈴心寺派。白華山と號す。新美備中守の草創。開山は惠經和尚。中興開山は宥外惠鈴和尚、天正年中火災に罹り焼失せる古址を再興す。〔大平寺〕 臨濟宗鈴心寺派。興國山と號す。應安五年の草創。もと安藝國高田郡甲立郡五龍山にあり。大永年中城主寄戸河内守成頼、寄傳貞獲和尚を請じて本宗とす。中興開山は乾巖和尚。 〔大宮原〕 熊本縣肥後國阿蘇郡の北部。北東西の三方は大分縣に界し、南は南小國村に隣る。全村高山重疊して山地を成すも、杖立川南部に發源して北流、その沿岸諸處に田畑拓く。南方省線豐肥線内牧驛へ約二二粁バスの便あり。主生業は農・林業あり。小國森林調査所及び小國實科高等女學校あり。昭和十年四月北小國村か小國町と改稱す。此地或は和名抄阿蘇郡波良郷の内か、而して中世は隣村南小國村と共に小國郷或は小國谷と稱せられし地。大字北里に櫻尾と呼ぶ塞址あり、是は參考太平記に延文四年、阿蘇大宮司の少貳家に與黨して小國郷に九箇所の城を築くとある其一所なりといふ。大字宮原に一奇觀を以て聞ゆる鏡ヶ池あり。水は清澄にして底の沙中に明月の如き靈鏡ありて或は一面となり或は數面となり隱見出沒その數を知らずと。傳ふる所に據れば往昔平氏檀浦没後、安德天皇東肥に避難し給へる御跡なるべし、十二皇紀此地に來りても、天皇の御行衛の判らざりしより諸方に暮れ、遂に最後の決心をなし帝の御行末の御武運を祈り、各〻其有する鏡み清き靈池に投じ、而して歩を豐後に向け、玫瑰の平川の邊に身を投ずといふ。〔杖立温泉〕 其地は筑後川の上流、大分縣界の杖立川の深い溪谷の峡地を占む。泉質食鹽泉。神功皇后三韓の役の御歸途御產氣ありて、若く御產湯を探し給ひしが、偶〻此地に至り猿の湯浴するを認め、之を汲んで御產湯とせられ給ふといふ。中世以降細川氏の有となり本陣を設けらる。また光仁天皇の御字寶龜二年弘法大師この地を巡錫の砌、この湯を試みて現世最上の藥湯なりとて藥師如來の尊像を自ら彫刻し、雲泉寺を建てて之を安置し、末代迄の弘誓の標しとして携へ來りし竹杖を立てしところ、其節々より倒まに杖葉を生ぜりといふ傳説より杖立の名生ずといふ。〔阿蘇陀杉〕 指定天然記念物。大字黑淵字本村にあり。目通幹圍約一〇・七米、地上約三・六米の高處より西方に一大横枝を出だし、樹高約三八米、枝張外縁の全周圍約一一〇米に及び、樹勢旺盛、杉の亙樹として代表的なもの。〔下ノ城ノ公孫樹〕 指定天然記念物。大字下城字坂ノ下にあり。目通幹圍約九・六米、幹の基部より多數の蘖發生し、枝條四方に擴がり公孫樹の亙樹として有數のもの。〔宮原兩神社〕 大字宮原に鎮座。縣社。祭神、高橋神・火宮神・雨宮姫命・比咩神外數神。高橋神は往古高橋山に鎮座し、火宮神は莚田に鎮祭し、古くは時々火燃ゆる事ありしと。依つて火宮神の稱ありといふ。共に阿蘇國造速瓶玉命の第二・第三の御子にて、阿蘇の健磐龍命の孫神に當る。蓋し早くこの地に鎮まりて土地の開拓に神威を垂れさせ給ふ。降つて江戸時代には加藤氏の崇敬を受け社領の寄進等の事あり。また近郷の鎮守神として崇めらる。例祭、十月十五日。

オクニシコーチ　奥西河内岳　おくにしこうち　赤石山脈の一峯にして、赤石岳（三一二〇米）の北接に位す。荒川中岳・魚無河内岳とも云ふ。長野縣下伊那郡大鹿村と静岡縣安倍郡井川村に跨り、標高三〇三八米。※荒川岳

オクニッカワ　奥新川　おくにっかわ　省線飯山線（東北本線の一支線）の一驛。宮城縣名取郡秋保村大字新川にあり。昭和十二年十月設置。作並温泉を距る約五粁の山間にあり。

オクニッコー　奥日光　おくにっこう　栃木縣鹽谷郡日光町の北西方の奥地を稱す。時により裏日光とも稱せらる。鹽谷郡赤薙山（二〇一〇米）・女峯（二四六四米）・大真名子（二三七五米）山塊より、西方・鹽谷郡と群馬縣利根郡の境界附近一帶に當る。郡境界線上に白根山（日光白根山、標高二五七八米）聳え、その北西麓に菅沼・丸沼・大沼尻湖の並ぶ廣境あり。更に北方には物見山（二一一七米）の東南側に鬼怒沼横ぼる。この西北方利根郡と福島縣南會津郡との境界附近には豐富なる温性高山植物並に水中植物の群落を以て名高き尾瀬沼・尾瀬ヶ原あり、片品川の本支流の曲折するあり。又至佛山（二二二八米）・燧岳（二三四六米）・黑石山（二一六三米）等の高峰は北方に於てこれ等を圍み、孤狀に連峰をなし。山水の神祕境をなす。いま日光と共に日光國立公園をなす。

オグニモト　小國本村　おぐにもと　山形縣羽前國西置賜郡の西部。津川村の西に隣り、北は北小國村に、南は南小國村に接し、西は新潟縣岩船郡岡谷村と界す。越後山脈に屬する祝瓶山（一四一七米）の山脚南方に延び、西境に柴倉山（一二六三米）・孫守山（一一〇八米）・荒澤山（一〇三九米）等聳え、北境に足鼡山（一〇五一米）・小枕山（八三七米）連りて土地西南に傾き、荒川の上支金目川は祝瓶山の南斜面に發し、津川村の山中に發する横川は南部を西に流れ、其流域は低地にて盆地狀をなし田畑拓け、米・繭を産し漬菜を出す。小松町より新潟に至る縣道横川に沿ふてほぼ東西に通じバスの便あり。樂落多くは溪間低地に發達し、營農署・營林署あり。また省線米坂東線之と並行に通じ伊佐領・羽前松岡・小國（何れも昭和十年設置）の三驛を置く。大字小國町を中心とせる謂ゆる小國郷（三萬石）の中心集落にて町は荒川の上流横川を挾み本町と小坂町・岩井澤とに別る。縣史談によれば小國町には栗生備後守の舊城址あり近傍の小坂館には小國太郎俊衡居住し、後伊達の臣上郡山民部代り、蒲生時代には佐久間久左衛門尉之に代り、上杉時代の城主松本伊賀に至り廢城となる。其後城跡を利用して東邊四二間、西邊四一・五間、南邊五二・五間、北邊四八間のほぼ四角形の堀を圍らせる御役屋を設け、五十人程の家士を從へ、道路の警備、地方行政を擅當せしむ。此の外にも農政を擅當する代官所を置き代官以下十名内外の足軽を永久屯田せしむ。後等は長官以外半農半士的の生活を續け維新に至る。小國町を去る二粁の西北に郷社大宮子易神社あり。貞享年中潤小國大宮藤起に「永祿二年伊達家臣上郡山民部少輔藤景再興之」とあり。小國郷の總社にて子易神社とも呼ばれ茅葺の板敷の產屋は大宮部落民の共同產屋に使用せられ、出產より二週間は必ず此處にて生活す。未府鹿子に相傳ふ、小國の山谷は往古潤水渉々たりしに天平勝寶の頃に山崩れ水去れ、是偏に大神の亙劈に顯るなりとて今の小渡村の西山に神を祭りて後此に移すとあり。又和銅五年遠江國周知郡小國郷椿村より大宮神社を勸請すとも云ふ。小國の名に之に因むと傳ふるも信憑不明なり。小國は古來十三峠の要驛にして問屋・旅籠屋・馬宿及び牛宿が多く、全部落民の大多數が交通業に直接間接に關係せり。新道開通後は昭和十年省線米坂東線全通する迄一時的に越後との交通衰へしも小國驛等置かるるに及び再び活氣を呈するに至る。特に最近玉川の上流に一萬五千粁ワットの發電所を設ける工事中にて、小國驛の東北方に工事中の日本電興會社の化學工場が、五〇ヘクタール餘の土地に完成し一萬五千の職工之に從事する頃になれば五百戸中七十戸の商業者に過ぎざる小國町も米澤市を凌ぐ樣な盛況を呈する事なちん。南北小國二村より集るなめての加工工場三十六箇所もあり。製材業赤振ばんとし、米・薪炭・センマイ等の集散地たり、大字金目は岡名の荒川支流の奥に發生せし溪谷集落にて十三戸全部が齋藤を稱す。既に文祿の邑鑑に二戸七人と見ゆ。米の不足は熊狩りと養蚕・製炭業等に補ひ鄰を產す。明治三十五年に全燒せしが養蚕と小國郷第一の勤勉とにて復興せり。熊野神社を中心に堅く開結し、宗家を中心とし相互扶助の生活を營み一人の犯罪者も出さず、一回も納稅を滯らせし事無き珍らしき山村なり。赤芝は町の西方三粁に在る峡谷にして、花崗岩・石英粗面岩昇立する間か清冽玉を散し、滿山紅葉に彩らるる頃の小國峡の風光に顧る佳なり字津峠に出る途中の片洞門も一勝景たり〔大宮子易廟神社〕 大字大宮にあり。郷社。祭神大己貴命・國常立命。もと大宮神社・子易神社の二社なりしも正和年中兩社を合祀し現稱に改む。例祭四月十八日・七月十八日。

オクノ　奥野村　茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸崎町の西約七粁。村内激れ丘陵地を成すも南部は低平にして田畑拓く。縣道南方龍ヶ崎町に通ずるも交通便ならず、米を主產す。此地或は和名抄、信太郡志萬郷の内か、蓋し大字鳥田は其遺稱ならん。人類學會雜誌に據れば當地の石神崇拜は盛んにして、新顯人の多くは男女下部の疾病を治さんとする者にて、病氣全快する時は木或は石を以て男根形を大小隨意に作りて神前に捧ぐ、その數多き時は百以上に及ぶと、この風習は明治維新の際一旦廢亡せしが、後復興すといふ。

オクノエラブ　奥永良部島　沖縄縣宮古島の西方にある伊良部島の別稱。

オクノクニ　奥國　おくのくに　→奥國

オクノコーリ　奥郡　おくのこおり　→奥郡

オクノダ　奥野田村　山梨縣甲斐國東山梨郡の東南部。勝沼町の北方約三粁。地形東西に長く、東は小金澤山（一九八八米）を以て北都留郡に境す。中央大菩薩峠の末脈南に走り源次郎岳・恩若ノ峰等聳ゆ。ただ西部に僅少の平地ありて漸次拓く。省線中央線村の西部を南北に過ぎり勝沼驛・鶴山驛に近く交通不便ならず。主生業は農業にして米・繭・麥等を產す。また物產に葡萄・桃等あり。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内にして、明治八年猪牛奥村・熊野村・西廣門田を併合の際、牛奥の奥と、熊野の野と西廣門田の田を取り奥野田村と名づく。本村大字熊野に郡衙の跡と覺しき所及び西之原城塞あり、また村内に古墳多數散在す。〔鶴鳴鹽鐵泉〕 泉質炭酸泉。加熱浴用。療用向。温泉のある處は大菩薩嶺の南麓に當り薬林美の地なり。鶴山より大菩薩嶺に登山せし人に歸途多く此温泉を經て初鹿野に出る。〔熊野神社〕 大字熊野組字御々久堀に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉尊・遠玉男命・事解男命外數神。創立年代未詳なるも、紀州熊野を勸請したる古社にして、戰國時代には武田氏歴代の崇敬を受け、江戸時代には徳川將軍家より二十八石四斗の朱印領を安堵せらるまた附近四箇村の產土神として村民の崇敬篤し。

オクノタイラ　奥平　おくのたいら　黑部川水源地東北方にある高原。富山縣上新川郡大山村の東南端部に位す。鷲羽岳（二八二四米）の西麓（二三二一米）より西方に延展する惣岩臺地にして、慨松地・草生地點綴す。高度二五〇〇米前後。四面雄峯に圍繞せらる。黑部川源流地附近を惣

歐跳寥するに好個の地たり。黒部川源流地附近は屢〻低氣壓の發生を見、雲霧の集中去來激しく、信州側にてはこの高原臺地を雲ノ平と呼ぶ。

オクビ　尾久比島　廣島縣豐田郡にある島。本郡の西南海上に横ほる豐島の南方にあり。豐濱村に屬す。東西約二粁、南北約〇・五粁。附近海上に好漁場あり。

オクビマチ　衽町　大阪の町名。阿波堀通裏町の俗稱。現今西區にあり、阿波堀通一丁目と阿波座堀通一丁目との間にて、並行し東西に通ずる道。心中背度申・下「コレ太兵衛、どこにのら〳〵やつて居た、衽町の笹屋から、竹の子取りに矢の使」

オクホダカ　奥穂高岳　奥穂と略稱す。日本北アルプス槍・穂高連峯の最高峯にて、內地にては富士山（三七七六・三米）・白峰北岳（三一九二・四米）に次ぐ第三位の高峯なり。長野縣南安曇郡安曇村と岐阜縣吉城郡上寶村の境界に聳立し、標高三一九〇米。角閃斑岩及び小紋岩より成り、雄偉怪奇なる山貌を呈す。北麓は濁澤岳（三一〇三米）、南麓は西穂高（二九〇三米）を經て遠く燒岳（二四五八米）に至る。西穂高との間にクヤジガルムと稱する藤場あり、大岩塔群立す。東斜面は梓川谷、西斜面は濁田谷に臨む。展望としては、北方に槍ヶ岳（三一七九・五米）を始めとし、北アルプス一帶の連嶺を望み、南方には乘鞍岳（三〇二六・三米）御岳（三〇六三・四米）を見渡し、東南方には中央アルプス・南アルプスの雄峯大岳を指呼し得る。北方よりの登路は北穂高岳、唐澤岳と縱走して至り、南方よりは神河內（上高地）より岳澤を登り、一枚岩を經て達頂す。北方唐澤岳との中間鞍部に穂高小屋あり。梓川谷よりその支谷横尾谷を遡行し、穂高小屋を經て至る。濁田川谷よりはその支谷白出谷を遡行登攀する法あれども一般向ならず。→穂高岳

オグマ　小熊村　岐阜縣美濃國羽島郡の西北部。岐阜市の西南約十粁。南は竹ヶ鼻町に隣り、西は長良川を隔てて安八郡に、北は稻葉郡に境す。全村土地低平にて田畑拓く。交通は竹ヶ鼻町にバス通じて不便ならず。村民の大部分は農業に從事し米・麥・蔬・菜種等を產するも、一部は機業に從事し美濃縞・天鵞絨を產出す。此地は和名抄、葉栗郡葉栗郷の內なるべく、近世の西門間庄に屬す。東鑑・建久元年十月の條に「廿八日、己酉、於小熊宿、須細大夫憑基、賜身暇、自鳴海、迄此所、候御駕前」とあり。又嘉禎四年二月の條に「十二日、戊子、霽、小熊御宿、十三日己丑、天晴、乘井」とあり。されば鎌倉時代の美濃路、江戸時代の東海道の脇街道の小熊驛とは此地なるべし。また平家物語の治承元年、西光法師が誅せらるる條にも小胡麻の名見ゆ。

オクミナミ　奥南　愛媛縣喜多郡にありし村。明治四十二年、山鳥坂村と共に河邊村を建つ。

オクミョーガタ　奥明方村　岐阜縣美濃國郡上郡の東北部。八幡町の東北約一六粁。東は益田郡、北は大野郡に境す。東西約一八粁、南北約一五粁の大村なるも、村內殆んど山岳起伏して平地少なく農耕盛んならず。長良川の上支吉田川村の北部に發源して南流す。八幡町及び北方高山市（約三〇粁）に夫〻バス通ずるも交通の便未だよろしからず。農產は少なくも產馬及び白炭は其產額品質に於て縣下第一位たりと。〔淨樂寺〕　大字奥住にあり。眞宗大谷派。開基は敎如上人に歸依深き浪士某。永祿十二年上人に從ひて當郡日長尾村に來り、銀鐵を發見し其採掘に從ふ。其孫落髮して本寺を草創す。元祿年中に現寺號を賜ふ。〔常妙寺〕　大字奥住にあり。眞言宗本願寺派。密間山と號す。本尊阿彌陀如來。開基は當村の農常次郎。初め常妙坊と號し禪林たり、後住僧蓮如上人に歸依して本宗に轉ず。境內に本堂・經堂・鐘樓等あり。

オクムラ　奥村　→父鳥大村（東京府小笠原島）

オクモ　大芋村　兵庫縣丹波國多紀郡の東北隅。篠山町の東北約一〇粁。北及び東は京都府船井郡に界す。三國岳の西北にある山村にして村內丘陵起伏す。篠山川の上支村の東北に發源して西南流し其沿岸に僅少の低地を見る。里道四方に通ずるも交通の便よろしからず。主生業は農にして米・蔬・蕎を主產し、蔬菜及び花卉の特產あり。古くはいまの村雲村と共に和名抄、草上鄕の地なり。中世は草上莊と云ひ、後宇多院御領たり。一に村雲莊に作る。地に延喜式名神大社櫛岩窓神社あり。古事記傳に「諸國に此神を祀る祠多かる中に正しく神代に天降したまへる御體は、丹波の社などにや齋祭りけむ」と見ゆ。大芋は方俗大雲と相通じ、丹波志に、此山中多く寒筍を產す。故に此名起るかといふ。或は芋字古言イを略して、モにのみ假り、オフモより轉じてオクモとなれりともいふ。但し其名義詳ならず。此地是利氏の頃大芋氏あり。いま民家に同氏の感狀許多を藏す。夫木和歌抄の「君か世に逢ふかひありて紫の雲立ちわたる藤坂の山　前中納言匡房」とある藤坂は本村の大字藤坂なるべし。同じく匡房の「おくも川一たびすめるしるしにはけふそ千とせの始めなりける」の歌は夫木抄に丹波國主基所大芋川と詞書あり、大雲川に蓋し此地か流るる久下川の別稱とす。〔櫛岩窓神社〕　大字福井に鎭座。縣社。祭神、櫛岩窓神・豐岩窓神・式內名神大社。初め京都の櫛神、屢〻多

篤し御幸の神事を行ひ獻詠の事多かりしと云ふ。大江匡房の「おくも川一たびすめるしるしにはけふそ千年の始めなりける」は即ち其一なり。もと四十八箇村の鎭社なれ　大宮と稱し、中世神佛混淆の祠、社僧を置き別當を大宮寺と稱す。應仁以降屢〻兵燹に罹り永祿十年再建す。此社は大芋川庄內の下流に在す故に上流の諸村民死する時は、水氣の下流に通ぜざる地に葬り、また不淨物等も必ず他村に持運び、之を大芋の持越しと稱す。當社に祀る櫛岩窓命・豐岩窓命・大宮比賣命の三坐像（木造）は共に藤原時代の雄作として國寶に指定さる。例祭、四月二十五日。特有祭事たる御田植祭は四月中酉日に執行す。

オクモ　大雲川　→大芋村（兵庫縣多紀郡）

オクヤマ　奥山　【奥山】東京市淺草區淺草公園の第五區。俗に奥山の地として人口に膾炙す。江戸時代兩國の廣小路に對して興行物多くその種類二十五種に及び民衆娛樂殷たり。維新後なほ矢場の盛なりし頃は矢場女の紅粉に惑ひ寄りしもの多かりしも、いま其面影なし。もと此地に花屋敷あり。花屋敷は嘉永年中植木商森田六三郎の創設に係り、四季の花卉盆栽を始め、各種の動物を飼養し、生人形・操人形・山雀の奇藝等を以て人氣を蒐めしも今なし。

オクラ　【奥山】越後國にありし庄名。今の新潟縣北蒲原郡新發田町・中條町・乙村等の諸村に亘れるものの如し。越後野志に「沼垂郡之鄕……足利鄕今屬蒲原郡、而改名奥山莊」とあり、蓋し和名抄、沼垂郡足羽鄕の地か。東鑑、文治二年三月十二日の條に「奥山庄（殿下御領）」とあり、越後野志にも之と同じき事見ゆれば、當時鎭守の直領たりしか知る。城氏の橫流に奥山氏を稱するものもあるも、蓋し此地に居せしより起りしものならん。義經記・一「越後國にうち越して鵜川、佐橋、金津、奥山の勢を催して越中、能登、加賀、越前の軍兵を靡けて、十萬騎になして云云」とある奥山は此地なり。

【奥山村】靜岡縣遠江國引佐郡の西部。南は氣賀町を隔てて濱名湖に近く、北は富卷山等の連山ありて村內概ね丘陵地を成す。都田川の支流、中部に發源して東流し其沿岸に小低地を見る。社線濱松鐵道通じ四村・田畑・中村・小齋藤・奥山（共に大正十二年設置）の五驛を置き交通便なり。主產物は米・繭にして若干の茶を出す。此地或は和名抄引佐郡渭伊鄕の內か。中世井伊氏の族奥山氏住す。明治元年明治天皇東京行幸の際十月一日行在所となりし明治天皇新居行在所（指定史蹟）は今本村に移して、方廣寺の管理に屬す。〔奥山城〕　井伊氏の族奥山朝藤の城くところにて、延元元年宗良親王入國の當初は此城に據り勤王の兵を催さるといふ。のち足利氏より招かれしが其命に應ぜずして滅びたりといふ。〔六所神社〕　大字谷澤字下海道に鎭座。郷社。祭神、底津綿津見命・中津綿津見神・表津綿津見神ほか三神。創立年代を詳かにせざるも天和年間の勸請と云ふ。留來近郷の氏神として崇めらる。例祭、十月九日。〔方廣寺〕　臨濟宗方廣寺派。深奥山と號し、本派の大本山にして、俗に奥山半僧坊と稱し東海屈指の大叢林たり。元中元年地頭奥山朝藤の開基に係り、聖鑑國師を開山とす。聖鑑國師は後醍醐天皇の皇子、親應年間元より歸朝し當國を寇化するや奥山氏之に歸し、當寺を剏し以て開山と仰ぐといふ。天正八年德川家の祈願所となり、同十五年後陽成天皇より勅願所の綸旨を賜ほる。留來皇室及び德川家の尊崇厚く、宮中・府中に於て五山上位の待遇を受け、慶應四年紫衣入院を聽許せらる。古來末寺百九十箇寺を統べ舊格を維持し堂房莊嚴を極めしが、明治十四年山火の爲めに一山悉く燒亡す。後漸次復興稍〻舊觀に復す。一時南禪寺派に屬せしが、明治三十六年獨立して方廣寺派を公稱し、その大本山となる。現に塔頭九院末寺二百餘箇寺を統ぶ。境內宏闊、幽邃の靈地にして塔頭九、三十餘棟の堂房老杉亙檜の間に介在す。寺內西北に所在する半僧坊權現祠は當山の鎭守にして、一山の堂宇中特に莊麗を極め、その靈驗亦遠近に聞え賽者絕ゆることなし。壓後の山腹に後醍醐天皇の靈殿及び開山國師の廟あり。國師廟は默靈塔と呼び明治維新後皇族御陵に編入せらる。

【奥山】香川縣大川郡にありし村。大正八年多和村と改稱。

オクユキウス　奥行臼　櫛津線の一驛（昭和八年設置）。北海道根室國野付郡別海村にあり。

オクヨカワ　奥吉川村　兵庫縣播磨國美囊郡東部。神戸市の北約一六粁。東は有馬郡に境す。西南部及び北端は丘陵を成すも西部は美囊川の上流東西に流れ、其沿岸に低地を見る。縣道美囊川に沿ひて走り、東方有馬郡三田町（一〇粁）及び東南方武庫郡良元村寶塚（約二〇粁）へそれぞれバス通ずるも交通未だ便ならず。米・繭・麥の農產あり、また蔬菜及び花卉・竹製品・藁製品等の特產あり。本村及び口吉川・中吉川・北谷の諸村は和名抄に美囊郡吉川鄕とある地なり。延元年中、吉川の土民、宮方に應じ金谷經氏に屬して王事に勤めしこと太平記に見ゆ。

オグラ　小倉　【小倉】陸奥國（福島縣）の古地名。和名抄、信夫郡に小倉鄕あり。其地今の信夫郡大森村・杉妻村・鳥川村・平田村等の地に當る。もと小倉村ありしが今は平田村に併合さる。日本後紀、弘仁三年の條に「陸奥人勳九等小倉公眞繩麻呂等十七人、賜姓陸奥小倉連」とあるは蓋し此

地に關係あるものなるべし。

【小倉川】 栃木縣にある思川の上流の一。上都賀郡西南部を東南に流るる粕尾・粟野の二川、粟野村口粟野にて合し、小倉川となり淸洲村に入りて大蘆川と合流し更に東南に流れ、下都賀郡に入り、國府村に於て黑川を併せ、以下專ら思川と呼ばる。

【小倉山】 越後駒ヶ岳（二〇〇三米）の北枝に聳ゆる一峯にして、新潟縣北魚沼郡湯之谷村に屬す。標高一三七八米。東北方に枝折峠（一二三六米）に續き、北麓より佐梨川發して北流す。

【小倉山】 關東山脈秩父山塊北方部の一峯。長野縣南佐久郡北相木村と南相木村の境界に跨り、標高二一一二米。北方遙かに十石峠（最高點一三五六米）を望み、東南方は三國山（一八二八米）に連る。

【小倉村】 長野縣信濃國南安曇郡の中部。松本市の西方約一二粁。西部村境に黑澤山（二〇五一米）聳え、其餘脈東に延びて村の大半は山地を成すも、東部に平地ありて水田・桑園拓く。西部の山地は黑澤辨ヶ嶽國有林に屬す。社線信濃鐵道豐科驛へ約七粁、同一日市場驛へ約五粁にして交通未だ便ならず。主生業は農にして米・繭・蠶を產す。本村は、舊科布村の大字小倉村を明治二十　年分離獨立して置けるもの。村內の室山黑澤大瀧・黑澤不動瀑・大瀧山の地は遊步に適す。

【小倉山】 京都市右京區にある山。もとは京都府葛野郡嵯峨町に屬す。標高二九三米。保津川の左岸に聳え、川を距てて嵐山に對す。古は山全部を小倉山といひしが、今は二尊院の上の邊をいひ、東南保津川（大堰川）に臨む邊を龜山といふ。蓋しその形狀龜甲に似るを以てなり。古書に雄藏・小椋・隱椋に作る。蓋し小闇を本義とし、山中樹木鬱蒼として繁り暗きによるものならんと。古來紅葉の名所にて、また歌枕として名高く、附近に名所舊蹟多し。山腹に藤原定家の小倉山莊舊蹟厭離庵あり、定家が小倉百人一首を選びし處といふ。その南方に二尊院あり境內に三條西實隆・同公條墓・角倉了以父子墓・伊藤仁齋・同東涯墓等を存す。後龜山天皇の嵯峨小倉陵・小倉殿・兼明親王の小倉宮等皆この邊なり。小倉百人一首「小倉山峰のもみぢば心あらば今一度の御幸またなん　貞信公」　續後撰・秋「小倉山しくるる頃の朝な朝なきのふにうすき四方のもみぢ葉　定家」〔小倉殿〕 後龜山天皇、潛居三十餘年の遺跡。今傳ふる所なしと雖も、蓋し小倉山の麓、二尊院の地なるべし。二尊院は永和年中慈覺大師、嵯峨天皇の勅を奉じて建立せし堂宇にて、釋迦彌陀の二尊を安置せしよりかくいふ。元中九年（北朝明德三年）十月、天皇吉野を出御ありて、閏十月二日嵯峨大覺寺に移られ、五日、三種神器を宮中內侍所に奉安せられ、兩朝の合一を遂行せらる。天皇、上皇と稱し此處に在はして專ら學問にのみ耽り給ひしが、應永十七年十一月、小倉殿を出でて吉野に入らせられ、二十三年九月還御あり。應永三十一年四月十二日此處に崩御せらる。〔小倉宮〕 小倉山莊或は龜山亭ともいふ。醍醐天皇の皇子兼明親王の居所。その址は今の小倉山麓二尊院の邊なるべし。またその居所により、兼明親王を指して小倉宮ともいふ。なほ正長元年稱光天皇大漸に及び將軍足利義持が、兩統迭立の特約に背きて後花園天皇を擁立するや伊勢の北畠滿雅に賴りて恢復を圖られし小倉宮は、後龜山天皇の皇孫にて法名聖承といはれし御方ならん。後龜山天皇の小倉殿にあらせられ、よりて小倉宮と稱せられしものなるべし。〔小倉山莊〕 藤原定家が小倉山麓に營みし別業。厭離庵・時雨亭とも稱す。淸涼寺の西方、中院町の邊。久しく荒廢に委せしが近年小庵を再興す。庵北の小古墳を定家墓といふ。定家この山莊にて百人一首を選す世に小倉百人一首とて小倉の名を冠するは之が爲めなりと。因に小倉百人一首とは天智天皇より順德院に至る百人の歌人の歌を一首づつ拔けるもの。題材により分類すれば、戀の歌四十首に上り最も多く、次に敍景の歌三十餘首がこれに次ぐ。二條家にては、定家の撰著なる詠歌大概・秀歌大略と共に、和歌の三部抄として尊重せり。〔嵯峨小倉陵〕 右京區嵯峨鳥居本小坂町、小倉山麓にあり。後龜山天皇の御陵。中央に高さ凡そ八尺の大五輪塔を建て周圍に高さ三尺ばかりの寶篋印塔及び五輪塔各ゝ二基を配す。御陵號はもと小倉殿御塔・福田寺陵・福田寺御塔等と稱せしが、明治十二年現名に御治定せらる。

【小倉村】 京都府山城國久世郡の北部。宇治町の西に隣り巨椋池の南岸を占む。全村土地低平、水田・桑園・茶園拓くるも寧ろ低濕に過ぐるの憾あり。交通は宇治町に近きを以て不便ならず。古くは和名抄久世郡那紀鄕に屬せるものの如し。地に式內の古社巨椋神社あり歌枕に巨椋里といふも此邊なるべし。姓氏錄に山城國神別巨椋連は今木連と同祖にて神魂命五世の孫阿麻之西乎乃命の後なりとあり、蓋し此地に本貫せしものならん。夫木・三一「暮なれば花の都にかへるまにおくらのさとのかすみぬるかな　宇治關白」〔伊勢田神社〕 村社。祭神、天照皇太神・萬幡豐秋津姬命・手力雄命。式內社。新年の官幣に案・幣を加へらる。例祭十月九日。〔巨椋神社〕 村社。祭神、武甕槌神・經津主神外二神。一說、巨椋比咩神。式內社。例祭十月八日。

【小倉山】 歌枕。小椋山とも書く。いま奈良縣大和國生駒郡龍田町に小鞍嶺と呼ぶ所あり、此山を稱せるものならん。萬葉・九「暮されば小椋の山に臥す鹿の今夜は鳴かず寢にけらしも　雄略天皇」

【小倉村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の西部。紀ノ川の左岸に沿ひ、和歌山市の東約

軒に位す。南部は丘陵連亘するも、北部紀ノ川沿岸は土地低平にして水田桑園拓く。省線和歌山線及び大和街道南部紀ノ川沿岸を東西に並行し、和歌山縣の船戶・布施屋兩驛に近く交通不便ならず。主生業は農にして米・繭を產するも丘陵地帶には柑橘類の栽培行はる。古くは和名抄、那賀郡埴埼鄕の地なるべし。大字に吐前の名あり、蓋し鄕名の遺稱とす。吐前の吐前王子址は熊野九十九王子の一なり、建仁元年熊野山御幸記に見ゆる吐前王子なりと。同じく吐前に吐前城址あり。室町時代土豪津田小監物算長の築く所なりと傳ふ。大字田中に小倉の古墳と呼ばるる古墳あり、畑中に發掘せられたるもの二ヶ所、山林中に露出せるもの二ヶ所、塚をなせるもの約十ヶ所あり。また大字下三毛御木森神社址と傳ふ處あり、往昔忌部氏の本據たりし御木鄕の遺跡にしていま字名を三毛といふは此の御木より轉訛せるものならんといふ。下三毛にまた一葉松と呼ぶ古松あり幹周約五米高さ凡そ二七米、當の神とて近鄕の崇敬篤し。「神風に散りて治る一葉松」〔光恩寺〕 大字大垣內にあり。淨土宗。懷岳山正淸院と號す。天正年中信譽の開創にして初光恩院と號す。信譽・小倉庄以下七箇村の村民皆眞言宗なりしを淨土宗に改め、一村に一箇寺を建立せしめて末寺となす。元和七年、德川賴宣の命に依り正淸夫人（賴宣妹、蒲生秀行室）を院內に改葬せしめ、其法號を以て正淸院と號し、山林田畑等を寄す。現に末寺十三箇寺を有す。〔讃王寺〕 大字山崎にあり。眞言宗山階派。本尊藏王權現。草創・開山共に不詳。德川賴宣不例の時寂源法印に命じて祈禱を行はしめしに靈驗あり、因りて褒賞のため山林二町を寄進し本堂を修營す。

【小倉山】 出雲風土記嶋根郡に見ゆる山。同書には、此山に產する動植物の名を擧げ、當時に於ける產物を窺ふ好資料たり。此山は今の八束郡持田村大字西持田字小倉の山に當るならんといふ。出雲風土記・嶋根郡「小倉山。郡家正西卅四里一百六十步。凡諸山野所ㇾ在草木。白朮。麥門冬。藍。漆。五味子。苦參。獨活。葛根。薯蕷。卑解。狼毒。杜仲。芍藥。柴胡。苦辛。百部根。石斛。藁本。藤李。赤桐。梅柘榴。楠。楊。松。栢。禽獸則有ㇾ鷲。（字或作ㇾ鵰）隼。山雞。鳩。雉。猪。鹿。猿。飛鼯。」

オグラ　小椋谷　滋賀縣愛知川の水源なる山谷。方十數粁に亙り、東は御池ヶ岳・藤原岳・龍ヶ岳・釋迦岳等を以て三重縣に界し、中に愛知郡東小椋村と神崎郡の山上村を含む。谷の入口に愛知郡高野村あり、紅葉を以て名高い永源寺の地とす。住民は多く樵業・木挽業に從事す。中世は小椋庄に作る。土俗はまた小倉鄕といへども源君の和名抄に鄕名なし。口碑の傳ふところに據れば、いまの東小椋村大字君畑の地は往昔文德天皇の第一皇子惟喬親王御廟棲の地と傳へ、いま惟喬親王墓と稱するものあり、また惟喬親王の靈を祭るといふ大皇大明神あり。愛智深山記には惟喬親王此地にあり、渡世の助けとして木挽をなし玉ふ、これ本朝木挽の始めなりとあり、親王を木挽の祖なりと云へども、これ事理を解せざる土俗の妄說なるべし。親王は上野大守にして上野一國のみならず、神崎郡の內數村、愛知郡の內數村を領し玉ふ。小椋庄もその一なり。斯くの如く領地の租稅ある上ろくろを挽て、何ぞ渡世となし給はんや。蓋し此地は惟喬親王の領地にして、其子彝覺王は母に從ひて當國小椋庄に住み給ふ。小椋庄に栖ぜ給ひしといへるは彝覺王なるべし。親王の薨ぜられしは上野國なり。大皇大明神は彝覺王の祭れるなるべし。惟喬親王墓といふは彝覺王の建る所にや、後人の所爲にや詳ならず。

オグラ　巨椋　【巨椋池】 小倉池にも作る。京都府紀伊・久世二郡に跨る池。オホクラノイケとも調む。古くは巨椋入江に作る。山城の最大湖にて一に大池ともいふ。面積約六・七方粁、東西約三・五粁、南北三粁、湖岸線の長さ一七粁餘。その海拔は一〇・二米、深度僅に一・七米。水色綠褐色、透明度二米。マコモ・ミヅヒキモ等の淡水性植物繁茂し、湖は本邦水生植物の八割强を包含すると云はるるが如く實に水生植物の寶庫なり。また此湖の蓮花は有名にして、七月下旬より八月にかけての間花季には觀月橋附近より蓮見舟を出す。現今漁獲・蓮根・菱並に肥料の採取場として利用せらる。生因は、山城盆地の北部は桂川また南部は木津川の土砂により早くより地盤は高められしが、その中央を流るる淀川本流（宇治川）は源を琵琶湖に發し流程短きため土砂の運搬が比較的少なかりしにより盆地の東方に凹地を存し、ここに瀦水せるものとす。古へは宇治川は宇治町の邊より直に之に注ぎ木津川も之に入り、滿々たる一大湖を成せしものにて、今日の巨椋池の周圍をなす木幡池・二の丸開墾地（舊二の丸池址）・横大路沼等の大小池沼は、天平時代には未だ相連絡せしものの如し。而して排水口は淀川のみなりしため、屢々洪水起り沿岸の民を惱ませしが、豐臣秀吉の時大治水工事を起し、堤防を築きて東邊を遮斷し宇治川の水を池の北に迂回させ、干拓して新に大和街道を池の中に通じ、また德川時代に至りて木津川の水を西に導き巨椋池を絕緣して直ちに淀川に合せしめし結果、池畔は水害より免れ漸次良田を得るに至る。今より二十五年前、まだ淀川が直接湖に連絡せし當時の水位變化の較差は四—五メートルなりしも、現今は注入川少なくまた東一口の運河により淀川の下流に合し、淀川の增水時には閘門を閉鎖し逆流を防ぐため、湖面の水位變化は往時の如く大ならず、冬季の干涸には僅

度僅に○・五米に及び湖底の大部分を露出す。曾ては大々的に干拓を企畫せられし事もあり、いま四邊は自然に干拓されつゝあり、池は漸次狭小となる運命なり。萬葉・九「瓦棺の入江響むなり射部人の伏見が田井に鳴渡るらし」

【瓦棺堤】 小倉堤にも作る。宇治川はもと直に瓦棺池に注入して居たりしが豐臣秀吉の時、川を伏見に回流させて池と絶縁せしめ大和街道を瓦棺池の中に通ず。これを瓦棺堤といふ。かくて京都より大和・伊賀・伊勢へ到るには宇治を迂回せずして、この堤を通ずるに至る。太平記嶮鑑・一「宇治を流れの小倉堤、淀鶴手は川風に、柳の髪を亂せども、その氣遣ひない坊主あたま」

【瓦棺杜】 小倉杜にも作る。山城國の歌枕。京都府久世郡瓦棺池南岸にある小倉村の瓦棺神社の杜なるべし。夫木・二二「うち山のもみちの色をやとふかなるくらのもりのおほつかなさよ 左近」

オグラトヨカワ 小倉豐川 秋田縣南秋田郡にある油田。豐川・金足の二村に屬す。我が國産要油田の一にして小倉石油會社に屬す。現在、油井は豐川村に四ヶ所、金足村に一ヶ所ありて石油と共に土瀝青を出す。昭和十年に於ける原油は約二・四萬瓩、瓦斯一・七立方米。

オクラマエ 御倉前 ↓藏前（東京市）

オグリ 小栗 【小栗村】 茨城縣常陸國眞壁郡の北部。東は西茨城郡岩瀬町に北は栃木縣芳賀郡に界す。東北部は山地を成すも西南部一帶は土地低平にして田畑廣く拓く。縣道村の中央を東西に走り下館町へバス通ずるも未だ交通の便よろしからず。米・麥を主産す。此地は卽ち和名抄、新治郡新治郷の地なり。両して小栗は中世保名、厨號にも呼ばれ水遠近の村里を附屬して六十六郷等とも稱す。中世大掾重義來住し地名に依り小栗氏を稱す。〔小栗城〕 村の西南に其城址あり。大掾重義當城を築き小栗氏を稱す。滿重に至りて上杉禪秀に與せしが戰敗れて其地を失ふ。其子助重嘉吉の役に功ありて舊地を復す。康正元年上杉持朝、太田持資等叛きて足利成氏と武藏に戰ひしが敗れて本城に據る。のち成氏自ら赴として來り攻むるに及び遂に城陷る。のち宇都宮明綱、家臣某をして守らしめしが、天文二十一年結城政勝攻めて之を取り多賀谷安藝守をして守らしむ。永祿三年に至り再び宇都宮氏に歸し小宅伺時をして守らしむ。慶長二年子高春に至り宇都宮氏國除かれ城廢す。いま城址は圓丘を成し、壘塹の跡を存す。〔藤長寺〕 曹洞宗。大雲山と號す。野州芳賀郡谷田貝村芳金寺末。天正六年の草創。開基は結城晴朝・開山を喚之鈍庵和尚とす。

【小栗村】 長崎縣肥前國北高來郡の南部。諫早町の南に隣り、東は小野村、南は有喜村・江ノ浦村、西は眞津山村に境す。東西南の三方に山岳を圍らし村内概ね丘陵地を成し、北部に僅少の低地ありて耕地拓ぐ。諫早町及び有喜村に縣道通じバスの便あり。もと大字の栗面・小川は諫早村と共に聯合せしが明治二十二年町村制施行の際諫早村より分離し更に江ノ浦村の内字小ヶ倉を合併して本村を建つ。

オグリ 雄栗 常陸風土記信太郡の條に見ゆる村名。景行天皇御巡幸の際獵りし碓井のありし所。今茨城縣筑波郡小栗村は其の遺稱ならん。常陸風土記・信太郡「郡北十里碓井：今在二雄栗之村一、從レ此以西高來里」

オグリ 雄郡 愛媛縣温泉郡にありし村。大正十五年松山市に編入。

オクルス 小栗栖 京都市伏見區の内、地名に小栗栖の二字を冠する地域。もとは宇治郡醍醐村の大字なりしが昭和六年醍醐村が伏見區に編入し、現在の如くなれるもの。古くは一に小栗栖郷とも云ひ、和名抄、宇治郡小栗郷の地とす。地は京都市の東南に當り、大岩山の東麓に位し、伏見より近江に通ずる街道上にあり。天正十年六月、桑雄明智光秀秀吉の爲に山崎に敗れ、兵を率ゐて勝龍寺に入りしも、又秀吉の軍に圍まれしかば、近江坂本城に走らんとし、此地を過ぐるや、土民の爲に殺さる。歳五十七。地をいま俗に明智藪といふ。御樽・拾遺「槍の出た藪は小栗栖ばかりなり」

オクロガワ 小來川村 栃木縣下野國上都賀郡の中部。日光町の南に隣る。東部に鷄鳴山・笹目倉山、西部に六郎地山・三ヶ宿山、北部に鳴虫山等の高山連亘し村内殆んど山地を成す。黑川北部に發源して村の中央を南流し、其沿岸に桑畑及び養蠶行はる。もと板來村の大字なりしが明治二十六年二月分離獨立す。村名の起源に就ては詳かならざるも、傳に據れば建武年間中納言藤原藤房朝臣世の後、當國に下向し本村の黑川神社に逐夜し給ふ。其時此地の河流の小さく流れ來るとて小來川なる歌を詠みしより、爾來村名となるといふ。

オグロザキ 小黑崎 陸奥國（陸前、宮城縣）の古地名。古來歌枕として著はれ、蚊・月・霧・鶴・舟・冥・沼等の名所たり。芭蕉の奥細道にも見え、「南部道遙にみやりて、岩手の里に泊る小黑崎みつの小島を過ぎてなるこの湯より尿前の關にかかりて出羽國に越えんとす」とあり。其地今の玉造郡川渡村の西端、荒雄川の河畔。現六帖「をくろ埼ぬたのれわなはくるしきはこの世にひける心なりけり 眞觀」續古今集「をくろさきみつの小しまにあきりするたつそなくなる波立らしも 太上天皇」

オクワ 御鍬 愛知縣碧豆郡にありし村。明治三十九年、川崎・吹羽良の二村と共に廢せられ三和村を置く。

オケガハ 桶川町 埼玉縣武藏國北足立郡の北部。川越市の東北約一〇粁。地は卽ち關東平野の一部に位し土地低平氣候概ね温和且つ雨量乏しからず、農作に適し就中陸稻・大麥・小麥・甘藷の優秀なることは全國に誇るに足るものなり。また綿織物・履物類を特産す。省線高崎線と國道中山道ほぼ東南より西北に並行し前者の桶川驛（明治十八年設置）を置き、また附近諸町村にバス通じ交通便なり。この地は明治天皇の北國御巡幸の際行在所となりし地にしていま明治天皇桶川行在所として指定史蹟たり。また大織冠鎌足公の裔孫足立右馬允建元の屋敷址あり。此地は和名抄、足立郡稻直郷の内にして、近世大谷領・石戸領に屬す。往時桶皮と書き現今の上平村の一部たる上・南・久保・西門前と共に桶川郷と稱せしが正保・元祿の國圖に桶川町とあり、のち中仙道の定めらるる時に桶川宿と改稱、卽ち中仙道六十九次の宿驛にして伊奈庄に屬す。桶川宿は徳川氏江戸入國後西尾隱岐守吉次の所領となり、正保の頃は阿部對馬守知行せしが、元祿年中幕領となる。大字町谷は伊奈庄に屬し正保の頃柴田筑後守の知行なりしもの、幕領となる。大字上・下日出谷は箕田庄に屬し、寛文二年地頭牧野兵庫の檢地たり。明治二十二年町村制施行の際桶川町に町谷・上下日出谷を合併し桶川町と稱す。

オケチョー 桶町 東京の町名。現今京橋區、南大工町と南槇町の中間に在り東西に通ずる道。七偏人・四下「若町といふのは町名からして不案内サ、ただし桶町の竹屋の四兵衛なら知己サネ」

オケト 置戸村 北海道北見國網走支廳常呂郡の西南部。野付牛町の西方約一一粁。調子付村の西に隣り、北西は留邊蘂町に、南は十勝國中川郡本別町に、東南は釧路國足寄郡陳別村と界す。南部に髮ゆる東三國山（一、二三〇米）の山嶺東北及び西に連りて南部國境をなし、西北境には幌加山（八八七米）の山脉連亘し、山地は西南部に高く東北に降り、西南山地に發する士居常呂川及び仁居常呂川は幾多の支流を合せ字上置戸にて合して常呂川となり東北に流る。常呂川流域及び東北部は稍々耕地拓け農業行はれるも、西南部は開拓未だ遂まず森林を伐採するにすぎず。伐採は大正八年道廳の官行斫伐事業に始まる。省線網走本線釧路の利別川に沿ひて北し釧北信號所をすぎ士居・仁居常呂二川の合流地近くに置戸驛（明治四十四年設置）を置き、後は常呂川沿ひに東北に走り東境近くに境野驛（大正十一年設置）を置く。街道赤之に並行し北に野付牛町に至る。置戸驛より西南山地に森林鐵道通じて木材の搬出に便ならしむ。村名はアイヌ語のオケトンシリ（窟の皮を乾す山の意）より起るといふ。大正四年野付牛町より分れて一村をなし置戸・オケトウンナイ・拓殖會社區・川上農場區・伊藤農場區・小林農場區・上調子府・三井共同農場區の八大字よりなり役場は置戸に置く。

オケハサマ 桶狹間 織田信長が今川義元を討滅ぼせし古戰場。永祿三年五月今川義元駿遠參の兵四萬五千を率ゐて京都に上らんとして尾張に攻入り織田信長の部下なる雲津・丸根の二城を陷り意氣頗る驕り寛を張りて守備を怠る信長清洲城にあり報を得て軍議を定め一挙義元と雌雄を決せんとて草鞋履をあげて東に向ふ。熱田の祠に戰勝を禱る頃兵集まるもの數千。間道より義元の陣營の背後の太子ヶ根の險を越え折柄の大風雨に乘じて義元の本營に跳込みて義元を仆す。宿將老臣成く戰死す。其地は普通に桶狹間（知多郡有松町の大字）と稱せらるるも實は義元戰死の處は其東十數町なる愛知郡豐明村大字舟掛の地なる屋形狹間の田樂窪と稱する所なり。

オコー 阿幸 排太本斗郡本斗町の大字。西海岸線の阿幸驛（大正九年設置）を置く。

オコー 岡豐村 高知縣土佐國長岡郡の西南部。高知市の東北約五粁。國分村の西に隣り、北は上倉村に、西は土佐郡一宮村と界す。北半は山地連りその東南端に岡豐山麓とその山麓に近く國分川西流し、その南は低地續き高野平野の一部に當り水田卓越し、米・麥を主産し藺の産亦少なからず。省線土讃線の土佐大津驛（大津村地内）に最も近く、土佐街道北部山麓を東西に通じ國分川に橋を架け交通便なり。此地凡そ國分川の北岸一帶は和名抄、長岡郡宗部郷の地に屬し、南岸一帶は和名抄、長岡郡江村郷の地なるべく大字江村はその遺稱なるべし。宗部郷は曾加倍と調じ中世香美郡宗部に對し此地を長曾我部といひ長曾我部氏は郷名に因めるものの如し。村名は岡府の意か。また大字八幡の岡豐山に長曾我部氏の居城ぜし岡豐城あり、長曾我部氏は國司一條氏の被護を受け、文明十年長曾我部文兼、前圓白一條教房を迎へ國中の領土參向ぜし爲に本村繁榮すといふ。また北部山麓線卽ち久禮田村大字領石より本村を經高知市の北部山麓に沿ひ地辷りの現象に伴ひ岩石相磨して生ぜし鏡石あり。特に本村大字小蓮字蓮如寺のものは其面平滑にて之に對すれば物體を映する程なりといひ地形變動の資料たり。江戸中期の儒者にして天文曆道に精しき谷重遠（贈正五位）及び幕末の勤王家にて武市瑞山等の行動を補けし平井寛之丞（贈從四位）は此地の人なり。〔岡豐城〕 大字八幡岡豐山にあり。高知平野を眼下に眺め山下近く國分川西に流れ要害の地たり。文明十年長曾我部文兼前圓白一條教房を迎へ、ここに居し、此地榮えたりしものも彼序の時衆族

に攻められ城陷りたるも其子國親もとに復す。國親の子元親此城に據り四國を平定せしも豐臣秀吉の爲に降り土佐一國を封ぜらる。天正十六年元親城を大高城に、次いで同十九年、浦戸に築くに及び城廢す。長曾我部氏は秦河勝の後といふ。能俊の子兼序土佐國司一條房家に仕へ本山茂宗と隙あり、茂宗、吉良・太平等の諸氏と謀り永正六年兼序を岡豐城に攻め兼序敵せず自殺す。時に義序の子千翁丸(國親の幼名)僅かに六歳房家を賴る。國親元服に際し舊領三千貫の地を復し岡豐城に入る。天文二十年山田丹波守を山田城に攻めこれを陷る。永祿三年國親病歿するや其子元親四國經營に係る。永祿六年本山茂辰を土佐郡朝倉城に攻め、吉良駿河を香川郡弘岡城に攻めて之を併せ、永祿十二年安藝國虎を滅ぼし一條氏を擊ち天正八年遂に土佐一國を併せ、更に阿波の細川眞之その臣三好長治と爭ふに乘じ天正六・七年に亘り阿波の三好郡・美馬郡をとり漸次阿波を併呑し、更に此間兵を讚岐に進め同八年綾歌郡長尾城を陷れこれを西讚の鎭所となし、尙次いで同年伊豫國北宇和郡美間鄕に兵を出し南豫を併せ四國經營の業ほぼ成る。天正十年本能寺の變は織田信長との衝突を來たさずして元親に幸し、阿波勝瑞城を併せ岩倉城を陷れて阿波の平定なり、更に兵を東讚岐に出し勝瑞城に據り十河存保を陷る。十河氏豐臣秀吉に援を請ふに至り秀吉の四國征伐の端緒開かれ、元親遂に阿波三好郡白地城の陷るに及び降り土佐一國を得て他の三國を返上せり。元親の子盛親關ヶ原役に石田三成に黨しその結果その領土山內一豐の領となりしにより一時浦戸城に據り一豐に抗せんとせしも成らず。のち元和の大阪夏役に豐臣家に應じ城陷り捕へられ京都三條河原にて梟せられ、ここに長曾我部氏亡ぶ。〔別宮八幡宮〕大字八幡に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇。創立年月は詳かならざるも、弘安年間の勸請と傳ふ。長曾我部元親の崇敬ありまた忠義公の時社殿を再興すといふ。附近三ヶ村の產土神として村民の信奉篤し。〔熊野神社〕大字蒲原に鎭座。鄕社。祭神、伊邪那美命・櫛御氣野命。もと熊野三所權現と稱す。古來產土神として村民の崇敬篤し。〔豐岡上天神社〕大字常通寺島に鎭座。鄕社。祭神、屋船豐宇氣姬神。創立年代詳かならざるも、延喜式內社。古來また近鄕の產土神として崇めらる。〔小野神社〕大字小蓮字宮ノ前に鎭座。鄕社。天足彥國押人命を祀る。蓋し小野臣の祖神を奉齋せしものならん。延喜式內の古社にして中世豐岡大明神とも稱せり。例祭、八月九日。〔小蓮古墳〕大字小蓮字蓮如寺にあり、封土三段の圓塚にて石室あり。長さ約八米、幅約二米、高さ二米餘にて比較的規模大きく、土佐に於ける代表的古墳とす。大字笠ノ川にも古墳存し附近一帶は古へより居住に適せしを窺ふ好資料たり。

オゴー 麻鄕

【麻鄕村】山口縣周防國熊毛郡の東南部。平生町の西に隣り、西北は田布施町に、西南は麻里府村と界し、東は水場港に臨む。西南部に丘陵蟠るもその他の部分は低地にして田布施川北境を東流し、耕地よく拓け米・繭を主產しまた海濱に鹽田ありて鹽を製す。省線柳井線の柳井驛(柳井町地內)に最も近く平生町を經てバスの便ありまた室積町にも海岸に沿うて縣道通じバスの便ありて交通便なり。此地は和名抄、熊毛郡余戸鄕の地に當るか。〔高松八幡宮〕大字麻鄕字水上に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。創立年代を詳かにせざるも石清水八幡宮を勸請せし古社と傳ふ。麻鄕近鄕の總社として村民の尊信篤し。例祭、舊曆八月十五日。

【麻鄕灣】山口縣熊毛郡南部にある灣。田布施川口の沈降により生ぜし喇叭形の狹長な灣にして、灣口に阿多田島橫はり灣奧に平生町發達し、沿岸に鹽田あり。また沿岸は平生町・麻里府村・曾根村及び佐賀村に亘る。

オゴーチ 小川內 →江迎村(長崎縣北松浦郡)

オゴーチ 小河內

【小河內村】東京府武藏國西多摩郡の西部。謂ゆる奧多摩谿谷の上源地に當り東は氷川村東南は檜原村に隣りし西は山梨縣北都留郡丹波山村・小菅村と界す。東西約六粁南北一〇粁に近く、約五四方粁の地積を占む。關東山塊に屬する山地にて北境には七ッ石(一七五七米)・鷹ノ巢山(一七三七米)の山嶺東西に連なり、南界には三頭山(一五二七米)・御前山(一四〇五米)の山脈東北に延び、それらの山脚南北より中部に傾斜し谷深く山地高し。西隣丹波山村に發する多摩川の上源丹波川東下してこの山間の低所を傳ひ迂餘蛇行して謂ゆる多摩川の谿谷をなす。河谷に沿ひて小聚落點在し、青梅街道通ず。谿谷の小低地に桑畑拓け、養蠶を主業とし、外に蒟蒻の產あり。地に小河內鑛泉(硫黃泉)あり、奧多摩探勝の客宿り浴する者少なからず。人口三一八二(昭和十年)。近年多摩川の上源丹波川を堰止めて東京市の一大貯水池たらしめんとする小河內貯水池計畫され、小河內村及び山梨縣側の丹波山村・小菅村の各一部は湖底となるの運命に置かる。池は昭和七年起工昭和二十年竣工の豫定とす。從つて住民三千他に移住すべき日も近きにあり、小河內村廢村の日も遠からず。所謂蒼桑之變悲しむべきものあり。世界に誇る大貯水池の完成は喜ぶべきも、小河內廢村の犧牲、長く忘るべからず。〔小河內貯水池〕多摩川の上流を堰止め、一大貯水池とするもの。東京市の事業にて昭和七年市會議決、同十一年內務大臣より事

業認可。工事費は總額四千八百七拾萬圓、內譯第一期(市會議決)參千九百五拾萬圓(自昭和七年度至同十七年度十一ヶ年)第二期(豫定)九百貳拾萬圓(自昭和十八年度至同二十年度三ヶ年)、昭和二十年竣工の豫定。貯水池用地は東京府西多摩郡小河內村參百四拾七萬四百參拾八坪(標高五六〇米以下)山梨縣北都留郡丹波山村小菅村約參拾八萬九千六百七拾坪(標高五六〇米以下)合計約參百八拾六萬壹百八坪。これが爲め移轉を要する家屋數は小河內村約四八四戶、丹波山村約八〇戶、小菅村約一一戶合計約五百七拾五戶とす。滿水位の面積は四・二五平方粁(約百參拾萬坪)にて山中湖の六・四六本栖湖五・〇〇に對比すべし。周圍は三六・六粁(約九里)。南北約一一粁東西約二粁。滿水位の標高は五二五米、池底の標高(堰堤直下)三八四米。貯水量は壹億八千四百萬立方米にて、この貯水量は丸ビルを枡として七百杯に當る。因に村山貯水池は壹千二百三十五萬三千立方米、山口貯水池は壹千七百七拾萬立方米とす。この貯水量は約貳百日間の使用量に當る。卽ち小河內貯水池の貯水量一八四、〇〇〇、〇〇〇立方米に對し東京市一日最大使用水量九〇六、一三五立方米なり。而してこの貯水池を滿すに要する日數は約參百日間なりといふ。堰堤は總高一四九米、池底より一四六米、延長三四五米、頂部の厚さ九米、底部の厚さ一二七米、上流面の勾配百分ノ五、下流面の勾配百分ノ八十とす。取水塔の位置は堰堤上流面に接す。略ぼ中央、外徑約一五米、取入口は六段に開口、針狀瓣及び扉を併置す。餘水吐は堰堤の北岸より上流約一三〇米の鞍所に開口し水根澤に放流する豫定。

【小河內峠】東京府西多摩郡氷川村と檜原村に跨り、最高點約一〇三〇米。御前山(一四〇五米)の西南稜を鞍斷す。西北に降れば多摩川畔小河內村に出で、東南降すれば多摩川支流秋川の流域檜原村に至る。

オゴーリ 小郡

【小郡】書紀敏達天皇の十二年、天皇任那恢復を謀り給はんとて葦北國造阿利斯登の子達率日羅の賢にして勇あるを聞き給ひこれを百濟國より召し給ふ。百濟王日羅の日本に歸るを以て自國に不利なるを知り德爾なるものをして日羅を暗殺せしむ。天皇卽ち日羅の屍を難波小郡の西畔の丘の前に葬らしむ。難波小郡は後の西成郡にして日羅を葬りし所は今大阪市の西成區住吉區の邊ならん。

【小郡町】山口縣周防國吉敷郡の西部。山口市の西南約八粁。東は陶村・平川村に、北は大歲村に隣り、西は美禰郡眞長田村及び厚狹郡小野村と界す。椹野川の溪口聚落として發達し川口より約五粁の上流左岸に位す。西北部は江嶺山(五四九米)の丘陵起伏するも大部分は椹野川の沖積地にして土地平坦水田よく拓け、米・麥・繭・果實を產し醸造・養蠶等行はれ、工產は家內工業的農具・家具・竹製品・藁製品・經木眞田・和傘提灯類あり、なほ製材・製綿行はる。國道山陽道市街の中央部をほぼ東西に貫き山口市及び石州津和野町への國道山陽道之と合して市街の西部を東北に向つて走り市街の北端にて美禰郡に通ずる縣道を分つ。省線山陽本線山陽道に並行に通じ小郡驛(明治三十三年設置)を置き、ここにて省線山口線・宇部鐵道に接續し山口線に上鄕驛(大正三年設置)を市街の北端に置く。また椹野川に舟楫の便ありて水陸交通の要衝に當り頗る活氣に富み殷盛を極む。かく古くより交通・經濟の中心地をなし嘗て郡役所のありし所、今警察署・農學校・農業教員養成所・高等女學校等あり。此地古くは和名抄、吉敷郡廣伴鄕の地なりしか。のち南都東大寺領椹野庄に屬し東大寺要錄の長德四年に吉敷郡椹野庄の名見ゆ。後年大內氏の領となる。古く圖書編及び登壇必究等には爺哥里と見え、古代郡家の地なるべし。慶長五年の檢地帳には小郡庄とあり、同十五年より慶安二年の檢地帳には小郡と見え元祿十二年の檢地帳には小郡村と見ゆ。もと上鄕・中鄕・下鄕に分れいつの頃にか更に中鄕を上中鄕・下中鄕の上下に分ち後單に上鄕・下鄕となる。明治二十二年町村制施行に際し上鄕・下鄕合併して小郡村と稱し明治三十四年町制を布く。古くは長崎街道の一驛に當り又山口市に至る交通の要衝に當るを以て海外にも其名聞ゆ。明治二年山口藩改革に際し兵士等の不平に乘じ大樂源太郎名を攘夷に托し僧侶及び土民不逞の徒を煽動し亂を起す。藩士亦兵を長府に集め此地にて戰ひ大樂等潰走し平定す。町の名產に椹野元結あり、昔大內義隆椹野濱の別館にて紙を貼り米粉を塗り之にて髮を結びしを、鄕民見習ひ製造すに始むといふ。〔小郡町なぎ自生北限地〕指定天然記念物。大字上鄕の岩屋にあり。數多ありし竹柏の中採伐を免れし一株の雌木にして、樹高一四米、目通の周圍一米なり。樹は岩石の間隙より生育し岩の側面に接觸伸長し、岩頂より三枝に分れ、恰も三本の竹柏相並び生育するものの如し。〔中領八幡宮〕大字下鄕字柳井田に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后・姬大神。創立年代詳かならざるも、室町時代の古社にて、應永十五年、社殿造營のことあり、江戶時代には藩主毛利氏の崇敬を受く。〔正福寺〕大字東津にあり。曹洞宗。東明山と號す。多門寺末。正平年中の草創。開基は大內修理大夫弘世。のち衰廢し一草堂となりしを享保年中再興し、慈澤和尙を勸請開山とす。〔多聞寺〕大字仁保津にあり。曹洞宗。水昌山と號す。開山は印顯法印。初め眞言宗にして永福寺と稱す。のち廢刹となりしを玄臺和尙再興す。

【小郡村】福岡縣筑後國三井郡の西北部。

久留米市の東北約八粁。東及び南は筑後川の支流寶滿川に沿ひ、西は佐賀縣三養基郡田代町に境す。地は筑後平野の北部に位し土地低平、地味肥沃にして水田桑圃發達す。社線朝倉軌道及び社線九州鐵道の交叉點に當り交通至便なり。いま小郡・福童・寺福童・大板井・小板井・大崎・稻吉・上西・鰺・坂ノ内・小遣の十一大字を置き小郡に役場を置く。和名抄に御原郡板井鄕あり。然るに高山寺本は坂を板に作る。若し板井を正當とするならば、蓋し本村に大字小板井・大板井等あるより本村邊を稱せしものか。

オコシ 御越 大分縣速見郡にありし村。大正十四年龜川町と改稱し、昭和十年別府市に入る。

オコシ 起

【起町】 愛知縣尾張國中島郡の西北部。木曾川の左岸に沿ひ、東は一宮市に隣る。土地低平にして田畑拓け米・繭・麥の產多し。また古來機業地として知られ、其年產二千萬圓を超ゆ。社線名古屋鐵道通じ尾張三條・起の二驛を置く。此地は美濃路の馬繼場にして關ヶ原の役東軍この地の小起渡より木曾川を渡るといふ。往時より八丈紬を產し諸國に移出せり。庭訓往來に尾張八丈とあるは八丈紬のことなり。明治二十九年町制を施行し、明治三十九年に小信中島村・三條村と共に廢せられ其區域と大德村の東五城・西五城・北今・富田の四大字を以て新に起町を置く。一に尾起・小越にも作る。大字小信中島は往時矣生庄（野府・矣笛にも作る）と稱せし地にして小矣生の遺稱なり。〔御裳神社〕 大字三條に鎭座。鄕社。祭神、天照皇大神。創立年代未詳なるも、蓋し往古伊勢神宮の御母板倉の御厨に發生せし古社なるべし。奉唱神名帳に載する「從三位御母天神」に充てらる。古來近鄕の產土神として崇めらる。例祭、八月十七日。〔大明神社〕 大字起に鎭座。鄕社。祭神、天兒屋根命。創立年代未詳なるも地方の古社。江戶時代、藩主德川家及び家老石河氏の崇敬を受け、額・燈明料・石燈籠・白銀等の寄進及び社參の事あり。また附近五ヶ村の總氏神たり。

【起川】 木曾川の別稱。尾張國中島郡起町の邊を流るるあたりの名稱。

オコシタリ 上哆唎 上世任那にありし哆唎國の一縣名。書紀繼體天皇の六年「百濟國遣レ使貢レ調、別表請ニ任那國上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁四縣ニ哆唎國守穗積押山奏曰、此四縣近連ニ百濟ニ遠隔ニ日本ニ、且暮易通、鷄犬難レ別、今賜ニ百濟ニ合爲ニ同國ニ、固存之策、無ニ以過ヒ此云々」とあり。上をオコシ下をアルシと訓むは古朝鮮語なり。哆唎國の位置今審かならざるも凡今朝鮮慶尙南道の西南部にして蟾津口の下流の東より洛東江の一支龍江流域に至る間の晉陽の邊なるべし。

オゴセ 越生

【越生町】 埼玉縣武藏國入間郡の西北部。川越市の西方約一七粁。東北は比企郡に界す。西南部に大高取山（三七六米）ありて、西部及び東部は山地を成すも、中央を越邊川東南流し其流域に平地拓く。概して川の右岸卽ち西南部に桑圃、川の左岸卽ち東北部に水田拓く。省線八高線町の中央を南北に走り越生驛（昭和八年設置）を置き交通不便ならず。農產物として米・繭・麥等あるも絹織物業また盛んなり。此地は往時の越生鄕堀江庄（和名抄に非ず）の內にして大字越生は今市とも稱し越生鄕の中心地なり。中世武藏七黨・兒玉黨の越生氏の居邑にして鎌倉時代の始より戰國の頃まで存續す。太平記に北畠顯家を斬りし越生四郎左衞門なるものあり、これ越生氏の一人なり。江戶時代となりて越生町の一圓は支配地と采地にして明治元年知縣事に屬し、同二年品川縣、次いで韮山縣となり、同四年入間縣となり此年今市の稱を廢し越生と稱す。同六年熊谷縣に入り、九年埼玉縣に入り、同二十二年町制を施行す。大字如意は高麗領に屬し、德川氏江戶入城後は幕領となり、正保年中は代官高室喜三郎の支配せし地。大字西和田は堀江庄に屬し正保年中は高室喜三郎の支配地、のち金田某に賜はりし地。山吹と稱する地名あり、或はいふ太田道灌の山吹里なりと傳ふ。大字黑岩は當國七黨系圖の越生四郎有平の子黑岩左近有光の居りし地か。大字鹿下は幕領なりしが、のち大島大和守・逸見榮助等に賜はりし地。大字成瀨は兒玉黨越生有行の三男四郎有平の子、鳴瀨右近太郎有年あり、此地に住し在名を稱せしもの。此地は寛永の頃高室喜三郎が支配し、寛文年間は成瀨八右衞門支配す。元祿十二年黑田豐前守に賜はり、のち幕領に復し正德二年森與五左衞門に賜はりし地。〔法恩寺〕 越生にあり。新義眞言宗智山派。松溪山と號す。行基東國遊行の砌り本寺を開創すと。中世甚しく退轉せしに依り再興を源賴朝に請ふ。因りて建久元年、幕府は之を再建せしめ寺地及び寺領を寄す。應永年間榮盛再興す。德川氏先例に準ひて朱印地を附す。寺寶中、高野明神・圓生明神像各一幅（絹本着色）は鎌倉時代の作と推せられ國寶たり。他に釋迦三尊及び阿難迦葉像一幅（絹本着色）には元の天曆三年五月高麗香徒等の列名あり。元朝佛畫の貴重なる作。

【越生鐵道】 私設鐵道。埼玉縣にあり。入間郡坂戶町より東毛呂間に至る。全長五粁の線路。

オコタンペ ——湖 北海道膽振國石狩支廳の支笏湖の西北部に注ぐオコタンペ河の水源にある火山湖。高度五七二米に瀦へ周圍六粁。面積〇・四六平方粁。深さ二一・〇米。藍色の透明なる水を湛へ、微酸性反應（PH=4.9）を呈し溶解性酸素は湖底に至るまで多量なり。山椒魚のみを產する酸營養性營養湖たり。

オコック 奧月海 オホーツク海の別稱。

オコッペ 興部

【興部村】 北海道北見國紋別郡の北部。網走支廳管內。渚滑村の西北に隣り、西北は雄武村に、西南は西興部と界し、北はオホーツク海に臨む。南部に聳ゆる瞥岳（八一三米）の北斜面に當り一般に東北に低下する二〇〇米內外の丘陵起伏しこの間興部川・藻興部川・瑠橡川・沙留川等略ゝ並行して東北に流れオホーツク海に注ぐ。各河川流域にも低地廣からず、海岸は砂堆連亘して草原をなし漁業に依存し薪炭・パルプ原料等を產するも農業未だ發達せず。省線名寄本線海岸に沿うて通じ沙留・興部（何れも大正十年設置）の二驛を置き、興部驛にて興部川に沿ひ西南に走り上流に宇津驛（大正十年設置）あり、更に興部驛より雄武驛に至る興濱南線を分岐す。また廳道は之等省線と並行に通じ交通便なり。此地古くは夷居の一たりし所にして元祿鄕帳にヲコツペ七部の一にオコツベの名見ゆ。村名の起原はもと興部川と藻興部川の合流せし所にて、川の合流する所をオウコツペと稱するより起るといふ。大正四年二級村制施行。いま興部村・瑠橡村・瑠橡村・沙留村の三大字よりなり役場は興部村に置き興部森林事務所あり。

【興部川】 北海道北見國紋別郡を流るる川。西興部村の西北山中に發し東南に流れ、札滑岳（九九三米）の東斜面に發源する札滑川を入れ、大字瀨戶牛にて流路を北東に變じ興部村大字興部にてオホーツク海に注ぐ。流程約四〇粁。流域は名寄盆地よりオホーツク海方面に出づる唯一の通路となる。

オゴト 雄琴村 滋賀縣近江國滋賀郡の南部。琵琶湖の西南岸に臨む。大津市の北約九粁、堅田町の南に隣る。比叡山の山裔緩斜して琵琶湖に臨み、村內概ね丘陵地を成すも沿岸に平地ありて水田拓く。社線江若鐵道村內をほぼ南北に走り雄琴驛（大正十二年設置）を置き、また舟楫の便よく交通比較的便なり。雄琴は金葉集に「松風の雄琴の里に通ふにぞ治まれる世の聲はきこゆれ 發光」と見ゆる地なり。中世は雄琴莊と呼び、莊號は延元二年の文書に出づ。いま地に雄琴鑛泉あり、泉質含有アルカリ性泉にて加熱浴用、琵琶湖を隔てゝ近江富士の遠望あり。〔那波加神社〕 大字苗鹿に鎭座。縣社。祭神、天太玉命。今雄宿禰（相殿）。祭神を一に宇賀御玉命といふ。天智天皇七年に社殿を營む。式內小社。仁安四年二月比叡山横川中堂の佛像燒失せしを以て、もと當社の神木にて造りし舊例に準じ當社の神林にその用材を得んと、横川の學德五十人當社に詣り百座仁王講を修す。此地は往古壬生氏の舊領にして、土俗、此社壬生官務の氏神なりといへば壬生氏の崇敬他に異なりしなるべし。例祭、四月二十八日。〔雄琴神社〕 大字雄琴に鎭座。鄕社。祭神、大炊神今雄宿禰・崇道盡敬天皇・大己貴命・祭神の大炊神今雄宿禰は小槻氏（壬生家）の中祖にて、文德天皇の御宇大史官に任ぜられ、子孫相傳へて宮に政務を執る。仁壽元年勳功によつて雄琴ノ庄を賜はる。貞觀八年庄內に天台律宗法光寺を建立して氏寺となし、延長四年社殿を造營して氏寺の所領を割きてその社領に充つ。是れ本社の起原といふ。爾後、小槻氏累世の尊崇極めて篤く、また公家よりの保護を受く。戰國時代よりは佐々木氏・織田氏の崇敬篤く、社殿造營等の事あり。延寶六年今雄大明神の宸筆を下賜せらる。例祭、五月三日。〔法興寺〕 大宮苗鹿にあり。天台宗。今雄宿禰の草創。四世忠臣堂宇を修營。更に一宇を建立す。その孫信平また一堂を營み多寶院と號す。元亨二年太政官符を以て定惠法印の餘派妙法院門跡の妨げを停め、當氏の長者永代管領の宣下あり。一條天皇の御宇忠臣の弟安眞和尙初めて法興寺の別當に補す。

オコバ 大畑 熊本縣球磨郡藍田村の大字。人吉盆地より矢岳東方の國見山の分水嶺を越えて川內川上流宮崎縣西諸縣郡加久藤村に至る街道に沿ひ、横斷山地北麓の聚落なり。卽ち長三角形の斷層陷落地たる人吉盆地の西南隅に位する。この地方の小中心都邑を成す。「おこば」の地名の喧傳されるに至りしは、我國內地に於て最初のループ式鐵道が大畑部落西方の高地に設けられ、そこに大畑驛（明治四十二年設置）が設けられて以來なり。このループ線は海拔一〇四米の人吉より約五四〇米の矢岳トンネル北口に登るには、地形險りに急峻にて北向なる山稜端に小トンネルを設けて螺旋狀に鐵道を旋回させ、且つ大畑驛の線路をスウイッチバックせる點に特色あり。現今の鹿兒島本線たる三太郎越の海岸線未開通の時代はこの肥薩線は鹿兒島本線として九州縱貫線たる主要なる役目を務めしもの。

オコホチ 於古發山 北海道後志支廳小樽市の南東方に峙ち、札幌支廳札幌郡手稻村と豐平町に跨り標高六二一米。北方の天狗山（五三二米）と南方の遠藤山の中間に位す。小樽市方面より山スキーの練習に登高する者尠からず。

オコマ 御駒

【御駒山】 栗駒岳（岩手・宮城）の別稱。

【御駒山】 駒ヶ岳（岩手・秋田）の別稱。

【御駒山】 奧羽火山脈の一峯。宮城縣栗原郡花山村に聳え、標高五二〇米。北嶺は御岳山（四七五米）・天狗森（五七二米）、東嶺は大土ヶ森（五八〇米）をなす。東南方に高田鑛山、西北方に硫澤坑あり。

オゴヤ 尾小屋

【尾小屋】 →西尾村（石川縣）

【尾小屋鐵道】 石川縣小松島と尾小屋鑛山を連絡する私設鐵道。延長一六・八粁。

オコンシベ 黃金蘂 北海道膽振國有珠郡伊達町の大字。室蘭本線の一驛（大正十四年設置）。

オサ　目佐村　[illegible]

[illegible]

オサ　長佐村　[illegible]

[illegible]

オサ　長佐村　[illegible]

[illegible]

オサ　忍坂　[illegible]

[illegible]

オサカ　男坂　[illegible]

[illegible]

[illegible]

オサカ　小坂　[illegible]

【小坂村】[illegible]

[illegible]

オサカ　小坂村　[illegible]

[illegible]

オサカ　刑部　[illegible]

[illegible]

え、東大寺寶龜四年の文書に上總市原郡の人刑部荒人・刑部稻麻呂とあるは此地に關係ある人にして、文祿三年の笠森・小根本の水帳に刑部郷とあり、天正十八年の笠森寺(水上村にあり)の制札に刑部莊と見ゆるは此地なり。

【刑部】 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄、佐久郡に刑部郷あり訓を岡くも伊勢國刑部郷の例により於佐加倍と讀むべし。續日本紀、景雲二年の條に水内郡の人刑部知麻呂とあり、其族の居りし地なるべし。其地今詳かならざるも南佐久郡臼田町・田口村・切原村・岩沼村・柴村等の地に當るか。

【刑部】 駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄、志太郡の刑部郷あり訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於佐加倍と讀むべし。其地今の志太郡岡部町・朝比奈村等に當るか。此地往昔刑部氏の居りし所。

【刑部】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄、引佐郡に刑部郷あり於佐加倍と訓す。其地今の引佐郡金指町・中川村等の地に當る。大同類聚方に引佐郡の人刑部眞積とあるは此地の人にして、神鳳抄に遠江國刑部御厨とあるは此地なり。甲陽軍鑑によれば武田信玄が味方原合戰の後、濱松を引揚げて刑部に馬を留められ越年し、天正元年正月刑部を立ちて三河の野田城に向ふとあるも共に此地なり。

【刑部】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄、碧海郡に刑部郷あり、訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於加佐倍と讀むべし。河内・遠江・駿河・上總・下野・丹波・因幡・備中・備後に刑部郷あり皆刑部首の居りし所なるべし。其地今詳かならざるも碧海郡安城町・依佐美村・明治村等の地に當るか。

【刑部】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄、三重郡に刑部郷あり、於加佐倍と訓す。今の三重郡三重村・鵜川原村・縣村及び四日市の一部の地なるべし。舊事本紀に景行帝の子、五十功彦命は伊勢の刑部君の祖なりとあり此地に住せしものなるべし。大日本史に天平二十四年に土岐甕康は勢州を侵し、北畠顯能は子顯泰に命じて刑部に拒ぎ戰ひ之を郤くとあるも此地なり。

【刑部】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄、船井郡に刑部郷あり、訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於加倍と讀むべし。三代實錄、貞觀六年の條に丹波何鹿郡の人刑部宵夏繼の名見ゆるも此地に關係あり、東寺の天元二年の文書にも丹波國刑部莊とあり寛知集に船井郡刑部村とあり。其の地今の船井郡富本村にして大字刑部は其の遺稱なり。此地は舊名を富莊と稱し、尖木・二〇「稼業の色もかはらでけふよりは富の小山に千代をこそ待て 匡房」とある富の小山も蓋し此地なるべく、近世は富莊村と稱せしも明治二十七年富莊村は本莊村と合併し富本村を置けり。

【刑部】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄、若江郡に刑部郷あり、訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於佐加倍と讀むべし。其地今の中河内郡曙川村に當り、大字刑部は其遺稱なり。此地は吳國の歸化蕓、刑部氏の住せし地なり。

【刑部】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄、八上郡に刑部郷あり訓を岡くも當に於佐加倍と讀むべし。蓋し丹比部の同族大炊刑部氏の居りし所なるにより名つけしものか。東大寺天平勝寶七年の文書に八上郡の人刑部の田井とあるは此地の人なるべし。其地今詳かならざるも八頭郡八東村に當るか。

【刑部】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄、高草郡に刑部郷あり、於無左加倍と訓す。其地今の氣高郡大郷村・吉岡村・末恒村の地なるべし。

【刑部】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄、賀夜郡に刑部郷あり、於佐加倍と訓す。其地今の吉備郡總社町に當り、大字刑部は其遺稱なり。

【刑部町】 岡山縣備中國阿哲郡の東北部。新見町の東北一七粁、上刑部村の南、丹治郡村の北に接し東は甚庭郡富原村に隣る。西境には大佐山(九八八米)聳ゆるも上刑部村に出づる高梁川の支流小坂部川中部を南に貫きその流域の低平地に田畑拓き、米・麥・繭を主産し蒟蒻・苧を特産し其外に酒造も行はる。省線姫新線東南部に通じ刑部駅(昭和五年設置)あり。東は勝山町・津山市、西は伯備線の新見駅方面への交通便利なり。交通の便に伴ひ地方經濟の中心邑となり昭和二年町制を布く。此地は和名抄、英賀郡刑部郷の地なるべし。此郷は於佐加倍と訓じ、大字小坂部は郷名の轉訛せしもの、村名亦之に因みしものならん。また江戸末期の儒者山田安五郎(方谷と號す、贈正五位)は上房郡中井村の人なるも明治三年本村に移り子弟に程朱の學を教授し、備前閑谷黌の再興に聘せられ屢時往きてこれを督す。明治十年七十三歳にして本村にて病歿す。

【刑部】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄、英賀郡に刑部あり、於佐加倍と訓す。其地今の阿哲郡上刑部村・刑部村等に當り、二村とも郷名の遺稱なり。文正元年の年貢註文に備中國小坂部郷と見え、寛知集には小坂部村に作る。近世は小坂部莊に屬せし地なり。

【刑部】 備後國(廣島郡)の古地名。和名抄、三谿郡に刑部郷あり、訓を岡くも於佐加倍と讀むべく往時刑部氏の居りし所なるも雙三郡和田村の邊なるべし。

【刑部】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄の恵蘇郡に刑部郷あり、訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於佐加倍と讀むべし。奴可・三谿の二郡にまた刑部郷あり皆刑部氏の居りし所なり。其地今の雙三郡内なるも何れの地なるか詳かならず。

【刑部】 豐後國(廣島縣)の古地名。和名抄、奴可郡に刑部郷あり、訓を岡くも伊勢の刑部郷の例により於佐加倍と讀むべし。其地今の比婆郡西城町・美古登村に當る。西城町の大字入江に小坂の地名遺れりといふ。近世大富莊と稱せし地なり。

オサカベ 小坂部川 岡山縣阿哲郡を流るる川、高梁川の一支流。郡の東北部上刑部村の山中に發し刑部町を經て南流し、のち流路を西南に變じ美觀村にて高梁川に合す。流程約三五粁。川の名は上流流域は古へ刑部郷に屬せしにより起りしものなるべし。

オサキ 小崎沼 武藏國(埼玉縣)の歌枕。今の北埼玉郡埼玉村の北部にあり、往時は埼玉津或は埼玉沼とも稱し當國の名所たり。享保年間に開墾して水田となりしが、寶曆十二年再び其の半を穿ちて元の如く沼とし附近の悪水を溜める池とせり。萬葉・九「武藏の小埼沼の鴨を見て作れる歌一首 埼玉の小埼の沼に鴨そ翼きる己が尾に零り置ける霜を掃ふとならし」

オサキ 尾崎村 兵庫縣淡路國津名郡の西岸中部、南の郡家町、多賀村と、北の室津村首渡村の間に介在し西北部は播磨灘に面す。北淡地盤の西側にて村の中部を北流する尾崎川に沿ひ幅狹き低地あり田畑よく拓け米・麥等を產し、また沿海漁利あり。縣道海岸に沿ひて南北に通じてバスの便あり、冬季の外は淡路島西岸航路の小汽船の寄港あり明石市方面への交通は不便なり。古くは和名抄、津名郡郡家郷に屬せるものの如し。

オザキ 尾崎 【尾崎村】 青森縣陸奥國南津輕郡の中部。弘前市の東約七粁。金田・淺瀬石二村の南に隣り、東南は竹館村に、西南は町居村と界す。八甲田山塊の西麓ば淺瀬石川により南北に中斷せられて西走し津輕平野に沒す。本村は淺瀬石川西方の丘陵地の一部とこれに接續する津輕平野の一部に當り、丘陵地帶は洪積層、平野は沖積層より成る。西部には水田(約三二〇ヘクタール)・林檎園(約一六〇ヘクタール)あり。倚靠工品は津輕郡第一と稱せられ、その產額十二萬五千圓に達す。弘前市より尾上村に到る社線弘南鐵道及び北方黑石町及び南方柏木町に到る縣道西境を南北に掠め乘合自動車の便あり。丘陵地帶への道路は車道數條あり。交通運輸比較的便なり。此地は大光寺幕下の尾崎氏の領にして村名蓋し之に因みしか。町村制施行せらるる際尾崎・新屋・平田森・町居を以て尾崎村を創立せしも、明治二十八年南津輕參事會は境界を變更し町居を竹館村に編入し三大字を以て本村とし今日に及ぶ。東南境に聳ゆる矢筈長根山(五六四米)は冬季スキー場として弘前市及び黑石町方面のスキーヤーに喜ばれ、此山に源を發する鄰谷に尾崎冷泉あり。又附近に尾崎城址・寺屋敷の舊蹟・白岩の名所等あり。(八幡神社)大字新屋に鎮座。郷社。桑神警田別尊。創立年代を詳にせざるも地方の古社にて、寛永十九年藩主津輕信義鹿狩の際社參して心願を籠め、宿願成就により翌二十年木殿・神樂殿・神橋・鳥居等を造營し、且つ十八石の社領を寄進し、新願所に定むと云ふ。爾後同家累代の崇敬を受く。例祭七月十五日。

【尾崎村】 大阪府和泉國泉南郡の中部の西岸。岸和田市の西南約一六粁、東は堺信達村に、南は東鳥取・西鳥取二村に隣り西北は大阪灣に臨む。面積僅に一・二八方粁の小村なるも和泉海岸平地に當り土地低平にて耕地よく拓け米・麥等の農產ありまた漁利少からず。特に紡績・綿布・晒布等の工業盛に行はる。孝子越街道に當りまた社線南海鐵道(電車)の尾崎駅(明治三十年開設)あり交通便利なり。真宗本願寺派の尾崎別院あり。慶長二年桑山伊賀守の家人石田次郎左衛門の創立なりと。

【尾崎】 兵庫縣赤穗郡にありし村。昭和十二年赤穗町に編入。

オザク 石裂山・尾裂山・尾鑿・袁佐久山 那須火山脈足尾山塊に屬する一峯にて、足尾町の東南方約一三粁に位す。栃木縣上都賀郡加蘇村と栗野町の境界に跨り、標高八七九米。西北方に横隠山(一三七三米)、東北方に鳴蟲山(七二五米)峙つ。西麓より栗野川發して南流し、この上流に栗野町尾鑿の部落あり、ここに郷社加蘇神社(俗に栗野尾鑿)鎮座す。又東麓より荒井川發して東南流し、この上源地に加蘇村石裂の部落あり、これより少しく石裂山に登れば縣社加蘇神社(俗に久我石裂)鎮座す。

オザクラ 小櫻村 (茨城縣) →小櫻村

オササ 小篠山 オザサとも云ふ。大峯山脈の一峯龍ヶ岳(一五八一米)の西北麓部にして、更に西北方約二粁にして大峯山脈主峯山上ヶ岳(一七一九米)に接く。南方に龍ヶ岳・大香實岳・國見岳・七曜岳を經て行者還岳(一五四六米)に達す、この間約七粁なり。奈良縣吉野郡天川村に屬し、標高約一五〇〇米を算す。明治維新迄は小篠の宿と稱せられたり。水の渺き鬼通り(鬼驚け)の諸峯中にて最も飲料水豐富にて宿泊に好適し、小篠三十六箇寺として宿坊數多ありしも、今は唯理源大師及び役行者を祀る一宇の堂あるのみ。この堂は白鳳年間聖寶理源大師の開基にして古來修驗の根本道場たり。毎年六月大本山三寶院門跡入峯し柴燈大護摩を修す。いま洞川・龍泉寺の管轄下に屬す。「うちたのみかたしく袖もぬれにけり小ささか宿にまとゐする身は 禮中納言師時」「わけ來つるゐなさの露にそほちつつほしそわづらふ嶽染の袖 西行」

オザサ 小笹 【小笹山】 静岡縣安倍郡の山か。一目玉鉾・二「○鞠子○小笹山　連歌師宗祇の住給ひし跡とて有」

【小笹峰】 山城國（京都府）の歌枕　其の地今の久世郡久津川村にあり、大宇久世に久世神社あり、大和本紀によれば日本武尊薨去の時に白鳥となり給ひ天を翹り久世の鷺坂小笹の上にとどまりますといふ、其地此處なりと　堀川百首「白鳥のさきさかやまを越來れば小笹が峰に雪ふりにけり　顯季」

【小笹原】 攝津國（大阪府）の歌枕。其地今詳かならず。正治百首「しなが鳥ゐな野の海に舟とめてをささが原に風をまちみむ　隆房」

オサシマ 長島町 岐阜縣美濃國惠那郡の中部。東は大井町に、西南は武並村・三鄕村に隣り、北は木曾川によりて笠置村と界す。南部以外は高度三一四百米臺の高臺狀の地多く農業養蠶行ばれ林產も少からず。中山道・省線中央本線中部を横ぎり、後者の大井驛に近し。本町は和名抄、惠那郡竹折鄕の內なるべく、明治三十一年町制を布く。

オサシマ 筬島 北海道天鹽國中川郡常盤村の大字。宗谷本線の一驛（大正十一年設置）を置く。

オサダ 譯語田 大和國城上郡の古地名。一に他田にも作る。敏達天皇の皇居他田幸玉宮の所在地。今の奈良縣磯城郡纒向村大字太田の邊ならんといふ。

オサダ 他田 駿河國（静岡縣）の古地名。和名抄、有度郡に他田鄕あり乎佐多と訓す。其地は安倍郡長田村（今静岡市の內）なるべし。他田は中世以降は庄名にも呼び、有度全郡にも及ぼし、或は長田にも作りしを以て長田村大字丸子の邊を特に長田村と稱するに至る。續日本紀、和銅五年の條に「阿倍朝臣宿奈麻呂言、久努朝臣御田夾・長田朝臣太麻呂」とある長田は即ち他田にして、久努は今の久能村なり。日本後紀、弘仁三年の條に阿倍長田朝臣節麻呂等八人が阿倍朝臣の姓を賜はるとあり、姓氏錄—も他田廣瀨朝臣は阿閉間人の臣と同祖なりとあり、皆其の同族なるべし。

オサダ 長田 【長田】 静岡縣安倍郡にありし村。昭和九年十月本村を廢し其地域を静岡市に編入す

【長田】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄、飯野郡に長田鄕あり奈加多と訓するも之は後人の加へしものなるべく、乎佐多と讀むべし。其地今の飯南郡朝見村・西黑部村に當る。姓氏錄に他田氏は阿倍朝臣と同祖にて大彥命の後なりとあり、或は其族の居りし所か。神鳳抄に飯野郡長田鄕田四十六町とあり。東鑑、文治三年の條にも伊勢長田莊、地頭加藤光員と見ゆ、この長田は皆此地なり。

【長田野】 京都府天田郡下六人部村にある原。福知山市の東に當る。東西約二粁、南北約四粁。時々陸軍の演習地となる。

【長田】 →楠根町（大阪府中河內郡）

【長田村】 岡山縣備前國御津郡の西北部。津賀村の北、新山村の南に隣り、西は上房郡豐野・下竹莊の二村に界す。中部以西は三百米臺の臺地、東と南は次第に低く田地拓け、米・麥の外に繭を產し木炭を出す。交通なほ便利ならず。此地は古へより豐岡村・新山村・江與味村等と共に惡木川の流域に位し隔絕せる山村をなす。（素戔鳴神社） 大字和田に鎭座。鄕社。祭神、建速素戔鳴尊・櫛稻田比賣命。創立年代詳かならざるも、山城國祇園社を勸請せる古社にて、爾來近村の產土神として崇めらる。もと牛頭天皇社と稱す。例祭、十月十九日・二十日。

オサチ 長地村 長野縣信濃國諏訪郡の西北部。岡谷市の東に接し下諏訪町の西に隣る。地南北に長く南端は諏訪湖の北岸に延ぶ。大部分は山地なるも南部は諏訪盆地の北端部にて水田桑園よく開け米・繭を產す。中山道と省線中央本線南部を東西に走り、伊那街道また中山道に岐れ天龍川に沿ひて南下し、下諏訪驛・鹽尻・伊那方面へはバスの便あり。此地は和名抄、諏訪郡土武鄕の內にして、町村制施行の時、東堀・西山田・東山田の舊三個村を合併して成れるもの。村內の滋溫泉は泉質硫黃鑛鐵泉にして療養向。大字東堀に本草學と醫術を以て知られし長田德本の墓あり。長田德本の生地は山梨縣西山梨郡の人とも信濃とも美濃とも三河とも稱せらるるも今詳かならず。醫術を明國月湖の門人玉哲に學び三代將軍の病を治療し、又甲州に葡萄の培養分栽の法を敎へしを以て今に至るも甲州人に其功德を慕はる。寬永七年、百十八歲の長壽を以て他界す。墓碑は方二尺八寸（約〇・八米）、高さ三尺五寸（約一・六米）の卵塔と、方二尺（約〇・六米）、高さ三尺（約〇・九米）の卵塔との二基あり。里人は此墓碑の石粉を服物に貼附すれば必ず全快すると信じ、又墓前に捧げし小石を以て身體の病める局部を撫でれば治癒すると稱せらる。

オサツ 雄薩 常陸國（茨城縣）の古地名。日本後紀弘仁三年十二月に、常陸國の六驛を廢して更に小田・雄薩・田後の三驛を置くとあり。雄薩驛の地今何れに當るや明かならず。或は今の久慈郡宮川村大字下野宮の邊ならんとも、同郡上小川村頃藤の邊ならんといふも詳かならず。

オサツベ 尾札部村 北海道渡島國茅部郡の東南端、渡島支廳の管下。臼尻村の東に隣り東西約二〇粁南北廣き處にて約六粁、面積約七四方粁。南は龜田郡椴法華・尻岸內・湯川の三村に界し北は太平洋に面す。南境には丸山・毛無山・台場山等六百米臺の山嶺連りて北方に傾斜し面積廣きも海岸に沿ひて幅狹き

低地ある外平地の見るべきものなし。農林產ばなほ多からざるも沿岸水產に富み昆布の採取、鰮・鮪等の漁獲豐裕なり、道路海岸に沿ひて通ずるも交通なほ便利ならず。尾札部はアイヌ語オシヤツベと呼び、「水の不足する所の義」なり。本村は延寶五年、能登の人飯田與五左衞門等、漁業の爲め來村せしを始めとし、寶曆年中には陸奧國酒井重兵衞等川汲に來住せしより、戶口次第に增加し、明治三十九年二級町村制を施き、尾札部に役場を置き、川汲・木直・古部等の部落あり。

（川汲溫泉） 川汲河畔に湧出せる溫泉にて、一名鶴の湯溫泉といふ　昔一白鶴飛び來り、入浴して脚疾を治癒せしと傳へらる。ラヂウム含有泉にてリウマチス・神經諸病・肋膜炎・婦人病等に效あり。函館より汽船の便もあり、湯ノ川溫泉には自動車を通ず。（川汲峠）は海拔四百米眺望雄大にして臺場山砲壘址あり。

（常盤松鑛山） 大字古部にある硫黃鑛山。鑛區は東南龜田郡椴法華村に亘る。昭和十年の產額は約七〇〇瓩。鑛夫三八人。

オサツベヌプリ ——山 長部山とも云ふ。北海道屈斜路湖西南岸に峙つ山。西斜面は網走支廳川上郡津別村、東斜面は釧路國支廳川上郡弟子屈村に屬し、標高八二三米　南稜はサマッケヌプリ岳（八九八米）を經て西方に轉じ下ノ湖・阿寒湖の北方連嶺をなし、北稜はコトニヌプリ岳（九五〇米）、サマッカリヌプリ岳（九七四米）・美幌峠（五二五米）を經て東方に轉じ、屈斜路湖を擁す。東斜面より發する一溪河は東北走して屈斜路湖に注ぎ、西斜面は西北流する津別川の上源地たり。山頂よりは東北方に明鏡屈斜路湖、西南方に雌・雄阿寒岳（一三七一米）を望む。東斜面はいま阿寒國立公園に屬す。

オサデ 小佐手村 山梨縣甲斐國東山梨郡の南部。勝沼町の北、菱山村の西に接す。面積僅に一・二八方粁に過ぎず。甲府盆地の東緣部に當り、地東より西に緩傾するも概ね平坦にて桑畑よく開け純農村にて養蠶行はれ、繭の產を主とし、米・麥・葡萄を出す。本村は明治二十二年山村・綿塚村・休息村と共に組合町村をなし役場を休息村に置く。古くは武田氏の族、武田信重の男、九郎永信この地に住し小佐手氏を稱す。

オサナ 幼 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村は廢せられ大字加納馬場・芝原は千秋村に、大字石佛・神野・八劍・井上は岩倉町に入る。

オサナイ 長內村 岩手縣陸中國九戶郡の東部。久慈町の南に隣り、南は宇部村と界し東は太平洋に面して久慈灣の一部をなす。南西北の三面に丘陵を負ひ、其の間を西より東北に貫流する長內川は沖積平野を形成して久慈平野に續き久慈川に合して久慈灣に注ぐ。地勢は概して平坦なるも南面の丘陵は東に走り海に迫つて所謂大尻海岸の斷崖絕壁をなし、西北に走る北上山脈の餘波は西部に連亘して丘陵となる　灣の一部をなせる砂濱は單調なるも南部の灣壁を形成せる礁濱には二子浦・大尻浦の良漁港あり。久慈町を起點とする縣道は一は南に走つて宇部村に入り、一は西に向ひ山根村に通じ共に下閉伊郡に至る重要なる路線とす。農畜水產の外、陶器小久慈燒は古くより產出せらるるも產額餘り大ならず。また大字小久慈は琥珀の產地として知らる。小久慈館は大字小久慈堀にあり日戶內膳正秀恒の居所と稱す。又館の臺は同字下日陰にあり。日戶氏と同時代天正の頃館權守と稱する豪族の立籠りし址と云はれ兩氏の勢力範圍は長內川により兩分されしものの如し。館址は大部分天然の壕を繞らし現在無格社日吉神社鎭座し長內・小久慈兩平野及び太平洋を一眸の中に納むる勝地をなす。

オサバ 小鯖村 山口縣周防國吉敷郡の東部。山口市の東南方に位し、これと大內村を隔て東は佐波郡出雲・小野・右田の三村に界す。地東北より西南に延び四周は約三百米臺の山地を繞らすも西南部をはじめ所々に小低地ありて耕地拓け、農產は米を主產物とし煙草・麥・生絲等これに次ぐ外に工產・鑛產あり。縣道中部をほぼ南北に走り、南防府市より北山口市を經て萩市に至る省營バスこれを通じ交通不便ならず。また古來、山口市より防府市に至る通路は本村の鯖山峠を越え峠は隧道を穿ちて交通に便せしむ。此地は大內村と共に和名抄、吉敷郡八田鄕の內なりしか　（八幡宮） 大字上小鯖村に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。創立年代詳ならざるも、室町時代以前の古社にて、領主落主を始め近鄕村民の尊信篤し。（禪昌寺） 大字下小鯖にあり。曹洞宗。法輪山と號す。應永三年領主大內義弘の創建に係り、慶屋定紹を請じて開山とす。同七年堂宇七十三坊の造營成り、一山七百餘の僧徒を擁して、俗に西國高野山と稱せりといふ。のち漸く衰頽し、慶應年間僅に三十七宇を殘せしが、明治以後悉く廢絕す。境內宏濶、堂宇完備し、境內に謂はゆる鯖山十勝あり。（明治天皇小鯖御小休所址） 指定史蹟。大字下小鯖字洞道口にあり。明治十八年明治天皇山陽道巡幸の際七月二十九日及び三十一日兩度御召換の爲御小休所となりたる處なり。御座所址に黑松一株を植ゑ傍に美山枝松と刻せる記念碑あり、周圍に柵を繞らす。

オサフジ 長藤村 長野縣信濃國上伊那郡の東北部。高遠町の東北隣にて東は伊那山脈の山嶺、西はその支脈なる鉢伏山の山稜共に南北に連り、中間の谷を三峯川の支流南下す。原野・山林多きも田畑地また少からず、米・麥を產し養蠶主として行はる。樓兵衞街道谷地を南北に通じ、高遠に出づれば伊那町へバ

スの便あり。木村は釣場村・彌勒村・板山村・野笹村・中村・鹽供村・中條村・黒澤村・四日市場村・栗田村の四十箇村を併合して成れるもの。

オサフネ 長船 ↓行幸村（岡山縣邑久郡）

オサベ 長部 愛知縣八名郡にありし村。明治三十九年本村は富岡村と合し八名村を置く。

オサムナイ 納内村 北海道石狩國空知支廳南龜郡の東部。西は一已村に隣り、北方多度志村に接き、東は上川支廳管内江丹別村に界し、南は石狩川を隔てて雨江村に相對す。北部には常磐山（五九二米）を主峯とする第三紀層よりなる中山性山地あり。西南部石狩川の舊氾濫原にて、土地低平石狩平野の北限界をなす。平地は區劃整然たる農場をなし水田よく開け米・豆類を產す。函館本線村の南部を東西に走り、納内驛（明治三十一年開業）を置く。もと一已村の地域内にありしが、後、分村して大正十年六月二級町村制を施き、役場は納内市街地にあり、納内を中心として、東神威古潭・西雨江法華に至る間、無數のヂャシ（砦）の跡あり、アイヌ穴居の形象を遺す。

オサリザワ 尾去澤 【尾去澤町】 秋田縣鹿角中國鹿角郡の西部の鑛山町。花輪町の西南に隣り、北は錦木村に、南は澤村に接し、西は北秋田郡十二所町と界す。村のほゞ中央南北に高度約五〇〇米内外の分水嶺あり東西斜面に別ち、東麓を米代川北流してその岸に低地あるも、地質は第三紀の混板岩及び凝灰岩よりなるを以て農業に適せず、尾去澤鑛山の鑛產の他見るべきものなし。唯南業はこの鑛山に依存し發達す。尾去澤鑛山は小坂・院内・阿仁等と共に縣下の主要鑛山にして採掘は和銅年間と傳ふるも慶長頃より專ら採掘せしものの如く本邦著名の鑛山なり。省線花輪線の陸中花輪驛（花輪町地内）及び尾去澤驛（錦木村地内）に近く、兩驛を結ぶ縣道東北部を東西に通ず。集落は鑛山町の集塊型を示し、分水嶺の東斜面に發達す。中古以前は史實の徵すべきものなく詳ならざるも古くはアイヌの大部落ありしものの如く、鑛山の起原は和銅年間と傳へ、慶長の頃より金を、寛文年中より銅を採掘し始むとあるを以てその頃より鑛山町として發達せしものなるべし。昭和十一年町制を布く。人口五九六六人（昭和十年）。

【尾去澤】 秋田縣にある本邦重要鑛山の一。鹿角郡尾去澤町及び錦木村の一部に亘り、同郡花輪町の西方約三粁内外にあり。毛馬内盆地（花輪盆地）の西側を劃する南北の連嶺、水晶山（八一二米）・大盛山（八〇二米）・愛宕山（七〇六米）・浦上（七二五）等の東西兩側に跨がる。之等は何れもその西側の丘陵面より一段高く南北に連なり、急峻なる斜面を東西に向く。地質は主として第三紀珪質頁岩と、その上を覆ふ緑色凝灰岩とより成れど、その一部分は更に石英粗面岩・石英安山岩に被はれ、また下底には廣く變朽安山岩の進入を見る。鑛床は主として珪質頁岩中を垂直に近く貫ぬき、上部はその上に位する凝灰岩、下部は下底の變朽凝灰岩中に達する多數の鑛脈群より成り、その大部分は（一）南北又は北々東より南南西、（二）東西又は東北東より西南西の二方向に延長し、特に鑛區の東側並に南部に於ては卯酉儘即ち東西に近きもの多く、その西側にはほゞ南北に壓行し、時に馬尾狀に分るる一群あり、何れも主として斷層面に沿ふもののごとく、そのうち特に主なる諸群次の如し。

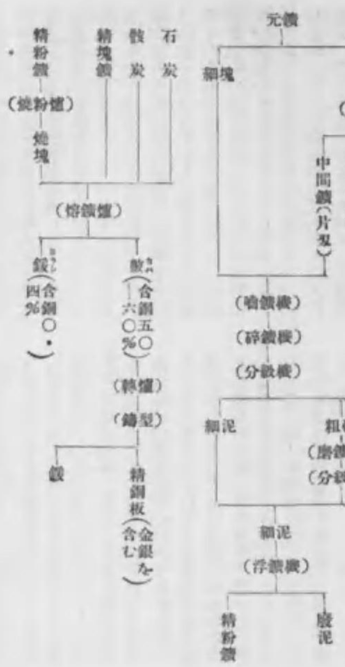
子午脈 即ち南北脈 南北乃至南々西—北北東に走る

末廣脈（一三條）六月脈（一四條）萬歲脈（五條）五本樹脈（八條）

卯酉脈 即ち東西脈 東西乃至東北東—西南西に走る

大盛脈（一四條）卯酉脈（一七條）正德脈（一四條）昭和脈（一六條）本脈（八條）奥脈（七條）柴脈（一四條）遠丁脈（一二條）再盛脈（二條）七年脈（二條）

これらの諸群は長き最大一〇〇〇米以上、幅平均〇・五米、部分によりては六米、稀には二脈の錯綜により、二〇米内外に達す。何れも主として石英・絹雲石・黄鐵鑛・黄銅鑛等より成り、東西脈には閃亞鉛鑛・方鉛鑛を多量に伴なひ、針狀乃至片狀の赤熱鑛に富む部分もあり、全體として南北龜群は石英に富み、黄銅鑛を主とし、その一部は金に富み、東西龜群は石英に乏しく、屢〻多量の閃亞鉛鑛及び方鉛鑛に富む。その露頭部は銅鐵亞鉛等の溶尖により、屢〻金の品位を高め、始めは主として金山として開發せらる。その發見は遠く慶長年間にして、全鑛床の北端近き西道附近にて盛んに採掘製錬せられ、西道金山（鹿角金山・南部金山）として殷賑を極めたる日碑あり、當時は專に鑛石を碎きて水中に淘汰し、金粒を集めて殘滓を捨て、多量の金をなほその中に留めしを以て、近年西道方面にて、當時の殘滓を雲野の下より發見し、多量の金を恢收せり。その後寛文年間に至り、銅山としても著目せられ、爾來屢〻新鑛床の發見あり。元祿年間永久澤の發見當時は、二十日間九千瓦の金を產せりと傳へらる。その後或は南部藩の直營に歸し、或は民業に移り、盛衰常なかりしも、明和以降明治維新まで百餘年間に、精銅三六五、〇〇〇瓩を產せりといふ。明治以後、鑛屋茂兵衛の稼行により、每年三七萬瓩の銅を產し、同五年岡田氏、同二十二年岩崎彌之助氏の經營に移り、遂いで三菱鑛業會社の有に歸し、一層盛大に赴けり。舊慕當時は主として西側北部に屬する下澤の上流、即ち元山方面と、西側南部即ち田郡澤方面より開坑し、その後東側南部即ち赤澤方面よりも開發せられ、明治以降は主として東側北部に位する獅子澤上流より開發し、大通洞なこれより深く地中に鑿つて多數の鑛脈群を貫ぬき、上下數段の坑道によりてそれらを領導するに至れり。この通洞の入口には、山の斜面を利用して、選鑛製錬所を設け、その北方に事務所を有す。選鑛は先づ手割によりて大塊を碎き、之を篩別して徑六〇粍以上の粗塊と細塊とに分ち、粗塊は手選帶上選鑛婦により選別せしめ、廢石・銅鑛・鉛亞鉛鑛、片刄即ち中間鑛とし片刄は次の圓式の如く、順次粉碎して細泥とし、再後に浮游選鑛法にて泥狀の銅精鑛と、銅に乏しき廢泥とに分ち、後者は之を棄て事務所の北方にある中澤上流の沈澱池に送りしが、昭和十一年末、その末端の大堰堤の決潰により、下流の市街地を埋没し、一大慘事を惹起せり。また精鑛は大整次の順序により、合金銅粗銅板とし、そのまゝ大阪精錬所に送り、鉛亞鉛鑛は同一會社の細倉鑛山に送りて合併製錬す。その製品は、昔は主として米代川の水運により、能代經由大阪方面に發送せしが、秋田鐵道即ち今の花輪線の一部開通により、奥羽本線大館驛と毛馬内驛との聯絡を見るに至り、その中間なる錦木村の土深井の一部に尾去澤驛（大正四年設置）を設け、馬車鐵道を以て本鑛山と聯絡せり、然るにその後花輪線の全通により、陸中花輪驛（大正十二年設置）を以て本鑛山の門戸となし、築港索道及び自動車を以て之と聯絡せらるるに至り、鑛況益〻發展し、自山產鑛石の外、他の鑛山の鑛石をも買鑛して合併製錬し、その最近の製錬產額は金五一八、一九二瓦・銀九、〇七五、七八一瓦、銅四、九四二、五八七瓩に達す（昭和十一年度）。即ち金の產額に於ては、內地鑛山製錬所中十一位、銀に於ては十二位、銅に於ては第七位にして、足尾・別子・日立の三銅山、佐賀關・小坂・直島の三製錬所に亞ぐ盛況なり。（發見の傳說）南部叢書第三卷中祐清私記と稱する書に本鑛山に關する興味ある傳說あり、それに據れば、慶長の頃、南部藩の奉行北十左衞門なる者地所檢分の爲め白根附近に出張中、一老媼の二童を伴なひて來るあり、二童の父が彼等に殘せる田畑が、叔父なる者に横領せられたるを訴ふ。依つて仔細に證據を吟味し、二童に有利なる判決を與ふ。偶〻老媼の土產とせる蕎麥に金粉の附著せるを見出し、招いて之を氣せるに、その地方には安信氏（貞任、宗任の族）の經營せる金山ありしと聞けど、無學にして知る所なしと。仍て十左衞門自らその地を檢せるに、果して多量の金產あり、白根・西道等の金山次々に發見せられ、數年にして殷賑を極め、京落の地にその名を傳へられたりといふ。このうち白根は現在尾去澤の支山たる小菅木鑛山に當り、西道は尾去澤鑛山中、事務所の北西に當る部分にして、先年同地の雲野の下より特殊の赤土を見出し、之を製錬して金を得たり。これ即ち往時金鑛を粉碎し、水中に淘汰して金を分ち、殘滓として地表に拋棄したるものなれど、その含金量なほ十萬分一以上に達し、思はざる巨利を收めしめたり。更に異なる傳說によれば、寛政の頃、南部藩の某金山奉行金山發見の命を受け、日夜辛酸を嘗め盡けたるが、或る夜の夢に谷內川に金箔の流るるを見、その翌日より流域一帶を精査せるに、西道といふ地にて金鑛を發見し、爲に藩主の寵を受け、賞賜に列して餘興の命を受けたるも、野人舞踊を解せず、選鑛婦等が金鑛を碎いて笊に收め、之を水中に淘汰する樣を嗅ひつつ踊り、却つて一同の喝采を博し、以て今日盛岡附近に喧傳せらるる金山踊の源を成せりと。この西道もまた前記尾去澤の一部にして、今なほ同町の入口を西道口と稱せらる。祐清私記・乾「鹿角金山家昌所聚何〻言上之事、奥州鹿角、白根、西道等之金山なば、北十左衞門不思議の緣にて被見立、慶長七年之春之頃より被召掘ければ」



オサル——**オサワ**

オサル 長流 北海道豐振國有殖民地伊達町の大字。室蘭本線の一驛（昭和三年設置）を置く。

オザワ 小澤 武藏國（神奈川縣）

の古地名。中古橘樹郡に置かれし郷にして、今の向丘村・生田村・稲田町及び東京府南多摩郡稲城村等の地に當る。此の附近を小澤原と稱す。享祿三年の夏、上杉朝興五百騎を率ゐて河越より府中に出馬せし時、北條氏康、上杉の陣地を攻め、兩軍府中玉川の端小澤原にて接戰し遂に上杉氏の敗北となれり。時に氏康十六歳にして初陣なり。又小澤城の名あり。城址は稲田村大字菅村の西方に當る山にして、此處を小澤峠と呼ぶと。文明九年、山内顯定の臣長尾景春の亂を爲すや、其黨此城に據る。顯定乃ち援を扇谷定正に乞ふ。因て太田道灌之れを援け、當城を攻む。景春兵を率ゐて來り城兵を援く。道灌奮戰して之れを退け遂に當城を攻陷す。新編武藏風土記「小澤郷、小澤郷の名は東鑑元久二年十一月十四日の條に、稲毛入道が遺領武藏國小澤郷と見えたり、今當郷の西北の界にある金程・細山菅の三村、及び多摩郡坂濱村に跨りて、古は小澤郷或は小澤庄、又は領とも唱へしと傳ふ」

オザワ　尾澤村　をざは　群馬縣上野國北甘樂郡の西南端、下仁田町を距る西南約一六粁。生業は養蠶業・林業なるも生絲・蒟蒻・砥石等の産多し。特に古來砥石を以て知られ、世に上野砥・御藏砥等といへるは即ち是とす。大字熊倉の信州との境に依路峠(餘地峠)あり。關八州古戰錄に依れば永祿三年武田晴信、兵一萬餘騎を率ゐて此峠を越えて上州に入ると。また天正十年には瀧川一益、兵五千餘騎を率ゐて同じくこの峠を越えて上州に入ると。

オシ　意此川・壓川　おしかは　兵庫縣揖保郡を通る林田川中流(觜田村附近)の古稱。祭宴の折、壓しあひつつ、この川を下りしにより名づくといふ。播磨風土記・揖保郡「意此川。品太(應神)天皇之世、出雲御蔭大神坐於枚方里神尾山。毎遮行人、半死半生……於是遣額田部連久等々令禱……而祭之。宴遊甚樂。即櫟山柏挂帶捶腰下於此川相壓、故號壓川」

オシ　忍町　埼玉縣武藏國北埼玉郡の西部。熊谷市の東約六粁。全町土地低平にして田畑拓く。社線秩父鐵道町の中央をほゞ東西に走り行田驛(大正十年設置)を置く。また熊谷市及び省線高崎線の吹上驛(約四粁)にそれぞれバス通じ交通便なり。米・繭・麥等の農産あるも、足袋製造業最も盛んなり。本町の主要部落を行田といふ。此地及び附近の農村に産する足袋は所謂「行田足袋」の名を以て世に知らる。其起原は古來口碑の傳ふる所に依れば貞享の頃二三の當業者が職工を使用する外に舊忍藩士卒の家族をして賃職せしめしに創まる。而して此盛大を來たせる同地方一帶が棉・藍の栽培に適し、農家はこれ等を利用して青縞・白木棉の生産に從事しその産額も尠なからざりし爲め、之等が足袋製造上に多大の裨益を與へしによる。その後は交通の便開くるに從ひ、專業者續出し機械力の利用も加はるに及び産額も著しく增加せり。商圏は全國各地に及ぶも東京及び東北諸縣が其主たるは位置の關係の然らしむる所、又遠く滿洲・支那・南洋等にも販路を開く。此地はまた往時鶯蕎とも稱し、和名抄、埼玉郡埼玉郷の内なるべく、近世忍庄に屬す。舊郡役所のありし所。昭和十二年長野村・星河村・持田村を本町に編入す。長野は忍城下町の行田・佐間の東に續き東鑑に畠山重忠が弟長野重清の名見ゆ、これ恐らくは此地に住し在名を稱せしものなるべし。持田は往時糟田に作り、忍城持田口の西にあり。深谷の上杉則盛に仕へし持田左馬助忠久は此の地の人なり。里見八犬傳・九ノ二「然らでも西北に大塚の城あり、北に赤塚石濱の援あり、又鶯蕎・爲槻・河肥の諸城あり」

〔忍城〕　關東七名城の一。平地にあるも深漆沼澤を控へ頗る壯固なりしといふ。これ此地を流るる見沼代用水の一支流をなす荒川の伏流水が多量に湧出する爲にして此附近一帶熊谷以東の地は地下に水流を藏する礫層に富む。永正六年宗祇法師が東遊の途九月の末、武藏成田下總守顯泰の亭に留まり「水郷也、館のめぐり、四方沼水幾重ともなく、蘆の霜がれ二十餘町、四方へかけて水鳥雁多く見えわたり」と記したるは忍城の景觀なり。成田系譜によれば成田氏の忍城主となりしは文明年中なるべし。天正の頃成田氏は小田原北條氏に屬せしも同十八年豐臣秀吉の小田原征伐の時は城主成田氏長及び弟泰親は小田原の加勢に加はり、忍城は成田泰季を置き守らしむ。石田三成これを攻め、城地の低平にして水攻に便なるを見、利根川の水を引いて攻む。河水漫々として一大湖をなす。且大雨ありて洪水樓に溢る。然れども城兵屈せず、奇兵を出して敵の背後を脅す。三成等八方より城を圍みしも容易に拔く能はず、依て秀吉、山中長俊をして小田原城中の氏長に書を遣して降をすすめ、留守の諸將に諭す。氏長降伏を約し旨を城中に通じ城を渡す。包圍二十日間にして城兵退散す。

〔忍藩〕　徳川家康關東に移るや松平家忠を封じ、文祿元年家康の子忠吉を移し、慶長五年忠吉、尾張淸洲城に移るや、城番を置き、寛永十年松平信綱を封じ、同十六年阿部忠秋これに代り、文政六年松平忠堯を封じて十萬石を給し、子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩を廢して一旦縣とせしも、間もなく廢せられて埼玉縣に入る。信綱の時までは城郭の構へも狹小なりしが、忠秋の時に至り修補を加へ、江戸城の備へとして名實共に備はるに至れりと。

オジ　小路　をぢ　もと大阪府東成郡の村。大正十四年東成郡は大阪市に入り東成區を編成す。

オジ　祖父岳　おぢ　ヲウ岳とも云ふ。神通川上流の西方に峙つ山。富山縣婦負郡八尾町の南方約九粁、同郡野積村に屬す。標高八三二米にして山體片麻岩より成る。東麓を神通川の一水源野積川北流し、川を距てて夫婦山(七八四米)と對峙す。又西南方に神山(八五二米)聳え、この西麓を洗ふ室牧川は東北走し、八尾町にて野積川と合す。尚ほ野積川の畔より西南に走り祖父岳の西麓を經て室牧川の流域に至る谷折峠(最高點六八一米)の山路通ず。

オシアゲ　押上　東京の地名。現今東京市本所區押上町、東京市電本所の終點。私線京城電車の起點の一。元は柳島一帶の總稱。七偏人・二下「今日は大人もお懸屋の蘭英齋大人が狩野家の妙筆を揮て、押上邊から請地むらのわたりを眞景にかいてやるからといふ約を結び」

オシオ　小鹽　をしほ

【小鹽】　下總國(茨城縣)の古地名。續紀稱德天皇の神護景雲二年八月の條に、下總國結城郡小鹽郷小島村と見ゆ。毛野川(鬼怒川)畔にありしものと思へども、鬼怒川河道の變によりて其の位置詳かならず。或は和名抄の小埴郷の地かと云ふも詳かならず。

【小鹽】　→橋立村(石川縣江沼郡)

【小鹽浦】　加賀國(石川縣)の歌枕。其地今詳かならず。良玉集「加賀へ下りけるにをしほの浦といふ處にて、おもひきやをしほのうらのとまやにてねさめに秋の月をみむとは　隆頼」

【小鹽山】　大原山ともいふ。京都市の西南方に聳ゆる山。京都府乙訓郡の西方、大原野村に屬し、西方は南桑田郡との境界に近し。標高六四〇米にして秩父古生層より成る。山上に勝持寺並びに大原陵あり、また東麓に大野原神社鎭座す。古來歌枕として著はる。小濱城主たりし木下勝俊(長嘯子)はこの山に隱棲して風流を好み、遂に歿す。また小鹽里といふもこの山の麓の里をいひしものなるべし。古今・雜上「大原や小鹽の山も今日こそは神代のことも思ひ出つらめ　業平」「春霞たちにけらしなをしほ山小まつが原のうすみどりなる　俊成」「小鹽山神代のことは白雪のふりぬる松の花とこそみれ　猛彥」夫木・三一「大はらやをしほのさとの朝がすみ往來になれし春ぞわすれぬ　後久我太政大臣」

オシカ　牡鹿・小鹿　をしか

【牡鹿(小鹿)郡】　宮城縣十六郡の一。縣の東北に位し、北は桃生郡と界し、東南西三面は海に臨む。西北より東南に延びたる遠島地方(牡鹿半島)大部分を占む。北上山脈の南部に延び半島になりたる部分にして大餘天・鍬臺の諸山脊梁をなし丘陵起伏し海岸は鋸角港灣の出入に富み、西岸には荻濱・大原、東岸には鮫浦・女川の諸灣あり。金華山沖は寒暖合流する所なるを以て、漁業最も盛にて、其の集散地に河口港・石卷市・女川・渡波等あり、加工は殆ど石卷市にて行はる。其の他萬石浦はカキ、渡波は鹽を産す。鮎川村は鯨の陸揚を以て著はれ、稻井の石材は又名高し。其の他農産・養蠶行はる。海上交通發達し海運を利用する事多く、陸上交通は便ならざるも金華山バスありて石卷・金華山間の鮎川に通ず。また石卷・女川間を結ぶ女川軌道あり、今石卷線を延長して女川に連絡すべく工事中にて近く開通せんとす。聖武天皇の天平九年、牡鹿柵を置き陸奥の大掾日下部大麻呂をして夷に備へ、當時蝦夷地との境界をなせしものの如し。のち郡となり陸奥國に屬す。和名抄は手志加と訓じ、賀美・碧河の二郷及び餘戸一を置く。中世頃小鹿にも作る(正保地圖)。明治元年陸奥を割きて陸前國を置くやその管下に入る。明治二十二年の町村制實施以降二町六村なりしも石卷市制を布きしを以て一町六村となり現在に至る。

【牡鹿半島】　一に遠島半島にも作る。宮城縣牡鹿郡の南半部。三陸海岸の南部に當り北上山地の南端、主として中生層より成る部分が、多數の段層に切られ地塊化し沈降により成れるものにて、西は石卷灣、東は太平洋に面す。石卷灣の東北隅にある渡波より深く陸地に灣入せる萬石浦の入江は、太平洋方面より灣入せる女川灣と相迫り、狹き地峽をなし、その幅僅に二粁に過ぎず、これを半島の頸部として南方に突出すること二十餘粁、その尖端東方には金華山瀬戸を隔て、全島花崗岩より成り、四五五米の圓錐の孤峯をもつ有名なる金華山あり、西方海上には網地・田代の二島本土と連絡を斷たれ島となる。半島部は山地連互しその端は急崖となりて海に臨み、沈降により數多の小灣入發達す。その主なるものは東岸に女川・鮫浦等あり、女川灣は好錨地をなすも大船を容るるに便ならず、その灣口沖合に足島・江島・出島よりなる江島列島あり。西岸には最北に萬石浦あり、その灣口は渡波に於て石卷灣に開口し、その口極めて狹く、且つ灣内甚だ淺く洲數多發達す。折の濱はこれに續き灣内また數個の小灣に分たれ船濱・桃浦・荻の濱等はその主なるものとす。殊に荻の濱は深く陸地に灣入して水深く、港内風波穩にて良泊をなすもただ灣の面積の大ならざる缺點をもつ。然しこの附近最好の錨地にて、近海郵船會社の定期航路に當り、東北地方に出入する貨物は更にこの地と石卷港・鹽釜との間を往來する汽船により集散す。更に折の濱灣の南に當り大原灣あり、灣内分れて、更に富貴浦・小綱浦・大原浦の三灣となり、大原浦に灣岸の首邑大原あり。大原浦の南に狹き地峽をもちて纔に連る小淵半島あり。これに隣りて十八成濱・鮎川灣あり。鮎川灣の南東を擁する尖端は黑崎にて、牡鹿半島の最南端部をなす。この附近は鮪漁

の盛なる所にて、海中各所に魚見櫓聳ゆ。金華山島と牛島との間の金華山瀬戸に、海底電信の敷設あり。金華山島の北東鮑荒崎に大燈臺ありて、第二等閃轉紅白交閃燈の光を海上に投じ航海上の好目標となる。又霧笛の設けあり。

【牡鹿柵】奈良時代に陸奥國(陸前、宮城縣)牡鹿郡に設けし城柵。續紀天平九年に見ゆる蝦夷經略の爲めに置ける多賀柵以下五柵の一。爾後此柵名の史に見えざるは恐らくは其の後數年天平寳字二年桃生柵の設けらるるに及び不要のため廢せしものか。其址何れの地なるか審かならず 或は今石卷市の中なる日和山の地ならんといふ。

【小鹿村】愛知縣葉栗郡にありし村。明治三十九年村久野・草井の二村と共に廢せられ、其區域を以て草井村を置く。

【小鹿村】鳥取縣伯耆國東伯郡の東部。倉吉町の東南約八粁。北は三徳村に、西は三朝村に、南は旭村に、東南は岡山縣苫田郡上齋原村に隣り、東は氣高郡小鷲河村及び八頭郡佐治村と界す。東境に三國山(一二五二米)峙ち、村内概ね九〇〇米餘の山地連亙し、その間溪谷を刻みて三朝川の支流小鹿川となりて東北流し、その沿岸に低地ありて耕地拓け、水田卓越して米を主產し林產も少からず、また養蠶も行ふ。溪流に沿うて街道通じ倉吉町にバスの便あるも交通猶ほ便ならず。此地は和名抄、河村郡三朝鄕の地なるべし。本村はもと神中村と組合村なりしも大正六年合併し現在に至る。〔小鹿溪〕三朝川の支流小鹿川を溯ること八粁にてその溪口に達す。溪谷は本村大字神倉より同中津に至る間約四・三粁。その間西岸は巨巖絶壁をなし、清冽なる溪流は淀みては雌淵・雄淵等の淵となり、その水深何れも一三米以上に及び、激しては急湍となり、躑躅・石楠花の咲く頃より紅葉の頃は溪谷美に一層の美を加へ最も遊覽に適すといふ。

オジカ 小値賀島 →小値賀村(長崎縣)

オジカ 大鹿池 兵庫縣川邊郡伊丹町大鹿部落の西北部にあり、周圍二粁餘。いま瑞ヶ池と呼ばる。古の荒府池。蓴菜を產するにより有名。

オジカ 雄鹿原 駿河國(静岡縣)の歌枕。その地今の静岡市小鹿に當る。此地もと安倍郡豐田村の大字なりしも昭和三年静岡市に編入さる。源順家集「時しもあれをしかの原を秋ゆけばあつまなきへそこひ渡るへき」今川千首「朝立や小鹿の原の狩衣昨日の跡をけふもつなきて」小鹿の原野は往時日本武尊の草薙の狩場の遺稱ならんといふ。近年此地より石器を出土す。

オシカベ 忍壁 攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄有馬郡に忍壁鄕あり於之加倍と訓ず。其地今詳かならざるも、有馬郡藍村・本庄村等の地にして、藍村の大字上相野邊はもと藍莊と稱し忍壁上鄕の地なるべく、本庄村の井ノ草の邊が相莊と稱し忍壁下鄕の地なるべし。姓氏錄に「攝津神別、刑部首」とあるは此地に住せしものか。

オシキリ 押切

【押切村】山形縣羽前國東田川郡の西北部の農村。鶴岡市の北方約八粁。押切新田・三本木・落合・土口・對馬の諸部落を合む。藤島川と赤川とに挾まれし低地にて東は長沼、南は横山、北は廣野、西は西田川郡東鄕の各村に接す。庄内平野の一部にて土地低平地味肥沃、水田發達し水田の單一耕作地帶にて米產に富む。鶴岡市に至る縣道東北部に通じバスの便あり。大字押切新田は酒井氏の開墾政策により寛永年間に發達せし川岸の新田にして、横山村の大庄屋佐藤三右衞門の開發に係る。寛永四年横山村より分神せし鄕社愛宕神社あり。現在押切新田にては四日、十四日、二十四日に夜市開かる。聚落は赤川に沿ふ堤防の内側に分布し細長く連るも、此の附近の聚落は輪中に似、堤防に圍まる。大字土口は藩主酒井忠勝より百石を頂き開墾せし所と傳へ、古圖には土口新田となる。明治天皇東北御巡幸の際に加藤安興宅に御小休あらせらる。〔愛宕神社〕大字押切新田字街道表に鎭座。鄕社。祭神、火產靈神。江戸時代寛永四年の勸請といふ。爾來近鄕一帶の尊信篤し。例祭、陰曆五月廿四日・十月十四日。

【押切】信越本線の一驛(明治三十四年設置)。新潟縣南蒲原郡中之島村押切新田にあり。

オシクマ 押隈 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄武射郡に押畏鄕とあるは押隈鄕の誤なり。同書は畏を岡くも於志久萬と讀むべし。其地今の山武郡大總村・二川村等の地に當り、大總村の大字牛熊は押隈の轉訛せるもの。近世は高谷鄕の稱あり。

オシクマ 押熊 →平城村(奈良縣)

オシドマリ 鴛泊村 北海道北見國利尻郡利尻島の北部。宗谷支廳管下。東南は鬼脇村に、西北は沓形村と界し、西北は海に臨む。利尻火山(一七一八米)の北斜面に當り、高度五〇〇米以上は急峻にして、闊葉樹林蓊茂し、之より裾野は圓錐形斜面を展開し、針葉樹林を見、西部本泊・ホロフンベ附近には草原をみる。海岸は急崖にして、好錨地少きも、鴛泊灣の西部ペシ岬に、連結砂嘴發達し、東方野東岬との間に鴛泊灣を擁し島內第一の良港をなし漁船の出入多く、漁業盛にして鰊・鱈・昆布・烏賊等の產多し。島內は海岸に沿ひ街道通じ赤沓岸航路あり、更に西北の禮文島及び天鹽・稚內兩港に航路通ず。ペシ岬の端に鴛泊燈臺(明治二十五年設置)を置き、燈質は閃白光にして光達距離二二・五浬、航海に便ならしむ。此地古くは文獻の徴すべきものなく詳ならざるも、もとアイヌのすでに住居せしことはアイヌの現存することにより知らるべし。本邦人の來住せしは天明年間といふ。文化二年近江人藤野四郎兵衛松前藩より利尻島の漁場請負を命ぜられ來住す。同五年露人の南下あり宗谷海峡にて我船舶の掠奪の難に遭ふことしばしばなりしを以て德川幕府は會津藩をして此地に住せしめ其守備の任に當らしむ。今當時の戰歿志士の墓あり、村は明治三十五年二級村、大正十二年一級町村制を施行し、鴛泊村・本泊村の二大字より成り役場は鴛泊村に置く。

オシヌミ 忍海 →忍海(郡)

オシノ 忍野村 山梨縣甲斐國南都留郡の中部。富士山の東南麓に位し山中湖の北約四粁。四面山地を成し中央に盆地を形成す。山中湖より出づる桂川、村の西部を北流し其灌漑を得て水田拓く。米麥を產しまた山麓地帶には桑園多く養蠶行はる。里道四方に通ずるも交通の便よろしからず。大字内野・忍草は富士箱根國立公園の内。〔忍野八海〕指定天然記念物。富士五湖と同じく曾て火山堰止湖たりし忍野湖(今の忍野盆地)を涵養せし地下水の湧出口が湖水涸渇後も尚ほ現存せるものにして、今は八個の湧泉となり各停滯して八個の小池をなせり。この事實は現時の富士五湖が熔岩流の下より湧出せる地下水によりて涵養せられ居るを暗示するものにして、自ら地質學上貴重の資料たり。〔忍野の鷹丸尾針樅純林〕熔岩流上に寄生する原生林にして樹齢數百年の老木一六・二五二アールの面積を蔽ひ、枝葉の間にはサルノチカセを懸垂し、富士山麓植物景觀中一異彩を放つ。〔小佐野の瀧〕一に鐘山の瀧と稱す。富士淺間神社の東南二粁、山中湖に向ふ道路の傍にあり。山中湖及び忍野の湧水を集めし桂川は此處に至り檜丸尾の熔岩流を越え、二段の瀧となる。その幅一四米半。その東に接する小丘を鐘山と稱し、富士公園と名づく 〔忍草鑛泉〕大正七年の發見に係る。泉質弱アルカリ性。加熱浴用、療養に適す。〔承天寺〕大字内野にあり。臨濟宗妙心寺派。醫王山と號す。開基は渡邊美濃守、開山は江戸菩薩寺の火岩和尚。本尊藥師如來、脇士日光・月光の二佛。元和年中美濃守の子庄左衞門罪ありて追放され、駿河御廚に幽棲す。嗣子某薙髮して深藏主と號し寛永六年故鄕の當山に入る。のち藏主の哀願により庄左衞門赦免され、駿河より歸りて剃髮し無庵道有と號し、所地悉く當山に寄す。

オシノ 押野

【押野】→尻岸内(北海道龜田郡)

【押野村】石川縣加賀國石川郡の西部。金澤市の西南約三粁。南は野々市町に隣る。本村は金澤平野の一部に位するを以て全村土地低平にして耕地拓く。省線北陸本線金澤市より來りて西南松任町方面に走り、村内に西金澤驛(大正元年設置)を置く。また社線金澤電氣軌道これと接續し押野驛(大正四年設置)を置く。主生業は農にして米を多產す。此地或は和名抄石川郡三馬鄕の內か。中世富樫家善の裔この地に居して押野氏を稱す。

オシノミ 忍海(郡) 大和國(奈良縣)の古郡名。またオシヌミ・オシミともいふ。もと葛城國の一村名。履中天皇の皇孫忍海部女王(忍海飯豐青尊)の居住せられし地。後郡となり、續紀大寳元年郡名初て見ゆ。和名抄は津積・園人・中村・栗栖の四鄕を置く。明治二十九年葛上郡と合して南葛城郡を建つ。

オシハラ 忍原 東京市四谷區左門町の舊稱。寛永十年武州忍の城を松平豆州侯に賜ひし時、勤番の御家人を江戸へ召返され此地に宅地を賜ひしが其頃は廣原なりし故忍原と呼びしといふ。

オシバラ 忍原 島根縣邇摩郡にありし村。昭和四年本村を分割し其一部を同郡久利村に、他の一部を安濃郡川合村に編入。

オシベタニ 押部谷村 兵庫縣播磨國明石郡の東北隅。神戸市の西北約一〇粁に位す。南は伊川谷村・櫨谷村・平野村に、西より北は神出村に隣り、北は美囊郡に、東は攝津國武庫郡に境す。北部及び南部は低山性の丘陵を成すも、東南部に發源せる明石川は北方を迂回して西南に流れ其沿岸に狹長なる平地ありて耕地拓く。產物は米・繭・麥を主とし、また蔬菜及花卉・藁製品等を特產す。社線三木電氣鐵道の押部谷驛あり、また明石市及び神戸市に通ずる縣道ありてバスの便あり。古へは何れの鄕に屬せるものか詳ならず。地に住吉神社あれば、或は和名抄、明石郡住吉鄕に當るか。大字高和なる性海寺は眞言宗の古刹にして、峰相記によれば行基の弟子靜念上人に係るものなりと云ふ。押部の名は忍海部より轉ぜるものか。大同方に「播磨國明石郡、忍海部保曾目」など見ゆ。〔住吉神社〕大字細田字上垣内に鎭座。鄕社。祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命・氣長足姬命。創立年代を詳かにせざるも、地方の古社にして、永祿元年社殿を造營すと云ふ。江戸時代には德川幕府より十石の朱印領を安堵せられ、また藩主よりも五石の社領を寄進せらる。例祭、十月十三日。

オシホイ 忍穗井 伊勢國の舊井。天眞井・天長井ともいふ。外宮御炊殿の西、藤岡の麓にて御井社其の傍にあり。伊勢國造度會神主の遠祖天村雲命天孫降臨の折、天上より移せしものと傳ふ。風雅・神祇「世々を經てくむともつきし久方のあめよりうつすをしほ井のみつ 度會延誠」國花萬葉記・九「伊勢國の名景舊誌。をしほ井。天よりうつすをしほ井、高くらや麓にすめるをしほ井」

オシマ 小島

【小島原】武藏國の歌枕。今の埼玉縣兒

王部旭村に大字小島あり、此地なるべし。回國雜記「けふここになしまの原を來てとへばわかまつしまはほとそはるけき　道興」

【小島】　武藏國(東京府)の古地名。和名抄多磨郡に小島鄕あり、手之萬と訓ず。今その地詳かならざるも北多摩郡調布町の邊か。大字布田小島分あり、或は小島の遺稱か。

【小島磯】　丹後國(京都府)の古地名。今その所在詳かならざるも、新拾遺「とまりするなしまのいその波まくらさこそはふかめよさの浦風　通具」夫木・二二「あかつきやなしまの磯の松風にこゝろもかされよゆらの浦人　顯仲」等の歌意より推せば加佐郡栗田灣に面せる海邊なるべく、由良川の河口に當るならん。

【小島】　德島縣美馬郡三島村の大字。省線德島本線の一驛(大正三年設置)を置く。この地は和名抄、美馬郡大島鄕の地にして、小島は鄕名の轉化せしものなるべし。

【小島峠】　德島縣美馬郡にある峠。同郡半田町の正南約二〇粁、一宇村及び東祖谷山村の村境にあり。標高一三四〇米。此峠は北に流れる貞光川の支谷と、西流する祖谷川の一支谷、瀧下川との分水嶺をなす。西に間近く小島山(一三八〇米)聳え、東南は丸笹山(一七一二米)及び四國の高峯劍山(一九五五米)、西北は黒笠山(一七〇三米)の山嶺に連る。古來より貞光川の溪谷に沿ひ、一宇村と、東祖谷及び西祖谷村地方との重要な交通路たり。

【小島町】　熊本縣肥後國飽託郡の中央西部。熊本市の西約五粁、西は島原灣に臨む。坪井川は北部を、白川は南部を夫々西流す。此邊は近年の開墾になり全町土地低平なるも寧ろ濕潤に過ぎ耕地比較的發達せず。熊本市にバス及び電車の便あり。地海洋に面するを以て水產業盛んなり。古より水驛として發達す。此地は明治五年、明治天皇西國御巡幸の際、熊本縣に最初の玉歩を印せられし地にして、當時の行在所猶ほ存しいま明治天皇小島行在所として史蹟に指定せらる。また此地は昭和二年九月大潮害を蒙り大慘事を來しその復舊に數年の年月を要したり。〔千金甲古墳(甲號)〕　指定史蹟。町の西北方權現山の中腹にあり。乙號墳より更に上ること約四五米にて海拔二〇〇米に近く前面宇土半島を望み頗る景勝の地たり。圓墳にして石室に略々西面す。底面正方形にして方約二米半、高さ約二米、小割にせる板狀安山岩片を用ゐて積上げし壁は上部に到るに從ひて持送り穹窿を成す。壁に沿うて四周に高さ八五糎の阿蘇熔岩より成る屛壁造られ、屛壁內は更に三區に分たる。北・東・南の屛壁及び東壁(奧壁)に平行せる隔障の面には彩色を施せる彫刻紋樣あり。紋樣は上下二段に二重乃至三重の同心圓を太き刻線にて浮彫的に彫刻し、同心圓紋の間には二條の交叉せる直線を刻するも、奧の部分の屛壁にはこの上に別に靫の形象が重ねられて彫刻さる。彩色の顏料は朱・青及び岱赭の三色にて、朱色は石面の殆んど全面に塗抹せられ、青色顏料を以て靫の上部の筒の部分と同心圓の內圈等を彩り、靫の一部と同心圓の外圈等は岱赭を以て彩らる。〔千金甲古墳(乙號)〕　指定史蹟。乙號墳の四五米程の下部勝負山と呼ぶ丘陵鞍部に築かれし圓形墳なり。石室は羨道玄室何れも板狀安山岩の小割石を用ゐ、玄室は長さ幅共に約三米にして底面楕圓形を呈し、壁は上部に至るに從ひて狹まり穹窿を呈するも天井石は取去らる。玄室奧壁に接近して角閃安山岩より成る障屛あり、奧二枚、左右に各一枚、都合四枚の板石を立てたる上に大板石を載せて蓋と成し一種の石厨子を形成す。この障屛(石厨子)の四枚の石の內面に線刻にて十三個の靫の略描あり。その大多數は傍に弓を添へ、同心圓七個(的を表はせしものとの說あり)・頭椎太刀・鹿角製柄頭太刀と思はるゝものを刻し、尙は靫の上部にゴンドラ式の船も刻さる。これ等の刻線は朱と綠の二色を以て彩色せらる。この古墳の東北に一基、同じく南方の麓に近き高城山に一基ある石室古墳には裝飾紋樣なし。

オシマ　尾島　→水田村(福岡縣)

オシマ　渡島

【渡島國】　北海道の南方に突出せる渡島半島の大部を占むる國。北は後志・膽振の二國に接し、東は內浦灣、南は津輕海峽、西は日本海に臨む。中に函館市及び茅部・龜田・上磯・松前・爾志・檜山の一市六郡を含み、行政上は茅部以下の四郡は渡島支廳の管轄に屬し、日本海斜面の爾志・檜山二郡は檜山支廳の管下なり。明治二年函館戰爭も落着し東北地方靜謐となるに及び、七月開拓使を置き、舊松前藩以外の蝦夷地を治めしめ、八月蝦夷を改めて北海道となし、これを十一個國に分ち郡名をも定めらる。その時、舊松前藩の領地及び東海岸の野田追までを渡島國とし、これを七郡に分つ。卽ち舊松前領を福島・津輕・檜山・爾志の四郡に分けしも、後、津輕・福島二郡を合し松前郡と改む。而して東部地方を茅部・龜田・上磯の三郡とす。これより先、松前藩は明治元年十月後の檜山郡の中の館村に新城を築き、これに據りて館藩と稱せしが、二年六月版籍を奉還せり。館藩は四年七月の一般の廢藩置縣の際には館縣となりしも、九月には一旦弘前縣(後、靑森縣となる)に併せらる。これも五年九月以後開拓使の所轄となり函館支廳の管下となる。明治十五年二月開拓使を廢し、札幌・函館・根室三縣を置きし時には函館縣の管下なりしも、明治十九年一月三縣を廢し、北海道廳を置きてこれを府縣の首位に置き、その下に幾多の支廳を置くに及び大體現時の如くなれり。この地は蝦夷地の門戶に當り、阿倍比羅夫の遠征以來、交涉の最も深き地にて、國名の渡島といふも、彼が遠征せし渡島の名に據りしものと見るべく、殊にこの國には、五港といひし五開港場の一なる函館の良港を控へて居りしため、北海道文化はこの地を經過して奧地に傳播せしものなり。

【渡島支廳】　北海道十四支廳の一。北海道の最南渡島半島の東南部を占む。西は檜山支廳と界し、北は後志支廳に接し、東は內浦灣に臨み、南は津輕海峽を挾んで靑森縣と對す。行政上松前・上磯・龜田・茅部(以上渡島國)・山越(膽振國)の五郡を管き、支廳舍は函館市元町にあり。面積約三六八三方粁、人口一九五四四二人(昭和十年)。地形一般に山地丘陵多く平野に乏し。渡島山脈は北方後志より來り、半島を南北に縱貫して檜山支廳との界をなして二に分れ一は東南に向ひ龜田半島の中軸をなし、一は西南方に連なり松前半島の分水嶺をなし、前者は銚子岬にて後者は白神岬にて海に沒す。北部の長萬部・落部間の隘路は所謂長萬部地溝帶にして、之を森町に結び付け函館に延長せば、渡瀨氏の所謂函館地溝帶なるものにして、その西側は古生層を基盤とする第三紀層の丘陵地をなす。主要山岳には、北部に長萬部岳(九八二米)更に南下して花崗岩より成れる遊樂部岳(一〇五三米)を起し、之より山脈は渡島・檜山の界をなして東南に縱走して、乙部岳(一〇一七米)に至り、更に進んで渡島の中部に連なり、中山峠の北方より東南に向ひ、龜田半島の中部に橫津岳(一一五二米)・袴腰岳等の高峰を起し惠山に至り海に沒す。松前半島の基盤は古生層及び花崗岩の山塊にして、其後發達せる第三紀層と之を貫く火山岩によつて構成せらる。半島の中軸をなせる山脈は、中山峠より西南に向ひ、高度一般に低く、中山峠より稻穗峠に至る間は僅に五—六〇〇米に過ぎず。稻穗峠は、津輕海峽方面と日本海方面とを連絡する唯一の交通路となる。之より西南に向へば地形著しく高度を加へ、袴腰岳(六九九米)・七ッ岳(九五七米)を起し燈明岳(六一一米)・烏岳(六八四米)を經て本半島の最高峯たる大千軒岳(一〇七二米)に連る。大千軒岳は支脈を四方に派出し、南方に向へるものは千軒岳(一〇五三米)・百軒岳(七七二米)・松倉山(五六二米)を經て本道の最南端なる白神岬に達して津輕海峽に終る。大千軒岳より西方に走るものは檜山支廳との界に松倉山(六三一米)・木無山(八七八米)等を起し日本海に盡く。また那須火山脈は半島の東部を走り惠山・駒ヶ岳火山(一一四〇米)噴起す。Ｙ字形をなして連る山脈の爲に、河流は一は內浦灣斜面に、一は津輕海峽斜面に向ふも長大なるもの少なし。津輕海峽斜面に於ては、知內川を最長とし、源を大千軒岳・七ッ岳等に發して東流し、沿岸に稍廣き平野を作り、知內にて海に注ぐ。之に次ぐ大野川は桔梗平野を潤し、久根別川を入れ有川となる。其他函館市の北方にある龜田川、龜田半島の南部に於ける汐泊川等あり、內浦灣及太平洋斜面には長萬部川・國縫川・野田追川あり。遊樂部川は遊樂部岳・トヲルタップコップ岳に發し下流に肥沃なる八雲平野を作る。其他落部川・尾白川・折戶川等あり。湖沼には駒ヶ岳の麓に大沼・小沼・蓴菜沼の堰塞湖あり。平野は大野・龜田二川の灌漑する桔梗平野を著しとし、其他知內川・遊樂部川流域にも小平野を展開す。海岸は出入に乏しく僅かに函館半島突出して函館灣を擁するに過ぎず。松前半島の南端及龜田半島の東部には斷崖多く、汐首岬より狐越岬に至る間には砂濱發達す。從つて此方面に砂丘の生成多く函館市の東方、知內川河口附近最も著しく發達す。函館半島の如きは元來海中に孤立せる小火山島なりしが、その東方對岸より發達し來れる砂嘴の爲に連結せられて、一の半島と化し所謂陸繫島となりしものなり。尙海成段丘よく發達し、上磯附近汐首・小安間・落部等に於ては高さ六〇米に及ぶものあり。內浦灣方面にては野田追岬より砂崎に至る一帶の砂濱、及び砂崎より惠山岬に至る間は砂濱、懸崖相交錯す。本道中氣候の最も溫暖なる所にして函館の年平均八・五度なり。夏季は東偏風(山瀬といふ地方風)吹送して波浪高く曇天多けれども、ガスは却つて少なし。產業は農・水產を主とし、地方的に牧畜・工・鑛產も少なからず。大野川八雲町附近には農耕地開け米を始めとし大豆・燕麥・馬鈴薯・蔬菜等の收穫多し。殊に八雲町の澱粉製造は名高く德川農場は有名にして牧畜も行はれ煉乳バタの產あり。水產物は本道の五割を占める柔魚を始め鰛・鮪の他寒流產の鰈・昆布を多產す。山地には松前藩の森林政策宜しきを得、松・杉・檜等の用材・薪炭及び履物用の桐材を產す。那須火山脈の通過する所は硫黃の產出に富み鹿部・松倉・惠山は特に名あり。工業は殆ど函館市に集中せられ、船渠會社を始め製罐・セメント・製氷・船具・製網・漁具等の大工場あり、またゴム・肥料・木工品・製材などの生產を見る。上磯町には淺野セメント工場あり附近に產する石灰岩を利用して年產六百萬圓のセメントを製造す。函館市は本道の關門にして靑森市との連絡地たるのみならず、沿岸漁船の根據地、內外航路の中心をなす。函館本線は桔梗七飯の凹地を走つて森町に出で、是より內浦灣岸を長萬部に進み、更に北上して落部・長萬部地溝帶を黑松內に至る本道の表廊下をなす。五稜郭よりは江差線を岐ち上磯・木古內を經て裏渡島に至り、本線は風光地大沼を右にし水產の森町に

遏み、農牧地の八雲町を後に酒熊村にて渡嶋線を西に岐ち以て半島部の東西を連絡す。長萬部村よりは東に室蘭線を分岐し本線は地溝帶を北上して黒松内村方面に至る。沿岸航路には函館市・森町を中心とし又自動車交通路も次第に發達し就中本郷・江差間、木古内・福山間、函館・尾札部間等を主要なるものとす。

【渡島半島】 北海道西南部の半島。廣義には小樽—札幌—苫小牧より西南とする説あるも、石狩平野の一地里區、開拓の歴史、經濟、交通等の關係より室蘭—鉄山峠—積丹半島をもつて境界となすを合理的とす。然し、元來半島は地峡部或は地續部と高低との關係により決定せる例多きにより、渡部—長萬部の地溝以南を渡島半島とし、狹義には渡島國に限る。域内はS字狀をなし、東方に惠山岬突出し東に内浦灣を抱き、西方は日本海に面し、南は津軽海峡により本州島より分る。この半島は那須火山脈に當り、北部に狩場山（一五二〇米）を主峯とする狩場火山塊があり、南に駒ヶ嶽（一一四〇米）・硫黄山・惠山等の火山聳ゆ。東西兩海岸の交通は渡部—長萬部、訓縫—瀬棚の地峡及び大野川—厚澤川の谷により、南北路は大野—尾白内兩河谷により行はれ、山地はこれ等にて四分さる。即ち駒ヶ嶽山地・大千軒岳山地・大槍岳山地・狩場山地なり。半島東部は本州と北海道本體を結ぶ鐵道路に當り之を表通と稱し、日本海斜面の裏山地方は裏通といふ。裏通は冬季降雨多きも、表通に比べ温暖なり。産業中、水産漁獲高はイカ・イワシ・コンブ・マダラ多く、綿羊・豚・馬等の牧畜行はれ、マッチ軸木・製材・木製品等の特種工業が一般に盛なり。

【渡島山脈】 北海道渡島半島の脊梁山脈。北は渡部—長萬部の地溝帶を以て後志山地と分れ、主脈はS字狀を描きて長萬岳（九七二米）・涌樂部岳（一二七八米）・乙部岳（一〇一七米）・設計岳（七〇二米）・大千軒岳（一〇七二米）等を崛起せしめ白神崎にて津軽海峡に沒し、支脈は三九郎岳附近より東南東の方向をとり、一旦大沼の低地となるも、更に横津岳（一一五二米）・袴腰岳（一〇七六米）等となり惠山岬に終る。地質は大部分は第三紀層よりなるも、斷片的に古生層が露出し、諸所に火山岩の噴出が見らる。しかしこの山脈の勢居は低山性にて高峻のもの乏しきも、平地は狹小にして、又東西兩斜面の氣候的差異を顯著にす。かく島產に富む平野に乏しく山谷到る所海に迫り陸上の交通を不便ならしめ、その縱斷幹線とも稱すべき函館本線の全通も北海道中部諸線の開通に後るること久しく、その西側には開通もなく東南側海岸を連絡する長輪線の全通も近年に屬す。

【渡島海岸線道線】 北海道渡島國の東北部にあり。函館本線の森駅より東方海岸の砂原駅に至る九・四粁の私設鐵道線。

【渡島當別】 江差線の一駅（昭和五年設置）。北海道渡島國上磯郡茂別村にあり。

【渡島知内】 省線福山線の一駅（昭和十二年設置）。北海道渡島國上磯郡知内村にあり。

【渡島富士】 駒ヶ岳（北海道渡島支廳）の別名。

オシマ 雄島 御島・小島にも作る。宮城縣松島群島の一島にして松島町に屬し、灣の西岸に近く位し小松崎より渡月橋を架す。島中に松吟庵・月佛堂及び紙賢碑等あり。松島八景の一にて雄島の月照として名高し。元祿の頃俳聖芭蕉奥州を旅し鹽釜の浦より「給なかりて松島にわたる、其の間二里餘、雄島の磯につく」と奥の細道に見ゆ。古來雄島磯・雄島崎・雄島浦等と稱し歌枕として名あり。霞・歸雁・花・五月雨・雁・月・霧・砧・紅葉・時雨・氷・澤・松・みるめ・蜑・栲縄・釣・舟・岩・苫屋等の名所たり。新古今「心あるをしまのあまのたもとかな月宿れとはねれねものから　宮内卿」同「立かへり又もきてみむ松しまやをしまのとまや波にあらすな　俊成」續千載「のとかなるはるのひかりにまつしまやをしまのあまの袖やほすらむ　後京極」新千載「うき名のみをしまのあまのゆふけふりたてしとすれと浦風そ吹　有光」後拾遺「松島やをしまか磯にいさりせし蜑のそでこそかくはぬれしか　源重之」夫木・二五「ゆく那のなこりをしまのうらみても袖しほたるる春のあま人　行藤」好色一代男・三「松島や雄島の人にも、ぬれて見むと、身は神の石、かはく間もなき下の帶」

オシマ 小島 【小島村】 福島縣岩代國伊達郡の南部。月館町の南に隣り、西北は小手村に、南は川俣町・飯坂村・富田村に接し、東は相馬郡石橋村と界す。阿武隈山系に屬する太郎坊山（五五一米）は北境に、布引山（四三〇米）は西南に聳え、全村は殆んど山地又は丘陵にて中央南北に廣瀬川貫流し、その流域は小盆地狀をなし、この谷両及び丘陵地の斜面は經濟面をなす。農蠶業が主生產にて、產物中繭第一位を占め、米・麥之に次ぎ蒟蒻又少からず。縣道は中央の廣瀬川の谷を南北に通じこの地方の中心地たる川俣町・月館町・掛田町に定期バス通じ、省線川俣線川俣駅へ六粁、自動車の便あり。寛文四年以前は上杉氏の領地なりしも同四年以後は徳川幕府の直轄地となり代官此の地を治む。本村は明治二十六年小手村の大字小島獨立して一村となる。

【小島村】 岐阜縣美濃國揖斐郡の南部。揖斐町の西に隣る。西部村境は小島山（八六四米）等の山岳連亘して山地を成すも、東するに從ひて低下し東半は低平なり。東境を揖斐川東南流し、南境をその支流鮎川東流す。主生業は農業にして米・麥の產多く、山麓地には桑園多し。また特產物にニコボーキ・鮎あり。交通は揖斐町に近きを以て稍々便なり。村名の起原は今詳かならざるも、揖斐川・鮎川の間に挾まれし中洲なれば之より中島の名生ぜしならん。文和二年後光嚴天皇當國に行幸あらせられ、小島頓宮の跡今も殘れり。其の節圖自前左大臣從一位二條良基は院の勅書を賜はり、御後を慕ひ奉り頓宮に何候す、その日記に「小島之濤佐美」あり、此の當時より小島の名現はる。此地は和名抄、揖斐郡小島郷の地にして吉野朝爭亂の頃土岐頼康此地に居り、文和二年後光嚴天皇京都の亂を避けて此地に行幸し給ひし時、本村の瑞岩寺に宿らせ給ひ、翌日本村の大字白樫の頓宮に入らせ給ふ、これを小島頓宮といふ。いま大字白樫に白樫城址・小島頓宮址あり、又浮田秀家の隠れし地なりと傳へられ、春日局も此處に生れしと傳ふ。大字黒田は元黒土と書き享保年間黒田と改む。此地は駿河の府中城主今川義元、駿遠三の兵を率ゐて桶狭間に戰ひし時之に從ひし重臣岩井能登守薫原成正の發詳地たり。成正桶狭間に討たれし時、一子大炊助薫原正友逃れて祖先發詳の地たる黒土に來り住せりと。〔白樫城〕應仁の頃土岐成頼の臣利永あり、其子孫齋藤利安（長井氏にして長弘ともいふ）子利賢來りて住す。享祿三年家臣西村勘九郎（のち齋藤道三）の爲に獄せらる。子利賢仇を討たんとせしも主、土岐頼藝許さず。其孫阿福は稍葉家に嫁し、のち三代將軍の乳母となり從二位に進む。即ち春日局なり。今その邸址を角の御前屋敷と稱す。〔小島頓宮址〕大字白樫及び大字瑞岩寺の二箇所に頓宮址傳説地あり。今遽に何れとも決し難し。共に明治四十年碑石を建設す。正平八年六月將軍義詮、南軍の來襲を避け後光嚴院を率ひて近江より美濃國垂井に走り次で小島頓宮に幸し御駐輦あり、八月二十五日垂井頓宮に遷らせられる。この間當國守護土岐頼康頓宮を造營して迎へ奉り小島城により守衛す。同村瑞岩寺地内にある瑞嚴寺は後より小島頓宮に何候したる圖自二條良基の宿所に充てらる。〔二之宮神社〕大字上東野に鎮座。郷社。祭神不詳。創建年代を詳かにせざるも、土岐氏の一族二宮氏この地に住居し、本社を氏神として祀ると云ふ。もと小島新宮とも稱す。近郷七ヶ村の總産土神として村民の崇敬篤し。〔瑞嚴寺〕大字瑞岩寺にあり。臨濟宗妙心寺派。萬松山と號し、後醍醐天皇の朝美濃國守護土岐頼康が曾大林を請じて本寺を創す。後光嚴院の行幸より名著れ後勅願を賜へり。養蠶祈禱會には農家の參詣者多し。土岐氏の書提所にて寺の後方に土岐頼清及び頼康の墓あり。

【小島】 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄、板野郡に小島郷あり。乎之萬と訓ず。其地今の板野郡應神村に當るか。應神村の大字貞方に小島なる部落存すといふ。東鑑、壽永三年三月の條に池大納言領に阿波國小島莊あり、此處なるべし。

オジマ 尾島町 群馬縣上野國新田郡の南部。利根川の左岸に沿ふ。北は木崎町に隣り、太田町の西南約六粁、境町の東約六粁に位す。全町土地低平且つ利根川による灌漑の便良く、到る處に水田・桑園拓く。交通は社線東武鐵道木崎駅（約二粁）にバス通ずるのみにして未だ便ならず。主生業は農業にして米・繭を多產す。此地は和名抄、新田郡沖野郷の内に屬せしものか。町名尾島は古は小島にも作り利根川に沿ふを以て古來屢屢洪水横溢の災を受く。大字大館の名は新田氏の館邸ありしより名付けられしものか。新田又太郎政氏の弟家氏、此地に居して大館次郎と稱し、其子宗氏は義貞に從ひ鎌倉極樂寺合戰に死すと。また岩松文書、持國當知行分の中に堀口郷見ゆ。堀口郷は蓋し大字堀口の地なり。大館家氏の兄を堀口次郎家貞といひ、其孫貞満、大館氏明と共に義貞を輔けて武功を樹てしこと諸書に見ゆ。即ち在名を負ひしものなり、大字岩松は新田藏人義純の時兼居して岩松氏を稱せし地。これより子孫世々此地に居すと。〔八幡宮〕大字岩松字千歳に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・倭建命・市寸島比賣命外二神。創立年代不詳。中世新田氏の崇敬社にして、又近郷の產土神として崇めらる。例祭。八月十五日。〔清蓮寺〕岩松にあり。時宗。岩松山と號し一に岩松道場と稱す。當山六郎義純、新田氏遠祖義國の那址に開創する所なりといふ。因りて義國院ともいふ。新田氏の一族多く戰歿せしが、其中世良田有親・親氏等は逃れて、のち偶々本寺に掛錫せる尊觀の門に入りて得度す。爾來本寺從來の臨濟宗を改めて時宗の寺院となれり。〔金剛寺〕眞言宗高野派。舊新田莊の古刹。開基は岩松直國。境内に正和四年・元徳元年・貞和二年の板碑あり。〔安養寺〕大字安養寺にあり。明玉院と號す。新田義重の建立と傳ふ。〔明應院〕 大字安養寺にあり。新義眞言宗豊山派。源頼義、後冷泉天皇の勅を奉じて金佛不動尊を當寺の安養寺に安置す。之れ即ち當寺の濫觴たり。後荒廢せるを新田義貞再建し現寺號を稱す。康暦年間足利氏の兵燹に罹り慶安年中再興す。境内に本堂・二重塔あり。

オジマ 雄島村 福井縣越前國坂井郡の西部。東南は三國町に隣り、西は海に面す。村内丘陵起伏し概して山地を成す。西北部安島崎となりて海に斗出し、其海上二—三百米に小島雄島浮ぶ。沿岸は概ね低平にして部落點在す。村民の大部は水產業に從事す。猶ほ米・麥・葉煙草を產す。此地は古來形勝の地を以て知られ、東尋坊・安島崎・雄島等を其勝地とす。また此地より、蝦夷住居時代の鏑（鈎の内側に曲りたるもの）及び石斧を屢々出す事あり。〔東尋坊〕指定名

勝天然記念物。此邊一帶の海岸は奇岩怪石峭壁の如く相連りて日本海の蒼波に映じ、北方に斗出せる安島岬よりその岬頭に浮ぶ雁島に至る間は自然の妙巧を現出す。この奇勝は此地方を被ふ安山岩の海蝕作用を受けし結果にして、いはゆる東等坊の七夕池と稱せらるる邊は特に著しく、その池壁をなす安山岩は柱狀節理を呈し神斧鬼鑿の絶壁をなす。節理は三角形或は六角形をなし、魚鱗の方向は水平面に直角、節理面には短冊形の弱長石・角閃石等の結晶あり。先年三國港波止場の修繕工事に使用するため此處の岩石の多くを運び去られしも、東北部一帶に尙ほ其奇勝を存す。（丸岡藩砲臺址）指定史蹟。大字髙の海濱に臨める低き丘上にあり。五箇所に銃眼を有する延長約三〇米、高さ約二米半の壁壘完存す。壁壘の外方及上部は土壘にして、內面は石造なり。幕末沿海防備のため、丸岡藩の築造にかかるものにして最西端の銃眼の內面に嘉永五年春、栗原氏の銘あり。栗原氏は通稱源左衞門、高島紋帆の門人にして藩の砲術家たり。（大海神社）大宇安島に鎭座。郷社。祭神、事代主神・少彦名命。創建年代詳かならず。往昔異國の舟當國（淺來したる時、當社の神、松原之岡（いま松原の陣ヶ岡また廣野とも云ふ）に於て雷鳴を顯し異蹟を退治し給ふ。後この事文武天皇の叡聞に達し、大寶元年二月勅使當浦へ下向し、三千七百石餘の社領を寄せられ、それより弓矢神と稱し諸人崇敬新願の際は弓矢を奉納する事今以て例とす。天正年中織田信長當國へ發向の砌、社殿悉く燒かれ、剩へ社領等すべて沒收せらる。其後、國守松平忠直の時に由緒など取調べ社領二十石寄進あり。それより代代崇敬せらる。當社は海上守護の大神として當港へ輻輳する船方等は必ず參詣し神前の矢の羽を以て航路の危難除と稱し、矢の羽を享くる者絶えず。境內約十ヘクタール（二萬九千九百坪餘）。例祭、四月二十日。

オシマダ　小島田村　長野縣信濃國更級郡の東北部。長野市の南約六粁。東南は千曲川を隔てて埴科郡に境す。即ち川中島の域內に屬す。全村土地低平にして田畑拓く。縣道村の中央をほゞ南北に走り長野市・須坂町・松代町・篠ノ井町等にバス通じ交通不便ならず。主生業は農にして米・麥を產す。此地は和名抄、更科郡池郷（高山寺本は以計に作る）の內なるべく、延喜式神名帳の信濃國更科郡の官社頭氣神社は村內にありて池宮明神と稱す。土人の說によればこの地は武田・上杉の古戰場にして、殊に八幡原・陣場原は永祿四年の大血戰地なりと。即ち村內の馴谷橋につきて次の傳說あり。永祿四年越軍一萬三千の大軍曉の霧に乘じ甲州軍に迫る。此時勘助入道山本晴幸は兩國千戈を交へて十五年、未だ一度も敵の軍機を見誤りし事なかりしが、かく敵軍を近づかしめしは運命なりと長嘆し、部下と共に目に餘る敵軍に突進して鋒槍無盡に敵騎十數騎を殺せしも自身も九箇所の傷を負ひ、しばし刀を休めし所に敵將四人に齡にて突かれ死せり。家臣は眼前に主君の首級を取らるるを無念に思ひ陣中に飛び入り其の首を得、死骸を等れて此橋の上にて首と胴を合せりと傳ふ。（頭氣神社）大宇頭氣に鎭座。村社。祭神、頭氣神・事代主神・建御名方命。創立年代不詳。延喜式內社に充つる說あるも西寺尾村に同名の社あり。もと池宮大明神と稱す。また三代實錄、元慶五年十月從五位下を授けられし池生神に充つる說もあり。例祭、一月七日・三月十四日・七月二十七日。

オジマヤ　小島谷　新潟縣三島郡島田村の大宇。越後線の小島谷驛（大正二年設置）あり。驛より約五五〇米、除皇寺の境內に良寬上人の墓あり。

オシミ　忍海

【忍海郡】→忍海（郡）

【忍海村】奈良縣大和國南葛城郡の北部。御所町の西北に隣る。北は北葛城郡及び高市郡に、西は葛城山脈により大阪府と界す。西部は山地なるも、東部は平坦にして葛城川これを灌漑し田畑拓く。省線和歌山線の御所驛に近く交通不便ならず。主生業は農業にて米・麥を多產するも、また實蠶業に從事する者多し。古くは和名抄、忍海郡中村郷の地に當るか。顯宗天皇帝位に上らるるまで飯豐青皇女がしばらく朝政を聽き給へる角刺宮は、大字忍海に當るといふ。大字笛吹の笛吹山に式內葛木坐火雷神社あり、通稱笛吹社といふ。笛吹山より波々迦水を產す。此水は上世、卜をなす時鹿の肩骨を燒くに使用せるもの。また古くは笛吹の梅室に笛吹の池ありと。古今六帖に「笛吹の池の堤は遠くともちかくとひなはわすれさらなん」（葛木坐火雷神社）大宇笛吹に鎭座。郷社。祭神、葛木坐火雷神・天香山命・天津彦火々瓊々杵命。火雷神は伊邪那美命の御體に成れる八つの雷神の一にましまし、天香山命は笛吹連の祖神なり。崇神天皇十年に笛吹連の祖先櫻子の戰功を賞し、天磐笛を賜ひ笛吹連の姓を賜りし時、その夜瓊々杵尊夢に現はれ神託ありし故に共に奉祀すと云ふ。中世以後に笛吹神社と稱し終に當社とは別社の如く誤られ、大和誌・同名所圖會に笛吹明神の傳に在すと記す。明治七年三月舊稱に復し葛木坐火雷神社と稱すに至る。延喜の制名神大社に列し忍海郡三座の一として新年・月次・相嘗・新嘗の案上官幣に預る。凡そ朝廷に事あるごとに當社より波々迦水を貢進すと云ふ。笛吹山に神城し葛木山麓に位し、東面すれば南は大臺ヶ原山より起り、北は生駒・信貴等の諸山駢々たるあり、近くは奈良一帶の平野を望み、畝火・耳無・香久・

三輪山等の名蹟點在するを觀る。例祭、四月十九日・十月二十五日。

オジメ　緒占山　諏訪湖の東北方に位する山。長野縣小縣郡和田村と諏訪郡下諏訪町の境界なる和田峠（最高點一五三一米）の西方に聳ゆる圓錐峰。北方は三峰山（一八八七米）に連り、南方には雲ヶ峰（一七九八米）峙つ。山頂に噴火口跡と思はるる淺穴あり、火山岩の礫砂を以て覆はれ、草木を生ぜず。山中諸處に同樣の小穴あり。舊火山岩の礫砂中より往々石櫛石を見出す。黑色にして赤色の斑點を有し、透明ならざれども光澤甚だ美にして、本邦產の中隨一とせらる。古來緒占石として珍重せらる。山名これより出づ。

オジヤ　小千谷町　新潟縣越後國北魚沼郡西部の町。信濃川の左岸にあり、東に川口村・古志郡六日市村、南に山邊村・吉谷村、西に城川村、北に千田村等あり。町域は信濃川舊河床曲流地にして、土地低平、船岡山（一〇四米）は段丘にして曲流によりとり殘されしものなり。町は魚沼三郡の門戶に當り、渓口集落として古來繁榮し、小千谷鯰の名產あり、近時は麻糸田の產全國第一位にして、十日町と共に地方織物の中心市場たり。省線上越線は河の東に沿うて通じ、小千谷驛（大正九年設置）の開設により長岡市・新潟市・關東地方との便を增し、省線十日町線により長野方面と、省線魚沼線により來迎寺町と通じ、交通便なり。織物工業の發達に伴ひ地方中心町を形成し、いま警察署・縣桑樹試驗場・縣麻織物試驗場・稅務署・中學校・高等女學校等あり。また五智院・極樂寺、鯰布の始祖を祀る鯰布堂（明石堂）・スキーの好適地船岡山等の名勝地あり。此地は魚沼三郡の咽喉を扼し古來領主は支配所を置き魚沼郡を統治すといふ。古くはアイヌの住せしものの如く町內に稻荷町の地名殘れるを以て想定さる。チヂヤはアイヌ語のオチヤシより起りしものなるべし。オは川口を意味しチヤシは城又は砦の義にて川口城の意なるべし。當時アイヌ人は此地を要害堅固の地として砦を築きその附近にイナホを捧げイナニを信奉せしものにてイナニが後に稻荷社の起源となりしものならん。此地の鯰布は、寬文年中播州明石の浪人佐藤（明石）次郎、妻子を伴ひ此地にて鯰布を織りて生活し、近隣の婦女之を習ひ現在の發達を見るに至ると傳ふ。この小千谷鯰に苧麻の生地を能く紡績せしものにして鞍布の上品なるものとす。然し此織物の發達は又一面冬季に於ける此地の積雪の多きに依存し、布は雪を以てさらすといふ。また本邦科學史の異彩にして地理舍密の窮理を研究せし廣川德三郎（贈從五位）は此地の人なり。里見八犬傳・七ノ七「越後州苅羽郡、小千谷の郷に旅宿をせしに、あるじは駒聖源八と呼ばれたる、体儀なれども角力の最手也」同・八ノ一「這言よりして小千谷まで、一二里の路にはあらず、況千曲の夜河あり」（二荒神社）郷社。祭神、事代主命・建御名方命・大物主命外二神。創立年代を詳かにせざるも室町時代の古社にして、上彌彦十八米社の一に數へられ、文明五年領主長尾景虎は諸役を免じ、社領を寄進す。江戶時代以降全町の總鎭守として一般の尊信絶めて篤し。（五智院）新義眞言宗智山派。慶運四年僧泰澄の草創と傳ふ。もと稗生村にありて末寺百餘を有せし地方の名刹たりき。（極樂寺）眞宗本願寺派。古本山と號す。永正八年の草創。開基は麻田行專。もと信州飯田郷にあり、天正年中に一之宮村、尋いで二荒神社の社側に移り、慶長初年上杉家遺臣の一揆敎化に功あり。同七年今の地に移る。本尊阿彌陀如來。勝士金胎大日如來。（明石堂）大宇小千谷極樂寺境內にあり。小千谷驛の西約五粁。此地の特產鯰布織の始祖明石次郎の功績を記念し建立せしものにて鯰布堂ともいふ。

オシヤク　御積島　山形縣飽海郡にある島。酒田市の西北、日本海中にある飛島の西約一粁。本島は石英粗面岩の一大岩礁にして最高七七米。西北面に海蝕洞窟あり。その內に遠賀美神社を祀り、洞奥壁面は鱗紋狀の燒灰土より成る。また本島は海ネコの群棲地として知らる。

オシヤマンベ　長萬部

【長萬部村】北海道膽振國山越郡の北部。渡島支廳管下。南は八雲町に接さ、北は壽都郡黑松內村に隣り、西は瀨棚郡利別村と界し、東は內浦灣に臨む。土地南北に長く、渡島山脈に屬する寫萬部山（四九九米）北境に、長萬部岳（九七二米）・坊主山（五四四米）・ルコツ岳（五三二米）等西境に連り東南に傾き、河流は之等の山地より出で東南流する必察河・長萬部川・紋別川・國縫川・ルコツ川・ヲルイ川等あり。長萬部川流域及び海岸との間に多少の低地あれど地味瘠して肥沃ならず。北部と南部には高度四〇米、一—二〇〇米の幼年期の開析浸蝕面あり、畑地・牧場となり、農林省膽振種馬所・農場あり。農產には麥・馬鈴薯・大豆等あり。內浦灣は砂濱をなし地曳網に適し沿岸漁業行はる。其他林產・香產あり。最近鴛鴦の金銀鑛山の採掘盛なり。函館本線南より海岸線に沿うて來り國縫驛（明治三十六年設置）にて西に瀨棚線を分ち、更に北上して中ノ澤驛を過ぎ長萬部驛（明治三十六年設置）に至り室蘭本線を東に岐ち鴛鴦驛（大正十二年設置）を置く。函館本線は長萬部驛にて海岸より離れ、地溝帶に沿ひ二股・蘆信の二驛を過ぎ黑松內に向ふ。長萬部は重要交通驛にて、函館に一一二粁、急行二時間餘にて達すべく、札幌に一一七四粁、約五時間を要し、室蘭へは八五粁、四時間の所にあり、國縫驛より岐れる瀨棚線は稻穂峠を越え、利別川に沿うて日本海岸の瀨棚に向ひ、半島部の

東西兩岸を結ぶ重要交通路たり。村名オシヤマンベはアイヌ語にてヒラメの居る處の意にして、ヒラメ又はカレヒの豐漁の憑なりとも、或は春季長萬部山の殘雪比目魚の形に似たる故ともいふ。大正二年一級町村制を施行し長萬部・静内・紋別・トマムナイ・國縫・知來別・ホロナイ・上國縫の八大字よりなり長萬部に役場を置く。〔南部陣屋址〕 長萬部郡の西方半粁、長萬部村坊主山の麓にあり、内外二重に繞らされたる土塁殘存す。安政年中、ペルリ來航の當時、幕府南部藩に命じて築造せしめ、ここに番所を置き、物頭久嶋三藏なして駐在せしむ。陣屋址の一隅に飯生神社あり。附近の畑地には竪穴の遺址も見られ、石器時代の遺物を發見する事あり。〔長萬部舊土人部落〕 長萬部郡の東北一粁半、宇川向にあり。海岸の砂濱に戸數二五、人口一一〇人、多く漁業を以て生活し、出稼するもの多く從つて人口は季節により多少の消涸あるも、内浦灣有數の土人部落なり。部落内にあるエカシ・ケンル（祖先の建い家の意）と名付けらるるものは、構造樣式凡て舊土人家屋古來の狀態を保存し且つ示現する爲に、近來新に長萬部村の有志により建設せられたるものなりと。プランは長方形にて、柱桁立、屋根茅葺、四壁は同じく茅を以て造り、屋内は床無くして土間に長方形の爐あり、壁際の周圍に寢臺と日用品・寶物類を並置せる臺床あり。母屋の西南には、差掛けの小屋を附屬し、内部は土間となり、出入口は南方に開く。母屋の東側には、神に供物を捧ぐる最も神聖なる東窓あり、南側には、大形の窓二個を設け、西側にも小窓あり、東窓の屋外には祭壇を樹て、また熊檻・倉庫・便所等を周邊に設く。家屋の前面は、古來舊土人により食用・藥用に供し又衣服等の材料にも用ひられたる野生の草本を栽植し居る等、舊土人研究上の好資料たり。〔二股石及二股温泉〕 二股温泉は長萬部村の北部函館本線二股驛の西方九粁長萬部川の上流にあり。四周原生林を以て蔽はれ、放射性石灰華（二股石）の段丘上の絶壁より温泉湧出して溪谷を流れ、結晶沈澱し、幅二二米、長さ五四米の丘狀をなして堆積し壯觀極まりなし。温泉は鹽類泉に屬し、温度三十八度乃至四十九度、リウマチス・皮膚病・創傷・結核性疾患等に效ありと。〔静狩鑛山〕 長萬部村大字静狩にあり、静狩金山會社の經營にかかり小鉢岩・鐵文の二支山を有し、採掘鑛區約九二三ヘクタール、安山岩及凝灰岩發達し鑛床は裂罅充塡、含金銀石英脈にて昭和九年の產額金二四萬瓦、銀約一一六萬瓦、金銀鑛約二千瓩之等合して九十三萬圓を擧ぐ。〔静狩泥炭形成植物群落〕 指定天然記念物。大字静狩にあり。静狩泥炭地は、高位及低位の泥炭より成り其の面積合して七二九ヘクタール、其内指定されし區域は約五六五ヘクタール。該原野は地質時代より特異なる發達を遂げ、花草に富み夏季の光景最美なり。両してこれ等植物景觀により分類すれば、オホイヌノハナヒゲ泥炭地、ミヅゴケ泥炭地の二なりとす。前者はオホイヌノハナヒゲ、後者はミヅゴケを主植物とす。されど附帶植物は殆ど同一にて、即ちツルコケモモ・ヒメシヤクナゲ・イヌツゲ・ミヅトンボ（コトンボサウ）・モウセンコケ・ホロムイスゲ・ミヅオトギリ・エゾクリンザウ・アギスミレ・ジロバナノナガボノワレモコウ・カラフトカサスゲ・ヌマカヤ・コジロネ・ホロムイイチゴ・ムラサキミミカキグサ・コアニナドリ・ホロムイコウガイ・ヤチスギラン・サハラン等なり。泥炭層の深さは所により多少の差あるも一般に深く殆ど全區三・六米以上に達す。地域内の沼地にある浮島は風と共に移動離合す。〔長萬部岳〕 長萬部郡（内浦灣の西岸に位し、函館本線より室蘭本線を分岐す）の北西方約二十粁に位する山。北海道渡島支廳山越郡長萬部村と檜山支廳瀬棚郡利別村の境界に跨り、標高九七二米。東斜面より長萬部川源流し、東南流して内浦灣に注ぐ。西南方には利別川を隔てカニカン岳（九八一米）對峙す。東南麓に蘭越温泉湧く。オシヤマンベとはアイヌ語にて比目魚の義にして、春季この山に比目魚の形をしたる殘雪生ず、附近の里人はこれによりて適期を知ると云ふ。よつてこの山にウバシシヤマンベ（雪比目魚）の別稱あり。

〔長萬部川〕 北海道膽振國山越郡を流るる川。後志國瀬棚郡と膽振國山越郡との境界なる長萬部岳（九七二米）に發源して東流し、蘭越ノ温泉の北を過ぎて、下長萬部に至る。これまでを二股川と呼び、ここにて知來川を合せて長萬部川と云ふ。下流にはチバルベツ・中川原の低平なる段丘發達し、農業に適す。長萬部に於て海に注ぎ、流程約二十粁、本流及び知來川の流路は函館本線の位置を決定し、廣岱驛附近は分水嶺著ならず。言無内川は北流せる歌才川の上流を爭奪せしものの如し。

オショー　和尙（おしう）

〔和尙岳〕 和尙山とも云ふ。安達太良山（一七〇〇米）の南麓。郡須火山脈沼尻火山群の南端峯にして、これより南方は廣大なる扇狀の裾野をなす。磐梯安達郡の北西方、玉井村と高川村の境界に跨る。標高一六〇二米にして輝石安山岩より成る。山頂より東面すれば東麓を東北流する阿武隈川に沿ひ、南方より北方に かけ郡山市・二本松町・福島市・飯坂町の街區を指呼し、北面すれば沼尻火山群の諸峯の彼方に吾妻山の群峯を望見し、西面すれば弊棹山、西南面すれば猪苗代湖を眺む。標高甚だしく大ならざれども山頂は强風に襲はるるを以て高山性地貌を呈し、五葉松は偃松の如くに蟠曲す。

二の附近は冬季スキー登山試みらる。

〔和尙山〕 和尙山（大分縣 の別稱。

オショーシュー　和尙洲（おしうしう）

→和尙洲（臺灣臺北州）

オショーダン　和尙壇山（おしうだん）　阿武隈山脈南部の一峯にして、準平原地帶の南端部に位す。茨城縣多賀郡關本村の西北部に發え、東方は福島縣石城郡との境界、西方は東白河郡との境界に近し。標高八〇四米。平坦部は草生地をなし、西北麓四時川の水源地には山小川の小部落あり。四時川は東流し、その浸蝕地には水田・畑地發達す。南方斜面に鋼太郎坂の峻坂通ず。

オショロ　忍路郡（おしころ）　北海道後志支廳管下の一部。北は海に面し、東は小樽郡、南は余市郡に接す。行政上は豐谷一村のみ。南境に毛無山（六七二米）あり、北部に第三紀層の丘陵地、南部は火山岩にて構成さる。忍路の小牛島東北に突出し、カブト岬に終る。漁獲物多きも農產物少く、聚落は臨海性なり。※豐谷村

オシジロ　小代村（おしろ）　兵庫縣但馬國美方郡の西南部。東より南にかけて村岡町・兎塚村・熊次村に、北は射添村・八鹿村に尖々隣り、西は鳥取縣八頭郡に境す。東方に潛川山・鉢伏山等聳え村内縱れ山地を成すも、矢田川南部に發源して北流し中央は稍〻低平にして耕地拓く。發蕾業最も盛にして米・蓼の產これに次ぎ蔬菜及び花卉・三椏等を特產す。古くは和名抄、七美郡小代郷の地なり。中世は小代莊につくる。建久二年の文書に莊號見え、後白河院長講堂領なり、弘安八年の帳には、小代莊、田三十八町餘、領家近衛殿と見ゆ。延喜式神名帳の小代神社は大字秋岡に鎭座し、同じく多他神社は大字忠宮にあり。また小代及び大東鑛山ありて金銀鑛を產す。〔多他神社〕 大字忠宮に鎭座。村社。祭神、素盞嗚命。創立年代不詳。延喜式内社にして古來近郷の氏神として崇敬篤し。例祭、九月一日。〔小代神社〕 大字秋岡に鎭座。村社。天照皇大神を祀る。創立年代不詳。延喜式内社にして、また郷民の尊信篤し。例祭九月十六日。

オズ　小津村（おづ）　滋賀縣近江國野洲郡の西南隅。守山町の西に隣り、北は玉津村に接し南は栗太郡に境し、西は琵琶湖に面す。全村土地低平肥沃にして耕地拓け米・蓼・菜種等を產す。守山町にバスの便あり。古くは何れの郷に屬せるものか不詳なり。中世、田中莊・湯生莊・玉津莊に分れ、所領區々たりしも、永祿年間織田氏に屬し、豐臣・德川を經て明治維新の際大津縣に附せられ、のち滋賀縣に入る。小津とは御上の一荘津にして、大津に對するにや。縣社小津神社及び古刹名刹多し。大字金森は金森氏發祥の地とす。土岐氏の族にて、長近最も顯はれ、信長・秀吉・家康に歷任し美濃上有知六萬石を食む。〔小津神社〕 大字杉江に鎭座。縣社。祭神、宇迦之御魂命・須佐之男命・大市姫命・玉津姫命。一說に倭建命の御子足鏡別王を祀るといふ。即ち小津君の祖神なりし歟なり。延喜式内社にて、唐和五年、小津神の神事を奏せし祭ありしため社司に中絶を科せしめらる。戰國時代より佐々木氏等、領主・藩主の崇敬篤し。社殿中、大宮本殿（三間社流造）は永祿十二年の建造にて國寶に指定せられ、祭神たる宇迦之御魂命坐像（木造）は平安朝初期の作、神像中の傑物として國寶に指定せらる。例祭、五月五日。〔藥師堂〕 大字三宅にあり。眞宗大谷派。同村蓮生寺所屬。持統天皇七年の創立と傳ふ。本造佛頭は國寶にして藥師如來の頭部と傳へ、飛鳥期佛像の特色を示す。〔慶先寺〕 大字山賀にあり。眞宗本願寺派。得業山と號す。最澄の開創に係り僧光彤行圓の住坊と傳ふ。〔善立寺〕 大字金森にあり。眞宗大谷派。俗に懸所と稱し寛正六年道西殷善從本願寺蓮如に從ひ此地に來り當寺を建立す。石造寶塔一基は國寶建造物たり。鎌倉時代初期の作ならん。〔蓮生寺〕 大字三宅にあり。眞宗大谷派。持統天皇御字當山より温湯涌出す。此時一寺を建立し都賀山冷泉院湯生寺と號す。寺内に梵鐘あり、撞かざるに響を發す、因つて長閑と名づく。初め天台宗たりしが蓮如上人より今の寺號を賜ふ。〔登明寺〕 大字大林にあり。眞宗本願寺派。厩戸皇子の開創。蓮生寺の別當たり。六角氏代々歸依篤し。應永の兵燹に罹り堂宇燒失、寛政年中正覺法師中興す。

オスエ　尾末灣（おすえ）　宮崎縣東臼杵郡の東岸、日向灘に面せる灣。遠見岬北方より突出し、南方より細島港を有する突岬及びその北側に横ほる俗島によりて抱かれ、灣口東方に開きその口徑約三粁、そこに乙島・竹島の二島防波堤の如く横ほる。灣入は約四粁にして南北六粁。灣内は波靜かなるも伊鈴川灣内に注ぎ、また灣の沿岸には砂濱比較的多し。

オズキ　小月町（おづき）　山口縣長門國豐浦郡の東南部。豐東村の南に隣り、西南は清末村に、東は吉田川を距てて厚狹郡王喜村と界し、東南は周防灘に臨む。北部に三〇〇米餘の山地蟠るもその他の部分は低平にして水田拓け米を主產す。併し本町は農家は商工業者に比し少なく地方經濟中心邑をなす。省線山陽本線及び山陽道本町の南部を並行して過ぎり、前者に小月驛（明治三十四年設置）を置きこれより西市町に至る社線長門鐵道分岐して宇上市に長門上市驛（大正七年設置）を置く。また西市町方面並びに秋吉村方面より來る縣道本町に於て山陽道に接續し、轉して交通の要衝に當る。猶古くは舊長崎街道の卯月驛は此地に當るものなるべく交通の發達に伴ひ商工業進展す。此地は和名抄、豐浦郡神田郷の地なるべし。明治十一年本町及び清末村・河内村（今この二村は清末村となる）合して清末

村に役場を置きしも、僅か一年にして本町は分離獨立す。

オスズ 尾鈴山 をすず 九州山脈市房山塊に屬する一峯。宮崎縣兒湯郡東北部、木城村・都農町に跨り、北麓は直に東臼杵郡東郷村に接す。標高一四〇五米にて石英斑岩より成り、山頂に尾鈴神社を祀る。小丸川西麓を廻流して東南走し、東南斜面よりは名貫川發して東南走し矢研瀧・白瀧を懸く。附近一帶は尾鈴山官林をなし、樅・樫の美林をなす。西南戰爭の折、官軍の別働隊第二旅團は急遽東南方なる北諸縣郡高城町より此山を占據し、美々津川の上流より東北方なる東臼杵郡富高町を衝かんとせしに依り、賊軍退けり。此山の北方に東臼杵郡南郷村鬼神野より同郡細島町に至る山徑通ず。登山路は高城町より通じ、約三十粁にして達頂す。

オステ 小爲手山・緒捨山 をすて 紀伊國(和歌山縣)の古地名。萬葉集その他に見ゆ。今の有田郡安諦村の大字押手は其の遺稱の轉訛ならんといふ。萬葉・七「安太へ行く小爲手の山の眞木の葉も久しく見ねば蘿生しにけり」續後拾遺「夕されはなすての山の苔のうへにまきの葉しのき積る白雪 有長」同「白玉のなすての山の月かけに亂れてみかくまきの下露 基任」

オセ 小瀬 をせ 【小瀬村】 茨城縣常陸國那珂郡の北部。大宮町の西北方約十粁。四面山地を成すも、中央に向つて低下し中央に狹小なる低地を作る。那珂川の支流小川この低地を南流し田畑拓く。縣道村の中央を南北に走り社線茨城鐵道御前驛へバス通ずるも交通未だ便ならず。米・麥を主産す。此地或は和名抄、那珂郡朝妻郷の内か。佐竹系圖に常陸介義春、小瀬氏を稱すと。義春は義篤の弟、小瀬三郎と稱し此處に食邑せるなり。新編常陸風土記に、小瀬城は大字上小瀬に其跡あり、佐竹義春初めて此處に築城し小瀬三郎と稱すと。建武二年義春兄義篤と共に足利尊氏を援けて官軍と竹下に戰ひ大いに破る。のち尊氏に從ひて上洛し諸處に轉戰して功を建て爾來子孫相繼ぎて住せしが、慶長七年佐竹義宣に從ひて羽州に遷るに及び城廢す。〔立野神社〕 大字上小瀬に鎭座。鄕社。祭神、銕長津彥命・銕長戸邊命。神體は神鏡にして貞觀十六年神位正六位上より從五位下に敍し、延喜の制小社に列せらるよりせば、創建はそれ以前なるべし。のち正三位に陞る。大永五年に社殿の修造ありし頃は當村立野山に鎭座ありしが、天正年中、小瀬(佐竹)義隆、現社地に遷祀し、小瀬郷の鎭守となし除地一石六斗餘を寄進す。境内に三俣及び太郎の二名杉聳立す。例祭、十一月五日。

【小瀬川】 廣島縣佐伯郡と山口縣玖珂郡の境界を流るる川。一に大竹川・木野川ともいふ。佐伯郡四和村の南部山中に發し、南流し、淺原村大字市井原に至り兩縣境を東南流し、玖珂郡小瀬村及び佐伯郡木野村を經て佐伯郡大竹町にて廣島灣に注ぐ。流程約三五粁。川の名は今の玖珂郡小瀬村及び和木村は嘗て小瀬川村と稱せしにより、また大竹川・木野川も各大竹町・木野村あり、之等の町村名に因みしものの如し。

オゼ 小勢村 をぜ 富山縣越中國西礪波郡の東北部。高岡市の西南約五粁。東は福田村に、南は戸出町・醍醐村に、西は山王村・立野村に、北は東五位村に夫々隣接す。全村、土地低平、肥沃にして耕地拓け、小矢部川の小支東部を南北に貫流し灌漑に便す。戸出町より來る里道本村を過ぎり立野村の地内に於て北陸道に合す。米を主産す。また鯉・菅笠・藁工品・卵等の特産あり。此地中世は礪波郡五位庄に屬す。いま小竹・伊勢領・三箇・上開發・駒方・駒方新・本保・今市の八大字を置き小竹に役場を置く。

オゼ 小瀬 をぜ 【小瀬】 →瀬尻村(岐阜縣)

【小瀬村】 山口縣周防國玖珂郡の東北部。西南は藤河村を隔てて岩國町に隣り、東は和木村に、西は坂上村に接し、北は木野川を距てて廣島縣佐伯郡小方村と相對す。西部に三〇〇米餘の山嶺略々南北に連り山脚東北に降り、全村山地を成す。北境を木野川(小瀬川)屈折して東に流れ、その流域に僅かに耕地拓け、畑地卓越するも猶は林野廣く、產物は繭・米を主產し林產亦少からず。省線山陽本線大竹驛(廣島縣佐伯郡大竹町地內)及び岩國驛(岩國町地內)に近きも未だ交通便ならず。此地は和名抄、玖珂郡石國郷の地なるべし。本村はもと小瀬川村に屬せしも明治三十二年その大字小瀬を以て獨立し現在に至る。

オゼ 尾瀬 おぜ 【尾瀬】 日光國立公園西北部の地域。尾瀬盆地ともいふ。群馬・福島兩縣界附近、只見川の水源をなす尾瀬沼より西方の尾瀬原一帶に亙る。東は大江山・三平峠、南は皿伏山・至佛山、西は日崎山・大白澤山、北は燧嶽等の峯々に圍まれたる一大盆地。高さ一五〇〇米內外を有し、深山の原始相を備へ、植物の景觀も複雜多變を極む。

【尾瀬峠・尾瀬嶺】 三平峠・沼越峠とも云ふ。日光國立公園の西北部、群馬縣利根郡片品川溪谷より福島縣南會津郡只見川溪谷に至る山路。北方遙かに福島縣河沼郡坂下町乃至若松市に至り、南方遠く群馬縣利根郡沼田町乃至前橋市に至る要路をなす。最高點は一七六九米にして、東稜は檜高山・袴腰山・赤手山に連り、西嶺は皿伏山たり。峠上より西北面すれば脚下に尾瀬沼の明鏡を俯瞰し、堆峯燧嶽(二三四六米)を仰望し、又東南方には片品川を隔てて鬼怒沼山(二一四一米)、西南方には荷鞍山(二〇二四米)を望見す。

【尾瀬沼】 日光國立公園の西北部、尾瀬盆地に横はる山湖。北半は福島縣南會津郡、南半は群馬縣利根郡に屬す。檜高山(一九三二米)・燧岳(二三四六米)・皿伏山(一九一七米)を繞らし、水面海拔一六六五米、面積一・六七方粁、ほぼ瓢簞形をなす。この沼は尾瀬原と同樣に、北方の燧岳火山の熔岩が只見川の上源を堰塞して生成せらる。いま湖水は西北隅より沼尻(江尻)川となりて、西方約七粁に位する尾瀬原に流入し、只見川の上流となる。この沼は種々の點よりして、將來湛水を減じ、尾瀬原の如き濕原に化するものと考へらる。沼に珍奇なる水中植物茂生し、又東北隅及び西邊に高原性濕原ありて多種の貴重濕性植物群落し、植物景觀並に生態上著名なる境域をなす。沼の東岸に山小屋長藏小舍あり、故平野長藏翁の建設にかかる。今も夏冬とも小舍番常住す。小舍の東方に沼田街道南北に通じ、南方は遙か利根郡沼田町に、北方は遠く福島縣河沼郡坂下町に達す。

【尾瀬原】 群馬縣尾瀬沼の西五粁にあり、尾瀬沼と同じく、燧嶽火山の熔岩が只見川の上流を堰塞して生じたる一湖盆なり。曾ては水を湛へ尾瀬沼より更に大なる淺湖をなせしも、排水口の低下と河水の堆積とにより今は一大濕原と化す。濕原中には各所に小形の水溜及び池ありて、其等は夫々特有の植物群落を見るのみならず、原の中を蜿流する猫又川・大堀川・沼尻川等の河岸には樹木群侵入して特殊な森林景觀をも存し、植物生態學上興味ある地域をなす。一説に尾瀬原の濕原群叢は(一)ヌマガヤ・ヤチスゲ・キリバミヅゴケ群叢(二)ヌマガヤ・キリバミヅゴケ群叢(三)ヤチスゲ・ホソバミヅゴケ群叢の三群叢に分つことを得るといふ。而して濕原の地下には厚い泥炭層發達す。濕原中の稍々深き池の水草群叢としてはヒツジグサ群叢最も著しく、池畔には泥炭層諸處に突出し、往々にして浮島を成す。淺き小池及び水溜には濕地・水澤植物多く、濕原植物また生育す。濕原內に於ける樹木群叢は、河岸に於て最も著しく、樹種はシラカンバ・ダケカンバ・ミヅナラ・ケヤマハンノキ・トウヒ・オホシラビソ・ヒメコマツ等を主とするも、その中シラカンバ・ダケカンバは濕原の中央まで侵入す。これ等の森林は濕原の末期を代表するものなれば、尾瀬原も徐々に濕原狀態を脫し森林地に移化しつつありと云ひ得べし。

オセイ 於青島 朝鮮全羅北道沃溝郡の島。同郡米面に屬し群山港を距る西北七〇粁に位置する孤島。東經一二五度五四分より同一二五度五九分に、北緯三六度六分一〇秒より同三六度七分一五秒の間に橫はる。周圍凡そ九粁、全島花崗岩より成り最高點(一九二米)は西に偏在するを以て西岸は急傾斜をなし漸次東に緩斜し遂に沈降して灣を成し、水深くして良泊をなし、灣頭に於青島里の小邑あり。群山・蝟島間に定期航路を開く。本島は黄海航行上重要なる航路標識をなすため島の西北端に燈臺の設備あり。

オゼガワ 小瀬川 をぜがは 山口縣玖珂郡にありし村。明治三十二年本村を廢し大字小瀬を以て小瀬村を新設し、大字關ヶ濱・瀬田・和木を以て和木村を置く。

オセキ 小塞 をせき 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄、中島郡に小塞鄕あり、手世支と訓ず。今何れの地なるか詳ならざるも起町・祖父江町等の邊か。一に葉栗郡淺井町の邊なりともいふ。

オセキ 小關村 をせき 佐賀縣肥前國佐賀郡の西北端。東は神埼郡に、東南は松梅村に、北西南の三方は小城郡に境す。中部に權現山(五八六米)聳え、村內は總れ山地を成す。川上川西南部郡界を峽谷を成して南流し、其沿岸に溫泉湧出す。縣道佐賀市及び福岡市に通じバスの便あるも交通未だ利便ならず。主產物は米・麥にして、また養蠶行はる。村名小關は小副川・關屋の二村を合して本村を建てたる際、その各々の一字を取りて名付けしもの。

オゼキ 尾關 をぜき →淺井町(愛知縣葉栗郡)

オセンコロガシ おせんころがし 千葉縣夷隅郡興津町にあり。小湊驛より三粁餘、上總興津驛より三・三粁の地點にあり。附近一帶地勢急峻にて斷崖をなし海に臨む。興津・小湊間の道路この絶壁の上を通ぜる頃、おせんなる孝女絶壁の上に草刈するうち、烈風に襲はれ崖下に墜落し横死せるによりこの名あり。此女の落ちし場所は今の縣道の上の廢道となりし處にして、附近は第三紀の白き凝灰岩が高さ百米餘の斷崖をなし海濱に突立す。

オソ 於曾 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄、山梨郡に於曾鄕あり。其地今の東山梨郡鹽山町・奧野田村・松里村・神金村・大藤村・玉宮村・日下部町等に當る。鹽山町に大字上於曾・下於曾あり、蓋し鄕名の遺稱なり。武田系圖に加賀美遠光、於曾鄕を食むとあり、其子を於曾光經・於曾光俊といふ。即ち在名を稱せしなり。なほ上於曾に中央本線鹽山驛(明治三十六年設置)あり。

オソキ 小曾木村 をそぎ 東京府武藏國西多摩郡の東北隅。南境は青梅町に接し、東南は霞村、西方は成木村に隣接し、東北は埼玉縣入間郡加治及び南高麗の兩村に對す。東北より西南に狹長なる擴がりを持ち、長徑凡そ八粁、幅二・五粁、全域殆ど關東山塊に屬する山地にして、村のほぼ中央を西南より東北に流るる小木曾川の溪谷部に當り僅の耕地を有するのみ。村の境界は小曾木川の分水嶺を以て自然的境界をなし、縱ねこれ等の峠を越さざれば此村に入るを得ず。村內は桑畑比較的多く養蠶盛にして絹織業は家內工

藁的に行はれ銘仙類の産多し。また古來良質の石灰を出し、新編武藏風土記によれば、天正年間八王子の城主北條陸奥守氏照敗軍の後その家臣某此山に引籠り始めて石灰を製し、慶長年中江戸城造營の時に此村の人民石灰を進ぜりといふ。本村は近世多摩郡三田庄に屬し小曾木郷と稱せし地。大字黑澤は德川氏江戸入城後ほ高室喜三郎・曾根五郎左衛門の支配地たりしが、延享四年田安家の領地となりし地。大字南小曾木は德川氏江戸入國後は幕領となり正保の頃は高室喜三郎代官となり、のち荻野源八郎の支配となり、尋いで田安家の領地たり。大字富岡も亦同じ。

オソキナイ 晩生内 札幌縣の一郡（昭和十年設置）。北海道石狩國空知支廳樺戸郡市街臼村にあり。

オソネ 小曾根（ゼネ） 埼玉縣北埼玉郡にありし村。明治四十二年、本村は今井・上中條・大塚の三村と共に合し中條村を置く。

オソネ 小埴（ゼネ） 下總國（茨城縣）の古地名。和名抄結城郡に小埴郷あり、高山寺本は小埴に作る、今之による。其地今の結城町に當る。結城町に小埴の地あり、埴と埴は同音なるにより此地を其の郷城となすべきが如し。

オゾネ 小曾根村（ゼネ） 大阪府堺津國豐能郡の南部。南は神崎川を隔てて大阪市に對す。地は大阪平野の一部に位し東部の一部稍〻高きも概ね低平にして田畑拓く。產物中農產は首位を占むるも、林產・畜產また尠なからず。村内に阪急電車の停留場ありて交通不便ならず。いま小曾根・濱・長島・北條・寺内・石蓮寺の六大字より成り、小曾根に役場を置く。

オソハ 遲羽村 福井縣越前國大野郡の北部。九頭龍川の左岸に沿ひ、東北川を隔てて勝山町に對す。北部及び西部は山地を成して林野多きも、河岸に傾斜し東部に僅少の平地ありて耕地拓く。社線京都電燈越前電氣線の比島（昭和六年設置）・勝山・大袋・下荒井六呂師口（共に大正三年設置）・綿崎（大正七年設置）の五驛を置く。主生業は農にして、九頭龍川よりは鮎の特產あり。村名遲羽は蓋し舊郷名にして、本村及び鹿谷の二村を總べたり。曾我五郎時致に賈薄といふ子ありしが、成人ののち大字比島の地に來りて伊農小五郎時定と稱ぜりと。今曾我五郎の墓存し、その子孫と稱する者あり。

オソレ 恐山・於曾禮山（ゾレ） 宇登利山・宇曾利山・オダシ山とも稱ぜらる。奥羽火山脈に屬する休火山。青森縣下北半島の略中央、下北郡田名部町の西方に位す。本體及び寄生火山より成る。本體は石英粗面岩及び之を蔽ふ輝石安山岩より成り、コニーデ型をなし、臺着たる樹木に掩ほる。山頂の火口は甚だ大きく、火口壁上は起伏多し。東南の突起は屏風山（六五一米）にして、その南に北國山（八七一米）、その西に小恐山・大恐山（八一〇米）・丸山（八〇八米）と續く。外側に二つの寄生火山あり。東南のものを釜臥岳（七八四米）、西北のものを朝比奈岳（八八〇米）と稱し、いづれも輝石安山岩より成り、トロイデ型をなす。火口内に恐山湖と呼ぶ火口原湖あり。直徑二粁餘にして略圓形をなす。湖水は東北端にて火口壁を破り、三途川の火口瀬となりて落下し、下流を正津川と呼ぶ。火口内には火山活動の名殘りなる數多の硫黄孔あり。殊に湖の北岸に著しく、麓屋地獄・鹽屋地獄・八幡地獄・仏堂地獄・修羅王地獄と呼ぶものあり。最も新しきものは溫泉と水蒸氣を間歇的に噴出す。又附近に菩提寺あり、恐山地藏尊を祠る。死者の冥福救助を願る者多し。登路は大湯線田名部驛より頂上まで十六粁。安政年間に建てられし里程表今に殘る。途中火口壁にある湯坂まで十二粁、自動車を通ず。尙大湯及び北赤埠よりの登路もあり。（恐山溫泉）恐山火山頂上、恐山湖の北岸にあり。酸性硫黄泉にしてリウマチス・皮膚病等に効ありといふ。

オソレヤマ 恐山湖 宇曾利湖（ゾレ）とも云ふ。青森縣下北郡恐山の火口原湖。即ち恐山山頂の一大噴火口に水を湛へしものにして、湖形略圓形に近く直徑約二粁、周圍約八粁ばかり。北岸に溫泉及び硫黄聚蘚所あり。湖の周圍の火口壁に峰巒連なり、東北方の一部缺潰して湖の水これより洩れ北走して所謂火口瀬を作り正津川となる。尙本湖は深度一四米、水色綠藍、透明度は底よりも上層大にして、水溫は夏季湖底まで二〇度に達す。溶解性酸素は底まで飽和。北方にある溫泉地帶の水が注入し全層甚しく強酸性なるもプランクトン特に Microplus 多し。本湖は蟹川湖中の酸素發生湖に屬す。

オタ 雄田（ヒ） 播津國（兵庫縣）の古地名。和名抄、武庫郡に雄田郷あり、手多と讀す。その地今の川邊郡立花村に當るか。一に武庫郡大庄村の地なりと。今立花の東なる下坂部・久久和・神崎の邊を小田村と改稱せしは雄田の上郷なれば斯く名づけしもの。或は上郷・下郷に分れ往時分郡の際に上郷を川邊郡に屬せしめ、下郷を武庫郡に屬せしめ、下郷を和名抄には雄田郷と錄せしものか。

オタ 小田（ヒ）

【小田（郡）】 陸奥（陸前、宮城縣）の古郡名。續紀天平勝寶元年に陸奥國少田郡始めて黄金を獻じ因つて年號を改め勝寶となすの記事あり。延喜式には小田に作り和名抄も同じく小田とし手太と讀じ、小田・牛甘・石毛・賀美の四郷を餘戸一を管す。而してその廢郡の期は不詳なるも、戰國の頃廢して遠田郡に合せしものならん。地は今遠田郡の東部に當るが如し。

【小田】 陸奥國（宮城縣）の古地名。和名抄、小田郡に小田郷あり、手太と讀す。其地今の遠田郡涌谷町・元涌谷村に當る。萬葉集第十八卷に陸奥の小田の山とあるは此地にして天平十一年に金を產出せりと。また小田郡の郡司も此處に居り小田郡を治む、よつて小田郷の名出でしものか。萬葉・一八「陸奥國より金を出せる詔書を賀ぐ歌　葦原の　瑞穗の國を　天降り　しらしめしげる……鶏が鳴く　東の國の　陸奥の　小田なる山に　金ありと　奏し賜へれ　御心を　明らめ給ひ　天地の　神祖納受ひ　皇御祖の　御靈助けて……」

【小田】 陸奥國（福島縣）の古地名。和名抄、白河郡に小田郷あり、訓を岡くも本州の小田郡の例により手太と讀むべし。其地今の西白河郡川崎村・小田川村・西郷村に當る。小田を後世小田（ヒタ）に訛り小田川と稱するに至る。

【小田】 常陸國（茨城縣）の古地名。常陸風土記・久慈郡の條に「郡東□里小田里、多儀三輪田、因以名之」とあり。一に小田の誤にして、今の久慈郡山田村附近に求むべきかといふも、山田村は郡の北に當りて郡の東といふに合はず。或は東なも北の誤とすべきにや如何。或はまた既に失ぼれたる古郷名とすべきか。

【小田村】 茨城縣常陸國筑波郡の東北部。東は筑波山脈の前障をなす寶篋山の山脈により新治郡に境し、西は北條町・大穂村に、北は田井村に隣る。東部及び北部に筑波山脈走るを以て地東北より西南に向つて傾斜し、櫻川西南境を東南流す。土質は山の中腹以下花崗質壤土著しく發達し、櫻川流域は沖積層より成る砂質壤土にして共に地味肥沃五穀豐饒ならしめ本縣屈指の地たり。山地は造林に好く松・杉・檜・稍等の樹木繁生す。社線筑波鐵道大正七年に開通し當地に常陸小田驛を設けしより交通運輸上至大の便を得るに至る。また本村の東南部を東西に走る銚子街道と北部を東に走る那珂湊街道は、共にバス通じ主要なる交通路を成す。米・麥を主產し、また促成胡瓜の產多し。此地は和名抄、筑波郡三村郷の地なり。中世八田知家其子知重此地に城を築き在名を負ひて小田氏を稱す。吉野朝の頃北畠親房偶々小田城に來り宮し神皇正統記・職原抄を著す。（小田城）文治の頃八田知家の築く所といはれ子孫歴代これに居る。南北朝の頃治久の時に當り、志を南朝に寄す。興國三年足利尊氏の高師冬を遣はして圍城を攻むるや、治久、北軍の盛んなるを見、出でて降り、これより足利氏に屬す。治久の後孝朝・治朝・成治を經て氏治の時小田原北條氏に降り、永祿三年太田三樂のために城を奪はれ太田氏移り治す。天正十八年、豐臣秀吉の關東を征し佐竹義宣に命じて常陸を統領せしむるや、三樂の子美濃守資晴（或は景政、又景國・景資等に作る）佐竹氏に屬し陸奥統田城に移されてより城は遂に廢されたり。城址の中央なる所謂本丸址は、周圍に土壘を存し、濠址之を繞り更に外曲輪址並びに濠址を存す。濠址は今凡て水田となれるも、良く舊時の規模を見るに足る。いま指定史蹟たり。（龍勝寺）大字小田にあり。曹洞宗。萬松山と號す。正平十二年（延文二年）の草創。開基は小田讃岐守源孝朝、開山は日山伊豐和尙。もと小田氏の祈願所にて、寺勢隆昌を極めしが、中世衰類す。中興開山を秋岸禪師とす。（解脫寺）大字小田にあり。淨土宗。勢至山一心院と號す。本尊、弘法大師作阿彌陀如來。濱野三河守の草創。開山は透蓮社舜譽上人。中興開山を昇蓮社舜譽上人とす。

【小田橋】 伊勢の宇治山田の岡本と妙見町との境にある橋。地唄・御山獅子「山を越したる小田の橋」

【小田村】 三重縣伊賀國阿山郡の中部。上野町の西に隣る。全村地形平坦、時に北境を西流する伊賀川により水害を蒙ることあるも地味肥沃にして田畑拓く。上野町に接するを以て交通は便なり。米・繭等の產ありて、製絲業また盛んなり。小田は中世小田郷と稱し、現在の上野町上野城なも包括せる稱呼とす。町村制施行の際、城南村の地なも含めて小田村と云ひしが、明治二十七年城南村を分離獨立せしむ。

【小田】 兵庫縣川邊郡にありし村。昭和十一年尼崎市及び本村を廢し、その地域を以て新に尼崎市を建つ。

【小田】 ↓下東條村（兵庫縣加東郡）

【小田村】 鳥取縣因幡國岩美郡の中部。鳥取市の東方約七粁。東は蒲生村・大茅町に、北は本庄村に隣り、西は福部村に界す。東南郡に大茅山（六六四米）聳え四周山地に圍繞さるるも、是等山地を刻める溪流は小田川となり、本村の中部を北に流れ、その川に沿うて狹長なる低地あり。田畑拓け、米・麥・繭及び甘藷を主產し、木材・木炭の產も少からず。その他養蠶も行はれ、貌ほ岩美鑛山より銅鑛を出す。省線山陰本線の岩美驛（浦富町）に近く、街道は溪流に沿ひて通じ交通やや便なり。此地は和名抄、法美郡高野郷の地。大字院内の邊を新宮保と呼ぶ。此地に熊野の神靈を勸請せしに因みしものなり。また寺を神宮寺と號し、里を院内と稱するといふ。大字荒金は古より銅鑛を採掘し、續紀文武天皇二年の條に「三月乙丑、因幡國獻銅鑛」とあるは此地より獻ぜしものなるべく、銅鑛は阿良加爾と調ぜしにより今の荒金はその轉訛せしものなるべし。延喜式神名帳の二上神社は大字岩常にあり、またその立岩山（三九四米）は一に二上山ともいひ其山上に二上山城（岩常城）あり。文和年中山名伊豆守時氏の築きしもの。岩常は時氏數國の太守として二上山城に居せし時榮榮せし所、今も長者屋敷・侍屋敷・市街の跡等あり、又茶屋谷・美女谷・土塀・馬場・紺幕等の地名殘り、城下町の面影を偲ぶに

足るものあり。本村は大正六年新宮村及び高野村を廢しその區域をもつて置く。〔岩美鑛山〕 本村及び蒲生村に亙る銀銅亞鉛鑛山にして我國重要鑛山の一。昭和十年に於ける鑛產額は銅鑛約七萬瓩、沈澱銅約二千瓩。大分縣佐賀關製錬所に送りて製錬す。現在使用鑛夫數三九三人。〔太寶鑛山〕 金銀銅鑛を採掘し、我國準重要鑛山の一。昭和十年に於ける銅鑛產額約四千瓩、價額約一萬七千圓。現在使用鑛夫數四〇人。

【小田】 山陰本線の一驛(大正二年設置)。島根縣簸川郡田岐村にあり。

【小田(縣)】 明治の初め備中國に置きし縣。明治四年十一月備後國深津郡深津村(いま福山市東深津町)に治所を置き、備中國全部と備後國東部六郡を管せし深津縣を翌五年六月備中國小田郡笠岡町に治所を移し、これを小田縣と改稱す。明治八年十二月更にこれを廢し岡山縣に併合す。

【小田】 岡山縣兒島郡にありし村。昭和三年兒島町と改稱。

【小田郡】 岡山縣十九郡の一。北は川上郡に接し、東は吉備郡、南は一部は海、一部は淺口郡に隣り、西は後月郡及廣島縣深安郡と境す。地勢は自ら二分し、北部は吉備郡及び後月郡間に屈曲して江原川・小田川の谷を形成し、南部は淺口郡、廣島縣との間に介在し海に臨む。郡內は山岳起伏し、平地は江原川沿岸に見るのみ。山岳は郡の北部の龍王山(五〇五米)高く、河流は江原川、後月郡より來り東流し吉備郡に入る。島嶼多く、主なるものは神島・大高島・白石島・北木島・眞鍋島・大飛島・六島等なり。鐵道山陽線淺口郡より來りて笠岡に驛を置き、廣島縣深安郡に走る。甘藷・除蟲菊・薄荷の產縣下第一なり。本郡は古の下道國の一部なり。建郡の期詳ならざるも、延喜式に郡名見え、和名抄は手太と訓じ、寶成・拜慈・草壁・小田・甲努・魚緒・出部の七鄉及び驛家一あり。爾後大變化なく以て今日に至る。

【小田町】 岡山縣備中國小田郡の西部。矢掛町の東方約四粁。東は中川村に、北は川面村に隣り、西は後月郡荏原村と界す。全町概ね四〇〇米餘の山地に蔽ばれ、南部を小田川西に流れ、北部山地を刻める小溪之に入り、是等の川谷に沿ひ低地ありて耕地拓け、水田卓越し米・繭及び麥を主產しその外に薄荷・柿を特產す。舊山陽道本町の南部を小田川に沿ひて東西に通じ、南部より來る社線井笠鐵道小田川を渡り山陽道と交叉し、のち此街道に並行して矢掛町に至り本町に備中小田驛(大正十年設置)を置く。本町は古くより山陽道に沿ふを以て街村的聚落發達し地方經濟中心邑となり、大正十四年町制を布く。和名抄に小田郡小田鄉とあるは本町の邊なるべく、町名亦之に因む。また延喜兵部省式に小田驛馬二十疋とあるは此地にあらずして矢掛町の地ならんといふ。本町の神戶山に小田城あり。床上小松氏の築きしものにて床上小松氏のち小田氏と在名を負ひ世々居城す。其裔小田小次郎隆清は小早川隆景の麾下にして隆景より名一字を賜へりといふ。

【小田】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄小田郡に小田鄉あり、手多と訓す。其地今の小田郡小田町・中川村・川面村に當る。小田郡の郡家のありし所なるにより此名あり。備中府志によれば神戶山城は小田村にあり、小田氏累世の居城なりとあり。小田氏は本姓小松にして其祖は上總介某なりと。

【小田】 備中國(岡山縣)の古地名。延喜式兵部省式に備中國小田驛馬二十疋とあり。和名抄小田郡に驛里鄉と見ゆるは是に同じきか。中世には小田莊と稱す。其地未だ詳かならざるも或は今小田郡矢掛町の地ならんといふ。

【小田村】 岡山縣美作國苫田郡の西南部。津山市の西北約八粁。大野村の西に隣り、北は久田村に、西は中谷村と相對す。北境の山嶺南に降り東南部に低地ありて田畑拓くも猶林野多し。產物は繭・麥を主としその外に木炭・柿の產も少からず。津山市に至る街道低地を過ぎりバスの便あるも交通よろしからず。此地は和名抄、苫西郡能鹽鄉の地ならん。〔小田草神社〕 大字馬場にあり。鄉社。祭神、高皇產靈神・神皇產靈神・天兒屋根命外二神。創立年代不詳。もと小田草大明神と稱す。地方の古社にて、古來馬場村外七箇村の產土神として仰がる。例祭、十月十八日。〔本源寺〕 臨濟宗妙心寺派。足利將氏の草創。もと安國寺と號す。初め西西條郡神戶村にあり、國主森忠政州府を津山に開くや當山を今の地に移す。天和三年忠政の五十年忌に當り、其法號本源に因み寺號とす。

【小田川】 岡山縣高梁川の支流。上流山野川は廣島縣神石郡西南部小畠村の山中に發し南東に流れ、岡山縣に入り三原川と合し東流し、井原町・矢掛町を過ぎ、吉備郡の東南境に至り高梁川に入る。流程約六五粁。

【小田村】 廣島縣安藝國高田郡の東部。吉田町の東に隣り、北は甲立町に、南は向原村に、東は雙三郡板木村と界す。東南境に大土山(八〇〇米)聳え概ね山地なるも、北部を可愛川北に流れ山地を刻める溪流之に合し、その流域に稍々廣き低地ありて水田拓け、米・麥を主產し林產亦少からず、その外養蠶も行はる。省線藝備線中部低地を南北に通じ吉田口・甲立(共に大正四年設置)の二驛を置き、之と並行に縣道過ぎり稍可愛川の對岸に三次町より吉田町を經て廣島市に至る縣道通じ交通便なり。此地は和名抄、高田郡麻原鄉の地。和名抄は訓を闕くも手渡良と訓むものなるべし。今大字に下小原・上小原あるは此鄉の遺稱ならん。嚴島社

嘉慶二年文書に神領高田郡麻原鄉田五〇町と見ゆ。〔高林寺〕 大字高田原にあり。眞宗本願寺派。石丸山と號す。開基は了誓法師。一說、明應五年淨誓法師の開基ともいふ。初め五龍山の麓にあり、のち今の地に移す。

【小田村】 香川縣讚岐國大川郡の北部。津田町の西北に隣り、南は鴨部村、西は鴨庄村と界し、北は海を距てて小豆島と相對す。三〇〇米の低山性丘陵連互し、その東端は馬ノ鼻、西端は大串崎となりて北方に突出し、其間に小田灣を抱き灣奧に低地ありて耕地拓く。主生業は水產業にして多く遠洋漁業に從事し、朝鮮・大連・カムチヤツカ・南洋方面に出漁す。農業・養蠶業・果樹栽培之に次ぐ。主產物を擧ぐれば生魚(約五萬圓)・米(約二萬三千圓)・麥(約一萬七千圓)・果實(約一萬圓)・葉煙草(約八千圓)・繭(約七千圓)等あり。街道は海岸に沿ひて東は津田町、西は志度町方面に通ずるも村民は多く舟楫の便により、また小田灣は漁船の碇泊港となる。此地は和名抄、寒川郡鴨部鄉の地なるべし。馬ノ鼻には昔番所を設かれ此處に備附の刺股・突棒等は近年に至るまで殘るといふ。また菅原道眞を祀る天滿神社は創建の年代詳ならざるも、菅公當國に在任の時來遊せられしによりと傳へ又一說に菅公左遷の途次此處に立寄られしによるといふも明かならず。社地は高燥にして境內松樹・梅・櫻樹多く、北を望めば小豆島の白砂長汀も近く展開し景勝に富む。

【小田】 佐賀縣杵島郡にありし村。地は江戶時代、長崎街道の一驛たりし所、東方牛津驛へ二里、西方北方驛へ一里十三町。昭和七年四月本村及び山口村・佐留志村と合して江北村を置く。

【小田村】 熊本縣肥後國玉名郡の中部。高瀨町の東北約三粁。菊池川の左岸に沿ふ。東部は卽ち國見山の西麓を占めて低丘陵を成すも、西部一帶は土地低平にして耕地發達す。縣道高瀨町に通じバスの便あり。米・繭・麥を產す。此地は和名抄、玉名郡江田鄉の內に屬す。明治初年上小田・下小田・山部田・川部田の四村を合して小田村と稱す。經世家にして救民の志篤かりし小森田七右衞門は本村の人。常に此地の荒蕪の地なるを憂ひ、數年の獻身的なる努力を經て文政三年終に白石堰を設けて灌漑の便を得、肥沃なる田畑を得たり。

【小田】 豐後國(大分縣)の古地名。和名抄球珠郡に小田鄉あり、訓を闕くも陸奧の小田鄉の例により乎太と讀むべし。其地今の玖珠郡北山田村・南山田村・玖珠町に當る。玖珠町に大字小田あり、蓋し小田鄉の遺稱なるべし。當鄉より中世山田鄉を分つ。故に小田鄉を以て山田鄉の誤ならんとの說あるは之を混同せるものならん。

オダ 少名

越前國(福井縣)の古地名。和名抄、足羽郡少名鄉あり、手多と訓す。高山寺本は少の字を小に作り訓なし。また一に乎多の多は奈の字の誤なるべしとなす。然れども延喜左馬寮式の越前國少名莊田三十五町八段とあり、少名の名を多と訓むは通音なれば誤にはあらす。その地今の吉田郡岡保村・松岡町に當る。

オダ 意太

三河國(愛知縣)の古地名。和名抄幡豆郡に意太鄉あり、訓を闕くも手多と讀むべし。其地いま詳ならざるも幡豆郡三和村に當るか。大字大和田はオタの訛か。

オダ 織田

【織田村】 福井縣越前國丹生郡の中部。福井市の西南約一六粁。東及南は常磐村・宮崎村と、西は城崎村・四箇浦村と、北は萩野村と境す。東北部に多少の平地ありて耕地拓くるも、他は丘陵に富み、村內概ね山地に屬す。社線鯖浦電氣鐵道の終點に當り、織田驛(昭和三年設置)を設き、縣道は東南方今立郡武生町に通じてバスの便あり。繭・米を產し、また生絲・綿織物等の工產多し。いま萩野村・常磐村と共に組合村をなし、本村に役場を設く。和名抄に敦賀郡伊部鄉あり。本村等は蓋し其地內に屬したり。中世常磐村と共に俗に織田庄と稱せらる。劒神社の祠官在名を負ひて織田氏を稱す。是卽ち織田信長の祖とす。其出自は未詳なるも一に平重盛の子資盛より出づといひ、一に藤原氏の裔ならんともいふ。大字上山中に朝倉景綱の一時據りし城跡あり。天正二年朝倉景綱、織田庄の民屋の家財米錢を徵收し、防戰の用意せしが、本願寺の門徒等は景綱が變心せしものと思ひ、三千餘騎を以て押寄す。景綱善く防禦せしが、終に妻子とともに敦賀に逃る。大字織田の劒宮境內に劒杉の稱する大杉あり。周圍七米餘。往昔貴人某ここにて食事せし後、使用せし杉箸を傍に突挿せしが後芽出でて今の巨木になりしものといふ。これよりか一に劒宮ノ箸杉とも稱す。〔劒神社〕 大字織田に鎭座。國幣小社。祭神、素戔嗚尊。社記に據るに、初め孝靈天皇御宇に座々嶽に降臨あり、其後神功皇后十四年に日本武尊の御子忍熊皇子を現地に勸請せらるといふ。皇子は當地の賊を伐ち國人を安んぜんとし給ひ却つて賊に窮迫せらる。時に素戔嗚尊夢に現れ寶劒を賜ふ。皇子その寶劒を以て終に賊を平定す。依りて寶劒を素戔嗚尊の御形代として社殿を造營し、自ら奉齋し給ふ。今にその寶劒を神體と崇めまつる。のち應神天皇・仲哀天皇を合祀して、織田神社を本殿の側に配祀せらる。右によりて代々朝廷の御尊崇甚だ厚く稱德天皇は梵鐘一個を寄進せらる。之は佛教傳來以後別當及び社家を以て神を祭祀せるを以てなり。延喜の制、小社に列し、神位正四位下。應保元年平清盛權威を逞しうせし時、別當清盛の意に忤ひし故に神殿

を焼き神領を没收す。其子重盛領地三千八百八町を寄進し、神殿堂宇悉に復ぜらるゝ。今なほ末社に小松社あるは重盛を祀れるなり。のち織田信長の時に及びて、其祖は當社祝部たりし故を以て尊崇殊に深かりしといふ。社寶中、稱徳天皇御寄進と傳ふる銅鐘は神護景雲四年九月十一日の銘ありて形態整美、天平時代の古鐘として古來珍重ぜられ、國寶に指定せらるゝ。なほ紺本著色八相涅槃圖は鎌倉末期の製作にして涅槃講式の際前一卷を添へ國寶に指定せらる。例祭、十月九日。

【織田村】 奈良縣大和國磯城郡の中部。三輪町の北に隣る。東部村境逢に僅少の丘陵を見るほか村内概ね低平にして、初瀬川村の中央を西北流す。社線大和鉄道の大泉驛（大正十二年設置）を置き、また縣道三方に通じ自動車の往來頗る頻繁にして交通便なり。主産物は米・麦・藺なるも、實業業に從事する者多し。和名抄に城上郡大市郷とある地なり。孝靈天皇皇女倭迹迹日百襲姫命の御墓あり。江戸時代織田氏一萬石の陣屋のありし處。村名は蓋しこれに因めるもの。（大市墓）大字箸中にあり。孝靈天皇皇女倭迹迹日百襲姫命の御墓。また箸墓といふ。日本書紀崇神天皇十年の條に、是の墓は日に人作り、夜に神作る、故れ大坂山の石を運で造る。則ち山より墓に至る人民相踵ぎて、以手遞傳にして運ぶ。時人歌つて曰く、大坂に踵登れる石群を以手遞傳に越さば越しがてむかも云々と見ゆ。以手遞傳の石は葬石の類なるべし。御墓は大なる前方後圓墳にて葬石多し。（芝村落）織田信長の弟織田長益（有樂）その子長政に一萬石を分ち芝村藩といひ、大字芝の地に陣屋を置く。爾來子孫相承け明治維新に至る。明治四年廢藩して芝村縣を置きたるが間もなく廢して奈良縣に入る。（玄賓院） 大字茅原にあり。古義眞言宗。もと三輪山北麓原谷に在りしが、延暦年間玄賓此處に隱遁す、因りて玄賓谷といふ。玄賓寂してより此地草庵に大日如來を安置して玄賓庵と號す。中世以後衰頽せしも、寛文七年寂光再興す。現に高野末たり。不動堂安置の鎌倉時代の作、木造不動明王像一軀は國寶たり。（慶田寺）曹洞宗。開基は密門和尚。慶長十八年織田氏香華院とす。いま末寺十餘箇寺を統ふ。境内に織田長益の墓あり。

オダイ井 小田井 【小田井】 江戸時代中山道の宿場。追分驛と岩村田驛との中間。前者に一里七町（約五粁）、後者に一里半（約六粁）。其地今の長野縣北佐久郡の中部御代田村の内。

【小田井】 愛知縣西春日井郡山田村及び西枇杷島町の字名。名古屋市の北方を流る庄内川の右岸に沿へる狹長なる地域にして、北境は新川により、東境は大山川の小流によりて完全に隔離ぜられ、域内は上・中・下の小田井に分れ、上小田井・中小田井は山田村の大字となり、下小田井は西枇杷島町の大字なり。庄内川・矢田川その他の氾濫沖積層原にして、砂質に富む埴土より成り、地味極めて肥沃、名古屋市西北郊外の重要なる蔬菜の供給地帶をなし、養鶏も盛んなり。下小田井は西枇杷島の主體をなし、青物取引の盛んなる市場なるは夙に人の知る所。東海道本線の枇杷島驛あり、附近煙突林立し一の工場區を形成す。山田村の上・中小田井は相接りて集村をなし、其接觸部を北方に通ずる岩倉・甘知野の街道貫き、また名岐線道線も中小田井の西端を走り、須ヶ口停留場を置き交通便なり。此地は近世小田井庄と稱せられし地にして小田井城（淤蔡城とも云ふ）のありし處。此城は織田氏の一本家、小田井織田家の居城にして下四郡（中島・海部・愛知・知多の四郡をいふ）の守護代なりしといふ。大和守敏定より、その弟常寛、次いで其嗣寛故・寛維・信安等代々城主たりしが如し。

オダイバ 御臺場 東京品川灣にある臺場。六基の臺場は西から四・一・五・二・六・三番の順序にして、品川町の東端猿師町なる洲崎にありし御殿山下臺場（俗に洲崎臺場）と合して七基、幕府海防の遺跡として名高く、其目的と様式が從來のものと異り、歐洲式にて且つ大砲を用ふることを主眼とせる對外的のものなる點は注目に値す。沖なる六基の中一・二・三は稍々沖にあり、四・五・六は其の間にあり稍々内に一列をなす。三番及び洲崎臺場は五角、他は全部六角形にして、面積は最大の一・二番は同大にして一萬三百餘坪（三・四三ヘクタール）、三番が九千餘坪（三ヘクタール）、最小の五・六番が夫々五千七百餘坪（一・九ヘクタール）及び五千四百餘坪（一・八ヘクタール）にして各臺場は其方向の少し宛異るは各面の組合せによりあらゆる方向を砲撃し得る爲なりと。構造は大體同様にして外面は水面上高さ平均四間餘の石垣を畳み、この上部に幅二尺餘の石が全周に突出し敵の攀登を防ぐ。これ幕末築城法の一特徴にして純日本式のものに見られざる構造なり。入口は東京に面し嚴重なる櫓門を設け、其正面に一文字堤又は堤と稱する土壘あり。これ敵が正面に廻り中を見透して砲撃する場合を豫想せる防壘なり。陸より見れば藪手たる浮島の如く見ゆるお臺場も、一歩足を入るれば其規模の宏大複雑なること驚嘆に價す。中央部も凹み、其中に休息所（陣屋）・火薬庫・玉置場等の重要建物を保護す。周圍は石垣の高さ約三米、幅二十有餘米の堤を築き、更に其上に約十四米おきに玉除けの土壘を築き全部を芝にて被ひ、其間に二三門宛の大筒を配置せりと。臺場設置は引續く外船の來航に惱みし幕府が嘉永六年米船の來航に當り遂に先年來近海防禦に關し屢々建議せる伊豆韮山の代官江川太郎左衛門をして、若年寄本多越中守と共に江戸灣沿岸一帶を檢分せしめその意見を徴し之を築造するに至る。その復命書によれば第一に軍船製造の急なる説き、江戸灣防禦には富津觀音崎に臺場及び砲堡を築くを最善とし、品川灣に臺場を築くを次とす。然るに財政・技術の上より急なる施設を爲すを得ず、不完全と知りつつも人心飢渇の政策をも含む應急的處置として遂に品川臺場の築造となる。品川臺場の設計の中心者は江川太郎左衛門にして始めの起工は米艦が浦賀を去りしより二ヶ月後の嘉永六年八月、一・二・三番は翌年安政元年四月に竣工、五・六番及び洲崎臺場は同年十一月竣工す。四・七番は工事半にして神奈川條約を納め諸國との通商條約の締結により四番は七分通り、七番は海中埋立のみにて中止され、他は全然着手せず。臺場に接附し大筒は大部分湯島櫓馬場の大筒鑄造所（今の東京高等商科學校構内）にて鑄造し、一部は佐賀及び薩山の反射爐により製造さる。今靖國神社神苑内及び大村益次郎の銅像附近に在るが當時の大筒なり。品川臺場は明治三年までは陸軍省の管理なりしも、一・四番は民間に拂下げ、二・五番は海軍省の管理にして二番に燈臺あり、品川燈臺といふ。北緯三五度三八分、東經一三九度四六分の位置に位し、白色圓形煉瓦造、明暗紅光、明三秒暗三秒、アセチレン瓦斯、光達距離は十三浬に及び、明治三年の初點とす。三・六番は東京市所有にして指定史蹟たり。三番は海上公園として一般に開放し、六番は原型を完全に保存するため人を入れず保存さる。洲崎臺場は埋立地の中に入り遺構なし。いま東京灣築港計畫により深川洲崎と三番臺場とをつなぐ防波堤築造さる。

オタウンペヌプリ ——山 千島火山脈阿寒火山群の一峯にして雌阿寒岳（一五〇三米）の東方、阿寒湖の南方に位する山。北海道釧路國支廳阿寒郡舌辛村に聳え、標高一三五七米。いま阿寒國立公園地域に屬す。

オダエ 緒絶橋 宮城縣志田郡古川町にありし橋。獄柱なり。緒の絶ゆることを男女の縁の切るることに云ひかく。榮花・木綿四手「みちのくの緒絶の橋やこれならむふみみ踏ますみ心まとはす」常磐津、紅葉傘絲錦色木・上「ウムつくづく見ればみちのくの、をだえの橋やいかならん」奥の細道「十二日、平泉と心ざし、あねはの松、緒だえの橋など聞傳へて、人跡稀に雉兎鳧雁の往きかふ道そこともわかず、終に路ふみたがへて石の卷といふ港にいづ」

オタカ 小高 陸奥國（福島縣）の古地名。和名抄磐城郡に小高郷あり、訓を岡くも乎多加と訓むべし。其地今詳かならざるも石城郡上小川村・下小川村・赤井村に當るか。一に小高は小塙の譌なるべく雙葉郡大久村・廣野村・木戸村の地なりともいふ。

オタカ 尾高 ↓大高村（鳥取縣）

オタカ 男高 常陸國（茨城縣）の古地名。常陸風土記行方郡に男高里見ゆ。往昔佐伯小高なるもの居住せしよりかく名づくといふ。今行方郡に小高村あり里名の遺稱ならん。常陸風土記・行方郡「郡南七里男高里、古有佐伯小高。爲其居處、因名、國宰當麻大夫時所築池、今存。路東、自池西山、猪猴大住、神木多害、南有館岡、上古之時、海鯨伽詞、而來所臥、御有巢家他、爲其巢大、以爲池名。北有香取神子之社也。」

オタカ 小高町 福島縣磐城國相馬郡の東南部。太田・大甦二村の南に隣り、西は金房村と、東南は福浦村と界し、東北の一隅は太平洋に臨む。村は地勢上北部・中部・南部の三部に分つことを得。中部は金房村の北部山地に發し東流する小高川の廣谷面にて、他の中部・南部は阿武隈山脈の末端部に當り七〇米内外の丘陵をなす。中央部の小高川流域には水田よく拓け、丘陵面には桑園ありて蠶業盛んに行はる。省線常磐線中部を南北に通じ、小高驛略々村の中央部にあり、國道（陸前濱街道）町内にて直角に曲りて南北に走りバスの便あり。此地古くは和名抄、行方郡吉名郷の地。建武年中相馬家の祖重胤の築きし小高城址あり、陸前濱街道の一名驛として發達す。今南小高・片草・小高・吉名・岡田・大井・塚原の七大字より成り、大井は和名抄、行方郡大江郷の轉訛せしものかといふも詳ならず。岡田は相馬氏の一族相馬岡田氏の起りし所といふ。（小高城） 本町の紅梅山にあり。一に浮舟城にも作る。建武三年相馬重胤の築く所、其舅之を領す。慶長五年義胤、上杉景勝に應ぜしを以て所領沒收せらる。同九年其子利胤舊領を復し中村城に移り本城を廢す。（小高神社）縣社。祭神、天御中主命。建武年中相馬氏、小高城を築き、その鎮守として祀れるもの。舊稱を妙見神社と云ひ、舊幕時代に太田及び中村の妙見神社と共に、中村藩主相馬氏歴代の崇敬する所。例祭、七月十二日にはこの社境合して野馬追の神事を行ふ。（益多嶽神社）大字大井にあり。郷社。祭神、大國主命・少彦名命。創立年代は詳かならざるも、延喜式内の古社。もと大宮明神とも稱す。全町の鎮守と仰がる。例祭、四月八日・九日。

オダカ 尾高山 鈴鹿山脈の一峯にして、四日市市海岸より西北方約二〇粁に位す。三重縣三重郡朝上村の西方に聳ゆ。西麓は釋迦岳たり。山中にもと名刹引接寺ありしといふ。

オタギ 愛宕 【愛宕村】 岩手縣陸中國江刺郡の西端。豐澤郡水澤町・岩谷堂町の殆ど中間に位す。江刺郡唯一の桑落岩谷堂町を距つること僅か三粁に過ぎず。西は北上川を距て豐澤郡佐倉河村に對す。北上川の沿岸

にして土地平坦一の丘陵をも見ず、人首川は東堪を流れ廣瀬川は岩谷堂町より來り本村に至りて北上川に入る。共に灌漑の便よく土地肥沃にして農産物に富み、米・麥・大豆・蘭の產額郡内の優位にあり、殊に蔬菜・氷豆腐の名廣く世に知らる。村内道路よく開け縣道の水澤大船渡線ほぼ中央を東西に走り、自動車の便あり。舊藩時代に於ては地方運輸は一に北上川に據りしを以て河港をなし、當時は石巻市との船運開け、之を上下する帆船は常に下河原に碇泊するを以て甚る殷盛を極めたり。今なほ下河原は戶數密集して氷豆腐の製造盛んなり。往昔江刺氏の時代其の家臣下川原氏の治下に屬し其の臣天間氏は字天間に居るといふ、現今其の遺址と稱する所に阿彌陀堂を存す。

【愛宕郡】 京都府(山城國)十七郡の一。府の北隅にあり、北は丹波國北桑田郡に、東に滋賀縣高島郡及び滋賀郡に、南は京都市に、西は葛野郡に隣る。昭和六年南部の五箇村が京都市に編入せられてより郡の大部分は山岳起伏せる地となる。而して南部の水は賀茂・高野の二川に集められて南流し、京都市に入り、北部の水は西に流れ北桑田郡の山國谷に入りて保津川の上流となり、中部の水は東に流れて高島郡に入り安曇川の上流となる。居民多くは農業及び樵業に從事す。旗日本紀光仁天皇寶龜十一年の條に始めて郡名見え、和名抄は於多岐と訓じ、墓倉・栗野・栗田・大野・小野・錦部・八坂・鳥戸・愛宕・出雲・賀茂の十二郷を從く。中世久多・大原・加茂・栗田・墓倉・栗栖の莊園あり。明治以後その大部は京都市に編入し、郡域大いに縮小せり。

【愛宕】 山城國(京都市)の古地名。和名抄愛宕郡に愛宕郷あり於多支と訓す。其地今の京都市左京區修學院の邊。郡名の起因地なり。歌枕に愛宕里と云ふも此地なるべし。夫木・三一「我國のかすのこほりのうちふしもおたきのさとのおほみやところ　公朝」

オタギリ　小田切

【小田切村】 長野縣信濃國上水内郡の南部。長野市の西約五粁。北は裾花川を以て芋井村に隣り、南は犀川を以て更級郡と境す。村内微ね丘陵地を成し、南部は犀川峡流を成すため灌漑の便なく、僅に北部に耕地ありて米・蘭・麥を產す。長野市に縣道通じバスの便あり。此地は中世葛山郷と稱せし地なるべく、町村制施行の際區生村・山田中村・小鍋村の舊三箇村を合併せるもの。藤野三家系圖に海野幸氏の子小田切二郎兼光とあり、此地より出づ。昌吉に至り村上義清、のち武田信玄に仕ふ。甲陽軍鑑にオタキハ三十騎とあるはサメキリの誤なるべし。

【小田切川】 長野縣南佐久郡を流るる川。同郡の西北境に峙つ蓼科山(二五三〇米)の東斜面に發源し、その裾野を刻みて切原村を東北に流れ、大字小田切を過ぎ佐久平に出で臼田町の南部にて千曲川に注ぐ。

オタコシベツ　——川　北海道留萌支廳管内にあり。天鹽、苫前郡界を流る。風連の北約八粁、造別の南約八粁、西北流して日本海に入る。古くは歌越川ともよべり。

オタサム　小田寒　樺太豐原支廳榮濱村の一部落。樺太鐵道の小田寒驛(昭和二年設置)あり。小田寒川の河口に位し、東海岸に臨む。落合驛より四二・一粁。

オダシマ　小田島村　山形縣羽前國北村山郡の西南部。東根町の西に隣り、南は大富村と、西は最上川を隔て西村山郡谷地町と對す。最上川の右岸、龍川扇狀地に屬する野川・白水川の扇狀地に位しその末端に湧泉多く土地平坦、扇狀地の湧泉地帶以東及び最上川沿岸に桑園拓け、湧泉地帶は水田となる。主生業は米・蘭にして冬季は副業として草履表を製造し又最上川沿岸平地には根菜を產す。省線奥羽本線及び國道(羽州街道)並行して東部を掠め、前者の東根・神町(共に東根町地内)の二驛に近く交通便なり。いま郡山・蟹澤・野田・島大堀の四大字より成る。龍川扇狀地北半の湧泉地帶を占め、南半の湧泉地帶たる成生庄に對立せる中世の小田島庄の一部。村名蓋しこの遺稱なるべし。鎌倉寶戒寺觀應三年の文書に「出羽國小田島庄内、東根孫五郎跡寄附」とあり、また東根町養光寺の梵鐘(今は龍興寺にあり)に「羽州中央、小田島庄、東根郷貴、白井三郷、言々正平十一年大檀那僧前守平朝臣長義」と見ゆ。吉田博士は延喜式の村山郡家の址を郡山と推定せらるるも、湧泉に近く集落の發達に都合よき好位置を占むれど、現在の集落は小山田文書に「郡山村立之儀は九十三年以前慶長元申年相立當村の儀は東根村より出郷依て小田島の庄泉之郷郡山と申候事、延享二年」とあれば扇狀地帶としては最も新しきものに屬し郡家の所在は信じ難し。蟹澤は東根驛の西方約二・五粁に位する弓形の集村にして、宇稲の宿には稻堀を存す。山野邊系圖に最上三代の季弟兼直を蟹澤殿とあり(一書に兼親の四男を蟹澤兼直とあり)、兼直は應永三十四年歿し(大昌寺に葬らる)、其後久しく屋館となりしも天文十九年澤波館主阿部顯雅の男彦十郎の居館となる。現住者阿部彦四郎氏は其の後裔といふ。市神及び七日町の地名遺るも寛政三年の明細帳には市日なしとあり。又市の權利は宮崎に讓り、更に東根に移ると傳へらるるも確證なし。島大堀は最上川の河港にして鹽を揚げ、米を積み下しせしといふも一般の荷物の積み下しは幕末以後に行はる。此地の土壌は粘重土にて附近は人參牛蒡の產地にして附近の市場に供給す。併し維新前は附近一帶紅花・煙草の產地として著はる。まゆはきを佛にして紅粉の花　芭蕉」

オダテ　緒立　↓坂井輪村(新潟縣)

オタテラ　雄龍良山　霧島火山脈の一峯にして、長崎縣對馬島豆酘村に聳え、嚴原町の西南約一二粁に位す。標高約五五〇米にして中世層より成る。雙子峰の雄龍良と共に龍良と稱せられ、又天道山とも呼ばる。東北方には豊場山、西南方には木楊山聳え、北方には西南流する瀬川を隔てて矢立山峰つ。この山の原始林は指定天然記念物にして、日本に於ける代表的暖帶純林たり。ホ龍良山

オタドコ　小田床　熊本縣天草郡にありし村。昭和十一年十月本村及び下津深江村を廢し下田村を新設す。

オタニ　小谷

【小谷】 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄更級郡に小谷郷あり、乎宇奈と訓あるも誤はし。高山寺本も同訓なるも、小谷を乎宇奈とは讀み難し。東鑑・文治二年の條に小谷庄の名見え、豊崎村・八幡村の地に當る。而して此處に長谷神社・長谷寺・小長谷山等あり、また萬葉集に信濃防人少長谷部笠麻呂なる人見ゆ。小長谷郷を長谷とも、小長谷の長を略し小谷とせしたるものなるべし。されば古訓の乎波郡世・乎波世なるを乎宇奈と誤れるものか。蓋し其地今の更級郡稻荷山町・豊崎村・桑原村に當る。東鑑・文治二年三月「信濃國、小谷庄、八幡宮御領」

【小谷村】 滋賀縣近江國東淺井郡の西北部。西北部は伊香郡と境す。南部は低平にして田畑拓くるも、北部は緩ね丘陵地を成す。國道(北陸道)村の中央をほぼ南北に走り、省線北陸線高月驛へ約二粁にしてバス通ずるも交通未だ便ならず。發電業盛んにして蘭を多產し、米・茶これに次ぐ。古くは和名抄、淺井郡朝日郷に當るものの如し。大字に郡上の名あり、蓋し郡家の轉訛にして淺井郡の郡家のありし處か。中世は小谷莊に作り、淺井氏三代居館の地なり。その址小谷城址はいま指定史蹟たり。淺井氏は農原氏より出で此地に居り、郡名を負うて淺井氏を稱し、守護京極氏に仕へ、後獨立して近江半國を領せしが、天正元年織田信長に滅さる。(小谷城) 指定史蹟。淺井氏三代(亮政・久政・長政)の居城にして小谷山(標高四五〇米)上にあり、遙に姉川を俯瞰し湖北一帶の要害たり。元亀三年織田信長之を攻め淺井氏亡ぶ。本丸・中の丸・山王丸・赤尾屋敷等の石垣猶存し山腹に寂寥の址あり、舊觀を觀るに足る。(和泉神社) 大字上山田に鎮座。縣社。祭神、大山祇神。創建年代詳かならざるも當社は往古より山田莊の總社にして、寶亀三年御神託により當地に勸請せられし舊社なり。鎌倉時代既に其名著はれ戰國の世に及びて當國小谷城主淺井氏一門の守護神たり。天文二十二年、永祿十二年とに淺井久政・同長政の崇敬を受け、その落主を以て率行に後ひ社殿を造營す。當時本殿以下殿舍軒を接し輪奐の美を極め祭祀亦殿重を極めたり。以後、天正十九年豊臣秀吉の朱印地百石寄進まで武將等の武運長久を祈願するところとなる。蓋し江北屈指の大社に列し、徳川時代に入りても社運逐綿たり。寶永四年神祇官より正一位和泉大明神の神階を授けらる。幕末、内外の風雲急を告ぐるや、大老井伊直弼當社に祈願を命じ、寄進代參せしめ繁社と崇む。明治九年十月村社に列し同四十二年十月神饌幣帛料供進神社に指定せられ昭和四年九月三日縣社に昇格す。例祭、四月十日。境内に摂社山田神社あり。もと淺井郡御厨の地神明谷に鎮座す。現社殿は明應九年淺井重政の創建。明治四十一年現地に遷座す。(鹿島神社) 大字留目字鹿島に鎮座、郷社。祭神、武甕槌命・齋主命・天兒屋根命・比賣神。創立年代を詳かにせざるも地方の古社にして、中世京極・佐々木兩氏の崇敬に加へ、淺井氏累代の祈願所となり、また豊臣秀吉は社殿の造營、社領の寄進を行ひ、徳川家康は二十石の社領を寄進す。尚ほ徳川將軍代替りごとに幣帛料の獻納あり。文化三年九條家より白銀若干の寄進あり、文政五年正月仁孝天皇より御撫物の御下附、長日の御祈願あり。御北に於ける有勢なる名社として重きを爲す。例祭、四月十八日。

オダノ　小田野　↓龍郷村(茨城縣)

オタノシケ　大樂毛　北海道釧路市街西方一〇粁の部落。太平洋に面し、省線根室本線の大樂毛驛(明治三十四年設置)あり。後背地は阿寒川・仁々志別川・釧路川等の複合三角洲の大原野なるも、夏季の海霧のため農作物の成熟は至難といふ。しかし熊笹叢生し、また冬季の積雪量の少きことは、放牧場に好適し、明治四十四年以降定期馬市、八・十・十一の各月初旬に開かれ頗る繁者す。

オタビ　御旅　江戸岡場所の一。深川八幡宮祭禮の際、御旅所となるより生ぜし地名。深川御船蔵前町、現今新大橋の東。お旅と安宅とは隣接せるを以て混同せる書もあれども誤なり。蜀美車紫鹿子「八幡御旅所、此淨土石場にちがひなし、但し人がら同前」契國策「見わたせば大河に渡す大はしはれたるにじの切見世や、あたけにつづくおたび所も、とまり宵あけくるかへる、むかへはおくる君がかほ」

オタマ　阿玉池　舊名を櫻が池と稱す。江戸時代今の東京市神田區松枝町にありしといふ。里傳によれば此地は往時奥州への通路にて、櫻樹多くありし所にありたる池なる故に櫻が池と呼びしと。其傍の櫻のもとに茶屋ありてお玉と稱する女住む。世の人これをお玉が茶屋と呼ぶ。お玉の容色すぐれ旅人皆足を留めざるはなし。しばらくして二人の男に慕想され思ひ餘りて終に此池に身を投じて死

す。故に於玉が池と稱す。のち里民亡散を池邊に埋め、その標に柳を植ゑて記念の柳と稱す。のち池畔には荒川星巖・佐久間象山・大窪天民等の詩人住み、或は詩筵を張り、或は經書を講ぜりと。八奚人・三迫加下「それとも彌次兵衛さまになさりたくば、おたまが池の若且那の出世へいけば近いネ」

オダマキ 尾田蒔村（おだまき） 埼玉縣武藏國秩父郡の中部。荒川の左岸に沿ひ、秩父町の西に隣る。西部及び南部は山地を成すも、北部及び東部荒川沿岸に平地拓けて耕地漸落發達す。產物は米・麥・蠶なるも養蠶地秩父町を控へて製絲業盛んなり。西方小鹿野町より來れる縣道村の中部を小鹿峠を越えて東走し秩父に至る。この縣道により秩父町にバス通ずるも交通未だ便ならず。此地は和名抄、秩父郡丹田郷の內なるべく、近世武光庄に屬す。大字田村郷は新編武藏風土記によれば往時田村權守の居住せる所にして圓福寺の前にその屋敷跡ありしが今は畑となり其跡を失ふに至る。また本村附近に秩父盆地新第三系上部に屬する尾田蒔層群發達す。卽ち尾田蒔川と荒川との合流點より横瀨川合流點に亞層せる地層にして、其底は柴原礫岩層より、上部は含化石砂質頁岩層より成る。上位は大官層群に下位は小鹿野層群に接す。（岩上親音堂）大字寺尾にあり。宗派不詳。秩父三十四所第二十番札所たり。白河天皇の勅に依り建立せられしも應仁前後の兵亂に堂宇悉く破却せらる。のち北條氏邦再建せしも、今は衰微して昔時の觀を留めず。山下に荒川の清流あり、突兀たる山嶺に堂宇建ちて、四望の風光絕佳なり。（觀音寺） 大字寺尾にあり。新義眞言宗壁山派。安光山と號し元珍法印を開山となす。聖觀世音を本尊とし秩父三十四所第二十一番札所たり。（永福寺）大字寺尾にあり。新義眞言宗豐山派。西陽山と號し南光法師の開創に係る。秩父三十四所第二十二番札所童子堂を管理す。童子堂は淳和天皇の御弟伊豫親王御追善の爲め貞正廻照、當地領主に命じて草創せるものなりといふ。元祿十四年鐵壁現堂を再建す。

オタマチ 小田町村（おだまち） 愛媛縣伊豫國上浮穴郡の西端。久万町の西南約八粁。東は參川村・父二峰村に、南は石山村・浮穴村に隣り北西は田渡村及び喜多郡大瀨村と界す。全村六〇〇米餘の山地に被はれ、村の略々中部を肱川の一支小田川西流しその沿岸に低地ありて田畑拓け、米・麥・蠶を主產す。久万町より喜多郡內子町に至る縣道通じ、バスの便あり。本村古へ寺町とも稱し護章記に寺町刑官代宗綱の名見え、在名を稱へしものか。（清盛寺）曹洞宗。もと天台宗にて清城寺と號し、天平勝寶二年の草創。孝謙天皇の勅願所。近古火災に罹り什寶を失ふ。平清盛の五女の碑と稱する五輪の塔あり。

オタリ 小谷（おだに） 長野縣北安曇郡の北部姫川の上流の山谷を稱す。糸魚川街道に當り、中に神城・北城・南小谷・北小谷・中土の五箇村を含む。いま省線大糸南線その南部に通じて森上驛に至る。此附近の北小谷村來馬には來馬化石植物群及び來馬層發達す。來馬附近に斷片的に小露出せる砂岩・頁岩及び礫質砂岩より成る地層にして植物化石を含有す。此地の小谷溫泉は元湯・熱湯・新湯の三湯に分れ、元湯はアルカリ性の炭酸泉、他の二泉は鹵性の炭酸泉にして療養向。附近には據池・尾丸・鎧割の三瀑、佛岩、平倉山城址あり。

オタル 小樽（おたる）【小樽市】 北海道後志國の北端（東經百四十一度一分、北緯四十三度十二分）に位し、ポントマリ岬・平磯岬間に包括され人口十五萬四千を算する壯年期の都市。本道第一の商業市にて我國北方交通の重要なる地位を占め、朝里・錢函を隔てて石狩平野に相對す。氣候は寒丹半島以北の日本海地方と類似性を示せど（昭和十年平均氣溫九・二、初霜十月廿七日、終霜四月廿日）特に小樽附近は氣溫の高きを以て區別され（市內手宮公園の桑林は自然林として本邦の北限界）、積雪量（昭和十年調査）は札幌の五九・五糎に對して六二・七糎を示す。市の西部は山地にて天狗・毛無・於古發・丸山等奥石安山岩を以て構成されし火山あり、侵蝕の發達甚に噴出點各所にありしため平坦面を廣く現す。此の火山性臺地の山麓地方は市の大部分を占め、前者より古期の噴出岩の斜長流紋岩・凝灰岩と之等の分解したる比較的赤色の粘土より成る臺地面横ほる。山麓部には小規模ながら朝里・銭谷・桃内に對比さるる海成段丘發達し、更に此の面を南より勝納・入舟・於古發・色內・手宮の小河流に依りて開析す。勝納河谷（約十粁）は幅員、距離大にして南部の凝灰岩と北部の安山岩との間に斷層線通過し此の特色を示せる河谷なり。小樽市は往時オタルナイ（アイヌ語の砂又は小石ある川を意味す）と呼ばれ、松前藩の北蝦夷一帶を領有するや石狩・小樽二郡を貫流するオタルナイ川沿岸の土人を現今の小樽に移し漁場を開かせたるも彼等の故地の名を其儘稱へたりといふ。文化・安政年代より北門警備の重大性に伴ひ度度篤府の直轄となしたる時あり。の卽ち治四年開拓使廳札幌に設置後は石狩平野の開拓急激に發達し、小樽は明治元年人口約二千有餘の一漁村（此の附近一帶は鰊場所にして毎年漁期には內地各地より大和船來りて交易をなし、勝納川下流地域は之がために著しき繁盛を誇む）は商港の基礎築かれ、明治十三年手宮・札幌間に本道最初の鐵道敷設を見、爾後異常なる躍進をなせり。明治二十二年特別輸出港、同三十二年開港場に指定、大正十一年市制施行。のち商會・根室・網走線開通と共に石狩平野に固より上川・十勝・北見等廣大なる後背地、商業圏を有し、氣路には樺太・內地・北鮮・道內各港に通じ、隨つて商業も隆盛に赴き、更に日本銀行・横濱正金銀行・北海道拓殖・三井・三菱・第一・安田・十二・北門・中越等各銀行支店設置され、會社は現在六百三十一を數へ、手形交換高に至つては一年間約三億八千萬圓の多額に達し、北日本に於ける經濟的として稱要の地位を示せり。而して全國港灣主要貨物出入の價格上より第十位（昭和十年）にて、其の中、外國貿易一三%、府縣・臺・鮮取引六九%、本道・樺太一八%、移出は青鹿豆・手亡豆・粉村・青木丸太等を主とす。然し最近の人口增加率は著しく微弱となり、大正十四年より昭和十年迄は僅に一四・二%にて本道都市增加率中最低位にあり。これ地域狹小、冷害凶作の頻度大なる本道最近の現狀より來る經濟趨勢、小樽近海の鰊漁業の不調、本道各都市商圏の角逐の結果による小樽勞力圏の縮小等の因子を擧げ得べく、官民一致之を克服し商業市と共に工業の充實に努めつつあり。港灣は初め明治四十一年第一防波堤（工費二百十八萬圓）、大正十年五月第二防波堤（工費五百十七萬圓）完成し、其他北は脇町より北濱町・港町・有幌町等に至る海岸全線に亙り埋立をなし、脇・港町の繫船岸壁及び鐵道省港灣修築工事として長さ三百九十七米、幅二十一米、高さ十八米五の木造ドレッスル型の高架棧橋（明治四十五年竣成、工費約四十六萬圓）、石炭船積棧橋（水深八・五米、七千噸級船船の繫留荷役を可能ならしめ、前記高架棧橋に代りて機能を示す）、トランスボータ二基（昇降五基）の設備あり、更に昭和十年度より北海道第二期拓殖計畫に依る三基の（市營岸壁に連續し第一・第二・第三號の外側の距離三一〇米、內側二九〇・九米、外側には一萬噸級船舶を、內側には六千噸級を繫留するを得）突堤式埠頭は昭和十七年に於て完成の豫定なり。之等の中間には多くの營業倉庫（二二三）、北海倉庫（雲道式の強穀補込機あり）上屋・回漕店・港灣事務・我國支所・北海道製麻株式會社（大正十年十月創定、資本金六百萬圓。東洋一を誇り工場立地要因はカムチャツカ等の北洋漁業地方に仕向くる目的より成立し、日魯漁業會社と緊密なる關係あり。最近內地需要增加し製品の約半分を供給す。輪奐は殆んど船積みにして餘をもつて本船に運ぶ）、製粉工場・日魯漁業冷藏庫等あり。之より西部の海岸地方の港・堺・色內・入舟町等は問屋商業街をなし特色ある都市景觀を示現せり。更に西部の稻穂・花園・色內の一部は都心に當り小賣商業・金融街をなし歩行者の交通量は最大なり。小樽驛（明治三十六年開設、小樽には其他南小樽・小樽築港・色內・手宮・濱小樽の五驛を有す）は此地域に屬し最近改築せり。都市の立地は初め南部の勝納川下流地域に定められ、次に北部の永井・山ノ上・港・堺・色內地方に北上し現在は前記の中部地域に固定せり。最近の都市成長は西部の山麓地域へ住宅地の增加を示す。都市計畫は高島・朝里を含める三千九百四十坪の廣大なる地域にして現在の市內は海岸地方及び勝納河谷を工業地區（製材・ゴム製品・製紙・製菓・醸造等）、山麓、海岸との中間を商業地域、南・北・西部の山麓地方を居住地域に指定せり。市內には高等商業學校・水產學校・商業學校（二）・中學校（二）・高等女學校（四）あり。神社は縣社住吉神社を始め龍宮・水天宮・稻荷・天滿宮等あり。住吉神社は表筒男神外三柱を合祀し、共に航海の神にて松前藩時代に漁業者が御神德を尊びて祀りしならん。例祭は七月十五日にして當日は港の地方色克く示され両して近郊の農・漁村より多數集る。市內には手宮古代文字（手宮驛より約數町）・日露國境劃定記念室（近海郵便會社樓上）・尼港殉難納骨堂・小樽公園（地積十萬坪）・手宮公園（公認グランドあり）・森國領事館あり、また市外には オヌモイ（近時頓に如られ海蝕崖に朱塗りの龍宮閣等の建築をなし海上・陸上より望み見て風景佳絕）・懸谷・蘭島の海水浴場・日和山・赤岩・定山溪・金市等ありて毎日自動車の往復繁く、特に札幌との間には省營自動車往來せり。（小樽港）小樽市街の東岸にあり、後背地として札幌市・石狩平野・上川盆地・十勝平野を控へ、前面地として樺太・沿海州を有す。本港は明治二十二年に特別輸出港に、同三十二年に開港場に指定さる。港の設備は明治四十一年に築港第一期工事を完了し、大正十年に手宮公園前面より平磯崎に至る延長三・六粁の防波堤築造第二期工事を完成し、その後屋々築造工事を行ひ、北防波堤は一七二三米、南防波堤は一八四七米あり、中央入口の幅は二四二米、水深一六米、東部の出入口の幅は九一米、水深一五米あり、港內は四三〇萬平方米、水深平均九・五米に及ぶ。北部手宮に石炭積込の高架棧橋あり、ここに鐵道貨物線を敷設す。旅客棧橋は小樽驛前面の南濱町に豫定す。繫船は高架棧橋に四隻、浮標一四隻、錨泊は二千噸級五〇—七〇隻の能力を有す。昭和十五年完成改修工事の豫定によれば、港の南部に堤立し、ここに石炭積込棧橋その他の設備の完備を見るに至るべし。さらに其將來は鴨目するに足るべし。本港前面地域諸港への距離は、大泊へ二二七浬、舊岡へ二三八浬、アレキサンドロフスクへ四六五浬、黑龍江河口のニコライエフスクへ六二三浬、カムチャツカのペトロパウロフスクへ九六〇浬、ウラヂオストックへ四二九浬、羅津港へ四九七浬なり。貿易狀態は次表の如し。

年次	輸入	輸出	計
大正元年	四八(千圓)	三八七(千圓)	四三五(千圓)
同　六年	六八	一一三九	一二〇七
同十一年	六四六	一三九〇	二〇三六
昭和三年	七六七	一七一八	二四八五
同　八年	七七六	二一二九	二九〇五

輸出品は木材・青豌豆・菜豆・海産物・玉葱・石炭を主とし、輸入品は小麦・鹽・金屬類・外國米・豆粕・石油・智利硝石等にして、農林產物の輸出を特色とす。取引國はイギリス・アメリカ合衆國・ロシヤ・中華民國・オーストラリヤ・關東州等の順位なり。〔住吉神社〕小樽市豊徳町に鎮座。縣社。祭神、底筒男命・中筒男神・表筒男神・息長帶姫命外三神。創立年代不詳。徳川時代より此地の總產土神として衆人の崇敬を篤む。例祭、七月十五日。社地は給上山にあり、莊嚴なる社殿を具へ、また港内の眺望を恣にし、風景勝に富む。〔龍宮神社〕稻穗町に鎮座。郷社。祭神、底津和田都美神・中津和田都美神・上津和田都美神。明治九年板本武揚等開拓地守護のため創立すと傳ふ。同三十年社殿の改築を爲す。〔水天宮〕祖生町に鎮座。郷社。祭神、彌津波龍貴神・保食神・伊邪那岐神・伊邪那美神。安政六年の創立にて明治三十三年社殿を改築し、稻荷神社等を合祀す。社地は市の中央部に位する水天宮山上にあつて眺望絶佳の勝地なり。〔小樽稲荷神社〕末廣町にあり。郷社。保食神を祀る。江戸時代享保三年の創立といふ。爾後市民の崇敬極めて深厚なるものあり。〔小樽別院〕眞宗本願寺派、市内開運町にあり。安政年間陸奥南部願樂寺の住職法惠和尚（堀川乘經）の開拓せし寺なり。〔精周寺〕新義眞言宗豐山派。明治二十二年中川惣雲師の開拓に係る。初め汐見臺町に在りしが、同四十二年現地に移る。本尊大日如來を安す。〔小樽公園〕小樽市西南部居住地域の間に、面積約九萬坪を占むる大公園にて、明治三十三年五月二十五日に開設せらる。開發當時は小樽市街の發展未だ著しからざりし故、本公園は避暑遊路、運動場等すべてが十分に與へられ、北海道らしいのびやかな感あり。ことに本公園は丘陵に據るため、展望は頗る廣く、小樽市街はもとより、小樽灣一帶の煙波を隔て、遠く石狩・天鹽の連山を望む事も得る。〔手宮公園〕小樽市の公園。市の東北端、手宮鼻の北方約一粁、高島鼻に至る海岸道路に沿ふ丘陵を占め、眺望なきも、手宮の古代文字にて遙に著名なり。安山岩質凝灰岩及び集塊岩より成る一海蝕洞窟、いはゆる岩手洞窟の奥壁に見らるる形狀奇異な彫刻がそれなり。尤も海岩の堤立、鐵道の敷設等により洞窟の一部は取去られ今は露天に曝さる。慶應二年石工長右衛門なるもの石材切出の際發見せしとも、開拓使時代に探石するに當り發見せしと云ふも、明治十一年榎本武揚、山田提雲等が書寫し東京大學に送り、同年またミルンも摸寫せしが最も古い記錄なり。重野博士は後人の彫刻なりと解し、坪井博士は多數の死人をかたどる記念碑と見、喜多博士は繪畫といひ、鳥居博士はツングース語と斷じ、中目氏は古代トルコ文字なりとし盛に讀み流し「……我は部下を率ゐ、大海を渡り……戰ひ……この洞窟に入り……」と解譯し、河野常吉等は寧ろ橫讀が妥當なりとし、平光博士はアイヌの紋樣ならんと論じたり。要するに諸說區々として明瞭を缺くが、好事家の看過すべからざるものなり。〔天狗山〕市の背後に鎮む、海拔約四七六米、大山積神を祀る。小樽全市及港灣を俯瞰し、遠く忍路・高島・石狩・天鹽迷山等の眺觀あり、夏季登山者多し。中腹に天狗山シャンツエあり、冬季スキー場として惠まる。南麓に上水道貯水池、東登山口に眞言宗精周寺、東南登山口に眞言宗高野派金毘羅大本院あり。〔水天宮山〕市の中部にあり。安政三年水天宮を祀りし故にこの名あり。近年多賀神社も遷座さる。山は高さ五十六米に過ぎざる小丘陵なるも、小樽公園と對峙し、市街と港灣の展望勝れ、遠く石狩の連山望まる。日露國境測定に當り、基礎標準となるべき經度標を當山上に造り、これを基點となせり。〔水天宮境内經度標〕水天宮山にある水天宮境内本殿の傍に建つ。明治二十六年海軍省水路部に於いて建設せし所にて、英國グリニチ天文臺を基礎となし測定せる所にかかる。明治三十九年日露國境劃定の際、緯度は天測によりしも、經度はこの標を基礎となし海馬島と結び測定せり。境内は市街港内の展望に富む。〔日露樺太國境劃定會議室〕市内手宮町三丁目近海郵船會社小樽支店樓上大廣間にして、中央大卓子・椅子等凡て當時の儘にて、壁間に圖條寫眞測定圖表等を掲げあり。明治三十八年九月ポーツマス條約により北緯五十度を以て定めたる日露國境を、特に型三十九年夏季兩國委員現地に出張し天測によりて緯度を測定し、同年十一月小樽港に歸還し、ここにて（當時日本郵船會社）會議を開催する事三日、同月十三日調印を見たる場所なり。日本側委員は陸軍大佐大島健一他十二名、露國側委員陸軍中佐ウオスクレッセンスキー他三名なりき。この室に隣る休憩室も當時の儘遺存せり。〔奥澤水源地〕市内天神町にあり。近設の朝里水源地と合せ、優に人口十七萬の需要を充たすに足る。貯水地は明治四十一年一月起工、爾來六年八ヶ月の星霜を經、大正三年九月竣工、工費百二十二萬餘圓、有効貯水量約四一萬キロリットル、紺碧の淨水當に渺漫として湛へ、緑樹、紅葉何れもよく、庶亭・茶屋の設あり。この奥に穴澤の勝景あり。

【小樽築港】 函館本線の一部（明治四十三年設置）。北海道小樽市にあり。

【小樽郡】 北海道後志國同支廳管下の郡、小樽市の東に隣り、西に忍路・余市の二郡、東南に札幌郡あり、北は小樽灣に面す。域内朝里村のみ。地域内は北に傾き南に朝里嶽（一二八一米）・和宇尻山（九〇七米）・天狗山（五〇三米）の火成岩の山地があり、朝里川・蘭越川は北流し平地少く、造業盛んにして、漁落は臨海性なり。

【小樽港】 石狩灣とも稱す。西は高島鼻より東は石狩川に至る間の海面なり、西南隅に小樽港を控へ、蘭越海岸に海蝕段丘を見るも、他は概ね平直の砂濱なり、錢函・銭函等の海水浴場あり。

オタル　尾垂刺　往昔伊勢・志摩兩國の堺、尾垂嶽にありしといふ關。神宮領の東端にあり兩國の民其位置を爭ふ。故紀天平寶字三年紀に「去天平勝寶五年遣紀飯麻呂・限伊勢大神宮之界一樹」郷、已畢而伊勢志摩兩國相爭、於是、遣尾垂刺於莘潤、遣武部卿互勢國麻呂・神祇大副下中臣毛人、少副忌部宿禰麻呂等、率幣帛於神宮」とあり。然れども尾垂刺及莘潤共に今何れの地なるやを審にせず。大日本地名辭書は勢志兩國が國堺を爭へるは即ち伊氣郷の地にして尾垂刺といふは西堺の和合山の關塞に當り莘潤と云ふは鳥羽浦にや後の考定を待つと云へり。

オタルナイ　小樽内川　北海道札幌市西方、石狩川の支流なる豊川の支流。小樽・札幌兩郡境屏風岳の熔岩臺地に發源して南流し、朝里嶽（一二八〇米）・迷路山（一〇〇五米）間の定山渓御料地を過ぎて定山渓の對岸に於いて豊平川に合流す。流程約一五粁。

オタワ　小田和灣　神奈川縣三浦郡にある灣。三浦半島の西岸南部にあり、灣口は西方に開く。灣の沿岸は大補町・武山村・長井町に亘り、灣奥に沿うて海岸低地ありて耕地拓く。尙此附近は氣候の温和なると景勝に富むを以て大東京の避暑避寒地となる。

オダワラ　小田原

【小田原東町】 省線東北本線の驛（昭和八年設置）。宮城縣仙臺市小田原長丁通にあり。

【小田原】 東京市日本橋にありし町名。江戸の初期、相州小田原の石工善右衛門が來つて石方を勤め、この所を石場となして給ったので町名となる。後魚市場となり石場は柴地に移し之を南小田原町と稱するに對し、本小田原町ともいふ。現今日本橋區本小田原町、明治大正時代まで魚市場あり。室町の東、安針町と瀬戸物町との間に在り、東北より西南に通ずる町。好色二代男・一「是はあさましき御暮し今は我名も隱さじ、小田原町の中といふ坊主也」世子方言「それに小田原町とやら新場の人とやら來てゐやした、夫もとんだ大そうなで御座りやした」大通法語「麹町で賣るる狼、小田原町につまるる鹽まぐろ」客者評判記「藏前の米に小田原町の看を喰た事もなくて、たわ事をいふな」

【小田原町】 神奈川縣相模國足柄下郡にあり。箱根火山の外輪山を切る早川の火口瀨の出口に當り相模灣に面し、箱根越の出入口として軍事地理上重要なる位置に發達せる城下町なり。小田原城は火山山麓の丘陵の端に築かれ、商家は海岸の低地に櫛比す。天主閣等は既に取除かれしが現在も特殊なる郡市形態を殘存す。町の中央には外壕を有する城郭あり、今この地帶は官廳・學校等の地域となる。東海道は東南の低地を通過し、道路が市内に入る口には鍵狀の屈折を示す部分あり、山王原の入口、板橋入口の見附は即ちこれなり。いま東海道本線の小田原驛（大正九年設置）あり。小田原急行鐵道の終點、且つ大雄山鐵道及び箱根登山鐵道の起點たり。大雄山鐵道は本町内に新小田原驛（昭和十二年度設置）あり、箱根登山鐵道は小田原幸町驛を置く。海岸の砂丘の上には臺場の跡あり。小田原は城下町たると共に、東海道に沿ふ宿驛として、三島と共に箱根峠にかかる東西の重要なる關門なりき。東海道に沿ふ地域は古くより通町と稱し、商家が繁昌せしも、鐵道東海道線開通してより旅客の山北を迂回するに及び宿驛としては一時衰頽に傾く。熱れども此の地の風光と箱根温泉・熱海温泉を控へる地理的位置は温泉休養地帶への入口として新らしき使命の下に開發せられるに至る。關東大震には震源地に近き關係上最もその災害著しかりし上に火災及び津波の被害も相重なり、殆ど全滅に瀕せり。今は著々と復興し、最近には小田原急行電鐵・大雄山鐵道等箱根登山鐵道の發著地となり、再び昔日の活氣を呈するに至る。小田原の海岸は明治六年明治天皇が行幸遊ばされしより御幸ケ濱と稱す。箱根火山の熔岩流は相模灣に面して絶壁をなし遙かに眞鶴の岬を望んで風光明媚、夏は海水浴場として賑ふ。海岸より丘陵にかけ名士の別莊多し。また此地の名產小田原の外郎藥は唐人陳外郎の裔孫、字野某、京都より來り、北條氏綱に謁し家を賜はり、其實藥を廣めしと。虎屋の透頂香と稱し古來名あり。此地古くは和名抄、足下郡和戸郷の内なるべく、近世足柄下郡早川庄に屬す。小田原の起原に就ては原の間に小田を開墾せるより起るといひ、或はこの海邊一帶の稱たる小餘綾の磯を小由留木と書きし謬より起ると傳ふるも何れが眞なるか詳かならず。曾我物語によれば建久年中曾我祐成兄弟が敵工藤祐經を尋ね小田原の宿より佐河・古宇津・遠美・小磯・平塚宿・三浦・鎌倉の邊を徘徊せしを記し、太平記に康安元年鎌倉管領足利基氏の執事畠山入道道誓、其弟尾張守義

深等が基氏に叛いて伊豆没落に際し、小田原宿に著きし夜、土肥椙郷助等主従揃し寄せ、風上より火を放ちて高山を打ちたるなを記す。また太田道灌の平安紀行にも「鳴子引くしつか小田原みわたせばいなはのすゑにさわぐ群鳥」これにより小田原の唱呼は鎌倉時代よりなるを知る。丹波與作待夜の小室節「小田原外郎、大磯、平塚、鹿部のさはりもなしに饗六の、さいさきも宜し門出よし」本朝二十四孝・四「北條が城郭の案内は、某具に傳へまうさん、元來相州小田原の城、濠深うして舞高く、要害の名城なれば観くは落つべからず、霽晴れたる時節を窺ひ、箱根山より見下せば、敵地の構へ能く知るべし」また勧農家細山瀧助（勧農五位）は本町の人にして、民に報恩社の社員となり、二宮尊徳の教を受け報恩社衰盛に方り再興に力む。のち遠諏社を本社とし百二十の報恩社を作り、報恩心學の道を修む。明治二十二年殁。七十七。〔小田原城〕起原は詳ならず。鎌倉管領足利持氏の頃は土肥氏の居城なりしも、應永二十三年上杉禪秀の亂に與して没收せられ、大森頼顕代つて守り、頼明・頼春・氏頼を經て藤頼に至る。此ころ伊勢宗瑞（早雲）伊豆韮山城にありて勢漸く強く、明應四年庇護せて當城を奪ひて移り住し、これより北條氏の居城となり、關東に雄視するに至る。のち氏綱・氏康・氏政・氏直と子孫相承けしも天正十八年豊臣秀吉に滅ぼされ、この年徳川家康の關東八州を領するや大久保忠隣を城主となす。徳川氏關東に移るに及び關東西邊の固めとして重要視せらる。〔小田原落〕慶長十九年忠隣除封改易の後城主を置かず在番をして戍らしめしが、寛永十九年稲葉正勝を封じ孫正通に至り、貞永三年後高田に移り、ついで大久保忠朝を肥前唐津より一萬三千石を食みて此處に居らしめ、子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩に一旦縣となり、間もなく廃せられ足柄縣となり、足柄縣廨を此處に置き相豆二州を治む。明治九年足柄縣廃せられ後足柄下郡の郡役所を置く。落校集成館（諸稽古所ともいふ）は文政五年大久保忠真の創立にして明治二年文政館と改め、同五年歴止さる。城はいま本丸・天守臺・二の丸及び内外濠の址殘存するも、内城の一部は宮内省の用地となり、外郭の東南部は女學校・小學校の敷地となる。大正十二年の大震災の折に壁塁は大部分崩壊す。〔小田原征伐〕豊臣秀吉の北國を撃ち、四國を平げ、九州を降すや、天下秀吉の命を奉ぜざるは僅に關東奥羽のみとなる。天正十六年、秀吉は北條氏直に鑒して上洛せしめんとせしも、北條氏は早雲以來の勢を恃んで應ぜず、秀吉に反抗の態度を示せり。天正十七年十一月秀吉は北條氏の罪を責め型年春を期し勅命を奉じて討伐すべきを布告しやがて家康を先鋒とし、十八年三月一日自ら大軍を率ゐて京師を發し沼津三枚橋城に入り征討の役に就く。北條方は叡次軍議の後松田憲秀の策により山中・韮山の二城を前衛とし小田原城に決す。蓋し北條氏は孤立無援となりしにより ここに父祖以來の傳統策により孤城を固守して敵の疲弊を待つ策に出でしものなるべし。然るに北條氏が前衛防禦地とせる箱根山中の山中城は要害なれども孤小にして防ぐに足らず。城將松田康長死守せしも、三月中村一氏・田中吉政等これを攻め陥る。一方韮山城は北條氏政の弟氏規防戦頗る力めしため、織田信雄の軍屢〻利を失ふ。よつて秀吉は包圍持久の策に出で、峰須賀家政・福島正則等を留めてこれを固み信雄及び蒲生氏郷・細川忠興等をして轉じて小田原攻圍軍に加らしむ。山中城陥るや四月一日秀吉は三枚橋より更に軍を進め、箱根に陣して諸軍を督し、堀秀政・丹羽長重・木村重玆等をして日金山の嶮を越へて小田原に遣らしめ、家康の先鋒井伊直政・牧野康成等また仙石原を經て進む。その外早川口・谷津口等の諸將共に進んで包圍攻撃の部署已に定まり、秀吉四月初旬本營を石垣山に築いて全軍を指揮す。しかし城堅固にして容易に落ち難きを見、秀吉は小早川隆景を召して策を問ふ。隆景は父元就の高田城包圍戰の實狀を說き、長圍持久を獻策す。ここにおいて秀吉もこれに決し一方淺野長政・木村重玆及び家康の部將本多忠勝・鳥居元忠等をして諸州の城を攻めしむると共に戰陣長びくに及び將士倦怠の色あらんを憂へ、歌舞宴遊をもつて陣中の無聊を慰め、また從軍の諸將妾妾を陣中に招かしめ、己も淀殿を招き京堺の商賈來つて市廛の繁昌を致す。北條氏も因幡雲慶六の進策により士氣の沮喪を防ぐ。しかも大勢既に決し、小田原城中の士氣沮喪自ら已む得ざる情勢となる。秀吉これに乘じて間諜を放ち、敵の動搖を助長せしむ。六月七日家康は北條氏規に書を送つて氏政父子の降を勸め、翌八日秀吉は堀秀治をして伊豆相模二國を與ふる好餌にて松田憲秀を誘ふ。憲秀果して意動き、長子新六郎と共に敵を秀吉に通じ、將に搦田・細川・堀等の諸將を城中に導かんとせしも、次子左馬助の諫止によりて果さず。ここに於て秀吉更に間諜を放ち、氏直に報ずるに憲秀父子内應の事を以てす。氏直大いに怒り憲秀を捕へ、新六郎を誅す。秀吉これに乘じ、更に、侍臣山中長俊をして北條氏の將成田氏長を招降せしめ頻に離間策を誘ず。韮山城の北條氏規また徳川家康の勸めにより講和に傾き、自ら小田原城に赴き氏直に降を勸む。是に於て氏政父子最早事のなすべからざるを見、七月五日氏直城を出でて黒田長政等に就き自殺開城の意を披瀝し氏政以下の死を宥されんことを請ふ。秀吉之を許し、特に氏直の死を免じ氏政・氏照及び老中大道寺政繁・松田憲

秀の四人に死を命ず。ここに於て韮山城の氏規もまた降る。型六月氏直出でて家康の陣に入り、秀吉將を遣はして城を收め、氏直を高野山に放つ。この間に上野松井田・碓氷・箕輪・武蔵松山・鉢形・深谷・本庄・岩槻・八王子の諸城相ついで降り、關東諸州全く平定し、更に奥羽の諸將の降を納れ全國初めて平定す。〔報德二宮神社〕縣社。祭神。二宮尊徳。尊徳は天明七年足柄上郡栢間（櫻井村の大字）に生る。家道零落せるも刻苦勉勵し家を興し、小田原侯の知遇を得て力を荒村興復に用ひ終に報德の教旨を立つ。安政三年十月病殁す。年七十。明治二十四年十一月從四位を贈らる。殁後その德化四國に普及し、有志國りて報德會を組織し、その徒弱ひて明治二十五年四月起工、翌の雪を祀る。同三十九年縣社に列す。社殿は本殿・拜殿等。境内二千五百坪。舊址址にありて花樹多く莊嚴の社地なり。例祭四月十五日。〔松原神社〕大字寺町に鎮座。縣社。祭神、日本武尊。久安年間の勧請といふ。始め地名に依り鶴森明神と稱せしが、天文年間に山王原村の宗中より十一面觀音の石窟に出現し、託宣により當社に遷し本地佛とせしより現社號に改むといふ。小田原北條氏の當社を鎮守とし社領一萬石を寄進す。氏綱・氏康の崇敬殊に篤かりき。寛永九年に稲葉氏領主となるや亦鎮守とし落成を以て當社の事を掌ず、されど社領は上地せられ境内も縮小せらる。貞享三年に大久保氏の此地を領するや亦鎮守とし當地住民の總鎮守とす。例祭、一月十四日。〔大久保神社〕大字十字に鎮座。縣社。祭神、大久保忠世。明治二十六年新城天主臺に創建。忠世は十五歳にして德川廣忠に從ひ上野城を攻めて功あり、次いで家康に仕ふ。元龜三年味方原の戰に武田信玄を襲ひて之を退け、天正三年長篠の戰に又奇功を奏す。同十八年小田原の役に從ひ戰後四萬五千石を以て此地に封ぜられ、治績大いに揚がる。文禄二年卒す。年六十三。明治三十二年この地宮内省御用地となりしため現社地に遷る。社域は小峯山梅園に接し春季賽客多し。例祭、四月十日。〔安國寺〕日蓮宗。立正山と號す。本尊三寶諸尊。もと一町田立正安國寺と稱す。日合上人宗祖日蓮上人より鬼子母神の靈像・立正安國論を授與され、此地に庵を結びてこれを安置す。中興開山は日蓮上人。中興開基を大檀越浅羽遠利右衛門重政とす。境内に鬼子母神堂あり、日蓮作の本尊（長さ五寸）を安置す。〔報身寺〕十宇にあり。淨土宗、寛正四年天蓮社僧譽法蓮の建立に係るといふ。以後の沿革不詳。寺寶中、紺本着色阿彌陀如來像一幅は鎌倉末期の作にして國寶たり。

【小田原急行線】東京市西谷區新宿の省線中央本線新宿駅から分岐して新原町田をすぎ、神奈川縣足柄下郡の小田原町に至る八二・八粁と新原町田から分れて神奈川縣鎌倉郡川口村の片瀬江ノ島に至る二九・〇粁合計一一一・八粁の線路を有する地方鉄道。軌間は一・〇六七米で電車運轉をなし省線とは貨物を除いた全部に對し連帶運輸をなす。この電鉄は東京の北西部郊外より南下し、省線横濱線原町田駅近及び東海道本線松田駅附近で省線を横斷し小田原町に直行す。新宿より經堂まで八・〇粁間は住宅地帶多く、また鶴卷駅附近に鶴卷鎮泉あり、稻田駅附近の稻田堤は櫻花の名所なり。小田原から約三〇粁の伊勢原の西北四粁に太田道灌の墓あり。海拔一二〇〇米以上の大山は伊勢原の西北一二粁、頂上に古來武家の崇敬せる阿夫利神社あり、また大山寺は中復に位す。

【小田原川】兵庫縣播磨國市川の一支流。神崎郡寺前村の西境に發源、東南に流れ、大字比延に至り、市川に入る。上流の一支に太田瀧あり。

オチ　乎知　越前國（福井縣）の古地名。和名抄、丹生郡に可知郷あり、可知は乎知の誤なり。御ち越智山の山谷にて糸生村・萩野村・國見村・殿下村に當る。方俗越知庄といへる地なり。後宇多院御領目錄に越前國菅野庄、大屋庄とあるは此地なるべし。

オチ　越智・越知

【越智山・越知山】ヲチサン・ヲチヤマと稱す。福井縣今立郡鯖江町の北西方約一五粁に位し、濃、越山塊の一峯。丹生郡糸生村と萩野村の境界に跨る。標高六一三米にして、山麓火山岩より構成せらる。西稜は六所山（六九八米）を經て越前岬をなして海に没し、南方には敦賀灣の灣入するあり。山中に越智神社あり。

【越智】近江國（滋賀縣）の古地名。其地いま詳かならざるも萬葉集古義に「近江國故田郡息長莊に在りて菅の名だたる處なるべし」とあり、今の阪田郡息長村に當るか。萬葉・七　眞珠つく越の菅原われ苟らす人の苟らまく惜しき菅原　同・一三「階立つ　筑摩熊野田　息長の　遠智の小菅　編まなくに　い苟り持ち來　敷かなくに　い刈り持ち來て　認きて　吾を偲はす　息長の　遠智の小菅」

【越智】大和國（奈良縣）高市郡の古地名。齊明天皇の越智岡上陵あり。畝傍山の西南方に當る。今高市郡越智岡村・新澤村等の地域なり。

【越智池】→越智岡村

【越智郡】愛媛縣五市十二郡の一。縣の北端にあり。地形上除地部と島嶼部とに分つ。除地部は高縄半島の北部を占め、形狀菱形をなし、北西・北東は共に瀬戸内海に臨む。沿海の地には平地あり、中間の地が長く北に向つて突出し、その突端を大角鼻といひ、西方に延びたるを縄取鼻といふ。島嶼部は三島群島と稱し、大三島をはじめとして、大島・伯方島・岩城島・弓削島等、大小二十有餘の島々よりなり、その位置安藝・備後の諸島と

交錯す。陸地部と島嶼部との間は有名なる來島海峡なり。その他これ等の諸島の間に花崎瀬戸・伯方瀬戸・大下瀬戸等があり。郡内越智・絶級物の產多し。國造本紀に應神天皇の朝、物部大新川命の孫手狹命を小市國造となすとあり、本郡は即ち、小市國の後なるべし。大化改新の際、降りて郡となりしものならん。郡名は早く續紀稱德天皇神護景雲元年の條に越智郡名見ゆ。和名抄に手知と訓じ、朝倉・高市・櫟井・新屋・拜志・給理・高橋・鴨部・日吉・立花の十郷を從く。中世越智氏本郡に據り、應流甚だ多く、河野・土居・得能・新居・高市・周布・久米等三十餘氏あり。その祖は小市國造乎狹命か。孝靈天皇に出づとなすは誤りに似たり。正保國は越知に作りしが、寛文年中書に復す。明治三十年北部の野間郡を合併して今日に至る。

【越智】 延喜式兵部省式に見ゆる伊豫國六驛の一。驛馬五疋とあり。其地今詳かならざれども愛媛縣越智郡九和村に大字御厩あり、或は此邊ならんか。

【越知郡】 高知縣土佐國高岡郡の北部。佐川町の西北に隣り、東は黒岩村に、西は別府村・大桐村と界し、北は仁淀川を距てて吾川郡横畠村・大崎村と界す。西北部に横倉山(一〇一〇米)聳え續ね山地に被はれ、北境を東南流し來る仁淀川本町の大字越知にて蛇行し流路を北に變じ其流域に低地ありて田畑拓き、生業は農業・商業を主とし工業・林業之に次ぎ米・麥・繭を主產物とし製糸・製材も少からず。高知市より來る松山街道本町に至り仁淀川に沿うて通じバスの便あり。古來より松山街道に沿ひ赤仁淀川の一河港に當り水陸交通の便を兼ね更に明治維新後俄に興り地方經濟の一中心邑となり、明治三十三年町制を布く。横倉山は頂上分れて二峰をなし、頂上附近は古生紀の石灰岩露出し種々奇狀をなすにより鶏頂山ともいふ。此山は昔より安德天皇潛幸地と稱せられ今鈴山上に帝の傳說御陵・杉原神社・御岳神社・住吉神社等あり歴史上古跡を以て世に知らる。安德天皇文治元年長門壇浦の戰に從臣に助けられ潛に阿波國美馬郡祖谷山に幸せられ、暫く駐蹕の後土佐國香美郡韮生山に遷り給ふ。また土佐郡本川村戸中を經て吾川郡池川郷梅山村に成らせられしも猫山中を分入り給ひ、同郡名野川郷奥名野川を過ぎ高岡郡別枝村に潛幸あり、一年の後更に本町横倉山に行宮を營まれ文治三年ここに安着せられ給ふ。かくて平家の餘黨諸國より來り山麓谷間に城戸を構へ行在を警護し、此地に居らせ給ふこと十六年正治二年御年廿三歳にて崩御せられ、横倉山上鞠が岡に葬り奉るといふ。從臣の中平知盛の子孫代々神主となり山麓宇補神に住し續田氏と稱し今に存續すといふ。鞠が岡御陵は横倉山頂上兩峰の間所にあり。昔鼠鞠の御遊ありし所といひ深林中の平地なり。今宮内省より堅固の木柵を結び安德天皇傳說御陵地となる。〔横倉神社〕大字越知に鎮座。もと南北の二社ありて、南を横倉大權現と稱し、紀伊國熊野社を勸請して、伊邪那美神・速玉之男神・事解之男神を祀り、北を金峯神社と稱し、大和國金峯山の藏王權現を勸請して、伊邪那岐神・伊邪那美神・宇迦之御魂神を祀る。三所熊野權現・三所藏王權現とも稱す。文明・大永の頃細川氏、元龜・天正の頃片岡・中村氏、江戸時代には深尾氏等の領主・藩主は神社の修造等を怠らず。また近郷の總鎮守として上下の尊信篤し。例祭、七月四日・十月三十一日。〔八幡宮〕 大字野老山に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊ほか數神。創立年代詳かならざるも、地方の古社にして江戸時代に入りては正德二年附近氏子によつて社殿造營の事あり。もと引地權現とも稱す。例祭、十一月四日。

オチ 穩地郡 島根縣隱岐國四郡の一。島後の西半を占む。郡の東部周吉郡界に横尾山(五七三米)聳え、その脈南北に延びて郡境を成し、またその餘裔郡内諸處に起伏し殆んど山地を成す。川は悉流あるも何れも峡流を成して灌漑に便ぜず。海岸線は比較的出入に富むも、山脚海に迫りて諸處に海岸を作り、北部の區浦の外碇泊の地に乏し。地勢上郡民の多くは漁業に從事し柔魚の漁獲物多く、また米・麥・蕎麥・甘藷及び用材・薪炭村類を出す。舊日本紀承和八年の條に始めて郡名見え、和名抄に都麻・河内・武良の三郷あり。和名抄、訓を岡くも乎知と訓むべし。古くはオンチとも訓みしものの如し。中世以後越智または越知に作りしが、いま穩地に復しオチと訓む。

オチアイ 落合

【落合町】 樺太廳豊原支廳、榮濱郡の町。鈴鹿山脈北端西麓にあり、内淵川とその支流多古惠川との合流の南に主要市街あり。また樺太廳東海岸線と樺太鐵道株式會社の樺太鐵道との會合點に出る交通の要地にして、大谷・落合・小谷の三驛を從く。もとガルキノウラスコエと稱し、十數戸の村落たりしも、明治三十年邦人三十戸の移民あり、同四十四年落合村と改稱し、次いで町制を布く。大正六年製紙工場の設置に因り急激に發展し、市街地を形成するに至れり。内淵川の肥沃な平野の開拓の進展に從ひ、農業聚落を增加し、これ等の中心市場として大麥・小麥・ライ麥・馬鈴薯・亞麻・甜菜・豆類・甘藍等の物資の集散多し。今後内淵奥地の豐富なる炭田の開發に伴ひ益々發達すべき重要な位置を占む。町には樺太廳・淵鈴所支所・王子製紙會社の落合工場・樺太鐵道會社等があり、また先住民族穴居遺跡あり。

【落合】 北海道石狩國空知郡上川支廳南富良野村の大字。根室本線の一驛(明治三十四年設置)を從く。

【落合村】 宮城縣陸前國黒川郡の中部。吉岡町の東に隣り、東は鮎川・大松澤に、西北は大衡村に、南は吉田川を距てて鶴巣村と界す。北部に低山性の洪積層の臺地連り谷頭侵蝕ぜ進み臺地に數多の小溪流生じ、南部は吉田川流域平地にして低く何岸には堤防を築き平地の水田を護る。主生業は農業にして米・麥を產し養蠶も行はる。縣道吉岡街道南部を東西に通じ吉岡町にバスの便あり。村名は本郡西北山地に發する諸川、村の南部にて相會するを以て落合の名起るといふ。いま相川・椿和田・鯉野・蟲袋・松坂・報恩寺・三ヶ内の七大字よりなり役場は相川に從く。

【落合村】 秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鹿巣町の西南約一〇粁。米代川の支流大阿仁川と小阿仁川の合流點に位す。東は上大野村に、南は下小阿仁村に、北は下大野村に隣り、西は山本郡に境す。村内波ね山地を成すも東部阿仁川流域に低平にして耕地拓く。主生業は農にして米を主產す。奥羽本線二ツ井驛より阿仁合町に至る縣道村の中央を通じバスの便あり。沿革の特記すべきものなし。地に夷館森と呼ぶ處あり、先住民族の遺物を發掘せり。村名は明治二十二年、杢倉・福田・新田目・羽根山の舊四ヶ村を合併し、村制施行の際、此地大阿仁川と小阿仁川とが落ち合ふ處なるにより、落合村と命名せるもの。而して役場は大字杢倉に置く。

【落合村】 栃木縣下野國上都賀郡の東部。鹿沼町の北約八粁。西部及東部の二方丘陵をなすも、中央を滑川及柔川の支流黒川南流し其流域平坦にして耕圃よく拓く。米を主產し麥・繭の產これに次ぐ。東武線道日光線通じ明神・下小代(共に昭和四年設置)の二驛を從き、また鹿沼町方面の諸町村にバスの便あり。大字文挟は舊例幣使街道の一驛にして、また大字板橋は文挟と今市の間なる小驛をなしたり。〔普門寺〕大字長畑にあり。寶洞宗にして本尊勝道作千手觀世音。開道山と號す。開基は勝道上人の母明藤尼とす。

【落合】 東京市淀橋區の町名。もと東京府豊多摩郡の町なりしも、昭和七年東京市域擴張の際、淀橋・大久保・戸塚の三町と共に淀橋區をなす。而して舊落合町はいま上落合・下落合・西落合に分る。落合は淀橋區の西北部に位し、小石川區の西、高田町を隔ててその西にあり、西方上井草より發源せる妙正寺川とその南方善福寺池及び井頭池等より發せる諸川の合流から成る舊神田上水との落合ふ點にある故にこの地名起りしといふ。しかして、二川合流後は江戸川となりて戸塚町との境を東流し、戸塚・高田兩町の境界をなして後小石川區に流入す。落合は東西三粁、南北は西部の幅廣き所に於て二・五粁、東部は約一粁比較的東西に狹長にして地勢は中央部を西より妙正寺川流るるによりその浸蝕による帶狀の低地凡そ十九米が横ぼり、それより以北は凡そ三六米の臺地が東より西に連なり、理想的な住宅地域を構成し、目白の文化村、落合の文化村などと稱せられる政治家・學者・文士・軍人・紳商等の住宅群あり。省線目白驛から西に通ずる町筋は商家連檐して中央部なる妙正寺川の低地は、最近西武鐵道の開通により商家次第にその數を增し中央に於ける買物町區たらんとせるも、從來この河水を利用せる染織・製塩・製ゴムその他の兼工業が沿岸により、東方戸塚町の工業地帶の延長部の感あり。

【落合の坂】 元祿の頃、江戸麻布の淺野式部邸前に在りし坂の名。赤坂の今井・新町より來る往還にありしといふ。國花萬葉記・七「武藏國中古來の名所。坂と稱する部。落合の坂あさぶ淺野式部殿屋しきの前也、今井村赤坂新町などよりの往還の行きあひ也」

【落合土橋】 江戸時代、現在東京市豊島區高田一丁目なる南藏院の西南にありし橋。上落合より下落合に行く道に架せしといふ。

【落合村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の南部。甲府市の西南約一三粁。南は南巨摩郡に境す。東部は稍〻低平にして耕地拓くも、西部は即ち城山(一〇二〇米)の南麓に當るを以て高く山深し。主生業は養蠶業にして繭・生絲を主產とし、特產物に牡丹香あり。富士身延鐵道の落居驛(昭和五年設置)を從く。此地は和名抄、巨摩郡大井郷の内なるべく、町村制實施の際、秋山・湯澤・塚原・川上・西新屋の舊五箇村を合併し、市之瀬川・秋山川・龍口川の落ち合ふより落合村と名づく。村内の秋山城址は秋山氏歴代の居館の址なり。秋山氏は清和源氏、加賀美氏の族にして加賀美遠光の長男、加賀美太郎を以て秋山氏の始めとなす。村内の兩鳴山に野々瀬村中野城の子城あり。また懸鼎山に裂裟區松あり、文永年間、日蓮上人蒔本行脚の途中、此山の岩石に腰を懸け松の枝に裂裟を懸けたりと傳ふ。〔八王子社〕大字迫林に鎮座。郷社。祭神、正哉吾勝々速日天忍穂耳尊・天津彦根尊外六神。創立年代を詳かにせざるも、地方の古社にして、戰國時代には武田氏の崇敬を受け、江戸時代には德川幕府より一石三斗の朱印領を安堵せらる。〔光昌寺〕大字秋山にあり。曹洞宗にして秋永山と號す。本尊地藏菩薩。開基は秋山太郎光朝、もと光明寺と稱す。中世衰類し雪嶺和尚再建し今の寺號を稱す。境内に阿彌陀堂あり、本尊は阿彌陀如來の坐像、脇士釋迦・勢至・不動・毘沙門天。寺域は秋山氏の舊址に隣接して風致佳なり。〔本清寺〕大字湯澤にあり。日蓮宗。懸鼎山と號す。日蓮上人の草創たり。日蓮大師裂裟掛松の舊蹟。

【落合村】 長野縣信濃國諏訪郡の最南

端。高遠町の東約一六粁。地形南に狹長なり。北は富士見村・本郷村・塩村に隣り、西北は上伊那郡に堺し、東南は山梨縣北巨摩郡に界す。南部は鋸山・白岩岳・釜無山等の高山聳え山深き北部は稍〻低し。釜無川の上源釜無山の東麓に發源して北流し、北部に於て右折して東南流す。信州往還西北より東南に走り隣村富士見村にある中央本線富士見驛にパス通ず。米・麥を主産す。此地は天文十一年の瀬澤合戰のありし所。甲陽軍鑑によれば小笠原長時・諏訪頼義・村上義清・木曾義高の四君が信州と甲州の境瀬澤に三日馬を休めその後甲府に入らんと議す。玆に於て武田晴信夜の霧に乘じ之を瀬澤に破るとあり。町村制施行の際、下蔦木・上蔦木・鳥帽子・神代・平岡・机先能・瀬澤新田・富里の鶴九情村を併合し本村となす。大字蔦木は往時の甲州街道の一驛たり。〔三光寺〕大字上蔦木にあり。曹洞宗。鹿鳴山と號し本尊は釋迦如來。武田信重入道し父信滿追福のため一宇を宇城山に草創し滿願寺と稱す。門佩和尚の時西裏に轉じ現寺號に改む。天和年中火災に遇ひ永く廢寺たりしを諏訪頼水廣島平に移し再建し、群鹿應逸和尚を請じて中興開山とす。今に菱花の兩紋を用ふるは武田・諏訪兩家に因む。

【落合村】岐阜縣美濃國惠那郡の東部。西北は木曾川を隔てて笛木町に、西南は中津町に隣り、東は長野縣西筑摩郡に境す。地は惠那山（二一九〇米）の北麓に當る山村にして南部に高く北部に稍〻低地を見る。落合川北部を西北流して木曾川に入る。北部を國道中山道及び中央本線ほぼ南北に走り落合川驛（大正六年設置）を置く。木材・薪・炭・米・麥・蠶等を産す。本村は明治十三年明治天皇山梨・三重及京都行幸の際御小休所となりし地にして、いま明治天皇落合御小休所附御膳として指定史蹟たり。また木曾川を利用せる落合發電所（出力一四・七〇〇キロワット）あり。此地は和名抄、惠那郡坂本郷の内にして、近世遠山庄に屬す。源義仲に從ひし落合五郎兼行は此地の人にして、木曾中三權頭兼遠の子なり。村名の起原は村の南に惠那山高く聳え、北に木曾川流れ、本村が其の間に介在して惠那山麓より木曾川に向つて傾斜をなし、數多の小流は皆村の東部にて集合し落合川となり、西北流して木曾川に注ぐ、これより落合の村名起るといふ。

【落合】愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村は下之郷村と共に廢せられ春日村を新設す。

【落合村】岡山縣備中國川上郡の西部。西は成羽町、東は高梁川を距てて上房郡高梁町の間に挾まれ、北は松原村に、南は成羽川を距てて玉川村と相對す。概ね山地を被れるも南に下り成羽川の高梁川に入る地に稍〻廣き低地ありて田畑拓け、米・麥・蠶を主産しその外木炭・柿・漆等を特産し酒造も行はる。高梁町より成羽町に至る縣道南部成羽川に沿うて東西に通じバスの便あるも高梁川上は橋なく渡船によるを以て高梁川の對岸地域とは交通不便なり。此地は和名抄、下道郡近郷の地なるべし。郷は知加乃里と訓じ、中世は近則庄に屬し、大字近俱にその遺稱なるべし。

【落合町】岡山縣美作國眞庭郡の南部。久世町の南約六粁、東は旭川を距てて川東村に對し、西は木山村に、南は津田村と界す。備中川の旭川に容る地點に發達せる渓口聚落にして、延長三〇〇米餘の丘陵に被れ、川に沿ふ地域に低地ありて田畑拓け、米・麥・蠶を主産し蘭草も栽培され、その外に木炭・柿の産も少からず。製糸・酒造も行はる。省線作備線の美作落合驛（川東村地内）に近く、岡山市より久世町に至る縣道旭川に沿うて通じ、また木山村方面に向ふ道路之より分れ備中川に沿うて通じ交通便なり。聚落は渓口に發達せるを以て交通の進歩に伴ひ後背地との關係密接を加へ本郷南部の中心色なり。また落合農業學校等あり、此地は和名抄、眞島郡垂水郷の地なるべし。本町はもと垂水と稱せしことあり、これ郷名を稱せしものならん。また本町は明治三十年町制を布き、更に明治三十七年天津村及び瀬田河村を合併す。〔垂水神社〕大字垂水に鎮座。寄社。祭神、大己貴神・譽田別尊・高皇産靈神・神皇産靈神・菅原神。創立年代不詳。江戸時代には勝山藩主三浦家の崇敬篤く、社殿の造營、鰐口・寄進・代參等の事あり。〔佛土寺〕大字垂水にあり。臨濟宗妙心寺派。莊嚴山と號す。開基は宗鐵和尚。勸請開山は藍舘宗悅和尚。中興開山を杖林慧鞭和尚とす。慶長年中火災に罹り、後再建す。

【落合村】廣島縣安藝國安佐郡の西南部。廣島市の東北約七粁。東北は深川村に隣り、西は太田川を距てて八木村に相對す。全村山地に被れ北方に傾斜し、それ等を刻める小渓流に沿うて低地あり、米・麥を主産し木履を特産す。省線藝備線太田川に沿うて通じ大字玖に玖村驛（大正四年設置）を置き、廣島市に至る縣道中部を通じバスの便あり。本村は明治廿八年深川村のうち玖・岩上・末光・諸木の四大字を分割して本村を新設す。

オチアイガワ　落合川　省線中央本線の一驛（大正六年設置）。岐阜縣惠那郡落合村にあり。

オチイ　落居村　山梨縣甲斐國西八代郡の西北部。市川大門町の南約六粁。南部と北部は高き地中央は稍〻低し。富士身延鐵道の落居驛（昭和五年設置）を置き交通便なり。養蠶業盛んにして全戸數の四分の三はこれに從事す。また大麥・甘藷の産額なからず。村内の蕨尾寺（山田山と號す）は源頼朝が富士に卷狩の際立寄り鶴の枝を倒に挿し、其の鄙の枝に根生じて生長せりと。此の側を山田川流れ下流は富士川に注ぐ。また村内に割石峠あり、頼朝の馬蹄により石割れしより割石の名生ぜりと。

オチイシ　落石

【落石】土地にてはオッチゴといふ。北海道根室支廳根室郡和田村の大字。花咲半島の一突出せる落石岬の頸部を占め、落石灣に臨み、小船の好錨地をなす。根室町の西南一九粁、省線根室本線の一驛（大正九年設置）なり。半島の東南角の無線電信局は明治四十三年の創設に係り、その通信距離は壹間一〇〇〇浬、夜間三〇〇〇浬、北太平洋との通信機關として重要なる役割を演ず。

【落石岬】一にオッチシ岬ともいふ。北海道根室郡にある岬。根室半島（花咲半島）の頸部の落石の小半島の西南端に突出す。附近は概ね亂岩險礁散在し、有名な濃霧地帶に屬す。岬の東方に落石埼燈臺（明治二十三年設置）あり、燈質は閃白光、光達距離一八浬。また紅光を以て二三四度より二四〇度迄は巽ノ瀬を、四八度より七〇度迄は昆布瀬を示す。

【落石灣】オッチシ灣ともいふ。落石半島の陸繋部の東の灣入口、東方に開きて鉤形を呈し、北岸一帶は遠淺なるも西南より北にかけての風浪に對しては假泊に適し、これと背合せの其露礁灣は東風に對しては平穩なるも、規模小なると淺瀬険岩の横はれることにより、小船の出入に適するのみ。灣の西北岸を三里濱といふ。

オチオカ　越智岡村　奈良縣大和國高市郡の西南部。畝傍町の南に隣り西は曾我川を以て南葛城郡に境ず。村内は概ね丘陵地を成すも高からず耕地よく拓く。高取町・畝傍町・御所町に夫〻縣道通じバスの便あり。主生業は農にして米を主産し藺・麥の産これに次ぐ。和名抄高市郡巨勢郷の内なるべし。古へ越智野・越野又は越智大野といふは此邊一帶を指さるものならん。萬葉集に其名見え歌枕として知らる。姓氏錄に左京神別越智直は石上同祖神饒速日命の後なりとあり、越智直は此地に本貫せしものなるべし。續日本紀延暦二年の條に賞田物部首年足をして越智池を築かしむと見え、その址今傳ふるなしと雖も本村の内ならん。中世越智氏あり、本郷の豪族にて、物部姓を稱すれば越智直の裔か、此の地の貝吹山城に據り南朝勤王のことに盡力す。萬葉・二「しきたへの袖交へし君玉たれの越野過きゆく赤もあはめやも　柿本人麿」（越智崗上陵）大字東木の天皇山頂にあり。齊明天皇と孝德天皇の皇后間人皇女との合葬陵、なほ天智天皇の皇子建王なも殯葬され陵形圓丘。天皇百濟救援のため筑前國にありて、皇紀千三百二十一年七月二十四日朝倉の行宮に薨じ給ふ。天智天皇梓宮を奉じて京師に還り、十一月七日飛鳥の川原に殯し、のち七年丁卯歳二月二十七日間人皇女と合せ葬り奉る。また二の日皇孫大田皇女を陵前に葬る。建王殯葬の事正史に傳を缺くも王の薨去に方り、天皇哀慟に勝へざせられず「聯萬歳千秋の後は必ず陵に合せ葬れ」との詔あればこれに從ひしことなるべし。日本書紀は本陵を小市岡上陵に作り、續日本紀には越智山陵と記すも、延喜諸陵式には越智崗上陵に作り、遠陵に班し、光城東西五町、南北五町、陵戸五烟と見ゆ。文武天皇の三年、この陵を修造せらるるにつきて大赦のありしこと續日本紀に見ゆ、中世、山陵荒廢しその所在を失ふに至りしが、元祿以來檢討を重ね山陵志初めて今の處を推し慕末修陵に際して現陵に御治定、元治元年修治の工を起し、慶應元年三月竣工す。〔貝弓丘陵〕大字森にあり。岡宮天皇（草壁皇子）の御陵。御陵形圓丘。持統天皇の三年四月十三日崩御、二十日率葬。御陵號は續日本紀に檀弓山陵とし、延喜諸陵式に貝弓丘陵に作る。式に「光城東西二町、南北二町、陵戸六烟」と揭げ、遠陵とす。天平神護元年十月稱德天皇紀伊國行幸の途次、南薄この陵の傍を過ぐるにより、百僚に詔して下馬せしめ、儀衛の旗纛を卷かしめられしこと續日本紀に見ゆ。〔光雲寺〕黄檗宗にて本尊釋迦牟尼佛。貞和二年越智伊豫入道の草創。開山を義天和尚とす。寺内に越智氏の墓あり。

オチカタ　彼方村　大阪府河内國南河内郡の中部。富田林町の南に隣る。南部は葛城山脈の餘脈延びて丘陵地を成すも北部は低平にして田畑拓く。石川西岸を東北流す。此線大阪鐵道の滝谷不動驛・川西驛・沙ノ宮驛に近く交通不便ならず。農産最も多く林産・畜産これに次ぐ。此地古くは和名抄、錦部郡百濟郷に屬せるものの如し。吉野朝時代に戰亂の巷となりしところ。いま彼方・板持・横山・伏見堂・嬉の五大字よりなり、彼方に役場を置く。もとに西條の莊といひ、正平年間楠木正行、四條畷に戰死してより、高師泰は此處を根據地として諸方を攻略す。大字嬉の上方の山に金胎寺城址あり、楠木氏十七枝城の一といはれ、明德年間畠山氏の將遊佐氏これに居る。金胎寺は延文の亂に足利義詮が畠山を攻めしとき、兵火にかかりて燒失す。〔明王寺〕新義眞言宗智山派。龍谷山と號し、昔に滝谷不動の稱を以て著はる。弘仁年間の創建に係り、楠木正成、本寺不動尊を崇信し屢々參籠すといふ。南北朝の頃兵火に罹り、永く假堂の儘なりしが、のち盛巷四方に勸請して諸堂を再興す。現今の堂宇是れなり。本尊不動明王は滝谷不動と稱して衆庶の信仰厚し。

オチクニ　噇國　今の山城國乙訓郡

の地。垂仁紀・十五年春二月「喋竹野媛者因形姿醜恥返於本土則羞其見返寫野自墜與而死之故、號其地謂醜國、今謂弟國訛也」

オチダニ　越知谷村　兵庫縣播磨國神崎郡の東北隅。地形西南より東北に狹長（約一五粁）なり。東南は多可郡に、西北は但馬國朝來郡に境す。全村高山連立して山深く、市川の支流東北部に發源し峡谷をなして西南流す。省線播但線の鶴居驛へ約一二粁、同線の寺前驛へ一〇粁、何れもバス通ずるも交通未だ便ならず。主生業は農にして米・藺等を產し、また蔬菜・花卉・果實等の特產物あり。此地古くは和名抄、神埼郡埴岡郷の內に屬せるものの如し。

オチナワ　阿兒奈波　琉球の古稱。奈良時代琉球に漂着せし我が遣唐使の船は此島を阿兒奈波と呼べり。これが後轉訛してオキナワとなりしもの。

オチヌ　越智野・越野　↓越智岡村

オチバ　落葉山　投木山又は童子山とも云ふ。六甲山塊の一峯にして、西宮市の西北約十粁、神戸市の東北約十二粁の地に位す。兵庫縣有馬郡有馬町に屬す。東方に湯槽山（七九八米）あり、この中腹に有馬溫泉湧く。落葉山麓に善福寺あり、本尊聖德太子立像は國寶なり。この山の夕照は、有馬六泉の一として賞せらる。天文年中三好宗三、ここに城を築けり、因りて一名城山とも云ふ。百合若大臣野守鏡・二「夜半の鐘の落葉山、梢寂しく吹く風に」

オチホ　落帆川　樺太豐原支廳の東北部富內郡にある川。鈴谷山脈の北端落合山（三八二米）の東流に發し、東南に流れ、オホーツク海に注ぐ。流程大ならざるも鮭の遡ること多し。川口に落帆部落あり。

オチムツ　おちむつ　義經記に見ゆる越後國の古地名。源義經、北陸道を下りて奥州平泉に向ふ途中越後の岩船より羽越國境の念珠ケ關に至る間の海岸ならん。今何れの地なるか考へ得ず。恐らくは新潟縣岩船郡上浦村・下海府二村の海岸なるべし。義經記・七「いはふねといふ所につきて……ゆきしろ水に山河まさりて叶ふまじ、いはひがさきにかかりておちむつやながさか、ねんじゆの關、大泉莊、大ぼんじを過らせ給ひて云云」

オチャシツ　御茶室山　大阪市東區玉造東雲町の南綿谷町の一町南筋の東の字地。豐臣秀吉大阪在城の時茶室を建てし跡といふ。

オチャノミズ　御茶の水　東京名所舊跡の一。江戸開幕の當時、御茶の用水となりしによりこの名ありと傳ふ。德川家康入國間もなく慶長の末にこの水を用ひてその美を稱したるより、以後も御茶の水に差上げることとなり、御茶の水を汲む地ゆゑに名とせるものにして、水は江水に非ず、湧出の山水なりしと稱ずらる。御茶の水記に「御茶の水の味は、その性輕く、味甘く、鹹鹼土の三氣も畢飲してこれを口裏に知るべからず、茶を煮てよしその眞味を表はす」とあり。この水を以て德川一、二代將軍が御茶の水に召されし事より此涌水の邊の流れを總じて御茶の水といふ地名に呼ぶに至れり。やがて神田川の流れが水道橋より萬世橋に達する間、縣屋百尺の下、御茶の水の名を賞め用ひられ、舊跡と共に其風光も稱ぜらるるに至る。寛文の江戸繪圖を見れば、もとの女子高等師範學校のありし西の邊と思はれるところに芝居の圖を描き、その前に「お茶の水」と記ぜり。而して縣屋の中腹に當る如し。また御府內備考には駒込高林寺の記錄の中にその寺が慶長九年元神田よりお茶の水に移された時のことを記して「屋敷內お湯となりて、清水湧き出せしかば、台德院殿のお茶の水に仰付けられ、井戸の蓋も寺に預け置かれたり」と見ゆ。これお茶の水の名のよつて起るところなりと記ぜり。江戸砂子に「聖堂の西に井あり、この井名水にして將軍の水に供したるが神田川堀割の時、湯になりて水際に殘りしも享保十四年、江戸川洪水のため、川幅廣げられし時、川巾によつてその形無くなれり」と見ゆ。その頃のお茶の水に船を浮かべて隅河臺の方を見れば、縣屋絶壁數百年の大樹の鬱蒸として殘るあり、聖堂の森の方にもその趣あり。いまの女子高等師範學校の處を學問所と稱せし時の淺學者達により「御茶の水では詩にもかけぬ」と稱し、撰せし名が即ち「茗渓」にて、その茗渓を作詩して小赤壁などと稱せし風致は明治に至るもなほその名殘りを止め、昔の名物時鳥は聞くを得ざるも餐飛び交ふ風情は存せりといふ。その後本郷、神田川の通路不能のために兩岸を削りて架橋せるが今の御茶の水橋にして一頃はその奇觀を賞ぜられしも、御茶の水の風光はその頃より次第に損はれ、大正震災後、この橋と昌平橋との間に架けられた聖橋が、かへつて復興橋として偉觀を呈するに至る。橋の袂に中央線の御茶ノ水驛（明治三十七年設置）あり、總武本線これに接續す。

オチュードー　御中道　富士山（靜岡・山梨縣境）の中腹、海拔二五〇〇米內外の一線、即ち谷登山道の五合目を連絡する廻遊道にて、これを一周するを御中道廻りと云ふ。一周十三里と稱せらるるも、實際ほぼ三十粁にして一日行程なり。御殿場口五合目を起點として左廻りをなせば、直ちに側火山寶永山に至り、その珍しき火口を見て大宮口五合目に達し、大澤・石靈の勝を過ぎ、唐松五葉松の森林を横斷して御庭（二四二八米）に着し、精進口五合目にして古御岳神社を拜し、吉田口五合目を經て御殿場口五合目に歸りて周遊を終る。この御中道を辿れば富士の山容・眺望・植物等凡てを觀盡すことを得て、御中道廻りは高距ほぼ等しき地點を通過するも植物景觀に於て著しき差異を發見す。西南側は濕潤なる風、豐かなる日光を受け岩盤古くよりよく安定し、土砂の動搖なきため森林の發達最も著しく、南部に於ては二五〇〇米、西部に於ては二八〇〇米の地點が森林限界をなす。これに反して東北側は日受惡しく、乾燥せる風吹き附け、且つ寶永山の噴火に依つて砂礫が新しく堆積したるため森林地帶は破られ、森林限界は北部に於ては二四〇〇米なるも、東部に於てはやや低く一七〇〇米前後（ほぼ一合目）の地點とす。なほ高山植物の分布にも著しき變化を見る。御中道廻りは晴天に於てのみ決行し得られ、風雨の際は危險なり。

オツ　小津　【小津浦】和泉國（大阪府）の歌枕。一に小津濱ともいふ。今の泉北郡大津町の地なり。土佐日記「五日、けふからくして和泉のなだより、小津泊りをおふ、松原めもはる〳〵なり、かれこれくるしければよめる。行けどなほ行やられぬはいもがうむなつの浦なる岸のまつ原」

【小津】肥前國（佐賀縣）の古地名。和名抄佐嘉郡に小津郷あり手都と訓ず。其地詳かならざるも佐賀市の西郊を小津といへば、佐賀郡の嘉瀬村・鍋島村などなるべし。一に西川副村・中川副村・新北村なりともいふ。肥陽軍記に津東郷とあるは、小津の東郷の意か。正應五年田所注文に小津東郷田百三十三町とあるは此地にして、東鑑に小津太郎入道とあるは蓋し本土の人なるべし。

オツ　尾津　【尾津】伊勢國（三重縣）の古地名。古事記には尾津前と見ゆ。書紀景行紀に日本武尊が東夷征伐の御歸途、尾張より此地に來給ひし時、倉に東向の際この地に置き忘れ給へる劍の倉も失せずして松の木の下にあるを見て「尾張に　たたに向へる　一つ松　あはれ一つ松　人にありせば　きぬ着せましを　太刀佩けましを」と詠ぜらる。其地は後の和名抄、桑名郡の尾津郷の中にて、今の多度村古猪村の中ならんと云ふも詳かならず。此邊は揖斐川の下流に當り地形の變甚しきより往古の地理考定すること困難なり。

【尾津前】尾津を見よ。記・中・倭建命東夷征伐の段「到三坐尾津前一松之許、先御食之時、所忘其地御刀、不失猶有、爾御歌曰、袁波理邇、多陀邇米遲弊流、袁波都能佐岐那流、比登都都麻那阿勢袁」

オツ　麻津　三河國（愛知縣）の古地名。和名抄額田郡に麻津郷あり、訓を岡くも手都と讀むべし。今その地詳ならざるも額田郡龍谷村等の邊か。一に東賀茂郡松平村の地なりともいふ。

オツカワ　乙川　愛知縣知多郡にありし町。明治三十九年本村は鯉崎町・有脇村と共に廢せられて鯉崎町を置き、乙川はその大字となりしが、のち半田市の一部となる。地に省線武豐線の乙川驛（昭和八年設置）あり。

オツキ　御月山　↓中ノ岳（新潟縣）の別名。

オツキライ　越喜來　【越喜來村】岩手縣陸中國氣仙郡の東部。盛町の東方約四粁、東北は吉濱村に、西は立根・猪川二村に、西南は赤崎・綾里二村と界し、東南に越喜來灣を擁す。五葉山（一三四一米）の支脈は、北端の笠詰山（八八六米）・大窪山（八三八米）となり、その山麓は東南に延びて鈎魚峠（七一七米）・羅生峠（二四六米）・大六山（五一五米）となり、その端は宮崎にて海に沒し、また南部は今出山（七五七米）・大股山（六一二米）連亙して西端をなし、海岸は沈降海岸にして山地直に海に迫りて崖をなし、灣奥川の注ぐ所に僅に低地あり。暖流は神合近く北流するを以て氣溫比較的暖かにして動植物よく繁殖し植林事業發達し、農產には米・麥・大豆・小豆・粟・馬鈴薯等あり。併し主生業は漁業にてその產額は村の生產額の過半を占む。盛町より釜石町に至る街道通じバスの便あり、また海上には沿岸航路の便あるも交通の便よろしからず。村名の起原は昔八幡太郎義家東夷征伐に際し鬼を追うて此地に來るあるもつて越鬼來村と稱し、のち鬼を喜に改むといふ。

【越喜來灣】岩手縣氣仙郡の東部にある灣。北部は越喜來村の大窪崎、南は綾里村の鮑崎が灣口を抱し西北に灣入す。灣岸は越喜來村・綾里村に屬す。北方の吉濱灣、南の綾里灣等と共に陸地の沈降により生ぜしものにて灣岸は殆ど海崖をなす。灣入約六粁、灣口約一・五粁。灣奥の泊濱は漁港として利用され附近に小陸漁場あり。

オツクバ　小筑波　小は接頭辭。茨城縣の筑波山のこと。一に小筑波嶺呂にも作る。萬葉・一四「小筑波の繁き木の間よ立つ鳥の目ゆか汝を見むさ寝さらなくに」同「小筑波の嶺ろに月立し逢ひた夜は多なりぬをまた寝てむかも」

オッコト　乙事　——岳　狩場山塊の一峯にて北海道渡島半島西岸に近く位す。後志支廳島牧郡西島牧村の西部に聳え、標高一一七〇米。東西に連亙する狩場山塊主脈の西北方支嶺をなす。東南方に前山（一二六〇米）・狩場山（一三一九米）連聳す。東斜面より小田西川發して西北流し、川を隔てて東方にフモンナイ岳（一三三七米）對峙す。北・西麓は日本海に浸れ、西北海岸に西島牧村オッコナイ部落あり。

オッコナイ　乙事　↓本郷村（長野縣）

オツジ　乙字瀧　一に龍崎瀧・石川瀧ともいふ。福島縣石川郡泉村大字龍崎の山中にあり。省線奥羽本線の須賀川驛の東南約六粁。阿武隈川の本流が角閃安

山岩脈に遮られ、大瀑を作る。南岸に近く乙字形に屈曲せる部分流勢最も烈しく、之より瀑名起るといふ。幅約二五〇米。瀑の上流にいま發電所に河水を導く堰堤あり、ここを河水の越える處更に小瀑を作る。

オッタチ　乙立村　島根縣出雲國簸川郡の南部。朝山村の西に隣り、北は古志・布智・神西・江南・宍道村に、南は飯石郡東須佐村・西須坂村と界す。東南境に玉院山（五五四米）、西南境に三子山（四八九米）聳え、本村狹れ山地に被れ、北流し來る神門川（一に神戸川）本村の西南より東北に流れ、その間立久恵の峡谷美を作り、また流域一帶は低地にして田畑拓け、米・繭を主産し木材・木炭亦少からず。社線大社宮島線道は神門川に沿うて東部を南北に通じ、下立久恵・立久恵（共に昭和七年設置）及び尚名（昭和八年設置）の三驛を置き、街道また神門川に沿うて通じバスの便あり。この地は和名抄神門郡伊秩郡の地なるべし。また出雲風土記に見ゆる神門郡戸里大門立村は本村に當るか。また同書の宇比多俣山と見ゆるも立久恵の奇驚神龜峡に擬す。出雲風土記・神門郡「神戸川。源出飯石郡琴引山「北流御鰐」來嶋、波多、須佐三郷」出」神門郡餘戸里大門立村「云云」〔立久恵〕　指定名勝・天然記念物。一に神龜峡といふ。下立久恵驛より約半粁。

村に入り宇立久恵にて約一粁の間、兩岸絶壁をなし岩柱高く錯峙し、其景珠に左岸に著しく發達して菩賢岩・女珠岩・天柱岩・天狗岩・御經岩・裝束掛岩・猿岩・屏風岩・不動岩・蠟燭岩・烏帽子岩・神龜岩等を以て呼ばる。是等の基盤は集塊岩質安山岩にして風化水蝕の作用を受け、軟弱の部分は早く崩滅し堅硬の部分はよく殘存し生ぜしものなり。削立する岩石に生長する植物は盆栽的雅致を具へ、兩岸一帶に杉林繁茂し、その下清流繞りて潺しては急瀬となり、淀みては碧潭となり、兩岸の景觀四季に伴ひ推移し景色自ら變化し、夏季は舟遊鮎狩の好適地となる。天柱岩中腹にある洞窟は往古神龜の黄金佛を背負ひて出現せし所と傳へ、神龜峡は之に因みしものなり。

オッタテ　押立　←倉島村（廣島縣）

オッチシ　落石　←落石

オットモ　乙供　青森縣上北郡甲地村の大字。省線東北本線の乙供驛（明治二十七年設置）を置く。

オッバ　追波　宮城縣桃生郡にある北上川の分流。鹿又村にて本流と分れ、東北に流れて追波灣に注ぐ。其灣口には砂嘴が發達す。川幅廣く、流れは緩慢にて舟楫の便頗る大なり。もと北上川は一は追波灣に、一は定川の方に分流し追波川を幹流とす。現在の如く鹿又村にて追波灣・石巻市の方面の二派に分れ、石巻市方面を北上川となすは近世の事にて、或は慶長年中といひ、又元和・寛永年中ともいふ。いま追波川の北流に舊河道の痕跡を認む。

【追波灣】　宮城縣にある灣。大須崎と十三濱崎との間にあり。灣岸は本吉郡十三濱村・桃生郡大川村・十五濱村の大指崎にて灣口を扼し灣口は廣く東に開く。北上川の分流追波川の注ぐ處にて、灣の南濱に名振灣、西濱に長西湊あり。名振灣口には八景島・小八景島等の岩礁あり。沈降海岸の特相を示す。

オッパマ　追濱　横須賀市西北部、長浦灣の北方に突出する岬角の先端。小灣入の灣頭に位し、長浦灣の一支灣とも見るべきもの。海軍飛行場所在地として知らる。

オッフ　尾太山　鳥海火山脈北部の一峯。弘前市の西南方並びに岩木山の南方、いづれも二〇粁餘に位す。青森縣中津輕郡西目屋村の東南部に峙ち、標高一〇八三米を算し、鉱石安山岩より成る。岩木川支流湯ノ澤東北麓を洗ひて西北流し、川を隔てて陣岳（一〇四八米）・陣場岳（一〇四九米）峙ち、大澤は西麓を北走して岩木川に合す。山頂より北方には東北流する岩木川の彼方に岩木山（一六二二五米）を仰望し、東北方には津輕平野を俯瞰し、中に弘前市等の街區を眺め、西南方には秋田縣山本郡との境界連嶺の彼方に駒ヶ岳（一一五八米）の聳立するを見る。

オッペ　越邊川　埼玉縣荒川の一支流。入間郡と比企郡の境に發し、高麗川・槻川を容れ、川越市の北方、比企郡伊草村の附にて入間川に合し、東流して入間郡杉木村にて荒川に注ぐ。

オツミヤマ　乙見山峠　長野縣野尻湖西岸より西方約十七粁に位する峠。東方の長野縣上水内郡柏原村方面より、新潟縣中頸城郡杉野澤村を經て最高點に達し、西方なる北安曇郡中土村小谷温泉方面に至る山徑。最高點は標高一五四〇米にして、北方の蓮師岳（一八〇二米）と、南方の松尾山（一六七八米）の中間鞍部を乗越し、杉野澤と中土村に跨る。

オテ　小手村　←廣島縣岩代國伊達郡の南部。月館町の西南に隣り、西北は小國村に、西南は小島村と界す。西北に女神山（五九九・四米）その他の殘丘群あり、東に太郎坊山（五五一・一米）の殘丘があり、その中央に丘陵性山地あり。その間廣瀬川とその支流藤田川北流し、その岸に僅に低地あり。低地少きもつて水田乏しく畑地農業を主とし、養蠶も行はる。副業として羊・兎等を飼養す。廣瀬川の谷にはこの地方の中心たる川俣・月館・掛田の三町間を結ぶ縣道通じ乗合バスの便あり。村名の起原は機織神此に機織姫なる小手姫を祀りたるに因むといふ。大字下手渡は、文化三年筑後立花家の支封戸次主膳正種の次下手渡藩（一萬

石）のありし所。字天平にはその居城址あり。明治二十六年大字小島分離し、小島村を置き、いま藤田・下手渡・上手渡の三大字よりなり役場は藤田に置く。

オテカワ　小手川　廣島縣伊達郡にありし村。昭和三年月館町と改稱す。

オテンスイ　御天水岩　本曾山脈（日本中央アルプス）の群嶽頭山（長野縣上伊那郡伊那町の西端に位し、標高二七二七米）の南側に横ぼる花崗岩の五石を云ふ。上部の四所に常に雨水乃至夜間の露の爲に滿水するを以て御天水岩の名稱出づ。岩の大きさ、直徑南北約三米、東西約三・五米、高さ約一米。四所は長徑約一米、短徑〇・八米、最も深き箇所にて〇・三五米。

オテンダ　落平　←小祿村（沖繩縣）

オト　乙島　宮崎縣東臼杵郡門川町の南方約一粁半に浮ぶ小島。海拔七九米。西部本態に面するところは鬱蒸たる樹林に蔽はれ、東外洋に面するところは石英粗面岩の柱狀節理殿に排列して高さ約五〇米の斷崖を成し、崖下に著しき隆起海岸あり。島上には椎・樟・松等の美林繁茂し、中に蒲葵等の暖地性植物を生ず。外洋に面して南側に四箇、東側に三箇、北側に一箇の洞窟存し、それ等の中龍宮窟最も著はれ、各洞窟と共に柱狀節理の景觀に富む。

オド　小戸　←川西町（兵庫縣）

オド　生出ヶ森　一名を大白山といひ、宮城縣名取郡生出村東部にあり。仙臺市の西界を去ること遠からず。高さ約三百米に過ぎざるも、圓錐形を呈し、山側は三五度乃至四〇度の急傾斜をなす火山岩質にて、第三紀凝灰岩中に噴出せるものが、その後周圍の岩石の浸蝕作用のために除かれたるもの。岩石は板狀節理をなす。

オトート　弟島　一に大樹島ともいふ。小笠原島父島諸島の北部にあり。東西一・五粁、南北約五粁。海崖峻しく船の寄泊に便ならず。島上臺地上は平地となり飲料水に惠まれ、西南部濱の臺地上に小集落あり。

オトイ　乙井　←造田村（香川縣）

オトイネッブ　音威子府　北海道天塩國中川郡常盤村の大字。宗谷本線の一驛（大正元年設置）あり、北見線の分岐點をなす。

オトエ　音江村　北海道石狩國空知郡の西北部。空知支廳管内。石狩川の南岸に位し、川を隔てて妹背牛村・深川町・一巳村・納内村に對し、西と南は江部乙・赤平の二村に隣り、東は上川支廳上川郡に接す。南方に音江山（七九六米）・沖里河山（八〇二米）峙ち、北に向ひ次第に傾斜し石狩川の低地に臨む。農産は米を第一として純生産の八割餘を占め、畜産之に次ぐ。國道村の北部を東西に通じ、音江市街地より深川町へ約四粁、バスを認じ以て函館本線と連絡す。明治四十二年以來二戸町制を施行し役場を音江市街に置き、又農産物檢査所派出所あり。アイヌの遺跡多く土器・金器・石器・竪穴等本道稀有のものあり。〔オキリカップの環狀石籬〕　村のオキリカップの丘上にあり。大小無數の岩石を、環狀に樹て繞らしたるものにて十數箇を算ふ。その大なるもの直徑五米内外、小なるものも二米に達し、環内にも塊石を存す。忍路の環狀石籬に比すれば規模小なるも、この種の遺跡は世界各地に存し、太古未開住民の墓地若しくは祭場として使用せられたるものなりといはる。

オトカワ　男川　愛知縣額田郡にありし村。昭和三年本村は岡崎市に編入さる。

オトカワ　音川村　富山縣越中國婦負郡の西部。富山市の西南約十二粁。西は東礪波郡に、北は射水郡に境す。村内概れ山地にして丘陵起伏し、村の中央を北流する山田川沿岸に小低地を見るのみ。縣内をほぼ南北に通じ、古里村にバス通ずるも交通の便未だよろしからず。主産物は米・繭・麥。中世は山田郷の内に屬せり。

オトキキ　音聞山　名古屋市の一名所。市の東方東山の南端をなす八事山の内にあり。今俗に八幡山といふ。標高約八〇米。傾斜緩き丘陵、南に天白川の清流あり、濃美平野・熱田の海を望み風景よし。興正寺・八事遠圓あり、また住宅地たり。古來歌枕の名所。天禄・二〇「おとききの山のふもとや近からむあはてのもりにあひたきかな　祐舉」

オトクニ　乙訓　【乙訓郡】　京都府（山城國）十七郡の一。山城盆地の西邊を占め、京都市の南西に接續し、面積七十七方粁餘、人口約二萬七千三百餘の小郡にして、向日町・久世・久我・羽束師・大山崎・新神足・物印寺・乙訓・大原野・大枝の一町九村を其の所轄とす。〔地形・地質〕　郡の西部山地は丹波高原の東緣をなし、高度さまで高からず、最高山たるボンボン山にて六百七十八米餘に過ぎず、平均約四百米内外なり。この山地より東方に漸次緩斜し山城平野に至る。地形上三つの地區に分かる。西部山地・中部丘陵地・東部平坦地の三地區即ち之なり。この三つの地區は地形の他、地質は勿論生産形式・人口分布の狀態等の人文現象に至る迄各〻其趣を異にす。西部山地は郡の西部より北部に連亘するものにて、主として秩父古生層より成り、其東方は急峻なる斷層崖を以て山城盆地に臨み、山麓の洪積層の丘陵地に移化す。北方老ノ坂峠の坂下大枝村香掛より南方大原野村坂本に引く一線ほぼ正に此斷層崖に當る。また坂本より南々東の方面の構造線によりて新な斷層崖が坂本・灰谷間に存す。二者は其の方向を異にするものにて一の鏡番斷層かと云はる。然し地形上一連の斷層崖の狀態を示

す。

また地質上に於ても右三つの時代の活動と見るべきものにて、西方秩父古生層と其東部の古期岩層とを覆給し、この新生層は中部の丘陵地に於ては第三紀層を形成せし後、更に第四紀層と共に隆起せられ、東方に於ては第三紀層の上に第四紀層を重ねて、東方に於ては第三紀層の上に第四紀層を重ねて、東方に於ては第三紀層の上に第四紀層を重ねて

淀の地理上の優越點があり、且つ淀城の所有地にて政治的意義もありしに依る。德川三百年、伏見・大阪間の通船二十石舟は本郡の淀を本據として活動し、德川中期に於ては、淀本據の淀舟二十石さへも約八百隻の多きに達せり。明治に至りて和船に代るに蒸汽船が現はれ、外輪式の汽船が伏見・大阪間に往來し、二三十石船は大打撃を蒙りしが、それよりも鐵道の開通は致命的打撃を與へ、和船は漸次陸を沒するに至れり。然し汽船は今も盛に往來し重要な運輸機關たるも本郡交通系には關係なし。〔集落と都城・神社と氏族〕本郡の集落はその發生極めて古きものの如し。本郡各地に散在する幾多の古墳によるも、古代人の生活地帶として山城盆地中重要な地域たりし事が窺はる。其の古墳分布度の大なること我國に於ける古墳分布地帶に當り、斯界に注目さるる處なり。有史以降は古事記に弟國・石作部等の名あり。また日本書紀には繼體天皇の弟國宮あるなど一時的にせよ都があり、從つて集落も發達せるものなるべし。其他、延日本紀等に本郡の地名や社寺名多く散見するも、これ等は集落とも減る關係を有するもの多し。よつて奈良朝以前の本郡の開拓と集落の狀態を推知し得らる。殊に祝式天皇の長岡宮の御造營は著く世人の知る所なり。延暦三年五月に藤原小黒麿等を遣され、山背國乙訓郡長岡村の地を相ぜしめらる。同六年閏

して駿以上水陸之便、遷二都鼓邑一云々又曰く長岡村百姓家、入二大宮處一者一同二京戸之例一とあり。其の規模・境域に關しては未だ其の全貌は明ならざるも、大極殿は向日町鶴冠井に當り、今その地に記念碑を建つ。即ち大極殿は當時長岡丘陵地の上にあり、ここを中心として恐らく大體平城・平安兩京のそれに等しき都城が計畫されしものと察せらる。然るに遷都後僅かに數年未だその宮殿の全部さへ完成せざりしに際し、早くも平安に遷都されし故、城坊に至りては計畫のみにて、全部の完成を見ざりし事は事實なるべし。從つて其の條坊が如何なるものなりしかは全く不明なり。然し筆者は先年來同郡下の條里を研究中、條里實施地域内に、條里地割たる三十六丈一町の中に條坊の地割たる四十丈一町割の地割を西部丘陵地の所々に於て測定せる所なり。此の四十丈地割は恐らく長岡京の舊條坊なることは疑なかるべく、京域推定の一助となりまた條坊計畫研究の指針たり得るかと思はる。條里と村落との關係は極めて密接なり。本郡東部平坦地より西部丘陵地の末端近き地域に渉り、古代農村土地制度の名殘たる條里遺蹟を數多く見出す。而も其の復現も試みられ、其の全貌は大體明かなり。この條里の地割が農村集落の形態は勿論その成立發展に影響を及ぼせり。其の形態より見れば、菲盤型の整然たる集落にて、成立の狀態より見れば、古代の五十戸一里の集落なるもの多し。中にも代表的なるものは、井ノ内・今里・上下久世・森本・東土川・菱川等の諸邑とす。其の他西部丘陵地に至れば條里式村落より無系統なる自然發達の形式を示す集村となり、また交通路に沿ふ謂ゆる街村も發達し、大山崎・神足・向日町等は相對的街村にて、桂川に沿ふ古昔よりの舟子集落たる淀は非對照的街村の典型的なるものなり。評伴等により發達せる交通的集落は大山崎・斉掛等とす。舊城郭所在地は勝龍寺・天王山・神足等なり。平安時代に於ける本郡の集落發展の狀態を詳細に知る事は不可能なるも、その大要は和名抄の郷名によりて推知することを得。即ち和名抄には大江郷（現大枝村の邊）・石作郷（現大原野村に石作の大字あり）・榎本郷（所在不明なるも大體現乙訓村の邊と思はる）・駒岡郷（海印寺村邊か）・山崎郷（現大山崎村）・物集郷（現向日町大字物集がその中心）・長井郷（所在不明なるも現向日町の邊と思はる）・訓世郷（現久世村）・羽東師郷（現羽東師村）の九郷あり。面積僅か六方里内外の小郡に九郷を置かれしことは、當時本郡の開發狀態を雄辯に物語るもの。一郷内に平均三つの集落がありしと見ても二十七ありし事になり、現在一町九箇村三十三大字なると比較して大差なきを知る。勿論一集落内の戸口は現在と相當の差あるにせよ、集落の分布狀態は現狀と驚くべき差ありしものとは考へられず。また前記和名抄の郷名も一二を除き殆ど現在その遺稱を傳ふる事實に徴するも、本郡農村集落の變化少なきを推知し得らる。鎌倉以後に於て集落の分離發展を知る相當の資料あるも之等は多くは一郷又は一里の分離にして謂ゆる枝村なり。この枝村が親村以上の發展を見たるものは少く、現在にては一大字中の一の小字となるもの多し。次に氏族の發展と社寺の分布より見たる本郡は如何なるものなりしか。上代に於て本郡内に存せし氏名の主なるものは、大枝氏・石作氏・物集連氏・宇治宿禰・國背宍人・羽東連・與等連・大作山前連・榎本連等なり。これ等の氏族は多く郡の北部長岡丘陵と、西部の山麓丘陵地がその著居地帶にて、大枝氏・宇治宿禰は大枝地方に、物集連氏は長岡丘陵東側に、榎本氏や石作氏は西方山麓地帶に居住し、石作連の如きは西方山地に石灰岩を產するにより、之を以て灰を作り、時に石棺を刻も氏族なり。また著居地帶の一は東部平坦地にも及び、國背宍人は久世村邊に、羽東連は羽東師村邊に、與等連は淀村邊を其の本據地とせるものの如し。羽東連は土を以て物を作る部民にて、また山前連は恐らく山崎の地に居りし氏族と思はる。羽東連は羽東郷に住し其の氏神羽東師神社を率祀する部民なり。其の子孫は現在羽東師村を保持せるものと見らる。かく氏族と其の氏神

又は現住民との間に、或る特殊關係を存する事は我國の特有美風なり。本郡に於ける式内社は十九社の多きに達す。和名抄の郷名の多き事、及び式内社分布度の高き事は確に當時本郡の開發進展著しく集落・氏族亦他より發展し居りしこと明なり。降つて中世莊園發達時代には、本郡に於ても數多の莊園あり、櫛門・社寺等の領地たり。就中有名なるは東寺領久世庄にて本莊園を繞る抗爭が展開されしこと史上明なり。由來本郡は一城一主の領土的統治を受けし事なく、公轉・社寺等の屬領にて、この制度は明治維新迄續き、幕末に於ては二百數十の領主に分屬し居れり。從つて風俗・習慣上に多少の差異を認めしも、現時は殆ど一定せり。

【乙訓村】　京都府山城國乙訓郡の中部。村の西半は丘陵性の山地なれど其の東半は農耕地なり。面積五・五方粁に近く、人口約千八百の純農村。地形・地質共に三つの區域に分れ、而も二者の間には、小なりと雖もよく本郡地形地質の相關々係を縮少せる標式的の狀態を示す。即ち本村の地形區が西方山地と東方平地とその漸移地帶として丘陵地を置き、階段的に西方より漸次山地・丘陵地・低地と低下す。山地は秩父古生層堅岩、丘陵地は洪積層の砂利層又は粘土層等より構成さる。先明寺西方の山地は古生層にて、其の盛は大原野村境の高畑より光明寺を經て、其の南方海印寺村走田神社附近に至る

間の丘陵地は洪積層の古期に屬し、其の東方の西山街道以東の緩斜地帶は洪積期新層にて、東方井ノ内、其の南方の今里より長岡天神附近まで、及び其の分布の廣きことは郡第一位とす。而して之と沖積地との間は凡そ一、二米の階段をなし、その末端面には井ノ内、今里等の本郡に於ける最も古き集落を形成す。但し長岡天神後方の竹林地帶は洪積期古層なり。沖積地は小畑川流域の地にて、本村に屬する部分には集落の發生を見ず。生產形式も有地形地質に或程度の制限を受け、西部山地は山林地、洪積層の丘陵地は主として、竹の分布地帶と水田を主とし、沖積層は殆んど全く水田なり。就中、孟宗竹林はその栽培の都合上洪積層の部分に限らる。右丘陵地帶には幾多の古墳分布地帶をなす。また北部の井ノ内、其の南方の今里は前述の如く共に集落發生最も古かるべく、井ノ内は式内名神大乙訓座火雷神社の所在地なり。其の神饌は賀茂族の祖大山咋の神にて、近江日吉神社、山城葛野の松尾神社等同祖神たり。中世衰廢せしが今に角宮（つのみや）と稱へ、國幣の形式を備へる古建築が殘り、其由來の遠きを思はしむるものあり。次に今里は乙訓寺の所在地として古くより集落の發生を見たるものなるべし。乙訓寺は山城に於ける最古の寺院の一にて、推古天皇の勅願所、聖德太子の開基なりと傳ふ。然し今は衰

へて規模小さく見るべきもの無きも、文德實錄に據れば七箇寺の一に數へられ當時の名刹たり。境内に護持院除晃大僧正の碑あり、除晃は德川五代將軍綱吉に殺生禁斷を進言せし僧なり。同寺には國寶（明治三十四年八月指定）の毘沙門天立像一軀を安置し、更に附近より發掘せる平安朝期の古瓦・礎石を保存す。尙ほ繼體天皇の弟國宮の故址に就て論議せらるるも未だその的確なる決定を見ず。之は弟國宮が極めて短時日の宮であり、且つ文獻の詳細なるものなきためとす。然し乙訓神社が井ノ内にあり、乙訓寺がその南方今里に僅存する事より見て、弟國宮址も恐らくこの附近なりとする說は穩當と見るべきものならん。また今里附近の平坦地は條里の實施地域なるべく、井内・今里の古集落は共に條里式集落の典型的なるものなり。また附近は長岡京の舊京域なりし事は、地割の形式と共大きさとによりほゞ推知し得らる。かくこの地域が開發古き一面の理由は、大和より山崎の津を經て山陰に向ふ古街道に沿ふに因る。〔光明寺〕栗生にあり。淨土宗西山派の總本山。後方に丘陵を負ひ、前方は東に緩斜する臺地の境界に、廣大なる寺域と完備したる伽藍とを保持し、眞に淨土宗門の名刹なり。開基は源平頃勝の賢にて平敎盛を刺せる熊谷次郎直實にして、建久九年直實草庵を營み、その師圓光大師（法然上人）に請うてこの地に供養式を擧げしに始まるといふ。其の後法然上人の念佛敎化が京都の市中に滿ち、南都北嶺の法師輩は此の淨土門の興隆を喜ばず度々念佛停止を奏請する等のことあり。上人の滅後にも、念佛門への迫害は止まず、遂に勅許を得て嘉祿三年六月二十二日山門より所司專當を差遣して、東山吉水（今の知恩院）なる堂塔を破り房舍を毀さんとせしが、六波羅修理亮平時氏・頼宮の內藤五郎兵衛盛政・法師西佛父子など驅せ來りて山法師の狼藉を退散せしめることを得たり。併し其の夜法蓮房・覺阿等の遺弟達が妙香院の良快僧正の禪室に集りて善後策を練り、遂に深更に及びて法然上人の遺骸を石棺のまま擧り起し、洛西嵯峨太秦へ挽して隱れるるたるも、尙ほ山徒の導れ來ることを恐れ、栗生野の幸阿彌陀佛の許に石棺を送し、安貞二年正月二十五日火葬に付す。本堂の南下方に火葬跡あり。荼毘の後芳骨は青瓶に收めて念佛三昧院にて一七日間供養し、後は多列の門弟達が分骨を持ちて別れしものなり。而して先の火葬に於ける靈灰と土とを練り固めて五輪形の塔を造り、其の下に芳骨の一分を安置したるが即ち此の光明寺奥の御廟所の起原なり。また別に法然上人御自作の「靈子の御影」（肖像）を安置する御影堂建立せらる。これ即ち今の本堂の靈殿なり。此の靈子の御影とは往年法然上人が無實の讒言によりて四國へ配流の途次、船中の

徒然なるまま御生母藤氏より折々給へる消息を取り出し正信卿を扶助として手づから書りて作られしものと傳ふ。この御影は安貞二年造畫と共に當山に移し來りて安置する事になりしといふ。爾後年を經て石棺より放光の奇瑞ありしこと、四條天皇の天聽に達し叡感の餘り「光明寺」の寺額を賜ぼり、爾來、光明寺と稱するに至るといふ。光明寺の開山には法然上人(圓光大師)を仰ぎ、第二世は熊谷直實(蓮西法師)にして、第三世幸阿彌陀佛といへるは九條道家公の息にして法然上人の門弟なりと傳ふ。第四世西山國師(證空上人)は法然上人門弟中の俊傑にして謂ゆる淨土宗西山派祖たり。其後、第五世源光尊西、第六世法興淨昔、第七世善空親性を經て、第七十一世好空隠居(現住)に至る。皇室との御緣故も深く世々の綸旨、綸々の御下賜品拜領あり、殊に光格天皇寛政四年御攝物を下し置かれてより明治維新まで毎歲十二月十八日御攝物御取替の儀あり。また中御門天皇享保年間より明治維新まで毎年正月十三日禁裡御所又は仙洞御所の諸禮に際し、當山住持は參内して小御所親王殿に於て天機を奉伺するの光榮に浴し、御謹祚その他御慶事ある毎に其筋の御沙汰により參内奉祝するを例とせり。また九條公爵家との關係は餘程古くして深し。開山法然上人と九條兼實公との御道交に加へ當山第三世幸阿彌陀佛が九條家出身にて三十餘年間在山興隆に力められたるに基きて爾來山緒を累ぬるに至る。かくて法性寺圓親公・後法性寺圓證公・光明峰寺行惠公を始め近くは明治三十九年一月四日逝去せられし昭德光道孝公の靈牌を安置す。此御緣故により大正十三年には長くも皇后陛下の行啓を仰ぐの光榮に浴せり。寶物としては開山法然上人に關するもの多きも一般美術としては、四十九體化佛阿彌陀佛畫像一幅・二河白道圖一幅・千手觀音立像一軀あり(以上國寶)。造營物として御影堂(本堂)は十八間四面、阿彌陀堂は八間四面、釋迦堂(大方丈)は十間に九間、勢至堂は五間半に四間、其他大書院・小書院・東裏・庫裏・寶藏・客殿・浴室・寺務所・高麗門・臺所門・唐破風四足門等倫奐の美を盡へて、春の櫻・秋の楓と麗し。境域につづいて西山專門學校あり。

〔西山專門學校〕 現在文部省專門學校條例により四年制にして、淨土宗西山各派僧侶に必要なる佛教及び高等教育を授くるを目的とし、卒業生には宗門教師の資格以外に中等學校國語科教員無試驗檢定の特點付與せらる。然し本校の由來するところは極めて古く弘長年間に集り來れる學徒のため設けられたる學席に起因せり。その後幾變遷ありて明治九年宗學本校と改め、同二十九年九月專門部と改稱し、同三十二年十一月には淨土宗西山專門學部となし、大正九年三月專門學校令による三年制の專門學校として認可を受け、更に大正十四年三月四年制度の專門學校として學則認可せられ今日に及ぶ。學生約百名、閑靜の地にありて佛教學・哲學・語學・國文學を研鑽す。〔乙訓寺〕宇多法皇の行宮たりし寺。法皇寺ともいふ。大字今里にあり。眞言宗。推古天皇の勅願により聖德太子これを建て、のち弘仁二年空海その別當に任ぜられ住ぜしことあり。また桓武天皇が皇太子早良親王を廢して幽閉せられしも亦當寺とす。のち宇多法皇、堂宇を飾めてこれを行宮として法皇寺と稱し給ふ。足利義滿のとき寺僧等爭論せしため、一時南禪寺の伯英これを管せしが、再び眞言宗に屬し、今は僅に合體大師として首が八幡神、體が弘法の像なせる大師像を祀る大師堂一宇を存するに過ぎず。〔長法寺〕大字長法寺にあり。天台宗。清嚴山と號す。天曆年中僧千觀開創すと傳ふ。絹本着色釋迦金棺出現圖一幅は國寶に指定せられ、我國佛畫中の傑作にして藤原時代の作なり。

【乙訓川】 京都府山城國乙訓郡大枝村の中部大枝山より發して東南流し、向日町の西より西南に流れ淀川に入る。流程約十二粁。

オトグマ 乙隈 ↓立石村(福岡縣)

オトコ 男 【男岳】 駒ケ岳(秋田・岩手縣境に峙つ)の別名。

【男山】 京都府山城國綴喜郡木津川の南岸八幡町にある山。一に八幡山・鳩花山・鳩峯・香爐山ともいふ。標高一四二米。いま山上まで全長〇・四粁の鋼索線を通ず。川を隔てて大山崎村の天王山と相對し、西國街道を扼して京都の關門たり。されば古來屢々戰亂の悲となれるを以て名あり。また山上に男山八幡御ち官幣大社石清水八幡宮鎭座するを以て名高し。延元三年、赤松則村、此地及び山崎を略して、北軍に對し、延元三年五月、春日顯國等、北畠顯家の伐を報ぜんとして此地を占領す。北軍の將高師直等來り攻めて克たず。七月に至り男山の糧食盡きて南軍退く。此役北軍火を寶殿に放ち、小神殿・經藏の二字を燒く。正平七年閏二月後村上天皇、賀名生の行在所より此地に行幸あり。楠木正儀・和田正忠等の南軍これに從ひ進んで京師を略し、光厳・光明・崇光の三上皇を此地に迎ふ。三月、義詮攻め來るとの流言により、三上皇は河内東條に遷幸す。四月、北軍大挙して來り攻む。五月、南軍漸く疲憊して、降るものあるを以て、北畠顯能・名和長重等の兵、天皇を護りて賀名生に遷幸す。應永六年十月、大内義弘の堺浦に叛するや、足利義滿これを攻めんと兵を率ゐて東寺に出陣し次いで男山に陣ぜり。近世に於いては孝明天皇の男山行幸は史上有名なり。〔男山八幡宮〕八幡町の男山に鎭座。正しくは石清水八幡宮といふ。祭神、譽田別尊・神功皇后・比賣大神。貞觀元年、大和大安寺の僧行教の奏請により、字佐八幡宮に准じて社殿をつくり、明年に至り御體を移す。歷代皇室の尊信篤く、天下大事ある毎に必ず此處に奇祭式を行ふ。また清和源氏、この八幡宮を以て氏神と奉崇せるより、武家累代の歸依深し。現今の社殿は、寛永二年、德川家光の造營する所にして、特別保護建造物たり。舊幕時代社領千百四十四石。明治四年、官幣大社に列し、大正七年、石清水八幡宮と改む。例祭、九月十五日。

〔男山行幸〕 文久三年、孝明天皇の男山八幡宮に行幸せられ、攘夷を新願せられしをいふ。文久三年正月、長藩毛利定廣、賀茂行幸を建白し、天皇、三月十一日同社に行幸新願せらる。是より先二月二十八日、毛利氏また男山行幸の建議書を捧呈し、攘夷親征のため鳳輦を男山に進めさせ給はんことを建白す。中川宮朝彦親王を初め慶司圖白以下三公これに同意するに難色あり。然るに三條中納言實美等初め少壯公卿及び長藩を初めとし諸藩尊攘志士の請願日に急なるに依り、遂に三月十八日親征といはずして、ただ攘夷新願のために四月上旬行幸あるべき旨を仰出さる。而して四月十一日軍駕男山に幸せらる。當日の順序として、天皇親から攘夷の新願を凝し、社前に於て將軍家茂に攘夷の節刀を授けんとの議ありたりといふ。偶々流言行はれ、中山侍從忠光亡命して大阪に於いて浪士を糾合し、鳳輦を奪ひ奉らんとすといひ、或は輦を賀茂に進ぜんとするものありと。驚めに將軍を苦せんとするものありと。驚めに將軍遽に病と稱して出でず、後見慶喜亦事に託してこれを避く。因て遂に節刀授與の儀なくして還幸あらせらる。是より有志等は公然幕府を痛罵し、幕府は長藩を目して御親征奉迫の暴論と稱して爭問益々甚し。琴で家茂入朝して、勅を奉じ、五月十日を以て、攘夷の期とし、遍く諸藩に告げ、即日京を發して大阪に入れり。

オトコ 雄山 大窪山とも云ふ。富士火山脈に屬し、東京府伊豆三宅島の中央に聳え、三宅島を形成する火山。標高四一八米。古來數度に亘り噴火し、近くは明治七年爆發せり。山頂に噴火口あり、草木を生ぜず、砂礫に掩はる。火口原なる八丁ノ平は疎樹繁茂し、牧牛地たり。山腹は常綠樹に掩はれ、又寄生噴火口あり。山麓は緩傾斜をなし、沛岸なる村落附近には椿樹多し。

オトコヤマ オトシベ 落部 男山 ↓男山

【落部村】 北海道渡島支廳茅部郡の西北端。東北は内浦灣に面し、西北は八雲町、西南は厚澤部村、東南は森町に接す。城内は北に傾斜し、南に駒神嶽(八九九米)鍋岳(九二七米)等の火山岩ほて構成されたる高山あり。北部は第三紀層の丘陵地にて、原野多く畑作・牧畜盛んなり。村域を北流する落部川・野田追川の河畔平地には水田・畑地多し。野田追川の下流には立派なる三角洲發達し、そこに商館本線の野田追驛(明治三十六年設置)あり、落部川下流平地に落部驛(明治四十四年設置)を置く。東南海岸森町に石倉驛あり。村内は落部・茂無部・入澤・下ノ湯・上ノ湯・御料地・野田追・二股・鹿川・鹿野に分れ、クロール性硫黄泉たる銀婚湯あり。此地に產する琿石安山岩を落部石と俗稱し、その石切場は落部驛を距る約六粁。年產二千切といふ。多くは建築石材に用ひらる。

【落部川】 北海道渡島國茅部郡落部村にある川。狗神嶽(八九九米)の西南に發源し北流す。落部御料地附近まで全別川と呼び、ここにて上二股川次に下二股川を合して落部川と云ふ。上ノ湯温泉を過ぎ堤ノ澤まで五—六〇〇米の蛇行曲中を蛇行し、四—五〇米の河岸段丘を發達せしむ。堤ノ澤にて東北に曲り、入澤・落部の集落をもつ稍々廣き平地を作り、第三紀層を開析し内浦灣に注ぐ。流程約一五粁。

オトシマ 乙嶋 岡山縣淺口郡にありし村 明治三十五年本村及び玉島町・柏崎村を合併し、玉島町を設く。

オトスギ 音杉村 富山縣婦中國中新川郡の中部。富山市の東約一二粁。白岩川の右岸に沿ひ上市町の南に隣る。全村土地低平にして地味肥沃、水田拓く。上市町に立山軽便鐵道及びバス通じ、交通不便ならず。繭穀物を多產し、また米・葉工品を出す。中世弓庄(一に揖美に作る)の内に屬したり。

オトズマ 乙妻山 一に大日峯と稱す。富士火山帶妙高火山群の一峯。新潟縣中頸城郡杉野澤村と長野縣上水内郡鬼無里・戸隱兩村に跨り、標高二三一五米。北稜は地蔵岳(二〇七三米)に續き南稜は高妻山(二三五三米)・五地蔵岳(一九九五米)を經て戸隱山(一九一一米)に連り、東方は荒川の一水源氷澤川を隔てて佐渡山(一八二八米)・黑姫山(二〇五三米)に對峙し、西北稜には堂津岳(一九二七米)・松尾山(一六七八米)連聳す。北西麓は西南流する裾花川の上源地たり。

オトズレ 音信山 千葉縣君津郡木更津町の東方一八粁餘に位する山。同郡馬來田村、市原郡牛久町・高滝村の一町二村境界に跨る山。俗に茅積場と云ふ。東麓を發老川北流す。北斜面に高滝村山口より馬來田村貫里谷に至る山道通ず。尖木・二〇「ほととぎす啼ねきたれば今こそは音づれ山のかひになくなれ」賀茂重保

オトナシ 音無

【音無川】 東京市王子區を流るる石神井川は熊野神社を勸請したる王子權現の附近を流るるにより紀州の川に擬して音無川とも稱す。柳橋・一七「音無川へ落ちるとこ下戸押へ」

【音無川】 福井縣遠敷郡にある川。一に

谷川は流内を西流し、西谷及び南谷に注ぎ北谷に出る。東・北谷には山地にして樹多く、東・北谷には山地にして樹多し。原川の中流南岸には富谷部落あり、原川に流れ出る。茅・茅・麻谷部落あり、原川は流域を西折し、これ谷には良泉を湧す。小茂内川上流に巻谷部落あり。西方は乙谷・小茂内・茂内・ミツ谷・蛭柱に分れ、乙谷は茅谷を走り、茅谷は西方に通じ、(約十五丁)北は酒石を経て横堀へ向ふ。江茂・酒石には自動車の通ずる道あり。役場の位置東茂谷・大倉主谷谷の奥あり。茅谷の位置東茂谷に接して反下する中・明治二年西茂谷の道を開り、乙谷に上流して茅谷の小茂田あるも、戸数は平地の砂礫に乏しく、明治三十五年以来江茂及谷の開墾せるもの。明治三十五年以来三度耕地面を拓き、戸数を乙谷に倍す。村内に巻走人巻谷走を存る。巻谷には北谷より新田・茅平・大原谷・茂内谷・蛭柱・茅谷の小茂田あるも、戸数は平地の砂礫にして巻谷の小茂田あるも、戸数は平地の砂礫にして約朝の田人家たち、概ねに乙谷・蛭柱に巻谷する者の。

【乙巻村】 岩手郡盛岡市の東北隅。北上川の左岸、巻田市東南約三粁、三方は山地に囲まれ、又村の巻を中央に南巻山(六〇七米)巻ゆ。西方北上川に合ふ一巻は巻巻より二間は、巻巻巻北北に流れて巻巻を主北巻巻に、巻に流巻は巻にして巻巻巻の巻巻に巻て巻巻方のものを巻巻する巻巻巻

字瓢譚及び門前より鄂文士器その他先住民族の遺品を多く出土せり。明治維新に至り江刺縣の管轄となり、同五年水澤縣の管轄に移り第十六大區三小區小友村戸長役場を置く。幾多の變遷を經て明治九年岩手縣に併合せられ、第三大區二小區と稱して、隣村米崎村(元の勝木田村)に事務所を置かれ、小友・廣田・米崎・末崎四箇村の事務を取扱ひたり。明治十年一月該役所を第三大區二番小友取扱所と稱し小友村(華藏寺院内)に移轉、四箇村の事務を取扱ふ。明治十年郡區別となり、役所を廢し各村に村役所を置くこととなりしも、本村は隣村廣田村と聯合し、村役所を小友村谷地に設置し小友廣田村と稱し兩村の事務を取扱ひたり。明治十四年四月村役所の併合を解き分離して、本村は小友村字茂里花に小友村役所を置き村限り事務取扱となりしも、同十七年八月再び聯合役場を設くるの制となり、小友・廣田・米崎・末崎の四箇村聯合戸長役場を小友村字茂里花に設けられ、幾多の變遷を經て明治二十二年町村制實施に際し、分離して今の一村となれり。

【華藏寺の寶珠松】指定天然記念物。大字門前華藏寺門内にあり。一株の黑松にて門内本堂參道の右側に立ち、根元の周圍約九〇糎、地上一米半の幹圍約六七糎にて、普通の果實の他に多數葉合せる果實を生ずることを特徴とす。これは雄花蕊となるべきものが雌蕊に轉換せるものにて、花性變異の著例なり。

【小友村】岩手縣陸中國上閉伊郡の西南隅。遠野町の西南約一六粁。西は江刺郡米里村に、南は氣仙郡上有住・下有住二村と界す。村は南北に狹く東西に長く、面積約一〇三方粁。周圍は山脈重疊し、これ等山地に發する長野・鷹鳥屋兩河川合して小友川となり西方に流れ西北隅鱒澤村に入り、猿ヶ石川に注ぐ。地形略々Y字形の谷地をなすも、肥沃なる耕地に乏し。住民は製炭・養蠶により生計を助く。遠野町へ、また省線釜石線鱒澤駅へ定期自動車を通ずるも、交通の便よろしからず。古來獨立の一村をなし、先住民族の遺跡多く、鎌倉時代阿曾沼氏の領となり後南部氏の有に歸す。又小友川の淡流に聳ゆる岩手三景の一不動岩は五十餘米の巨岩、岩面龜の甲の如き痕跡ありて行人を驚かしむ。歩を進めて四軒長野川の上流を探勝すれば懸泉斯波千二、三百米にわたり四十八瀧の清涼は旅人の目を樂しましむるに充分なり。

【小友村】秋田縣羽後國由利郡の中部。北に南内越村・北内越村に、東は上川大内村に、南は石澤村に、西は子吉川を隔てて子吉村・本莊町に接し、地形東西に狹長なり。東部に日住山脈峙ち、その山脚西方に緩傾斜し小吉川流に小平野を見る外概ね山地を成す。子吉川の小支流村の東部に發源して西流し西部に於て本流に合す。主生業は農業にして全村の略々九〇%はこれに從事し、他は纖維商業工業等に從事す。本莊町(羽越本線の本莊駅あり)に本庄街道通じ、自動車により旅客及び貨物の運搬をなす。また郡道に南内越小友線あり。此地古くは和名抄河邊郡川合郷の内に屬せしものか。近世小友郷と稱せし地。風土略記に據れば古くは乙友村と稱し小石郷に屬す。而して中世朝廷より他海郡吹浦兩所宮(國幣中社大物忌社及び官幣大社月山神社をいふ)へ御寄進の地なりといふ。大宇大澤の地は元和年中江戸幕府の執權本多正純の左遷幽居せし地ならんと。

オトモ　雄伴

【雄伴(郡)】攝津國(大阪府)の古郡名。攝津風土記逸文・法隆寺資財帳に郡名見ゆ。延喜式にも和名抄にも郡名見えず。然るに前記の古文書によれば、後の八部郡内にある夢野の名が雄伴郡にあり、これより推ぜば雄伴は何れの頃か改めて八部とせられしと見ゆ。當時は天皇の御諱に當る地名は、これを改むるを例とせり。即ち常陸國の白壁郡は光仁天皇の御諱をさけて黄壁郡と改めしが如し。從つて淳和天皇の御諱大伴と郡名と近きを以て平安時代の初の頃改められしものか。(八部郡は明治二十九年武庫郡に併合せられて郡名を失ふ)その地はいま神戸市内となる。

【雄伴】攝津國(大阪府)西生郡の古地名。和名抄に雄伴郷見ゆ。刊本は雄雅に作るも雄伴の誤ならん。雄伴は萬葉集に見ゆる大伴の御津とある大伴にして、これが平安時代の初め雄伴と改めしものならんか。大伴は淳和天皇の御諱なるを以て之を避けて雄伴とせしものならん。其地いま大阪市の西南郡の海岸に當る。萬葉・一「大伴の美津の濱なる忘貝家なる妹を忘れて念へや　身人部王」

オトモリ　乙森・大土森

【乙森山・大土森山】那須火山脈の一峰にして、宮城・岩手兩縣境に跨る栗駒山(一六二八米)の東南方約一七粁に位す。宮城縣の北西方、栗原郡文字村・花山村・鶯澤村の三村境界に跨る。標高五八〇米にして火山岩より構成せらる。西北方に天狗森(五七二米)・櫃ヶ森(六一六米)峙ち、西方に御岳山(四七五米)・御駒山(五二〇米)聳ゆ。東麓を二迫川、西麓を一迫川共に東南流す。往昔熊鹿神社ありたりと傳ふ。

【大土森山】寘刀峰とも云ふ。宮城縣の西北方、栗原郡長崎村に峙つ山。標高三三七米。長崎川は西北方より來り北麓を洗ひて東南流す。南麓を登米街道東西に走る。東麓登米街道に沿ひ長崎村大土の部落あり。山中に聚師堂の祠あり、往時の寘刀神社の舊址と傳ふ。

オトワ　音羽

【音羽】東京市小石川區の町名。眞言宗豐山派の護國寺の門前を一直線に、北西より東南の方向に江戸川畔に達する通りの東側は大塚町及び小日向臺の臺地にして標高三一米、洪積層のロームより成る臺地にして急崖を以て音羽町に臨む。また西側も同樣の臺地にして、標高三〇米を有し、關口臺町・老松・雑司ヶ谷等の諸町あり、その臺地の急崖は同じく音羽通りに面し、兩崖相迫つてその幅僅に百米内外、宛も地溝帶の如き狹長なる低地帶の地域なり。護國寺前、音羽町一丁目より順次九丁目に至る間商家櫛比し、護國寺の門式的門前町をなす。殊に最近道幅の擴張と、路面の鋪裝完成を期とし、兩側の商家多くは改築せられて面目一新し、整列せる街頭に點火されし夜景は頗る美なり。市電も昭和五年より運轉し、大塚・東京郵間の市營バスも頻繁に往來し、交通の便と行人の數は日に增加する一方にして益々殷賑の度を加ふ。音羽の名は、元祿十年この地域が護國寺の寺領となりしにより多くの町家起立せるも、享保八年これを廢し、また德川氏より町家を再建してその家作を役女の音羽に與へしため、音羽の町名起れりと傳へらる。兩して前述の如き地形にある音羽町は兩側の臺地に上るにはそれぞれ坂によりて通ずることとなり、五丁目の裏に極楽坂、三丁目に帝國大學附屬病院前に通ずる坂その他無數あり、東側にも六丁目の小日向臺町に上る鼠坂あり、八丁目には田中八幡宮あり、その坂を八幡坂と稱す。また七丁目には稲荷神社あり、これを平塚稲荷といひ、九丁目には五社今宮神社あり。町の北端にある護國寺は神靈山と號し府下屈指の巨刹にして江戸城鎮護の新願所たり。實に音羽門前町は護國寺と共に古くより發達せしものなり。また此地は江戸國場所の一たり。但し遊里は主として音羽七丁目・八丁目西の裏町に在りしもの、九丁目に少しく散在せり。里のなだ卷評「土橋中丁は孤從、根津音羽業薊圃にも稱賞紀西施が有ふもしれず」峰美事紫鹿子「音羽町、此淨土髪のふう衣裳大てい三間堂に類す、人がら下ひん也、そのうへはりつよく狐で人きるの風、部屋もちのあるもおかし」契國策「はるかに引きがりて一ツくわくあり、大じ大ひのかげうつす音羽山白いとのたきの三すじは色絲とひきかへ、おしきせの打かけすがたは聖衆の來光とおがまる、すべて中の間のあたりにならびゐて行客をよぶ」

【音羽】→丸柱村(三重縣阿山郡)

【音羽】→西大路村(滋賀縣)

【音羽山】京都府京都市東山區の東方、滋賀縣大津市との境界に峙ち、東北斜面は大津市にも亘る。標高五九三米。頂稜は南北約四粁に及ぶ。南稜は千頭岳(六〇二米)に連り、北稜は逢坂山につづく。西方は行者ヶ森(四四一米)をなし、西南麓に牛尾觀法寺あり。音羽川は山中に發して北流し、牛尾を過ぎ音羽にて四宮川に落合ふ。此地古來歌枕として名あり。

霞・鶯・花・春風・呼子鳥・郭花・鵑・夕立・秋風・松蟲・月・鹿・砧・紅葉・落葉・時雨・雪・雁・松・椿・曙・雲・裾野里・山科等歌に詠ぜらる。拾玉集「音羽山郭の花かきにおそさくら春となつとの逢坂のせき　慈鎮」古今「音羽山音にききつつあふ坂の關のこなたに年をふるかな」後拾遺「あふさかの關をや春もこえつるむおとはの山のけさはかすめる　俊綱」

【音羽山】京都市東山三十六峰の一。清水寺の東。紅葉の名所。山腹に清水寺あり。南方溪谷に臨んで所謂清水舞臺と稱する高臺を有す。舞臺の東南下に細き瀧數條懸る、これを音羽瀧と稱す。山南に山科街道通ず。高さ約二四〇米。古今・夏「音羽山けさこえくれはほとときすこすゑはるかに今そ鳴くなる　紀友則」

【音羽山】笠置山脈の一峰にして、奈良縣高市郡飫火山の東方約十粁に位す。奈良縣宇陀郡松山町と磯城郡多武峰村の境界に跨り紫ゆ。標高八五二米。圓頂峯にして、杉・檜の植林に掩はる。西南方には硫黄山(六一九米)、南方には龍門岳(九〇四米)峙つ。山中に高さ三丈の音羽ノ瀧あり、又西麓に古刹音羽山善法寺あり。此山古は倉橋山とも呼ばる。登山路は參宮急行電鉄榛井駅より縣道に沿ひて東南行し多武峰村字音羽より東方に登高して達頂す。萬葉・三「くらはしの山を高みか夜こもりに出てくる月のひかりとほしき」同七「したてのくらはし山に立てる白雲見まく欲り我かするなべに立てる白雲」

オナ　尾奈

【尾奈】省線二俣西線の一駅(昭和十一年設置)。静岡縣引佐郡三ヶ日町大字下尾奈にあり。

オナガワ　女川

【女川町】宮城縣陸前國牡鹿郡の東北部。牡鹿半島の頸部を占め西は稲井村と南は萩濱・大原二村と、北は桃生郡十五濱村と界し、東は海に臨む。北境に雄勝峠(四二五米)・石投山(四五七米)等連なり、西に黑森の連山あり、南境に大六天山(四四〇米)聳え、東部中部に竹ノ浦半島狀に突出し南は牡鹿半島との間に女川灣を擁し、北には御前灣を抱し、岬端は狹き水道を以て出島と對す。かく三面山を繞らし、且つ海岸は沈降形岸の特相を示すを以て海岸平野の發達乏しく、主生業は水産にして、冷藏冷凍庫の設備ありて遠洋漁業の根據地となり、農産は米・麥にて養蠶もまた行はる。縣道石巻市に通じバスの便あり、省線石巻線は近く本町に延長せんとし女川港の完成と共に交通の便を加ふ。此地古くは和名抄、牡鹿郡飽戸郷に屬せしか。いま女川濱・浦宿濱・針ノ濱・大石原濱・野々濱・飯子濱・尾浦・桐ヶ崎・石濱・鷲ノ神濱・小乗濱・高白濱・横浦・塚濱・江ノ島・出島・竹浦・宮ヶ崎・御前濱・指ヶ濱の大字より成り各集落は海濱に發達するを寶ふに足り女川濱に役場を置く。出島は女川・雄

落は東部小名浜港に注ぐ前村新田川を遡ります。此辺古くは和名抄、新編武蔵風土記稿の[illegible]郡に属し、[illegible]の代官[illegible]の区分されし所にして、[illegible]に[illegible]共に[illegible]を以て小名浜港に来り注ぐ[illegible]を[illegible]して平[illegible]三[illegible]の[illegible]名浜港に来り注ぐ[illegible]を[illegible]の[illegible]を交ず、小名浜の西[illegible]にて平[illegible]の小名浜[illegible]屋文に[illegible]小名浜[illegible]と云ふ。本村は[illegible]年[illegible]村[illegible]に[illegible]に[illegible]に

オニカベ 鬼首山 宮城郡(宮城郡)の古称。

オニガメ 鬼面川 愛媛郡(宇和島郡)の別称。

オニキ 鬼貴村 群馬郡(高崎市)の西南部。

オニコーベ 鬼石村 [illegible]

オニコエ 鬼越山 [illegible]

オニサキ 鬼崎村 [illegible]

オニシ 鬼石町 [illegible]

オニスガ 鬼塚村 [illegible]

オニスベリ 鬼志別 [illegible]

オニスカ 鬼塚村 [illegible]

オニスベリ 鬼塚村 [illegible]

を總べて波多と稱せり。大宇畑島は松浦黨の一族波多氏の本據地たりし處なり。〔心月寺〕大宇山本にあり。曹洞宗。本尊千手觀音。天正年中の草創。開基は鬼子岳城主波多三河守守親、仁岳和尚これが開山たり。

オニズミ 鬼住 ↓川口村（大阪府）

オニソノ 鬼園山 安積山（奈良縣奈良市）の別名。

オニトリ 鬼取山 大阪市の東方な南北に連亙する生駒山脈の一峯にして、生駒山（六四二米）の東南麓に隆起し、奈良縣生駒郡南生駒村に屬す。暗越奈良街道に沿ひ、暗峠の東方約一五粁に位し、西方は大阪市、東方は生駒郡の郡山町に至る。ここに往昔、役小角が儀學・儀賢の二鬼を呪縛せし所と傳ふ。西麓の鶴林寺は役小角の開基に係り、楠木正虎の書翰を藏す。また竹林寺は行基菩薩の埋葬所と傳へられ、所藏の太鼓は大阪城の鼓樓にありしを近年ここに移せるものと云ふ。

オニノイケ 鬼池村 熊本縣肥後國天草郡天草下島の北端。本渡町の北約六粁。北は早崎海峡を隔てて長崎縣島原半島の瀬詰崎に對す。村内概ね低山性の丘陵を成し、沿岸に僅少の低地あり。從つて水田尠なく畑地多し。海岸線は比較的單調なり。南隣御領村より汽船の便ありまた本渡町にバス通ず。

オニノイワヤ 鬼窟 ↓鬼ヶ城

オニノメ 鬼目山 九州山脈の一峯にて、延岡市の西北方約二〇粁に位する山。宮崎縣東臼杵郡北川・北方二村界に跨り、標高一四九一米。南隣に國見山（一三九二米）、黑岩山（一〇七〇米）連る。西北麓にほぼ東西に走る鹿川越の最高點（一〇九一米）を經て大崩山（一六四三米）・五葉岳（一五七〇米）に至り、東南麓にほぼ南北に走る槵峠の最高點（一〇七一米）に終く。鹿川越・槵峠の兩路は東北麓祝子川に沿ふ北川村祝子川にて落合ふ。祝子川は水清冽にて山魚に富むを以て知らる。この附近は跡峯重疊し、深山性地貌を呈し、人煙乏しく、熊の出沒する地域たり。登山は祝子川を遡行し、槵峠を經て至る。

オニヤナギ 鬼柳村 岩手縣陸中國和賀郡の南部。本村は縣の中央部にある黑澤尻町と和賀川を挾みて南に隣し、東部は北上川に望み極めて好處に位置す。地形東西に狹長にて和賀川に沿へる地域を占む。南部江刺郡に接する地帶は豪地をなすも急に北に從ひて低下し和賀川に至るまで沃野を爲し耕地拓く。主生業は農業にて米・野菜を多產す。村内一圓散村集落の民家點在するも、たゞ東部に偏して綴走せる東北本線に沿ふ國道陸奥街道筋に街村集落をなせる所は本村の中心地帶なり。尙ほ東西に橫斷せる二つの主要道路は耕作道路にして陸奥街道と共に本村の主なる交通路をなす。舊道地として桑場屋敷及び采女屋敷・圓子館・圓所跡等あり。圓所跡は町の北端にあり。蓋し此地古くは奥州街道の通路に當り、南は仙臺領の相去に接し、北は和賀川、東は北上川に臨み、頗る要害の地なるを以て南部氏は此處に圓所を設けしものならん。爲に鬼柳町は當時賑る殷賑を極め人馬の宿泊するもの多かりしも、今は僅かに其の面影を殘すのみ。尙ほ岩手の精神道場六原にほ六原街道によりて通ず。

オニュー 遠敷 【遠敷郡】福井縣十一郡の一。若狹國に屬し縣の中央にあり。北の一半は日本海に臨み、他の一半は大飯郡に接す。東及び南は三方郡と滋賀縣高島郡京都府北桑田郡に境し、西は京都府何鹿郡に隣る。地勢ほ山岳郡境に連り、三方郡界にほ鈴ケ峯等あり、滋賀縣・京都府との界にほ三國岳・八峰・頭巾山等峙ち、大飯郡界には飯盛山あり。而して郡の中央には多太ケ岳聳ゆ。從つて河流は北川・南川の二流地なり。この二川は河口附近に於て相合して小濱灣に入る。荒岸は屈曲多く、久須夜ヶ岳の半島ほ北に突出して東に矢代灣、西に小濱灣を抱く。小濱灣頭の小濱町ほ若狹國の主邑にて、鐵道は小濱町を中心に東西に省線小濱線橫路す。天平十九年大安寺資財帳に若狹國乎入郡と見ゆ、蓋し郡名の初見なるべし。而して一書には小入郡に作る。東大寺要錄、天平勝寶四年の條に遠敷郡と見ゆ。蓋し此時より專ら遠敷の字を用ふるに至りしものならん。天長年中郡西を割きて大飯郡を置く。和名抄は遠敷（手爾不と訓ず）に作り遠敷・丹生・玉置・鮎戸・安賀・野里・神戸・丹生・志摩の九郷を管す。中古中郷の私稱ありて、私に上中郡・下中郡と稱せしが、後再び舊に復して今日に至る。

【遠敷村】福井縣遠敷郡の中部。小濱町の東南約四粁。北は三國山脈を以て滋賀縣高島郡に境す。地形は東西最大幅五粁、南北約一三粁にて狹長なり。北部北川沿岸に僅少の平地を見るのみにして北するに從ひ漸々高く村の大部ほ山地を成す。小濱町に國道通じ、バスの便あるも交通の便未だよろしからず。本村ほ生絲の生產地たると共に、本邦にも珍らしき瑪瑙細工の產地として著はる。此細工の起原ほ約二百年前、高山喜兵衛なるもの、浪華の眼鏡師に就き金剛砂の使用法を習得せしに始まると傳へられ、今ほ簪玉・箒・根掛・指環・釦・パイプ・文鎭より達磨・鶏等の各種の贈物類に至る迄製作され、内地ほ勿論朝鮮・臺灣・支那に迄販賣せらる。和名抄に遠敷郡神戸郷あり。蓋し本村の地なり。大宇上根來・下根來の地にもと根來谷と稱せし地にて、元亀元年德川家康教賀より退軍の時、この地の間道を通りて京都に入るといふ。〔若狹彦神社〕國幣中社。祭神、若狹彦神・若狹比咩神。當社ほ上・下二社より成り上社ほ大宇遠敷に、下社ほ大宇遠敷に鎭守す。共に創建年代詳ならざるも、上社ほ繼體元年九月本郡西郷内雲河の上流なる白石の上に始めて垂迹し、下社ほ養老五年二月に同靈石上に始めて垂迹すと若狹國一二宮緣起に載せたるも詳かならず。古來兩社を併せて若狹大明神また遠敷明神と稱す。一に兩祭神ほ彦火々出見命・豐玉姫命とも云ふ。神護景雲四年、若狹目伊勢諸人を遣して鹿毛馬一頭を若狹彦神に率らしめ、大同元年神封十戸を納め給ひ、天長六年和朝臣宅繼を神主とす。即ち彦火々出見命の子孫なり。貞觀元年正月に若狹彦神を正二位に若狹比咩神を從二位に陞叙し、延喜の制二座共に名神大社に列し、のち本國一の宮と稱す。それより歷代天皇の神寶・社領の寄進及び社殿修造・祈願に次ぎ、豐臣氏の時、淺野長政・羽柴勝俊・京極高次等神領十石餘を寄せ、酒井氏の此地を領するに及びても亦舊規に依りて之を附す。例祭、十月十日（上社）・三月十日（下社）。上社の神寶中に銘「宗」の太刀一口あり。一字不明なるも宗近と傳ふ、國寶に指定さる。なほ兩社樓門の守護神として安置せる各八體の神像ほ、御佩座當時供奉人の像と傳へ頗る傑作なり。〔蓮華寺〕大宇龍岡にあり。曹洞宗。草創沿革不詳。寺寶中、銅造藥師如來立像一軀ほ其背面に若狹國一宮本地寶治二年戊申六月日の銘を有し國寶たり。〔神宮寺〕天台宗。和銅七年無潛元の草創に係り、靈龜年間元正天皇の勅願所となる。寺地閑靜の地にして國内屈指の靜刹たり。堂宇中本堂ほ各種の繪樣割形極めて優秀にしてよく室町時代の特質を發揮し、實に當代を代表する大堂宇たり。仁王門ほ鎌倉時代の建造に係り以上二堂宇とも國寶たり。寺寶中蓮華唐草蒔繪經筒一合また國寶にて現に京都博物館に寄託中なり。〔國分寺〕曹洞宗。天平年間聖武天皇の勅願に依る若狹國分寺たり。往時寺運隆盛たりしも、天正年間兵厄に罹り堂宇鳥有に歸す。慶長年間現堂宇を再建す。本尊木造藥師如來坐像ほ鎌倉時代の優作にて、現に國寶たり。〔萬德寺〕大宇金屋にあり。古義眞言宗。草創・沿革不詳。現に同宗大覺寺末。寺寶中木造阿彌陀如來坐像一軀・紺本著色彌勒菩薩像ほ國寶たり。前者ほ鎌原初期の作、後者ほ寺傳に空海作と傳ふるも鎌倉末期の作たるべし。〔萬德寺庭園〕指定名勝。延寶年間本寺移建の際築造せられたるものの如し。殿堂の南面山麓を利用して庭區を作造し、方丈の直前ほ平圓にて砂利を敷き東南に湧水の小池を設く。傾斜地にほ景石を配き疎に松・山茶花・椿を植ふ。鄙踏の刈込物を配す。東南部に唯大なる楠樹あり既に天然記念物として指定せらる。此庭園ほ多少改修の跡を認むるも寺庭としては幽邃の佳園なり。〔萬德寺ノやまもみぢ〕指定天然記念物。萬德寺の境内にあり。日通祈願

約三・七米、枝條四方に擴り相參旺盛、やまもみぢの亘樹として有數のもの。

【遠敷】若狹國（福井縣）の古地名。和名抄に遠敷郡遠敷郷あり、手爾布と訓ず。遠敷郡の郡家のありし處。地ほ今の遠敷郡小濱町・今富村・國富村の邊に當る。

オニワキ 鬼脇村 北海道北見國利尻郡の東部。宗谷支廳管内。西北ほ鴛泊村に、西南ほ仙法志村と界し東ほ海に臨む。利尻島の中央に峙つ利尻火山（一七一九米）の東麓面に當り海岸に帶狀に低地あり許地拓くも原野未だ廣く殘る。アイヌ名オンネヲキ。明治十七年利尻郡各村戸長役場本村に置かる。同二十五年現在の鴛泊・香形の二村分離、同三十年郡役所廢止され、宗谷支廳の管轄となる。大正十二年一級町村制施行。鬼脇・石崎の二大字よりなり、鬼脇に役場を置く。

オヌ 少郊・少野 播磨國（兵庫縣）美囊郡の古地名にして顯宗天皇の皇居のありし所。書紀顯宗紀の元年正月天皇殯鳥八鈎宮に即位し給ふ記事あり、其註に天皇の皇居二箇所あり、一ほ少郊に、二ほ池野にありと見ゆ。少郊宮ほ天皇が皇子にましましし時、皇兄億計皇子と共に難を避れて播磨國縮見屯倉首の家に隱れ仕へ給ひし時、播磨國司伊與來目部小稚に發見され其皇胤たること明となり、此處に宮を造りて皇子等を入る。これを播磨風土記には少野宮と稱し志染里にありとせり。その地今の美囊郡志染村の中といふ。

オヌ 尾沼 備前國（岡山縣）の古地名。和名抄に邑久郡尾沼郷あり、手奴と訓ず。その地今詳ならず。

オヌカ 小奴可村 廣島縣備後國比婆郡の東北部。西城町の東北約一二粁。南は田森村・八幡村に、西は八鉾村に隣り、北ほ鳥取縣日野郡に、東ほ岡山縣阿哲郡に境す。北部及び東部縣境に沿ひて三國山脈南北に走り、西部を其支脈走りて、猫山（一一九六米）等を起し山村概ね山地を成し、南部の諸處に小低地を見るのみ。東城川の上源猫山の南麓に發して南流す。主生業ほ農業なるも畜產・養蠶また見るべきものあり。交通ほ不便にてたゞ西條町方面に里道通ずるのみ。此地或ほ和名抄奴可郡遠部郷の内に屬せしものか。古くほ奴可宿といひ遠後山を越え備前國多理郡に通ずる山路たり。而して郡家のありしところならんといふ。いま内堀・加谷・小奴可・微原・千鳥・小串の六大字よりなり、内堀に役場を置く。

オヌキ 小貫 ↓遠川村（栃木縣）

オヌノハリハラ 小野榛原 大和國（奈良縣）の古地名。書紀神武天皇の四年に天皇靈時をたてて皇祖天神を祀り給ひ其地を名づけて小野榛原と稱し給ふとあり。其地ほ今の磯城郡城島村大字外山の地なるべしといふ。或ほ榛原を以て今の字陀郡榛原町にこれを指定せんとするものもあるも採らず。

オヌマ　小沼村　長野縣信濃國北佐久郡の北部。淺間山の南麓に位し、東は追分原村に、南は御代田村・南大井村・北大井村に、西は小諸町・大里村に夫々隣接し、北は群馬縣吾妻郡に境す。全村淺間山の緩傾斜より成り林野多く、南部に耕地拓く。米・麥を主産す。縣道小諸町に通じてバスの便あり。大字馬瀬口の明治天皇馬瀬口御小休所附御膳水は指定史蹟たり。此地は和名抄、佐久郡小沼郷の地なるべく、後世は大沼と稱し文祿中まで村名に呼びしがのち大沼の名亡ぶ。蓋し村内の大字鹽野の眞樂寺の境内にある池を本として大沼の名生ぜしか。町村制施行の際、馬瀬口・鹽野の二村を合併し郷名により村名とせしものか。大字鹽野は延喜式左馬寮及び東鑑文治二年三月の條にある信濃國鹽野牧の地なり。〔眞樂寺〕　大字鹽野にあり。新義眞言宗智山派。淺間山と號す。用命天皇の御宇の創建。源頼朝四十二歳厄除願願の爲め觀音堂を建立せしより厄除觀音と稱せられ信間の信仰を集む。のち大洪水火災幾度の厄に遭ふも再建せられ、安永七年靈潭の時、仁和寺に屬し淺間山別當に補せられ、寺領八十三石。山林數十町を有せしも明治維新に際し悉く上地す。もと常法談林にて末派三十六僧院を統ぶと。一説賢寺）智洞宗。少林山・法勝院と號す。文治年中巴御前其区小林某と共に此地に來り、義仲及び一族追福のため一宇を草創す、これ當山の濫觴とす。もと照林山道光寺と號し、のち現稱に改む。

オヌマ　男沼村　埼玉縣武藏國大里郡の北部　深谷町の西北約七粁。北は新田郡に界す　村内土地低平にして利根川村の中央を東西流し、水田桑園多し南方省線高崎線熊谷駅へ約八粁バスの便あり。純農村にして發展業最も盛んにして米麥の産これに次ぐ。此地は和名抄、幡羅郡荏原郷の内なるべく、妻沼に對し男沼の名生ぜしものか。いま出來島・男沼・臺・小島・間々田の五大字より成り牧場を出來島に置く。

オノ　大沼　↓赤城湖・赤城山（群馬縣）

オノ　小野

【小野】　陸奥（陸前、宮城縣）柴田郡の古地名。延喜式兵部省式に小野郡あり蘆十馬十疋と見ゆ。和名抄に小野郷あり蘆し同一の所ならん。其地は今柴田郡川崎村の大字小野に擬定す。

【小野村】　宮城縣陸前國桃生郡の西南に位す。西は遠田郡南郷村・宮城郡松島町に、東北は山をもつて大鹽村に接し、南は海に面す。全村小丘陵多くして平地比較的少なし。遠く奥羽より發源せる鳴瀬川は村のほぼ中央を流れ松島灣に注ぐ。小野・根古・高松・新田・西福田・上下堤・川下・手綱・濱市等の諸部落あり。農家その大部分を占め稻作・養蠶等を主生業とす。濱市は海に沿ふをもつて砂濱漁業をなすものあり。石巻街道の街村をなす小野の部落は村の中心たり。陸前松島と、石巻間はバスの往來、並に石巻・仙臺間の定期トラックあり。宮城電鐵は村の東南部を通過し、陸前小野駅（昭和三年設置）は東部三輪山の傍にあり。本村は中世深谷庄に屬し、石巻街道の陸路は、古昔必ず鳴瀬の渡を通る必要あり、且つ何日にあり、附近に貝塚等あるを考合するも、相當古くよりありし地なるべし、小野城は鎌倉時代には永江氏之を領し、伊東・富田落時代にも之を領せり維新の際數村合して、現在の一村となる。（小野城）初め鎌倉權五郎景政此處に居り、文治年中に源頼朝この地を景政の末裔永江太郎義景に與へ子孫之に住し、永江播磨守勝景の時に至るも相繼いで居城し、天正年中、伊達政宗の爲めに亡ぼされ城廢す。（功岳寺）曹洞宗。無雲山と號す。初め陸泉寺と號し仙臺市松音寺末、開基は鎌倉權五郎景政、開山を蓮屋恕三和尚とす。後伊藤肥前本邑を領するや其法號に因みて今の寺號を稱す。伊達家の御家騒動の際の伊東氏の墓所も此處にあり。

【小野村】　秋田縣羽後國雄勝郡の中部。東は須川村に南は荻ノ宮村に、西は横堀町・院内町に、北は山田村に接す。地は即ち横手盆地の最南部に位し、中部は土地低平にて耕地よく拓け　西南より來る雄物川及び東南より來る其支流高松川は共に此低地を灌漑し北部に於て合流し北走するも、東北村境には小比内山（一〇〇四米）峙ちて西北部一帶は山地を成し、西北村境には檜山（六一三米）ありて東北部には山地を成す。主生業は農業にして米作を第一とし副業的に養蠶業行はる。奥羽本線及び羽州街道村の中部をほぼ並行して東北より西南に走り、前者に横堀駅（明治三十八年設置）を置く。古へは福富荘と稱し、郡司小野良貞の京より下りて住せし處なるが、其女は有名なる小野小町なりとぞ。慶長初年までは當村に和歌宮ありて、小町歌集・良貞の記錄等を藏せたりしが最上義光の兵火に罹りて悉く烏有に歸せりと云ふ。當村に年經りたる芍藥あり、これ小町が京に上りし時、自ら植ふたるものなりと云ふ。其他の古郡跡・八十島・二ツ森・走明神・桐田などの地は皆小町に由緒ある處といはる。村に御返事といふ面白き名の部落あり。

【小野岳】　那須火山脈の一峯にて、那須岳（一九一米）の西北方約二十三粁に位す。福島縣南會津郡江川村と熊原村の境界に跨る。標高一三八三米にして英閃安山岩より成る。東北方に大戸岳（一四一六米）聳え、西方に神籠岳（一三七六米）・横山（一三七九米）連嶺をなし、麓を大川北流す。

【小野】　陸奥國（福島縣）の古地名。和名抄白河郡に小野郷あり、その地今の西白河郡古關村に當る。延喜兵部省式に、陸奥國産野駅馬十疋とある確の字は恐らく

は墨の字の誤なるべしといふ。奥州の初駅たり。小野の名、後世この地に都しと雖も地形より推して古關村の邊がまさに小野に當る。

【小野】　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄信太郡に小野郷あり。地は今詳ならざるも稲敷郡太田村大字小野の邊か。

【小野】　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄甘樂郡に小野郷あり、手乃と訓ず。其地今の北甘樂郡小野村・黒岩村に當る。一に岩平村も當郷の内なりといふ。

【小野村】　群馬縣上野國多野郡の東北部。高崎市の東南約七粁を隔て、東は新町・神流村、南は藤岡町、西は美土里村・八幡村に隣り、北は利根川の支流烏川を界として群馬郡倉賀野町・岩鼻村と相對す。土地波狀をなせども概れ平坦にして南部と北部には桑畑多く、中部には田地よく拓け、米麥を主産す。高崎線の新町駅に近く藤岡町へもバスの便あり。本村及び神流村の邊は、和名抄、緑野郡小野郷（手乃と訓ず）の地に當るべく、萬葉集略解に、上野國歌「可美都都氣の手度の多秀里かかはらにもころにあはなもひとりのみして、原註、或本歌、第二句、作手野乃多秀里とあり、小野の田野等の川邊の意にて、和名抄、甘樂・緑野・群馬三郡に各小野郷あり」とあり、また永祿小田原分限帳に五拾貫文、森之内、中村郷、狩和宗太郎云々とあるも小野郷の地なり。〔神明宮〕　大字中栗須字神明に鎮座。郷社、祭神、大日孁命。社傳に據れば、建久年間佐々木氏の勧請といふ。天正十八年七箇村の氏子社殿を造營す。爾來近郷の産土神として崇めらる。例祭、十月十七日。〔立石寺〕　大字立石にあり。眞言宗高野派。東林上人の草創。天明三年火災に遇ひ堂宇焼失す。翌年庫裡を、文政年中本堂を再建す。

【小野村】　群馬縣上野國北甘樂郡の東北隅。高崎市を西南に約八粁を隔て東は岩平村、南は新屋村・福島町、西は黒岩村・岩野谷村と界す。南の鏑川と北の碓氷川の流域を分つ低き丘陵性山地の南側に當り概ね平坦の高燥狀をなす地多く中央部に狹き低地あり桑畑よく發達し、養蠶業最も盛んにして、また米・麥を産す。此地は黒岩村と共に和名抄、甘樂郡小野郷の地なり。天平九年紀に小野朝臣綱手を以て上野守となすとあり、或は其賜田か、中世小野氏住したるも其出自を詳かにせず。大字高尾に大形の板碑あり。高さ三米餘、幅約一米、上方に五種の梵字を題し、其下方に多數の人名彫刻せられ銘文に依り仁治四年二月に營みしものたるを知る。此板碑は製作の優秀にして大形なる點に於てのみ注意すべきものにてはなく壬生・小野・物部・六人部・日奉・安部・春日等の氏族見え、當時に於ける此地方の氏族分布を窺ふにも價値あるものなり。〔長學寺〕　大字上高尾にあり。寶泉山神皇院と號す。本尊は祥瑞牟尼佛。寺傳に據れば天平中に道鏡の創建に係るといふ。七日市藩主前田氏の菩提寺にして二世利覺以下の墓あり。また大磯の虎御前、曾我兄弟の菩提を弔はんが爲に當寺に來るといふ。いま其手植と稱する銀杏ありて昔に虎銀杏と稱す。寺は山腹に營まれ、其三面は山に圍まれたるも全山楓樹多く、上高尾の楓谷の名を以て知らる。

【小野】　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄群馬郡に小野郷あり手乃と訓ず。今の高崎市の邊か。一に金鳥村・小野上村・長尾村の邊なりといふも詳かならず。

【小野】　下總國（千葉縣）の古地名。和名抄海上郡に小野郷あり、其地は今の香取郡笹川村の邊に當るか。一に香取村の大字下小野あるにより此地に擬し、或は海上郡給木村の岡野臺・大野原等に擬するは地形合はず。

【小野】　武藏國（東京府）の古地名。和名抄多摩郡に小野郷あり手乃と訓ず。其地は今の南多摩郡多摩村・由木村・稲城村の邊に當るか。一に府中町・小金井町・國分寺村の邊なりといふ。新編武藏風土記によれば府中な小野郷といふは小野社が府中にあるに據る。然れども小野路の地名は國戸（今は多摩村の大字）の南に現存し此處に小野社ありと見ゆ。

【小野】　相模國（神奈川縣）の歌枕。其地は今の愛甲郡の玉川村大字小野に當るといふ。國國道記に「日向寺に一宿して、傳野堂といへる所へ行きける道に、小野といへる里侍り、小町が出生の地にて侍るとなん、里の人語り侍れば、爰はしけれど、いろみえてうつらふときく古のことばのつゆか小野のあきちふ」

【小野】　佐渡國（新潟縣）の古地名。和名抄佐渡郡に小野郷あり。その地いま詳かならざるも、佐渡郡澤根村の邊に當るか。

【小野】　越中國（富山縣）の古地名。和名抄礪波郡に小野郷あり、手乃と訓ず。其地いま詳かならざるも東礪波郡般若村の邊か。一に西礪波郡五位山村の邊なりともいふ。

【小野村】　長野縣信濃國上伊那郡の北東隅。南は伊那宮村に隣り、北は東筑摩郡宗賀村・鹽尻町・筑摩地村と、東は諏訪郡川岸村と界す。西北境は霧訪山（一三〇五米）、南境は穴倉山（一三六五米）、東境は高尾山（一〇〇八米）の山嶺谷々連亘し、村内殆んど山地をなす。たゞ中部を南下する天龍川の支流の谷と、北部筑摩地村との境に小低地ありて桑畑拓け、三州街道と省線中央本線ここを通じ、後者の小野駅（明治三十九年設置）あり。村内の小野村枝垂栗自生地は純野生狀態にて、頗る畸態をなせるは稀なる實例にして、偶然變化の一著例なり、いま天然記念物に指定さる。この地は東鑑文治二年三月の條にある左馬寮領小野牧の地なるべく、

また同所に落原庄とあるは此地を往時落原庄と稱せしなる落原に誤りしものか。又此地は古來より憑の里と稱し歌枕の名所たり。夫木・三一「信濃なる伊那の郡とおもふにもたれか憑の里といふらん」（祭林寺）曹洞宗。有富山と號す。弘安元年の草創。本尊釋迦如來。開山は弘秀和尚。もと眞言宗にて一度廢寺となりしが禪堂和尚中興す。慶長年中洪水のため堂宇流失し、のち今の地に移り本村の東光寺と併合して現寺號に改む。明治初年兩大本山より常恒會の免狀あり、また伊那・諏訪・筑摩三郡の觸頭差に宗務支局を命ぜられしことあり。（矢彦神社）縣社。祭神、大己貴命・事代主命・健御名方命・譽田別命。創建年代詳ならず。開國の四柱の神及び日本武尊の東征より都へ凱旋の途次、此地に駐蹕し給へる靈跡なりと稱せらる。信濃國二ノ宮とも云ひれ、本郡五十四箇村の總鎮守なり。社記に據れば、成務天皇の御代に奉幣使を遣はされてより其勅使の子孫永く本社に奉仕し、更に欽明天皇の御代奉幣あり、遷祭の神事を創始す。これ九月朔日例祭の起原と云ふ。天喜四年源頼義・義家奉幣し同五年に新宮を造營して軍器を上納す。寿永元年、木曾義仲戰捷を祈願し大いに社殿を經營し、正平六年筑摩郡井川の城主小笠原氏社殿の修造に當る。永享七年同城主小笠原治部大輔の勅使殿丹建の事あり。天文年中甲斐領主武田晴信神領として朱印地若干を當て、天正十年筑摩郡深志の城主小笠原右近舊封復歸記念として一貫二百文を寄進す。德川氏時代、神領朱印へ諸役免除の公文書等代々書替總紹し十五代に及ぶ。明治二十六年に明治神庫を設けて維新烈士の遺品を收藏す。例祭、九月一日。

【小野瀧】長野縣西筑摩郡上松町にあり。高さ三〇米、木曾八景の一。寂覺床の南二粁の地、千曲眞砂に「小野瀧は嶽より直に落ちて銀河の九天より落るともいはんか、されど歌枕の名所に入らず、細川陶齋の此處を旅せし時に木曾路の小野の瀧といへるは布引・箕尾にも劣らざるに此國の歌枕に如何にしてもれしやといへりと、又鳥丸光榮の紀行にも小野の瀧見え、そばだちたる巖の珠に高き所より一筋に落つ、つま木こる小野の名高き瀧なれや山かすかなる中に響して」

【小野】↓西郷村（岐阜縣本巣郡）

【小野】遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄の磐田郡に小野郷あり、手乃と訓す。山城・尾張・武藏・下總・常陸の諸國に小野郷あり、皆小野朝臣の居りし所なるべし。其地いま詳かならざるも、磐田郡笠西村の字に小野田ありといへば、或はこの遺か。

【小野】愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年、和爾良村と共に廢せられ鳥居松村を從く。

【小野】尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄丹羽郡に小野郷あり、今詳かならざるも、藍州府誌によれば、古歌に東路の磐田の小野とあり、今の岩田莊蓋し之なりと。今の丹羽郡犬山町の邊に郷名を缺けば或は此處ならんか。一に千秋村・西成村の邊なりともいふ。

【小野】↓神邊村（三重縣鈴鹿郡）

【小野】近江國（滋賀縣）に於ける舊鎌倉街道の一驛。義經記・六「音に聞けども目には見ぬ小野のすりぼり（摺針）、霞にくもる鏡山、鐘吹の嶽も近くなる云々」とあり。今の坂田郡鳥居本村大字小野が其の地なり。

【小野山】比叡山脈中の一峯にして、比叡山の北麓約五粁に位す。京都府愛宕郡大原村と滋賀縣滋賀郡仰木村との境界に跨り、標高約六〇〇米。南麓は水井山（七九四米）を經て、比叡山（八四八米）につづき、北西方に金比羅山（五七二米）峙つ。西麓には高野川西南流す。古より紅葉の名所にして慈原敏行・紀貫之等の別莊ありしと云ふ。拾玉集「小野山も大原山もすみ憂のけぶりはおなしあはれなるらん」

【小野】山城國（京都市）の古地名。和名抄愛宕郡に小野郷あり、乎乃と訓す。其地は今の左京區修學院より以北八瀬村・大原村の邊にまで及ぶ。三代實錄元慶二年の條に、愛宕郡小野郷の人勳郷山炎官小野朝臣當岑とある小野朝臣も此地の人にて、高野にある小野神社は蓋し小野朝臣の氏神なるべし。八瀬村の南の高野川北岸に小野氏の墓あり。慶長年中、土人これを發掘し石棺を得たり、蓋し小野朝臣の墳たるを知る。文德天皇の皇子惟喬親王の幽棲せられし小野の里は、今の大原村大字上野の地と傳へ現に親王の御墓存す。親王を在原業平が或年の正月雪を踏んで訪ひまゐらせしこと伊勢物語・古今集等に見ゆ。古今・一八「惟喬のみこの許にまかり通ひけるを、風おろして、小野と云ふ所に侍りけるに、正月にとぶらはむとてまかりたりけるに、比叡の山の麓なりければ、雪いと深かりけり。しひてかの室にまかりいたりてながめけるに、つれづれとして、いと物悲しくて、歸りまうで來て、よみておくりける　忘れては夢かとぞ思ふ思ひきや雪ふみわけて君を見むとは」

【小野】山城國（京都府）の古地名。和名抄、宇治郡に小野郷あり、中世には小野莊と云ふ。其地いま京都市に入り、東山區の小野町（もと山科村の大字）・勸修寺町・伏見區醍醐町・日野町等に當る。此地には醍醐・朱雀兩天皇の陵を初め醍醐寺・隨心院・勸修寺・法界寺等の名刹少なからず。

【小野】丹後國（京都府）の古地名。和名抄、竹野郡に小野郷あり。其地いま詳かならざるも、竹野郡上宇川村の邊に當るか。丹後舊事記には小野は恐らく生野の譌なるべく、今の竹野郡郷村の大字生野

内なりといふ。

【小野村】兵庫縣橫津國有馬郡の北部。三田町の北方約六粁にして南界に連る。東は高平村、南は三輪町、西は中野村に隣り、北は多紀郡城南村と界す。獵を立てたるが如き平面的地形を示し東西廣き處約八粁、南北は一〇粁を超ゆ。北境に三國ヶ岳（六四八米）・愛宕山等聳え、その南側斜面緩かに下り中部より南部に狹長の谷地をつくり耕地ここに拓く。省線福知山線三田驛にバス通ず。古くは和名抄有馬郡忍壁郷に屬せるものの如し。（永源寺）大字母子にあり。曹洞宗。青原山と號す。慶應三年、細川範之の創建に係り、通幻寂靈を開山とす。のち同宗通幻派の根本道場となり衆徒群集して隆盛を極めしが、のち漸次衰運に傾きまた舊時の如くならざれど、なほ同地方の巨剎たるを失はず。本尊觀音像は後圓融天皇皇后の御念持佛たりしと傳ふ。境内に活埋坑の遺址と稱するものあり、開山寂靈が曾て杜撰の禪徒を陷入せしめし所と傳ふ。

【小野町】兵庫縣播磨國加東郡の南部。地東西に長く南は市場村、北は下東條・細田・大部の三村に接き、西は加古川中流を挾みて河合村に對す。東半は中部を除き、一帶に丘陵性臺地狀をなし森林多きも、西半は加古川流域の平地にて地味よく田畑よく拓け、米・麥類・蔬菜類を主とし葉煙草・果實等の農產あり。また木製品・醬油・帳簞の工產を出す。社線播丹線沿の小野町驛（大正二年設置）は來住村の地籍にあり、驛へバス通ず。もと一柳氏一萬石の陣屋のありし處。大正四年町制施行。町は小野町・垂井・奥・長尾・鳥谷・後谷・久下山・東多・黑川・淨谷・中の大字よりなり、小野町に役場を置く。（小野藩）一柳氏は慶長以來德川氏に屬す。寛文年中直次の時この地に封ぜられ子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩は一旦縣となりしが間もなく廢せられ其地は姫路郡の管轄に屬す。（住吉神社）大字垂井に鎭座。郷社。祭神、底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命。創立年代未詳なるも、延喜の制小社に列せし古社なり。播磨風土記に、往古住吉大神河內里に鎭座せし時、御伴の神たち人の刈り留きし草を歌物とす、故に草主大いに息ひて大神にこれを訴ふ。かくて大神は、汝が田苗は草を歌かねど歌くが如くに生なんと云はれしと。今も此村は草を歌かずして苗代を作ると云へることを見ゆ。例祭、十月十三日。（八幡神社）淨谷の淨土寺內に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・姫大神。創建年代詳かならざるも、按ずるにその社域よりして重源上人の淨土寺建立に際し、奈良東大寺の鎭守として手向山八幡宮を祀れる例に倣ひて、當社を右淨土寺の鎭守として創めしものなるべく、現存する拜殿の形式手法より推すに淨土寺藥師堂とほぼ同時の建久年間に建てしものの如し。明治七年郷社に列す。本殿は三間社流造、屋根檜皮葺。拜殿は七間三面單層、屋根四注本瓦葺。共に國寶建造物に指定せらる。本殿は早く失はれ現存のものは室町期のものと推定さるるも、拜殿はその細部手法によく創建當初の鎌倉期の遺構を傳へ、唐樣・天竺樣に親心寺樣を混和せる極めて珍奇なる古建築にて、割拜殿形式の古きものの一なるべし。例祭、十月十四日。（淨土寺）淨谷にあり。古義眞言宗。極樂山と號し高野派に屬す。聖武天皇の勅願に依り行基菩薩の開創せし廣度寺の遺址たり。建久四年東大寺大佛殿大勸進俊乘房重源その弟子親阿に命じ共に伽藍を建立す。爾來寺運隆昌し、天正年間には豐臣氏、次で德川氏等各〻寺領朱印を附す。近世まで百五十石の寺領を有す。境內廣濶、諸堂を具備す。本堂・淨土堂は國寶建造物たり。本堂は建久四年重源の建立の儘にて、同じく重源によつて營まれたる奈良東大寺南大門その他と樣式を一にし、謂ゆる天竺樣の特質を發揮せり。淨土堂は建久五年の建立に係り本堂と同樣本邦天竺樣建築の尤たり。內に安置する木造阿彌陀如來、兩脇士立像三軀は中尊の丈高十七尺六寸の巨像にて、佛師淸慶の作と傳へ現に國寶たり。

【小野】丹羽國（兵庫縣）多紀郡の古地名。和名抄の菅縣郷の中にして此處に延喜式兵部省式の小野驛を置く。驛馬八疋。蓋し往昔の山陰道の古驛なり。丹波志によれば其地いま多紀郡福住の大字二ノ坪なりしも後これを福住に移せりといふ。

【小野山】黑尾山（兵庫縣）の別稱。

【小野村】島根縣石見國美濃郡の西北端。高津町の東に隣り、西南は中西村に、東南は美濃村に、西部は山口縣阿武郡田萬崎村と界し、北は日本海に臨む。南境に三〇〇米餘の山嶺ほぼ東西に連亙し地北に降り嶽れ山地にして、西部海岸は山地迫りて海崖を示すも、東部海岸は砂濱續き、その背後に低地ありて田畑拓け、半農半漁の村落をなし農產物は米を主產し發蠶も行はれ、また漁獲物も少からず。省線山陰本線海岸に沿うて通じ戸田小濱驛（大正十四年設置）・飯浦驛（昭和二年設置）を置き、街道亦之と並行に走り交通便なり。本村の東部沿海一帶を三里濱と稱し、白砂青松連りその海岸美は鉾子に似たるにより新鉾子と呼ばる。また風浪の關係により遠淺に多少變動あるも海水浴に適し夏季殷盛を極む。此地は和名抄美濃郡小野郷（乎乃と訓す）の地なり。蓋し村名之に因みしものなるべし。延喜神名帳の櫛代賀茂命神社及び小野天大神之多初阿夏委命神社は大字戸田小野山にあり。蓋し此社は小野臣櫛代造の祖を祭れるもの、姓氏錄によれば天足彥國押人命を小野姓の祖とす。また柿本人麻呂は大字戸田より出でしものと傳ふ。

【小野村】廣島縣備後國神石郡の東北端。西及び南は成羽川の上源東城川を距てて

新坂村及び油木町・豊松村に對し、北は比婆郡久代村に、東は岡山縣川上郡湯野村と界す。東北境に猪ノ辻(七三一米)聳え、村内其山麓に發れて山地深く、東城町を經て東南流し來る東城川は本村の西南隅にて殆んど直角に流路を東に變じて南境を流れ、耕地僅少なるも渓流に沿うて發達し、米・麥を主產し養蠶も行はれ林產また少からず。省線藍僧線の東城驛(東城町)に最も近く、また油木町にバスの便あり。此地は和名抄、神石郡三坂郷に屬せしか。

【小野村】 山口縣周防國佐波郡の南部。防府市の北に隣り、北は出雲村に東は都濃郡湯野村に接し、西は吉敷郡小鯖村に界す。東境に高度約五〇〇米餘の山嶺南北に連亙し西に傾斜し、西境にも高度約四〇〇米餘の山嶺南北に連亙し東に傾斜し、兩山地の中間に佐波川南流し、その流域氾濫原は水田拓け、米を主產す。社線防石鉄道中央氾濫原を佐波川に沿うて過じ鳥尾・奈美・上和字(何れも大正八年設置)の三驛を設き、また防府市よりの縣道西部山麓に沿うて過ぎりバスの便あり。此地は和名抄、佐波郡神戸郷の內なるべし。幕末の勤王家佐伯毅威雄(贈從五位)は大字鈴屋の人にて八幡社の神職なり。元治元年吉田松陰・杉山松助等と池田屋に會し新選組のために襲撃を受け重傷を被り獄に投ぜられ、慶應元年斬殺に逃ふ。時に年四十二。

【小野村】 山口縣長門國厚狹郡の東北端。吉部村及び万倉村の東に隣り、南は二俣野村に、東は吉敷郡小郡町に接し、北は美禰郡眞長田村と界す。東境に平原岳(三九五米)の山嶺南北に連亙し西に傾斜し、西境に厚東川南東に流れその支流大田川中部を南流し、その流域に狹長なる低地ありて耕地拓け、水田卓越し米を主產し養蠶も行はる。街道は大田川に沿うて過じ又小郡町には國木峠を越え通じ交通やや便なり。本村は明治十七年本村外四箇村と共に戸長役場を設きしも町村制施行に際し獨立。〔横瀬八幡宮〕大字小野字上小迫に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・伊弉諾神・伊弉冉神。南北朝時代嘉暦年間の創立と傳ふ。爾後應永十三年・文明十年・天文四年・文祿三年・延寶三年・安永五年社殿造營の事あり、又近郷の產土神と仰がる。

【小野村】 愛媛縣伊予國温泉郡の南部。松山市の東方約五粁。東は北吉井郡に、北西は湯山村に隣り、南は久米村及び南吉井と村界す。北部は二—四〇〇米の山地に被れるも南部は低地ありて松山平野の一部に當り、米・麥・藺を產し養鶏も行はる。社線伊豫電氣軌道及び松山街道南部低地を山麓に近く東西に通じ、前者に平井驛(明治二十六年設置)を設きまた松山市にバスの便あり。此地は和名抄久米郡神戸郷に屬せしか。〔正觀寺〕大字北梅本にあり。天台宗。小野山と號す。行基菩薩の草創。本尊傳行基作藥師如來聖武天皇の勅願所にて國守慈智氏累代の祈願所たり。寶永元年火災に罹り領主加藤氏建立の堂宇大字焼失す。〔梅元寺〕大字北梅本にあり。天台宗。長尾山と號す行基菩薩長尾山麓に靈場を認め藥師堂を建立す。これ當寺の濫觴たり。後小野小町疾に罹り當寺に至り立願參籠信に三日にして快癒す。因つて尊像を刻し「春雨の降ると見えしか晴にけりその蓑笠をそこに脫おけ」の歌を像の首にかけて奉納す。世に之を小野藥師と稱す。

【小野村】 福岡縣筑前國糟屋郡の東北隅。南は山田村立花村、西は青柳村・席內村に接し、北は宗像郡上西郷村に、東は鞍手郡山口村・吉川村に界す。村の大部は謂ほゆる三郡山塊に屬する犬鳴山(五八四米)西山(六四五米)の山嶺の西北斜面にて山地をなし森林多く、西北部は土地低平にて田畑よく拓け、藥落はみなここに集中す。席內村地內の鹿兒島本線古賀驛へバス通ず。主生業は農にして米・麥を產す。和名抄に宗像郡席內郷あり、或は本村の邊なも稱せしものか。古名を鷹野といふ。丹治式部少輔率延此地に住して鷹野氏を稱す。爾後子孫相嗣ぎて居し大友氏に屬せしもその終るところを知らず。

【小野】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄山鹿郡に小野郷あり、或は小野朝臣の居りし所か。其地いま詳かならざるも寛永郡稲田村の邊に當るか。一に山東村・吉松村の邊なりともいふ。

【小野】 →小野田郡村(熊本縣)

【小野村】 長崎縣肥前國北高來郡の東南部。島原半島の頸部にて、東は森山村、西は小栗村諫早町に隣り、北は有明海の支灣諫早灣に面し、西北はこの灣に注ぐ本明川を隔てて長田村に對す。南半は南境より北方に低下する百米豪の丘陵地、北半は土地頗る低平にして一帶の水田をなす。社線島原鉄道の小野村驛(明治四十四年設置)を設く。往古のこと史家の徵すべきものなし。大字宗方に宗方神社あり、三代實錄に貞觀十三年、同十五年肥前國宗像神社授位の事あり、即ちこの社なりと。明治二十二年、小野鳥・小野・川內町・宗方・長野の五ヶ村を合併し、村制を施行し、以て今日に至る。

【小野村】 大分縣豊後國日田郡の北西部。日田町の北方約八粁に位し、それと三花村を隔つ、東より南は即ち三花村、西は大鶴村に隣り、東北は下毛郡耶馬渓村、西北は福岡縣田川郡彦山村に界す。英彦山南嶺の支脈東北境を南方に延びて、東境上には國見山(六四五米)を起し、全村殆んど山地にて森林よく繁茂す。中部の谷地に沿ひ南北に狹長の低地あり藥落ここに集り、道路またこれに沿ひて南北に通ずるも交通の便なほよろしからず。製材所・酒造工場あり。此地は和名抄日高郡在田郷の內なり。〔戸山神社〕宇戸山に鎮座。郷社。祭神、三毛入野命・菅原神・四象女命。創立年代不詳なるも、藏王英彦山神社の社領に發生せし古社にして、同社の別宮として深き緣故あり。また永山城鬼門の神として、日田率行等上下の尊信を蒐む。

【小野】 延喜式兵部省式に見ゆる豊後國九驛の一。驛馬十疋とあり。其地今何れに當るか詳かならず。或は大分縣大野郡小野市村の地か、尙ほ考ふべし。

オノ 雄野(をの) 延喜式兵部省式に見ゆる陸奥國二十四驛の初驛。白河郡小野郷の地にありしものならんといふ。然るに驛名を雄野と稱せしは何故なるかと云ふに陸奥國には柴田郡に亦小野驛あり故に是と區別する必要上、かく雄野と稱せしものならん。小野郷は往古圖所址の地たる西白河郡古圖の邊ならんといふは信ずべきが如し。

オノー 意能保濱(おのほはま) 出雲國(島根縣)出雲郡の濱の稱。風土記に意能保濱、廣一十八歩とあり。出雲郡は宍道湖と海との間の地と思はるるも、意能保濱は湖濱か海濱か明かならず。

オノイチ 小野市村(おのいち) 大分縣豊後國大野郡の東南部。東は重岡村に、西北は白山村に隣り、東北は南海部郡因尾村に、南は宮崎縣東臼杵郡北川村に、西南は岡岩戸村に界す。東西約一四粁、南北約一六粁、一七〇方粁の大面積を有すれども九州山脈の山地に當り、南境には桑原山(一四〇八米)・夏木山(一三八六米)の山嶺東西に連り、中部には新百姓山(一二七三米)・天神原山(九九五米)等東西に亙り、北部にはまた酒利岳・大石岳・柏山等の六—七百米の諸山ありて全村至る處山地をなす。田代川は東部の、中岳川は西半部の山地の水を集め村の南東部にて合一し南隣北川に出で本川とよばれ、その谷間に聚落發達す。重要鑛山木浦鑛山あり。尾平鑛山と共に古くより錫鑛山として知らるるも今は極めて小規模に硅鑛(硅硅鉄鑛)を稼行しつつあり。地質は秩父古生層と之を貫く花崗岩及び種々の脈岩類より成り、鑛床は本鑛山部落の南部に局部的に特異の露出を示す石灰岩層に伴ひ、多くのスカルンを生ず。鑛石に不規則塊狀の硅硅鉄鑛鑛なるも少量の閃亞鉛鑛・鉛安鑛・硅硅鉄鑛鑛等を伴ひ、また部分によつては少量の錫石を含む。さらに二次鑛物として煮臭石を產出する事もあり。木村は重岡村の地と共に中世宇目郷といはれし地なり。此地は日向に通ずる山驛にして延喜兵部省式に小野驛馬十疋とあるも或は此地ならんか。〔寒鳥屋社〕大字南田原に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉尊。創立年代未詳なるも、紀伊國熊野三山を勸請せる古社にて建治年間の創立とも傳ふ。爾來大友氏等領主の崇敬を受け、又近郷の守護神と仰がる。例祭、三月十八日。〔長德寺〕大字村上にあり。臨濟宗妙心寺派。法泉山と號す。永祿年中の草創。開基を國主大友義鑑とす。もと伽藍莊麗を極めしも天正年中薩軍の兵火に罹り後再建せしが、慶長五年兵火に逃ひ舊記灰燼に歸し、その沿革を詳にせず。現堂は萬治年中の燒失後修營せしものなり。

オノエ 小野江村(をの) 三重縣伊勢國一志郡の東部。松坂市を北に距る約六粁、雲出川下流の南岸に沿ひ、東は鵜村、南と西は豐田村、北は川を隔てて雲出村・桃園村に對す。面積三・六六方粁に過ぎず。土地低平にして田畑廣く拓けて主として農業行はれ、米・麥・菜種・紫雲英種子・牛蒡・人參を產し、また藺を出す。古くは何れの郷に屬せるものにや。一說に和名抄、壹志郡吳部郷の內ならんと云ふも確證なし。村制施行の際、須川・森・肥留・蕉目・舞出・西肥留等の諸村を合し、小野古江の古蹟により、小野江村と命名す。小野古江は長明參詣記に「雲出川の早き波なしのき小野の古江なんど申名所を過ぎく」云々と見ゆ。されまた多氣郡大淀町にも小野の古江の舊蹟を傳ふ。また村出身の歴史的人物に、幕末の頃北海道開拓に偉功ありし松浦武四郎あり、同氏は蝦夷開拓判官として北海道・樺太を探險し實に北海道開拓の先驅をなせり。

オノエ 尾上(おのえ)

【尾上村】 青森縣陸奥國南津輕郡の中部。黑石町の東南約三粁、所謂津輕平野の東部に位す。地平坦なるも比較的高燥にして水質よし。大字久米附近は低地なり。淺瀬石川の分流本村を貫流す。主生業は農にして、水田約一七五ヘクタール、畑約一八ヘクタール、山林原野三ヘクタール餘。主產物は米・蠶工品・苹果・鶏卵・清酒等なり。社線弘南鉄道は弘前より本村尾上に通ず。また黑石・尾上間にはバスの便あり。廢藩前は平賀庄猿賀組に屬せしも明治五年全國行政區制定により第十三區となり、その後二十二年縣令第十四號を以て尾上村と稱せしが、昭和十二年金田村と合併して尾上町と改稱す。

【尾上】 →朝日村(滋賀縣東淺井郡)

【尾上村】 兵庫縣播磨國加古郡の南海岸。加古川町の南隣にて東は野口村・別府町に接し、南は播磨灘に面す。面積六・三一方粁の小村なれども播磨平野の一部を占め加古川下流に沿ひ土地平坦膏腴にして米・裸麥・小麥・蔬菜及び花卉等の農產物に富み、醬油釀造業榮え、漁利少からず。古くは和名抄、賀古郡長田郷に屬せるものの如し。いま大字に長田あり、蓋し郷名の遺稱ならん。尾上神社あり、境內に有名なる尾上松あり、指定天然記念物とす。〔尾上の松〕指定天然記念物。尾上神社の境內にある松樹。赤松(雌松)と黑松(雄松)とが合生せるものにて、同郡高砂町の高砂松と共に相生の松として

て有名なり。主幹は赤松にて高さ約一六米五、根元より約一米三ばかりの處より黑松が恰も枝の如く西方に出づ。しかし兩木が根元より殿に癒合して一幹となれることは、肌の色と鱗片の大きさとが左右各異なれるを以てしても明かなり。癒著部の太さは周り約四米ばかり。現在の尾上の松は三代目にて、初代は天正年間に存在し、二代は早く枯死すといふ。なほ本樹の北に四代目の相生松が植ゑられ、樹齡既に五十年に達す。（尾上神社）

宇長田に鎮座。村社。祭神、大己貴命外七神。また住吉大明神を祀るとも云ふ。此地は「高砂の尾上の松も年ふりて」と詠まれ、往昔肥後國阿蘇宮の神主友則、此處の松に詣でけるに靈驗顯はれし由、謠曲「高砂」に見ゆ。元和五年板倉侯社頭境内を免除すと云ふ。社寶に名鏡ありて國寶に指定せらる。（濱宮天神社）大字口里字濱宮に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・少彦名命・菅原道眞。創立年代を詳かにせざるも、菅公筑紫左遷の砌この浦へ船を寄せられしと云ふ傳說により、何時の世にか本社の創立を見しといふ。江戸時代には十石の社領を有し、且つ十二ヶ村の氏神として附近村民の尊信を蒐む。例祭、十月十五日。

オノカミ　小野上村　群馬縣上野國群馬郡の西北隅。吾妻川の北岸に沿ひ、東は長尾村に接し、南は川を隔てその東半は金島村に、西半は吾妻郡東村に對し西は同郡中之條町に、北は名久田村・高山村に界す。北境上に鎌る小野子山（一二〇八米）の南斜面に當り、殆んど山地にて森林をなす。只吾妻川沿岸の段丘上に多少の耕地拓け桑落發達し、蠶川町より中之條町に至る縣道通じ、群馬自動車會社のバスの往來あり。米・麥を主產す。大字村上の吾妻川に臨める地に岩井堂觀音あり。即ち岩壁の中腹を穿ちて觀音の石像を置く。參詣者は梯子に依りて參拜す。山は高からざるも奇岩並び立ち、其間に老松の配せらるるありて、吾妻川の清流と相映發して眞に登勝の地たり。

オノカミ　雄上　攝津國（兵庫縣）の古地名。和名抄に河邊郡雄上郷の名あり、而して訓を闕く。郡に雄家郷あり乎信と訓す。雄上は雄家上の修略にて乎信乃加美と訓むべきか。地は凡そ今の川邊郡小田村の邊にあたるものの如し。

オノガラ　大篦柄岳　霧島火山脈高隈連山の主峯にして、大隅半島の西部に峙ち、櫻島南岳（一〇六〇米）の東南方約一九粁に位す。鹿兒島縣肝屬郡高隈村と同郡乘水村の境界に跨りて、標高一二三七米、全山古生層より成る。林相眞に美しく小鳥の獵類甚だ多し。南麓は御岳（一八二米）に續き、北麓は七岳（八八一米）に連る。山頂よりは西北方に鹿兒島灣に浮ぶ櫻島、並びにその彼方薩摩半島の東岸に鹿兒島市の街區を望見す。登山は通常鹿兒島市方面より海路乃至櫻島を經て乘水村に着し、徒路を東北行して七つ谷に至り、ここより尾根筋を南方に傳ひ、七岳を經て山頂に至る。西麓本城川の上流右岸に靜寂なる山の湯内野温泉あり、ここより登頂を試みる者もあり。この山は近來盛に登山する者なく、試登は南九州山岳會員に依りて行はれたり。※高隈山

オノガワ　小野川　【小野川】　↓三澤村（山形縣南置賜郡）

【小野川湖】　福島縣磐梯山噴發の際泥流、谷を堰塞して作りし湖。海拔八〇〇米。面積一三五平方粁。深度最大二二米。大正六年以後人工的に堰止し水位を高め、檜原湖の水を落し、猪苗代湖の水位調整池たり。

【小野川村】　茨城縣常陸國筑波郡の東部。土浦町の西南約一〇粁に位置し、南北一〇粁を超え東西は最廣部にて六粁餘あり、西南は谷田部町、西は島名村、北は旭村に隣りし、東北は新治郡九重村・東村に界す。土地一帶に凹地にして波狀を呈し、畑地・林野交錯し、南部及び北部の中央とに各々低地ありて水田拓く。矢田部町・土浦町に縣道通じバスの便あり。主生業は農にして米（陸稻も含む）・麥・蒟蒻・繭を主產す。大字館野に日本唯一の高層氣象臺あり。文部省の直轄にして高層氣象中に於ける氣壓・氣溫・濕度・風力・風向・雲形・雲量・氣象氣象の觀測を行ふ。和名抄に河内郡菅田郷あり、或は本村の邊に擬すべきか。東國輿記に小田天庵の麓下に小野崎の城主荒井藏殿助と見ゆ。蓋し小野崎は大字小野崎の地なり。明治二十九年三月稻敷郡より本郡に編入さる。

【小野川】　長野縣下伊那郡智里村の地名。この地は三河街道と美濃に通ずる神坂峠との岐路に當り、幕府は番所を置き知久氏をしてこれを管せしむ。

オノグチ　小野口村　靜岡縣遠江國濱名郡の東北部。濱松市の東北界を去る北方約五粁、その間に積志村を隔て東は北濱村、西は三方ヶ原村に接し北は引佐郡龍玉村に隣る。西半は三方ヶ原の東麓に續く低き臺地にて林野・草原あり、東半は天龍川流域平野の一部にて低平にして水田よく拓く。社線遠州電氣鉄道通じ遠州小松驛（大正十二年設置）を置く。織物業盛んにして、また米・繭・茶の產あり。和名抄に產玉郡細多郷あり、蓋し本村邊の地ならん。明治四十年小野田村の大字小松・内野及び平貫村の大字平口を以て本村を建つ。村名は此際各字の一字を取りて命名せるものなり。

オノコ　小野子山　群馬縣伊香保町の北方約十粁に位する山。群馬郡小野上村と吾妻郡高山村に跨る。標高一二〇八米。南麓を吾妻川と長野街道とが西北方より東南方に並走す。山頂より西方

山麓は十二ヶ岳（一二〇一米）を經て、東南流する吾妻川の畔に、又東方山麓は子持山（一二九六米）を經て南流する利根河畔に低夷す。頂上よりは西南方吾妻川の彼方に榛名山を、東方利根川を隔てて赤城山を仰ぎ、東南方國東平野には前橋・高崎等の市街地の點在するを下瞰す。山中には奇岩怪石多く、又紅葉の美を以て知らる。南西麓吾妻川の畔なる小野上村村上には觀音を安置する岩井堂あり。

オノゴー　小野郷村　京都府山城國葛野郡の北部。鴨瀧川上流の山村にて東は愛宕郡雲ヶ畑村に隣り、南は京都市上京・右京二區との間に中川村を抱き、西は北桑田郡細野村、北は同郡山國村に界す。丹波高原の東縁部にて北境にある棧敷ヶ岳（八九六米）鳳森山（七八九米）聳え、その山嶺南方に延び村の中部に半國高山（六七〇米）を起し、一帶に山地をなす。半國高山の西南及び西北の谷にやや低地あり部落ここに發達す。古くは專に小野に作る。往昔は小野氏の居邑と傳ふ。小野氏は皇別にして、孝昭天皇の皇子天足彦國押人命の裔米餅搗大使臣命より出づ。朝臣の姓を賜ふ。大字移坂の地は京都市より上京區農ヶ峯を經て丹波國北桑田郡周山に出づる丹波京都街道の要驛にして古來屋と戰場となる。また一に長坂越ともいふ。

オノコロ　淤能碁呂島・磯馭盧島　我邦建國の神話に見ゆる島。即ち伊弉諾・伊弉冉二尊が我國土經營の時最初に生み給ひしといふ。古事記には淤能碁呂島に作り書紀には磯馭盧島に作る。併し實在の島としては大阪灣内にありしものの如し。古事記仁德天皇の段、天皇の淡路行幸の際の御製に「おしてるや　難波の埼よ　いでたちて　脇國見れば　淡島　淤能碁呂島　あぢまさの　島も見ゆ　佐氣都島も見ゆ」とあり、釋日本紀には「今見在淡路國西南角小島是也」といひ、沼島を之に擬するも定說にあらず。よりて此島は淡路島か若しくは附近の島を指しし ものならんも何れも明らかならず。記・上「二柱神立ニ天浮橋ニ而、指ニ下其沼矛ニ以畫者、鹽許袁呂許袁呂邇畫鳴而、引上時、自ニ其矛末垂落之鹽、累積成ニ嶋、是淤能碁呂嶋」

オノジ　小野路　↓鶴川村（東京府）

オノシノハラ　小野篠原　近江國（滋賀縣）の古地名。歌枕。今の阪田郡島居本村大字小野は、舊東海道の小野宿の地なれば、小野篠原もこの邊に當るか。擬古今集「たび人のやとかり衣袖さえてゆふしてむすふ小野の篠原　定鶴」

オノシンダチ　雄信達村　大阪府和泉國泉南郡の中部。佐野町の西南約六粁、東南は信達村に西南は東鳥取村に接し北東は樽井村に隣り西北は大阪灣に臨む。面積僅に三・四方粁の小村なれども和泉平野の南部に位し、南方雄ノ山峠の北より下る小流芝疏川これを調し至る所に田畑拓く。社線南海經道の樽井・尾崎（明治三十年設置）の二驛を置く。和名抄、和泉國呼唤郷の一部にて、中世の信達莊の内なり。呼唤郷は古くは專に男に作る。以て村名の起源を知るべし。延喜式に呼唤驛馬七疋と云ふは此地に置かれしものか。神武紀に見ゆる雄水門は此地ならんと云ふ。いま府社男神社あり、五瀨命を祀る。※雄水門。（男神社）大字男里に鎮座。府社。祭神、彦五瀨命・神倭磐余彦命・熊野櫲玉命・天兒屋根命。創建年代詳かならざるも、延喜式には男神社二座と見え、神武天皇即ち神倭磐余彦並にその御兄君の彦五瀨命を祭るとなし、泉州誌また之を承けて前者を男森明神、後者を即ち彦五瀨命を濱天神と云ふと。古來祭神に就き二三の異說あれど今信ぜず。當地は神武天皇御東征の舊蹟地にして、傳に據れば彦五瀨命は賊將登美毘古の流矢に中りて此地に薨じ給ひ、因つて此地を男里と云ふと。蓋し神武天皇と彦五瀨命を鎮祀せるに創まるべく、後の二神は後世の配祀ならん。社傳には貞觀元年の創建と云ひ、延喜の制二座共に小社に預る。爾來、朝野の崇敬を集め文明六年足利義政社殿を修覆し、慶安四年德川氏また修造を加ふ。寛政八年淀城主耕田七町を寄せ神領となし、次いで明治初年時の縣令稅所篤氏は社殿の荒廢を憂ひて自ら工費を進納して造營の工を督す

境内二千五百七十坪、社頭輪奐の美を傳ふ。社域は老樹古松鬱蒼として幽邃の雅趣に富む。例祭、十月十一日。

オノダ　小野田　【小野田村】　宮城縣陸前國加美郡の中部。中新田町の西約四粁。南は色麻村に北は宮崎村・賀美石村に夫々隣り、西は山形縣北村山郡に境す。東西約二五粁、南北約一二粁の大村なり。西部縣境に船形山（一五〇〇米）・荒神山（一二七〇米）・吹越山（九三八米）等連亘し、更に南部村境には八森山（五〇五米）・天ヶ岡（四一三米）等峙つ。これ等の山脚は總べて東北に傾斜して、村内の大部は山地をなし、ただ僅に東北部に低地を見る。而して此等の山麓に發源せる鳴瀨川及び其支流は何れも曲折峽谷を成して東流す。主生業は農業にして米を主產しまた副業的に養蠶業行はる。省線陸羽本線中新田驛にバス通ず。此地古くは賀美郡勢潟郷の地に當るか。觀聞志に據れば中世大崎氏の家臣石川長門（封内記には石川與八とあり）小野田城に據れりと、また村内に旭日館ありて小野田玄番居したりといふ。（魚取沼鮫魚棲息地）指定天然記念物、隣村宮崎村に亘る田代岳の山奥にあり、沼に產する鮫魚は形態金魚に類似し普通煤褐色、全國稀に見る淡水產魚類なり。（飯豐神社）大字東小野田にあり。郷社。祭神、保食命・八重事代主命。延喜式賀美郡二座中の一にして本郡の鎮守たり。社

新潟県の工業地帯となれり。しかもセメント会社は我国唯一の四回キルンを設置し、全浜会社又本邦化学肥料製造の四回に等、全浜会社は大正九年の工業組合に於ける唯一の工場なり。上代の工業地は、一千餘年の後再び近畿より移り来りて新潟県。以来工場の産業は可新潟の仲間に属しと云はれり、人口の割、年々と共に年加する状態にあり。小野田町の人口は、もと浜の名に対して、のち有磯の郡名となり、更に町名に改称せらるるに至りしなり。工業地としての小野田は、セメント、煉瓦の名に於て世界的に知られたる。セメントは、此の工場は、日本一の生産高を誇り、其の原料は、近傍の山より採掘せられ、其の動力は、電気を用ひ、其の製品は、海路・陸路・鉄道・軌道・索道・自動車・馬車・人力車・荷車・人夫等の運搬機関を利用し、国内は勿論、遠く海外に輸出せらるるもの多し。

大浜花王石鹸は、昭和二年、中島大分氏の創設にして、資本金五百万円、工場は、小野田・日下・浜・中・新・高・大・小・新・高・大・小・新・高・大・小

オノハマ　小野濱　神戸市海岸一部の稱。舊生田川口と新生田川（いまの生田川）口との間。今の算合區濱逸通の海岸にして、大部分築港突堤に通ずる貨物驛即ち東海道本線小野濱驛（明治四十年設置）に用ひらる。

オノブチ　斧淵　↓上東郷村（鹿兒島縣）

オノベタ　小野部田村　熊本縣肥後國下益城郡の西南部。八代町の東北約一四粁、小川町の北、河江村の東に隣る。東隣豐野村・海東村の境界には城山（二八二米）あり、その脈南北に連り西側に傾斜するもその他の大部分は謂ゆる八代平野の東北部に當り土地平坦にて一帶田圃をなす。村内より竹葉石を產す。黑色にして緻密堅硬の機械岩が變質し種々の模様（竹葉・牡丹・龜甲の如き又は霜降狀）を呈す。故に一名斑石ともいふ。其色彩光澤は餘り美しからざるを以て裝飾用材としては殆んど用ひられず、主として墓石に使用する。本村は小野・部田の二村合併して成れるものにして、古くは小野は和名抄八代郡豐區郷に、部田は同小川郷に屬せるものの如し。小野はいま北小野・中小野・南小野に、部田は北部田・南部田の各大字に分る。東寺百合文書に正和三年七條院領肥後國小野莊と見ゆるも此地をいひしものか。また小野は征西將軍懐良親王の蔭じたまひし所と傳ふ。（守山八藩宮）　大字南部田村に偶座、郷社。祭神、譽田天皇・氣大神・神功皇后・水波能女神。創立年代を詳かにせざるも、永承年間京都石清水八幡宮を勸請せし古社と傳ふ。降つて江戸時代に入り寛永年間細川氏社殿の造營を施し、爾後その崇敬怠らず、また近郷庶民の尊信篤し。例祭、十月十五日。（長谷寺）　大字小野にあり。曹洞宗。泰雲山と號す本尊十一面觀世音。天文年中の草創にして開山を親叟是睡和尚とす。もと大和長谷寺を移したるものといふも、散失の火災に舊記燒失して詳記詳かならず。（三寶禪寺）　大字南部田にあり。黄檗宗。

オノミチ　尾道　【尾道市】　廣島縣五市の一。縣の東部備後國にありて瀬戸内海に面し、東は松永灣、西は三原灣の兩灣の間に東西に狹長な海峽に臨み、岩石海岸の斷層崖裾に發達せる狹長な市街にして、前面に向島を擁し、海峽それ自身港を形成し、瀬戸内海沿岸に於ける一大港市を成す。只斷層崖裾の海に迫りて低地頗る狹く、背後及び東・西何れへも市街地の殆んど展びるに餘地なく、同市の發展を妨ぐること鮮少ならず。即ち市の東部背後には瑠璃峯（一七九米）、中央背後に愛宕山（一〇二米）、南部に大寶山（一〇〇米）等が背面を扼し尾道の名も山の尾に通ずる道との謂ひより出でしものならんか。海上交通は大阪商船の山陽線、瀬戸内商船の宮島航路、尼ヶ崎汽船の中國線、其他住友汽船の新居濱航路、尼ヶ崎汽船の今治航路、瀬戸内商船の西鉄航路、石崎汽船の三津濱航路等この地を基點或は寄港地として海上交通上重要なる位置を占む。殊に中國・四國間の連絡は宇野・高松線の東偏せるため將來尾道・今治間はその位置瀬戸内の中央に位置するのみならず兩者の經濟圏保健る緊密にして時間的にも頗る短縮せらる。陸上交通は山陽線に於ける重要驛たるのみならず尾道廻道亦此地を起點として北方市村に延び、將來世羅郡の首邑甲山町を經て北備後の中心三次に通ぜんとす。かく水陸交通の重點に位置せるため貨物の集散極めて活潑なり。ただ市域地形上狹小なるため大阪蘇崎行列車のあるは尾道に於て適當なる線道引込みの敷地の十分ならざるに基因するか、けだし岡山以西に於ける商業の殷賑は尾道市の有に出づるものなし。物產には帆布・酢・醬油・人造肥料・下駄・蒲鉾等を產す。蘇崎は開港場であるが貿易擬は寸唯米國よりスタンダード石油を輸入する港として日本屈指の港とす。この地はもと長井浦と稱へ、神功皇后征韓の歸途、埼の邊なる井戸より水を汲んで船に運ばせられしとの傳說を有し、蘇崎は井戸崎の轉化ならんといはれ今その址と稱するもの譯の東方一粁の八幡神社境内にあり。本市は山に迫り海に臨み、風光頗る明媚にして殊に前記の瑠璃峯山・愛宕山麓の千光寺・大寶山麓の千光寺等何れも各絶好の位置を占む。就中千光寺は千光寺公園として一大遊覽地の設備を施し頂上の千疊巖岩を始めとし、三重岩・烏帽子岩等の巨岩多く、楓樹を植ゑ或は市街を瞰下し或は多島の瀬戸内を望み風光絶佳なり。人口昭和十年三〇七七。（光明寺）　上堂町にあり。淨土宗西山派。菩淨山寶龜院と號し永和年中圓仁の草創と傳ふ。本尊木造千手觀音立像一軀は國寶にして鹿原末期の作と推知さる。（西國寺）市内久保町にあり。古義眞言宗。摩尼山總持院と號し御室末なり。天平年中行基の創立に係り現在末寺二十餘寺を有す。本堂及び三重塔は國寶建造物にして前者は一に金堂と稱し室町初期の風調を存し後者は足利義政の作に係る。木造藥師如來坐像一軀、同釋迦如來立像一軀は國寶にして前者は空海作とし後者は安阿彌作と傳ふ。また五鈷鈴・錫杖・紫泥最勝王經も國寶に指定さる。金堂前に老松の幹より八重櫻の出でゐる櫻松と稱する名木あり。（常稱寺）　時宗。尾陽山願王院と號す。開基は他阿上人、文和年中火災に罹り後足利尊氏再建す。堂の天井を柏木にて張れるより俗に柏堂と稱す。延寶年中再度火災に遇ひ今僅に本堂と大門とを殘せるのみ、境内に他阿上人に從ひ來りし尼の住房と稱するものあり。（淨土寺）　尾崎町にあり。眞言宗泉涌寺派。韓法輪山大乘院と號し推古天皇二十四年聖德太子の建立に係ると寺傳す。現在同派準別格本山なり。足利尊氏筑紫に進るに際し本寺に陣し兵を招集す。本堂・阿彌陀堂は國寶建造物にして兩者共鎌倉時代建築の特徴を認む。紺紙金銀泥法華經一卷・紙本墨書觀世音法樂和歌一卷等は國寶にして後者は三十三首より成り尊氏手書して佛前に供せしものなり。（千光寺）　土堂町の千光寺山の中腹にあり。眞言宗泉湧寺派。大寶山と號す。創立年代は詳かならず。多田滿仲の中興と傳ふ。その後再び衰頽に歸せしを貞享年中再興す。本尊は千手觀音。本堂の他毘沙門堂・大悲閣・護摩堂・方丈・庫裏・拂松庵等あり。本堂前には高さ約一四米幅約一〇米の白岩あり、昔その上に玉ありて毎夜光を放ちたりといふ。この附近の海邊を玉浦といふはこれに起因すと傳へらる。（天寧寺）　土堂町にあり。曹洞宗。海雲山と號す。足利義詮女尊氏の遺志を繼ぎて草創す。開山は智別國師とす。後曹火に罹り寶塔を除くほか悉く灰燼に歸す。現存の三重塔は嘉慶年中の建立に係る。寺寶足利義詮の古文書數通。

【尾道線道】　私設線道。廣島市にあり。尾道市を起點とし、御調郡に入り栗原町を經て、市（市村）を終點とす。全長一七・一粁。

オノミナト　雄水門　日本書紀に見ゆる港。神武天皇御東征の時、久奈岐坂の戰に皇軍利あらず日を背に負ひて就を攻撃し給ひんとて茅渟海を南に祇し給ふ。此時にかねて皇兄五瀬命箭傷を負ひ、その痛甚し。山城水門にて劍を撫し雄叫びして曰く、大丈夫傷を被り報いずして死せんやと、故に時の人、山城水門を男水門に改む。蓋し男の水門は和名抄、和泉國日根郡呼唹郷の寄氣地にして、今の大阪府泉南郡熊取村の邊に當るともいひ、或は紀伊國の紀ノ川の河口の邊ならんともいひ定め難し。神武紀「五月丙寅朔、癸酉、軍至茅渟山城水門」（赤名山井水門、茅渟、此云智怒）時五瀬命矢瘡痛甚、乃撫劍而雄誥之曰、（撫劍、此云都盧者能多伽彌居利神魔屠）慨哉大丈夫、（慨哉、此云于黎多棄伽夜）被傷於虜手、豈不報而死耶、時人因號其處曰雄水門、遂到于紀伊國竈山而五瀬命薨于軍、因葬竈山」

オノモト　尾野本村　廣島縣岩代國河沼郡にあり。野澤町の東北に隣る。東部は低丘陵の山地を成すも、その山地を隔てて會津盆地あり、平坦面は少なく只西部のみ野澤台の一部を占め稍〻低平なり。山間地域としては、水田割合多きも近年交通機關發達してより頓に木炭製造・發電業等發達す。又養豚・養鷄業盛んなり。慈後に通ずる道路あり。また磐越西線野澤驛に約一粁あり。冬季には降雪多く、人馬の交通に甚しく不便を感ず。往古の事以て徵すべきものなし。明治八年松尾・貴本・森野の三村を合併せし際、各〻その一字を取りて尾野本村と稱す。いま登世島村・睦合村・下谷村と共に組合町村を成し役場を本村に置く。

オノヤ　小野屋　（大正四年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

オノヤマ　小野山峠　和歌山市の東北約十二粁、紀ノ川の右岸約五粁に位す。和歌山縣紀伊國海草郡山口村と紀伊國那賀郡山崎村に跨り、最高點一八四米、基盤は和泉砂岩より成る。南方を紀ノ川西流して紀伊水道に注ぐ。この峠路は往時官道にして、白鳥圖の置かれしことあり、今は大阪市と和歌山市を結ぶ大阪街道の一部をなす。

オノヤマ　麻山　↓赤郷村（山口縣）

オバ　伯母峰　大峯山脈の一峯にして、主峯山上ヶ岳（一七二〇米）の東方約一〇粁に位す。奈良縣吉野郡川上村に聳ゆ。標高一二六七米にして、山體秩父古生層より構成せらる。西麓殺部は伯母峯峠の最高點（九九一米）をなし、東熊野街道これを南北に通ず。この峠の北斜面より伯母谷川源流して北流し、伯母峠北麓を西北走する吉野川に左岸より合流し、また南斜面より北山川の一支發源して南流し、伯母峠西南麓を南流する本流に左岸より合流す。東南方には大豪ケ原山の經ヶ峯（一五二九、三米）三津河露山（一六五五米）・日ノ出岳（一六九五・三米）連聳し、西方には大峯山脈の山上ヶ岳・龍ヶ岳（一五八一米）大普賢岳（一七八〇・二米）連嶺をなす。

オバコ　伯母子岳　紀伊山脈の一峯にして、高野山の東南方約一七粁に位す。奈良縣吉野郡十津川村と野迫川村の境界に峙ち、標高一三四二米。男性的の山容にはあらざるも森林美を賞さる。西南方に護摩ノ壇山（一三七〇米）聳え、東方殺部を伯母子峠（約一二〇〇米）路南北に震斷す。十津川支流釜川は南麓を東流し、その一支三田谷の溪水は東南斜面より發し東南走して本流に合す。また川原樋川は北麓を東流す。此山は北方に高野山、南方に熊野を控へ、又伯母子峠はこの兩地を結ぶ街道に當るを以て、往時は兩地參詣の善男善女、又は京都と南紀を往來する人馬の群にて賑ひしも、今は僅かに里人の通過するのみにて寂寥たる山道となれり。この山の西方なる古座の茶屋・候の茶屋等は源平並びに南北朝時代の史蹟に富む。

オバステ　姨捨・姑捨・嫗棄　【姨捨山・姑捨山】　姨捨山に四説あり。（一）今の冠着山（冠山）の別稱とす。後撰詞抄は冠山を以て姨捨山と論定し、また豐城氏の「姨捨山考」にも姨捨山は今の冠着山なりとし、仙覺萬葉抄「信州於姑捨山之篇、結草爲盧愛余生耳、文和二年癸巳中秋八月二十五日權少都成俊記之」の一節を引用す。この草庵の跡は冠着山

考文ひとり聞されるといふ。

【鎌倉】 有鎌倉ノ赤鎌ノ一群（明治三十三年調査）"平坦部更級郡八幡村にあり。鎌倉山の中腹にあり"スヤイチバツ"ある。

【鎌倉巻】 大和国（奈良県）吉野郡の郡域。

【鎌倉巻】 其所光いまに詳かなら ず。山家集「をはすて月てのみとやまとれて思ひこしにやあらんとこゝに見えけれは"をはすてにしこなのあらはしいつくにも月すむ巻の名にこそ有けれ　西行」

オバセ　小瀬　村名。福岡県の南部、筑後川を隔てて行橋町に西北は白川村に北は豊前町に接り東は同郡に属して同郡に西北は豊山郡の境界に接し其地は平坦なる田畑多きも其間は高下にして丘陵多し。行橋町にバスの便あり。和名抄に次郡郡名小瀬あり。古名抄に次郡郡名月を見人の名月は小瀬の名月なりと。

【小瀬】 丹波国小瀬庄（京都府）河内国の古荘名。和名抄に小瀬郡あり。天平年間（一七三九年）には丹波国小瀬庄あり。

【小瀬】 此は其人日村の大字の大小を以て称名の地名とする。何れにも定め難し。

【小瀬】 西門国（山口県）の古荘名。和名抄"厚狭郡に小瀬郡あり"手賀多と同じ。

【小瀬】 丹波国小瀬庄に在る小瀬村の荘名。

【小瀬】 大和国（奈良県）吉野郡の古荘名。

【小瀬】 大和国（奈良県）吉野郡の荘名。

【小瀬】 大和国（奈良県）吉野郡の荘名。

【小瀬】 大和国（奈良県）吉野郡の

も南するに從ひ低下し、南部は桑園、水田よく拓く。交通は社線上信電鐵福島驛（約三粁）に出づるのみにして便ならず。蠶絲・蒟蒻粉等の工産多く、また繭・米・麥・蒟蒻芋等の農産豊かならず。大正十四年五月町制を布く。和名抄に甘樂郡新屋郷あり、或は本町の邊まで含みたるものか。武藏七黨兒玉黨の中に片山太郎成行の子、小幡平四郎輔行あり、また東鑑に小幡三郎左衛門尉あり。これ等は皆この地に居せしもの。〔岡峯城〕町の西方大字善慶寺にあり。一に峯城といふ。始め小幡叢重入道泉龍斎城主たりしが、天文二十一年一族小幡岡書之介景純のために上杉景虎に讒ぜられ遂に城を奪はる。玆に於いて叢重甲州に赴き武田信玄に組る。信玄大に悅び永祿六年大舉して當城を攻む。景純自殺し叢重再び城主となる。その子上總之介重良は天正年中武田氏の西上州七郡の横目となりしも武田氏の沒落後小田原の北條氏に歸す。天正十八年小幡信真、小田原に籠り當城を小幡帶刀・庭屋左衛門に守らせしが、上杉の先鋒都甲能登・木戸伊豆入道・夏目舍人助等のために移に攻略せらる。〔小幡藩〕天正十八年、北條氏の滅亡後、德川家康の關東入國に當り奥平信昌封ぜられ、のち水野・織田二氏を經て明和四年松平忠恒に至り二萬石を領す。爾來子孫相承け明治維新に至る。明治四年廢藩の際一旦縣を置さしも間もなく群馬縣に入る。〔小幡學校〕舊小幡藩の學校。寛政三年藩主松平玄蕃頭の創設に係る。爾來變遷なく明治に至り、同五年群馬縣の置かるるや、之を縣廳に引渡す。

【小幡】愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村は高間・二城・大森の三村と共に廢せられ守山町を置く。

オハツセ　小初瀨山・小泊瀨山　略して小初瀨・小泊瀨ともいふ。大和國（奈良縣）の歌枕。其地いまの磯城郡初瀨町にあり。撰古今集「春かぜにしられぬ花やのこるむ猶雲かかる小初瀨の山　丹後」夫木・二〇「なはつせのみ山おろしのはげしさを猶身にしめて月やみるらむ　爲家」

オバツセ　乎婆頭勢山　足尾山（茨城縣）の古名。

オバナ　尾花岬　一に大魚岬ともいふ。北海道後志國太櫛・久遠兩村境海岸の岬なり。花崗岩・閃綠岩にて構成さる毛無岳（八一六米）の西方海岸にして火成岩の海崖をなし鮑の藻處とす。

オバナザワ　尾花澤　【尾花澤町】山形縣羽前國北村山郡の北部。山形市より新庄町に至る中間にあり、村山・新庄兩盆地の漸移地帶に位し、丹生川の流域を占む。最上川本流の河口大石田はこの町の西南方約三粁に位す。東方には五一四米の鍋越越により鳥海中央分水山地を越えて、宮城縣古川町に達する羽州街道あり。また鳥海本線大石田驛より分岐せる社線尾花澤鐵道の終點に當り、尾花澤驛（大正十五年設置）を置く。古來慈後の高田、飛驒の高山と共に日本の三大深雪地として知られ、最上川流域に於ては新庄盆地よりこの尾花澤・大石田に至る間が深雪地帶をなす。卽ち最上川峡谷の奥地に當るため海岸の庄内地方よりも、山陰に當る山形盆地（村上盆地）よりも積雪量大なり。この地は大石田と共に附近農村の中心市場なり。東道縣誌に見ゆるが如く德川時代には縣内有數の馬市ありしが一時中絶し、現今復活せるも昔日の面影なし。然し一・七の日には未だ朝市存し近村より多くの百姓集る。近年は夜市も出來しが是は町民が主として出るものにて前者とは趣を異にす。町内には七日町・十七日町・二十一日町等の字名あり。又市神も五ヶ所に祭られ、市町として發達せしこと明かなり。慈後方面に南部の馬を賣る場合には鳴子より小國盆地を通り山刀切峠より此の町に出で、南部馬郡の小國を拔けるを常とし、此處は中繼地として、馬市の榮えしものと思はる。芭蕉の清風を訪ねし道路は明ならざるも、山刀切峠下の關谷に寛永年間の關所に關する記錄の存するに據れば此の通路らしく思はる。「尾花澤にて清風と云ふ者を尋ね。かれは富めるものなれども志いやしからず……涼しさを我宿にしてねまるなり」（奥之細道）。清風の子孫は現存す。鈴木小三郎氏宅地内の目通り六・六米、高さ約一六米の大書侵櫛、目通り三二五米、高さ約一七米の大柏ぼ清風の邸内にありしと傳ふ。利源記には六童八幡の一、尾花澤藤左衛門尉の居住地なりとあるも城下町の形跡を殘さず。延澤氏の区覓館氏の居住の跡と稱する山館あるも史料を存せず。德川時代には幕府の代官所あり。天明時代、能吏早川代官の治下にありしを以て町民いまだに其の德を忘れずといふ。多は平屋の屋根まで雪に埋められるを常とするを以て二階建多く、高き光窓を有するも年内の三分の一は穴居生活のごとき狀態なり。俳人清風を生み現在雅樂を奏する一團あるは雪の及ぼせる精神的の影響の一つなるべし。人心温和にして飯る人情厚き美點を有し、一般に風流を解する者多きも商業には餘り勤勉ならず。主産物は米にして、特産物は西瓜と大根なり。牛房野は尾花澤町の北森岡山の下に位する谷奥の山村にして、近傷には火野畑多し。最上分限帳に最上二五城の一なる牛房野とあり。楯址いまなほ現存す。〔澤潟澤〕には「陳鳥乃尾花貫澤乃人奈速波澤潟摺乃衣著奈溝志、人麿」なる古碑あり。長暦二戊寅年四月藤原實方興立とあるも實方の死は長德四年にて年代符合せず、後年の作なること明かなり。明治天皇東北御巡幸の際に尾花澤町柴崎弭右衛門方にて御畫餐を召され給ふ（山形縣行幸記）。なほ町名は往古鷲爨の尾羽を貫せるに依り、尾羽と稱へしも何時の世よりか現在の如く改まりしといふ。土地の人は今に尾羽根と稱す。明治三十年町制施行。〔澤潟澤〕尾花澤町の西北隅に商肇の地あり澤潟澤と云ふ。現時は古人の詩歌に因りて舊觀を想像するに過ぎずと雖も、昔時は絶勝の地にして文人詞客の吟笻を曳くもの絶えざりしと。澤潟澤の碑は實方中將の建立と稱するも確證なし。碑面に柿本人麿の歌「陳鳥の尾澤貫澤乃人奈速波澤潟摺乃衣著奈溝志」を刻す、古雅愛すべきものあり。碑背に長德二年戊寅年四月藤原實方興立の數文字あれど、實方は長德四年十一月十三日に薨去せるを以て長暦二年は四十一年の後にて年代符合せず。尾花澤秋風さむし澤潟の花すり衣きてやかへらん　侍從西四辻公業「みちのくの尾花か澤はおもたかのさかりにまたき秋風そふく　海上胤平」〔諏訪神社〕大字尾花澤字北裏にあり。鄕社。建御名方命を祀る。創立年代不詳。地方の古社。古來附近庶民の尊信篤し。例祭、陰暦七月二十七日。

【尾花澤鐵道線】山形縣の私設鐵道線。奥羽本線の大石田驛より尾花澤に至る二六粁。

オハナワ　小埴　下總國（茨城縣）の古地名。和名抄結城郡に小埴郷あり。國を國くも埴は塡の誤にして小塡と稱すべしといふ。いま暫くこれに從ふ。埴・塡は同音なり。いま結城郡結城町の字名に小塡の稱遺る。これ小塡郷の遺稱ならんか。

オバフ　蘋布　北海道日高支廳管下、日高國三石郡三石村の舊稱。明治三十九年蘋布村を三石村と改稱し、以て今日に至る。

オバマ　小濱　【小濱町】福島縣岩代國安達郡の東部。二本松町の東南約七粁。東は太田村に南は新殿村・白岩村に、西は石井村・大平村に、北は上川崎村に隣る。村内丘陵蜿蜒して見るべき低地なきも臺地丘陵間の狹地・低所處々に點在す。阿武隈川の支流移川は新殿村より流れ來り、また廣瀨川は太田村との境を流れ二流は北部に於て合して北流す。農村に依存する町にて田畑少なきも地味肥沃、農業の繁盛にして安達東部の中心地を成す。本村の交通路は縣道・村道にして町を中心として四方に發達し、縣道は二本松町と浪江町とをつなぎ村の中央を通る。もと澤渡庄の一部にして成田、七折の二村より成れり。文治以後領主田原氏上長折字古館の地に居城し、建武以降石橋吉良・宇都宮・新渡の諸氏より再び石橋氏に至り四本松と呼ばれたり。翌くて成田村は成田・宮守・西勝田の三つに分れ七折村は一村たりき。元龜・永祿の頃石橋氏の区大河内氏は宮森卽ち上館に、大内氏は小濱卽ち下館にあり。大内氏は大河内氏を滅し次いで石橋氏これを奪ふ。天正十三年伊達氏大内氏を滅し文祿以後會津藩の領するところなり。寛永二十年丹波氏の封領となる。明治二年宮守村と稱し、同八年小濱村と改め、同三十二年町制を布く。町は小濱・小濱成田・西勝田・上長折・下長折の五大字よりなり、小濱に役場を置く。

【小濱町】福井縣若狹國遠敷郡の北部。小濱灣の東岸に位し若狹國第一の邦邑。北川の河口に跨り右岸卽ち北部は背後に丘陵を見るも、左岸卽ち南部は土地低平にて市街及び耕地發達す。省線小濱線の小濱驛（いま當村地内）に近く、若狹街道は町の中央を東西に過ぎりて附近諸村にバス通ず。また内務省指定港たる小濱港は近傷定期航路ありて汽船の出入多く、主に藁製品を移出し、鮮魚介を移入す。縣立小濱水産學校及び縣立中學校・女學校等あり。當町は酒井侯十二萬石餘の城下、且つ北國航路の寄港地として發達せし地なり。産物として若狹塗・若狹鋼最もよく知らるるも組鹽物・素麺・葛粉等の產また尠なからず。若狹塗は朋愛の新末・製漆等を應用して模樣を作り、彩漆を塗り金箔を押し、透漆をかけて研出せる一種の變り塗なり。此方法は寛治年間に創めしものにて、藩主酒井侯これに若狹塗と命名し家中足輕の内職として保護奬勵を加ふ。よつて天明以降幾多の名工輩出し、明治十六年には最初の海外輸出をも試みられるに至る。今は專ら箸・盆等を出し年產約三十萬圓あり。和名抄に遠敷郡遠敷郷あり、或は當町附近の地を

に江戸末期の国學者・作家・歌人。[illegible]の大[illegible]を[illegible]。[illegible]の[illegible]に本居宣長の[illegible]を[illegible]。[illegible]に十二年[illegible]に[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]の

熊谷市の西南六粁、南は比企郡に昇す。村内一般に稍々高地なるも北に偏ひて低く田畑拓けて米・麥・繭を産す。熊谷市及び西南方比企郡小川町にバス通ずるも交通未だ便ならず。此地は和名抄、大里郡餘戸郷の地なるべく、もと篠場庄に屬す。近世男衾郡に屬せしことあるを以て村内の氷川神社を延喜神名式の男衾郡出雲乃伊波比神社なりといふも日碑の傳ふる所なるにより明かならず。大字小江川はもと老川と稱せし地なり。

【小原山】 山城國愛宕郡八瀬村以北の山村にある山。平家・小原入の事「是より北小原山の奥寂光院と申す所こそ、閑に侍へとぞ申しげる」

【小原】 大分縣東國東郡にありし村。明治二十四年四月本村及び國東町を合併し新に國東町を置く。

オハラ 邑樂郡 ↓邑樂郡

オハラ 麻原 【麻原】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に安房國麻原郷の名あり、手波良と訓す。文字により按ずるに、土地が麻の生長に適せる爲め地名となれるものか。その地今詳ならず。

【麻原】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に高田郡麻原郷の名あり、その訓を闕くも、安房國麻原郷の例によりて、手波良と訓むべし。中世、嚴島神社の神領たり。嚴島社書應　年の文書に神領高田郡麻原郷田五十町と見ゆ。いま高田郡小田村の大字上小原・下小原は郷名の遺稱なるべし。

オバラ 小原 【小原村】 宮城縣磐城國刈田郡の南部。白石町の西南約六粁。東は大平村・齋川村・越河村に、西は七ヶ宿村に、北は福島縣伊具郡に隣り、南より西にかけて福島縣伊具郡に境す。花房山(八一九米)・獅太郎山(八一六米)・萬歳樂山(八九八米)・雨塚山(七〇九米)・鉢森山(五五七米)等の連山村の四圍を圍繞し、西方より來り中部に於て左折して北流する白石川の沿岸に狹長なる低地を見るほか概ね山地を成す。主生業は農にて米・麥を主産し、鮎・葛粉の特産あり。殊に鮎は白石川の鮎として其美味を以て知られ遠く東京方面にまで運び出さる。もと伊達家の家臣小原氏の領地なり。伊達郡境小坂峠は一に兒安峠といひ姥神山上の石を持歸れば安産すといはる。地はいま小原温泉と指定天然記念物村木岩あるを以て名高し。〔小原温泉〕 一に古湯温泉と稱し、舊記によれば永祿中の發見なりと。泉質は黑色透明にて中性微かに硫化水素の臭ひを帶ぶ。神經諸病・婦人病、特に眼病に效ありといふ。地は白石川の清流に臨み、風光よろし。近年また上ノ湯・鎌倉の二温泉新設さる。共に微弱のアルカリ性反應を有し、慢性皮膚病に効あり。〔小原村ノ村木岩〕 指定天然記念物。小原温泉の西八粁、白石川の岸にあり。岩石は青黝色にして石英の斑晶の著しき石英粗面岩にて、三角乃至六角、長さ二米餘の見事な柱狀節理を呈し、高くそそり立ち、延長二千米の間の河岸を形成す。村木岩と河流を隔てて相對する岸に虎岩と稱する奇岩あり。これは粒狀安山岩の風化作用のため變朽せるもの、岩面に褐黝色の斑紋あり虎の皮に似るより此名ありと。此岩の陽梳狀の空隙に、白色の沸石及び石英が晶簇す。沸石は輝沸石多く、小原の泡沸石として鑛物學者の間に知らる。この附近はまた紫水晶の產地として名高く、角礫岩質の石英粗面岩が多少風化されて黄褐となれるものの空隙中に、赭土と相伴つて紫水晶が發見さる。〔小原不動堂〕 本尊は弘法大師一刀三禮の不動尊なり。往昔堂宇火災に罹りて燒失す。然るに本尊のみ飛び去りて火燼を後山の岩窟に避く、故に世人之を飛不動と稱す。文德天皇新願の尊像たり。帝扇御の後、柿ノ本紀僧正羽州從陽郡より携へ來りて村木岩下に安置す。後伊達正宗移封の際、此地に移して新たに一堂を建立す。

【小原町】 神奈川縣相模國津久井郡の北部。八王子市の西方十二粁。西は與瀬町に北は埼玉縣南多摩郡に境す。小佛峠の西麓に位し、南境を桂川東西に流るるも土地高燥なる爲め灌漑の便なく產業見るべきものなし。僅に繭・大豆・甘藷等を出すのみ。南部を省線中央線鐵道を成して往往東西に走り甲州街道之に沿ふ。西隣與瀬町地内の與瀬驛に近く交通稍々便なり。江戸時代甲州街道の一宿驛たりし地。いま與瀬町・千木良村と共に組合町村を成し役場を當町に置く。〔美女谷鑛泉〕 泉質は鹽類鑛泉にしてクロールカリウム・クロールナトリウム・クロールカルシウム・硫酸マグネシウム・硅酸等を含み、療養向なり。この地は照天峯・初代高尾の出生地なりと傳ふ。かつ湧出地の七ツ淵は照天峯の化粧の水と稱す。高尾山に約四粁、小佛峠に二粁二、影信山に三粁三、七ツ淵に三〇〇米にして達することを得。

【小原村】 愛知縣尾張國西加茂郡の東北部。東南は矢作川を隔てて東加茂郡に、北は岐阜縣惠那郡に界す。北部國境に東より西に木曾山脈逶走し、徐々に南に傾斜す。また一脈は東北より矢作川沿岸に迫り中央盆地を形成し、そこに聚落耕地發達す。交通は南方躑躅町にバス通ずるのみにして不便なり。生業は農業にして米・繭・麥を產す。本村は往時小原郷と稱せし地にして、村内に鈴木遠中守重實の支配せし市場城址あり。また大字大草の大草城も鈴木遠中守重實(足助城主鈴木遠後守の弟なり)の支配せしもの。大字仁木に春日井與左衛門の據守せし篠平砦址あり。

オハラキ 邑樂郡 ↓邑樂郡

オハラタニ 小原谷 石川縣河北郡にありし村。明治四十年八月本村及び直江谷村・樂師谷村を廢し新たに三谷村を置く。

オハリ 尾張 大和國の古地名。葛城の別名。卽ち書紀神武紀に「高尾張邑有土蜘蛛、其爲人也身短而手長、與侏儒相類、皇軍結葛網而掩殺之、因改號其邑曰葛城云々」とあり。ここに高尾張と云へるは尾張邑の高丘を稱せしものならんとは先賢已にこれを云へり。綏靖天皇の皇居葛城高丘宮も亦この地にあり。後の和名郷も亦此地を稱せしもの。其地今葛城山脈の東麓南北葛城郡の地に當り吐田郷村の邊は其中心なり。

オバリ 小張村 芦城縣常陸國筑波郡の南部。谷田部町の南に隣る。北部は一般に高きも南部は概ね低平にして田畑拓く。蘇澄村内を南北に走り、これに依り谷田部町にバス通ずるも交通未だ便ならず。主生業は農にして多少の商家あるも僅に村内の需要を充す小店のみにて、農家は養蠶・養豚・養鶏・製茶等を副業とす。此地古く大字小張・谷田は河内郡大山郷に、大字奉社・市野深・新戸は同郡箕輪郷に屬せしが中世總じて田中庄と稱せらる。〔小張城〕 大字小張字城山にあり。其下は卽ち田圃にして舊し池澤の址ならんと。頂上は昔に御殿址と稱し近年まで天神の小祠ありと。天正年中、小田氏の臣只越全久の居城なりしが、同十四年多賀谷重經の攻略するところとなり、後松下重綱此處に居りしも元和二年下野烏山城に遷るに及び城遂に廢すと。

オハリタ 小治田・小墾田 ↓飛鳥(大和國)

オハリベ 意悲 尾張 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に礪波郡意悲郷の名あり、訓を闕くも磐に於比と訓むべし。地は今の西礪波郡五位山村・西五位山村の邊なるべし。

オビ 尾美山・帶山・大悲岳 オビー山とも呼ぶ。赤石山脈南端部の一峯にして、静岡縣小笠郡掛川町の北方約一四粁に位す。小笠郡原泉・原田二村の境界に跨り、標高六六〇米餘。大井川は東方約七粁に蟠々と曲折しつつ南流す。東北方に日光山(八三二米)峙ち、西麓より原野谷の一支發源す。山徑四方より通ず。

オビ 飫肥町 宮崎縣日向國南那珂郡の首邑。郡の略ゝ中央部を占め北と東は北郷村、東南は吾田村、西は酒谷村に隣る。謂ゆる南那珂山塊に屬する小松山(九八九米)西北境界に峙ち、その山脚西境・北界に連延し南東に傾斜、町の大部分は山地にて針・闊葉混淆森林をなす。ただ南東部に低地あり西隣酒谷村より來る酒谷川これを潤し田畑よく拓く。飫肥の市街地この低地の東部に發達し、北は宮崎市、南は油津港、西は都城市方面への交通の中心となり、何れもバスの便あるも油津以外は距離可なり遠く自ら一小天地をなす。農產・林產・畜產・水產・鑛產・工產等の總額多し　本町は南那珂郡の主邑にして伊東氏累代五萬七千石の城下町として發達し、明治三十二年十二月町制を布く。昔ては那役所の所在地となり今税務署・營林署・區裁判所等の官衙及び縣立飫肥高等女學校等を設く。農產・工產多きもまた附近物產の集散地として繁榮す。和名抄に宮崎郡飫肥郷あり。其地は當町始め今の南那珂一郡卽ち舊宮崎郡の地に當る。飫肥は和名抄原本飯肥に作るも今高山寺本に依りて訂す。一に飫肥は飫富と音相通ずるより或は意富臣の居せし地にやといふ。明治十年西南の役には戰場となりし地なり。天正十年九州キリシタン三大名(豐後府内國主大友宗麟・肥後有馬領主有馬晴信・肥前大村領主大村純忠)の特使の正使として往復八箇年の年月を費し萬里波濤を跨えてローマ法王庭に使せし伊東祐益(ドン・マンシオ)は此地に居せし伊東祐兵の甥なり。また海軍少尉にして明治二十七年黄海大海戰の際奮戰名譽の戰死を遂げし伊東祐喜記(贈從五位)も此地の人とす。〔飫肥城〕 大字植原に其址遺る。築城の期は詳かならざるも、戰國の初め既に城郭をなし、島津氏の麾新納忠堯城主としてこれを守り、文明十六年伊東裕國これを攻めて敗死すといふ。のち天文十年伊東義祐の時屢々兵を出して城將島津忠親を攻む。忠親卽ち救を鹿兒島の島津義弘に求むるに及び爾來兩氏相爭ふに至る。のち永祿三年將軍足利義輝、伊東・島津二氏をして和を謀らしめしより同五年忠親城を伊東氏に讓りて去る。然るに翌年伊東氏再び之を攻めて相爭ひ、同十一年に至り再び和して之より伊東氏に歸す。その後また島津氏の有に歸せしが、天正十五年豐臣秀吉九州征伐の砌、伊東祐兵その軍に從ひ其功により五萬七千石を以て此地に封ぜられ、爾來德川氏に至るも變遷なく子孫相傳へて明治維新に至る。明治四年藩を廢し一旦飫肥縣となりしものち都城縣に入る。城址は高丘にありて西南は酒谷川に接し東北は山川の小流を控へ、内城の前後には深溝を環らし城周約二五〇〇米、城域また頗る廣く屈指の堅城たり。〔上城〕 大字植原にあり。飫肥城の西南約五〇〇米、酒谷川を隔てて相對峙す。文明十七年、伊東祐國一萬六千の兵を率ゐ、當時島津氏の居ぜし飫肥城を攻めし際之を築きて本營とすと。其後伊東氏飫肥城を攻むるの際は常に當城に屯ぜしも平時は居ぜざりしと。今その址殆ど畦畑となりしも猶ほ僅に隍壘の跡を存す。〔寺岡氏庭園〕 指定名勝。前所有者木脇氏の累代住居せし所なり。庭園の變遷は不詳なるも寛永四年に存在せしと云ふ。庭園は前半に平地を作り池に見立て後半に築山を設く。池と築山の境に石を組みて池汀を現はし、池汀の中央凹入せる箇所に石橋を架く。建築物と築山及庭門と

を樂石を以て結びまつり、村山本として東秀なるものなり。

オヒヨ　帝江

【帝江】　同山脈東北部にある峯山。東區に屬し、中江村及び牛島町に亘り高・高・高・

時十勝・日高兩國のアイヌ間に此の沼を差挾んで爭鬪あり。双方死者夥しく死屍纍々沼水爲に赤しと今尙古老土人の口碑に遺る。蓋しチョマトーとはアイヌ語にて「惡蟹潜む」の意なりと謂ふ。〔北海道農事試驗場十勝支場〕市の東端を距る約一・八粁の處にあり、十勝・釧路二國の農事試驗業務を管掌す。試驗地約七ヘクタール、模範耕作地約九ヘクタール種圃約五ヘクタールを經營し、病蟲害・雜草・奬蠶に關する試驗、農事の組織經營、耕種、肥培の研究、重要農作物の模範耕作、品種の改良、優良種苗種卵の配布等に營々として努力す。〔イレネー號銅像〕帶廣驛を距る約四〇〇米、十勝會館前の廣場にあり、イレネー號は十勝種馬所繁愛のルゾュロン種、種牡馬にして本道馬產改良上盡したる功績尠からず、昭和三年五月不慮の災厄に罹り斃死するや、馬事關係者有志相謀り永遠に其名聲を傳ふべく建設したるものにして、畜產王國として誠に意義あるものなり。尙市の西部に十勝畜產組合が數萬圓を投じ、競馬場・家畜市場・產馬共進會の綜合的設備をなす。帶廣競馬は春秋二回開催せられ、諸設備の完備せるは全國地方競馬中隨一にして出走頭數の多き事と、全國に冠たる十勝速步馬の登龍門として著名なり。定期家畜市場は年四回開催せられ、出場頭數二千頭を超え、農林省・北海道廳・各府縣の種牡馬候補購買・軍馬・道廳補助餘馬購買等が行はる。〔帶廣競馬場〕驛の西北約一粁半、定期家畜市場隣接地にあり。十勝畜產組合の經營にて、面積約三三ヘクタール、馬場の周圍凡そ一粁六、函館、札幌に劣らぬ大規模のものと云はる。〔伏古舊土人部落〕驛の西北三粁餘、帶廣市伏古にあり、舊土人はこの地を伏古アイヌコタンと云ふ。現在戶數五十三、人口一六六なり。

【帶廣川】北海道十勝川の一支流。上帶廣の日高山脈の一支脈に源を發し、盛に曲流しつつ東北に向ひ、更に東に轉じて帶廣町市街の東にて本流に合ず。流程約四〇粁。

オヒラ　尾平（おひら）

【尾平山】九州山脈、屬する一峯にして、宮崎、大分の縣境なる祖母山と傾山の中間に位す。大分縣大野郡長谷川村と宮崎縣西臼杵郡岩戶村の境界に峙ち、標高一三三四米。西北方は古祖母岳（一六三三米）を經て祖母山（一七五四米）に連り、西方は本谷山（一六四三米）を經て傾山（一六〇五米）に續く。山中には見物岩と稱する岩場あり。西方麓部を尾平越と稱し、北降すれば大分縣（豐後）側長谷川村上畑に至り、南降すれば宮崎縣（日向）側岩戶村岩戶方面に至る。北方針面よりは大野川の一支鳥岳川源流し、南針面よりは五箇瀨川の一支發源す。北麓に尾平鑛山あり、銅・錫を產す。落政の頃近隣なる竹田の城主中川候錫を採掘せしめられしが維新後更に銅を產出するに至る。天正年間に銅・銅等を採掘せりとも傳ふ。この山登路ありて登高を妨ぐ。

【尾平】↓長谷川村（大分縣）

オビラ　小平（おびら）　羽幌線の一驛（昭和二年設置）。北海道天鹽國留萌郡小平蘂村にあり。

オビラ　大平山　北海道長島山脈の一峯にして、內浦灣の西岸なる函館本線長萬部驛の西北方約二四粁に位す。後志支廳島牧郡西島牧村に時ち、標高一一九一米。東南方に長萬部岳（九七二米）聳ゆ。東針面より大平川の一支、西南方より泊川源流し、いづれも西北走して日本海に注ぐ。

オビラウス　——岳　帶良石岳とも書く。オビラウシュベツヌプリなアイヌ語名とし、小平蘂岳とも云ふ。天鹽山脈中央部の一峯にして、北海道留萌支廳留萌郡と空知支廳雨龍郡に跨る。西針面は留萌郡小平蘂村に屬し、西流する小平蘂村の上源地にして、流域は地味豐かにて、中流以下は農作地として開墾せらる。東麓に石狩川支流雨龍川峽流をなして南走し、その流域は大學演習林たり。

オビラウス　帶良臼川（おびらうす）↓小平蘂川

オビラシベ　小平蘂（おびらしべ）

【小平蘂村】北海道天鹽國留萌郡の北部。留萌支廳管內。留萌町の北に隣り、東は雨龍郡幌加內村に、東南は同郡沼田村に、東北は苫前村と界す。域內は天鹽山脈に屬する山嶺迤邐し、東端山地に發する小平蘂川中央を西南に流れ其流域僅に低地ありて耕地拓け、半農半漁の村落にて水產・農產を主產とし、又林產に富む。省線羽幌線海岸に沿ひて通じ小平驛を置き廳道赤之と並行に走り留萌町にバスの便あり。此地はもと留萌町の大字三泊の屬地なりしも明治の末年分離し一村をなし大正八年二級町村制を施行。いま原野一線・小平蘂御料農地・オビラシベ區の三大字より成り役場は原野一線に置く。

【小平蘂川】北海道留萌支廳管內の川。もと帶良臼川といふ。天鹽山脈の西針面、小平蘂御料地に源を發し、始め北流し、次で西南流し、更に西北に轉じて川尻にて日本海に注ぐ。流域の沖積平野は漸次開墾せられ・小麥・米・馬鈴薯等の耕作行はる。流程六〇粁。

オフ　於部（おふ）　日向國（宮崎縣）の古地名。和名抄に那珂郡於部郷の名あり、訓を岡とも淤布と訓むべきものならん。高山寺本には物部に作る。何れが正しきか詳かならず。兩して其の地域不明なるも、今の兒湯郡高鍋町・上江村の邊ならんかといふ。

オフ　於賦・意部（おふ）　下總國（千葉縣）の古地名。和名抄に相馬郡意部郷あり、訓を岡とも於夫と訓むべし。神八井耳命の裔なる多朝臣の族の居りし處か。延喜兵部省式に下總國於賦驛馬十疋、相馬郡傳馬五疋とあるは蓋し此地に置かれしも

のならん。地は今詳ならざるも、東葛飾郡我孫子町・富勢村の邊なるべし。

オフ　飯富（おふ）　山梨縣南巨摩郡にありし村。昭和八年本村は伊沼・八日市場の二村と共に廢せられ原村を置く。

オフイ　——山　オフイ岳とも稱し、オフイヌプリとも云ふ。ウフイヌプリ（ウーイヌプリ）を正しきアイヌ語名とする。千島火山脈の一峰にして、知床半島の東北端知床岬より南方約三粁に位する休火山。東針面は北海道根室支廳目梨郡羅臼村、西針面は網走支廳斜里郡斜里村の境界に跨り、標高六五二米。西南麓は知床岳（一二五四米）に續く。アイヌ語にてウフイとは焼焚の意。この山に義經が狼火をあげて、軍に合圖したりとの傳承あれども、恐らく噴火を意味するものならん。また山麓に大蛇の形をなせる巨岩ありて、拂慶が踏潰して石に化せるものと云へど信じ難し、熔岩流の凝固せるものか。

オフイ　雄冬（おふい）

【雄冬岳・雄冬嶺】那須火山脈北方部の一峰にして、北海道西岸日本海に近く位す。北海道留萌支廳增毛郡增毛町と、石狩支廳濱益郡濱益村に跨り、標高一一九八米。眺奥七險要の一と稱せられたり。東南麓に濱益御殿（一〇三九米）・濱益岳（一二五八米）・群別岳（一三七六米）聳え、群別岳より東北方に山麓派出し暑寒別岳（一四九一米）等起る。暑寒別岳との中間に暑寒別川發して東北流す。西麓は低夷して直に日本海に臨み、雄冬岬をなす。この岬に斷崖をなし、舟を近づけず。山頂部を增毛山道縱斷し、東北方路は北方丘陵を經ひて、北岸別苅に達し、ついで海岸沿ひに行けば增毛町に至る。又西南方路は先づ濱益御殿まで尾根を傳ひ、これより西南に降りて西岸峽に着し、ついで海岸沿ひに南下すれば濱益村の中心部に至る。

【雄冬山道】石狩支廳の濱益と留廳支廳の增毛を結ぶ一街道。同じく兩地を結ぶ增毛山道が全部尾根を經ひて雄冬山（一九八米）・濱益御殿（一〇三九米）の高地を通ずるに對し、雄冬山道は海部落にて前者と分れ、沿岸を走りて雄冬岬に出で、赤石部落より東の溪谷に入り、武好橋にて再び增毛山道に合ず。しかし、冬季の交通殆ど不能なると、夏季と雖も迂曲高低甚しく、歩行困難なることにより現在は殆ど廢道に近し。

【雄冬岬】石狩・留萌の兩支廳界の日本海に臨る處にある一岬角、雄冬山の支脈は海に及び、海崖に終り、沿海は波浪高して舟楫の難所なり。

オフイトマリ　雄吠泊（おふいとまり）　樺太留加多郡深海村の部落。大泊町の東約四粁の海岸にあり。初泊・肚伊部・於布伊（雄冬）泊等とも書く。この附近の海岸は四五十米の海崖を形成するも、部落の前面にのみ小入江を控ゆるを以て漁船の錨地に適す。

オフク　大福（おふく）　長門國（山口縣）の古地名。延喜式に意福驛馬三疋とあるは即ち此地にて、中世は莊名に呼ばれ、文明十三年の文書に出づ。地は凡そ今の美祢郡於福村に當る。

オフク　於福村（おふく）　山口縣長門國美祢郡の西北隅。別府村の西に隣り、南は大嶽村に、北は大津郡深川町に接し、西は豐浦郡西市町と界す。本村はカルスト地形を以て知られし秋吉臺の一部に當り、西部に鷹巣山（五八〇米）の山地續き、中部南北に狹長なる低地あり、田畑拓くも土壤石灰質に富み又鹽分を多量に含むを以て昔に金焼の患と稱する特異なる現象を來し、鹽分を含む肥料を用ひて之を防ぐ。米・麻を主產しまた複山岩磯ありて石炭を採掘す。省線美祢線通じ於福驛（大正九年設置）を置き、伊佐町より大津郡深川町に至る縣道中部低地を南北に通じ赤之より共和村に至る縣道分岐して各々バスの便あり。此地は和名抄、美祢郡美禰郷の地なるべく、延喜兵部省式、驛馬三疋とあるは此地に當り即ち山陰道の別道通ぜしなり。また三代實錄貞觀十五年十二月十五日の條に「授二長門國從五位下忌宮神從五位上。正六位上武智石打神神。竟久神。土地神。」と見ゆる竟久神は此地にありしものか。〔複山鑛山〕本村及び大嶽村に亘る炭礦。粉炭・粗炭・塊炭混花し我が國に於ける唯重要鑛山の一。昭和十年に於ける鑛產額約一萬瓩、使用鑛夫數二八人。〔西八幡宮〕大字於福下宇宮ノ前に鎭座。郷社。應神天皇・神功皇后・田心姫命・瀧津姫命・市杵島姫命。創立年代詳かならざるも、石清水八幡宮を勸請せる古社にて、領主志道氏の崇敬篤く、社殿の造營・社參・寄進等のことありき。もと春秋二回例祭を執行す。南方才之本に神輿の渡御があり、遠近の男女結婚の時必ず參拜して之を奉告せざれば儀式を擧げずと云ふ。例祭、自八月廿四日至同月廿六日。

オフケ　小向（おふけ）↓朝日村（三重縣）

オフサ　小總（おふさ）　相模國（神奈川縣）の古地名。延喜式に小總驛馬十二疋、足柄上郡傳馬五疋とあるは之なり。和名抄、足上郡驛家郷とあるも之なり。地は今詳ならず。恐らくは後の酒匂驛邊に當るか。酒匂驛は今の足柄下郡酒匂村の地とす。

オフスマ　男衾（おふすま）郡　武藏國（埼玉縣）の古郡名。建郡の期詳ならざるも、日本後紀弘仁四年の條に男衾郡の名見ゆ。延喜式男衾郡あり、和名抄に乎夫須萬と訓じ、榎津・鴛倉・郡家・多賀・川原・幡ヶ・大山・中村の八郷あり。東鑑は小衾に作る。中世男衾氏と云へるは本郡名を負へるものにて、春日氏の裔、小野氏の族猪俣氏より出づ。のち何れの頃か郡の大部分は比企郡に入り、明治二十九年殘部の男衾郡を廢し、大里郡に合併す、而して今の大里郡男衾村は郡名の

遺稿とす。

オフスマ　男衾村　埼玉縣武藏國大里郡の西南部。荒川の右岸に沿ひ寄居町の東約三粁、南は比企郡に界す。地形南北に短く東西に長し。北部一帶は荒川に臨みて低平、地勢南に高く、水田桑園發達するも南部は丘陵起伏連亘し屏風を立てたる如し。主生業は農業にして米・繭・麥の產多し。社樣東武鐵道東上線南方より來り寄居町方面に通じ男衾驛（大正十四年設置）を置く。此地は和名抄、男衾郡中村郷の地にして近世高見郷と稱せし地。延德元年、上杉修理大夫定正と山內民部大輔顯定の戰ひし高見原合戰の地なり。大字赤濱には中世塚田宿と稱する一部落あり、中世の宿驛たりしこと傳門物語に見ゆ。また此處の郷社出雲伊波比神社は延喜神名式の男衾郡出雲乃伊波比神社なりと稱せらる。大字今市には上州（群馬縣）より兒玉郡の兒玉町を經て大里郡用土村に出で川越市及び比企郡松山町に通ずる路頭に當り、その道を俗に鎌倉街道と稱せりと。同市の北部に首塚あり、高見原の合戰に討死せし人々の體を埋めし所なるべし。（出雲乃伊波比神社）"大字赤濱に鎭座。郷社。祭神、須佐之男命・譽田別尊・天兒屋根尊・天太玉命・三穗津姬命（合祀）。創立年代詳かならざるも當社は延喜式神明帳所載の當國四十四座の一なる出雲伊波比神社なるべし。もと八幡社・八幡春日とも稱せり。往時は當村の丑の方にありしが、屢々水害を被るを以て、天正年中現地に奉遷す。舊跡今なほ宇宮ノ前に存す。例祭、九月十五日。

オフセ　小伏　越後國（新潟縣）の古地名。和名抄に蒲原郡小伏郷あり、而して調を岡くも乎布世と讀むべきものならん。その地今詳ならず。西蒲原郡峰岡村の大字に伏部の名あり。地名やや似たるを以てこの地ならんと云ふも遽に斷じ難し。

オフセ　越太　佐渡國（新潟縣）の古地名。和名抄に羽茂郡越太郷の名あり。而して調を岡く。一說に越太の太は伏の誤りにて、いま佐渡郡西三川村大字西三川に郷社小布勢神社あれば其の遺たらんといふ。又、太は木の誤りにて小木町は郷名の遺稱ならんとも云ひ、詳ならず。後考を俟つ。

オフセ　小布施村　長野縣信濃國上高井郡の西北隅。千曲川に沿ひ下高井郡中野町と須坂町との間に位す。西北は上水內郡に、北は下高井郡に境す。全村土地低平にて水田・桑園發達す。社樣長野縣誌の小布施驛（大正十四年設置）あり、また谷街道村の東部をほゞ南北に走り中野町及び須坂町にバス通ず。此地は和名抄、水內郡大島郷及び日野郷の內なるべく、町村制施行の際、小布施・福原・大島・飯田・山王島・山岡・押羽の假七箇村を併合し小布施村と稱す。村名の起原に就ては弘法大師が此地に御巡錫の際、布施として粟を差し上げたるより小布施村と名づけしといひ、或は奈良朝時代に置かれし布施屋此地にありしより小布施の名生ぜりと傳ふ。村內に大江晉人の後裔、堅石定勝の裔なりと稱せられる郷原直衛の居りし郷原城址あり。また本村は尊王攘夷の國士にして且つ陽明學者たる、高井鴻山（贈從五位）の出身地たり。〔建御神社〕大字小布施字上原に鎭座。郷社。祭神、健御名方命・前八坂刀賣命。創立年代を詳かにせざるも地方の古社にして、近村の產土神たり。社號アフセは地名オフセより出でたるか。例祭、七月廿五日。

オブタテシケ　——山脈　千島火山脈十勝連峯の一支脈にして、北海道上川支廳上川郡美瑛村と十勝支廳上川郡新得町に跨る。十勝岳（二〇七七米）の東北方美瑛岳（二〇五二米）より美瑛富士（一八八一米）・遺別岳（一八五八米）を經てオブタテシケ山（二〇一二米）に至る連嶺。更に東北方は大雪山彙に續く。西北斜面より美瑛川本支流發し、東南斜面より十勝川本支流源流す。十勝岳・大雪山方面より縱走して至る。春季にサマー・スキーにて登山するを最も容易とす。曾て硫黃を多量に產出したるも、一九二六年十勝岳大爆發の惱探損は一時中止せられたり。いま大雪山國立公園の一部をなす。〔オブタテシケ山〕原にオブタテシケとも稱す。千島火山脈十勝連峯の一支脈、オブタテシケ山脈の東北部に位す。上川支廳上川郡美瑛村と十勝支廳上川郡新得町に跨る。標高二〇一二米。西南の十勝岳（二〇七七米）東北の大雪山彙の中間に位す。南側より十勝川の上支東南流す。十勝岳乃至大雪山方面より縱走して至る。いま大雪山國立公園の一部をなす。

オフチ　小淵　【小淵】→幸松村（埼玉縣北葛飾郡）

【小淵村】　神奈川縣相模國津久井郡の西北部。西は山梨縣北都留郡上野原町に接す。村內殆んど山地にして南部を桂川東流するも沿岸急崖を成し運搬の便なく產業見るべきものなし。今僅に繭・麥・甘藷等を產するのみ。省線中央線南部を隧道を成して東西に走り、甲州街道またこれに沿ふも、交通の便未だよろしからず。北條役帳「奥三保十七村、田一向無之、何も山畠也、千來良・與瀨・吉野・澤井・佐野川・小淵・日連・那倉・牧野・青根・鳥屋・青山・若柳・三加木・中・長竹・大井等なり」とあり奥三保と稱せられし地にて、いま吉野町・澤井村と共に組合町村をなし役場を吉野町に置く。

オフチ　尾駮　→六ヶ所村（青森縣）

オフナグラ　御舟藏　江戸時代、深川新大橋と兩國橋との中間の河畔、卽ち幕府の船藏のありし地の稱。今の深川御舟藏前町の邊。にやんの事だ「いわん方なき風景の樣をならべし御舟藏きわに」

オフミ　雄踏（鵜踏）町　静岡縣遠江國濱名郡の中部。濱松市の西方約八粁、濱名湖の東南岸に沿ひ、南は灘を隔てて篠原村・舞坂町に對す。東部北部には丘陵あるも大部分は低平にして田畑廣し。大字宇布見より對岸舞坂に橋を架し濱松市にもバスを通ず。產物は米・繭・生糸・醬酒等を主とし水產・畜產も發達せり、棄部は低地に宇布見あり、丘陵條邊に山崎ありて、宇布見は南店街をなせり、此地は和名抄、敷智郡雄踏郷に當る。宇布見は古く篠津町に渡る濱名湖東岸の渡船場にて鵜踏渡として知らる。富士歷覽記に篠津本興寺を出で鵜踏の渡をし渡らんとて舟待程の左の方にいなさ細江を見やりて「いつくにか引佐細江の渡守我身をつくし待と知らすや」引馬の宿につく云云とあり。

オベ　小家　筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄に生葉郡小家郷あり。調を缺くも手信と調むべきものならん。武內宿禰の男葛城襲津彦命の後なる小家連の族の居りし處なるか。中世は小家庄に作り、宇佐神宮の神封たり。地は今の浮羽郡江南村・千年村・吉井町の邊に當るものの如し。

オベ　麻部　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に益城郡麻部郷の名あり、調を岡くも乎美部にて、麻績部より起れるものか。地いま詳ならず。

オベ　雄家　摂津國（兵庫縣）の古地名。和名抄に河邊郡雄家郷あり、手信と調ず。古へ武內宿禰の男葛城襲津彦命の後なる小家連の居りし處か。延喜式に河邊郡小戸神社あり。いま川邊郡川西町の大字に小戸の名存し、小戸天神あり、蓋し此の邊が雄家郷の地に當るものか。中世は荘名にも呼ばれ、小部荘に作る。

オベツコーシ　生剛　北海道十勝郡十勝支廳管內にあり。明治四十五年四月本村を浦幌村と改稱す。

オホーツク　——海　Sea of Okhotsk　カムチャツカ・樺太・千島に圍まれし海。外洋とは一箇所を除く外は五〇〇米以下の水道にて分る。千島列島に近き部分は三〇〇〇米以上（最深三三七四米）あるも、榮濱・輕茶島を結ぶ線より北は一五〇〇米以下にて北に行く程一層淺し。表面水溫は夏季は高溫なるも下に行くに從ひ激減し、一〇〇米では最低溫度零度となり、これ以下は增加し九〇〇米にては二度位となる。鹽分は表面は淡く約三・二%、二〇〇米にては三・三%、六〇〇米以下は三・四%。海流の著しきものはオホーツク海流にて大體吹送流をなし、個北風のため南し、樺太島のために二分され、その一流東樺太海流は四五度附近まで南下す。冷水の一部は千島列島の間より親潮に合して南流す。北海道東北部に發生する濃霧は、この冷水と比較交的高溫なる空氣の溫度の差によりて發生す。夏—秋にかけて對馬海流の一部宗谷海峽より浸入し四五度附近まで達す。その北千島寄りの一部分の外は結氷す。南千島方面は一月より四月迄結氷するも、シベリア寄りの方面にては一年の半以上氷殼に閉され、この處にては一・五米の厚さに及ぶ。こゝにて生ぜし氷は春季北海道の南部に流出して流氷となる。オホーツク海方面は冷水性漁獲物に富みサケ・マス・タラ・ヨコバカニ等が捕獲される。鮭鱒族魚類又は鯨場蟹はシベリアの沿岸部に於て定置漁具で捕獲され、我國は蘇聯との間に漁業條約を結び漁類の捕獲採取、加工の權利を有す。之等漁業は我國では主として日魯漁業會社の經營に委され、漁業條約改訂を續つて蘇聯との間に外交問題を惹起しつつあり、公海にては母船式の蟹並に鮭鱒漁業、鯨の一本釣漁業・千島の鮭鱒流網漁業が行はれるも、時々不法取締問題に關し蘇聯との間に紛爭を生ずることあり。これらの漁業のため、夏季には我東北地方より漁民の出稼が行はる。しかし沿海漁業は蟹獲の結果近年衰退の傾向にあり。

オホコ　雄鉾岳　渡島山脈西北部の一峯。北海道檜山支廳爾志郡熊石村と渡島支廳山越郡八雲村の境界に跨り、標高九九九米。東北麓は岩子岳（八〇二米）・遊樂部岳（一二七六米）に連り、東南麓は元小屋澤山（九六九米）・神羅山（九五二米）・突符山（八五〇米）に續く。東北方に三角山（七四一米）峙ち、中間に鉛川發して東北流し、八雲町中心部附近にて內浦灣に注ぐ、この水源地近くに鉛川溫泉湧く。西方は西南流する見市川の一支、南方は西南流する冷水川の上源地たり。東北麓に銅・鉛の產あり。

オホトマリ　大穗泊　樺太敷岡郡廣地村の大字。西海岸線の大穗泊驛（大正九年設置）を置く。

オホナイ　生保內　【生保內村】秋田縣羽後國仙北郡の東部。東は奥羽山脈の笂森山（一五四一米）・横岳（一二〇五米）・五番森（一〇四八米）・モツコ岳（一二七八米）等の高山に依りて岩手縣と境し、西は田澤湖に面す。玉川村の西部を南北に流れ、其支流先達川北部村境を東より西に流れて本流に合しまた生保內川はモツコ岳の西麓に發源して北流し、左折して西流し玉川に合す。村內嵌ね山地を成したゞ玉川と生保內川の合流點附近に平地を見る。主生業は農にして米を產し、木炭・馬・繭を出す。また筍・國鱒を特產す。また銅鑛を產し鬼鐵山の一部を成す。省線生保內線通じて刺巻・生保內（共に大正十二年設置）の二驛を置く。また縣道は西南方角館町方面より生保內線に沿ひて通じ、村の中部に於て、一は西北方に一は東方岩手縣に走る。此地は盛岡への山道に當り倍に生保內口とも稱し、明治戊辰の役の際は戰場

の南端石宮（石室）等と和銅七年の刻口を刻す。南麓の二五五米。峰は高千米約三五米、南・東麓南に金屋名なし、西麓に宮原・下に約四〇の高原高く高行金屋（四日市・鈴鹿）の金屋あり。

オマエダ 小前田 ←花田村（鈴鹿）

オマキ 尾間木村 ←岩手郡・盛岡市の東南部。岩手郡の東南・大巻村・小村・村の西に接す。面積約六・六方粁の小村なれども土地は概に平坦にて、西手に高地、東手に東手にて日当多し。米・麦・蕎麦の産多く、家畜飼にして馬を出す。盛岡・東南・南・北・小笠原の四方に通じ、西は滝沢村へ、東は行方を谷藤で隣り、南は滝沢村に接す。戸数約一〇〇、人口約五〇〇。〔沿革〕大字大巻にあり。天台宗。大字中尾の古称字米。昔了山寺開祖記と称す。〔神社〕大字大巻にあり。大字中尾の古称字米。昔了山寺開祖記と称す。

オマキ 尾間木村 ←岩手郡・盛岡市の東南部。岩手郡の東南・大巻村・小村・村の西に接す。面積約六・六方粁の小村なれども土地は概に平坦にて、西手に高地、東手に東手にて日当多し。米・麦・蕎麦の産多く、家畜飼にして馬を出す。盛岡・東南・南・北・小笠原の四方に通じ、西は滝沢村へ、東は行方を谷藤で隣り、南は滝沢村に接す。戸数約一〇〇、人口約五〇〇。〔沿革〕大字大巻にあり。天台宗。大字中尾の古称字米。昔了山寺開祖記と称す。

オマタ 小俣田 ←花田村（鈴鹿）

オマタ 尾間木村 ←岩手郡・盛岡市の東南部。岩手郡の東南・大巻村・小村・村の西に接す。面積約六・六方粁の小村なれども土地は概に平坦にて、西手に高地、東手に東手にて日当多し。米・麦・蕎麦の産多く、家畜飼にして馬を出す。盛岡・東南・南・北・小笠原の四方に通じ、西は滝沢村へ、東は行方を谷藤で隣り、南は滝沢村に接す。戸数約一〇〇、人口約五〇〇。〔沿革〕大字大巻にあり。天台宗。大字中尾の古称字米。昔了山寺開祖記と称す。

オボナイ 遠俣内村 ←（岩手・秋田藩領）の古名。

オボロ 朧山 ←岩手郡・盛岡市の東南部。岩手郡の東南・大巻村・小村・村の西に接す。面積約六・六方粁の小村なれども土地は概に平坦にて、西手に高地、東手に東手にて日当多し。米・麦・蕎麦の産多く、家畜飼にして馬を出す。盛岡・東南・南・北・小笠原の四方に通じ、西は滝沢村へ、東は行方を谷藤で隣り、南は滝沢村に接す。戸数約一〇〇、人口約五〇〇。〔沿革〕大字大巻にあり。天台宗。大字中尾の古称字米。昔了山寺開祖記と称す。

オボロ 大槌・尾槌 ←「大槌川・尾槌川」岩手郡盛岡市南部の山地。

オマエ 御前 ←

【御前崎】 →御前崎

【御前浜】 →御前浜

【御前原】 →御前原

【御前崎】 →御前崎

【御前崎】 →御前崎

【御前崎】 →御前崎

墓地に完全保存せられ之を外郭として現今墓に改葬せられ居れり、文政四年三月中尚に成る墓碑に「今より凡そ五百年前、利根川の流れ、今の如く、此地に流れ来り、小見川の名、今日に至る迄、変ずる事なし」と。

オヅアイダ 小見合田 おみあいだ 千葉郡

日本紀に「神武天皇、東征の時、利根川を渡り給ふ。今の合田の渡、是なり」と。

オヅ——ナセ 大水無瀬島 山口縣熊毛郡

約壱の周囲を有する海上の小島。室町時代の西方約三浬に存ず。北に小水無瀬島あり。海岸は、いと大利根の風波著たり。

オヅカワ 小見川 おみがわ 千葉郡下総国香取郡の郡名。利根川の右岸に在り。

西部に於ては、明治維新の頃、本村は今村と共に、平田藩の藩士、本多氏の領地にして、本田新田、今村、平田、小見川、横須賀、新宿、新田、中島、小見川、横須賀、新宿、新田、中島、小見川、横須賀、新宿、新田、中島

仁和四年八月落成供養ありて、大内山仁和寺の勅號を賜ふ。後天皇御落飾あり法皇とならせ給ふや延喜元年十二月に、御閑室を此處に建てて隠栖し給ふに及び、世に御室と稱す。法皇の隠栖し給へる故に、尊稱して御室と申せしものならん。今本寺附近の地名となれり。仁和寺は爾後法親王が相承ぎて御座住あらせられ繼新の際の純仁法親王に至る。純仁法親王は即ち後の小松宮彰仁親王（維新當時は仁和寺宮嘉彰親王）なり。往時は寺運盛大なりしも、應仁文明の際に兵火にかかり堂宇悉く烏有に歸ぜり。後、寛永年間に至り徳川氏の手によりて再興され、その金堂は御所の紫宸殿（豐臣秀吉寄獻）を拜受移建せしもの、今國寶に列ぜらる。この地は古來嵐山と對稱せる櫻の名所にして「御室は花の下に觀る」と稱し、花時には濃艶な八重咲の櫻の間に床几を設べてこれを觀賞ぜり。〔紫金臺寺〕仁和寺の境内にありし子院。のち焼失してその跡無し。仁和寺諸堂記「紫金臺寺。此御堂初者、被立西山物集庄、其後被渡此寺内境、畢、依當院御建立、五宮有紫金臺寺御號」

オメシ　御飯岳　那須火山脈白根火山群の一峯にして、主峯たる白根山（二一六二米）の西南稜約八粁に位す。群馬縣吾妻郡嬬恋村と、長野縣上高井郡高井村の境界に跨る。標高二一六〇米にして郡石安山岩より構成せらる。東北稜は黒湯山（二〇〇七米）・萬座山（一九九四米）等を經て白根山に連り、西南稜には土鍋山（一九九米）・浦倉山（二〇九一米）・四阿山（二三三三米）連嶺をなす。東麓より吾妻川上支の萬座川發して東南流し、川を隔てて本白根山（三一七六米）に對し、東北方より信濃川上支の松川發して西北流し、川の右岸に七味鑛泉湧く。萬座山の南斜面には萬座温泉あり。

オメヌ　小目野　播磨風土記賀毛郡の古地名。穂積里の本名。和名抄の賀茂郡穂積郷の中にして今兵庫縣加東郡加茂村の大字に穂積の名存す。地は加古川の左岸の平地を占む。蓋し小目野は此邊を稱せしものならん。播磨風土記「有號小目野者品太天皇巡行之時、宿於此野……爾時宣云、天體滋〻見無小目哉。故曰號小目野」

オモイ　思　東浮穴山（愛媛縣）の別名。

【思山】　栃木縣上都賀・下都賀郡の水を集めて渡良瀬川に入る川。上都賀郡西部山地より發する流水は集められて小倉川・黒川となり壬生町の南に於て合して思川と稱し、南流して左岸に巴川を受け西南に流れて更に巴波川を入れ、古河町の西方に於て渡良瀬川に合す。

【思川】　江戸の一名所。隅田川の右岸今浅草區の橋場邊の隅田川に臨く一小溝を稱せしものなるべし。地形の變遷により今確に定め難し。岡國藩記「うき嵐の道に流るる思川涙の袖や水のみなかみ」

【思川】　筑前國（福岡縣）の歌枕。今の筑紫郡太宰府町の北に發源し南流して太宰府神社と觀世音寺との間を流れ、水城村の大字通古賀に至り北西に折れ福岡市に向ふ。一に染川・逢初川・宇留志川（染川を漆に誤り、宇留志川と稱するに至りしと）思初川とも稱す。新勅撰・一「思河いはまによとむ水くきをかき流すにも袖はぬれけり　皇嘉門院別當」續御撰集「山ふきの花にぞかるるおもひ川いろのちしほは下にもえつつ　定家」續古今集「おほひ河いかなるころの五月雨にぜかても水のふちとなるらむ　少將」

オモイ　重茂村　岩手縣陸中國下閉伊郡の東南部。宮古町の東南に位置し太平洋に突出せる閉伊崎の大部分を占む。東端の鍬崎は東經一四二度二分、北緯三九度三三分にして本洲の最東端をなす。現在燈臺が設けられて、冬季暴風雨多き三陸沿岸の航行に便益を與ふ。白色八角形鐵造閃白光毎三十秒一閃光、紅光副燈、光達距離二〇・五海里、明治三十五年の初點とす。閉伊崎は北方に突出して宮古灣を限り自然の防波堤をなし三陸沿岸主要の漁港宮古港を形成す。西は津軽石、磯鶏、登間根の三村に接し南は大澤村に臨みて面積約七五・五方粁。東岸は絶壁をなし所謂三陸沿岸の特徴たる海岸性を示す。交通は不便にして省線山田線の開通も此の地には直接の恩惠なく、僅に小船に依りて宮古及び山田との連絡あるに過ぎず。主生業を漁業とし、外に麦・稗・米の產あるも其額見るべきものなし。當地方にもと蝦夷の巣窟にして各部落とも石器・土器等の遺物が發見せられる。重茂（オモヘ〜オモエ）骨部（オトヒ）等の地名は、皆アイヌ語の轉訛を物語る。字幣ノ崎の黒崎神社の建立が承久二年なれば約七百年前既に部落の發達せし事を知るべし。その後南部氏の所領となり、明治維新に至る。村は重茂・骨部の二大字よりなり、重茂に役場を置く。重茂に重茂館址と傳ふるものあり、中世閉伊十郎源行光の後裔佐々木某これに居り、因りて重茂を氏とす、後子孫重茂與十郎義氏南部信直の時、領地に依りて重茂村にて八十石を賜ふ。この後裔明治の初年重茂直見と云ひ、是れより分れたるもの八家ありしといふ。

オモイガワ　思川　省線兩毛線の一驛（明治四十四年設置）。栃木縣下都賀郡豊田村にあり。

オモカゲ　面影・俤

【俤橋・面影橋】　秋田縣秋田市外、草生津川に架する橋。西岸は昔は刑場なりき。

【俤橋・面影橋】　東京市淀橋區戸塚町にある小橋。始めすがたみの橋といふ。永應年中同東用水のため創れる川に架す。附會の傳説多し。或は業平東下りの際、この橋にて歌を詠むといひ、或は明應の頃この里に住む和田羅負佐守祐の娘於戸

姫が美貌の雪に顔に洗ひ、歌を賛して此處に身を投ぐと傳ふ。然れども江戸名所圖會によれば此橋を面影の橋と稱するは誤なりといふ。江戸名所圖會「同じ北の方上水川に架す、長十二間餘あり、昔は板橋なりしが近頃は土橋となれり。此橋を面影の橋と思ふは誤りなり、」と見ゆ。

【面影村】　鳥取縣因幡國岩美郡の西部。鳥取市の西南に隣り、東は宇倍野村に、南は津ノ井・米里兩村と界す。中央に低き丘陵蟠り、その周圍は低地にして鳥取平野の一部に當り、米・麻を主產す。省線山陰本線の鳥取驛に近く、また若櫻街道南北に通じ鳥取市にバスの便あり。集落は丘陵の麓に沿うて、發達するを見るは集落と地下水との關係によるものの如し。此地は津ノ井村と共に和名抄、法美郡津井郷の内。村名の起源は本村中央の丘陵なりと面影山と稱せしに因むといふ。面影山は一に正蓮寺山ともいひ歌の名所として知らる。正蓮寺は山號を面影山にありしといふも其址未詳、大字正蓮寺はその遺稱なるべし。天禄二〇「いなはよと問ばましものを懇恐ひわすられかたきおもかけのやま　祐挙」同「わかせこが俤やまのさかさまにわれのみこひてあはぬねたしも　坂上郎女」

【面影山・俤山】　↓面影村

オモカタ　面潟村　秋田縣羽後國南秋田郡の北部。東は内川村・五城目町に南は大川村・一日市町に隣り、北は山本郡に境し、西は八郎潟に面す。東北部は丘陵起伏するも西南に平地開く、但し西部八郎潟沿岸は地低濕に逆ぎ沼田あり。主生業は農にして米を多產し、また藺工品（畳）の特產あり。八郎潟に沿ひて奥羽本線及び羽州街道南北に走り、前者の一日市驛に近く交通不便ならず。此地古くは和名抄秋田郡率浦郷の内に屬せしものか。村名面潟は八郎潟に面するとの義なり。明治十四年東賀北巡の砲御駐輦あらせられ、小丘に登りて御展望あらせられると、これよりこの丘を南面岡と命名し碑を建つ。村の西北部に三倉岬あり。八郎潟眺望第一の勝地なりといふ。また村内に三浦兵庫守の城址あり。また此地は龍文土器出土の遺蹟多く、殊に大字貝坂・浦大町・小泡等にあるは顯著なり。〔副川神社〕大字浦大町にあり。郷社。祭神、豊受毘賣神・素盞嗚尊・或ひは澤比賣神・天忍日命等の説がある。社地は三倉鼻高岳山上にあつて展望に富む。本社を以て延喜式内社に擬せらる。もと高嶽神社とも稱す。江戸時代には秋田藩主佐竹氏の崇敬を受け、社殿の造營・社領の寄進等のことあり。例祭、陰暦六月一日、八月五日。

オモカワ　面川　↓門田村（福島縣北會津郡）

オモゴー　面河

【面河村】　愛媛縣伊豫國上浮穴郡の東北隅。久萬町の東方約九粁。西は川瀬村に、南は仕七川村に隣り、北は周桑郡樣樹村・千足山村に、西北は新居郡大保木村及び高知縣土佐郡本川村に接し、東は高知縣香川郡富岡村・池川村と界す。東北境に四國山脈の主峰石鎚山（一九二一米）聳えその山嶺西に延びて二ノ森（一九三〇米）・堂ヶ森（一六九〇米）・青滝（一三〇四米）となり、東境には筒上山（一八五九米）及び約一五〇〇米の山嶺南北に連亘し、面河川・石鎚山の一峯西河山（一五三二米）の南斜面に發源し山地を深く刻みて西南に流れ、その間渓谷美を以て著名なる面河渓を作る。耕地は渓流沿ひに拓け米・麥・麻を產し斜面には三極・楮を作る。街道また各渓流に沿うて通じ久萬町にバスの便あり、夏季石鎚登山の裏登山口となりまた面河渓探勝のため交通路發達せしも未だ便なりと云へず。本村は平家及び落武者に關する傳説あるも詳かならず。明治九年横川村を面河山に因み現村名に改稱す。

【面河山】　オモゴ山とも呼ぶ。四國山脈石鎚山塊に屬し、主峯石鎚山の南嶺たり愛媛縣上浮穴郡面河村に聳え、標高一五三二米。西北方は周桑郡の境界に近く、境界上東方より西方にかけ、石鎚山（一九二一米）・二ノ森（一九三〇米）・堂ヶ森（一六九〇米）連聳し、東南方高知縣土佐・吾川二郡境上には東方より南方にかけ、黒岩山（一　四六米）・筒上山（一八五九米）等峙ち、西南方に五代ヶ森（一七〇七米）到達す。東斜面に西南流より面河渓の上源地たり。時により石鎚山を面河山と稱することあれども、區別すべきものとす。

【面河川】　オモゴ川とも呼ぶ。愛媛縣上浮穴郡を流るる川。四國山脈の主峯石鎚山の南面河山（一五三二米）に發して面河村を西南に流れ、渓谷美を以て知られたる面河渓を作り、土佐街道に沿ふ地點にて東流し来る露峯川と合して南東に流れ、北方より無數の支谷を容れて水勢を加へ、柳谷村にて黒川を入れ更に流路を東に轉じ國境を出て高知縣に入り仁淀川となる。流程約五〇粁。

【面河渓】　指定名勝。オモゴ渓とも呼ぶ愛媛縣上浮穴郡にある渓谷。四國山脈の主峯石鎚山の南麓に發する仁淀川の上流面河川の渓谷にして面河村の大字大味川にあり。兩岸は壓搬にして粗き節理を持つ完昌質に近き灰白色の石英粗面岩より成り、渓谷到る處に斷崖削立し奇岩峰も岩石の凡ゆる変態を有する岩石美に富む。殊にその一帶の山地は千古斧鉞を入れず原始林に近きひのき・つが・もみ・こうやまき・かへで・ぶな・けやき等の針闊混生の大森林鬱蒼として天に聳え林相の美を呈し、その間を縫ふ渓流はあくまで澄み、激しては急瀧瀑布となり淀みては深潭碧潤となりてそれ等互ひに交錯し景觀の變化妙を極め近年新らしく探勝され峡谷美たり。その中景勝の尤なる

のは關門・龜腹・兜岩・鎧岩等の絶壁と御來光瀑・霧迫瀑・熊潭・紅葉潭等にして、激流は水煙を揚げ兩岸老樹の間に石鎚・筒城・手筥の連峰の隱見するを見、幽邃の深谷、春は花、夏は綠、秋は紅葉冬は雪四季々趣を變へ、特に新綠及び紅葉の頃探勝客最も多し。今自動車の便は宇栃原まで延び栃原より約八粁にして溪谷最初の景勝關門に至る。關門は兩岸の絶壁約七〇米、地盤は結晶片岩にてその上層な第三紀層重なり、之な火山岩貫きて噴出し、石英粗面岩は板狀節理をなし、關門中の見つけの瀧は、結晶片岩と火山岩との接觸線に生ぜしもの。この關門に架する橋な渡り左岸に沿ひ鉢卷岩な河中に見下して登れば鍬龕石川の面河川に流入する想思溪に至る。關門より約一粁にして五色河原・龜腹の勝に達す。五色河原の名は此邊の兩岸稍々開け、流れ緩く岩は白く、水は碧く、苔は黑く、藻は綠に紅楓赤くこれ等互に映じ得も云へぬ景な綴出すに因むといふ。龜腹は高さ約一〇〇米幅約二〇〇米の大斷崖な呈しその雄大なる奇觀恰も龜腹に似たるにより此名ありと。龜腹よりは本流探勝と鍬龕石川探勝の二途に分る。龜腹の下手より本流な横切り鍬龕石川な越ゆる所に屹立せるパノラマ臺の高丘あり。この近くに種ケ島の短銃型に似たる、灰白色の石英粗面岩の板狀節理の破片より成る鍬龕石あり、これよりこの川の名起り、この溪谷中に紅葉潭・鏡の底・紅葉石・御月岩・兜岩・鎧岩・布引瀧・閻魔潭等の奇勝約二粁の間に連續し之等はその形により名づけられしものなり。龜腹より面河本流に入れば鶴ケ背橋ありその橋上よりの眺望最も絶佳と稱され、橋な渡れば蓬萊溪、紅葉の勝地たる紅葉河原あり、これより上流には雄鹿潭・雌鹿潭・九天瀧・虎ケ瀧等一粁餘の間に續き、更に上流に入れば霧迫瀧・久孝瀧・久武の瀧・阿彌陀ケ潭・白龍瀧・孔雀の瀑・七つ釜・大吠瀧・魚止瀧等の勝歩一歩眼界更に新なり。

オモシロ　面白山　奥羽火山脈の一峯にして、山形市の東北方約二十粁に位す。山形縣東村山郡山寺村と北村山郡高崎・東郷・田麦野三村と宮城縣名取郡秋保村との境界に跨る。標高一二六四米にして、輝石安山岩より成る。山頂に一祠あり、西南麓山寺村山寺なる立石寺の奥の院たり。東北麓は關山峠（最高點五九四米）に續き、南西麓は南面白山（一二二五米）に連る。登山は山形市方面より山寺村山寺に至り、紅葉川な溯行して至る。紅葉川の溪谷には石英粗面岩より成る材木岩其他の奇岩怪石多く、長さ四十五米、高さ二十米の天然石橋等もあり、又面白四十八瀧、川の左右に聳り應接に暇あらず。東方斜面は東南流して仙臺市な貫流する廣瀬川の水源地たり。

オモダカ　面高村　長崎縣肥前國西彼杵郡の北端。東は瀬川村と腹背なし北の北松浦郡中里村南端部に相對して大村灣の北口な扼す。西は墨瀬村な成す大島と水路な挾みて相望む。多くは丘陵地にて林野なすも所々に小低地ありて田地拓け、海岸は出入多く、北部に鼻島・松山崎の二小半島突出してその間に面高の鎮地な抱く。農產に米・麥・甘藷等あり、沿岸水產また少からず。村は今要塞地帶内に屬す。本村の西方海上約五粁の白瀬の岩礁上に白瀬燈臺あり、明治二十七年の設置に係り燈質閃白光毎四秒一閃光（紅光分氣）、光達距離白光一〇浬、紅光八浬なり。

オモテタカシマ　表高島　東海道本線の貨物驛の一（昭和九年設置）。横濱市神奈川區表高島町にあり。

オモテダニ　面谷　→上穴馬村（福井縣）

オモテテマチ　表町　東京市赤坂區にある町。表町御殿あり。（表町御殿）秩父宮殿下の御殿にして赤坂離宮東南の一部にあり。昭和二年十月、新御殿造營竣工、舊御所よりここに御移徙あらせらる。

オモテヤグラ　表櫓　江戸岡場所の一、深川櫓下の一部で、裏櫓に對する語。現今深川區門前山本町。辰巳之國「お前は又、今までどこに居なさりやした。表櫓に居やした。表は永樂屋にかエ」里のなだ卷評「迫々客の入船町、逢びの跡な直助屋敷、表樓、裏樓、裾組やぐら個新地、中にも土橋中丁には全盛の君多く、川には船後な組、陸には繼夫の屯なす」鬱美車紫鹿子「深川表櫓、此淨土髮の風衣裳着こなし大がいば伸町な鼻似る、しかし人がうちよばず、骨ぎよくさわぎば大がい伸町におなじ」淫女皮肉論「おもてやぐらふみ。くるわへ引れ大もんで、五丁まちへわりだされ、あづかり屋のうきすまひ、買女ノ〜といやしめて、猿なみるやうにするとやら」

オモト　於茂登岳　沖縄縣琉球國八重山郡石垣町にあり。石垣島の主峯にして、稍南方に峯頭な起す。標高九二六米にして、火山岩、結晶片岩より構成せらる。原始的美林に掩はれ、暖帶的特徴な發揮す。北麓には野底岳、南麓にはパンナ岳打連り、西方支脈は屋良部・川平の二岬角な形成す。この附近はマラリアの流行地なるな以て登山旅行には充分なる警戒と預防な要す。されど近年風土病の撲滅な計りて著々その實績な擧げつゝあり。なほ鉱裁植物たる萬年青は嘆地の山中に自生するユリ科の多年生常綠草本にて、通常園愛して專ら觀賞用に供す。泰平年表に天保年間一莖の價二百金云々とあり、嘉永五年にはその取引な激しく弊害甚しき爲め幕府はこれな禁止ぜりと。明治に入りては同十五年に大流行な來し、當時天晃龍が一萬二千圓、孔雀晃麟が一萬三千圓、日月星が一千圓位にて取引されしといふ。

オモト　小本　【小本村】岩手縣陸中國下閉伊郡の東海岸。北は田野畑村に、南は有藝村・田老村に西は岩泉町に隣し、小本川の下流の部分な占む。内陸部との交通の便惡く盛岡方面との連絡は北方遠く葛卷、沼宮内地方な迂廻し冬季は交通杜絶する有樣なりしが、最近山田線開通し押角隧道亦完成して内陸部との交通頓に良くなり物資の移出入な見るに至る。小本灣は波荒く砂丘發達して港灣としては不適なるも、その南部に位置する茂師港は波穏かにして築港進捗し良港として知らる。沿岸一帶は和布・昆布・いか・あはびの產多く殊に小本昆布は世に知らる。最近また中里附近に良質の大理石が發見され活氣な呈す。當地方は藩政時代に鹽の製產地として知られ、馬背な借りて内陸部に移出ぜり。宇日向の縣道の傍にヒサゲ沼と稱するあり、一部には水な溜へ、一部は砂地な成し、古代住民の使用せる遺物が發掘され注目さる。

【小本川】岩手縣下閉伊郡の北部にある川。源な阿武隈山地の青松葉山・高森・阿部館山・御大堂山の間に發し大川と稱して東流し小川村の諸水な集む小川な左岸に受け小本川と稱し小本村に至りて海に入る。長さ約五五粁。小本街道本川に沿ひて通ず。

オモト　御許山　一に馬上峠とも云ふ。阿蘇火山脈に屬し、中津市の東南方約二四粁、大分縣宇佐郡宇佐町の東南約五粁に位する一峯。大分縣宇佐郡北馬城村と遠見郡立石町との境界に所在し、標高六七〇米。輝石安山岩より成り、南麓は雲ヶ岳（六五四米）に續けり。山上に巨石三個あり、宇佐緣起に依れば、この中最も大なるは高さ一丈五尺、廣さ一丈五尺、他はこれより小にして、これな以て三大神の御神體と崇めたり。また山頂の磐石の凹部に、大雨にも增さず、大旱にも減ぜず、大寒にも凍らず、汲みても盡きざる水ありと傳ふ。

オモノ　陪膳濱　近江國（滋賀縣）の歌枕。今の大津市勝所町の舊號。夫木・二五「あま人もおものの濱づとな月にあけぬと今やいそかむ　知家」愛盛集「滯る時もあらしな近江なるおものの濱のあまつひつきは」

オモノガワ　雄物川　【雄物川】秋田縣内な流るる川。上流は横手盆地の水な集め、中流は出羽丘陵性山地に先行性の横谷な作り、下流は砂嘴に抑壓され、河口な東北方に偏し秋田小海岸平野そこに發達す。本流は横手・新庄兩盆地の分水嶺なす雄勝峠附近より發し、院内町な過ぎ角間川町に於ては横手町な過りて流れ來る支流旭川な合せ、大曲町にて横手盆地北部の諸水な集むる玉川な合せ神宮寺町より横谷に入る。玉川は仙北郡北部山地の水な集め角館町な經て南流するもの。神宮寺町より刈和野町な經て秋田市に至る間の横谷は、側面侵蝕進み蛇行帶も廣く、兩岸段丘緩かにて谷幅も廣く、侵蝕の過程大いに進み椿峯・末戸峯と呼ぶ段丘あり人文利用度進む。河口には秋田の外港として土崎港發達するも、日本海岸の港の缺點な持ち、風波の强きときは船は男鹿半島の船川港に避難す。河船の遡上は上流角間川までよく利用され、更に小船に積みかへれば鵜原な經て大久保關までも達し得る。然し鐵道開通後は河運は著しく衰頽せり。横手盆地は米作本位の農業地域にて、下流の秋田附近は石油も產し、商工業も亦行はる。

【雄物川】秋田縣南秋田郡にある鑛山。秋田油田に屬し我國準重要油田の一。鑛區は寺内町・豐川村・上井河村・飯田川村・金足村・下新城村に亙り日本鑛業・小倉石油の二會社の經營に係る。昭和十年の原油產額は約一・四萬竏、使用鑛夫四一人。（秋田油田）

【雄物川】省線奥羽本線の貨物驛（明治四十年設置）。秋田縣南秋田郡土崎港町にあり。

オモノキ　母木　河内國（大阪府）の古邑名。書紀神武紀に天皇大和御進擊中孔舍衞坂の戰鬪の時、大樹の蔭に隱れて難な免れし人あり、其木な指して母の如しと云へり。時人よりて其地な母木邑と稱せりといふ。地はいま中河内郡牧岡村大字豐浦の邊ならんと云ふも明かならず。書紀「初孔舍衞之戰、有一人隱於大樹、而得免難、仍指其樹、曰、恩如母、時人因號其地曰、母木邑云々」

オモンマ　小文間村　茨城縣下總國北相馬郡の東南部。西は取手町に近くこれと井野村な隔て、東は小貝川な挾みて北文間村に、南は利根川な界として千葉縣東葛飾郡湖北村に對す。五・九方粁の小村にて、中部は臺地、南北は低平にて耕地あり。純農村にて米・麥な產す。縣道中部な横ぎり、西は取手町、東南は千葉縣東葛飾郡布佐町に至り路上バスの便あり。古くは和名抄相馬郡相馬郷の内に屬す。中世は此邊な總て文間と稱せしとか。利根川圖志に據れば、本村の東部にて鬣飼川な渡るな戸田井ノ渡と稱し古來景色な以て知らると。また中世一色氏世世城砦な築きて本村に居る。常總軍記に據れば小文間城主一色宮内は佐竹氏に屬し、大鹿氏な攻めしが、大鹿氏の義子高井十郎等當城に逆襲し遂に攻略し一色氏なも討取る。これより高井氏小文間城な修築して究竟の要害となすと。また村内に第六天山と稱する山あり。天明年間、神道德次郎・紫紐泰助等と稱する賊首當な結びて此山に居る。今尚ほ賊の鑑の跡と稱すべきもの殘存すといふ。（大聖寺）新義眞言宗智山派。高龍山顯專院と號す。草創年代不詳。境内に開運不動堂あるな以て著名なり。堂は寛文五年中村金右衞門一族追福のため建立し、本尊不動明王

あり、新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、

オヤ　小屋　おや　豊後国（石川郡）の古
城址。和名抄に豊後国小屋郡あり、訓を
城くゝ、手城と訓むべきものの如し。上
古小屋里の義の所りしなか。中世は大屋
に作る。而して古くの駅路所なりしなら
ん、凡そ今の御島町・大屋村・河原田村・
三井村の辺に当る。

オヤ　屋山　おやま　（越後国）の国境。

オヤヤ　小柳　おやぎ　武蔵国（荒川郡）
の古城名。和名抄に多摩郡小柳郷あり、
手也木と訓む。地は今不詳なるも、北多
摩郡也木の辺り、荒川の東、谷保村・新田村・
あ云ふものか。谷保村の大字に字柳の名
あり、蓋しあるの遺称なる人。

オヤケ　小宅　おやけ　常陸国（久慈郡）
の古城名。和名抄に佐竹郡小宅郷あり、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、

オヤ　小屋　おや　豊後国（石川郡）の古
城名。和名抄に豊後国小屋郡あり、訓を
城くゝ、手城と訓むべきものの如し。上
古小屋里の義の所りしなか。中世は大屋
に作る。而して古くの駅路所なりしなら
ん、凡そ今の御島町・大屋村・河原田村・
三井村の辺に当る。

オヤ　屋山　おやま　（越後国）の国境。

オヤヤ　小柳　おやぎ　武蔵国（荒川郡）
の古城名。和名抄に多摩郡小柳郷あり、
手也木と訓む。地は今不詳なるも、北多
摩郡也木の辺り、荒川の東、谷保村・新田村・
あ云ふものか。谷保村の大字に字柳の名
あり、蓋しあるの遺称なる人。

オヤケ　小宅　おやけ　常陸国（久慈郡）
の古城名。和名抄に佐竹郡小宅郷あり、

（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、
（「国分寺」）新四国八十八箇所の一、

オヤ　小屋　おや　豊後国（石川郡）の古
城名。和名抄に豊後国小屋郡あり、訓を
城くゝ、手城と訓むべきものの如し。上
古小屋里の義の所りしなか。中世は大屋
に作る。而して古くの駅路所なりしなら
ん、凡そ今の御島町・大屋村・河原田村・
三井村の辺に当る。

オヤ　屋山　おやま　（越後国）の国境。

オヤヤ　小柳　おやぎ　武蔵国（荒川郡）
の古城名。和名抄に多摩郡小柳郷あり、
手也木と訓む。地は今不詳なるも、北多
摩郡也木の辺り、荒川の東、谷保村・新田村・
あ云ふものか。谷保村の大字に字柳の名
あり、蓋しあるの遺称なる人。

オヤケ　小宅　おやけ　常陸国（久慈郡）
の古城名。和名抄に佐竹郡小宅郷あり、

所谷谷子を生ぜし、故にて谷事は的名を所び鎌名を天下に轟かせり。今谷は小山田氏の祖にして、その後裔は今の山崎大字の右方に住居せり。その後裔は今の小山田氏に改め、屋敷あり。屋敷の前に谷の井戸に使用の跡あり。山谷家は今伝の大石あり。

【小山田】 字名。字小山田の西方にあり。北西部に字小山田（八大字町山田参）字と接し南方に延び、村内最北端に向ひて低下し、大字町山田を低下し東北に流れて、村内の最下部に達し、字小山田の東北部に接し、字小山田の西方に接し、字小山田の東北部に接し、字小山田の東北部に接し、字小山田の東北部

后紀、仲哀天皇穦日宮にましまし病みて崩じ給ふ。皇后大臣武内宿禰と謀り給ひ喪を祕し齋宮を此地に設けて神教を請ひ給ふ。其地は穦日宮（福岡縣糟屋郡香椎村）の所在地を距る東約四粁の山田村大字猪野なりといふ。蓋し猪野は齋野の轉訛ならんか。

オヤマトシマ　小山戸島村　熊本縣肥後國飽託郡の東北部。熊本市の東約七粁。東南は上益城郡に境す。村内は概れ低山性の丘陵を成し中央及び西北部に部落發達す。豐肥本線能田口驛及び熊本市にバスの便あり。純農村にして、麥・粟・甘藷・キビ（黍の原料）・筍・茶・煙草を主産しキビ黍の特産品あり。此地古くは和名抄託麻郡桑原郷の内か。中世以降本庄郷と稱す。明治四年廢藩置縣後一時第四・第九六小區として沼山津村戸長役場に屬したるも、同十一年區制廢止と共に元の託麻郡小山村・戸島村と各獨立す。明治二十二年町村制施行の際更に兩村合併して小山戸島村と稱す。村内に戸島山と稱する高地あり。國志に阿蘇明神往古蒙塵流を歇扇して阿蘇の湖水を決潰し給ふ時、歇揚げられたる土石の堆積したるものが卽ち此山なりといふ。大字小山に窯址あり。城主は詳ならざるも、天正九年薩州軍此處に屯し合志郡を攻むともいふ。また此地は中世六箇莊の屬邑にして邑主早岐氏此處に居りて小山氏とも稱す。〔梅谷寺〕曹洞宗にて本尊釋迦如來。寶積山と號す。熊本宗禪寺末。正保二年の草創。開山は宗禪寺二世明室春和尙たり。一に正平年中大智和尙創建の古刹にて、後中絶したるを明室春和尙再興すともいふ。境内に藥師堂あり、惠心僧都作と傳ふる醫王佛を安置す。

オユミ　小弓　↓生濱町（千葉縣）

【小弓】　尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄、丹羽郡に小弓郷の名見ゆ。その調を闕くも、蓋し眞由美と讀むべし。其地今の丹羽郡羽黑村・犬山町等の地に當る。尾張の小弓莊、良峰系圖に見ゆ。或は此地か。夫木・二一「さよ更てなよみのはしを引わたす音にそしるきあたへ野の駒篠原」とあるも此地なるべし。

オユミハマノ　生實濱野　千葉縣千葉郡にありし村。大正十四年生濱村と改め、昭和三年町制を布く。

オヨ　小與島　香川縣讃岐國仲多度郡にある島。丸亀市の東北約十粁。廣島諸島の東部、與島の東に浮び與島村に屬す。南北約一粁の細長き島にて最高處四八米。

オヨチ　大譽地　北海道十勝國中川郡西足寄村の大字。網走本線の大譽地驛（大正二年設置）あり。

オヨベ　及部川　北海道渡島國松前郡大澤村にある川。村の北部、百軒岳七七二米の南麓に發源し、周防堂澤・松倉澤等の數小流を合せて南流し大字上及部の地にて福山灣に注ぐ。流程約十二粁。

オヨリ　緒絲　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に山鹿郡緒絲鄕あり。地は今の鹿本郡八幡村・川邊村の邊に當るものの如し。

オヨロ　——川　北海道膽振國白老郡白老村にある白老川の支流。一にカヨロとも呼ぶ。村の西南部、瓦斯山（四八五米）の南麓に發源して東南流し、中流以下左右沿岸に線野を作り河口附近にて本流に合す。流程約一八粁。

オラシヘ　邑良志閇　出羽國の古地名。日本後紀弘仁二年七月の條に出羽國邑良志閇の降囚、陸奥の貳薩蟹（いま二戸郡）の夷と兵を構へ、救を朝廷に乞へる旨見ゆ。邑良志閇の地今何れに當るか審かならざるも之を今の秋田縣羽後國北秋田郡大阿仁村の舊稱荒瀨に擬定せんとす。これオラシヘ、アラセは國音相近く且つ地理に於ても大體妥當なりと思へるを以てなり。

オリ　折峠　大里峠（新潟・山形兩縣境の別名。

オリイ　折居　↓笹岡村（新潟縣）

オリオ　折尾町　福岡縣筑前國遠賀郡の東部。東は洞海灣に臨み、東北は若松市に、東南は八幡市に隣る。西部に發源せる小流堀川東流して洞海に注ぎ、其流域及灣岸は、土地低平にて耕地拓く、西南部は高く山地を成す。嘗ては舊郡役所の所在地たりし當町は今や中鳥・高松・高尾各炭礦の夫々礦區の一部を成し、て石炭・セメントの採掘盛んに行はれ、交通的には鹿兒島本線と筑豐本線との交叉點に當り、折尾驛（明治二十四年設置）を置き、道路また四通し、更に堀川の水運の便と相俟つて愈〻殷盛なり。遠賀稅務署・縣立東筑中學校・同折尾高等女學校・三好高等女學校・遠賀農學校等の官衙學校ありて地方的中心地を成す。古くは和名抄遠賀郡山鹿郷に屬せしものか。延喜兵部省式に夜久驛見ゆ、蓋し此地ならん。もと洞南村と稱せしを明治三十七年折尾村と改稱し更に大正七年町制を布く。本町を貫流して洞海に注ぐ運河なる堀川運河といふ。延長約八粁。明治來往して專ら石炭を運輸す。元和六年藩主黑田長政地方巡察の砌、此地の交通不便なるを憂ひ遠賀川の東に沿ひ新川を掘らんと志し、同七年起工し工事殆ど完成に近かりしに九年長政卒去するに及び一時工事を中止す。のち六代の孫綱高、遺志を繼ぎ、寶曆元年工を起し同九年に至り竣工し舟を通ずるを得たり。これより數度の補强工事を經て、文化元年遂に全く完成す。これ卽ち現時のものなり。〔正願寺〕大字則松にあり。淨土宗。三省山松月院と號す。享創年次は不詳。慶安年中草藤社信譽上人中興す。寛文六年大野勘左衞門、肥前島原亂に出陣せし一子討死し、其追福のため再建す。今の本堂は元治二年の重建たり。境内に大野氏の墓あり。

オリオゼ　折尾瀨村　長崎縣肥前國東彼杵郡の北部。佐世保市の東南約一〇粁。北部は佐賀縣西松浦郡に境す。村の中部を小流ほぼ南北に流れ、流域土地平坦にして田畑拓くるも、東西兩部丘陵を成し林野多し。省線佐世保線村の中央を東北より西南に走り、河内驛（明治三十年設置）を置く。風土またこれに沿ひ、東方上波佐見村に里道通ず。陶磁器業盛にして村の總生產額の大部を占む。この陶磁器は三川内燒といひ、また一にも平戸藩窯の所在地なるより平戸燒ともいはる。慶長三年平戸藩主松浦鎭信、征韓役の際陶工百餘なる者を從ひ來る。のち百餘歸化し、其子三之丞諸處に至りて技を研き子彌次兵衞に傳ふ。寛文二年彌次兵衞天草石を發見し始めて三川内の白磁を完成し、御用窯の棟梁として祿を給せらる。これより三川内燒はいよ〳〵進歩して元祿十二年には禁裏獻上の器品を燒成し、更に文化元年オランダ人と貿易を始めてより一層盛大となる。然し明治維新後藩の保護除かれてより業大に衰ふ。三川内燒は磁質精良にして染附の唐子繪の特色及び青磁等ありしも、薄手の彫刻や盛上げ、拉り物等の細工巧みなり。

オリオノ　遠里小野　瓜生野にも作る（太平記）。攝津國東成郡の南部を稱せしもの。蓋し萬葉集の遠里小野の文字をかく讀ぜしものならん。いま大和川を挾みて大阪市住吉區及び堺市北部の町名にその名殘を留む。

オリカサ　織笠村　岩手縣陸中國下閉伊郡の南部。山田灣に臨む。山田灣は灣内水深く、且つ廣く、稀に見る良港といはれ、また軍港としても最適の條件を具有すといはる。灣内はいか・和布・海苔の產出多く、鰯・海苔は最も有名なり。面積は約四六・五方粁、西北は山田町に接し、西南は上閉伊郡大槌町大字吉里に界す。昭和十一年秋、山田線更に船越村まで延び、本村を通過するに及び、前記水產物の移出多く漸く活氣を呈すに至る。大字織笠は織笠川の川口に位置し、本村の中心なると共に又水產業の中心たり。灣内には大槌・小槌・女郎島・鯛財天島等青松を戴きて點綴し、海水浴に適し、遊覽地としての將來性を具有す。天正年間福士五郎なる者、岩手郡下來方より移り、此の地方に居城を築き統治せりと（下閉伊郡誌）。本村字館の上はその城址なりと傳ふ。その後南部氏此地に代官を置き大槌代官所の治下に屬せしむ。

オリカベ　折壁村　岩手縣陸中國東磐井郡の東部。君ヶ鼻山・黑森山・愛宕山等の四、五百米の山地を境界として、東に宮城縣陸前國本吉郡新月村と境し地勢概ね丘陵地を成す。氣仙沼灣に注ぐ大川の一支流大田川、村の中央を東西に流れ、その流路に沿ひて西磐井郡一關町より宮城縣本吉郡氣仙沼町に通ずる縣道氣仙沼街道通ず。また大船渡線の折壁（昭和三年設置）及び新月（昭和四年設置）の二驛あり。產物は米・麥・大豆の農產の外、桑葉・繭の產出多く、其他用材・薪炭材の林產、生絲の工產多し。北部奥玉村・大原町との境界に名山室根山（八九五米）あり、室根山の南麓に縣社室根神社を祀る。往古の事は知るに由なきも中世、平泉藤原氏・葛西氏・豐臣氏・蒲生氏を經て天正十八年伊達氏の封土に歸し、その家臣眞山氏の采邑となり明治に至る。明治二十二年村制施行。村は下折壁・濱横澤の二大字よりなり、役場を下折壁に置く。〔室根神社〕下折壁字室根にあり。縣社。伊邪那美命を祀る。社地をもと鬼首山と稱せしが、紀州熊野より本社を勸請するに及び、山名を半妻峯山と稱せり。近郷の名山と稱せらる。古來一帶庶民の尊信篤し。例祭、九月十九日。〔松山寺〕大字濱横澤にあり。曹洞宗。萬年山横澤寺と號す。本尊慈覺大師作延命地藏。開基は横澤城主阿部長門守忠正、開山は岩目和尙。葛西・安倍兩氏の菩提所たり。〔龍雲寺〕大字下折壁にあり。曹洞宗。慈覺大師の草創たり。本尊觀世音菩薩、脇士文殊・普賢兩菩薩。往昔室根山南麓にありて新山龍雲寺と號し院司たり。後藤原秀衡再興す。文應年中北條時頼の台濱掃撃に遇ひ寺勢衰類し、正和年中葛西伯耆守信重堂宇を修營して室根山新宮寺の正別當とす。天保八年火災に罹り明治年中再建す。

オリクサ　折草峠　天龍川左岸に位する峠にして、長野縣上伊那郡高遠町及び伊那郡の南方約二〇粁に當る。高遠方面より南方天龍川の畔、片桐村方面に通ずる山道の一部をなす。最高點一一四三米にして、北側は同郡中澤村、南側は南向村に屬し、西麓は陣場形山（一四四五米）に續く。

オリグチ　折口　鹿兒島縣出水郡阿久根町の大字。省線鹿兒島本線の折口驛（大正十二年設置）を置く。

オリズ　下戸・下津　舊鎌倉街道の宿驛。もとの愛知縣中島郡下津村の地なり。下津村は明治三十九年稻澤町・一宮村・國府宮村・山形村及び稻保村の大字稻島、中島村の大字石橋・木全、大江村の大字平野・小寺・横地・重木・池部・大塚を以て稻澤町を置く。十六夜日記「二十日、尾張國下戸といふむまやを行く。よきぬ道なれば熱田の宮へ參りて、硯とり出でて、書きつけて奉るうた、いのるそよわが思ふことなるみ湯かたひくしほも神のまに〳〵」

オリズメ　折爪岳　北上山脈の一峯。八戸市の西南方約二七粁に位す。岩手縣二戸郡御薩鑑村・九戸郡晴山・江刺家兩村に跨る。標高八五二米。南麓は小峠（最高點五一二米）・小倉岳（六五二米）に連り、北麓は九戸街道等に横臨せらる。東麓を洞月内川北流し、東北方にて雫谷川を合せ、新井田川となり、西麓を

馬園川北流し、一戸町・福岡町・三戸町を過ぎて東北流す。

オリタテ　下立村　富山縣越中國下新川郡の中部。三日市町の東約八粁。東は愛本村・内山村に、南は東布施村に、西は前澤村・若栗村に、北は黒部川を隔てて新屋村に隣る。南部は丘陵地を成すも、北部黒部川沿岸は土地低平にして水田多く拓く。社線黒部鉱道の下立口・下立(共に大正十一年設置)の二驛を置き、又三日市町に縣道通じてバスの便あり、交通便なり。

オリド　下戸　↓下津・下戸(愛知縣)

オリド　折戸

【折戸】↓大平村(千葉縣山武郡)

【折戸】↓西海村(石川縣珠洲郡)

オリトヨ　織豐　愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年豐場村・昆津村と共に廢せられその區域を以て新に中村を置き、中村は大正十年名古屋市に編入さる。

オリハラ　折原村　埼玉縣武蔵國大里郡の西南隅。荒川の右岸に沿ふ。東は寄居町に隣り、東南は比企郡に、西は秩父郡に界す。南は高く山地を成すも北するに及んで低く、丘陵地に桑畑、南部荒川沿岸に水田拓く。省線八高線村の東部をほぼ南北に過ぎて折原驛(昭和九年設置)を置き、また寄居驛に近く交通便なり。生業は農業にして米・麥・麥を主産す。此地は和名抄、男衾郡大山郷の内なるべく、近世武蔵七黨、丹黨の内の織原丹五郎の在所なるべし。

オリベ　下部坂　三重縣宇治山田市の豐受大神宮神域内、高倉山中腹に祀らる多賀ノ宮へ上る坂路の名稱。

オリベマチ　織部町　平安京の町の名。左右兩京にあり。左京のは鷹司小路北、猪熊小路西。右京のは姉小路南、京極大路東。

オリモ　織裳　上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に多胡郡織裳郷あり、於利毛と訓す。その地今詳ならざるも、北甘樂郡岩平村の邊に當るか。

オリモト　折本　茨城縣信壁郡中村の大字。眞岡線の折本驛(明治四十五年設置)を置く。

オルスキ　意流村　日本書紀に見ゆる朝鮮の古地名。神功皇后紀に村名見ゆ。スキは村の古朝鮮語。百濟王育古其王子貴須が我が渡造の將軍荒田別鹿我別、百濟の將軍木羅斤資等と此村に會し、交歓す。書紀の註には意流村は今の州流須斯と云ふとあり。其地何れの邊に當るか詳かならず。

オレアイ　Oleai Is. 南洋廳ヤップ支廳に屬する諸島。敷個の隆起珊瑚礁の小島より成り、ヤップ島とトラック島とのほぼ中間に位し、東にイフリック諸島、西南にヨールピック諸島、東北にフチョラップ島あり。

オロ　小呂島　福岡縣糸島郡北崎村の屬島。村の北西方約二七粁。玄海灘に浮び沖ノ島の南に位す。島形南北に長く約一・五粁あり、周回約四粁、島内概ね低平なり。南岸に小呂島部落あり。

オロク　小祿村　沖縄縣島尻郡の西岸中部。半島狀をなして那覇市の西南に突出し、北部は那覇市に接し、東南は豐見城村に隣り、西と北は海に面す。土地概ね平坦にして甘藷・甘蔗・米を主産しまた黒糖製造行はれ琉球絣を特産す。縣立農事試驗場園藝部・縣立蠶業試驗場・那覇測候所・中央氣象臺沖縄支所・先原埼燈臺(明治二十九年設置、閃白光毎十五秒一閃光、光達距離一五・五浬)及び字當間に國立那覇飛行場あり。古くはウロクと稱す。字小祿は舊小祿番所の所在地にして、村名これより起る。村内に落平と稱する瀑泉あり。奥武山の對岸、漫湖の南を限る斷層崖より二流となりて落つるものにて、水質甘美、井水に乏しき那覇市民の飲料水となる。

オロシ　尾呂志村　三重縣紀伊國南牟婁郡の南部。東は神志山村・市木村により て熊野浦と隔たり、南は阿田和村・相野谷村に隣り、和歌山縣新宮市を距る約一二粁なり。南牟婁山塊の中部に當り概ね山地をなす。尾呂志川東西北山地の水を集め東南流して霧谷をつくり阿田和村に出で、その川筋田畑發達し、米・薯の農産、林産等を出す。交通なほ便ならず。

オロシ　下石町　岐阜縣美濃國土岐郡の西南部。面積約八・三方粁に過ぎず、地東西に長く、南は妻木村に、北は土岐津町に隣り、東は駄知町、西は笠原町に接す。東部・西部は丘陵、中部に平地あり妻木川北に流れて耕地拓け、下石の市街衆落ここに在り。土岐津・駄知・笠原諸町と共に古く美濃燒の產地にして飲食用陶器・電氣用碍子の製造榮ゆ。社線駄知鐵道土岐津より來りて下石・山神の二驛(共に大正十一年開業)を置き、また駄知・妻木へはバスを通じ山中なれども交通の便よし。

オロチ　蛇峰　大平山(秋田縣)の別名。

オロノ　鬼籠野村　徳島縣阿波國名西郡の東南部。徳島市の西南約四粁。入田村の南に隣り、西は阿野村・神領村に、東は名東郡佐那河内村と界す。東南境に高鉢山(一〇二〇米)聳え山肢南に延び平地なき山村をなす。山間の小溪流沿ひに階段式水田僅に拓け、米・麥・甘藷を產するも生計は養蠶に負ふ所多く、また薪炭を出す。徳島市に至る街道西南より東北に通じ自動車の便あるも交通便なりといへず。弓折は字一の坂の舊名にして阿波・土佐・淡路の守護職として白鳥村鳥坂に居城せし佐々木經高、承久の亂に王事に勤めて敗れ自殺するや、長子高重赤勢田橋に戰死す。家臣平岡六郎利清高重の一子秀經を抱き、次男高彙と共に本村に來り居す。高彙時事に慨する處あり弓箭を折捨て自殺す。これより地名起るといふ。其後蜂須賀茂慶廟の際弓折の名を聞き武門の忌むべき稱呼なりとて、徳島市より始めての坂なれば、一の坂と稱するに至れり。また字猪之頭に猪之頭の大欅あり、地上約一・五米の周圍約六・五米。高さ約一三米、樹齢正に四百年を算ふと傳ふ。寶暦年間、時の山林檢査官小倉兵部暴政を行ひしを以て本村民と衝突し、欅樹の下にて射殺せらる。今猶樹下にその墳墓あり。また國守の觀欅のため來りしこと屢〻あり、古くより其名欅たるを知らる。

オロフレイ　——山　那須火山脈豊振火山群に屬すず一峯にして、室蘭市の東北方約二七粁に位す。北海道豊振支廳白老郡白老村と、有珠郡壯瞥村の境界に聳え、標高一二三一米。端正なる圓錐峯をなす。山頂部には「みれすわを」、「いわうめ」・「こけもも」等の群叢あり。北方には徳舜瞥山(一三二二米)、南方には來馬山(一〇四〇米)聳ゆ。東斜面より は敷生川の一支發して東南流し、西斜面よりは泉川發して長流川に合し、南斜面より千歳川發して東南流す。東南方にはカルルス温泉・登別温泉湧き、登別温泉の東方には倶多樂湖横はる。西方には鱒渓・鱒慶の温泉湧き、その彼方に洞爺湖の明麗あり。また東北方には山湖支笏湖輝く。夏季は登山稍困難なるも春季・冬季はスキー登山に好適し、數條の走路あり。通常は南方千歳川乃至西方白水川を起行して登頂す。

オロル　Olol Is. 南洋廳トラック支廳に屬する諸島。數個の珊瑚礁より成りトラック島の西北に位し、東にノムイン諸島、南にホロアット島あり。

オロルク　Orulukk I. 南洋廳ポナペ支廳管下の一島。トラック島の東に位す。全島珊瑚礁より成る。

オワキ　小脇　近江國(滋賀縣)の古地名。舊鎌倉街道、即ち鎌倉時代に京より鎌倉に至る街道の驛次たり。いま蒲生郡中野村の大字小脇は小脇驛のありし處。

オワシ　尾鷲　【尾鷲町】三重縣紀伊國北牟婁郡の南部。東は熊野灘に面し西は和歌山縣と界す。概ね高峻なる山地を占め山深くして良林あり。また口川西境に發して東流し相賀町に入りて錦子川となる。東部に尾鷲灣の灣入ありて良港尾鷲港を控へ尾鷲の市街は灣の西奥に位す。省線紀勢東線の尾鷲驛(昭和九年設置)を置き交通便なり。主生業は漁業にして、生魚(殊に鰹)・干魚・魚鑑詰・鰹節を出し、また竹材・竹細工品・木材等豊なからず。尾鷲港は其灣内に佐波留島・桃頭島・雀鳴等の嶋嶼散在し且つ灣入深く里餘に達するを以て風波平穩にして船舶の碇繫に至便なり。水深五尋乃至二十尋にして灣口部に人の瀉と稱する暗礁あるも船舶の出入を妨げず。鳶陽商船・熊野商船其他の定期船の寄港あり。今や大防波堤(起工大正九年、竣工昭和六年三月、總經費百十五萬圓)は完成し、また海岸約三・七ヘクタールの埋立も完成近く、實に尾鷲港は紀伊沿岸に於ける唯一の指定良港灣として船舶の出入頻繁を極む。主なる移出品は木材・鮮魚介・魚節・薪乃至木炭等にして、米・礦油・清酒・煙草等を移入す。古くは、神武天皇御東征の際統轄し給へる熊野の内なり。熊野は成務天皇の五年、熊野國と呼び孝德天皇大化二年國郡を分ち各司長職を置かれし時、熊野の國は既に廢せられ牟婁郡となりて紀伊國に加へらる。のち國郡の制備はるや、此地は和名抄、志摩國英虞郡神戸郷に屬し伊勢大神宮の神領たり。天正の頃は堀内氏の有たり。德川氏の頃牟婁郡を分稱し口熊野・奥熊野と云ふや當町は奥熊野に屬す。明治二年和歌山藩に屬し、同四年に廢藩せられ縣治となり度會縣に屬し同九年に更に三重縣の管轄となり、同十二年に北牟婁郡に屬し同二十一年四月町制を施行。郡制時代は郡役所の所在地たり。村名古くはオワセと呼びしが今オワシといふ。〔尾鷲神社〕大字中井浦に鎮座。郷社。武速須佐之男命・猿田彦命・若狭姫命外數神を祀る。創立年代を詳にせざるも、往昔播磨國廣峯社を勸請せりといふ。爾來尾鷲七郷の鎮守神として崇信せらる。もと神宮式年の制に準じ、二十一年目毎に社殿の造替を爲すといふ。例祭、一月五日。〔中村山公園〕驛より二丁、町の中央にあり。松杉雜樹の下には溜池と茶が自生し山頂に登れば市街の全景はもとより尾鷲灣の島嶼を俯瞰し遠く大洋を望むを得べく春夏秋冬の散策によし。〔八鬼山寛神堂〕日輪寺と稱す。本尊は弘法大師御作。全國を通じて三體の一といひ傳ふ。〔千木の山〕(圓の山とも云ふ)城跡を存す。山頂に古墳あり、南朝時代の古墳と言ひ傳ふ。藩政時代熊野灘を横行する海賊船見晴の屯所ありしと云ふ。風光明媚全市街、太平洋を一眸の中に收む。〔倉の谷〕神武天皇御東征に際し、高倉下命が神劍を獲られし倉庫の在りし地と推定す。町の西部にあり。その附近に孟宗竹林あり、亘幹の目通り約二尺。〔岩谷堂〕聖觀世音の坐像長一尺一寸の石造一軀及び石造の觀世音像高さ二尺四五寸三十三體を東西七間南北九間高さ七丈の岩窟内に安置す。いづれも一千數百年を經たるものなり。〔眞田堤〕眞田幸村の手に成りし堤なりと傳ふ。よつてその名あり。〔鮒財島〕向井の海岸に在り。大小の七島あり。一島の頂上には市杵島命を祀り婦人の信仰を集む。一島には洞門の奇勝あり。〔舟石〕川原木屋にあり。長八間中央の廣き所幅三間半・高さ一間半の花崗岩なり。上部一面に雑木繁茂し、川の中央にありて其狀舟に似る故に古來舟石の名あり。〔女王護〕川原木屋にあり。平家の落人女王を守護し、この城山に蟄居せるより其の名ありと云ふ。この附近

には往古の都落址あり、面積五千餘坪。舊正月元日には今も鶏鳴を聞くと云ふ。濃は周圍鬱蒼たる森林に蔽はれ畫なほ暗く、鬼氣の人に迫るを覺ゆ。〔天倉山〕市街の北方に聳え、海拔六一四メートル餘、展望雄大、山頂の一宇に役の行者を祀る。附近には高倉下命の木碑あり。邦して遠く神武天皇の古へを想ふに足る。〔生草遊園地〕市街の北方、天倉山の麓にある遊園地にして尾鷲驛より一粁なれば一二時間の散策には恰好の勝地なり。〔岡市貯木場〕町及尾鷲林産物同業組合の共同經營に係る。岡市灣にあり。製材所に接して船積に便に地域も廣大なり。

【尾鷲灣】 三重縣北牟婁郡にある灣。尾南曾鼻・瀧本鼻の間に深く灣入し、周圍は繪樹の山を以て圍まる。灣内四つに分れ尾鷲・引本・矢口・須賀利といふ。最大なるは尾鷲港にして西南に位し門口東方に向ふ。尾鷲・引本の外は和船の泊地に過ぎず。

オワラキ 邑樂 おふ ら き 邑樂郡（群馬縣）の舊稱。

オワリ 尾張 を わ り

【尾張國】 東海道十五箇國の一、また略して尾州ともいふ。北は美濃國、東は三河國に接し、南は知多半島が長く延びて東面は知多灣、西面は伊勢海に臨み、西は木曾川を以て美濃及び伊勢に境す。この國の北部は闊くして廣く、南部は細長くして狹し。東部には恵那山脈の盤勢が起伏して知多半島の骨梁をなせるも、何れも丘陵をなすに過ぎず。西部は濃尾平野の一部にして、木曾川及び庄内川の沖積地なり。而して木曾川下流の地は河道の變化に伴ひ、古來國境に多少の異同あるを免れず。いま名古屋・一宮・瀬戸の三市と東春日井・西春日井・愛知・知多・丹羽・葉栗・中島・海部の八郡に分ち、三河國と共に愛知縣の管轄に屬す。海部郡はもと海東・海西の二郡に分れゐたるも、大正二年七月これを合併して海部郡の古稱に復せり。尾張の國名の起原は詳かならず。或は大和地方に居りし尾張連の支配地なりし故、かく名づけしものならんといはる。上世日本武尊東夷御征伐の際この國の國造の家に立寄られしことは古事記に見え、以來この國は熱田神宮によりて名高く、平治の亂にて源義朝、軍敗れ東國に走りし時この國に來り、知多半島の内海に於て家臣長田忠致に殺されしことは史上に著れ、鎌倉幕府の時には大屋安資この國の守護に補せられ、室町幕府の頃には土岐頼康守護となり、父子相つぎてこの國に居れり。應永年中に三管領の一なる斯波氏この國の守護となりしが、管領就任の都合上京都に在住の必要あり、守護代として織田氏を置けり。その後斯波氏には家督の爭あり、斯波義廉は京を去り清洲に城み榮きて此處に居れり。しかるにその後織田氏漸次勢力を得て、天文の末の頃には主家を凌ぎ、織田信友の時、義廉の曾孫に當る義統を狀す。一族の信長卽ち義統の遺孤義銀を奉じ信友を滅ぼせしが、義銀は後信長を忌みこれを除かんとし敗れ國を去れり。ここに於て織田氏の勢漸く强大となる。永祿年間今川義元大擧して尾張を侵すや、信長桶狭間に進へ戰ひてこれを破り、威名海道に振ふ。後、美濃を取りこれに移れり。天正十年織田信長業中道にして亡びし時、信長の第二子北畠信雄伊勢より移りて清洲に居り、ついで天正十二年には信雄、德川家康との聯合軍、秀吉の兵と長久手に戰ひしことあり。天正十八年に至り秀吉は信雄を斥け義子秀次を尾張に封ぜしが、秀次の自殺の後は福島正則をここに封す。德川氏の世となりて、正則を廣島に移し、その代り第四子忠吉を封ぜしも、嗣なくして歿ぜしにより、忠吉の弟義直が封ぜらる。慶長十五年城を名古屋に築きてこれに移り、子孫相傳へ德川三親藩の一たり。その家老また犬山に封を受け明治維新に至れり。明治四年一般廢藩置縣の時前記二藩は縣となり、ついで相合して名古屋縣と稱し、明治五年四月愛知縣と改稱せり。知多郡は初めは三河の額田縣の管轄なりしが、のち額田郡の廢止と共に全部愛知縣に屬す。中世、國府を設かれしは今の中島郡稻澤町大字國府宮に當る。尾張志「尾張と號たる故後は、古傳を失ひて知りがたし。按ずるに、郷の名より出て國の大號となれるなるべし、然いふ故は、諸國に例多かる上に、本所の地名あれば也、まづ延喜神名式に、山田郡尾張神社、尾張國内神名帳に、山田郡尾張田天神と見えたる地は今の春日井郡（もとは加須我倍といひて、春部と書り、倍を井と呼ば、音便にあやまれる語、春日井と三字にかくも、中昔の御捉にたがへる近世のならひ也、味岡莊に屬るこの地あたりまで、古くは山田郡也しかば、此處の莊名も山田なる事著明を、後に他莊につけるなり）小針村なり、是は尾張氏本居の地にて、はじめは小治田といひしが、後に小針となれり、小治田といひし事は、萬葉集十三卷に小治田之（今本治を沼に誤れり）年魚道之水手云々、また續紀に、神護景雲二年十二月甲子、尾張國山田郡人從六位下小治田連藥等八人、賜姓尾張宿禰（これ小治田を手波里といひ、連を宿禰とし、文字なも尾張と改められし明證なり又この小治田連藥等は、姓氏錄左京神別天神部に、小治田宿禰云々、右京神別天神部に、小治田連云々とある氏人とは同名異姓也、思混ふべからず、姓氏錄なるは、皆憶速日命の後裔にて、石上朝臣物部氏など同氏也、藥等はもとより尾張氏にて、天火明命の後にて、小針村本居の氏人也、然るを舊事紀に、尾張氏と物部氏な混一にして、其始祖を饒速日命に充たるは僞說也）など見えたり、又村名の手波里なを小針とかく文字は、古代の書體の今に存せるにてめづらし、國號の尾張も、蓋は小治、小墾、小針、尾治などぞ書けむ。書紀はさらなり、古事記にも國號に必尾張とかけるは、改られたる後の世の人のわざにもやあらむ、國造本紀に、山背相武駒刺淡海三野斐陀稻葉針間とかき、古事記に葉野當道稻羽阿岐などあるは、皆上代より書來りしまゝの文字也、小治田といふ名の義は、萬葉に小墾田とも書る如く、田に依れる名なるべし。」人國記・「尾張國之風俗ハ、逃走之氣强ク而、善ヲ見レバ善ニ逃ミ、惡ニ成レバ惡ニソミ、我ガ親キ者之善キ事少シアレバ、大分ニ能キ樣ニ云成、惡キ事アレドモ夫ヲ男見ヲ加ヘ、後來之過ナナキ樣ニト有志ナクテ、共ニ推シ隱シテ人之非ヲ揚テ、夫ガ惡ヨリハ輕キナド、談ズルノミニテ、邪智我慢第一强ク、人ヲ足下ニ見ナシ人ノ善ナクシ、我惡ヲ隱スノ類ニテ、萬事根ノトゲル事無、唯大風洪水之出ルガ如クニテ、根ニシマル意地スクナシ、譬ヘ然形儀男武ノキビシキ處アレバ、伊賀、伊勢、志摩三ケ國合タルヨリ上成所有、古ヨリ秀ル者モ有、下劣之心底猶以カタクナシ、然ル故ニ、善ニ逃ム事寡フ而、惡ニ從フ事强シ、去ルニ因テ謀叛一揆之類發スル事モ古今多シ、飾氣スクナキ故ニ、實儀之人モ多クシテ、惡ヲ見テ惡ト知テ改ル人モ有、中ノ風俗之國也、男之言葉好シ、是國ヲ治ムルニハ、處々ニ黨多而、地下人モ黨ヲ結ビ、我慢ノサムルコトヲ不ル能而、獨ク事日ヲ可ル經乎、其黨類ヲ懷ク、正道ヲ以是ヲ糺シ節ヲ以シテ、後ニ善ヲ全ク知テ合一スベシ、無ル左シテ一應ノ威光無ヲ以テ是ヲトリヒシグトモ、赤本ニ可ル成、觀ニ其機氣、察ニ其末發ヘ、而後ニ是ヲヌクハ良將之法也、此國ニハ別而口傳」

【尾張平野】 愛知・岐阜二縣に跨る濃尾平野の一部。木曾川を以て西の美濃平野と界し、西南は低き丘陵にて三河平野に續く。※濃尾平野

【尾張丘陵】 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村は多氣・小木・五條の三箇村と共に廢せられ北里村を置く。

【尾張富士】 雅郷山脈南端部の一峯にして、名古屋市の北方二十數粁、一宮市の東北方約一八粁、岐阜市の東南方二十數粁、愛知縣丹羽郡犬山町の東南方約六粁に位す。丹羽郡池野村に隆起し、標高二七七米。山麓富士山に似たるを以てこの名あり。南方に連る二宮山（丹羽郡樂田村に峙ち標高二九三米）を大富士と稱するに對して小富士とも呼ばる。山頂に富士權現を祠る。頂上よりは濃美・三遠・信飛の諸峯を眺め、麓峯富士なも仰ぎ得らる。東麓には周囲約一三粁なる入鹿池を湛ふ。また西北方には所謂日本ラインの稱ある木曾川西南流し、左岸に犬山町、右岸彼方に岐阜市の街區を望む。南・西方には濃美平野打續き、中に一宮市・名古屋の街區を指呼す。

【尾張川】 木曾川の古名。尾張國の西北界を流れ、濃尾兩國の境界をなせる故の稱。平家物語・六・洲股合戰「源氏の方には、十郎蔵人行家、兵衛佐の弟蒲公義圓郡合其の勢六千餘騎、尾張川を隔てて源平兩方に陣をとる」

【尾張一ノ宮】 東海道本線の一驛（明治十九年設置）にして名岐鐵道の接續點愛知縣一宮市にあり。

【尾張生路】 武豐線の一驛（昭和八年設置）愛知縣知多郡東浦村生路にあり。

【尾張森岡】 武豐線の一驛（昭和八年設置）。愛知縣知多郡東浦村森岡にあり。

【尾張】 河内國（大阪府）の古地名。和名抄に安宿郡尾張郷あり。地は今の南河内郡國分村邊ならんと云ふも徵證なし。

【尾張】 備前國（岡山縣）の古地名。和名抄に邑久郡尾張郷あり、手八利と訓す。古へ尾張連の族の居りし處なるべし。いま邑久郡邑久村の大字に尾張の名あり、郷名の轉稱なるべし

オワリダ 小墾田・小治田 を わ り だ → 小墾田・小治田

オワリチョー 尾張町 を わ り ち ょ う 東京市京橋區銀座四丁目附近の舊町名。今僞稱に殘る尾張町・田雲町・因幡町・加賀町の名は慶長八年汐入地を埋立てし時、それぞれ擔任の大名の國名により町名をつけしものといふ。和合人・四上「サア呑なせへこりやア尾張町の内田で賣るろ印といふ賣サ、道人はみんな今上やア北賣だネ」

オワリベ 尾張 を わ り べ 信濃國（長野縣）の古地名。和名抄に水内郡尾張郷の名あり、手波利と訓す。尾張は蓋し尾張部の轉略にして、彦八井耳命の後裔たる尾張部氏の居住せし處 らん。いま上水内郡朝陽村の大字に北尾張部あり、郷名の轉稱なるべし。

オン 御岳 お ん た け

【御岳】 御岳山（長野・岐阜縣）。

【御岳】 飯降山（福井縣）の別名。

【御岳】 霧島火山脈の一峯にして、九州大隅半島の西岸近く南北に連亙する高隈連山に屬す。鹿兒島縣肝屬郡新城村と鹿屋町の境界に跨り、標高一一八二米。北麓は大篤柄岳（一二三七米）・七岳（八八一米）、西麓は横岳（一一〇二米）・白山に續く。西北方に鹿兒島灣に浮ぶ櫻島、並に帶水の彼方に鹿兒島市の街區を望見す。

オン 雄山 お ん オンセンと呼ぶ。岡山縣阿哲郡上刑部・菅生・千屋の三村に跨る。標高一一五三米、花崗岩より構成せらる。西南麓に飯森山（一〇三五米）、東南麓に大佐山（九八八米）、西北麓に二子山（一〇七五米）峙つ。東麓より高梁川の一支小坂部川發して南流す。

オンガ 恩賀 お ん が

【恩賀島】 廣島縣豊島の舊稱。

【恩賀島】 福岡縣宗像郡大島村に屬する

神ノ島の別稱。

オンガ　御神山　中國山脈の一峯にして、廣島縣の東北部、比婆郡帝釋村の西南部に峙ち東・南斜面に神石郡との境界、西斜面に甲奴郡との境界通ず。標高八八九米にして秩父古生層より成る。山中に奇岩怪石多し。西北方約六粁に當り大黒目山(八〇二米)峙つ。東南麓より帝釋川の一支發源す。

オンガ　遠賀　【遠賀郡】福岡縣十市十九郡の一。筑前國に屬し縣の北部に當る。東北は若松市・八幡市に接し東南の小部は企救郡と、南は鞍手郡と、西南は宗像郡と界し、西北は響灘に面す。東西約二〇粁、南北廣き處にて約一二粁、面積一六九方粁に近し。東境には福智山塊に屬する尺岳ありて北方の皿倉山(いま八幡市内)に續き、それより西北方は遠賀島郷の半島部に達る丘陵地をなし、西部は三郡山塊の北端部にてその山麓は西北に延び戸田山・高ヶ岳・海蔵寺山となり宗像郡との界を劃す。中部には北流する遠賀川下流の流域平野をなし田畑廣く拓く。遠賀川に沿ふ沖積層の兩側を南北に發達せる第三紀層中には到る處石炭の埋蔵ありて謂ゆる筑豐炭田の一部をなす。沿岸の東部、卽ち遠賀川口の東方は遠賀島郷半島の西端にて小岬角の突出あるも川口より西部波津崎に至る間は一帯の沙濱をなし、三〇米内外の丘陵之に沿ひ連り同ノ松原をなす。建郡の期は詳ならざるも日本書紀に筑紫蘆水門と見え、蓋し此時初めて見ゆ。而して郡名は同書仲哀天皇八年正月の條に「幸筑紫」、時尚縣主祖熊鰐、聞天皇車駕こと見え、續日本紀天平十二年の條に遠河、殘篤風土記に鳴剝に作る。而して延喜式に作り埴生・恒前(垣)・山鹿・宗像・內浦・木夜の六郷を管す。木夜郷は後世鞍手郡に入る。和名抄・延喜式ともに調を闕くも恐らく手加と調ぜしものならん。また往古郡內牧場多かりし爲に中世御牧郡と稱せしも寛文四年舊に復す。爾來專ら手牟賀と調じ以て今日に至る。

【遠賀平野】福岡縣遠賀郡にある平野。鞍迦ヶ嶽(八四四米)の北斜面に發する遠賀川の流域平野の總稱。卽ち東部山地は筑豐山塊の福智山彙と西部の三郡山彙の二條の地塁の間、所謂遠賀川流域の地溝帶にて概れ第三紀古期層に被はれ海拔一〇〇米以下の丘陵を成せど、其中軸を縱走する孔大寺山の小地塁によつて東西二地溝に分たる。本邦第一の產炭地筑豐・宗像兩炭田は之等の第三紀古期層中に發達しその石炭は北九州の工業地帶を發達せしめし最大原動力を成すと共に航海用並に輸出用石炭の源となり本邦產業の發展並に通商貿易上重大なる意義を持つ。

【遠賀川】福岡縣北部の川。筑紫山脈東北部の福智・三郡兩山塊間の陷落地帶を北流して響灘に入るもの。上源に彦山川・嘉麻川の二川あり。彦山川は田川郡の南隅、彦山村に出でて北流し金田町に至りて中元寺川を併せ福智山塊と田川・嘉穗兩郡界をなす訪鍾狀分布丘陵との間を切りて直方市に入る。嘉麻川は嘉穗郡の南界嘉麻峠の北側に發して同じく北流し直方市に出で、彦山川と合して遠賀川となり、なほ北流して遠賀郡中部を貫きて海に入る。流程約六〇粁。流域には沖積層の肥沃なる耕地拓け、農業榮え、また沖積層の兩側に發達せる第三紀層中には到る處石炭の埋蔵ありて謂ゆる筑豐炭田をなし、各所に炭坑群在して本邦最主要の產炭地域をなす。されどその流域には筑豐本線をはじめ伊田線・田川線・宮田線・幸袋線・漆生線等の支線は恰も樹枝狀にその鐵道網を張り沿線には直方・飯塚二市をはじめ香春・添田・後藤寺・幸袋・大隈・植木・木屋瀬等の諸都邑發達す。

【遠賀村】福岡縣筑前國遠賀郡の中部。遠賀川下流の左岸に沿ひ、北は鹿屋町に南は三潴郡古月村に隣る。西境に丘陵連る外は大部分低平にして水田畑地よく拓く。米を多產しまた海老津炭礦の一部を成す。省線鹿兒島本線中部を横ぎりて遠賀川驛(明治二十三年設置)を置き、室木線ここより分岐して三潴郡西川村室木に達す。縣道東北部を北方に走り、鹿屋町へはバスの便あり。此地は和名抄遠賀郡埴生郷の內に屬す。延喜式兵部省式に島門驛見ゆるも蓋し此地にありしものか。昭和四年淺木村・島門村を合して本村を置く。〔淺木神社〕大字下底井野に儀座。鄕社。祭神、日本武尊・素盞嗚命・應神天皇。創立年代詳かならざるも、應安年間の勸請と傳ふ。天文二十年大貳多々良朝臣は大府宣を以て大宮司職を補命したる事あり。朝木大明神とも稱す。江戸時代には郡主黑田氏の崇敬を受け、また附近の產土神と仰がる。

オンガガワ　遠賀川　鹿兒島本線の一驛(明治二十三年設置)。福岡縣遠賀郡遠賀村にあり。室木線の起點。

オンガタ　恩方村　東京府武藏國南多摩郡の西部。八王子市の西方にて、南は淺川村、北は川口村に隣り、西南は神奈川縣津久井郡澤井村・佐野川村と、西北は西多摩郡檜原村・戸倉村と界す。南は西境和田峠の南に聳ゆる陣馬峰(八五七米)、北は刈寄山(六八八米)の山嶺ほぼ東西に連亙し村內殆んど山地をなす。ただ東北部に小低地ありて桑畑拓け、養蠶を主業として繭を產し、麥・米の農產もあり。東方八王子市へはバスの便あり。此地は近世多摩郡由井領に屬す。大宇寺方は德川氏江戸入城後は幕領となりしも正保の頃は高室喜三郎が代官となり其支配地と村內實生寺領とが入交り、のち大岡源右衛門の支配地たりし地。大宇上恩方は正保の頃は岡上甚右衛門が代官となり、のち小野田三郎右衛門の支配地たりし地。大宇下恩

方は櫻新町田安家の領地たり。此地の淨福寺境內に大永年間、木曾義仲の苔蔦、大石源左衛門入道道俊居城を構へ、大永四年上杉憲政襲ひ來り城郭を放火せし時大石父子は小田原の北條氏康に投じ、氏康の力により再び此地に歸り來る。然るに此地狹隘にして戰爭に利あらず。遂に淺山に城を築き此處に移る。之を淺山城と稱す。天正十八年羽柴筑前守利家の爲めに放火せらる。

オンガノシマ　遠賀島郷　福岡縣筑前國遠賀郡洞海の北の半島地の稱。その西北角を山鹿岬といひ、洞海との間に江川あり、故に寇然一島をなすを以て此稱あり。日本書紀に神功皇后筑紫に幸し給ひて洞海より蘭水門に至るとあるは此處の南の瀨戸を通過したまひしもの。東端に若松市、西端には蘆屋町に屬する大字山鹿あり、中部は島郷村と稱せしが今は若松市に入る。

オンカミ　御神島　福井縣若狹灣上の小島。三方西面村に屬す。村の北端常神岬の西方海上約五百米に浮ぶ。島形南北約一粁、東西約三百米。島內一般に高く東南部沿岸は稍低平なるも北部及び西部は海崖なる成す。

オンガン　音岩面　朝鮮忠淸南道瑞山郡に屬する面。本郡二〇面中の一。郡の中央より稍東に位置し郡廳所在地瑞山面の東に隣接、北は聖淵・貞美の兩面に、東は雲山面、南は海美面に各相隣接す。南北一三粁、東西五粁乃至七粁。北境には柚鄕高峰の餘脈延びて一五〇米內外の丘陵起伏すれども其他は概して土地低平にして地味肥え本道に於ける泰安平地と共に重要なる農業地帶を形成す。ただ河川の少きため灌漑十分ならずして高より田の卓越を見る。產物は米・麥・大豆を主とし煙草・麻・棉花これに次ぐ。道路は西方瑞山を中心として東南洪城に至る二等道路面內の南部を東南に走り東方汚川に通ずる二等道路は西の中央を東西に橫斷し、何れも乘合自動車の便あり。桑落の主なるものには南部に星岩・富長・富石・新庄・遂溪等、北部に上紅・富山・栗木・道堂・塔谷等あり。塔谷は面の中央より稍東に位置し面事務所・普通學校・警察官駐在所・郵便所等あり。人口昭和五年八四二八。同十年八七三〇、內男四四二六。

オンカンタイ　溫港堆　臺灣臺南州北港郡口湖庄に屬する沙洲の一。北港溪口の西方約八粁を隔て、北方の統洲州、南方の外金頂洲の間に位し、南北一粁に滿たざる沙洲にて溫港堆燈臺(第五等白閃光、每二秒一閃光、光達距離一三・五浬)の設けあり。

オンサン　溫山面　朝鮮慶尙南道蔚山郡に屬する面。郡管內十九面中の一。郡の首邑蔚山邑の南方一五粁に位置し、北は外陽江を隔て大峴面に、北西は青良、西は溫陽、南は西生の諸面に各相隣接す。東は外陽江口及直接日本海に相面す。城內は老年期の丘陵性山地を成し南部の回夜江流域に稍狹長なる低地を見る。海岸は急崖をなし沈降によるリヤス式海岸をなして小灣入に富み、鳥岩島・燕子島等の諸島あれども良泊に乏し。交通路としては各灣頭の諸部落を連ねて北方蔚山に通ずる郡道の外見るべきものなく交通極めて不便なり。農產物は米・大豆を主とし、近海には鰯・鮒・石首魚・比目魚を產し、附近に於ける鹽の漁獲は朝鮮第一の稱あり。桑落の主なるものは臨海の牛峰・唐月・梨津・山岩・左島・處容等を始め內陸に大亭・華山・元山・三平・江陽等の諸桑落あり。左島里には定期市場及警察官駐在所あり。元山は面事務所所在地なり。人口昭和五年七六五九人、昭和十年八二六八人。

オンザン　恩山面　朝鮮忠淸南道扶餘郡の北境。郡管內十六面中の一。史都扶餘の西北一粁餘にありて、北東は赤谷、東南は寇岩、北は大峙・斜陽、西は外山、西南には內山の諸面と相隣接す。東北境には定惠山(三五五米)聳立し、西境に祝融山(四五五米)聳立し、東南に傾斜して之川その他多くの河流東南流して錦江に注ぐ。道路は扶餘より來る二等道路は面內の略々中央を東南より西北に斜斷して北方青陽に通じ、面の首邑恩山里より更に西南鴻山・舒川に通じ、其他面道は恩山里を軸として放射狀に四通發達交通便なり。住民の多くは農業を營み、米・麥・大豆・綿花等を產し、副業として養蚕・養豚・養鷄等も行はる。工產品に苧布の生產あり、桑落の主なるものに住中・新大・內地・玄岩・敬屯・角堡・洪山・大陽・五香・麗嶺・瓦田等あり。恩山里に面事務所、二・七日の定期市場・普通學校・警察官駐在所・郵便所等あり。東南一粁には半島の景勝「扶餘八景」扶蘇山の暮雨・皐蘭寺の曉磬・平濟塔の夕照・水化亭の晴嵐・白馬江の沈月・寇岩津の歸帆・九龍坪の落雁・落花巖の宿鶴等の勝地あり。人口昭和五年九五六一人、同十年一〇〇九七人。

オンジ　穩治　鳥取縣氣高郡にありし村。大正三年本村及び明治村を廢しその區域を以て新に明治村を置く。

オンジャク　溫石　【溫石】江戸時代の奥州街道の宿驛。今の福島縣安達郡杉田村に當る。地に輕形藥師堂あり、溫石藥師堂と云ひ、附近より溫石石の產あり。

【溫石谷】福岡縣三井郡高良內村の東北部。高良山(標高三一二米)東南麓の谷。溫石石より成る幽邃境。溫泉も湧き客旅臨ふ。

オンジュク　御宿町　千葉縣上總國夷隅郡の東南部。西南は勝浦町に、西より北は布施村に、東は浪花村に隣り、東南部は太平洋に臨み、浪花村の南端突出せるため網代の小灣をなす。東部西部は丘陵地、中部は南方に緩斜する平地にて

耕地よく拓く。農産に米・麥あり。副業に養蠶行はる。村の主業は漁業にて漁獲物の外、鰮粕・煮干鰯等の水産製造物の産多し。省線房總東線の御宿驛（大正二年設置）あり、また房總街道ほぼ鐵道に並行し西は勝浦・小湊方面へ、北は大原・一ノ宮方面へバスの便あり。また鹿道は房總街道より分岐して北方に向ひ大多喜町方面に通じ交通不便ならず。この地は和名抄、夷 郡盧道郷の地なるべく、のち御宿郷と稱せらる。治承年中には上總權介平廣常の所領、降りて天正年間には里見義弘の所領たり。江戸時代初期には阿部氏の封となる。大正三年町制を施行す。町名は最明寺入道時頼諸國巡遊の際此地にて詠める「宿りせしその時よりと人問はば網代の海に夕影の松」に因むといふ。〔網代灣〕 日本三網代灣の一にして北條時頼の命名と傳へらる。灣内水清く波靜かにして沿岸には特色ある砂丘の連るあり、西方には三夜臺の鼎崖あり、月の名勝として知らる。鮑の產地たる岩和田及び勝地鼻臺にも遠からず、夏季は海水浴場として殷賑を極む。〔袴山〕 大字久保の東北の砂原に樹木繁茂し風致に富む砂丘あり、之を袴山とよぶ。山上に淺間神社あり。里傳に源頼朝元服の地なりといふも信ずるに足らず、或は夙く此地の領主たりし平廣常の如き人の元服の地なりしによるものか。〔春日神社〕 大字高山田に鎮座。郷社、春神、天見屋根命。創立年代不詳。領主權律氏の崇奉するところと云ふ。又近郷郷民の尊崇篤かりき。〔最明寺〕 大字須賀（盛松）にあり、天台宗、岩井山と號す。傳教大師の草創。初め紫雲山と號す。北條時頼周遊の際に暫く本寺に宿す。因りて現稱に改め郷名御宿と稱す。元祿年中の海嘯に諸堂壞廢し、尊海法印これを中興す。寺後の山中に一老松あり「御宿ぜし其時よりと人問はば網代の海とゆふ影の松 最明寺時頼」の歌によりて夕影の松と名づく。東海の船舶常に之を目標とす。

オンジョー 穩城（ぢやう）

【穩城郡】 朝鮮咸鏡北道の最北端。東南は慶源、西南は鐘城の二郡に接し、東・西・北の三面は、豆滿江を隔てて滿洲國の琿春・三姓洞・冷水泉子・大荒・於厚司子等に對し、面積四三平方粁。郡内山岳多く中にも慶開嶺・雲駐山・甑山及小甑山最も高峻にして漸次北方豆滿江に向つて傾斜す。耕地面積約八五〇〇ヘクタールにして本道各郡中最も少く、灌漑の利に乏しく僅に水田極めて少し。氣候は其位置牢島の最北端北緯四三度、内地の札幌と略等しきも類る大陸的にして寒暑の差甚しく殊に冬季の寒氣の酷烈なること本道第一。小豆・粟・稗・玉蜀黍等滿洲農產物と類型にて此外、人參・大麻・明紬・石炭・砂金等あり。道路は西南の鐘城に通ずるものの外會寧に通ずる國道あれど峻坂多く運輸は牛馬車或は駄馬を主とし自動車は未だ數臺を算ふるに過ぎず。冬季は豆滿江結氷するを以て間島方面との交通頗繁なり。住民の多くは農業に從事し、牧牛及養蠶も行はる。本郡はもと高勾麗の地にして女眞入居し、多溫平と號せり。李朝世宗二十二年始めて郡を置き現在の名とし、慶源・吉州・安邊等の民戸を移して人口の充實を計り、同二十三年都護府となし型年鎮を置く。その後鎮を廢して郡となし以て今日に及ぶ。本郡は行政上穩城・柔浦・永瓦・永忠・美浦・調我の六面に分たれ郡廳を穩城面に置く。昭和十年、世帶數五七二九、人口三〇四〇九。

【穩城面】 朝鮮咸鏡北道穩城郡内にありて郡内六面中の一。東は美浦面、西は柔浦・永瓦の兩面に、北は豆滿江を距てて滿洲國冷水泉子に相對す。地形は南北に狹長にして南に高く北に傾斜す。氣候は大陸的にして較差大、殊に冬季の寒氣酷烈にして最低零下二一度に達す。邑を中心として道路四通八達し、東方慶源、西南鐘城に各二等道路を通じ、又調我を經て琿春に、河西里を經て局子街に各道路を通じ國境重要都市をなす。郡廳の所在地にして地方法院出張所・警察官駐在所・郵便所・金融組合・普通學校・醫院分場等あり。邑内には毎年除暦七月一日より同月廿五日まで家畜、主として牛・豚の市を開き、其他綿布・食器・日用品・雜穀類・大麻・明紬等の取引行はれ殷賑を極む。昭和十年世帶數一一三〇、人口五九一一。

オンシン 恩津（しん）

【恩津面】 朝鮮忠淸南道論山郡に屬し郡管轄一邑一三面中の一。東は可也谷面、北は論山面、北西は論山川を隔てて城東面、西南は彩雲、南は九子谷の諸面と相隣接す。土地は東部が高く、西方論山江に向つて傾斜す。西部は土地低平にして論山平野の一部をなし論山江の灌漑の便・よく地味肥沃にして水田發達し湖南良米產地の一たなす。其他菱を產し蔬菜の栽培も亦盛に、山地には果樹多く特に柿・栗は有名なり。郡の首邑論山より南方木浦に通ずる國道は西の中央を南北に縱走し、西の中心恩津よりは二等道路西方江景、東方大田に通じ交通頗る便。鐵道湖南線は域内を東北より西南に通じ論山驛より乘合自動車の便あり。首邑恩津には面事務所・警察署・普通學校等あり。昭和十年世帶數一八二八戸、人口九六八六。

【恩津】 朝鮮忠淸南道論山郡恩津面の邑。面の略中央に位置し、鐵道湖南線論山驛の南方六・五粁、京城・木浦間の國道に沿ひ、道路は恩津を中心として四通八達し交通頗る便。米・麥及雜穀・棗・柿・栗等を集散す。邑内に恩津面事務所・警察官駐在所・普通學校等あり。

オンセー 溫井（せい）

【溫井面】 朝鮮江原道蔚珍郡の南端、郡管内八面中の一。東は平海面、北東は箕城、北は遠南の諸面に、西は慶尙北道英陽郡の首邑面に、南は同盈德郡の栖谷・蒼水二面と相對す。面内は太白山脈の南端部に位置する鶴土地帶にして高峻なり。西境には白鵝山（一〇〇四米）を始め、讓經山、北境に金藏山（八四九米）等聳立して、南北西の三面高く此等の隣接地域への交通は多くは峠を利用さる。中央を流るる南大川は周囲山地の水を集めて東流し平海面を横斷して日本海に注ぐ。この流域比較的平坦にして面邑金川里を始め虞品・德仁・德山・蕪台・溫井・倫邱・外仙峽等の諸部落この流域に連り、溫井里は溫泉を以て知られ、金川里には面事務所・普通學校・市場等あり。農產物に麥・大豆及び米等を產す。鐵物に金・銀・銅等あるも未だ採掘に着手せざるもの多し。交通は極めて不便にして東方平海里より金川里に乘合自動車の便あるに過ぎず。昭和十年、世帶數一四六四、人口八〇七八。

【溫井面】 朝鮮黃海道延白郡の東南端。郡管轄二〇面の一。東は海月面、北は道村面、西南は鴻東面に隣接し、東南は禮成江を隔てて京畿道江華郡に相對す。南半部は土地極めて平坦なれども北するに從ひ漸次高度を增し、北境道村面との間に兎尾山（二六〇米）聳立す。道路は郡邑延安より東方開城に通ずる二等道路面の北境を東西に走りて、乘合自動車の便あり。南部の平坦地域は水田よく發達し郡内稱に見る道路網密なる地域にして交通頗る便。本郡は道内第一位の米作地にして本面亦郡内に於ける重要なる米作地たり。其他麥・大豆の產亦少からず。海產物には鰯・石首魚・蛤・牡蠣等あり。面邑錦城里は面の西北境に近く面事務所・警察官駐在所・普通學校等あり。里内に溫泉ありて地方人の來浴する者多し。昭和十年、世帶數一三七四、人口七四六八。

オンセン 溫泉（せん）

【溫泉岳】 溫泉岳（栃木・群馬縣境）の別稱。

【溫泉村】 神奈川縣相模國足柄下郡のほぼ中部。箱根火山の東部にて早川に沿ひ東は湯本町、西は宮城野村に接す。南は鷹巣山、北は明星岳の山麓の斜面にて、早川の谷に沿ふ以外は悉く山地をなす。小涌谷・底倉・宮ノ下・堂ヶ島の諸溫泉あり。富士箱根國立公園の一部を成す。また社線箱根登山鐵道通じて大平臺・宮ノ下・小涌谷の三驛（大正八年開業）を置く。大字底倉より出づる凝灰岩は加工容易にして、しかも凝結力强く、よく霜雪にも耐ふるを以て建築用に用ひらる。此地は近世早川庄に屬す。應永の頃は安藤華人介の所領、のち大久保加賀守忠眞の所領となる。〔鷹ノ巣城〕 鷹巣山の頂にあり。築城の期詳ならず。天正年間、北條氏の番兵守備せしが德川家康の將松平周防守康重・牧野右馬允康成の爲に攻められ落城す。〔笛塚山〕 新羅三郎義光奥州下向の際、俗人豐原時秋に笛の祕曲を傳へし舊跡なりと傳ふ。〔底倉溫泉〕 箱根登山鐵道宮ノ下驛より北方約半粁、蛇骨川の涯畔にあり。溫泉の由來古く、吉野朝の遺臣新田義則此處に金創を癒ひしが鎌倉よりの追手に襲はれて戰死し、豐臣秀吉の小田原征伐の際石風呂を築いて將卒の戰勞を休め、創傷を治せしむと。苞屋の高山園内に義則の記念碑と石風呂の址あり。溫泉は河中の集塊岩の岩石の間より湧出し弱鹽類泉にして神經諸病・リウマチス・胃病・婦人病に効能ありと稱せらる。〔宮ノ下溫泉〕 箱根登山電車の宮ノ下驛より約三〇〇米を下る。此地は舊火口の邊緣に位し箱根諸溫泉の中央にあるを以て交通の中樞に當り、御用邸も設けられ、箱根第一の繁華地たり。海拔四一七米、早川の水面より高きこと約一〇〇米、此渓谷を隔てて明神・明星の峯東北方に長く連り、鷹ノ巣山の連峯西南より東に走り湯坂山に續くところ、その樹合の間に相模灘を見渡すを得。溫泉は淺間山鹽熔岩の下の集塊岩より湧出す。泉質弱鹽類泉。腦神經系統諸病・婦人病・胃病・リウマチス等に効能ありと稱せらる。此溫泉と底倉とは八千代橋を隔てて相對す。その八千代橋の下一〇〇米の深谷を穿つは蛇骨川にして鹽湯に近き阿字池に源を發し、蓬莱・鷹ノ巣兩山の間を流れ底倉に至り懸崖をなして早川に落ちしも、其基底は柔軟なる早川層凝灰岩なりしため削蝕せられ、懸崖は瀑布の狀をなして後退し、蛇骨瀑の岩角に至りて止まりしものといふ。底倉・宮ノ下が古來溫泉に惠まれしも此水蝕の餘慶に因る。其泉脈は初め上層にありしものの如く、其沈澱物たる硅華は國道附近に堆積して厚層をなし、或は木の葉を印し、或は蟹の類を含有す。其の葉脈を殘すもの寃も蛇の骨骼に似たるを以て俗にこれを蛇骨と稱す。蛇骨川・蛇骨野の名もこれに起因す。〔堂ヶ島溫泉〕 宮ノ下溫泉の東、早川の渓底に位し、淡水の鹽りて湧みなすもの多く、葉蔭の湧・訓の湧・不動の湧・三日月の湧・白糸の湧等あり。白糸の湧に通ずる傍に夢想國師幽棲の堂址あり、堂ヶ島の地名もこれによるといふ。溫泉は泉質單純泉。腦病・神經諸病・リウマチス・婦人病・胃病に効果ありと稱せらる。〔小涌谷溫泉〕 泉質、多量の硫酸鹽土を含めり酸性收斂鹽泉。貧血症・腦及び脊髓症・胃病・胸氣・リウマチス・婦人病・皮膚病等に効能ありと稱せられ、療養向にして且行樂に適す。神山の支峯蓬莱山の傾斜面、海拔五七六米、鷹ノ巣山・淺間山の二峯眉を壓し、遙に早川の渓谷を隔てて明星・明神の二峯を望む。箱根諸溫泉中最も眺望に富む。附近の斜面地一帶及び國道に沿うて櫻樹多く、關東の吉野の名を負ひ、蓬莱山より鳳來園にかけて各種の躑躅多く、淺間山・鷹ノ巣山の山麓には楓樹多く、其の間に千條の瀑の落つるあり、宛然一大遊園地をなす。

此温泉は明治天皇行幸遊宴と称せし、明治天皇の下に行幸ありしより、現今の称に改めしと。

【温泉場】 石川郡市街にある官有温泉場。

【温泉村】 兵庫縣但馬國美方郡の管内。

【温泉町】 兵庫縣但馬國美方郡の管内。

【温泉場】 温泉場の温泉は、温泉村の管内。

【温泉村】 温泉村の温泉は、温泉村の管内。

【温泉村】 温泉村の温泉は、温泉村の管内。

【温泉村】 温泉村

あり、三十六童子と稱す。二ノ池は一ノ池の北に接する圓形の爆裂火口にして、直徑三八四米、水のある部分は直徑一三〇米なり。二ノ池の池水は西野川の上支倉本湯川の水源となる。二ノ池の北方に饗ノ河原の窪地あり、この北壁は摩利支天(山)たり。三ノ池は周圍約四粁、長徑三七五米、面積二〇六〇〇平方米、最深度一三・三米、瓢形にして、摩利支天の東端の懸崖の下、約一〇〇米の點にあり。池水は南壁より流出して倉本湯川に注ぐ。最北なる磯子岳火口の四ノ池は三ノ池の北西に位し、數條の細水僅かに流れ、西野川の上支ツメヵ川に注ぐ。この地は黑百合その他の高山植物に富む。五ノ池は山頂の中央部西側に位し、水なく熔岩露出す。山中殘雪の融水する僅所其の他水氣の多き地點には岩角等に倚り五鉢の白花美しきハクサンイチゲの群落見受けられ、その清麗を知らる。山頂の眺望は獨立山の割合に廣からず。中央アルプスの木曾駒ヶ岳、北アルプス槍ヶ岳穂高岳・乗鞍岳・白山・惠那山等指呼の間に聳立するも、またこれ等に差られて背後の群峯は僅かに垣間見るに過ぎず。但し朝暉夕陽の美は絶讃に値し、名峯の名に背かず。御岳は古來信仰の山として名高く、山神御岳神の修崇頗る厚し。御岳の開風菅寛・覺明兩上人の石碑は到る處にありて、開山の偉業を今に傳ふ。山頂の奥の院は大己貴命を祀り、山麓三岳村黑澤なる縣社には大己貴命と少彦名命を祀り、山麓王瀧村中心部の郷社には國常立命と少彦名命を祀る。修驗道は神佛混淆の一宗派を創め、御岳講と稱し、山開き中(七月十五日より九月十五日迄)白衣の御岳講中の登拜者打ち續く。襄者の登山は富士山・立山と共に最も多く、また登山者總數は富士山に次ぐ。登山路は數路あり、木曾方面より入るる表道、飛騨側より入るる裏道と云ふ。表道は黑澤口と王瀧口の二にして、通常往復道を換ふ。登山者中王瀧口より登り、黑澤口に降る者最も多し。先づ表口は木曾川の畔にありて木曾谷にて最も繁華地なる西筑摩郡福島町より御岳道にかかり、木曾川支流王瀧川に沿ひ黑澤に至れば、黑澤口と王瀧口に分る。福島より黑澤迄十三粁、自動車の便あり。黑澤口に就きて記せば一合目より頂上まで十八粁餘、徒歩にて登高七時間、下降五時間前後とす。黑澤より王瀧川支流西野川に入り、更に支流白川に沿ひて登高す。途々含嵐瀧・日ノ出瀧・松尾瀧あり。また山小屋としては千本松小屋・中小屋・飯森小屋・一ノ又小屋等いづれも樹間に設けらる。一ノ又小屋より熔岩礫地帶となり、次いで急斜面を攀ぢて達頂す。次に王瀧口は一合目より頂上まで十八粁、徒歩にて登高七時間、下降五時間前後。黑澤より王瀧川に沿ひて西行すれば王瀧に達す。ここまで自動車の便あり。この途中に餓馬(坂)稱の奇膠あり。王瀧より登高始まる。二合目に行者の清めの瀧なる清瀧あり。四・五合目は鬱蒼たる森林地帶にして、五合目に至り三笠山を望む。六合目に田ノ原の窪地あり。ここに田の原小屋あり。この附近より路は急峻となり、偃松帶となり、頂上に御岳神社奥の宮鎮座す。ここより八丁ヌルミを行けば黑澤口の登山道に合し、石階數十段を登れば頂上に達す。發覺方面よりの登山道は三方面より通ず。小坂口は岐阜縣益田郡小坂町より濁川を遡り落合に出で、之より開八町の森林・牛ヶ鼻洞の玄武洞の絶景、原八町の調業樹林を經て海拔二〇〇〇米の袋の湯に着く。それより地獄谷の脊尾根を經て達頂す。胡桃島道は益田郡朝日村黑川より秋神川を遡り、胡桃島を過り、高根鎗山・五十三峠(最高點一五九六米)を經、法仙峯(一七四五米)を過りて達頂す。西野口は長野縣西筑摩郡奈川村川浦(野麦街道に沿ふ)より西野峠(最高點一六九二米)を經て西野川に沿ひ開田村西野に出で、長野縣と岐阜縣の境界線を越えて磯子岳に出づ。襄道なる發覺道は何れも木曾方面よりの表道に比し、交通不便にして登山者稀し。

オンチ　穩地郡(おんちぐん)　穩地郡(隱岐)

オンテイ　温底(おんてい)　→穩狹庄(奥北州宮窪郡)

オンド　音戸(おんど)**・隱戸**(おんど)**・隱渡**(おんど)　【音戸島】廣島縣安藝郡倉橋島の北部の別稱。

【音戸町】廣島縣安藝國安藝郡の東南部。廣島灣の東部に横はる倉橋島の北部に位し、南は倉橋島村と界し、北は平清盛の開鑿によるといふ隱渡瀬戸を距てて中國本陸の吳市警固屋町と相對す。町内概ね山地に渡れ北部及び東部の海岸線は屈曲に富み、北に隱渡灣、東に奥ノ内灣を擁す。低地は僅に東部海岸沿ひにありて田畑拓け米・麥・麻を産するも水産業最も盛んにて、漁網は全國及び南洋にも販賣さる。縣道は東部海岸に沿うて倉橋島村に通じ吳市にも連絡す。本町は吳市に近接するを以て商業も榮えまた吳海軍工廠の從業員の住宅地化しつつあり。本町の瀬戸部落と本陸の尖端部をなす吳市警固屋町とは對岸棄落として並存す。筑紫紀行に瀬戸町は小港にて人家二百、南より東に向け立續くと見ゆ。本町は明治三十九年瀬戸島村を音戸町と改め、昭和七年渡子島村を編入し現在に至る。町名の起原は永萬元年平清盛の開鑿にかかるといふ音戸瀬戸に面し、瀬戸棄落の海濱に御塔と稱する清盛の塔あり。之に因みて古くより於本戸と稱せしこと古書に見え、また海賊の隱れ場の意より隱渡とも書きしも、明治十年頃より音戸島と稱するに至り、町名之より起るといふ。

【音戸瀬戸・隱戸瀬戸・隱渡瀬戸】廣島縣安藝郡音戸町に屬し、吳市警固屋町と倉橋島音戸との間にある水路、全長約八〇〇米、其幅は極めて狹く、最狹部の南口は約九〇米、兩側には岩礁散點し可航水路は幅四〇米内外といふ。安藝灘と吳灣を連絡し、尾の道市方面と吳市・宇品港等の内灣各地に通ずる最短距離として重要な水路をなし、小汽船の往來頻繁なるも、潮流早く、最大三節に達する急流をなし、滿干潮には甚だ不便を來す。この瀬戸はもと本陸に通ぜし地峡なりしも平清盛これを開鑿せしものと傳へ、瀬戸の南口西角に清盛の供養塔と稱する四層の石塔建つ。石塔は高さ六尺、臺座は方一尺六寸、この石塔のあるより初め御塔(おとう)の迫門と稱せしもの、轉訛して音戸の迫門と呼ばるに至るといふ。また清盛が小舟に乘りてここを通りし時、潮流早く舟過ぎず、舟人みな恐怖せしに、清盛大いに怒りて海面をにらみつけしところ、急に潮流逆流し極めて速に瀬戸を通過し得しとの故事により、にらみの迫門とも呼ぶ。義經千本櫻・三「唐土青王山へ祠堂金お度しなさるる時、音戸の瀬戸にて三千兩の金盗み取られ、役目の難儀、切腹にも及ばん所」

オンドー　恩遠湖(おんえん)**・恩洞湖**(おんどう)　棒太大泊支廳中和庫半島の頸部亞庭灣の東北岸にあり。湖岸線一一粁、面積七・六一平方粁、深度四・六米。

オンナ　恩納

【恩納村】沖繩縣國頭郡の西南端。土地東北より西南に延び、長さ約二二粁、電腹

き處も四粁餘に過ぎず。北は一帶に海に面し、南東半は金武村に、西半は中頭郡の北部に界す。南端に沿ひて連互する恩納岳・石川岳等の脊梁山地北方海岸に向ひて傾き平地少し。海岸は小田入少からざるも珊瑚礁の發達ありて良泊を爲す。甘蔗・甘藷を主とし多少の米産あり。那覇まで約五粁を隔つるも自動車を通ず。字安富祖は竹の産地として知られオモロには當に恩納の對句となす。字恩納の役場前にある松は二百年前彼の自由奔放なる女歌人恩納ナベの詠歌を以て知らる。恩納松下に禁止の牌の立ちゆず、戯忍ぶ乞の禁止やないさめ(專制時代にあつて琉球王府の布達たる禁止の立札に對し、如何に王府の御命令でも惠まれたる私共若い男女の特權たる戯愛まで禁止する譯ではあるまいと風刺せるもの)また恩納の北方に萬座毛と稱する地あり。切り立てたる岸風の如き隆起珊瑚礁上の廣漠たる芝生にして實に天下の絶景たり。享保十一年尚敬王國頭御巡覧の際この地に臨まれ萬座毛と命名せらると傳へ、また此時ナベは「渡の座もとまれ　風の座もとまれ　首里　天加那志　美御機をがま(逢野寡節)」の歌を詠んで白太鼓踊に唱和せしむといふ。

【恩納岳】琉球五岳の一にして、沖繩島に於ける有數の高峯。沖繩縣國頭郡南西部、恩納・金武兩村界に聳ゆ。山頂より北方に金武灣、東北方に名護灣を望む。

オンナ　童女(おんな)　信濃國(長野縣)の古地名。和名抄小縣郡童女郷あり、手無奈と訓ず。地は今の上田市及び小縣郡神川村・神科村・豐尻村等に當る。

オンナカゲ　女影原(おんなかげ)　武藏國の古戦場。今の埼玉縣入間郡高萩村大字女影の邊ともいひ、また東京府北多摩郡府中町の邊ともいふ。建武二年北條高時の遺子時行、兵を起し鎌倉に攻め入らんとした時、諏川義季・岩松兵部等ここに防ぎて敗死す。

オンナカワ　女川村(おんなかわむら)　新潟縣岩船郡の南東部。村上町の東南、荒川に沿ひ、東は山形縣西置賜郡北小國村に、北は山邊里村に、西は神納村・平林村に接し、南は荒川に限らる。湯蔵山(七二六米)・光鬼山(九六六米)を主峯とする山地地域にて、村の中央をこれ等山地に發する女川西流す。村の西部に僅に水田・畑地拓け、養蚕行はれ、また木材・薪炭を産す。省線羽越本線の坂町驛(保内村坂町)に最も近く縣道通じバスの便あり。村内に温泉多く鷹ノ巣・高瀬の兩温泉は荒川に沿ひ、湯澤温泉は山麓にあり。その他千等瀧・船戻岩・淨土宗の弘長寺等の名勝あり。村名は山中の女川谷より起るといふ。また山地斜面の開墾は最近のことに屬し、上野新・中京・南中・蛇喰・若山・朴坂・上新保・宮前・小和田・高田・桂・平内新・小見・上野山・小見前・新田・湯澤・瀧原の大字よりなり、上野新に役場を置く。(高瀬温泉)荒川の谷にあり。省線羽越本線坂町驛より東方約一四・二粁。泉質はアルカリ性食鹽泉にして温度四二度、神經系統病・胃腸病・婦人病等に適す。地は荒川に臨み、遠かに飯豊の峯巒を眺むる平野に湧出す。發見年代は詳かならざるも、數百年前、荒川に傷つける鹿の河畔に佇立せしより、温泉を發見せしと口碑に傳ふ。附近には藥師堂・觀音松・蒙羅ノ淵・澤の阿彌陀如來・おりが峠・横峠等あり。荒川沿岸の紅葉も美はし。西約一粁に湯澤温泉、東約三・三粁に鷹ノ巣温泉あり。(鷹ノ巣温泉)荒川の右岸にあり。省線羽越本線の坂町驛より東約一六粁。泉質は鹽類泉にして温度四二度、神經衰弱殊に不眠症・婦人病等の療養並びに行樂に適す。明治十八年の開湯、地は碧潭を湛へたる荒川の溪流に臨み、海拔約三三〇米、岩石と老松の風致に富める鷹巣山前面を壓す。ここは鷹が巣を構へし所と傳へこれより現名起るといふ。湯は荒川畔より汲上げ浴槽内に瀧の如く落つ。荒川の曲流また自然の池をなし閑雅な境地たり。初夏の若葉、夏の避暑等に適するも、秋紅葉の景觀特に優る。(湯澤温泉)省線羽越本線坂町驛より約一三・五粁。泉質はヒ硝含有アルカリ性食鹽泉にして、温度四三度、皮膚病・痔疾・リウマチス・花柳病の療養に適す。藥師湯・高瀬湯の二つに分たれ後に山を負ひ、荒川に臨み、

建く裏座の書考を置む。〔広辞苑〕 大字西厩舎にあり。市土宗。本尊阿弥陀如来。寺伝に、寺号は元和年代不詳、本尊は元和年間の作物・義・道・法・頭・貞、西区の守護せしもの。

オハナタカ 女高 岐阜市の北部、山間の東方約一五粁に位する地名。長良川の上流、伊部・大森村の字に属し、行政上は長良川に沿う。母系親族・母系親族は、女系の流れ上位なりと云ふ。

オハネ 酒根 【酒根沼】 千葉県内の国定公園にある一小湖。印旛沼の東北部沿岸、鹿島の西北、上をもつて著はる。

【酒根岩】 別名鹿岩にも作る。千葉県北部、国定花園字内の岩島、和田村にあり、鹿島灘に臨む。メノネは「大」の意なり。東西に長く広がり五・〇六平方粁の面積にて、メノネ川が注入す。沼の大部分はスヤモノネタ川の流れ・〇・三一〇・五米の深き水路あり。沼の中央には沼地のため深き水路あり。この中央にては六・七米に達する所あり。沼の色は黒く腐敗度も二四米なり。農分は表層の外は浅く、大差なし。魚類はコマイ・ヒメカ・キタウリ・カンピ・アサリ等。東本手・酒根が行はるも自然的にすり等。春・二月・冬分・釣三四貫。アサリ・釣三四貫。春多しと云ふ。街より海岸・家化せしの者・農業・漁業に属す。

【酒根沼】 北海道釧路郡白糸村の東北、字内の東北部の字内の大沼。周囲約一五粁、面積〇・五三平方粁。底質一・五米。沼水は黄色の水に色濃く、農分は全くなし。沼底泥質。

【酒根】 上野国吾妻郡の字。字内の先端にある小湖。太平洋に面す。面積〇・五三平方粁。底質一・五米。沼水は黄色の水に色濃く、農分は全くなし。沼底泥質。

オハネコタン 酒根古丹島 北海道釧路郡白糸村の字内の北部の一島。北緯四九度二五分、東経一五四度四三分、根室支庁管轄占守郡に属す。東北は酒根古丹海峡を隔て幌筵島と相対し、西南に近く春牛古丹島に接す。周囲約一粁、面積〇・一粁、面積〇・一粁、面積〇・一粁。島は南西一北東に長く、西南西三三度方粁。島は南西一北東に長く、西南西の大山より分れ、北東端の最高点（一〇一九米）はトロイデ型の三重火山にて、南西カルデラ（海抜一〇粁、東西七粁）の中央に、山頂より火口丘あり。現在火口は有せず、山頂より火口は遠望を望む。カルデラは西南部に開き、海岸に面し、その北・東・南の三面は大平山（五八八米）・宝剣山（四二九米）・鶴家山（五七一米）の外輪山を有し、カルデラ内の外輪山を囲む。カルデラ内の三面は内外二重に分かれ、内壁は内外共に絶壁にして、外壁は内壁の外に接し、内壁は内壁の外に接し、内壁は内壁の外に接し、内

カ

カ　下面　朝鮮京畿道加平郡の略々中央・郡管内六面中の一。京城府の東北四〇粁、東は郡廳所在地たる内面、北東は北面、北は一東、西は内村面、西南は上面、東南は西面に各相隣接す。地勢東・西・北の三面山を繞し僅に南方に開く。即ち北には清溪山（八五〇米）・明智山（一二六七米）、東境には大金山（七〇六米）・皃才峴（七七六米）、西境には雲岳山（九三六米）其他多くの山嶽連なり、此等は城内に福谷の溪谷朝倉川を造り、唯一の出口峽谷によつて面外に出で、のち北漢江に合流す。交通は三等道路西方抱川より来り横斷して前記峽谷により上面を經て京春街道に合する者程坦路なり。その外は何れも峰に據る外なく、險坂多く交通便ならず。耕地面積は郡中最も狹小なる地域にして大麥・大豆・粟等を主要作物とし、漸く自給自足の狀態にあり。桑落の主なるものは朝倉川沿岸に集り、上板・下板・新上・縣里等あり、縣里は面事務所の所在地にして、警察官駐在所及び二・七の日に開設を見る市場あり、穀類・雜貨の取引行はる。人口昭和五年に五五九八、昭和十年五四五三。

カ　火面　朝鮮全羅南道谷城郡の西北部。東は三岐面・豪面・玉果面に隣り、南は和順郡、西は潭陽郡と境す。西部及び東部は丘陵地を成すも、中央に南北に狹長なる低地ありて農耕行はる。小流南部に發源してこの低地を北流し擂鼓に便よし。三等道路北部を東西に過ぎり、之より分岐せる等外道路南方に走る。いま雲谷・蓮花・青丹・鳳洞・栗川・丹士・朝陽・美世・柯谷の九里を置く。

カ　加　【加】→流山町（千葉縣東葛飾郡）

【加島】　廣島縣御調郡にある島。向島東村に屬す。尾道市の南方向島の東南に浮ぶ。南北約一粁。最高點は西南に偏し東北海岸に漁落發達す。東方百島との間は尾道港に至る船の常航路となる。

カ　神村　廣島縣備後國沼隈郡の北部。今津町及び松永町の東北に隣り、東は赤坂村、西は本郷村と界し、北は鷹品郡福相村と界す。北境に約四〇〇米の山脈を其の傾斜南方に降り、南境に龍王山（二二二米）嶺り、この兩山塊間は低地にして田畑開け、米・麥・繭を主産す。國道（山陽道）及省線山陽本線北部山地の麓に沿ひて通じ、後者の松永驛（松永町地内）に最も近く、北方福相村方面には北部山地を溪流に沿ひ北し東北境の海ケ峠越えの街道あり。此地は和名抄沼隈郡赤坂郷の地なるべし。村名は此地に鄕民の崇敬篤かりし神社ありしによるといふも今其神社詳ならず。松永湾奥の今津町は元來本村に屬せしも後發展し獨立すといふ。

カアイダニ　河合谷村　河合谷村→

カアラン　——社　臺灣臺中州新高郡。濁水溪上流の奥地蕃地にあるアメン族の中丹蕃に屬する部落。臺灣に於ける最奥地の蕃社ならん。現在は當局の勸誘により花蓮港廳マキアン方面に移住す。

カアロアン　——社　臺灣臺東廳臺東郡。太麻溪の上流北方の山地の蕃界にあり。ルカイ族に屬する高砂族部落にて往古はダアル社より移りしものと云ふ。戶數六七、人口三二四。蕃稱 Kaaroan

カイ　甲斐　【甲斐】　陸奥國（陸中、岩手縣）の古地名。和名抄江刺郡に甲斐鄕あり。今その地詳かならざるも江刺郡岩谷堂町・稲瀬村・愛宕村の邊に當るか。

【甲斐國】　東海道十五國の一。また略して甲州といひ、海無し國の一なり。行政上甲府市及び東山梨・西山梨・東八代・西八代・南巨摩・中巨摩・北巨摩・北都留・南都留の九郡に分ち、山梨縣の管轄に屬す。もとは四郡なりしが、明治十一年に前記の如く分轄さる。甲斐は即ち峡中の國の意にて、四方山を以て圍み、その間の溪谷を以て國を成すより此名起る。しかも國内には御坂山脈曲線を畫いて略ぼ東西に走り、鹿坂峠・大菩薩峠より笹子峠に至る山脈ありて、南・北都留郡より成る桂川の溪谷とその他の七郡を包含する富士川上流の地域との二部に分つ。國の中央に甲府盆地あり、甲府市その中央に發達す。この國の歴史上に現れしは景行天皇の朝、日本武尊の東夷征伐の歸途この國に入り、酒折宮（いま西山梨郡里垣村の内）に駐まりしことを以て嚆矢とす。國造本紀によれば、景行天皇の朝狹穗彦王三世の孫、臣知津彦公、此子海足尼を以て甲斐國造となすとあり。大化の改新、國造を廢し國府を置き國司をして治せしむ。國造政廳の址詳ならざるも酒折宮の邊と云ひ、國府は今の西八代郡英村の地（石和町の東南）なりといふ。堀川天皇の御代には源頼義の子新羅三郎義光が甲斐守に任ぜられこの國に儀し、これが甲斐源氏の祖となり子孫この國に繁衍す。義光の次子義清巨摩郡の武田に居り、武田冠者と稱しその勢熾んなり。その孫の信義は源頼朝の舉兵の時に赴き援け、富士川合戰の時にも大功を建つ。子信光の時に石和に移り、後幾多の變革を經しが、その十四世の孫に信虎あり。石和館を出でて躑躅崎に移る。今の古府中の地なり。子晴信は入道して信玄と號す。よく兵を用ひ、また心を民治に潜め、のち兵を四方に出し、北の上杉、東の北條、南の今川、西の德川の諸氏と地を爭ひしが天正元年信玄歿して後は子勝頼不肖にして父の業を嗣ぐ能はず、翌後十年にして織田氏のために滅さる。その後間もなく織田信長は歿しこの國は德川家康の有に歸し、家康の江戸に移るに及び豐臣秀吉の手に渡り、加藤光泰、淺野長政等相次いで封を受く。長政の時文祿三年一條小山の地に甲府の新城を營む。慶長五年關ヶ原役後、世は德川氏のものとなり、長政を紀伊に移し甲府を平岩親吉に賜ふ。慶長八年家康の第九子義直をこの國に封ぜしが幼なるを以て國に就かず。親吉を假父として國事を執らしむ。後四年義直を尾張に移し、大久保長安を奉行として國政を執らしめたり。元和二年德川忠長をこの國に封じ、寛永九年國除かれ大久保忠成が府中城代とす。慶安年中城代を止め、全國を德川綱重に賜ふ。子綱豐（家宣）入つて將軍となるに及び、柳澤吉保をこれに封ず。吉保大いに甲府城を修築せり。享保年中、吉保の子吉里を大和郡山に移し、甲府を別番の支配に移し、爾後相ついで城代を置きて明治維新に至る。明治元年九月府中・市川・石和の三縣を置き、間もなくこれを合して甲斐府とし、翌二年七月には改めて甲斐縣とせしが更に四年十一月山梨縣を置きて甲斐一國を管し以て今日に至る。諸國名義考・上・甲斐「和名抄に、甲斐（加比、國府在ニ八郡）代、名義は、鴨祐之が大八州記に、甲斐之爲ニ言飼也、飼ニ蕃駒馬ニ之謂、因以爲ニ國號ニ乎といへり、日本書紀雄略天皇十三年、甲斐黒駒云々とあり、（略）さて古事記傳に、山の峽なる由なり、加比は間と同じ云々と、云れつるぞよろしかるべき、今其國のさまを思ふに、山々聳立る間々に民屋ありて、峽の國といふべきさまなり、和名抄に、峽山間狹處也（俗、云ニ山乃加比ニ）とあり」人國記「甲斐國之風俗は、人之氣質尖にかたくへ也、意地餘國を五が國合せたる程、不ノ好國に両、死する事を不ノ厭両、傍若無人之事多し、因レ茲上は下を苦め、下は上を不ノ敬両、下萬に少しの過ちあれば、主則是を罰し、主と両下へ非道あれば、大身は忠信を專と両諫をなして、本意と云二字を忘却両怨を含み、小身下々は、即ち憤を發両害を近く設け、都両道理を不ノ辨して無道なれども、其勇氣甚巧にして、死を事とせず両、けなげ成事、譬ば於ニ軍陣ハ親眼前に討れぬれば、子是を見て其死替を踏越て共に討死をとげ、子亦討れぬれば、親亦如ノ斯、去ば人之本は勇を以て初とし、口を以て後とす、然ば其機に當る人を選両、厳に威を正く両、其正改を敬るものならば、自然と道理に歸服する事も有るべきか、其善一に其惡十也、此國生澤之鮎、題目石名高し」萬葉・三「不盡山を詠める歌一首　なまよみの　甲斐の國　打ち寄する　駿河の國と　こちごちの　國のみ中ゆ　出て立てる　不盡の高嶺は　天雲も　い行き憚り　飛ぶ鳥も　翔ひも上らず　燎ゆる火を　雪もて消ち　降る雪を　火もて消ちつつ　言ひもかねず　名つけも知らに　靈しくも　坐す神かも……坐す神かも　寶とも　なれる山かも　駿河なる　不盡の高嶺は　見れど飽かぬかも」

【甲斐(縣)】　明治初年甲斐國に置かれし縣。明治元年甲斐國に置きし府中・市川・石和の三縣を同年十月廢して甲斐府を甲府に置き、翌二年七月これを改めて甲斐縣と稱し、甲斐一國を管す。明治四年十一月に至りこれを廢して山梨縣を置き以て今日に至る。

【甲斐(府)】　→甲斐(縣)

【甲斐根・甲斐嶺】　赤石山脈（日本南アルプス）に屬し、山梨縣中巨摩郡蘆安村と静岡縣安倍郡井川村の境界に峠つ白峯（根）山の別稱。古來歌枕として著はる。なほ白峯山のみを指さずして附近の數峯乃至廣く甲斐の高岳を概稱する場合もあり。貫之集・一〇「甲斐か根のまつに年ふる君故に我はなけきと成ぬへらなり」古今・二〇「かひか根をさやにも見しかけれなく横ほりふせるさやの中山」「甲斐か嶺を嶺越し山越し吹く風を人にもかもや言傳てやらん」夫木・二〇「かひかれの山さとみれはあしたつのいのちなもたる人そすみける　貫之」同・二一「かひかれは山のすかたもうつもれて雪のなかはにかかるしらくも　順德院」

【甲斐(白根)】　甲斐國の白峯（根）山の意。甲斐嶺に同じ。草津白根・日光白根と區別して云ふ。

【甲斐駒】　甲斐國の駒岳の意。→駒岳

【甲斐川】　伊勢國（三重縣）の歌枕。其地今詳かならず。いせ人はひか事しけりつしまよりかひ川ゆけはいつみ野のはら長明」

【甲斐】　河内國（大阪府）の古地名。和名抄錦部郡の餘戸鄕の地を中世甲斐荘と稱せり。即ち今の南河内郡天見・川上・加賀田・三日市の四舊村の地なるべし。楠木正季の三代、正繁この地を領し甲斐荘氏を稱せり。

【甲斐川】　岡山縣旭川（西大川）の舊名。

【甲斐大泉】　小海線の一驛（昭和八年設置）。山梨縣北巨摩郡大泉村にあり。

【甲斐小泉】　小海線の一驛（昭和八年設置）。山梨縣北巨摩郡小泉村にあり。

カイ　紙屋川　京都市の北野神社の西を流るる紙屋川の俗稱。

カイ　荷衣　【荷衣面】　朝鮮全羅南道務安郡の西北部。荷衣島・上臺島・下臺島・大也島・蔚島の五島より成る。其中荷衣島を主島とす。此等の島々は何れも島内高く殆と農耕行はれず、大也島は海星を以て聞らす。住民は專ら水産業に從事す。荷衣島の中部を南北に等外道路走り、他の島々に船運の便あり。いま後廣・大・上臺西・熊谷・於隱・五林・上臺東・玉島・陵山・下臺東・下臺西の十一里を置く。

【荷衣島】　朝鮮全羅南道務安郡荷衣面に屬する島。務安郡は本道の西方黄海面上に散布する百二十餘島を以て構成さるる多島郡にして荷衣島はその第九位に屬する大島。羅州群島中の最南端に位置し、

木浦を距る西南海上五〇粁にあり。面積二〇・五平方粁、全島樹木よく繁茂し薪炭を產す。耕地又よく開け棉・甘藷・麥・大豆等を栽培す。沿岸には鹽田ありて製鹽業に從事し、又漁撈に從事する者多く水產物には鯛・鰯・石首魚等あり。島の主邑を大里と稱し、警察官駐在所あり。

カイアン　海安面　朝鮮黃海道長淵郡の最西端。郡管内十一面中の一にして長山串半島を占む。東は大殺、龍淵の兩面に隣接し、東北は南大川を距てて銀花面に相對す。北は新格里、南は龍田里に至る線を地類部として牛角狀に黃海中に突出する一大半島にて、佛陀山系の末端部南部を東西に走り、屏風山(三四九米)・泰山峰(三八〇米)及び尖端部に於て國祀峯(二九四米)等を起し長山串に至る、從つて南部に高く、北部は低平なり。海岸は南岸及び尖端部は岩石海岸にして頗る急崖を成し、甄部に近くに從ひ砂濱となり慈洞の江灣あり、北岸は南岸に反し概ね砂濱海岸を成し砂丘及潟の發達を見、中部に夢金の入江、北部に南大川河口の大灣内江を形成す。產物は麥・大豆等にて沿岸には石首魚・貝類等の魚獲あり。陸上交通は面邑夢金浦を中心として、東方長淵・東南方風山等に通ずる三等道路の外海岸一翌道路及び横斷二道路あり。海上は夢金浦寄航地として朝鮮船の出入頻繁なり。また漁獵の產地として知られ漁船の出入多し。面邑夢金浦には面事務所・郵便局・警察官駐在所・稅關監視所・朝鮮水產組合出張所・公立小學校及び私立學校等あり。人口昭和五年一〇〇五三人、同十年一一三六一人。

ガイアン　外坡　↓西嶋庄（臺灣澎湖廳）

ガイアン　亥安面　朝鮮江原道楊口郡に屬する面。郡管内七面中の一。郡の東端に位置し、道邑春川の東北四五粁にあり。東及び北は麟蹄郡端和面、西及び西南は東面に各相隣接す。太日山脈中稀に見る圓形の山間盆地にして、周緣何れも九〇〇乃至一〇〇〇米以上の山嶺を以て圍繞す。卽ち南境に突兀たる岩膚を現はす大嚴山(一三一六米)盆地を瞰下し、西境には兜率山(一一四八米)・加七峯(一二四二米)等相連り以て完全に圍繞さる。周緣山地に發源する幾多の河谷は盆地中央の城隍附近に於て合流し、のち東流し山壁を破り見事なる峽谷を形成して面外に出で東流し、麟北川に合して南流す。道路は面邑城隍を中心として道路放射狀に發達すれども外部へは前記峽谷に依る外は總て峠路にして險坂多く車を通ずるものなし。當山間地域人口密度の最も大なる地域にして月山・後里・泥峴・縣・獨山村・萬柴等の聚落盆地の周緣山麓線に沿ひ環狀に分布し城隍獨り中央に玉座の如く位置す。城隍には面事務所・警察官駐在所・市場等あり。產業振はず、自給自足の原始的生活狀態をなす。最近人口減少の傾向にあり、昭和五年四三二六人、同十年四〇七五人。

カイインジ　海印寺村　京都府山城國乙訓郡の西南部。乙訓村・大原野村の南、大山崎村の北に接し、西は大阪府三島郡島本村と界す。釋迦岳東南側の斜面東に向ひて下り、西半は山地なるも東半は山城盆地西邊の一部にて田畑拓け、又竹林多し。京都市に近く交通不便ならず。古くは和名抄、乙訓郡鞆岡郷に屬せるものの如し。村名は名刹海印寺ありしに因む。海印寺は文德天皇の勅願所にして、華嚴・眞言兼學たり。弘仁十年、空海の弟子道雄の開基せるものとす。盛時には境内八町、支院十宇に及びしと云ふも、應仁亂に伽藍烏有に歸し、今は僅かに寂照院を殘すのみ。大字金原に土御門天皇の御陵金原陵あり。〔金原陵〕大字金原字金原寺にあり。土御門天皇の御陵。天皇、阿波の配所に於て寛喜三年十月十一日崩御、其地に火葬し、御骨を京師に送り奉る。御母承明門院は御遺詔に遵ひ、西山金原に御堂を營み給ひ、天福元年十二月十二日ここに御骨を藏め給ふ。これ卽ち金原陵にして爾後屢々山陵使を遣して巡檢せしむ。然れども中世荒廢してその所在を失ひしが幕末修治の際、現所に御治所、慶應元年修補竣る。因に御火葬所は德島縣板野郡鳴江村大字池谷とす。〔梅谷寺〕大字淨土谷にあり。淨土宗西山派。立願山と號す。寺傳に據れば大同年中、洛東清水寺の開祖延鎭の創立と。久安年中、立岩山西清水寺の勅願を賜はる。のち雲集に罹り久しく再興する能はざりしが慶長十九年に至り士筌本堂を建立、淀君の祖財を得て本尊厨子を造る。次で元和年中勅願所に列せられしも、のち衰類せり。元祿年間是海本堂を重修するに及び諸堂漸次具備するに至る。本尊觀音は眼病に靈驗ありとて遠近より參拜者多し。本寺の北方十餘町に惠心僧都得業を修せりと傳ふる淨土谷の舊跡あり。〔寂照院〕大字奥海印寺にあり。古義眞言宗。本土山と號し一に海印寺と稱す。弘仁十年僧道雄開創す。傳へ曰ふ、道雄僧都靈夢に感じて此處に勝地を得、朝廷より伽藍建立の聽許を得、尙莊園をも拜受せりと。又善財童子華嚴經を負ひ岩中より出現して僧都に授けしとも云へり。此地四圍に山あり樹木陰々たるを以て奥海印寺の稱あり。往時寺觀の盛なりし頃は本堂に弘法大師作の千手觀音を安じ山門には運慶作の金剛力士を置き域内八町支院十數を算せしも應仁の大亂に幾亡し僅に本院のみを存す。天正年間信長の青龍寺城を攻むるや本寺に陣營を置く。

カイウン　海雲面　朝鮮平安南道龍岡郡に屬する面。郡管内十四面中の一。郡の西端に位置し、價南浦府の西北二五粁。東は龍岡面、北は龍月・瑞和の兩面・南は土城・金谷・三和の三面に各隣接し、西は黃海に面す。妙香山脈の餘脈ななす神德山(四一〇米)及鳥石山(五〇五米)等の高峰東境に相聳立するも、本面は東西に長く延にその餘脈西方に及ぼす西半部は土地極めて低平なり。海岸は頗る淺く干潮時は遠く十餘粁の沖合に至る間海底を現はす程なるを以て良好なる碇泊場を缺き海上交通は振はず、寥ろ陸上交通便にして道路頗よく發達し、南方價南浦より義州に通ずる二等道路域内を縱走し之より更に幾多の支線を分ち乘合自動車を通ず。產物は米・麥・粟・棉花・煙草等にして沿海には天日製鹽行はれ又魚貝を產す。溫井は面の南西部に位置し面事務所・警察官駐在所等あり、又價南浦及び龍岡街道の過分に當り、此地點に海雲溫泉場ありて交通の便と相待ち四時客絕えず。其他主要聚落は南に城峴・萬城・龍井、北に白屏・弓山・延鳳等あり。東境に黃龍城址あり、城は鳥石山南斜面に山頂より山腹に亘り周圍三・八粁、高さ五米の城壁を繞らせる險要の山城なり。太古箕子平壤に都せし時其孫を此地に封し黃龍國と稱し、本山城は其居城なりと稱す。人口昭和五年六七三〇人、同十年七二五八人。〔龍岡溫泉〕溫井里にある溫泉。泉質は無色透明の鹽鹽類泉。

カイウンダイ　海雲臺　↓東萊邑（朝鮮慶尙南道東萊郡）

ガイエン　外烟列島　朝鮮忠淸南道保寧郡に屬する列島。保寧郡の海岸を去る西方約五〇粁、黃海上に浮ぶ數個の島嶼より成る。列島は太白山脈より分岐せる車嶺山脈の餘脈の西南に展びその沈降の結果生ぜし陸島にて、列島中最大なる外烟島は中央にあり、之を繞りて北に冠長島、北西に大靑島、西に橫見島、西南に格島、南に賀馬・草芒の兩島、東南に水島其他數島ありて一群を成し、寥ろ群島と稱するが至當なるべし。最大島外烟は周圍約七粁、島中三山那立し、東部のもの二七三米にして最高峰を成し、此三峯の麓合に稍低地ありて聚落の發達を見る。他の諸島何れも丘陵をなし山脚直に海に浸し岩石の念海崖を形成す。なほ橫見・格の兩島に各數個の人家を見る。近海は鯛・比目魚・石首魚・太刀魚・鰒等の好漁場なるも本島民の漁撈に從事する者極めて少く漸く鰒・貝類を漁獲するに過ぎず、一般に生活程度頗る低く離島者逐年增加し人口減少の傾向あり。

カイオー　海鴎面　朝鮮平安南道中和郡の西南端。郡管内十五面中の一。平壤府の西南二〇餘粁。東は新興・楊井の兩面に、北は大同江を距てて江西郡草里・善林の二面に、西は同じく江を隔てて城嶽、南は香新の各面に相對し、また黃海道黃州郡松林面に梅上川を隔てて相對す。城内には海鴎山(三三二米)・鄙耳山(一九四米)等聳え、麓して丘陵多く平坦地に乏し。產物は米・粟・大豆・小豆等にて又鉛布を產す。鐵道京義線中和驛より直路二〇粁、三等道路ありて乘合自動車の便あり。對岸の新安・城嶽・善林へは夫々渡船による。面邑瑞浦里は海鴎山の西麓にありて面事務所・警察官駐在所・市場等あり、市日の除曆一・六の日は殷賑を極む。聚落の主なるものは花虎・問谷・東川・新萬・二安・三街・東谷・梅峴・明月・黃山・竹山等なり。人口昭和五年一一五四五人、同十年一一八二七人。

カイカ　會華面　朝鮮慶尙南道固城郡の東北部。固城面との間に馬嶽面を隔て西は九萬面に隣り、東北は昌原郡鎭田面と界し、南は海に臨む。西北境山の山地北部に連なる南部は低地にして地味肥沃、氣候溫和なると相俟ち農耕に適し農產物に富むと共に又漁業も盛なり。馬山府より固城面に至る二條道路南部低地を西南より東北に貫通し、バスの便あり。いま三德里・鹿鳴里・背屯里・堂項里・鳳東里・語新里の六里より成る。

ガイカ　外下面　朝鮮平安北道龍川郡の西南端。郡管内十二面中の一。鴨綠江口龍巖浦より東南一〇粁にあり。東は外上、北は内中、西は府羅面に各隣接し、南方海に面す。東部は小丘陵起伏すれども西部は不二農場の干拓地域の一部を成し土地極めて低平なり。府羅面外隣接三島面六八〇〇ヘクタールの廣大なる地積に灌漑すべく二〇〇萬圓を投じて大正水利組合を設立し、以て米作の發達を輔け今や本道中第二位の米作地となりたり。農作物は米の外麥・馬鈴薯・大豆等あり、水產物は鰒・石首魚・鰻等にして又自眼の大漁場として有名なり。交通三等道路は東方鐵道京義線南市驛より西北方龍巖浦に域内を橫斷して通じ乘合自動車の便あり。面邑栗谷は面の略中央に位し、面事務所・警察官駐在所・普通學校等あり。其他主要聚落に中虎・下虎・仁峯・松興・靑龍・盤弓・南鴨・南機・雙機等あり。人口昭和五年一〇一七七人、同十年一一四六一人。

カイガケ　鎌掛村　滋賀縣蒲生郡の南東部。日野町と甲賀郡土山町に接す。此地曾ては東海道土山宿より中仙道愛知川宿に通ずる脇往還（江戸時代には安土街道といひ、明治に至り御代參街道と稱す）の宿驛にて、伊勢神宮・多賀神社參拜及び北國筋と東海道を結ぶ要驛として旅宿軒を並べ殷賑を極めしも、鐵道開通以來次第に淋れて、今は山間の一寒村たり。生業は全く農業にて主產物は米・麥・菜種、特產物に松茸あり。村内の正法寺は本尊十一面觀世音にて境内に正和二年の銘ある石造寶塔あり、また光明寺には天明三年の銘ある梵鐘を蔵す。本村附近の地古くは來田綱（くたつな）蚊屋野（かやの）と稱せし處にてここに莊園時代には紙園社領又は日吉社領あり、いま本村内に八坂神社・日吉神社のあるは、その由緣偲ぶに足るべし。中世の終りには蒲生氏の所領となり、交

◎二年蒲生秀行此地(今の城山)に見掛城を築き、其子秀紀これに居り後は城代を置きしが、豐臣秀次八幡城にありし時廢城となる。此地は江戸時代始め幕府領たり、延寶八年徳川綱豐領となり、次で綱豐六代將軍となるに及び再び幕府領となる。のち小笠原佐渡守・井上河内守・松平周防守の提封を經て明治維新に至る。村名の起源に就ては二説あり。一説は莊園時代此地に租米を取扱ふ倉取職居りしに始まり、倉掛の文字が寃てられ、後誤りて鎌掛となるといふ。また一説は、往昔此地にて或者熊を獲たるが重くして一人にて背負ひ得ず。此場所の木に鎌を掛けおき村に歸りて助けを求む。のち此鎌をかけたる者此地を永住の地として移住すとなすといふ。今に熊猟姓を名乗る家村内に數軒あり。また村内に一傳説あり。即ち、來田穂敏屋野は市邊押磐皇子の御遺蹟にして、此地古くは猪鹿多く住みゐたるが、天智天皇御遊獵の折、秦川勝の末茅別宿禰の弟乙人磐一頭の熊を獲、これを天皇に獻上す、よりて天皇は彼に熊猟の姓を賜ふといふ。〔鎌掛谷ほんしやくなげ群落〕村内に日野川の支流駒斧組川の渓間にて鎌掛谷と稱する所あり、近江鐵道日野驛の東南約六粁、海拔三二〇—四〇〇米の地にて面積約四ヘクタールに亙り石楠花の群落あり、其數凡そ五萬株、樹幹の高さ普通二米内外、高きは四米にも及び、その基幹の直徑一六糎に及ぶものあり。この大なるものに至りては基幹より十數本の小幹を出し、株張八疊敷位に擴がる。四・五月の頃開花し一大美觀たり。昭和六年天然記念物に指定さる。〔誓願寺〕大字鎌掛にあり。眞宗本願寺派。もと眞言宗にて山神寺と號す。蓮如上人巡錫の時、住僧某上人に歸依して西願の號を賜ふ。後嗣なく治太夫なる者入道して善教と稱し其嗣をつぎ、實如上人より總佛の號を賜ひ、西願道場と稱す。

カイガタ　海潟瀬戸　鹿兒島縣肝屬郡垂水村海潟部落と前面の櫻島との間にありし海峽。大正三年櫻島火山爆發のため流出せる熔岩のため塞がれ、今は海峽の實を失へり。

ガイカチライ　外加芝來社　臺灣高雄州恒春郡の北方四重溪の附近にあり。チョカチライより分離移住せる部落にして住民はパイワン族、パリウヤリジャオに屬する高砂族なり。昭和十一年末戸數二三、人口九〇。

カイガヤ　桂萱村　群馬縣上野國勢多郡の西南部。前橋市の東に接し、北は芳賀村、東は大胡町・宮戸村に隣る。赤城山南側裾野の末端に當り地は緩かに南に低下し、南半には水田北半には桑園林野多し。米・麥の產を第一に齎之に次ぐ。社線上毛電氣鐵道の三俣・片貝・上泉・江木の四驛(何れも昭和三年設置)あり。また前橋・大胡・大間々を繋ぐ縣道に當りバスの便あり。縣立勢多農林學校あり。和名抄に勢多郡桂萱郷ありて加良加也と訓す。一に萱は雲の誤にして加太加也と訓み即ち大字東片貝・西片貝の地ならんといふ。松陰私語に文明九年太田資長片貝に陣し、次いで卷荒に移るといふは蓋し此地か。大字上泉は中世大胡氏の居ぜし地にして、關八州古戰錄に據れば弘治元年北條氏康上州へ發向、厩橋に在城し猛俣能登守則直を攻めさす。城主大胡武藏守信綱富長なりしかば是に和を請ひ北條氏に降る。時に上杉輝虎平井に來り長尾藥政・同謙忠をして厩橋を押へしめ、己は上泉邊に亂入すと見ゆ。

カイガラ　貝殼島　北海道根室國花咲郡琉璃海峽に浮ぶ小島。齋舞村に屬す。納沙布岬と水晶島の略々中間に位す。西南方にオドケ島・鮫茂尻島浮ぶ。

カイガン　海岸　【海岸山脈】臺灣臺東廳花蓮港廳にあり。北は花蓮溪、南は卑南大溪を結ぶ幅五粁、長一二〇粁に達する臺東縱谷平野によりて西方の臺灣背梁山脈より分離す。高度約六〇〇米以内の太平洋岸の山脈は從來種々の名稱を以て呼ばれゐたるが、地學者間には臺東海岸山脈の名稱が最も適當とせらる。山脈は全體として表面は隆夷平坦の地貌を呈し、特に著しき事實は、臺東海岸山脈より臺東縱谷平野へ注ぐ河川は略ぼ等しく、秀姑巒溪の如きは西より東へ山脈を中斷して嵌入蛇行しつつ海に注ぐ。地質は第三紀層より成り特に安山岩及其凝灰岩等の發達著し。地質調査は未だ甚だ不充分なれども山地には銅鑛床・海岸には砂金鑛床の開發を見つつあり。海岸山脈に於いて、現在知られ居る植物は、顯花植物七百餘種(羊齒植物を加ふれば八百餘種)と推算せらる。總じて海岸地方は恒春半島部・紅頭嶼の地方と共通の謂ゆる比律賓群島地方と共通の熱帶植物に富み、タイトウルシ・クサトベラ・林投・タイワンハマオモト等の群叢よく發達し、又山地は臺灣本島の山地の植物と一致したる種多く、北半部はクスカシの群叢、南半部には籐・クハズイモの群叢が著しく目立つ。さて此の植物、地理學上の位置は西方印度ヒマラヤ系と南方馬來系とを半々に受けて居り、先づ兩系の干渉地帶として臺灣植物區中に於いて特殊の區域として海岸山脈(又は臺東山脈)小區と見るを妥當と考へらる。なほ本山脈の特產植物にタイトウウメバチサウ・タイトウアミガサノキ・チラガツチトリモチ・ヨタゲウヅラ・フザイロエビネ等あり。

【海岸】臺東線の一驛(明治四十五年設置)。臺灣花蓮港廳花蓮港街にあり。

カイガン　解顏面　朝鮮慶尙北道達城郡に屬する面。郡管内十面中の一。郡の中央より稍北に偏在し、大邱府の東北約五粁、東は安心、北は公山の兩面に隣接し、西は洛東江の支流の琴湖江を隔てて域北面、西南は同じく江を隔てて海域・孤山の兩面に相對す。東北境に龜岩山聳え、その山麓は城内に於て西南に向ひ漸次低爲し、琴湖江河畔に至り低平なる沃野を成し大邱盆地の一部を形成す。氣候は内陸の盆地性にして較差大、珠に晝夜の氣溫差の甚しきはその特色なり。鐵道は京釜線大邱驛に於て分岐せる東海中部線、面の南部を經て東方慶州蟾山に通じ面内に東村驛(大正六年設置)あり。道路は此驛を中心として慶州街道東に走るを始めとし放射狀に四通八達す。住民は農を主とし米・麥・大豆・棉花・麻・煙草の外、郊村としての大邱への蔬菜及事果の栽培盛なり、最近養蠶も盛に行はるるに至れり。立石は面の略中央に位し面事務所・警察官駐所等あり、二・七の日に立つ市場邑の北方にありて開市日には賤び穀類・果物・水產物の取引盛なり。桑落の主なるものに釜・中山・格陽・坪里・東村・檢沙・不老等あり。

カイガンジ　海岸寺　豫讃本線の一驛(大正二年設置)。香川縣仲多度郡白方村にあり。

ガイキ　外貴面　朝鮮平安北道江界郡の西北部。郡管内十八面中の一。郡邑江界の西北約十五粁、東は從西、北は吏西、西北は文玉、南は時中・曲河の諸面に相對す。鳥林山脈郡の東境を縱走し又蓋馬熔岩臺地の西端部に當るを以て全郡山岳地帶をなし爲に全鮮第一の大郡をなす、從つて管下の各面共に面積廣大にして當面の如きも東西二四粁、南北一〇粁の大面積を有す。境域内八〇〇—一〇〇〇米の山塞起伏して平地に乏しく鴨綠江の支谷禿魯江に注ぐ乾浦川流域に稍平地を見る。耕地は山脚の傾斜を利用して陸段耕作行はれ、主として大豆・煙草・燕麥・馬鈴薯・玉蜀黍等を栽培し殊に大豆の產額極めて多し。道路は新義州より江に沿ひて上り江岸の滿浦鎭より面邑乾下洞に達し、此地より北上して惠山鎭に至るもの、之より東南して江界邑に至るもの等何れも三等道路を此地に於て分岐す。最近自動車を通ずるも同數少く交通便ならず。桑落の主なるもの乾上・外貴鎭・吏南等にして何れも戶口少く、昭和五年人口六八一六人、同十年七四五〇人。

カイキュー　掛弓面　朝鮮黃海道延白郡に屬する面。郡管内二十面中の一。郡の西境に位置し、開城の西方約四〇粁にあり。東は鳳北、金山、北は牧丹、西は秋花、南は龍道・鳳西の諸面に各隣接す。東西に狹長なる地域を成し、長さ東西約一五粁、南北僅に三乃至五粁に過ぎず。東北境に欒山(二七三米)、南境に臨海山(二六五米)ある外は一般に低山性丘陵地にて、北境を花陽江流れ沿岸灌漑の便よく水田開け本道有數の米作地なる外、麥・大豆等を產す。交通は鐵道京義線上城驛より延安を經て面邑羽銅にバスの便あり、又附近には產金地として古くより知られ、金山星の名も亦之に因るものの如し。桑落の主なるもの姑美・碧潭・文山花城・松溪・兎峴・雲山・海月等あり。人口、昭和五年前者に屬するものに詔・注邑・西・貴殺・自烟等、後者に屬するものに下紫浦・上紫浦・九尾里・仰德等あり。人口、昭和五年四一三二人、同十年四六二七人。

カイグン　海軍・海軍新原　福岡縣糟屋郡にある炭礦。我國重要炭山の一。鐵區は宇美・須恵・志免・仲原の四箇村に亘る。塊炭・粉炭・切込炭・粗炭を出す。いま海軍省の經營に係る。昭和十年の產額約五二萬瓩。

カイケ　皆生　↓鳳生村(鳥取縣)

カイゲツ　海月面　朝鮮黃海道延白郡に屬する面。郡管内二十面中の一。郡の東南端に位置し、郡邑延安の東方一五粁に位す。北は柳谷面、西は溫井面に各相隣接し、東は禮成江を隔てて京畿道開城郡に面し、南方は禮成・漢江兩江の合流する河幅の最大部に臨み、江を距つる約一〇粁にして京畿道江華島及び喬洞島に各相對す。馬兒嶺山脈の餘脈城内に横り、北西境に兎尼山(二六〇米)の聳立を見るも其他は概して丘陵性にて江に面する南半部は土地平坦にして延平平野の一部を成し、良米を產す。海產物に鯉・石首魚等あり。鐵道京義線土城驛よりバスの便あり。金山は面政の中心にして面事務所・普通學校・警察官駐在所等あり、又附近は產金地として古くより知られ、金山星の名も亦之に因るものの如し。桑落の主なるもの姑美・碧潭・文山花城・松溪・兎峴・雲山・海月等あり。人口、昭和五年

七三四二人、同十年九一九七人。

ガイゲツ　涯月面　朝鮮全羅南道濟州島に屬する面。道廳皆下一邑十二面中の一。島の北西部に位置し、東は濟州邑、東南は西歸面の一部に、南は中文・安巒の兩面に隣接、西は翰林面に對し北方渺茫たる濟州海峽に面し、快晴日には海上遙か北方に漢子群島を望む。地勢東南境に朝鮮第二の高峰漢拏火山屹立し、本面は其西北斜面の地域を占めアスピーテ型火山獨特の美しき曲線美を成す中腹及山麓には老路(一〇六九米)・鹿古(八四一米)・發伊(七六五米)・赤岳(一〇六一米)・多栗岳(六九三米)・新星岳(五二四米)三山岳(六六〇米)等無數のコニーデ或はトロイデ火山隆起して頗る偉觀を呈し、全域略ど黑色玄武岩を以て被はれ其黑色熔岩は遂に海岸に達し叠崖を成して海に沒す。海岸より三〇〇米の地域は耕地を成し、それより海拔六〇〇米に至る地域は草原帶を成し、其間に霊立する前記諸火山の目を遮る外は一木も認められざる大草原を成し、之より頂上一九五〇米に至る間は美事なる林相を成し、其植物相の變化は溫帶闊葉樹林より漸次寒帶減葉樹林にと變化し、其垂直的變化の顯著なる地域として著しく學界に注意を惹く所なり。河道はあれど雨時以外に流水なく總て涸渇流なし、伏流して海岸に達し泉となりて湧出するもの多く、部落は之等の水によりて位置を決定せられ海岸地域に集村として發達し、内陸に在るものは天水に依據し散村型居住形態をなし、其家構・外觀陸地方面と其趣著く異るものあり。耕地は大部分田(畓)作にして水田無く、田は柔く石垣を繞らし大麥・粟・棉花等を主とし甘藷は耐風作物として最も卓越し、近時除蟲菊等栽培され其耕作景觀頗る特色を呈す。古來牧畜盛にして前記の草原帶は好適の放牧場となり牛馬の頭數頗る多く養豚亦盛なり。臨海の婦女子は半島部の婦女子と異り夙に海潛漁業卽ち海女漁業に從事するの風あり、其技術頗る卓越し、沿岸漁業に從事して蝶螺・鮑・和布・カジメを採取する外、遠く牛島及内地に出稼す。交通は濟州城内より一日數回乘合自動車の便あり、又阪濟汽船は山地港(濟州邑)を經て面邑涯月港に寄航し、最近朝鮮郵船船木浦・濟州間航路船も亦寄港し交通頗る便となれり。涯月には面事務所・警察官駐在所・三・八の日に開かるゝ市場等あり。其他聚落の主なものは敦支・高内・新嚴・水山・下貴等何れも海岸に、内陸には古城・今德・長田・召吉・新邑・於音・於道等あり。人口昭和五年二二三九六人、同十年二二二六三人。

カイケン　淦縣面　朝鮮全羅北道沃溝郡に屬する面。郡管内十面中の一。郡の西南端に位し、群山府の南方一〇粁、東は大野面、北は圓井・玉山の兩面、西は舊邑面に各相隣接し、南は萬頃江河口の喇叭形入江に臨む。域内は小白山脈の餘脈延びて北半部は丘陵性地域を成すも南部は謂ゆる金州平野の一部に當り地味肥沃、本道有數の農業地域を形成す。前面の萬頃江は小舟の上下自由にて運輸の便あれど、干潮時は干滿の差著しき西朝鮮の特色を表し、對岸の新鳳面瓮約五粁徒渉するを得。かゝる入江は遠淺のため碇泊不便なり。農産物には米・麥・大豆を主とし又菜蔬を產し、水產物には魚・貝あり。金光は面の略中央に位置し、面事務所・學校・警察官駐在所等あり、群山及鐵道群山線地境驛よりバスの便あり。人口昭和五年八四八七人、同十年九三七三人。

カイケンセキ　海堧厝　(臺灣臺中州大甲郡)→大安庄

カイコー　海口　(臺灣新竹州竹南郡)

【海口】→竹南庄(臺灣新竹州竹南郡)

【海口庄】臺灣臺南州虎尾郡。新舊虎尾溪中間の一區にして、北は崙背庄、東は土庫庄、南は北港郡と境し、西は海に臨む。水利に惠まれ土地豐沃なり。海岸は砂丘點在し遠淺にて港灣に乏し。いま海口・崙子頂・善令厝・山寮・十張犁・牛厝・溪頂・五條港・新興・紋港・五塊寮・火燒牛稠・東勢厝・牛埔頭・程海厝・蔡利潭・下許厝寮・番子寮・月眉・同安厝の廿一字に分たる。面積約一一二平方粁、人口二萬二千八百。清康熙六十年代設立の海豐堡の南部に當り、宇海口は當時海豐港と稱し同堡の中心地たりしに因り堡名を生ぜしめたるを見るに、本庄の過去の位置は察し得らる。雍正年間漢人の開墾着手より東勢厝には閩人陳姓・崙子頂には泉州人巡入して許厝寮に及ぶ。產業は地理的に惠まれたる農業を第一とし其總產額三十四萬四千百五十二圓にして、米・甘藷・甘蔗・落花生・黍・大麥・小麥・豆類・胡麻・黃麻等を產す。畜產は十二萬二千九百六十五圓にして豚・黃牛・水牛・山羊・鷄等。その屠殺數は五十七圓萬に上る。水產は十四萬圓にして蛤・鰕・西刀・太刀魚等鹹水・淡水を含む。商工業は七萬一千圓にて主として煉瓦・瓦・鍋・鍋等に農民向雜貨類の販賣にして商況活潑ならず。(海豐港)宇海口の地にして舊虎尾溪の河口に臨み一に海防港とも書す。清の雍正九年開きて鳥内貿易に當てたる當時は港灣水深くして商船の寄泊するもの多く、早くより街區を形成せしも乾隆末年新虎尾溪其河口を北方に轉ずるより河口堆塞して廢せらるゝに至る。

(五條港)宇五條港の地にして道光十二年版彰化縣志に見えたるも、附近一帶の砂濱は冬季北風に依り次第に港口を埋め廢口になりしものの如し。

【海口港】臺灣高雄州恒春郡車城庄に位置する一小港。本港は本島南部に於ける水產業者の避難港及根據地として、又一面に於て、恒春地方物資の搬出入港として最適當なるものと認められ、國費十一萬五千二百圓を以て、大正十一年港内浚渫

防波堤の築造工事を施されたり。留來港としての面目を一新したり。海口燈臺あり。大正十二年七月の建設にして、等級なし。燈質は明暗光明二秒、暗一秒(紅光分氣アセチリン瓦斯)にして、光達距離は八浬半、燈高は水面上一四・二米なり、雲基鼻燈臺の管理するところなり。

カイサイ　海西　【海西村】岐阜縣美濃國海津郡の東北端。今尾町の東北隣にて、東は長良川を隔てて羽島郡堀津・桑原二村に、北は長良川分流を挾みて安八郡大藪町に對す。全村低平、水田多く、河邊には桑畑拓く。竹ヶ鼻町より今尾町及高須町への道路通じ交通不便ならず。本村は野寺・幡長・者結・勝賀・蛇池・岡の舊六箇村を併合せるものにして、大字者結は一に蛇穴に作り此處に其の蛇の住める池ありしといふ。村内に勝村の部落あり、慶長五年關ヶ原の役に今尾城主市橋氏の兵、歩行の渡にて西軍の兵と戰ふ。〔脇田の石塔婆〕大字蛇池字脇田に在り。中央に高さ約九尺の寶篋印塔ありて、其の左右及び後方に二列に二三十基の小塔婆(五輪塔及び寶篋印塔)列び立てり。中に「長祿三年十二月廿一日」(寶)及び「法忍禪門、永正元年八月十日」(五輪)の銘文あるものあり。古より「源頼光塚」なりと云ひ傳ふ。頼光が美濃守たりし事は古書にも見ゆれど塔婆は足利時代のものにして、頼光と關係なきこと明かなり。蓋し古の豪族の墳墓か、或は供養塔の類なるべし。〔大國屋敷〕大字者結にあり。日碑の傳ふる所に依れば、豐臣秀吉が少年時代に當宇に草刈泰公として入り込み村の少年を集めて軍遊をなしたりといふ。いま此地に豐國神社あり、豐太閤を祀る。或は之と關係あるか。〔神明神社〕大字勝分字梶池に鎮座。郷社。祭神天照大御神。江戸時代には數次の水害に依り古記を流失す。文政八年社殿修造の事あり、近村の產土神と崇めらる。例祭日、陰曆八月十五日。

【海西(郡)】美濃國(岐阜縣)の舊郡名。明治二十九年廢して下石津郡に合せ、海津郡の新稱を建つ。本郡は木曾川及び長良川の衝に當り、謂ゆる高須輪中の東部にして卑濕の地なり。もとは尾張國海西郡の一部なりしが、天正十二年、豐臣秀吉、木曾川以西の地を割き美濃國に編入し、美濃國海西郡となし尾張國海西郡と區別せしめしもの。いま海津郡海西村は郡名の遺稱とす。

【海西(郡)】尾張國(愛知縣)の舊郡名。中世海部郡を東西二郡に分けしもの。卽ち海部郡の西部にて、和名抄の三刀・惣忌・八田の三郷に當るものの如し。分郡の期は詳ならざるも、源頼朝の治世治承年間ならんといふ。天正十二年、豐臣秀吉、木曾川以西の地を割きて美濃國に屬せしむ。因りて尾張國海西郡、美濃國海西郡に分る。大正二年尾張國海西郡及び海東郡の二郡を廢し舊に復して海部郡を建つ。而して舊郡城は今の海部郡彌富町及び市江・佐屋・立田・鍋田・飛島・十四山・八開の七箇村に當り、彌富町に郡役所を置けり。

カイサイ　海際面　朝鮮全羅南道務安郡の東北部。東南玄慶面に隣る以外は全く海に面す。北部は低丘陵を成すも概ね低平にして農耕行はる。三等道路東南方より來り東南端の洋月里に達す。また等外道路これより分岐して東北端道里浦に通ず。いま柳月・松石・萬豐・雨梅・龍鶴・新井・德山・鶴松・大士・臨水・廣山・山吉・泉壯・蒼・洋月・石龍の十六里を置く。

カイザキ　海崎　大分縣南海部郡八幡村の大字。省線日豐本線の一驛(大正二年設置)あり。

カイザン　槐山　【槐山郡】朝鮮忠清北道十郡中の一。槐山郡は本道の略中央より稍南寄りに位置し、東は丹陽、北は忠州・陰城の兩郡に、西南は儀川・清州・報恩の三郡に各相隣接し、東南は慶尙北道聞慶・尙州の兩郡と境す。面積九七一平方粁にて本道中第一の大郡たり。地勢は小白山脈の北東より來り南方に方向を轉ずる變換點に位置し、高峰峻嶺東南境に連る、卽ち白岳山(八五三米)・長成峯(九一六米)・九王峯(八八四米)・白華山(一〇六四米)・鳥嶺山(一〇一七米)・文繡峯(一一六二米)等相連つ。而して舊郡城は今の海部郡彌富町及び市江・佐屋・立田・鍋田・飛島・十四山・八開の七箇村に當り、彌富町に郡役所を置けり。

カイサイ　海際面　朝鮮全羅南道務安郡の東北部。東南玄慶面に隣る以外は全く海に面す。北部は低丘陵を成すも概ね低平にして農耕行はる。三等道路東南方より來り東南端の洋月里に達す。また等外道路これより分岐して東北端道里浦に通ず。いま柳月・松石・萬豐・雨梅・龍鶴・新井・德山・鶴松・大士・臨水・廣山・山吉・泉壯・蒼・洋月・石龍の十六里を置く。

カイザキ　海崎　大分縣南海部郡八幡村の大字。省線日豐本線の一驛(大正二年設置)あり。

カイザン　槐山　【槐山郡】朝鮮忠清北道十郡中の一。槐山郡は本道の略中央より稍南寄りに位置し、東は丹陽、北は忠州・陰城の兩郡に、西南は儀川・清州・報恩の三郡に各相隣接し、東南は慶尙北道聞慶・尙州の兩郡と境す。面積九七一平方粁にて本道中第一の大郡たり。地勢は小白山脈の北東より來り南方に方向を轉ずる變換點に位置し、高峰峻嶺東南境に連る、卽ち白岳山(八五三米)・長成峯(九一六米)・九王峯(八八四米)・白華山(一〇六四米)・鳥嶺山(一〇一七米)・文繡峯(一一六二米)等相連り、西北方に向ひ漸く低夷するも倘二條の山脈南北に連亙し全域殆んど山を以て充す。ただ玄川の流域及び郡の西端部清安方面に僅かに平地を見る。玄川は郡内第一の大河にして俗離山に發源し本郡の中央を北に向つて貫流し、忠州郡に入り達川と成り其の下八粁間舟楫の便あり。沙斤川は源を忠州郡御來山に發し、南流して玄川に合流す。沿岸流域の便頗るよく、鵲川は白馬山及び寶光山に發源し、西南流し潘灘に至り清塘面より來る細流を合せ沽州郡に入る。其流域は郡内第一の平野にて水田よく發達す。氣候は寒暑の差大にして特に寒氣酷烈なり。鐵道は京釜線鳥致院驛より分岐せる忠北線の清安驛(大正十二年設置)ありて之より郡内主要地に乘合自動車の便あり。一方郡邑を起點とし忠州・陰城・清安・延豐諸邑に通ずる道路ありて交通概して便なり。住民は農を主とし、傍ら養蠶も亦行はる。產物は米・麥・大豆等にして鑛產は金を主とし鉛・銅・亞鉛等の產あり。本郡は行政上槐山・甘勿・長延・延豐・七星・文光・青川・清安・曾坪・達安・沙梨・沼壽・佛頂・上芼の十四面に分ち郡廳を槐山邑に置く。本郡は往昔高勾麗に屬せし地方にして、北部延豐地方は仍斤内郡、南部清安地方は道西・清塘の二縣を置かれ、新羅の朝に至り中部は槐壤縣と改稱す。高麗顯宗九年北部は長延、中部は槐州と改め、長豐と共に忠州に屬し道西を道安と稱し、清州に屬せしむ。李朝太宗

二年長延・長寶を合して長豐縣と改め、中部は槐州知事に隷す。聖三年北部は更に延豐と改稱し縣監を置く、同五年南部を清安と改め、同十三年中部を槐山郡と改む。世宗十一年忠州の内東面を割き、成宗七年更に水回面を割き延豐面に移屬せしむ。開國四百九十七年延寶及清安を郡と改む。光武十年忠州郡佛頂面を割き槐山郡に編入、大正三年三月府郡廢合の結果槐山・清安・延豐の三郡及び清州郡青川面・忠州郡栗枝・甘匏の二面を併合、槐山郡となし以て今日に至る。郡邑槐山は郡の略中央に位し、郡廳・警察署・郵便局・地方法院出張所・金融組合・公立小學校及び普通學校等あり。市場は陰曆三・八の日に開き取引高年額二十餘萬圓に達す。黄色煙草は名產なり、東南八軒の七星岩は延豐街道に沿ひ本郡第一の米產地なり。青川面落影山中の華陽堂は往昔宋時烈が晚年退隱せし所、風光絶佳の地たり。又彌勒像は高麗時代の作、高さ九米考古學上好資料を成す。人口一一三二一一人、うち内地人四六一人、朝鮮人一一二七七八人、滿洲國人七二人（昭和十年）

【槐山面】 朝鮮忠淸北道槐山郡の中央。郡管内十四面中の一。東は甘匏、北は佛頂、北西は沼面、西は沙梨、南は文光・七星の諸面に各相隣接す。周囲は丘陵性山地を繞らし僅かに達川流域に平坦地を見、且つ達川により他に通ず。鐵道京釜線の支線忠北線の終點忠州・大召院・陰城・清安等へは夫々槐山を中心として放射狀に三等道路を派して各業合自動車を通じ交通頗る便なり。槐山は面の略中央に位し、槐山郡廳・警察署・郵便局・地方法院出張所・金融組合・公立小學校・普通學校等あり。又陰曆三・八の日に立つ市は頗る殷賑を極め取引高年額二十餘萬圓に達す。黄色煙草は名產なり。主なる聚落は大義・大寺・大明・丁川等。人口昭和五年六六六〇人、昭和十年七八四一人。

カイサン　海山

【海山郡】 臺灣臺北州二市九郡の一。臺北市の西南の一角を占む。東は文山郡、西は新竹州、北は新店溪・大嵙崁溪を挾みて臺北市並に新莊郡に境し、西及び東南に山岳を控へ、其中に大平野展開す。其平野の中央を新竹州蕃地に發源する大嵙崁溪は靜かに、大小支流を合して北流して淡水河に合流す。また新店溪は中和庄の北岸を流れ西流して淡水河に合す。即ち地勢は東西に高く中央平かにして北部に拓く。其境域は二十一方里餘にして其五割は農耕地なり。戶口は内・臺・外人を合して一五、九九二戶、人口は九八四〇三人（昭和十二年）にして、板橋街、中和庄、營歌庄、三峽庄、土城庄の一街四庄に分轄せられ、板橋街は郡下の中心地をなし、郡役所・街役場・郵便局其他の機關備はり行政・經濟の中樞なり。三峽庄の奥地は充蕃地なりしも、三井物產株式會社の事業場の開設と共に蕃人は他方面に移住したるを以て、昭和七年以來三峽庄に編入せられたり。本郡は臺北市に隣接する關係上、また平地に富み水利の便良好なれば農業に適し、農業戶數は總戶數の三七%餘に達す。而して耕地面積は一萬一千四百餘甲にして、農產總額年五百六十萬圓に上る。其主なるものは米にして約二百七十萬圓、茶の十八萬圓是に次ぎ其他甘藷・蔬菜等を生產す。三峽庄には海山炭礦あり、年額約四十六萬圓の石炭を採掘す。東及び西部の山地には樟樹・想思樹・松・竹等の樹木あり、三峽庄に於ては製腦事業行はれ、木材の五萬圓を筆頭に薪炭・竹材・筍の林產あり。他方將來を期して造林事業盛にして、郡當局の指導宜しく、本郡下の山地は當線木に覆はれ、大嵙崁溪の清流と共に、淵に山紫水明の地なり。又境域の中央を流るる大嵙崁溪は魚族に富み、臺北市近郊の漁場として四時釣客の絶ゆる間なく、其捕獲する所の鮎は臺北市に搬入され食膳を賑はす事大なり。而して本郡下水產總額の八割は鮎とす。其他營歌庄に於ける陶器・磚瓦・雲蠶絹工等の工藝品の大いに將來性を有する產業も、本郡下に於ては擧ぐべきものの一であらう。農家に於て副業的に行はる畜產業に於ても本郡に於ては、近來著しく其發達普及を見、各庄に存する農事團體または郡庄當局の指導と相俟つて其品種は改良され、最近には年產五十萬圓に達せんとし、其多くは臺北市に搬出さるゝところなり。此等產業の發達、指導の爲には、諸種の農事團體ある他、金融の圓滑を計る產業組合は七組合を有し、又郡役所所在地たる板橋街には彰化銀行の支店を有し、貸付金二十餘萬圓、買金四十餘萬圓ありて郡下農村金融に便益を與へつつあり。本郡下の交通は其地勢・位置の關係よりして大いに便利にして、鐵道線は本郡を縱斷し郡内に六驛を有する他、指定道路は四通發達し、又近年臺北・本郡間を繫ぐ昭和橋の完通と相俟ち、郡下の交通は益々便利となり、又臺北—板橋—土城—三峽間の十米道路の完成は郡下交通上に一大革新を見るに到る。是等道路には何れも自動車の運行自由なり。また河川多き關係上船舶に依る水上交通も頻繁にして、郡下交通上重大なる役割を受持つところなり。郡下の教育教化の大勢を見るに、初等教育に於ける小學校は、板橋・三峽の二校にして、公學校は十三校四六教場を有し、郡下教育思想の普及と共に兒童の就學率は增加の一途を辿りつゝあり。其他社會教化團體に、國語講習所・教化聯合會・青年團等ありて、小公學校教員の指導の下に活潑なる活動を續けつつあり。圖書館は各街庄に設置さる。郡下に下記の名勝舊蹟を存す。林本源庭園（板橋街）・營歌石（營歌庄）・石壁湖山圓通禪寺（中和庄）・鳶山（三峽庄）・板橋無線通信所（板橋街）・樹林酒工場（營歌庄）・三峽忠魂碑（三峽庄）・大安忠魂碑（土城庄）・久邇宮殿下遺蹟記念碑（營歌庄）等これなり。本郡の地は大正九年十月地方制度改正前に於ける臺北廳獨逸堡及び桃園廳海山堡の北部の大部分を占むる地にして、獨逸堡は卽ち新店、大嵙崁兩溪間の一帶を區劃す。もと蕃族の棲居せし地にして其の開墾は清の雍正年間に係り、乾隆年間に板橋街外の崁子腳に二三の草屋を營みて新莊地方と交通を開始せり。嘉慶以後に到りて漸く處々に村庄を形成し、道光二十六年板橋街初めて成る。海山堡は大嵙崁溪流域に沿へる地域にして、もと臺北平野より大嵙崁溪を遡りて開拓せしを初めとし、營歌・三峽兩庄には鄭氏時代駐屯の遺蹟を存す。されど乾隆以前は全く未開地にして、乾隆の初年に到り漸く、三峽庄の南部拓かれたり。當時樹林より三峽庄に到る一帶の地は大嵙崁溪汎濫して一大潭を爲し、其前進を阻みしも乾隆二十年代より四十年代にかけて、潭水漸く涸渴して陸地を爲せりと云ふ。此處に於て漸次開拓は南進し、大嵙崁溪の流域にまで其開墾は及ぶ。海山の名はもと樹林附近を開拓せし時海山莊と呼びしに始ると云ふ。我領臺の後、幾度か其區劃に變改を加へられ、大正九年十月の地方制度改正に當りて、上記の境域を一括して海山郡と稱し、之を板橋・中和・營歌・三峽・土城の五庄に分轄して、臺北州の管轄に屬せしむ。其後板橋庄は人口の增加其他により街に昇格せり。

【海山堡】 臺灣臺北州海山郡にありし堡名。海山郡板橋街・營歌庄・三峽庄を含む一帶を清領當時海山堡と稱せり。此等地域は大嵙崁溪を南北より包み、周圍北方は平坦なるも南方は次第に絡間臺地の丘陵を控へ、東方上流は鳶山に境す。乾隆の初年新莊街方面より漢人開拓を進め、營歌庄の漂底・橋子頭を經て大溪郡下に進みたる模樣にして、更に溪を越えて三峽庄方面に進みたるは、乾隆二十年より四十年の間と見らる。大正九年十月の地方制度改正に依り廢止せらる。

【海山】 臺灣臺北州海山郡鳶地及新竹州大溪郡鳶地にまたがる鎮山。大正七年の許可に係る新鎮區に屬し、初めは試掘を兼ねたる姑息的なる採掘を行ひしが、大正八年七月に至り初めて小規模の設計の下に起業し、先づ鎮區地より三峽に到る七哩の間に專用軌道を布設して採業し、現時に到る。地質は第三紀層に屬し、頁岩及砂岩の互層より成り、砂岩殊も恠く發達す。鎮區面積約一四二ヘクタールにして炭層〇・九米餘に達する處あり。岩質は可なり優良なるも粉炭稍多し。

ガイサン　外山面（がわい）

朝鮮忠淸南道扶餘郡に屬する面。郡管内十六面中の一。郡の西北部にありて扶餘の西方一五粁に位置す。東は溫山、北は青陽郡の鉢陽、西は保寧郡の青嶺・鰲山兩面に、東南は内山面に各隣接す。南北に狹長な地形を成し、東西兩境共に南北に縱走する山脈により他と斷たれ中央を南流する錦谷大川は文区の峴により錦江の支流之川と僅かの分水嶺により斜面を南北に分つ。この大川流域が本面の重要なる農業地帶を形成し大川は本邦の最高峰嶺鰲山の山麓に峽谷をなして鰲山面に入り後黄海に注ぐ。產物は米・麥・大豆を主とし、副業として養鷄・養豚盛にして優良の成績を擧げ又亭布の製織盛んなり。面邑前場里は面の中央大川の右岸に位し面事務所・營察官駐在所等あり。主なる聚落に禮德・金池・佳德・盤橋・萬壽・花城・飛岩等あり。人口昭和五年五七〇〇人、同十年五七七六人。

ガイサンチョー　外傘頂洲（がいさんちょう）

→日湖庄（臺灣臺南州北港郡）

カイジ　開治（かいじ）

愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村と八輪村を廢し其の區域と六和村の大字鹽田とを以て八開村を置く。

ガイシ　外四面（がいしめん）

朝鮮京畿道龍仁郡の東南端。郡管内十二面中の一。郡邑金良場里の東南約二〇粁、東は安城郡竹面、北東は利川郡暮加・戶法・麻長の三面に、西は遠三面、南は三竹面に各相隣接す。北に莞芝山（四一一米）、東北境に大德山（三〇九米）、東境に廣王山・東南境に飛鳳山（三七二米）、西境に九峰山（四六九米）等聳立し之等は相連なりて一大障壁をなして山間盆地を形成し、中央部を漢江の支流清美川灌漑し沿岸に耆間く。鐵道京釜本線の支線京南鐵道京畿線竹山驛より面邑白岩に乘合自動車を通じ白岩を中心として道路放射狀に發達すれども何れも險坂多く車を通ずるもの少なく交通便ならず。產物は米・麥・大豆・煙草等にして近時養蠶も行はる。面邑白岩は面の中央に位し面事務所・金融組合・警察官駐在所等あり。人口昭和五年八八六七人、同十年九五〇八人。

ガイシャテイ　外車埕（がいしゃてい）

集集線の一驛（大正十一年設置）臺灣臺中州新高郡集集庄にあり。

カイシュー　海州（かいしゅう）

【海州郡】 朝鮮黄海道十七郡中の一。道の南部に位置し、東は延白郡、北は平山・載寧・信川・松禾の四郡に相隣接し、西は長淵、西南は甕津の兩郡に接し、南方に喇叭狀の深き彎入海州灣を抱く。面積六五七平方粁、道中大郡に屬す。東北は滅惡山脈の一部本郡の東雲面に起り、首陽・指南の諸山に連なり、雲連山（六〇〇米）・雪留山（九四五米）中央に聳立して郡を東西に二分す。西南境には鵝山（三六八米）・秀岱山（四九二米）注意を惹く。灣の周緣は土地低平にして地味肥沃なれども濕氣の便に乏し。何川は郡を東西に分つ三灘川及び廣濟川稍大にして拉川・梨野川これに次ぐ。東延白郡、西甕津郡に通ずる道路及び載寧郡に達するもの何れ

も二等の坦路にして往來便なり。加るに鐵道京義線沙里院驛より海州邑にはバスを通じまた開城府よりもバスの便あり、海路は仁川より汽船の便ありて海州灣北岸の龍塘浦との間に定期航路あり。海州地方の物資は多くこの地に於て集散さる。之より更に四軒内方に舊城港の鎮地あり前面龍塘浦を望み古人の西湖に擬せしと見るも其景勝の地たるを知る。今は漁港として漁船の來集多し。物産は米・麥・大豆・栗等にして、梨・栗等の産多し。木材・薪炭等も移出する。水産物には石首魚・鰕・鯉・鰷等の魚類、貝類及び食鹽等あり。郡邑海州は海州灣岸の龍塘浦の北方六粁に位置し北に首陽山、南に南山聳え、東西僅かに平地を通ず。道廳の所在地にして郡廳・慈惠醫院・郵便局・地方法院・刑務所・地方金融組合・高等普通學校・産業銀行支店あり。南門北門には各常設市場ありて主に魚類・食料品等の日用品を賣買す。郡内に於ける市場中取引の最も盛んなるは茄佐面の梨野市場にして陰暦三・八の日に開き生牛・雜貨・穀類・魚類・金物等賣買せられ年取引額二十餘萬圓の多きに達す。邑内には奚尊堂・鳳池樓・首陽山等の史蹟あり。奚尊堂は仁祖誕生の地と稱され風光明媚の地。鳳池樓は李成桂の賦を誦りし地。首陽山は邑の東二粁支那塗西の首陽山に似たるため高麗時代に命名し山上に伯夷・叔齊を祀れる廟及び城址あり。本郡は高勾麗の内米忽郡にして新羅の景德王改めて海州と稱へ高麗太祖王に至り名を海州と賜ひ成宗王の時牧を置く、幾何もなく節度使を置き海州右神策軍と稱へ、楊州と共に左右軍たり。顯宗王に至り節度使を廢し西安郡護府と爲し、睿宗王大都護府に陞し高宗王牧に改む。恭愍王降して郡と爲し後また牧に復す。李朝太宗王十七年に平山の一部を割きて之を併せ世宗の朝儒を置く、太皇帝の代郡と爲し以て今日に至る。域内を分ちて二十三面となし、郡廳を海州邑に置く。人口昭和十年一九四五五二、うち内地人三七六七、朝鮮人一九〇二八九、滿洲國人一二七。

【海州邑】 朝鮮黄海道海州郡の略中央部。北に首陽山(八九九米)・蔚臺山(六八五米)を控へ、前面南山(一二二米)に相對し、其間東西に通ずる隘路に發達し、本邑を起點として道路も放射狀に四方に通じ殊に西方瑞津郡、東方延白郡及び載寧郡に達する二等道路は何れも乘合自動車を通じ交通頗る便に、又南方五粁の龍塘浦を外港とし、仁川との間に汽船の定期航路ありて交通至便。市街の西部には黄海道廳・海州郡廳・郵便局・産業銀行支店・金融組合・慈惠醫院等あり。中央部に面事務所・警察官駐在所あり、東部に地方法院・刑務所・常設市場等あり、又南部に普通學校あり。人口昭和五年二三八二〇、昭和十年三〇四四五。〔海州神社〕上町に鎮座。無格社。祭神、天照大神。大正七年の創建に係る。例祭、四月二十八日・十月十七日。

カイジュー　戒重（奈良縣）→城島村

カイジョー　海上・階上郡　陸奥國(青森縣)の古郡の一。戰國の頃より其名見ゆ。これ北上川・馬淵川の分水嶺以北の稱ある鹿部郡の北部を割きて置きしものならんも、或は鹿部郡の別稱かとも云はれ詳ならず。海上はまた階上にも作り南部七郡の一に算へらる。本郡を以て鹿部の北部の稱なりとの說に從へば海上郡は後の北部に當る。これ其位置の州の極北にあるを以て稱せしもの、明治十三年これを上北・下北の二郡に分つ。

カイジョー　海城面　朝鮮黄海道延白郡に屬する面。郡管内二十面中の一。延白郡の最南端に位置し、半島部を占む。郡邑延安を距る南方一〇粁、北は湖南面に隣接し他の三面は海に面す。南端海に臨みて峰臺山(六一米)の聳立する外概ね低平なり。殊に瀕海一帶は低平にして干潟地連亙し茫漠として際涯なくその間卑濕の地多く干拓に適する土地多し。海岸は一般に遠淺にて碇泊不適にして良港に乏し。道路は沿岸一周道路ある外道路網極めて疎にして海上交通便ならず。産物は米・大豆を主とし海産物には鰕・蛤・牡蠣等あり。古城は面の中央に位置し面事務所あり。南方九龍に警察官駐在所あり。

カイジョー　開城　朝鮮京畿道開豐郡の首邑。一に松嶽といひ、郡の略中央に位し京城府を去る北西七八・四粁にして、京畿道北部の中心都市。市街は鐵道京義線開城驛の南方一粁にあり、松嶽山(四八八米)の南麓に位置し、臨津江支流雲溪川、その中央を貫流す。新羅の統制力の強みし末期その王族弓裔は武將王建等に擁立されて鐵圓、今の鐵原に據り國を泰封と號し、勢力を得。然るに弓裔は後王建のために弑され國を失ふや、王建はその生地松都に居を定め王位につき百濟を滅ぼし、新羅を併せ半島統一の業に成功す。かくて王建は高麗の太祖となり松都卽ち現在の開城を含む地域をその王都とす。其舊址は現松都面みも含む廣大な地域にして舊城壁は開城驛の西方約二・五粁義州・海州兩街道の追分點附近の正午門に始まり(道路北側に正午門跡存す)北東の蛾嵯山二〇三米の頂上を經て尾根を北上し松岳山上に達し、更に東方に方向を變じ、再び尾根上を東進、北小門に及び尾根傳ひに東南に下る。其間起伏する丘陵を巧みに利用し雲溪川南岸の丘陵列をよく利用して西に走り、正午門に至る不規則な方形を成し全長約三十粁、その内部を更に北小門より南方に尾根傳ひに南方南大

門に至る城壁により北半分を更に東西に二分す。而して外城には前記正午門を始め西側に四門、北側に一門、東側に雲溪川の水口門外三門、南側に一門を有す。かく大規模を擁して高麗朝の國都として李朝太祖李成桂に滅さるるに至る迄實に四百六十年、三十一世の長きに及ぶ。國都の京城に遷るに及び衰微す。現在市街は舊都の一小區域に過ぎず僅に南大門を中核として現市街を成せるものにして古の繁榮に比すべくもなし。されど京義本線沿線中平壤に次ぐ商業地たるのみならず朝鮮人蔘の本場として夙に世に知らる街路網は極めて不規則にして、舊景觀を呈す。其中を東西及南北に貫通する幹線道路を南大門にて交叉せしめ、此地點を都心と成し商業取引の一大中心を成す。卽ち農城銀行支店・殖産銀行支店等の金融機關を始め各種商舗軒を竝べ、商業頗る盛昌を極む。殊に特産たる朝鮮人蔘集散の中心にして鐵道公園東隣に專賣局出張所を設き其工場には紅蔘製造が行はれ一ヶ年拂下高實に一千餘萬圓の多きに達す。又此地の商人は夙に商才に長じ開城商人の名遠近に知られ殊に取引方法・組織・簿記等は最も進歩し、富裕なる者多く豪商・財閥の多き半島第一の稱あり。市街には郡廳・警察署・女子高等普通學校・商業學校・地方法院出張所等あり。市街の東端なる舊城壁の西南方外にある善竹橋は高麗の末期、武臣の權勢盛にして正に國家を危くせんとする形勢ありし際儒臣派の中心鄭夢圖、武臣派の捕殺李成桂の病氣を見舞ひその歸途李氏一味の爲暗殺されし所、又南門樓は李朝太祖の卽位三年の建造にして京城の南大門より更に二年古く、其樓上には六〇〇年前元時代の鑄造にかゝる大梵鐘ありて周圍の國寀模樣等頗る藝術味に富み朝鮮名鐘の一と稱さる。人口昭和十年五四四五七、うち内地人一五五四、朝鮮人五二六七五滿洲國人二一二。〔開城の建築〕(一)市街　高麗太祖黨都の際市廛を立て坊里を定め、成宗・顯宗改めて五都三十五坊を定め、市制完備するに至る。その狀況は『高麗圖經』其他の書典に見ゆるのみにてその跡殆ど存せず。(二)城郭　高麗の始めには城郭を設くる事なかりしが、顯宗の代に契丹の入寇に會ひてのち羅城を經營し同二十年(一〇二九)に成る。今も各所に城門址を殘す。(三)南大門　朝鮮太祖三年(一三九四)の建造にして、李朝初頭の重要な遺構とす。一次紅門開きし石築上に、三間二面入母屋造の單層樓を起し、斗拱出組、尾垂木、拳鼻等細部頗る壯健、内部は化粧屋根裏に二重紅梁を現はす。(四)滿月臺　高麗王宮址。南北に長い丘上に殘礎あり。正門昇平門は、いま跡なく、北進して主水を渡れば神凰門・闕門の堂々たる礎石あり。正面は高臺屋をなし、三箇所に急勾配の石階あり、臺上に到れば五間三戸の會慶門址の左右より行廊起り、廣大なる内庭を擁形に廻る。正面中央は王宮の王殿にて、わが大極殿に當る會慶殿の壇礎あり、九間三面、四面に石階を殘し、當時の壯麗を偲ぶに足る。會慶殿後方は地次第に高く長和殿、元德殿、乾德殿等の諸殿門の址を殘し、最北部に宮苑の丘を見る。これ等の臺地は側壁を堅固に石築し、今なほ各所より瓦磚の類が發見さる。王宮の側は支那に倣ひ、京城に現存する朝鮮王宮の御苑にて極めて貴重なる遺跡なり。(五)瞻星臺　滿月臺西方にあり、方七尺程の四隅と中央とに方柱を立て、上に石床を平に敷ぶ。(六)佛寺　高麗太祖の熱狂的信佛により、王京に十刹(法王寺・廣雲寺・王輪寺・内帝釋寺・命那寺・天禧院・新興寺・文殊寺・圓通寺・地藏寺)を建立せし以外、大寺の建立相繼ぎ、異常なる佛教時代を現出せしが、今や十刹は痕跡をも止めず、その他も廢滅に歸し、僅に王宮外の山中の佛寺址に石塔の類、邑内に興國寺石塔の殘物を存するのみ。基壇に刻む豐美なる蓮花、塔身に扉形あり、基壇の刻銘により、天禧五年(一〇二一)契丹を破りたる姜邯贊が邦家永泰の爲に建立せし事が知られ史蹟として貴重なり。(七)文廟　その大成殿は、宣祖三十五年(一六〇二)の再建なり。京城文廟に次ぐ重要なるものにて、南門・大成殿・成均館・明倫堂など整然と配置さる。(八)蠶陽書院　高麗末期の忠臣鄭夢周の故宅を書院となし、現在の建物は宣祖六年(一五七三)の再建なるが、丘陵に東面して廟あり、外に近世の朝鮮式石橋なる善竹橋あり、橋上にて刺殺されし鄭夢圖(圃隱)の石碑が橋畔にあり。(開城神社)　松都町に鎮座。祭神、天照大神。大正十五年創立の事。朝鮮總督府令により官許せらる。例祭、十月八日・九日。

【開城】 京義本線の一驛(明治四十一年設置)朝鮮京畿道開城郡松都面にあり。

カイジョー　外上面　朝鮮平安北道龍川郡の西南端。郡管内十二面中の一。鴨綠江口龍巖浦より一五粁、鐵道京義線南市驛は面内にあり。東は鐵山郡西林面、北は内中面、西は外下の諸面に相隣接し、南は海に面し、海上に臥島、蟒島の二小島横はる。城内丘陵多少起伏すれども概して平坦にして地味肥え本郡中米作の重要地域を成す。海岸は淺堆にして干潮時には干潟沖遠く表はれ前記二島嶼に徒渉することを得、從つて船舶の碇泊便ならず。産物は米・麥・大豆を主とし沿岸には製鹽業行はる。京義線南市驛(明治四十一年設置)ありて此地より西方龍巖浦、南方鐵山に二等道路を通じ、各々バスの便ありて交通頗る便利なり。南市は面の東部に位置し交通の要衝にして面事務所・郵便局・警察官駐在所・金融組合市場等あつて市は三・八の日に立ち穀類・海産物・雜貨の取引盛なり。主要聚落に柏下・松下・鶴舞・鶴巢・鳳凰、

西石・海峨・上虎・西鉢等あり。人口昭和五年一二五四四人、同十年一四七九一人。

カイシン　開津面　朝鮮慶尙北道高靈郡に屬する面。郡管内九面中の一。郡の東端に位置し、郡邑高靈の東方八粁、東は洛東江の蛇曲部に當り何を距てて達城郡論工面に南は救智・牛谷兩面に、西は大伽川を距てて高靈面、北は星山の諸面に隣接す。域内洛東江沿岸の蛇曲帶に何岸段丘の稍大なるもの及び會川北岸に低地を見る外殆ど山地を成す。産物は米・麥・煙草・莞草等にて蓆席の製造及び麻布の製織行はる。面邑開浦は略中央に位して面事務所・警察官駐在所あり。人口昭和五年六二七一人、昭和十年五九五二人。

カイズ　海津　【海津郡】岐阜縣三市十八郡の一。美濃國の一部にして、縣の西南端部を占む。北は養老郡安八郡に接し、東は長良川によりて羽島郡と、長良・木曾兩川を挾みて尾張國海部郡と相對し、南西は三重縣員辨桑名の二郡と界す。面積八七方粁餘。西南部は地塁山脈たる養老山脈南端部の東斜面にて山地をなすもその他は濃尾平野の西部に當り、木曾・長良・揖斐三大川の下流々域にて土地低平卑濕、至る處水田耕地拓け、米・麥を主とし、甘藷・大根・西瓜その他の蔬菜類の産あり。郡の中部なる高須町を中心とし南は桑名市、北は大垣市、東北は岐阜市方面へ縣道を通じ、また社線參宮急行電鐵養老線の西部を南北に走り交通不便ならず。古く高須輪中の地。郡の西邊は養老山脈の東の斜面にして土地高燥なるも、東部は美濃の三大河の木曾・長良・揖斐の諸川の集まる所にして土地低く、古來水害を被ることしばしばなり。寶曆年間幕府は薩摩の島津侯に諸川の治水工事を命ぜり。其時家老の平田靱負は數百人を率ゐ來りて工事を督し、豫算の約十倍の費用を投じ、この工事を竣成せしため、工費超過の責を負うて自殺す。その後年を經るに隨ひまた水害起り縣民を惱まし、明治二十年以來國費を以て木曾・長良・揖斐三大川をそれぞれ分流せしむる大工事を起し、明治三十三年に完成し、爾來水害を免るるに至れり。本郡は明治三十年下石津・海西二郡に安八郡の一部を合併して本郡を建つ。海西郡はもと尾張の海西郡の一部なりしを木曾川の河道の變革に伴ひ、美濃國に入りしもの。※油島（アブラシマ）

【海津村】滋賀縣近江國高島郡の東北部。西庄村の東、劍熊（ケクマ）村の南に隣り東は伊香郡永原村に界し、南は琵琶湖北岸に臨む。東南部は大崎半島となりて湖中に突出し西側に小灣入をなす。村の中部より西南部にかけては小平地あり田畑よく拓く。主産物は米及び水産物。縣道（西近江路）西部より中部を過ぎて北方に走り敎賀市方面へ通じ南方今津町へはバスを通ず。古くは和名抄、高島郡鵜鶘（ウノヒ）郷に屬せるものの如し。海津の浦は江西の要津にして海津鹽津と並び稱せられし處。蜷家などありて賑へるものといふ。京都より北國に至るもの此地に上陸し愛發（えち）越を經るを正道とす。源義經の北國落の時にも亦此浦を通過せし旨義經記に見ゆ。いま海津火崎と云ふは古生層を貫きて噴出せる花崗岩より成り奇岩怪石多く、翠松蒼樹これを蔽ふ岬角にして、湖南の風景の女性的なるに反して雄壯なる男性的景觀を呈す。巖頭に大崎寺と呼ぶ古刹あり、また千貫松・鮒天松等の名木ありて名勝に指定さる。また永久百首にかい津（須津）の里とある也此地を詠めるもの。永久百首「あらち山雪消の空になりぬれはかい津の里にみそれふりつゝ　仲實」

〔天神社〕大宇海津に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞。元龜・天正年間、長樊に獵りて所藏の舊記悉く燒失し、創立沿革を詳かにせず。天正十三年豐臣秀吉社領を寄進し、德川氏に及び三代家光良來十四代家茂に至るまで朱印を賜はること凡て九回、特に十代家治の時に社領十石を加附せられ併せて山林・竹林その他の諸賦稅を免ぜらる。境内三千三十五坪。所藏の法華經十卷（紙本墨書）は國寶にして各卷に正中二年三月施入の奥書あり。例祭、四月十五日。〔天南神社〕大宇海津字大前山に鎮座。無格社。祭神、須佐之男命。境内社。例祭六月十四日。〔大崎寺〕大宇海津にあり。新義眞言宗智山派。石立山と號し大寶二年泰澄の開創にして尊像は聖德太子の作と傳ふ。小野篁厚く當寺の觀世音を信じ自ら書寫せる法華經八卷を納置せりといふ。天文五年空翁之を中興す。慶安元年德川氏より免規に倣ひて寺領を附せらる。寺域高宇坂、南の山尾に位し風景絶勝の地たり。〔宗正寺〕大宇海津にあり。新義眞言宗智山派。大寶二年泰澄の草創に係ると傳ふ。文安三年明行之を中興す。慶安元年寺領一斗九升を先規に從ひ德川氏より寄せらる。寺寶の木造著色十一面觀音坐像一軀は國寶たり。寺傳に泰澄作と傳ふれど室町前期の作に係る。〔最勝寺〕新義眞言宗智山派にて本尊觀世音。坐高山と號す。泰澄法師の草創。俗に峯の觀音と稱す。寺境靜寂にして眺望佳たり。〔櫻水寺〕大宇西須にあり。新義眞言宗智山派にて本尊弘法大師作十一面觀世音。南向山突性院と號す。天平二年聖武天皇の勅建に係り、開眼を行基菩薩とす。

カイズカ　貝塚　【貝塚町】大阪府和泉國泉南郡の東北部。岸和田市の南に續き、西北は大阪灣に面す。和泉平野の中部に位し、津田川・近木川・見出川の小流いづれも西北流し土地平にして耕地よく拓け、米・麥・蔬菜類・花卉等の農産裕かに、工業は特に盛にして紡績を第一に、綿布麻布の織物・晒及び染物・組紐編物・煉瓦・セルロイド・製粉等の工産多し。沿海水産また少からず。社線南海鐵道本線（電車）は海岸より南に走り、前者は貝塚驛（明治三十年設置）を後者は阪和貝塚（昭和九年開業）の二驛を設け、また水間鐵道（電車）は貝塚驛より岐れて東南に向ひ貝塚南・石才二驛（大正十二年開業）を置き、紀州街道また海岸に近く通じ交通甚だ便利なり。町内に眞宗本願寺派の名刹願泉寺あり、行基四十九院の一なりと云へば、此地古くより拓けしなるべし。されど天正中、新川卜半、願泉寺を中興し泉州門徒の魁をなせし當時は數十戸の漁村に過ぎざりしといふ。然るに卜半、願泉寺に願如上人を迎へてより忽に三百の邑となると傳ふるが如く、爾來泉南の市坊として榮え、慾に今日の盛大をなすに至る。大阪夏の役、元和元年四月大野治房、和歌山城を衝かんとして此地に來り願泉寺に屯留せし事あり。昭和六年麻生郷・島・南近義・北近義の四村を合併し、同十年木島村を併せ、地域ますます廣大を加ふ。現在面積一七・五五平方粁人口約三萬八千。なほ和名抄に和泉郡木島郷と云ふは、舊時の木島・麻生郷・島・貝塚に當り、日根郡近義郷と云ふは南近義・北近義の邊に當るものの如し。

〔阿理莫（ありばす）神社〕久保に鎮座。郷社。祭神、倭迹日命。俗に兩近明神と稱す。繼體天皇元年の創建と傳へ、延喜の制小社に列す。和泉郡二十八座の一たり。明治六年郷社に列す。例祭、九月二十五日。〔感田（こだ）神社〕郷社。祭神、素盞嗚尊・天照大神・菅原道眞。もと神田明神・神田河原大明神・神田瓦大明神・感田瓦大明神などとも稱せり。陶器又は瓦製の守護神として、また貝塚町の產土神として崇めらる。江戸時代には岸和田藩主の崇敬を受く。境内の三方に小溪を繞らし、前に南門あり、西に樓門を設けて神威を高む。末社に二之社とて俗に淺戸大神と呼び、乳神として產婦懷妊者の崇信篤し。例祭、七月十九日。〔願泉寺〕貝塚御坊と呼ばれ一時一向宗の本山たりし寺。金涼山眞敎院ともいふ。もと行基の四十九院の一なりしものを、了珍これを一向宗に改む。然るに天正十一年本願寺の願如、織田信長と和睦し紀伊の雑ノ森に退くや、當時の住職卜半了入は其擁護に努め、依りて祖像を奉じて此處に留まること三年。從つて當時貝塚本願寺と呼ぶに至る。また元和元年大阪の役に當り、窃に東軍に通じて功ありしため德川幕府より寺地方四町を與へられ、堂宇等宏莊にして泉南の大伽藍たり。毎年十一月に行はれる報恩講には遠近より群參し殷賑を極む。

【貝塚】樺太大泊郡千歲村の大字。東海岸線の貝塚驛（明治四十年設置）を置く。

カイズキ　貝月山　伊吹山脈中の一峯。大垣市の西北方約二五粁に位し岐阜縣揖斐郡春日・坂内・久瀨の三村境界に峙ち、標高一二三四米。頂上より西南方には琵琶湖の明鏡を望見す。東麓に日坂越と稱する山道南北に通じ、北方の久瀨村日坂方面より南方の春日村川合方面に至る。また南麓附近より揖斐川支流鮎川の上支源流す。

カイゼ　皆瀬村　長崎縣肥前國北松浦郡の南部。佐世保市の北方に近く、東は大野村、西は相浦町に隣る。東南邊と西北邊には丘陵性の原野多く中部は地低く田畑よく拓け農耕行はる。佐世保市より平戸町方面への縣道と、これより岐れて東北世知原村方面への道路通じ、また省線松浦線の皆瀬驛（大正九年設置）あり交通不便ならず。村内に皆瀬炭礦（八主として切込炭を產出す）あり。また新中里炭礦の礦區の一部を成す。

カイゼ　海瀬村　長野縣信濃國南佐久郡の中部。岩村田町の南方約一五粁、西は千曲川上流によりて臺・畑八の兩村に界し、東北の一部は餘地峠の山地を以て群馬縣北甘樂郡尾澤村に隣る。南北境は共に山地なるも中部は群馬縣多野郡界十石峠の西側に出づる狹井川西流して千曲川に合し、川の南北兩側は平坦にて耕地拓け米・麥を產し薪を出し又木炭・木材・石灰・石材の特產あり。武州街道は狹井川に沿うて通じ、北方中込町・岩村田町へはバスの便あり。また省線小海線村の西部を南北に走り海瀬驛（大正八年設置）を置く。此地は和名抄、佐久郡刑部郷の内なるべく、海瀬村・餘地村の舊二箇村を合併せるもの。村内に自成寺境内の梅・花岡城址・館六郎の遺跡あり。〔自成寺〕餘地にあり。曹洞宗。金剛山と號す。明應年中の草創。開基は本村郷士友野左近自成にして、俊庵和尙を開山とす。德川氏より朱印十一石を賜る。本尊釋迦牟尼佛を安じ、後山を寓ヶ峯と稱して新發意池の景勝地あり。

カイセー　開井面　朝鮮全羅北道沃溝郡に屬する面。郡管内十面中の一。群山府の東に隣し東及び南は大野、南は淳縣・玉山の兩面に、西は米面に各相隣接す。域内北半部は丘陵起伏して錦江沿岸の地域を除く外平地少なきも南部は萬頃江の舊入江の地域を占め頗る平坦にして地味肥え農業に適し、米穀・綿花・麥類を產す。交通は鐵道湖南線の支線たる群山線域内を東西に横斷し、直境に近く地境驛（大野面地内）、西境に近く群山驛（群山府瑩町）あり又群山より金州に通ずる一等國道群山線に略平行して横斷し東西兩驛より乘合自動車の便ありて交通頗る便なり。面邑鮮岩は面の北部に偏在すれども群山に近く種々の便あり。殊に群山府の發展は東郊のこの地域に及び群山隣接地域は群山府の觀を呈し人口殖加顯著なり。面事務所は邑の南部にあり。主なる聚落は助村・京場・砂寧・開井・阿東・上泉・玉山・雙鳳等あり、人口昭和五年一〇一一六人、昭和十年一一六八一人。

カイセー　開盛　北海道北見國紋別郡上湧別村の大字。名寄本線の一驛

（大正四年設置）あり。

ガイセー　外西（がいせい）

【外西面】朝鮮京畿道加平郡に屬する面。郡管内六面中の一。郡の西南端に位し、京城府、加平邑の中間に位置す。東は南面、北は郡内面・上面、西は抱川郡内村面及び楊州郡檗接・和道の兩面に各相隣接し南は北漢江を距てて楊平郡雪岳・西宗の兩面に相對す。各部共概凡そ四軒を以て凹字形を成し、太白山脈の餘脈域内に擴がり北境に佛岐山（六〇一米）・青雨山（六二〇米）、花崗岩より成る突兀たる屏風山（八七九米）・獅錦山（八一四米）等相聳立し、東南境には虎鳴山（六三二米）等聳え全域殆ど平地を見ず、漢江沿岸凡そ一〇軒の河岸に多少の段丘を見る。東部を流るる朝宗川は佛岐、青雨兩山中に發源し南流して北漢江に注ぐ、此沿岸及び西南境を成す一支谷の流域とに稍耕地の大なるを見、集落また此兩河の沿岸に分布す。京城・春川間二等道路は域内を西南より朝宗川河谷に沿つて北上し色峴（一七五米）を越え郡邑加平に達し乗合自動車の便あり。農産物には大豆・粟・馬鈴薯を產し薪炭は重要移出品をなし養蠶・養蜂行はる。面邑清平は面の略中央に位置し、春川街道に沿ひ、面事務所・警察官駐在所等あり。人口昭和五年五九三三人、同十年六二二七人。

【外西面】朝鮮慶尙北道尙州郡の西北部。尙州面の西北に隣り東は沙伐面に、北は恭儉面・銀尺面に、西南は化西面に、南は内西面と界し西北部は聞慶郡鳳岩面に隣接す。鳳陵山（七二五米）を主峯とする山地域内に連亙し、洛東江の一支顯江中部を南北に貫流するも低地に乏しく、麥・大豆・莞草等を產し畜產も行はる。朝鮮鐵道慶北線及び一等道路東部を並行に南北に通じ、前者に楊亭驛（昭和二年設置）を置く。いま蓮峰里・官洞里・鳳岡里・稻田里・開谷里・伊川里・南積里・佳谷里・禮儀里・官峴里・昼山里・泥村里・大田里の諸里あり。

【外西面】朝鮮全羅南道順天郡の西南部。順天邑を去ること西方約二〇軒、東は樂安面、北は松光面に接し、南は實城郡茂橋面・栗於面、西は文德面に界す。東部・西部には三—四〇〇米臺の丘陵性山地あるも、中部には小平坦地ありて農產を出す。交通には慶全西部線茂橋驛へ出づるを便とするも約一〇軒を隔つ。

カイセン　介川面

朝鮮慶尙南道固城郡の北部。東南は九萬面に隣り西は永吾面に、西南は永縣面に接し、北は晉州郡二班城面・一班城面に、東北部は昌原郡鎭田面と界す。四方山地を繞らし中央盆地狀低地をなし、米・麥・豆を產し養蠶も行はる。街道は中部を東西に通じ又東北部を南北に走る道路あるも交通便ならず。いま部落は羅倫里・清光里・佳川里・鳳峙里・龍安里・北坪里・明星里・禮城里の八里あり。

カイセン　价川

【价川郡】朝鮮平安南道管下二府十七郡中の一。本郡は道の北鍵中部に位し東は平日嶺を以て德川郡に界し、南は順川、西は安州の諸郡に各相隣接し、北は清川江を距てて平安北道寧遠郡に相對す。妙香山脈の餘脈平日嶺山脈郡内に連亙せるも森林に乏しく濫伐の結果殆ど禿山なりしが新政以來植林に努め、漸く稚樹を見るに至る。山麓には大桑林を有し斯界の注意を惹く所なり。西半部は土地稍々展開し、大同・清川兩江流域に於て平坦なる耕地を見るも、地味痩せ農產豐かならず、殊に灌漑の便に乏しく耕地約二萬ヘクタールは大部分畑作が行はる。邑内より西安州に至る三〇軒の道路を除く外東德川北寧邊、南順川に通ずる道路は何れも險坂惡路にして車を通ずるものなく交通不便なり。但し大正二年外西面に三井鐵山株式會社が三井鐵山經營の鐵道京義線新安州驛に專用輕便鐵道を敷設し鑛石運搬に供へ、其後朝鮮鐵道局の經營に移り价川線として一般貨客の輸送に當り爲に交通便利となれり。住民は農を主業とし傍ら養蠶養豚等の副業をなす。生活程度低く粟・稗を常食とし生計豐かならず。產物は粟を第一とし、大小豆・黍・玉蜀黍・稗等之に次ぐ、又綿花・煙草・蒜・木綿・元羅紬等を產す。鑛產には鐵・砂金・黑鉛・石炭等あり。本郡は高麗の朝安水鎭と稱し、題宗王の時朝陽鎭と改稱し、高宗王の世翼州と改め、又更に价州と改し、李太宗王十三年に至り現在の名に改め郡となれり。行政上竹川・内東・外東・中南・中西・外西・北の七面に分ち郡廳を价川邑に置く。价川邑は价川面東邊里に在りて郡の略中央に位置し鐵道介川線終點驛川の東南八軒にあり。北に飛虎山（五二二米）を控へ、南に价川江を臨む。安州・德川間の要路に當り旅客の交通尠なからず。价川面事務所・警察署・郵便局・農事試作場・養蠶傳習所・小學校・公立普通學校等あり。人口昭和十年五四五九四人、うち内地人五三八人、朝鮮人五三九四〇人、滿洲國人一一六人。

【价川面】朝鮮平安南道价川郡に屬する面。郡管内七面中の一。郡の中央よりやや南に位し、東は内東面、北は北面、西は西面及び中西の兩面に、南は外東・中南の兩面等に各相隣接す。香妙山脈の餘脈域内に展び北に飛虎山（五二二米）、東南に麒馬峰、南に風廣山（二九一米）等聳立し中央部を价川江西に流れ東西に長き低地を擁す產物に粟・玉蜀黍・稗・綿花・煙草等あり、鑛產には鐵を第一とし金・黑鉛等これに次く。交通は价川線の終點价川驛（大正五年設置）よりバスの便ある外价川邑を中心として南方順川、東方德川への三等道路通じ、その要衝に位置し爲に當地を通過する旅人多く從つて物資の集散活潑なり。邑は郡政の中心にして其東部の郡廳舍を始め數多の公舍あり、

郡内面事務所・警察署・郵便局・農事試作場・養蠶傳習所・公立普通學校及學校組合・金融組合・小學校等あり。人口昭和五年一〇五六九人、同十年一一六五三人。

【价川第二鑛山】朝鮮平安南道价川郡にあり。滿浦線院里驛の東南方約六軒にあり。鑛區は北面の飛虎山西北麓一帶を占むる地域にあり。地質は平安系に屬する水成岩地層其の大部分を占め鑛區北方低地には花崗岩の噴出あり。鑛床附近の鑛種は變質粘板岩・硅岩・砂岩等にして、黑鉛鑛床は局部的に揮發分多く、無煙炭よりの變質度遙まさるものあり、他地方の黑鉛に比して品位良好なり。鑛床は露頭の主なるもの四箇所に存し、其幅員の最大なるものは二〇米に及ぶ。延長は七〇米餘を最大とし、一般走向は北四〇—八〇度東、傾斜は北西なるが著通とす。おもに露天掘を行へるも、最近二三箇所に坑道掘に依る探鑛をも兼ね行はる。現行主要探掘箇所は飛虎山頂に至る道路傍に於ける大露頭の露天掘とす。選鑛は初め天日または溫突により鑛石を乾燥したる後、篩分けにより塊粉二種に區分するものなるが、可也無煙炭に近似する部分あるを以て、探鑛と共に相當人念なる選鑛を施しつゝあり。運搬は山麓迄は牛車によるも、これより院里驛に至る間は貨物自動車を利用す。昭和五年專ら探鑛に意を注ぎたる結果、同九年頃より漸く活況を呈するに至れり。

カイセ——カイソ

【价川線】朝鮮平安南道北部にある鐵道線。京義線の支線。朝鮮鐵道局の經營にかゝり京義線新安州驛（安州郡安州面地内）を起點とし、价川郡外西面の价川驛を終點とす、全長二九・五軒・本線は元三井鑛山株式會社の价川邑背後の飛虎山鑛區・即ち三井鐵山經營上大正二年坑所より安州郡安州面新安州に鑛山專用輕便鐵道を敷設し、鑛石運搬用に供せしが其後朝鮮鐵道局の買收により路線其他の改良を行ひ區間に安州・北松・龍興の三停車場を設け、一般貨客の運輸に當り、地方開發上貢獻する所大なり。

カイセン　會泉面（くわい せん）

朝鮮全羅南道寶城郡の南西部。北は得粮・寶城・熊峙の三面に隣り西は長興郡安良面と界し、南は海を隔てて高興郡道陽面と相對す。東西兩境附近には丘陵性山地あるも中部には小平地ありて農業行はる。海面は波靜にして魚類草藻の類あり、慶全西部線の寶城驛・得粮驛へはいづれも約一〇軒を距て交通の便なほよろしからず。

カイセン　檜泉面（くわい せん）

朝鮮京畿道楊州郡に屬する面。郡管内十六面中の一。郡の西北部に位し京城の北方四七軒の位置にあり。東は抱川郡蔡吉、西の兩面、北は伊丹、北西は陵陽、西は白石、南は州内の諸面と各相隣接す。天寶山脈東南境に聳え、西境赤佛國山（三六一米）・道樂山（四四一米）等聳え、南北の方向に凹地を生じ中央に發高地ありて北に漢江川、南に漢江の兩岸面を分つ。農產物の主なるものは米・麥・大小豆・粟にして養蠶、牧牛が行はれ林野面積は廣きも面積の五分の一は無立木地にて近年植林事業進捗しつつあり。粟の歲出多く全道有數の位置を占む。京元鐵道面内を南北に貫通し德亭驛あり。京城平壤間二等道路も亦域内を鐵道に沿つて南北に通じ交通便なり。面邑高岩は面の略中央に位置し德亭驛の南方約三軒にあり面事務所・普通學校・金融組合等あり。又德亭には郵便局・警察官駐在所等あり。人口昭和五年五一二八八、昭和十年五六九〇人。

カイソ　海蘇面

朝鮮平安南道平原郡に屬する面。郡管内十八面中の一。郡の西部中央に位し鐵道京義線驛道川の西南約一〇軒に位す。東は朝雲面、北は檢山、南は龍湖の諸面に相隣接し、北東は汶山江の江灣を隔てて西海面に相對す。妙香山脈の餘脈域内に及び東半部は丘陵起伏すれども西半分は土地頗る低平にして地味肥え米・麥・粟・小豆・黍等を產す。面邑金舘は面の中央より稍南にありて面事務所・金融組合等あり。人口。昭和五年五二四八人、同十年五六九〇人。

カイソー　海草郡（かい さう）

和歌山縣（紀伊國）三市七郡の一。東は那賀郡に、南は有田郡に接し、西は紀伊水道に面し、北は大阪府泉南郡の西南部と界し、西部に和歌山・海南の二市を擁す。面積約二二八方軒。北境には和泉山脈の西端東西に連り、南界には高野山塊に續く長峯山脈また東西に延亘するも何れも高峻ならず。中部は一般に平坦にして所々に小丘陵の起伏するのみ。和泉山脈の南側には紀ノ川綾谷の平野あり、中部には和歌川・亀川等の小流ありて和歌浦に注ぎその川筋はそれぞれ小平地をなす。海岸は出入に富み、北方には和泉山脈の西端が半島狀をなして突出して前面に友ヶ島々群を浮べ、その間に加太灣を抱き、中部には畑賀崎ありて南方の大崎半島との間に和歌浦灣をなし、灣内北側には和歌浦港、南側には鹽津港あり。更に南部に大崎半島ありて其南に大崎港・下津港を抱く。交通は甚だ便利にて和歌山市を中心に大阪街道は東北部堺ノ山峠を越え、孝子街道は西北部の貴志峠を經て共に泉南郡に向ひ、大和街道は紀ノ川南岸を東方に通じ、淡路街道は紀ノ川北岸を西方加太に至り、龍神街道は東南方に、上熊野街道は南方に向ふ。鐵道には省線和歌山線は大和街道に並行し、紀勢西線はほゞ海岸に沿ひ、海南市を貫きて有田郡に入り、社線には和歌山鐵道は東方貴志に至り、南海鐵道（電車）は孝子街道に、阪和電鐵は大阪街道に沿ひ、加太鐵道は加太に達す。この他野上電鐵は海南市より東方東野上町に通ず。農業行はれて米・麥・蜜柑・甘藷等を主とし其他に西瓜・大根・蔬菜の類を產し、工產は和歌山・海南兩市近傍に行はれ、水產に鰹・鯛等の魚類

海苔・牡蠣・若布等あり。本郡は明治二十九年、海部・名草の二郡を合併して建てしもの。

カイゾー　海藏　三重縣三重郡にありし村。昭和五年四日市市に編入。

カイゾク　海賊橋　東京日本橋區海運橋の舊稱。昔、海賊奉行向井將監忠勝の屋敷ありしよりいふ。又將監橋とも今石橋ともいへり。國花萬葉記・七下「海賊橋。本村木町よりかやば町へかかれり」

カイゾクムラ　海賊村　青森縣陸奥國下北郡東通村大字尻屋の異稱。昔、此岬を利用して一團の海賊ここを根據地とし、難破船を目標として活躍し、後この地を永住の地とせしにより海賊村といふと。享保六年の調査によれば僅か二十五戸の小部落なりしと、いまも他部落の壓迫を避くるために一致團結して交渉を絶つといふ。

カイタ　香井田　福岡縣鞍手郡にありし村。昭和二年四月宮田町に編入す。

カイタ　垣出　【筑田】和泉國（大阪府）の古地名。日本後紀延暦二十三年冬十月桓武天皇和泉國に行幸、目根行宮（大阪府泉南郡目根野村）にましまし翌日垣田の野に獵し給ふ。その地明かならざるも目根野の東に熊取村あり垣田野は其處なるべし。卽ち大字の小垣内は垣田の轉訛に非ずやといふ。天皇は數日の後目根行宮より紀伊國に行幸再び日根に還幸の後熊取野に獵し給ひしこと同書に見ゆ。蓋し垣田野は熊取野の附近なるべし。

【垣田】豐前國（大分縣）の古地名。和名抄宇佐郡に垣田郷あり、今その地詳ならざるも宇佐郡豐川村に大字上拜田・下拜田あり、拜田は垣田の訛れるものか。或は垣は墻の誤にして墻田なるか。源平盛衰記に海田兵衛宗親が緒方・臼杵と今木城に籠城するとある海田氏は或は此地の郷士か。太宰府管内志には「垣田郷……加農陀とよむべし、名義地理、ともにいまだ詳ならず」とあり。

カイタ　粥田　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄、鞍手郡に粥田郷あり、加都田と訓ずるも、都の字疑ふべし。いま高山寺本に加以多とあるによりて訂す。其地今の鞍手郡勝野村・宮田町に當る。一に直方町・新入村も當郷の内なりしともいふ。後に粥田庄と稱せられし地なり。正中二年鎌倉兩執權の下知狀に高野山粥田庄とあり、天正年間は秋月領粥田庄と稱せし地なり。

カイタ　頴田村　福岡縣筑前國嘉穗郡の東北隅、直方市の南方約八粁を隔て、南は庄内村、西南は幸袋町に隣り、東は田川郡上野村・金田町・糸田村に、北は鞍手郡頴田村・小竹町に界す。東部に丘陵性山地あるも西半は土地平かにして耕地よく拓け米・麥の農產あり。筑豐炭田の中部に當り明治・赤池・鯰田・芳雄・日尾の各炭礦の礦區の一部を成す。省線筑豐本線小竹驛に近く交通不便なら寸。和名抄に嘉麻郡草壁郷あり、蓋し本村邊を稱せしものか。大字鹿毛馬の地は往古の牧場址なりといふ。〔嚴島神社〕大字鹿毛馬に鎭座。嚴社。祭神、市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命。筑前風土記に據れば宗像大神、宇佐より宗像に移らせ給ひし時、當村日尾山を越え給ひし古跡として景行天皇の御宇社殿を日尾山に築きしが、その後光仁天皇延文年間、今の地に奉遷すといふ。此處に寅野命（神武天皇）を奉祀する所貝ほ、天皇筑紫遐幸の砌、日向より豐前宇佐宮に至り給ひ、それよりこの日尾山を過ぎ給ひし由緣に基づくといひ、元亀元年、祠殿として合祀せらる。社殿は一時野火に罹りて燒失せしも、後柏原天皇の永正元年再建せられ、正保元年、修營を加へらる。明治五年村社に列し、同三十二年縣社に昇格す。例祭、四月三日。

カイタ　貝田　陸奥國（岩代、福島縣）の古地名。舊奥州街道の宿驛。阿津賀志山中の小驛。其地今の伊達郡大木戸村大字貝田に當る。貝田とは蓋し峡田の義なるべし。東鑑文治五年八月の條に金剛別當は數千騎を率ゐて阿津賀志山麓に陣すとあり、此時の本陣は貝田・越前の間に置けり。

カイタ　海田　【海田灣】廣島灣の東北部にある支灣。海田市町西南岸の小灣入、府中川口より東方に灣入し長さ約二粁、幅約二粁、瀬野川その東北部に流入す。

【海田】廣島縣安藝國の古地名。もと開田・垣田・貝田にも作る。古くより海田灣に臨む海驛にして、神武天皇御東征の時行在し給ひし多郡理宮の位置はこの地ならんといふ。此地は今の安藝郡海田市町・船越町・奥海田村の邊に當る。

カイタ　開田村　長野縣信濃國西筑摩郡の北西部。木曾谷の西北奥を占め面積約一五〇方粁。北は奈川村、東は木祖村、南は新開・三岳の二村に隣り、西は岐阜縣益田郡高根村と界す。飛驒山脈南部の東側に當り西北端に鎌ヶ岳（二一二一米）、西南界には御嶽の艶子岳（二八五九米）峙ち山地深く、西野川の上支末川は東南部に出でて西南に下り、他の一支は西北部より南流し村の南部にて合一して西野川となり南隣三岳村に出づ。これら川筋の谷には小平地あり耕地拓け米を產す。又養蠶行はる。村の大部分は森林にて木材を產し、東北部は末川御料林なり。村の南部よりも省線中央本線福島驛へ約二〇粁を距て交通便利ならず。本村は西野村・末川村の舊二箇村を合併せるものにして、村内に西野冷泉・尾の島瀑・末川・丸山觀音・西野城址・島寄原・毛附原の名所あり。

カイダイチ　海田市町　廣島縣安藝國安藝郡の略〻中部。廣島市の東界を

距る東方約四粁、西の船越町と東の奥海田村及び矢野町との間にあり、面積僅に二・二七方粁。地平坦、瀬野川中部を西流す。古く中國街道の一驛にて今省線山陽本線と呉線の分岐點をなす海田市驛（明治二十七年設置）あり。交通上の一要衝にして商工業行はれ、また米・麥等の農產・藺・魚類の產あり。此地は古く船越町及び奥海田村と共に海田の稱に呼ばれ、開田・垣田・貝田にも作る。のち開田莊（海田莊）に屬し、莊は建久九年の神官符に見え、のち後宇多院御領となる。又中國街道の一宿驛なりしにより村名蓋し之に因みしものなるべし。御領目錄に「廳分、安藝國開田莊」と見え、實簡集・二三に「可以安藝國海田莊地頭職便補高野山遮花乘院勸學料所事云云」と見ゆ。

カイタクシカンエン　開拓使官園　明治四年九月東京青山南北町に設置せる一大農園。北海道へ移植すべき農事の試驗場なりしが、牧畜・種子殖培・養蠶・製絲の道も開き、東京官園とも稱して一般の觀覽を許せり。

カイチ　下一面　朝鮮慶尙南道固城郡の西南部。東北部は三山面に隣り、北は上里面、西は下二面と界し、東南部は海に臨む。北境に聳ゆる秀泰山を主峯とする山地南部に延び、東部海岸に沿ひ低地ありて農耕に適し米・麥・豆を產し漁獵も少からず。道路は海岸に沿ひ通ずるも交通不便なり。

カイチ　開地村　山梨縣甲斐國南都留郡のほぼ中部。谷村町の東南に接し、北境の山背によりて三吉村と表裏す。南界に御正體山（一六八二米）峙ち、村内殆んど山地をなしたゞ中部に小低地ありて桑畑拓け、桑・藺を產し、外に米・麥を出す。又製炭業盛なり。谷村町と南東隣道志村へ道路通ずるも交通は不便なり。此地は和名抄、都留郡多良郷の内なるべく、明治三十二年組合村を脫し現在の部落を以て開地村を置く。寛文九年秋元但馬守、此地に封ぜられ居ること七十餘年、此地に御厩を置く。今村内に大なる赤松二十餘本あり、地人御厩杯と呼ぶ。

カイツ　垣津　→海津村（滋賀縣）

カイデ　鶏冠井　→向日町

カイデン　開田　→新神足村

カイト　垣内　→南高安村

カイトー　海東　【海東郡】尾張國（愛知縣）の舊郡名。古への海部郡を中世東西の二郡に分けしもの。卽ち海部郡の東部なり。分郡の期は詳ならざるも源頼朝の治世なる治承年間なりと傳ふ。古書に皆等と書けるものあり。大正二年二郡を廢し舊に復して海部郡と建つ。而して舊郡域は今の海部郡津島・蟹江・甚目寺の三町及び神守・七寶・美和・大治・富田・南陽・永和・佐織の八箇村に當り、津島町に郡役所を置けり。

【海東村】熊本縣肥後國下益城郡の南部。小川町・小野部田村の東、豐野村の南にて、南は八代郡下益村に隣る。東南部と西北境は山地なるも中部は土地低平にて砂川の上流ここを東北より西南に流れ、田畑拓けて米麥を主とし繭・木材の產あり。省線鹿兒島本線小川驛へ約六粁交通さのみ不便なら寸。村名の起原は詳ならざるも往昔此邊まで海迫りて海の東に當るを以て名付けられしものならんとも、また海頭の轉訛ならんともいふ。今は海岸線より約八粁乃至十粁を隔つ。和名抄に八代郡小川郷あり、當時或は其域内なりしにや。而して中世は阿蘇神領たり。文永・弘安の兩役に竹崎五郎季長從軍し、その戰功に依り海東庄地頭職を賜はり此地に居すと。今その墓存す。墓は小さき五輪塔にて明治二十八年發見され傍に大正六年建立の記念碑あり。季長は大正四年從三位を贈らる。〔塔福寺〕大字東海東にあり。眞宗大谷派。日羅山と號す。正應六年地頭竹崎左衞門尉季長之を創建し、寺領を附しその祈願所となす。當時天台宗に屬し寺運繁榮せしが、天正年中に小西攝津守行長の爲に燒却せられ悉く灰燼に歸す。元禄十五年知榮再興し現宗に改む。

カイドー　海道　東海道の略稱。曾我扇八景・中「大磯……海道一の遊女町」

ガイトー　外東面　朝鮮慶尙北道慶州郡の東南部。慶州邑の東南約一四粁。東は陽北面・陽南面に、西は内南面に、北は内東面に夫々隣り、南は慶尙南道に界す。東部及び西部は山地を成すも中央に南北に狹長なる低地ありて農耕行はる。琴湖江はこの低地を南北に流れ灌漑に便ず。東海南部線村の中央を南北に走り、入室驛を置き、また二等道路これに沿ふ。

カイドー　會洞里　朝鮮忠清北道永同郡永同の東部にあり。會洞里層（白堊系）を以て著名なり。會洞里層は、仙遊洞層・詩今里層と共に永同統に屬し、主として礫岩層よりなり綠色砂岩及び赤色頁岩をも有し、泥灰岩・砂質頁岩及び赤色頁岩よりなる仙遊洞層と整合す。

カイトク　懷德面　朝鮮忠清南道大田郡の中部。外南廟の北に接し東は北面・東面に、西は九則面及び綿川面に隣り、北は清州郡貫都面と界す。南北約一二粁に亙る細長き形をなし、東境に高度約三〇〇米の山地連るも、西部は低地にして、大岩山（八七八米）の北斜面に發する錦江の一支西部を北に流れて低地を潤し平地は農產に富む。總督府線京釜本線東部山地の麓を南北に通じ、懷德驛（昭和三年設置）を置き、之と並行に道路走り交通便なり。

カイドマリ　貝泊村　福島縣磐城國石城郡の西南部。東北は鮫川を限りとして石住村に界し、東南は荷路夫村に隣り、西は東白川郡鮫川村、西北は岡

郡宮本村に昇す。阿武隈山地の内にて高さ五〇〇米以上の高臺性山地をなす。森林多く薪炭を主産物とす。鮎川の對岸には御齊所街道通じバスの便あるも村内は道路なほ改修されず交通便利ならず。往古の事記錄の徴すべきものなし。藩政の頃は梶倉藩に屬せりといふ。明治二十二年村制施行。田人村・石住村・荷路夫村と組合村をなし、田人村に役場を置く。

カイトリマ　貝取澗村　北海道後志國久遠郡の東南部。樽山支廳管内。北より東は太櫛郡に、南は淺島國爾志郡に境し、西の一部は久遠村に隣し、他の一部は海に面す。地は卽ち遊樂部岳（一二七六米）の西麓の地を占め、東北郡境には丸山（六七二米）・峠丸山（三八一米）等連亙し、また南部國境には白水岳（一一三七米）・松山（四〇五米）等、また西部の村境に相泊山（五三二米）・松倉山（五〇八米）等峙ちて、村の大部は山地を成し、たゞ僅に沿岸に低地を見るのみ。臼別川・小川等何れも東部山地に發源して西流し海に注ぐ。北方より道路來り海岸に沿ひて南方に走り熊石村にバス通ず。生業は半農半漁の狀態なり。此地は開拓遲れ維新前は所謂蝦夷地にして戡れ土人蹂躪の地たり。和人の部落を成せしは明治維新後の事とす。本村の稻荷の祠は寛政十年の建立とも傳へらる。大正十二年二級町村制施行す。

カイトン　——社　臺灣臺中州新高郡。丹大溪の上流南方の山岳地帶にあり。ブヌン族丹蕃に屬する高砂族部落。戶數二、人口一八。蕃稱は Qaitong なり。

カイナ　腕山　（にしかなの）　眼谷山脈の一峯。德島縣美馬郡西眼谷山村に聳え、標高一三三三米。東北方は水ノ口峠（一一一六米）に連る。東南麓より眼谷川の一支松尾川發して西南流し、これを隔てて烏帽子山（一六七〇米）と對峙す。

カイナン　海南　【海南】　中世、上總國（千葉縣）の南部の稱呼。和名抄、海上郡佐世・綿庭・大野・山田四郷の地、卽ち今の市原郡の奥老川の上流の峽谷に當る。

【海南市】　和歌山市の南方一〇粁。東は巽村、北は亀川村、紀三井寺町に連り、南は藤白山脈を以て廻らし、西は小流日方川の注ぐ黒江灣に面し、遙に淡路島、四國に對す。市内一帶は平坦、海岸地帶は近年に至り埋立工事のため、海面が變じて新地積を著しく增加し、其の一部は既に工業地帶として利用さる。當市は昭和九年五月一日黒江・日方・内海の三町及び大野村が、二十有餘年來の懸案を解決して合併、同日より市制を實施し一躍人口三萬の新興都市として誕生せるもの（合併前の人口は昭和五年の國勢調査にて、黒江一一四五〇、日方八〇五一、内海六九四一、大野二二四六）。傘と漆器と機業に生きる産業都市にて、海南市を構成せる舊四箇町村は最初街村・農村・漁村として相互無關係に發生せしが、海岸平野西邊と熊野街道の開發に伴つて結合し現在に至りしもの。江戸時代初期、漆器・番傘の製造が開始され漸次村落を手工業化し必然的に商業なも勃興させ今日の都市的基礎を築く。この中黒江の漆器は最も有名にて、安價且つ優美な點にて其の販路廣く、所謂紀州漆器の大部分を占む。主産地は市の北西部卽ち舊黒江より日方に達なる小家屋密集地域にて、道幅の狹き上に屋曲甚だしく典型的な職人町なり。漆器の製造は殆ど全部小家内工業、現在海南市民中漆器製造業者は四千人以上を數へ、之に關係して生活する者は一萬人を越え、漆器家内工業者と漆器問屋と漆器倉庫は極端な分業制度と組合組織によつて統制され、相寄つて一大工業をなす觀あり。この黒江の漆器は正應の頃より根來寺の僧徒によつて、其の常什の具に供する爲に製作せる根來塗が、秀吉の根來征伐による僧徒の離散と共に傳へられしに起原を有し、最初は椀類のみを製し板物漆器を製するに至りしは最近とす。寛永年間には始めて溜地椀や折敷を製作、其製品は極めて粗雜なるものなりしが、文政九年に錆地春慶塗を始め堅地椀と稱する吸物椀を製造し、江戸に送りて黒江塗の名聲を得、此頃には小川長兵衛なる一製造業者が大に斯業の改良のため盡せりといふ。安政年間に始めて蒔繪を施す者が移住し、其後漸次販路を擴張して明治維新となり、明治三年に堀田幸次郎なるもの始めて神戸の外國商人と直賣するに至る。この漆器は原料を近隣より得、氣候風土の斯業に好適のため勃興せしが、いまは原料生産不足と交通進歩により仕入圏は廣く全國に求め、製品も全國に販賣圏を有し、美術品が僅かに歐米へ輸出せらる。今は資本主義經濟段階の下に漸く頽勢に陷りつつあり、現狀打開策として美術工藝品製作への轉向や、洋式家具の製造が試みられつつあるも、其産額は逐年減少の傾向にあり。併し未だに漆器は當市の生産の最も重要な部分を占め年々三百萬圓近くに達す。次に日方は市の商業中樞にて交通路の核心に當り、市役所・郵便局・銀行等も日方に所在し、劇場・常設館・遊興地帶もこの一角を占め、海南市驛（大正十三年日方町驛として開業、昭和十一年改稱）も日方の東部にあり。舊内海町一帶は、漆器業・機業と相並んで當市の三大産業の一たる製傘家内工業の盛大なる地域にて、町に入り込む運河の突地に傘の乾せる樣恰もきのこの行列の如し、「紀伊の八丁傘」と呼ばれ東京・大阪へも多く出さる。紀州藩の開祖、德川頼宣が和歌山へ入封すると共に、和歌山に傘製造業が盛となり（傘の原料を採る竹林が、一朝事ある場合に竹を切つて矢束を結ぶ役をなす爲め奬勵せり）。この傘は和歌山より三里以内の土地に於ては製造を許されざりし爲め、其三里の範圍外にて最も祖歌山に近きこの海南地方に傘の製造が始まりしものといふ。この傘工業は明治に入りて急速に發展し、最初は八丁傘として（八町さして歩けば破れるとの意）最下級のものなりしが、今は東京方面に信用あり、年額約五、六十萬圓の生産を示す。併しこれもやがて漆器と同樣漸減の運命を見つつあり。黒江灣岸の埋立地は市の新しき工業地帶にて、大小の紡績製材工場が群立しつつあり、これ等の工場の生産額は既に漆器・傘等の家内工業生産額を遙かに突破して封建的手工業に代つて將來海南市發展の原動力たらんとす。黒江灣南岸の冷水（いろみ）方面は漁業業務、舊大野村は日方川・山田川沖積平野の純農村的色彩の濃き地方なりしが、漸次郊村的となりつつあり。大野には園藝農作物も盛に行はれる傾向あり、通勤生活者の小住宅や輕工業も起り。市の南北兩部の丘陵地帶は住宅地たり。海南市の交通狀態は水上の交通に黒江・日方・冷水の諸港あるも定期の汽船無く帆船又は發動機船の出入するに過ぎず。陸上方面は省線紀勢西線は和歌山市より來りて、現在周參見まで通じ、海南驛の外將來當市内に黒江・冷水二驛が增設される豫定なり。社線野上電氣鐵道は海南驛を起點として、那賀郡東野上町と連なり、合同電車及び和歌山合同バスは、海南驛前より海岸に沿うて和歌山市に至る。教育機關として縣立女子師範・日方高等女學校・海南中學校あり。舊黒江町立漆器學校は廢校となりしが、縣立漆器試驗場が之に代つて昭和五年に設置さる。市の入口ともいふべきところに新田別莊あり、大阪の富豪新田長次郎氏が瓦萬の富を投じて築造せるものにて、一般に公開され京阪神和歌山方面より來遊者絶えず。冷水港は魚釣り、網曳きの名所、大規模の海濱遊園地計畫あり。海南市を構成せる舊四箇町村の中、大野村は和名抄大野郷の地にて、中世は日方・藤白・黒江皆大野庄に攝せられ、守護職の在所たり。黒江は萬葉集久漁牛湯に當るとの說最も行はれ、大寶元年辛丑冬十月、太上天皇、大行天皇、幸紀伊國時歌として「くろうし湯　潮干の浦を　紅の　玉裳裾引き　行くは誰か妻」の歌卷九に見ゆ。日方は干湯の意にて、名所圖會には往昔其名の如く遠淺の潮干の湯にて、元弘元年の地震よりして陸となり、いつとなく市街の生ぜしものとあり。この日方浦の井松原にては天正五年に石山本願寺合戰の餘波として、織田信長に内通せし大野庄郷士と近村の信徒との間に合戰が行はる。内海方面は名高浦・藤白浦等の合併せるもの、名高の小字たる名方の名も聞こゆ。木の海の名高の浦によるなみの音高みかも相はぬ子故に」「紫の名高の浦のまなこ地に袖のみ觸れていれすかなりなむ」等の歌が萬葉集に見える。國造家舊記に「崇神天皇五十四年、天照大神、吉備名方濱宮に遷座し給ふ事」を記し、この吉備は山陽道にては無く、昔此の附近を呼びたるものにて、倭姫世紀（この書の眞僞は別として）にも名草濱宮より吉備國名方濱宮遷るとあり、この吉備も同樣に解すべきか。藤白は内海村の一部なるが、東部を鳥居、西部を冷水と稱す。中世足利方の守護職は大野庄に治所を置き、藤白に館舍を設く。卽ち、吉野朝の頃紀伊國は南北兩軍の相爭ふところとなり、官軍の將四條隆俊が名草郡に駐して楠木正儀と共に、足利方の畠山國清の侵入に抗し、官軍の衰へるや、足利氏は山名義理を紀伊の守護として藤白に治さしめしものなり。（大野城址）當方の東南方丘陵上にあり。いま矢倉跡最も高く、二の丸跡に礎石多し。築城の時代は不明、建武年間淺間入道沙彌覺心在城、正平の頃は細川淡路守宗茂、至德より明德の頃までは前記の山名修理大夫義理居城、元中の末義理は其の一族幸滿と共に叛し、將軍足利義滿は大内義弘をして討たしめ義理が逃亡するや、義弘これに代つて紀伊を賜ひ、其臣平井豐後守は守護代として大野に在城せり。應永六年義弘誅に伏し畠山基國代つて守護となり河内に居りて紀伊を併領、大野には其の家宰遊佐氏守護代として來住、子孫相繼いで天正年間に至る。此間畠山氏には内事多く幾多の變遷ありしが遊佐氏の大野に於ける勢力には變化無し。天正十四年羽柴秀吉が紀伊を征伐するに及び、大納言秀長が紀伊を賜つて和歌山に築城し城代を置きて治め、淺野幸長を經て、德川頼宣が入封するに至り、大野城もこれ等の直轄となつて城に住む者も無く、自然荒廢に歸す。（藤白山）藤白山脈を南山に横臨し、上下十八町加茂村に至る。頂上に延命院地藏峰寺あり。此坂はまた歴代熊野御幸の際の御休息所として御所の平・御所が谷・御所の井等の名殘りにて、熊野參詣第一の美景なり。（藤白神社）大字藤白に鎭座。應社。祭神、天照國照彦火明命・玉依姫命・祝戸王子。熊野九十九王子中重要なる位置に居る五體王子の一にて、熊野街道の門戸に位し、古くより其名著はれ衆庶の崇信甚だ篤し。院政時代には歴代上皇熊野御幸の際には親しく御參詣の事あり。就中、建仁元年後鳥羽上皇御幸の時には、社頭に經供養を行はせられ、又和歌・相撲の會を催さる。其他縉門勢家僧侶の參詣頗る多く、史上著名の社なり。（淨土寺）　鳥居浦にあり。時宗。仙臺山と號す。一遍上人の開創にて、山名修理大夫の再興に係る。修理大夫大野に討死し當寺に葬る。また鈴木三郎重家・六郎重清共に此處に葬り、其等の碑あり。（海雲寺）冷水にあり。臨濟宗妙心寺派。楞伽山と號す。文中三年玉林和尚の開創に係り、本尊は運慶五代孫法眼康俊の作になる釋迦如來を安置す。庭園は、藩主德川頼宣の好みによりて作られたるものな

り。〔了賢寺〕 冷水浦にあり。眞宗本願寺派。飯盛山と號す。文明八年蓮如上人當地行化の時、村人喜六太夫上人に見えてその徒弟となり了賢と號し、自宅を飯盛山に移して道場となしたるを當寺の濫觴となす。〔淨國寺〕 眞宗本願寺派。俗に黒江御坊と稱す。永正四年本願寺九世實如冷水浦の御坊を此地に移建す。同十世證如此地に住せし古跡として著聞す。〔釋林寺〕 眞言宗山階派。幡川山藥師院と號す。寺傳に聖武天皇の勅願寺にして唐僧鑑光の開基と云ふ。

【海南】 四國の別稱。瀬戸内海の南の地方と稱する意か。

【海南面】 朝鮮黃海道海州郡に屬する面。郡管内二十三面中の一。郡の南端中央部を占め、東は東江、北西は茁佐面、西は宮民、南は松林の諸面に相隣接し、北は海州灣を距てて郡邑の所在地海州面に相對す。西方鶴山の餘勢域内に横がり西半部は丘陵地をなせども東部の海州灣に臨む地域は土地平坦にして地味肥沃、米・麥・粟・大豆等を產す。又水產物に鰒・貝類等あり。面邑黃浦洞は面の中央より稍〻北に位置し海州灣に臨めるも干潟の差大に殊に干潮時淺堆露出し船の碇泊に便ならず。面事務所あり。南部の堂山里に警察官駐在所あり、其他集落に項觀・三峯・裕南・峰柴等發達す。人口昭和五年四〇四九、同十年四三五三。

【海南郡】 朝鮮全羅南道一府二十一郡の一。全羅南道の最南端に突出する半島部に當りその突角海南角は郡の極南たり。東南は完島郡に隣り西南は珍島郡に、西は木浦府に各〻海を隔てて相對し、東北は康津・靈巖の二郡と界す。地勢は三方海に臨み東南部は頭輪山の一帶逶迤し土地西北に漸次下り平地をなし地味頗る肥沃なり。海岸は長汀曲浦、出入屈折し海岸線長く自然の港灣を形成する所少からず。船舶の出入自由にして碇泊地十二所の多きに達す。面積約八一六方粁。主生業は農業にして其主なる農產物は米・麥・大豆・綿等にて養蠶も行はれ、また織物・酒類・生糸・木製品・蓆製品・穀粉・海苔・油脂等の工產物あり、水產・林產も少からず。黃山面の玉理山よりは蠟石・鉛に明礬石を產し、蠟石は茶器・花瓶・水盤・印材等に重用せられ、明礬石はアルミニウム原料となり世界的寶庫として著はる。於蘭鎭は松旨面南端突角に位置し前方に於佛島を擁し天然の港灣を形成する碇泊地にて、釜山・木浦間の航路に當るを以て朝鮮郵船會社の定期船寄港し當に進港として世に知らるるのみならず商港としても有望視さる。本郡は百濟の麥琴縣に當り新羅に至り侵漢（一名三枝縣）に改め陽武郡（今の康津郡）の領縣となりしが高麗の朝に及び海南縣に改め靈巖郡の所屬とす。李朝太宗王の九年珍島を合併し海珍縣と稱せしも、世宗王の三十年海南縣を割て古名に復し邑治を現在の地に移す。建陽元年海南角に散在する島嶼は之を完島郡に移割し、光武十年珍島荒入地三寸面（今の三山面）及び靈巖郡の所屬たりし玉泉始・玉泉終・北平始・北平終・松旨始・松旨終の諸面を合し縣を郡に改め、大正二年康津郡白道面の一部及び完島郡市古面三馬島を、大正十年完島郡郡外面佛島を移屬し今日に至る。

【海南面】 朝鮮全羅南道海南郡の管邑。郡の略〻中央部に位し、東は玉泉面、南は三山面、北は馬山面に隣り西南部は海に面す。面積約四一方粁。北境の金剛山（四八一米）を初め四周に小丘陵あるも中部は平坦にして耕地あり米・麥・豆等の農產あり。道路東は康津、西は右水營方面に通ずるも交通なほ便利ならず。郡廳の所在地。

カイナン　懷南面　朝鮮忠清北道報恩郡に屬する面。郡管内十面中の一。郡の西端に位し、鐵道京釜線大田驛の東北二五粁に位置す。東及び南は安南北は懷北、西北は龍興、西南は錦江を距てて大德郡東面に相對す。小白山脈の餘脈國師山（五五二米）老城山（五〇一米）等東北境に聳え、域内殆んど丘陵山地起伏し平野に乏しく錦江も此地域に於ては嵌入蛇曲にして兩岸殆んど平坦地段丘等なく、耕地極めて少なし。產物は棉花・麻・煙草等にして又明鉛を產す。道路は嶮路多く道路も三等以下にして車を通ずるもの少なく極めて不便なり。面邑鳥谷里は面の略〻中央に位し、面事務所・警察官駐在所等あり。人口昭和五年六四五五、同十年六〇九九。

カイナン　外南　朝鮮平安北道朝州郡に屬する面。郡管内六面中の一。郡の西南境中部に位し、鐵道京義線定州驛の北方五〇粁に位置す。東は水豐・兩山の兩面に、北は南西面、西は義州郡の古邨朝面、西南は龜城郡天摩面、南は同龜城面に各相隣接す。西半部は面境に聳立する摩南山（九四〇米）・銀倉山（九三一米）・三峯山（六三〇米）等の諸山によりて域内山岳重疊し平地極めて乏しきも東部は大寧江南流し、その流域及び東南地域は稍〻廣き平地を見る。河川は水量乏しく灌漑便ならざる爲、大部分畑作にて米產に乏しく、農產物は大豆を第一とし玉蜀黍・粟・これに次ぎ馬鈴薯・煙草等あり。又麻を產し麻布・明鉛の產あり。主要道路は北方郡邑朝州に通ずる二等道路の外南方安州に至るもの、東北方新倉に至るもの等の分岐點に當り、其他各隣接面への道路開けたるも何れも境界山地に於て峻峠を越ゆるため峻坂嶮路多く交通便ならず。面邑大安は東部低地の略〻中央に位置し面事務所あり、三・八の日に市開かれ雜穀・蔬菜・日常品等取引行はる。人口昭和五年一二八〇六、同十年一五七四。

【外南面】 朝鮮慶尙北道尙州郡に屬する面。郡管内十八面中の一。郡の中央より稍〻東に位置し、郡邑尙州の西南一〇粁にあり。東は尙州・青里・北及び西は內西、南は功城の諸面と各相隣接す。花崗岩山地の削蝕の結果老年期の地貌を呈する丘陵性地域にして、丘陵面の頂まで耕作化せる特色をもつ。灌漑の便に乏しきため主畑作農業が行はれ麥・陸稻・馬鈴薯・玉蜀黍・粟等の栽培行はる。又尙州紬を產し干柿の特產あり。面邑新上よりは郡邑尙州、東南青下里南方玉山等へ道路あるも自動車を通ずるもの未だなし。人口昭和五年五六二五人、同十年五八三一人。

【外南面】 朝鮮忠淸南道大德郡に屬する面。郡管内十二面中の一。郡の略〻中央に位し、鐵道京釜・湖南兩線の分岐驛大田の所在地。大田府を圍繞し寧ろ大田の名に於て世人の注意を惹く。東は東面、北は懷德面、西は鶴川、南は山内の諸面と各相隣接す。東南の二面山を綾らし殊に東南に聳ゆる倉藏山（五九八米）最も顯はれ、其餘脈東南部を被ひ漸次北西に傾き遂に大田附近に於て四八米に低下し平地となる。殊に錦江の支流鶴等川域内を貫流し灌漑の便よく氣候概して中和にして盛夏三十度を越えず、厳冬と雖も零下五度を下ること稀にして農業よく行はる。農產物には米・麥・大豆を多量に產す。鐵道京釜線南北に貫通し更に湖南線を大田より分岐せしめるに至り交通上要衝の地位を占め、鐵道開通前殆んど無人の寂村は長足の進歩發展を成し、京釜沿線中大邱に亞ぐ繁華の地となれり。面邑大東は大田府の東郊に位置し面事務所あり。また孔道里に航空標識の大田地名標識あり。人口昭和五年一二八四五人、同十年八五七四人。

カイヌ　貝沼　陸奥國（陸前、宮城縣）の古地名。和名抄新田郡に貝沼郷あり、高山寺本は貝治に作るも恐らくは誤なるべく、貝沼に作りカヒヌ・カヒヌマと讀むべし。其地今の登米郡石森村・石越村・上沼村に當るならん。一に佐沼町・淺水村・實江村に當るともいふ。

カイヌマ　貝沼池　陸奥國（陸前、宮城縣）新田郡の歌枕。和名抄、新田郡に貝沼郷あり、卽ち郷域は今の登米郡石森村・石越村・上沼村等に當れば或は貝沼が上沼と訛りしものなるべく、池は上沼の地にありしものか。夫木・二三「心ゆく水のけしきはけふそみるこやよにかへるかひぬまのいけ　紫式部」

カイネー　開寧面　朝鮮慶尙北道金泉郡に屬する面。郡內二十面中の一。郡の中央より稍〻北東にありて、郡邑金川の北東七粁に位置す。東は牙浦、北は谷松北西は位良、西は牙川、南は南面、及び農所の諸面に各相隣接す。洛東江の支流甘川西南の修道山中に發源して本面の南部を貫流し耕地よく開け灌漑の便と地味の肥沃と相俟つて農業盛に行はれ、米・麥・大豆・菱草・馬鈴薯・苹果・牛・陶器等を產し、住民殷して富裕なり。鐵道京釜線南境近く敷設せられ大新驛に近く其距離僅に二粁、乘合自動車の便あり。一方西方金泉にも停車場ありて金泉と等山郡邑を結ぶ三等道路域内を横斷し交通頗る便なり。面邑開寧は面の中央よりやや南にありて農產物集散の中心を成し市場ありて五・九の日に開き、薪炭・穀類の取引盛なり。面事務所・警察官駐在所・郵便局・金融組合等あり。人口昭和五年七五九六人、同十年七六九一人。

カイネー　會寧　【會寧郡】 朝鮮咸鏡北道一府十一郡中の一。本郡は道の東北境に位置し、東北は鏡城郡、南は富寧、西は茂山の諸郡と相隣接し、西北は豆滿江を距てて滿洲國間島省に相對す。郡の南境には白沙山（一一三九米）・瑟峰（一〇四八米）・民事峯（一四二九米）・車輪峯（一五五九米）等聳立し所謂車輪山脈域内に重疊し、南半部は山岳地帶をなし北するに從ひ漸次高度を減ず。而して之等南緣山地に發源せる清乙川は西部を、會寧川は瑟峯に發源して中央部を、八乙川は東部を何れも北流して會寧邑附近に於て豆滿江に合流す。之等の合流點附近は波狀形平原にして耕地稍々開けるも其面積僅に一〇〇ヘクタール內外に過ぎず、總面積の八%にて本道各郡中第十位にあり。生業は農業を主とし、漁業者・日稼人・商業者これにつぐ。物產には大豆・粟・黍・稗・生牛・木材・石炭等あり。道路は咸北線郡內を南北に鐵貫し、南方清津・元山に通じ、北東は羅津及び上三峰に於て南陽より豆滿江北岸圖們を經て新京に至る京圖線に連絡し、又會寧より西方に江を渉つて新鶴林に至る北鮮線等あり交通頗る便なり。郡邑會寧は郡の北緣豆滿江に沿ひ、國境都市として交通上・軍事上主要なる位置にあり。會寧邑の西方二〇粁に五國城址あり、人口昭和十年五七一三七人、うち內地人八〇一人、朝鮮人五二七四六人、滿洲國人一二九三人。本郡は元高勾麗の舊地にして胡笳に幹木河と稱せり。李朝世宗十六年此地に城堡を設け以て鎭を置き會寧鎭と稱し、僉節制使を置きしが後降して郡都護府を置き、二十二年鏡城の一郡を割きて之に附屬せしめ、開國五〇四年改革の際之を郡に改め以て今日に至る。行政上分つて會寧・碧城・雲頭・鳳儀・昌斗・龍興・花豐・八乙の八面に分ち郡廳を會寧に置く。

【會寧邑】 朝鮮咸鏡北道會邑郡の管邑。郡の北緣豆滿江に沿ふ國境都市、清津北方七六粁、鐵道咸北線に沿ひ江を渡れば間島に入り龍井村へは西北五二粁を距つ尙上流には茂山、下流には鏡城ありて交通上殊に軍事上經濟上間島と主要な關係を有す。又上三峯を經て滿洲國開山屯・龍井村に連絡し又南陽を經て圖們に出で京圖線に連絡、交通頗る便なり。又慶源・雄基に至る定期自動車の便あり。圖們江

國際鐵橋は日滿兩出資に成り、全長三二一米、中央は鐵道、兩側は人道となり、日滿を繋ぐ唯一の歩橋をなす。道路は元山・會寧・穩城線・茂山慶興線等によつて國境各郡との交通の便あり。尙豆滿江の舟筏により間島との往來自由とす。附近に注する木材・穀類・石炭等の取引行はれ、豆滿江木材會社製材工場・稅關出張所あり。又郡廳・面事務所・歩兵第七十五聯隊工兵第十九大隊・陸軍倉庫出張所・憲兵分隊・警察署・地方法院支廳・稅關支署・穀類麻布檢査所・朝鮮殖産銀行・殖産銀行等の支店あり、原料・燃料・勞力の豐富を以て將來工業上一層の活躍が期待さる。特に滿洲との國際交易が行はれ對岸間島へは本地方人の越境耕作をなす者多く又滿洲國人の入會勞働その他に從事せる者多し。人口昭和五年一九四八一、同十年二三七七一。

【會寧】朝鮮咸鏡北道會寧郡にある炭田・會寧・鍾城兩郡に跨り會寧郡側には雲頭・鳳儀・碧城・會寧・八乙・龍興の諸面、鍾城郡側に於ては古邑面の大部・南山・龍渭の兩面の一部を包括す。爽炭層は第三紀會寧統に屬し、基盤岩石たる花崗岩又は古生代岩層を不整合に被覆す。炭層は全體としては其數多く十層内外を數へ厚さ〇・五米乃至三米に及ぶ。炭質は褐青炭又は褐炭に近く有煙炭にして輕度及び硬度低く風化により粉炭化し易し。埋炭量は第一層炭量約五〇〇〇萬噸と稱せられ炭田内に現在花豐・竹浦・會寧・鳳儀及び鷄林の五炭礦あり、花豐・竹浦は其年產額各六〇〇噸乃至二〇〇〇噸に過ぎざるも他は各年々一四〇〇〇噸乃至一八〇〇〇噸を產す。會寧炭坑へは鐵道咸北線會寧驛より四粁東方に位置し自動車の便あり。

【會寧炭礦】朝鮮總督府鐵道局線の一なる北鮮鐵道管理局線に屬す。朝鮮の北東邊、咸鏡北道北部の滿鮮國境に近き咸鏡本線の會寧驛より國境に沿ひて西方の鳳儀・鷄林等を經て新鷄林驛に至る。沿線に鳳儀・鷄林の炭礦ありて、最も良質の遊仙炭を產出す。全長一・七粁。其間會寧・永豫・鳳儀・鷄林・新鷄林の五驛を置き、會寧驛にて咸鏡本線・圖們線に接續す。

カイノ　貝野村　新潟縣越後國中魚沼郡の西南部。十日町の南に隣り、北に吉田村、南に外丸村、西は東頸城郡松之山村と界し、東は信濃川に隈らる。西境に城山（六三七米）・有倉山（六三二米）等聳え、山麓との間に南北の斷層に依る高度四〇〇米の平夷面あり、壯年期の開析を示し、また高度二〇〇米、内外に二段の河岸段丘あり、主に畑地となる。水田は信濃川河岸に拓く。土地肥沃にて農業・養蠶發達するも冬季は積雪多くためにその間副業行はる。桑落は委・安養寺・新屋敷・本屋敷・堀之内・阿寺等發達す。この地は南北朝時代宮方に屬し、里見義氏西部山頂たる當年越の峯に築城し、この地を領せりと云ふ。鷹巣岸に蕗の名所あり。

カイバ　海馬　【海馬村】樺太本斗郡の西南海上。本斗支廳管内。本斗町を距る約五五粁の西南にあり、海馬島の一島一村、東西約四粁、南北約八粁、周圍約二〇粁の火山島。火山岩及び火山岩層より成り、中央には臺南岳（四三八米）聳え、海岸は屈曲に富むも船屋・岩礁羅列す。アイヌ人は海鹿の棲息するよりトドモシリ（海鹿島）と稱す。附近の海上には鰊・鱈・泊鱈・昆布等の漁獲多く古丹・鴨澤・泊鱈・海馬（長濱）等の漁業業務が發達す。また北海航行船舶の避難地として知られ東端に燈臺あり。

【海馬島】→海馬村（樺太）

カイバ　蓋馬臺地　朝鮮の北部咸鏡南道及び平安南北道に跨る一帶の高原。標高一〇〇〇米以上を有し南方に緩傾斜をなす。白頭山より南方に擴がりたる玄武岩の熔岩臺地にて、この臺上は更にアルカリ粗面岩の噴出により一層高まり、熔岩臺地一帶は大森林なるも、臺地の周緣より火田民が出入し、特殊なる開墾形が所々に見うけらる。地質は主に先カンブリア系の片麻岩・第四紀の熔岩等よりなる。この名稱は西南西——東北東の走行（即ち地東方向）をもちし高原性山地より成る所の朝鮮北部地域（平安北道・咸鏡南北道）に對し、小藤文次郎博士の名付けしものと云ふ。

カイバショー　快馬廠會　くわいば　關東州普蘭店民政署管内の北西部。東は鞍子河によりて朝陽寺會に、南は普蘭店會に隣り、西南は海に面し、西北は滿洲國奉天省復縣と界す。復縣との境界と東部には丘陵性山地あるもその他は概ね平坦なり。高粱・大豆等の農產あり、西南岸には鹽田開けて天日製鹽行はる。道路中部を南北に通じ、滿鐵連京線普蘭店驛を去ること遠からず交通不便ならず。

カイバラ　柏原町　兵庫縣丹波國氷上郡の首邑。郡の東南部へ北方顯知山市へ約二六粁、東南篠山町へ約二二粁を隔て、多紀郡大山村の西北に接す。四周山地を繞らし中部に低地ありて西北方に延び佐治川流域の平地に連る。低地には水田、山地の傾斜面には桑畑拓け、米・麥・蔬菜・鷄卵等を產し、繭・生絲の產額多し。名產に丹波栗・松茸あり。省線福知山線ほぼ南北に走りて柏原驛（明治三十二年設置）を置き、縣道またこれに並行し、西北方佐治町、西南和田村方面へはバスの便あり。古くは和名抄氷上郡栗作郷に屬せるものか。江戸時代織田氏二萬石の陣屋のありし處。初め慶長三年信長の弟織田三位信包の有となり、氷上三萬六千石を領せしが、祥上野介信秀に至り、慶安三年除封、爾後四十五年間は幕府代官所の管治となりしに、元祿八年織田氏舊地を復せられ、即ち伊豆守信休大和より轉じて二萬石の食邑となり、子孫世襲して明治維新に至る。維新後は郡役所の所在地にて、政治經濟の中心地たり。いま警察署・區裁判所・氣象觀測所を始め中學校・女學校等の官衙學校ありて郡の首邑とす。町名はもとカシハバラとも訓みしが、今は專らカイバラと呼ぶ。（柏原藩）織田信雄の三子德川氏に仕へ大和宇田を領せしが、元祿年間この地に移り二萬石を領して明治維新に至る。明治四年一旦縣となりしが間もなく廢せられて豐岡縣に入る。（崇廣館）柏原藩の藩黌。元祿八年學館創立、嘉永三年又新館といふ。安政四年新築、崇廣館と改む。（八幡神社）縣社。祭神、譽田別命・息長足姫・姫三柱之命。萬壽元年の創建にして天正七年兵火に罹りて燒亡し、同十年豐臣秀吉これを再建すと傳ふ。社領三十五石と云ひ、古來近郷の產土神として崇敬篤し。明治三十三年五月縣社に昇格す。本殿（三間社流造）・拜殿（桁行四間、梁間三間）は共に屋根檜皮葺にて、天正十年の造營に係り、現に國寶建造物たり。境内五千坪例祭、十月十五日。（乘寶寺）柏原本にあり。古義眞言宗。草創沿革は不詳。現に高野山末たり。紫紙金字法華經八卷は頌品少き紫紙の一遺例にして紺紙金字大威德陀羅尼經一卷と共に國寶なり。前者は建長五年六月施入の奥書、後者は仁平四年五月の奥書あり。

カイビ　海尾　→彌陀庄（臺灣高雄州岡山郡）

カイビ　海美面　朝鮮忠淸南道瑞山郡の西南部。瑞山面の東南に隣り北は雲山面に、南は高北面に接し東は禮山郡德山面と界し、西は沙長浦に臨む。西境に聳立する伽倻山（六七八米）の西斜面に當り、西部は低地にして西南山地に發する小川及び雲山面より南流し來る小川、この低地を潤して農耕盛なり。瑞山面及び高北面・德山面・雲山面に至る二等三等道路海美より放射狀に通じ交通便なり。いま貴衆里・德佳里・堆梳城里・前川里・鷹坪里・良林里・鎭城里・機池里・石浦里・造山里・堰岩里・邑内里・紅桑里・烏鷄里・皇浴里・冬岩里・礪陽里・山水里・休岩里・大谷里・館御里・三松里よりなる。

カイヒョー　海豹島　樺太東北岸の一小島。北知床半島の岬端より海上一〇浬、敷香より東南方八〇浬にあり。南北に長く七〇〇米、幅七〇米全部第三紀の岩層から成り、海拔は一・二米に過ぎざるも卓狀を呈し平坦にて、特に東側に稍〻廣い砂濱を有す。本邦唯一の膃肭臍繁殖場にてペーリング海の米領アリロツ諸島、カムチヤツカ半島東部の露領コンマンドルスキー群島と共に、膃肭臍の世界三大繁殖場の一として著名なり。毎年六月頃より來遊して上陸し、分娩・生殖・哺育を行ひ、九月になると遠く南方の海洋に去る。近年の最大上陸數は三萬頭内外にて、分娩の汚物を好餌となす鷗の一種なるロツペン島岩上に群棲すること數萬、共に天下の奇觀といふべし。我が領有に歸して以來獵獲を禁止し繁殖を保護し、明治四十四年英米露と條約を締結せし結果、翌年より官營獵獲が行はれ、毎夏樺太廳より監視員と人夫を送り、近年一五〇〇頭前後を捕獲しつつあり。

カイヒョートン　海猫屯會　かいとん　關東州大連民政署管内の略〻中央部。大連灣の西岸に突出する半島部を占め、南は海を隔てて大連市を望み、西周水子會北は南關嶺會に隣る。中部に丘陵東西に走り南北の灣岸に沿ひて小低地あり農業行はれ高粱・大豆等を產す。

カイフ　海府　【海府海岸】新潟縣佐渡郡にある指定名勝。相川町より大佐渡の北端なる彈崎附近に至る延長約五〇粁の海岸並に海面にして岩谷口を境とし、南北の二區に分たる。南區は第三紀に屬する相川凝灰岩を主體として之に石英粗面岩・輕石安山岩・閃綠岩等の火成岩を伴へる地質關係の顯る複雜なる海岸。岸に沿ひて標高二〇米の海成段丘長く南北に連り、段丘の海に臨める處、常に斷崖を成して大小の湯布これに懸り、岩質の硬軟と節理の多少とに隨ひ、岬角峽灣の出入潑しく、無數の島嶼・岩礁また遠近に非布羅列して景趣の變化に富めること北日本稀に見る處、就中、相川凝灰岩は概れ角礫狀を呈して其質堅く、其色多種多樣、節理斷層縱横に岩體を切斷し、北海の怒濤これに乘じ猛威を逞しうし以て豪宕なる風景を生ずるに至る。尖閣灣の如き此種の風景の極致といふべし。北區は全部緊緻なる綠色の粒狀玄武岩（ドレライト）より成り、南北の如く沿海段丘の發達せるものなく、山は大斜面を以て直ちに海に臨み、纖細の景致と色彩の變化とに乏しきも景色自ら雄偉なり。王冠に似たる大野龜半島及び瓦體の浮べる如き二つ龜島などその代表的とす。兩も海上には鴨島・大島・長嶋等の小嶼浮び、鮓岩・扇岩等の奇岩峙ち、龍女門・天女門等の洞門開き大されの大瀑の懸崖ありて豪壯の大觀中、巧に小巡景を見る。斯く南部と北部とに於て形式を異にせる二大風景の對立せるは、海府海岸の有する特色の一とす。近年探勝の客多し。

【海府海岸】新潟縣岩船郡上海府、下海府村の海岸。曾て觀山陽は、松島の美と男鹿の奇を合せ持つと稱讃せし地なり。附近一帶は黑雲母花崗岩により構成され、海岸の美はこの花崗岩の特殊構造と地盤隆起後の海蝕作用に因す。海岸線の大形は南北方向の斷層により決定され、海蝕崖は滿幼年期に發達し斷層崖の單調を破る。北部を「鮫川流れ」南部を「海府浦」と稱す。海府浦は南端岩崎より中央鳥越山にして、主部は羽越線間嶋驛附近なり、岩礁海岸に接して群在し若干の

砂漠をもち佳趣深し。故佐藤傳藏教授の報告に從ひ黑雲母花崗岩の特殊構造と景色との關係をみるに驚異すべき點あり。〔狐崎〕 越後寒川郡の西南〇・五粁、海岸より綾麗をもつて突出す。花崗岩にて構成され、その節理は北四五度西の方向にて北東へ約三〇度傾き、この分割面に從ひて規則正しく破壞さる。狐崎の西南一帶磯水をもつて隔つる銚岩は分割面に沿ふ海蝕に因り分離せるなり。この方向の分割面の外、第二次的に北四五度西の方向をもち北東へ六〇度傾くものあり。〔蓬萊山〕 脇川より南西一粁、狐崎の南約二粁、鐵道線路の西側海岸に九一米の高度を以て突出せる孤立丘。丘と呼ぶよりも柱と稱する方適當なり。この四周に岩塊散點し、天神岩・平床岩・一本松岩等は殊に面白き形態をもつ。この附近の花崗岩は北西方向に八〇度傾斜し、北四〇度東に走る分割面と北五〇度西の方向をもち傾斜殆んど垂直のものとあり。幅四—五呎、高さ三六呎、奥行三六呎を有する蓬萊の海蝕洞門の方向は前者の分割面に依る。また天神岩・一本松岩の岩礎を分離せしは、後者の分割面なり。〔二子岩〕 蓬萊山の南西數町、陸上の孤岩にて北六〇度西の方向にて北東へ約六〇度傾く分割面と北三〇度東の方向にて北西へ五五度傾く分割面とに因り形成さる。〔アクアキ崎北端の岩礁〕 今川部落より南西數町にあり。北四〇度西に走り北東へ六〇度傾く分割面により構成さる。これより南方桑川に至る海岸を特に「笹川流れ」と稱す。奇岩怪石の散點と洞門・洞窟の發達をもつ景勝地なり。板貝部落西方の海岸に「四方岩」あり、「笹川流れ」海府海岸の一絶勝地にして、方向南北、傾斜東三五度の分割面と北約五度東の方向にて、垂直なるもの等に從ひ海蝕さる。海蝕洞門の發達顯著にして、これ亦分割面に支配され、東西の方向と南北の方向との海蝕洞が十文字に交叉し、その天井の落下により四方岩を形成せしならん。蝙蝠穴はその洞穴の一にして、南東への奥行一九八呎、幅は入口一〇呎、中央五四呎、奥五四呎、高さ入口にて二七呎、中央も亦二七呎、奥は砂濱なり。洞内に蝙蝠群居し、パット・グアノの堆積著し、又天井周壁に鐘乳石・石筍の生成あり。〔兜岩〔岩門岩〕〕 深浦の入江を隔ててゲミの本岩に對す。海蝕洞門あり、その高さ一八呎、幅一二呎、奥行三六呎あり。兜岩南隣に七軒鐘乳洞あり、奥行二二五呎、幅入口にて一八呎、中央にて一五呎、奥にて九呎、高さ入口にて二一呎、中央にて一八呎、奥にて一五呎あり。洞内の天井・周壁には炭酸石灰の鐘乳石の垂下するもの多し。〔無我鐘乳洞〕 エビス浦北方の岬角にあり。當海岸第一の大さを有す。奥行百呎高さ三五呎。この内に五吋以上の石筍あり、海蝕より免れる現狀を示し、現在この海岸は上昇しつゝあるを證す。〔宝岩・眼鏡岩〕 エビス浦の岩礁。附近、雄獅子・雌獅子等の奇岩怪石多し 眼鏡岩は二つの洞門をもち(一は高さ二七呎、幅九—一二呎、東の洞門は入口の幅一五呎、高さ二十四呎あり)、この分割面は北方に口を有する室岩の洞窟に連なる。〔獅子岩〕 雌獅子と雄獅子とあり、一帶は景色特に佳し。〔鳥越山〕 桑川の南にあり、トンネルによつて穿たる。方向北東東に走り北北西へ急斜せるものとこれに直交するものと二つの分割面により決定さる。大洞門を有し、その内に北側に三つ、南側に二つの海蝕洞を有す。〔地蔵洞〕 鳥越山の西南端にある海蝕洞。入口の幅六呎、高さ一二呎あり、奥に酸化鐵華により形成されたる柱あり、天井より同質の鐘乳狀の垂下物あり。以上は景色を構成せる主要なるものなるも、其外に海岸の隆起海蝕臺地の發達あり、桑川部落の東方高度三〇—四〇米の卓子狀臺地、寒川—桑川間の海崖が海拔三〇米に多きは隆起の證なり。以上の景勝地は羽越線の開通により全國に紹介され、桑川驛前のホテル・旅館等の設備と相俟つて觀光客多し。

カイフ　海部

【海部郡】 德島縣一市十郡の一。縣の南端にあり。その形ほゞ三角形をなし、北は那賀・美馬兩郡に隣り、西は高知縣香美郡・安藝郡と界し、南は太平洋に臨む。西北境に劍山の一峯ウローヤュー(一九二五米)聳えその山嶺は東に延びて權田山(一六〇九米)・平家平(一六〇四米)等連りて北境を限り、或は南に延びては石立山(一七〇三米)・行者山(一三五一米)・赤城尾山(一四三六米)・貴田丸(一〇一九米)・長吉森(一四二三米)等つゞき西境を限り、郡内概れ山地にして平地少く、郡の中央をほゞ東西に走る湯桶丸(一三七二米)・吉野丸(一一一七米)・盤嶽山(一〇三四米)・胴切山(八八四米)・五劍山(六三九米)等の諸峯分水嶺となり郡を南北に分ち、山分・里分の稱あり、北は木頭谷の一部をなし、紀伊水道に注ぐ那賀川の上流北川この間の水を集めて東に流れ、南は海部川・牟岐川等南に流れ太平洋に注ぐ。海岸は海崖多く、屈曲少なきも、僅に東に向つて開口せる小灣由岐・日和佐・牟岐・淺川・鯛浦・宍喰等ありて泊舟に便を與ふるも、太平洋に面し海中亦岩礁多く航路險惡たり。生業は純農少く或は採薪・製炭・製紙・製茶等を兼業とし海岸沿ひの漁業に從事す。産物は水産最も多くその主なるものは鯛・鰯・鰹・鮪・鮫・鯖等にて副産物に乾鳥賊あり、農産物は米・麥・粟・大豆・玉蜀黍・甘藷・煙草等ありて外に木炭・茶・木材・薪・廣粉等を出す。德島市より高知縣安藝郡室戸町を經て高知市に至る國道海岸沿ひに通じバス發達するも山を繞らせるを以て他地に至るに便なら寸。本縣下に於ける別天地の觀あり。郡名は拾芥抄を以てその初見とす。蓋し中世、和名抄、那賀郡の和射・海部二郷の地を割き私に置きしものか。爾後變化なく今日に至る。

【海部川】 德島縣海部郡を流るる川。川上村の西北部湯桶丸に發する湯桶谷、大木屋山に發する大木屋谷、木屋山に發する木屋谷の三谷合して東流し、王餘魚谷・皆ノ瀬谷を容れ、大字小川にて流路を南に轉じ、町奥町にて太平洋に注ぐ。流程約二五粁。上流は瀑布甚だ多く俗に九十九瀧といひ、就中王餘魚瀧最も著はる。

【海部】 阿波國(德島縣)の古地名。和名抄那賀郡に海部郷あり、加伊布と訓す。其地今の海部郡川西村・川東村・浅川村・宍喰村及び高知縣安藝郡甲浦町・野根村等に當る。此地往時海部郡と私稱せしは拾芥抄に見ゆるところ。元亀三年の旗下紋帳及び慶長二年の蜂須賀家分限帳にも海部郡名見ゆ。而して當時は阿末郡と呼びし如く、のちカイフと呼ぶに至りしと。

カイフ　海部郡　↓海部郡(愛知縣)

カイフキ　貝吹

【貝吹岳】 奥羽山脈の一峯にして、田澤湖の東岸より東方約十粁に位す。岩手縣岩手郡御明神村と秋田縣仙北郡生保内村の境界に聳立し、標高九九二米。峠上より田澤湖の明鏡を下瞰し、北麓は直に仙岩峠最高點(八九四米)に續き、更に笹森山(九九九米)・横岳(一一二〇五米)に連なり、南麓は地森山(九九一米)・五番森(一〇四八米)に至る。東斜面より龍川の一支發して東南に流れ、これに沿ひて仙岩峠東方路路に降り、同じく西方路は降りて生保内川の右岸に至り、川に沿ひて西南行す。この仙岩峠路は秋田街道の一部をなす。

【貝吹村】 愛媛縣伊豫國東宇和郡の北部。郡之町の東北約一四粁。野村町の北に隣り、横林村の西に、西は中筋村に、北は喜多郡大谷村と界す。北境に高縄山(三八九米)聳えその傾斜南に降り、西北境に發する中通川の渓流西南に下り南境を西南流する宇和川の上流に注ぎ、川の沿岸には僅に低地あるも畑地多く、蕎・米・麥を産す。喜多郡内子町より野村町に至る街道、村の中部を略々南北に通じバスの便あるも、交通未だ便なりと云へず。村名の起原は木村の最高地に一株の老松あり、足利時代の末此邊一帶の地は岩本將監領せしも長曾我部元親之を滅ぼさんとし、此老松の下にて法螺貝を吹き各地に火を放ち攻略し將監の軍勢を破りしにより此松を貝吹松と稱するに至り、村名亦之に因むといふ。

カイプン　會文　咸鏡本線の一驛(大正十三年設置)。朝鮮咸鏡北道鏡城郡朱北面にあり

カイヘー　海平面　朝鮮慶尙北道善山郡の中部。洛東江の左岸に沿ふ。東は山東面に、西は高牙面・善山面に北は桃開面に夫々隣接し東北の一部は軍威郡に境す。東北部一帶は丘陵を成すも、西境を洛東江南流し、その沿岸は土地低平にて農耕行はる。西南方大邱府に通ずる一等道路、面の西部低地を西北より東南に走る。いま槐谷・文良・海平・五相・金山・洛成・金湖・昌林・道文・月湖・松谷・月谷・山陽・洛山の十四洞を置く。

カイホ　海保

【海保(郡)】 中世上總國にありし海北郡の別稱。即ち海上郡(今の市原郡)が中世に分れて海北・海南となり、海北を海保に作りしもの。今の市原郡東海村を中心として姉崎町・千種村の邊にまで及びしものなるべし。天正十九年十一月の姉崎町妙經寺の寄附狀及び文祿三年七月の海上村大字分目の水帳に海保郡とあれば此時より海保郡の稱ありしものなるべし。

【海保】 ↓東海村(千葉縣市原郡)

【海保面】 朝鮮全羅南道咸平郡の北部。咸平面の北約一〇粁。東は月也面・食知面に南は平陵面・大洞面に西は新光面に夫々隣り北は長城郡に境す。西部は概れ丘陵起伏して山地を成すも、東部は榮山川の支流東邊を南北に流れ、其沿岸に低地ありて農耕行はる。北部を二等道路西北より東南に過ぎり、夫より分岐せる等外道路、南方咸平面方面に走る。いま大倉・龍山・上谷・海保・文場・琴德・金溪・山内・光岩・大角の十里を置く。

カイホ　開浦面　朝鮮慶尙北道醴泉郡の西部。乃城川の右岸に沿ふ。東は醴泉面・虎鳴面に、南は知保面に、西は龍宮面に、北の一部は開慶郡に、他は細川面に接す。村内概れ丘陵地を成し南部の乃城川沿岸、東部の其支流沿岸に僅少の低地を見るのみ。朝鮮鐵道慶北線通じて開浦驛を置く、また二等道路東隣醴泉面より來り北部を過ぎりて西方に走る。いま冬松・琴・京津・上・楓井・立巖・葛麻・長松・黃山・佳谷・新陰・牛甘・伊洞の十三里を置く。

ガイホ　外埔

【外埔庄】 臺灣臺中州大甲郡。大安溪南方丘陵地に位す。北は新竹州苗栗郡蕉裡庄と溪を隔てて境し、東南は豐原郡内埔庄、西は大甲街に接す。庄内に六分・馬鳴埔・鐵砧山脚・大甲東・内水尾・磁標・土城・崁子の大字を含み、面積四四六四方粁、人口九千五百。明末鄭氏時代に次ぎ清康熙四十年代、漢人は大安・鹿港兩港より漸次進入開拓を行ひ、本庄を以て平埔蕃パセッヘ族のバイチン社蕃と境し、土城は當時蕃害防備の土壁を繞したるに因りその地名を遺す。本庄の産業は農を以て本幹とし、年産額百十三萬餘圓に達し、水稻は最培面積二千九百八十二甲に對して八十九萬三千六百六十八圓、次で甘藷十五萬七千三百四十四圓、鳳梨五萬一千百五圓等の外蔬菜・落花生を産す。工業は帽子編の七萬五千六百六十六圓、鳳梨罐詰の四萬七千圓、其他家内手工業合計十三萬七千六百三十三圓なる外は林業副産物たる薪炭五千三百三十三圓ある

以外擧ぐべきものなし。物貨の輸送は六分より大甲街に通ずる產業道路及び大日本製糖社線の私設鐵道に依る

【外埔】→口湖庄（臺灣臺南州北港郡）

カイホー　海豐（ほい）

【海豐港】臺灣臺南州虎尾郡の舊港名。現在の新營庄・海口庄を含む海岸地帶の一區にして、清の康熙六十年代一港を立つ。蓋し海口庄海口は當時海豐港と稱し商船の往來繁く物貨の集散を行ひ主屬地たりしより港名を生ぜしならん　當時海豐港と稱せしも、光緒十四年港字を削る。同港の開拓は雍正元年に始り福建省人陳・張・吳の三姓合資して墾首と爲り、全港にその業を續張せり。大正九年地方制度改正により廢止せらる。

【海豐港】→海口庄（臺灣臺南州虎尾郡）

カイホー　開豐（かい）**郡**（ほう）　朝鮮京畿道三府二十郡の一。京畿道の西北端に在り、東は長湍郡、南は漢江を隔てて金浦・江華郡に、西は鏡成江を隔てて黃海道延白郡に、北は同道金川郡に界す。面積約五八五方粁。地形は不規則なる長方形にして東北部に山岳多く西南に進むに從ひ漸次低下し平地やや多し。農產物に米・麥・豆類・雜穀等あり、養蠶も行はれ、織物・編織物・窯製品・蓆製品・履物等の工產品を出す。郡は江海に臨み水運の便に富み、また總督府線京義本線貫通し之に沿うて一等道路通じ交通至便なり。本郡は義高麗朝の首都にて新羅の松嶽郡、高句麗の扶蘇岬、開城郡又は冬比忽と稱せしも、高麗太祖二年鐵原より都を松嶽の南方に徙し開州となし、忠烈王三十四年開城縣と改めしが、李朝太宗五年漢陽に遷都後、松都開城留後司と改め、其後幾多の變遷を經、光武十年開城郡と改められ、大正三年府郡廢合の際豐德郡を編入し松都面外十五箇面を行政區域とせしも、昭和五年松都面に開城府を設け同時に郡名を現名に改む。いま行政上中西面・南面・西面・北面・嶺北面・嶺南面・青郊面・東面・道風面・中面・上道面・鴨漢面・興敎面・大聖面・光德面の十五面を置く。

カイホー　海豐（ほう）　海豐港の別稱。

カイホク　海北（郡）　中世上總國（千葉縣）に置かれし郡。今の市原郡奏老川以西の戶田村・海上村・姉崎町等の地。→海上（郡）

カイホク　懷北面（くわい）　朝鮮忠淸北道淵恩郡に屬す。郡治內十面中の一。郡の中央より稍西に位置し、鐵道京釜線新灘津驛の東方一五粁にあり。東は水汗・內北の兩面に、北西は加德面、西は龍興、南は懷南の諸面に相隣接す。東北境には九龍山（五四四米）、西北境には皮盤嶺（五四一米）・南境には老城（五〇一米）・國師山（五五八米）等の諸山、東北南の三面を圍繞し、西方は稍開くるも城內概して丘陵性山地起伏し中央に稍平地あり盆地を形成す。產物頗る乏しく一般に生活程度低し。道路は鐵道京釜本線芙江驛より東方郡邑報恩に至る三等道路橫斷し、乘合自動車の便あり。其他面邑懷仁を中心として道路網放射狀に四通發達すれども何れも地方的のものにして車を通ずるもの少し。懷仁は面の中央に位置し、面事務所・警察官駐在所・郵便局等あり。人口昭和五年一〇四八二人、同十年一〇〇一三人

カイホセキ　海埔（ほう）**厝**（せき）　→鹿港街（臺灣中州彰化郡）

カイホツ　開發の濱（はつ）　義經記に見ゆる上總國（千葉縣）の古地名。治承四年源頼朝伊豆に兵を擧げ、石橋山の一敗の後安房國に逃れしが、進んで上總に入りし時千葉上總介廣常等兵三千餘を率て此の地に義經を迎ふ。其地詳かならざるも地理を按じて凡そ今の君津郡木更津町の邊ならん。今日町の大字に貝淵あり、カヒフチ、カイホツ國音相近し、或は此地に擬定すべきか。

カイメー　開明（かい）　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年馬寄村・神戶村と共に廢せられ今伊勢村為置く。

カイモン　開聞岳（かいもんだけ）　鹿兒島縣薩摩半島の南端、指宿郡頴娃村の南方に峙つ。北方を除く裾野一帶は直ちに太平洋の碧波に洗はれ、南端は開聞岬をなす。この山に多くの別名あり。枚聞山・海門山・筑紫富士・薩摩富士・金鑄山・蓬花山・空穗島等これなり。空穗島の名稱は後に記す貞觀十六年の噴火に依り山上大に燃えて洲となれるに依ると云ふ。また此の山を南方より見れば其狀恰も島の如し、よりて島と稱すといふ。尙この山通例カイモンと稱されれど、ヒラキヤと訓むを正しとす。コニーデ型の休火山にして標高九二四米。山體機榎復輝石安山岩より構成せらる。この山の噴火に就きては神皇正統記に崇德天皇三十四年（皇紀一八四年）に噴火せりと見え、又三代實錄には貞觀十六年（八一五三四年）七月二日地震起り噴火せり、と記され、その後仁和元年（一五四五年）にも噴火あり、更に嘉吉三年（二一〇三年）には山上に鏡池を生じたり。山は現に全く幼年期に屬し、七〇〇米の地點より階段狀を呈し、裾野は發達せず、麓より急激に峙ち、山頂附近にては四十五度の傾斜をなす。放射谷はなし。植物分布も面白く、得難き研究地たり。山麓より九合目迄は常綠闊葉樹にて掩はれ、頂上附近に至り濫木帶となる。山頂には噴火口の跡と見るべきもの略どなく、元はありしも、後更に二〇〇米の高度を有する中央火口丘を生じ、舊噴火口を埋沒せるなり。今は直徑一二〇米の淺き窪地を殘すのみ。又山頂に石の小祠あり、西北麓登山口なる國幣小社枚聞神社の攝社にして、彥火々出見尊・豐玉姬を祀る。枚聞神社は知過岱正の開基、聖武天皇の御代に一の宮と定められし由緒ある社にして塊

內に大樟あり。又山中に智通和尙の仙人洞、木花咲耶姫の誕生地と傳ふる地あり。山頂よりは南方山を取り卷きて太平洋に浙ぼるる海岸線、東北麓の池田湖並に鏡池その彼方鹿兒島灣に浮ぶ櫻島を眺め、更に遠く雲表に連聳する霧島の諸峯を望み、筆紙に盡し難き佳景なり。登山路は指宿溫泉より頴娃村十町迄バスそれより立派なる觀光路をなす。櫻林著登山道路に沿ひ殆ど山を一周して達頂す。薩隅日地理纂考「牧聞嶽、東北は十丁村・仙田村の兩村に跨り西南は蒼海に根ざせり、枚聞神社より西の方六七町許山中に窟あり、此所を俗に木花開耶姫誕生の跡なりと云ふ、此所より絕頂まで一里一町廿間餘、岳の根の周廻三里十六町餘、三代實錄に開聞神山とあり、俗に唐穗島（社傳に貞觀十六年山上大きに燃て虛洲となれり。故に名つく、往古の圖には絕頂失れり、炎上の時焚崩れて圓くなりしといふ）鴨靑島、また筑紫富士・薩摩富士・小富士等の名あり、又金鑄山・蓬花山・長玉山・海門山等の名は皆近世の人等が私に名付しなり」とあり。

カイヤ　開也島（かいや）　朝鮮全羅北道沃溝郡にある島。群山府の西北海上約一五粁、島內山地にして直に海波に洗はれ海岸をなす。附近に小島岩礁散點す。

カイヨー　海洋島（かい）　國東州海洋島會の主部をなす。黃海上に浮び外長山列島の東端に當る。東西約四粁、南北約六粁、中部に山地ありて、島形巴狀に彎屈し至る處海岸をなすも西岸に一灣入を擁し鎭地をなし、灣の南東岸に小低地あり。西南部の突頭頭は海拔三八九米を示し島中の最高點をなす。近年漸だに漁港を設け附近漁業の一中心地となる。また附近海上は日淸戰役に際し所謂黃海大海戰の行はれし所にて名高し。明治二十七年九月十七日、日本聯合艦隊司令長官海軍中將伊東祐亨の率ゐたる日本艦隊は黃海北部を索敵中、淸國盛京省南岸大鹿島附近に於て淸國北洋水師提督丁汝昌の率ゐし淸國艦隊を發見、直ちに戰鬪を開始せり。日本艦隊は本隊（松島・千代田・嚴島・橋立・比叡・扶桑）、第一遊擊隊（吉野・高千穗・秋津洲・浪速）、砲艦赤城、假裝巡洋艦西京丸の十二隻（この排水量總計四萬八百餘噸）なるに對し、淸國艦隊は定遠・鎭遠・鎭遠・來遠・致遠・濟遠・廣甲・揚威・超勇の一〇隻及び水雷艇二隻（この排水量總計三萬三千餘噸）にして、共に兩國艦隊の精銳をすぐれるものにて、その勢力もまたほぼ相如けるものなり。ただ淸國艦隊には定遠・鎭遠の二大甲鐵艦を有したるも、艦齡概して古く速力もまた劣れるに反し、日本軍艦の多くは建造年月新しく、多數の速射砲と快速力とを有したる點を異にせり。戰鬪は午後一時より開始せられ、日本艦隊は各隊毎に單縱陣を以て、淸國艦隊は中堅凸橫陣を以て對戰したるも、戰鬪少時の後、淸國艦隊は日本艦隊のために隊の右翼を壓縮され、陣形漸く亂れ苦戰の狀を呈し、鎭遠・致遠・超勇は日本艦隊の猛射を浴びて激戰中に沈沒し、揚威は大火災を起し、また圍岸自ら爆破し、廣甲は遁走の途中これまた擱坐自ら爆破し、廣甲は遁走の途中これまた擱坐自ら破壞し、爾餘の敵艦何れも多大の損害を蒙り、中にも定遠は被彈約一六〇發、鎭遠は二二〇發を算し各々艦列を亂し、日沒に乘じて旅順港に向ひ敗走せり。日本艦隊もまた、千代田・浪速の二艦を除くほか各艦何れも多少の被彈なきはなく、中にも司令長官旗艦松島には敵の巨彈命中して死傷百餘名を出するの慘狀を呈し、砲艦赤城・木艦比叡・假裝巡洋艦西京丸の如きは一時苦戰に陷りたるも能く危地を脫出し、全艦隊一隻の沈沒艦もなく大捷を博し得たり。この海戰によりて日本艦隊は完全に黃海の海上權を制握して滿洲軍の活動を自由ならしめたると共に淸國をして戰勝の望を絕たしめ、延いては平和克復を促進せしめたり。

カイヨー　開陽（かい）　慶全南部線の一驛（大正十四年設置）。朝鮮慶尙南道晉州郡井村面にあり。

カイヨートー　海洋島會（かいやとう）→海洋島

カイライ　傀儡山（くわいらいさん）　臺灣高雄州潮州郡にある大武山の舊稱。

カイラク　偕樂園（かいらくえん）　茨城縣水戶市にあり。一に常磐公園と呼ばる。面積約〇・〇一三ヘクタール。由來偕樂園は、岡山の後樂園、金澤の蒙六公園と併せて日本三公園と通稱せらるも、事實本園は日本造園史上に於て著名なる史實を誇るものなり。本園の創始者烈公齊昭は、當時夙に公園の必要を認め、天保十二年五月より同十三年七月に亙りて綾工せしめ、名も來庶と樂を偕にするの意を以て偕樂園と名づく。爾來本園は庶民の休憩遊息の地となり、明治六年公園地に編入、現に茨城縣の經營なり。園內の建築物として最も著名なるは、同じく烈公の建てたる好文亭にて、東西六間、南北三間、中央より分ちて、東方三間四面は總板敷、西方三間四面は疊敷なり。其れ自身極めて淡き趣酒なる建築物なるも、更に樂壽樓と名づくるその樓上にのぼれば、偕樂園內・偏波湖はもとより遠近の山野快く展開す。この他に何陋庵・對古軒・吐玉泉・偕樂園碑等見るべきもの多きも、就中偕樂園碑は、その表に偕樂園の公園たる使命を說ける「偕樂園記」を刻む。偕樂園內の梅林は老株數千に及び、花季は遠く東京方面より觀梅列車の運轉せらるる程なり。傳ふるところによれば、この梅は單に花を賞する以外にその實を賒へ、以て非常時の用に充てんとの意味を有せしと云ふ。造園作品として見る時は、園內の丘陵地にありては、廣場を大きくとりて芝を敷き、庭樹の單木的植栽を排して刈込物を群剛的に累々と重ね、或はまた前述の如く大景的に梅を栽ゑ、しかも風

景的焦點として園の中央に好文亭の高樓を置くなど、在來の日本庭園に於ける纖細な節景的意匠の何物をも示さず。それにも拘らず、本園の丘陵地と、その麓の游泳たる水面仙波湖との大なる地形的對立關係を巧みに捉へ居るを見ても、その設計者の聰明に且つ大膽なる意匠に感歎せざるを得ず。新撰名勝地誌・常磐公園「……之に植ゆるに一萬餘株の梅樹を以てす。これを以て花時は清香馥郁、頗る人骨を仙ならしむ。ことに園の南麓、老松翠を吻みて參差たるの邊は、衾して千波湖の碧波を臨むべく、仰で筑波、臺嶺の翠巒を窺ふべく、園中風光の最なる所と稱す。」仙突臺の目あり。崖下に仙湖暮雪の碑あり。水戸領内八景の一に撰さる。好文亭は園の西端にあり。赤酒公の經營に係る建築にして最も瀟洒古雅を極む。樂壽樓上の眺望頗る佳なり。亭をめぐりて鶯囀、萩、芙蓉あり。四季共に紅白斯を觀ふ。園に對して櫻山眺岡あり。昔義公が高枕亭を設けて明儒朱舜水を延き、世俗の外に囑きたる地、傍に寫一版、曲直港あり云々。原仮軒ノ僧樂園序「歳之二月、風和氣暢、裘裳徐歩、逝俗樂之芳園、園之地勢崖而風色美、梅花方盛、紅白爭開、瓊塊簇而成堆、幽香吐而滿園、此則我公之所營栽焉、豈徒追庾嶺之清趣、蓋又曾公解湯之遺意、乃道蕊園中、訪歸亭上、瑤階蹇高、倚檻臨湖、此則我公之所管春焉、淡高雅不過望氣、超俗又方塡勝目、三山壁立、林樹繁茂仙湖繞其下、清論映日、萬頃一碧、鳧鷗浮泛於下、鶴鷺翔於上、眺岡突然出于湖右、老松無數鬱然植蓊、此則園之所對焉、蔚然而蒼、屹然而秀、其巒峰峻嶒、田于岡上者爲筑波嶺、芦尾加波諸峯、翠靄如黛、透迤而北至荒山、崔嵬岩巒岩、能摩雲者、皆常野之望、而歴々在指掌之間、凡園之勝景、于晴雨于花月、莫一不佳、而西至毛野、東接滄海、翫垂而開、翕然而合、凡目所極、悉具於園之觀者矣、若夫淡蕩龍林、新紅燒山、柳垂而帶煙、草嫩而鋪翠、緑茸動而浮鷗眠、衆芳酣而遊禽嘲者、則陽春之所造也、嗚呼府城雖不乏勝地、其佳境豈有過于此者乎。」

ガイラロー　外羅老島　朝鮮全羅南道高興郡の東南海上に浮ぶ島。蓬萊面に屬す。ほぼ東西、南北共に六粁。海岸線は出入多く西側に小港を控ふ。稍南部に偏して丘陵起伏するを以て南岸には平地少なきも、北部沿岸は低平なり。

カイリ　海里面　朝鮮全羅北道高敞郡の西部。郡の中心地高敞面の西方約一〇粁、石谷面の西に隣り西北は心元面に南は茂長面・上下面と界し西北は海に臨む。東部に山地逶瓦し西部にも丘陵蟠るも其他の大部分は低地にて地味肥沃、農耕に適し漁獲もあり。南隣茂長面より北隣心元面に至る道路東部を略々南北に通じ、この道路に沿ひ安子市・安山里の集落發達す。いま冬湖里・光升里・金平里・方築里・己盤里・羅星里・旺村里・安山里・下連里・平地里・古星里・松山里より なる。

カイリュー　海龍　【海龍面】朝鮮黄海道延白郡の西南部。郡の中心地延安面との間に鳳西面及び松港面を隔て、西北は掛弓面、西南は龍江面と界し東南は海に臨む。西境に低山性丘陵南北に連亙し南部及び東部は低地にして農耕に適し又漁業も行はる。朝鮮鐵道黄海線通じて楓川驛（昭和六年設置）を置き、一等道路中央を東西に走り延安面にバス通じ交通便なり。いま富土里・孟山里・錦山里・興雲里・琴川里・龍南里・大興里の七里よりなる。

【海龍面】朝鮮全羅南道順天郡の東南部。北部は西面に隣り南は麗水郡に境し東の一部は光陽郡と界し、他の一部は海に面す。又西の一部は順天邑・道沙面に接し、他の一部は海に面す。地形南北に狹長にして北部及び東部は概れ丘陵地を成すも西部は東川の川口に沿ふを以て其沿岸地低平にして耕地拓く。二等道路順天邑より來り面の西北部に於て二つに分岐し、一は東走して光陽郡に入り、一は面の中央を南走して麗水郡に至る。いま旺之・昭禮・順星・新塁・上三・蓬香・南佳・大安・月田・星山・鮫月・新城・狐頭・龍田・道弄・中興・海倉・仙鶴・弄珠・下沙・上内の二十一里を置く。

ガイリュー　外柳面　朝鮮黄海道金川郡の東部。東南部は月城面に隣り、南部は宿仁面に、西部は西泉面・合瀧面に接し、東北部は江原道伊川郡安峽面・西面と界す。南部は高度二〇〇米内外の丘陵起伏し北部は盆地狀の低地あり、盆地内を臨津江曲流し東南し低地を潤す。二等道路南部及び西北部を掠むるも交通便ならず。いま文修里・石頭里・大北浦里・安鳳里・菁項里・實於里・小北浦里・馬友里の八里よりなる。

カイリン　會麟面　朝鮮咸鏡南道甲山郡の西南部。郡の中心地長平面の西北に隣り、東北は同仁面に、西南は山南面に接し、西北は三水郡別東面に、西は三南面と界す。西南境に喜色峯（一七〇二米）・麟嶺（一九三六米）聳立し域内山地逶瓦するも、面の中部を虛川江東南より西北に貫流し僅にその流域に低地ありて耕地拓く。長平面甲山より同仁面に至る二等道路虛川江及びその支流渓谷に沿うて通じ之と橋項里にて分れ別東面に至る道路亦虛川江に沿ひ走る。いま新興里・書堂里・檜山里・羅山里・麟浦里・厚逸里・下浦項里・橋項里・尤上里・尤下里・中浦項里・東水里・別興里・姜草里・上浦項里・上里・南向里・直洞里・中興上里・逵登里・大平里・龍水里・中興下里・松溪里・化靖里・巻屯里・利泰里・三浦里・渭溪里・壯佳里・田墓里・泉水里・洞劍里・板章里・中里・朝陽里・中草里の諸里よりなる。

カウ　下雲面　朝鮮咸鏡北道明川郡の中部。西面の西南に隣り南は阿間面に、西は上雲南面・上雲北面に界す。西南境に在德山（八三三米）聳え北に續かに下り東北境最も低く高度一〇〇米内外を示す。農産物は大豆・粟・米・蕎・玉蜀黍等を產す。總督府線咸鏡本線上龍田驛（昭和四年設置）を置き明川洞よりは街道放射狀に通ず。いま下坪洞・明川洞・龍田洞・咸鎭洞・芹洞・下月洞・上月洞・鹿洞・石隅洞・芹洞・明潤洞の十洞よりなる。

カウ　——社　臺灣高雄州屏東郡の蕃社。カウ社溪の北岸、平地に接近してあり、パイワン族ラバル系統の高砂族部落。戸數六二、人口二七四ありしも漸次平地に移るもの多くなれり。カウ社溪を遡り最初の蕃社なるため口社の名あり。蕃稱はTagaun なり。

カウイラン　——社　臺灣新竹州大溪郡の蕃社。大嵙崁溪上流の南岸山嶽地帶蕃地にあり。蕃稱はカウイラン（Kau-ilan）にして、高砂族アタヤル（Atayal）族メリバー系統（ガオガン蕃）に屬する種族の住地。戸數五〇、人口二二六ありしも、近年平地移住の奬勵により、臺北州文山郡下方面に移住する者多し。

カウンクン　狗氣氤　→田寮庄（臺灣高雄州旗山郡）

カエー　下營庄　臺灣臺南州曾文郡。東は柳營庄、南は麻豆庄、西は學甲庄、北は鹽水街に境す。面積二・二〇方里、人口一萬五千五百。茅港尾・麻豆寮・十六甲・下營・大屯寮の五字を含む。清雍正十二年茅港尾堡を設けしは本庄の管轄に屬し、茅港尾は當時急水溪に沿ひて一港を形成し乾隆二十九年版籍修臺灣府志の側風港三支の一とし街市頗る盛になりしは道光年間に及ぶ。下營は鄭氏開屯の遺類とせられ明末既に漢人の居地たりしと見ゆ。庄下產業は農產額七十五萬二千八百二十五圓、米・甘蔗・柑橘類等にして、水產は養殖場漁獲高は鰻魚・草魚・鯉魚等五千餘圓、工業は麵類・磚瓦・製摺精米等三千七百七十圓、商業之に次ぐ。

カエキ　過驛面　朝鮮全羅南道高興郡の東北部。高興面の東北約一〇粁。南は古岩面に北は南陽面に隣り、東及び西は海に面す。村内概れ丘陵地を成すも、東部及び西部沿岸に小低地を見る。東方海上に内白日島・陳地島等の小島點在す。三等道路南方より來り、面の中央を北走す。いま新谷・虎德・運燈・石風・過驛・老口・道川・白日の八里を置く。

カエダ　加江田　→木花村（宮崎縣宮崎郡）

カエツ　加越鐵道　富山縣西部にある地方鐵道。省線北陸本線石動驛（西礪波郡石動町上野本）より起り東礪波郡青島村上村の青島町驛まで一九・五粁の線路を有す。軌間は一・〇六七米にて、蒸氣及びガソリン車運轉、省線と連帶運輸をなす。沿線からの主要發送貨物は、丸太木材類及び米等にて、到著貨物の主なものは綿類・石灰・セメント・石炭・機械類及び各種肥料等。終點の青島町驛は鳥越・湯谷・山田・大牧及び瓢山の各温泉地に處くに便利なり。

カエデ　楓　北海道夕張町の大字。夕張線の一驛（明治四十年設置）を置く。

カエハラ　柏原　近江國（滋賀縣）の歌枕。其の地阪田郡小野宿の北なりと。小野宿は鳥居本村大字小野の地なれば阪田郡内なるは明なり。或は今日の柏原村の邊か。夫木・三一「天のしたかくこそはみめかへ原やたか田の村はへぬとしそなき　匡房」

カエラズ　不歸　【不歸岳】飛騨山脈北端部の一峯。白馬岳の西南方約六粁に位す。富山縣下新川郡黒部國有林地域に峙ち標高二〇五三・五米。輝石安山岩より成る。東北麓は清水岳（二五九〇米）を經て、白馬岳（二九三三米）に、西南麓は百貫山（一九七〇米）および名劍山（一九〇九米）に、西麓は東鐘釣山（六三五米）に連る。西南斜面より不歸谷、北斜面より猫又谷の渓水發源し、いづれも西流し、右岸より黒部川に落合ふ。西麓黒部川の畔に錦繡・鐘釣の二温泉湧出す。

【不歸沼】→笹原村（滋賀縣野洲郡）

カエル　鹿蒜　越前國（福井縣）の古地名。和名抄、敦賀郡に鹿蒜郷あり、加信留と訓す。今南條郡に入り鹿蒜村・今莊村がその郷域なり。鹿蒜村の大字歸は其の遺稱なるべし。歸はまた中世海路にも作り源平盛衰記・燒城陣取の條に「西は海路・新道・水津浦云々」とあり。延喜式神名帳の敦賀郡鹿蒜神社は大字歸にありて歸八幡と稱す。また延喜式の鹿蒜驛は鹿蒜村大字二ツ屋の地なり。此地に鉢伏山あり、一に歸山とも稱せりといふ。古來歌枕の名所たり。

カエル　歸山・還山　越前國（福井縣）の歌枕。霞・梅・春風・歸雁・花・節・霧・鹿・紅葉・雲・岩・鳥・松・越海・汐津等の名所たり。和名抄、敦賀郡鹿蒜郷あり、今は南條郡に入り鹿蒜村・今莊村の地に當る。鹿蒜村と敦賀郡東郷村との境上に鉢伏山あり、此山の峠を木芽峠と稱し、往昔北國街道の新道は今庄より分れ鹿蒜村字二ツ屋を經て此處に懸れるものの如く、此山路を歸山といひしと。歸山に歸る意をかけて詠みし歌甚だ多し。萬葉・一八「可敵流廻の道行かむ日は五幡の坂に袖振れ吾なしおもはな　家持」紫式部家集「みやこのかたへとて、かへる山こえけるに、よびさかといふなるところの、いとわりなきかけ地に、こしもかきわづらふな、おそろしと思ふに、さるの木の葉の中より、いとおほくいできたれば　ましも猶遠方人のこえかはとわれにしわふるたこのよびさか」古今・別離「かへる山ありとは聞けど春霞たち

カエン　火炎(火燄)山　(一)孝霊朝高天二年。(二)孝霊朝新井用大也郡孝霊山麓にあり。

カエン　花園面　朝鮮慶尚北道孝霊郡の西南部。大邱府の西南約八粁、洛東江の左岸に沿ひ、東は星山面に南は玉浦面に北は月谷面・雲西面に隣る。地は起伏多く、東北部一帯は山地を成すも、洛東江沿岸は平坦にして肥沃、農業盛行なり。大邱府所属の三等郵便局、中部・南部・北部の三駅により来る。ほぼ正東西に走る京釜線、ほぼ南北に走る慶北線とが二駅を共通し、交通不便なる地方なり。いま大谷・本町・九峯・川内・城山・花谷・古化の七洞を置く。

カオオカン　がおかん　姓氏録新竹州大湖郡。大湖庄荒の上流、角板山より約二粁許の地にあり。所謂アタヤル族のカオオカン蕃の中心地として知らる。西蕃上の中心地即ち左の如し。シアオオカン蕃に隣するもの＝ヨタタ社・パロン社・カヌヘン社・ヌカイ社・ソロン社・アトノカン社・カヤイラン社・ソロン社・ヒヤアイ社・カヤイラン社・ソロン社・ヒヤアイ社・カヤイラン社・ソロン社・アトノカン社なるも放棄官の誘導にて蕃地外に移住する者多し。

カオタ　河和田　→河和田村(福井郡)

カオレ　川上岳　京畿山地南方部の一峯。高山市の西南方約一九粁の地に位し、峻峰嶮大鈴蕃の南麓部、宮村・山之口村の境界に聳つ。郡高一六三六米にして、全山岩石より構成せらる。東北麓は位山(一五三九米)に連る、西麓面よりは川上川、北麓面よりは谷川渓流し、ともに東北流して錦湾川に注ぐ。南麓面よりは谷口川の二本流発し、南流して本流に合す。

カオン　加恩　朝鮮慶尚北道聞慶郡の西北部。東は尚州郡に隣し、西南は東北は慶州面・口西南面に接す。四方山を以て囲まれ、江を以て聞慶郡より来れる交流を合せて東流し、其沿岸に僅少の低地あり。農業は稲作はる。鉱物は其他沿岸に砂金多し。

カオン　佳音山　朝鮮慶尚北道慶州郡夫之面の東南部。東は谷山面に西は山谷面に接す。南麓は夫之面の境を占める北部は高く、東・南・西の三方より流れ出るも中央に盆地あり。いま東・梨・南地・鉄地・鳳凰・亀川の七洞を置く。

カカ　下加面　朝鮮咸鏡北道明川郡に属する面。郡治内十面中の一。郡の倉南部に位置し、咸鏡北道郡治州郡の東南三粁許にあり。東は下古、北は上興、西は城津郡の東浜・東港の海面に各相隣接し、南は日本海に相面す。東西横幅に山岳連り中央を花谷川貫流して狭野面へ。即ち西端に冠峯(三三二米)・六峯山(四八八米)等聳えて西麓を新し、東方孔心山(二三八米)東端を新し、その山脈東南に延び日本海に沒す所に「ヤキス」港湾を形成し、沿岸に中央を貫流する花谷川は港湾を南方に導いて日本海に注ぎ、その河口に東浜港を形成す。港湾安全なり。明治四十年、咸鏡北道の一部となる。明治三十年、咸鏡北道の一部となる。明治三十年、咸鏡北道の一部となる。明治三

は大桑・大野・芹田・井家・英太・玉戈・郡家・田上の八郷を置きしが後大桑・大野・玉戈の三郷は石川郡に入りしものの如し。戦國時代以後私に河北郡に呼び近世に至り一度加賀郡に復せしも元祿以後再び河北と稱し今これに從ふ。蓋し河北は加北の意ならん。

【加賀の府】 石川縣金澤市の稱。多く加賀府と云へば加賀國府の所在地即ち今の能美郡國府村の地を稱するものなるも、近世前田氏加能越三州を領し御山(尾山)即ち金澤に復す。故にまた金澤を加賀府と稱す。奥の細道「酒田の名殘日を重ね北陸道の雲に望む遥々のおもひ胸ないたましめて加賀の府まで百卅里」とあり。

【加賀笠間】 北陸本線の一驛(大正十二年設置)。石川縣石川郡笠間村にあり。

【加賀村】 島根縣出雲國八東郡の北部。松江市の北方約一六粁。野波村の西に隣り、南は本庄村及び持田村に、西南は大鹿村と界し、北西は日本海に臨む。南境に高度約五〇〇米の澄水山聳えその山嶺北方に延び東北境の爪坂山(二九五米)となり更に其端は潜戸鼻となりて突出し、西南大鹿村檜木の岬端と共に加賀浦灣を抱し漁船の小錨地を作り灣内に馬島・桂島及び其他の小島浮ぶ。此海岸一帯は第三紀層を破りて噴出せし岩石により構成され集塊岩・凝灰質集塊岩及び玄武岩の塊狀・岩脈貫綜し裂罅も多く、潜戸鼻の岬端に潜戸と稱する洞門・洞窟あり、指定名勝・天然記念物たり。また此灣に注ぐ加賀川は澄水山に發源して西北に流れ上流には御手洗瀧懸りこの岸沿ひは低地にて田畑拓け、米・麻を主産し他に薪炭・魚獲物の産あり。松江市に至る街道加賀川の溪流に沿うて通じバスの便あり。此地は和名抄、嶋根郡加賀郷の地なるべく村名蓋しこの遺稱なるべし。出雲風土記に見ゆる加賀神埼は今の潜戸鼻に當り、また川來門大濱とあるも此地の海濱に當る。出雲風土記・嶋根郡「加賀神埼、即有ル窟、高一十丈許、周五百二歩許、東西北通、所ル謂佐太大神之所産生處也、所産生臨時、弓箭亡失〇爾時御祖神魂命之御子、枳佐加比比賣命、顯吾御子麻須羅神御子坐者、所ル亡弓箭出來顯坐、爾時角弓箭、隱ル水流出、爾時所ル生御子詔、此者〇非ニ弓箭一詔而、擲投給、又金弓箭流出來、則持取之坐而、固鑿窟蔕詔而射通坐、即御祖支佐加比比賣命社ニ此處八今人此窟逢行時、必雷稱碰而行、若害行者、神現而颯風起、行船者必覆也」同「川來門大濱、廣一里一百歩、有ニ百姓之家一」(潜戸)指定名勝・天然記念物。潜戸は潜戸鼻先端懸崖にある洞門及び洞窟にて、洞門を新潜戸、洞窟を古潜戸といふ。この附近は第三紀層を破りて噴出せし凝灰質集塊岩・玄武岩質集塊岩及び岩床をなす玄武岩より成り、地質上の變動により斷層又は裂罅を生じ之が海波の浸蝕を受け洞門及び洞窟を生じ、玄武岩は此割目に沿ひ進入し岩脈をなす。新潜戸の洞門は岬端に近く、略〻西々南より東々北に約一九〇米の直線をなし更に洞門の中央は北に一九米の支門を開き、其東門口は遙に窓島(的島)と相望む。この三洞口は何れも狭くしつつ低く僅に舟を入れ得るに過ぎざるも内部は廣くしつつ高く幅約五・五米—一八米、高さ約一五米—三〇米、水深約八米。また洞内は明るく水清澄にて底部の魚介を鮮別し得る透明度あり。古潜戸は新潜戸の南方にあり、洞窟の入口は高さ約九米なるも内部に入るに從ひ幅と高さを減ず。窟内は常て海水浸入せし事ありといふも今は此事なく歩して入ることを得。此洞門は枳佐加比比賣命金弓箭を以て射通せしとの神話あり、佛者は洞窟を寮の河原と附會し說く。探勝には勝穩なる天氣を選び岩木灘より觀覽船の便あり。〔加賀神社〕 郷社。祭神、伊弉諾尊・伊弉冊尊外三神。式内社。俗稱潜戸明神。例祭、十月二十一日。

【加賀】 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄、島根郡に加賀郷あり、高山寺本は賀加に作り、温古堂本・那波本は賀知に作るも今は風土記により加賀と訂す。其地今の八東郡浜武村・加賀村・大鹿村・御津村に當る。出雲風土記・嶋根郡「加賀郷、郡家北西二十四里一百六十歩、佐太大神所ル坐也、御祖神魂命御子、支佐加比比賣命開岩屋哉詔、金弓以射時、光加加明也、故云ニ加々」

【加賀神埼】 ↓加賀村(島根縣)

【加賀川】 出雲風土記に見ゆる川。出雲風土記・嶋根郡「加賀川、源出ニ郡家西北廿四里一百六十歩、小倉山一、北流入ニ子大海一」とあり、今の島根縣八東郡大鹿村を貫流して北垣附近より日本海に入る。

ガガ ↓川崎村(宮城縣柴田郡)

カカイ 峨々

カカイ 禾回面 朝鮮黄海道瑞興郡に屬する面。郡管内十二面中の一。郡の東南端に位置し、東は平山郡安城面、南は同文武面、北は東郡・瑞興の兩面、西は龍坪の諸面と各相隣接す。馬息嶺山脈の餘脈域内に及び花崗岩の丘陵起伏し平地に乏し、耕地はあれども瘠薄の便に乏しく主として畑作農業行はれ、粟・麥・大豆・馬鈴薯・人蔘等を産す。省線京義本線面の東境を斜走し新慈驛(明治四十一年設置)あり。道路は此地を中心として京義一等道路の貫通する外東方新溪へ三等道路等を分ち交通頗る便利なり。面事務所は新慈に置かれ其他警察官駐在所・郵便所、一・六日に開催の雜穀類・日用品の市場あり。人口昭和五年八四一二、同十年八八五一。

カカイ 佳會 朝鮮慶尚南道河東郡に屬する面。郡管内十四面中の一。郡の西端中部に位し、郡邑河東の北方二〇粁にあり。東は丘陽・青巖及び山淸郡の矢川面、北は咸陽郡の馬川面及び全羅北道南原郡の山内面、西は全羅南道求禮郡の土旨面、西南は蟾津江を距てて同良文面及び同光陽郡多鴨面に相對す。本面の西北境は實に全羅南・北及び慶南の三道の交界する地域にて此處に小白山脈中の靈峰智異山(一六八二米)を始めとし、般若峰(一七五一米)等聳立し、二脈に分れて面の東境に一一〇〇乃至一四〇〇米の高峰屏風のごとく連つて南下し、西部を南下するものは黄嶽山(九四二米)其他を隆起して西境を割し其間蟾津江の支谷花開川は縱谷を成して南流し其處に狹長な平地を造る。智異山は昭和十年朝鮮施政二十五周年記念朝鮮八景投票選定に際し、濟州島漢拏山に次ぎ第二位の高點を以て當選せし名山にて、國立公園選定の候補地とも成る。また京都帝國大學演習林區を成し良材を産出す。域内には七佛寺・國師庵・雙磎寺等の名刹あり。面邑三神里は南部に位置し花開川の右岸にあり。花開川の蟾川江に落合ふ所に花開場の市場あり、交通便にして薪炭・穀類の取引盛なり。聚落は殆んどこの縱谷に沿ひ、上流より大成・丹川・龍岡・雲樹・井龍・塔里等あり、人口昭和五年八一七八、同十年七六四七。〔雙溪寺〕 朝鮮佛教。新羅文聖王初年(永和末年)百濟僧侶慧昭の開創に係る。

ガガクマチ 雅樂町 慶國時代の頃京都にありし町の名。拾芥抄・京圖「雅樂町。西京・二條南、押小路北西京小路と山小路との間」

カカシ 覺志

【覺志】 武藏國(東京市)の古地名。和名抄荏原郡に覺志郷あり、加加之と訓ず。其地今の世田谷區北澤町・世田谷町の邊なるべし。一に蒲田區に荏谷町あるにより之を覺志の訛なりとし、羽田町の附近なりといふもなほ詳かならず。

【覺志】 延寧兵部省式に見ゆる信濃國の郡名。其地今の長野縣東筑摩郡廣丘村の大字堅石の地なり。堅石は覺志の訛なるべし。諏訪郡涅澤(今の上伊那郡中箕輪村の邊)より此地を通過し、國府に至りしものなり。

カガ・シマ 鏡島村 岐阜縣美濃國稻葉郡の西部。岐阜市の西約四粁。長良川の左岸に沿ふ。東は市橋村に隣り西北は長良川を隔てて安八郡に對す。此地は長良川の左折する地點に當り灣水の憂あるも、全村土地低平、即ち東濃平野の一部に位し田畑拓く。國道東山道岐阜市より來り村の北部を東西に走り之により岐阜市にバス通ず。また社線名古屋鐵道の弘法東口・弘法西口・川原畑・鏡島(共に大正十三年設置)を設く。農産物からざるも、蓋し主産業は機業にて岐阜縮緬風に世に知らる。また近時人造絹糸織物を産し遠く南洋方面に輸出さる。村名の起原に就ては大同年中、弘法大師此地に逗錫の際鏡を立て四十二歳の自像を刻みて乙津寺に安置す、之より鏡島の名起るといひ、また乙津寺傳に據れば、往時乙津島村と稱し、弘法大師の鏡を海中に投げて陸となせし靈驗により鏡島の名生ずと傳ふ。〔鏡島城〕 市場にあり。多田滿仲の子大和守頼親の末孫、代々當國住人たる石川光清、始めて此に據り其孫光信、織田信長に仕へ、光信の子光政、豐臣秀吉に仕ふ。四代此城主たり。のち城廢す。〔乙津寺〕 一に、鏡島弘法樣と稱す。大宇鏡島にあり。臨濟宗妙心寺派。傳に依れば、天平年中行基此地に來り一字を創立せしが、弘仁五年空海更に大伽藍を建て、堂前に梅樹の枝を挿し置きしに發芽生長して實を結ぶに至ると。因つて俗に梅寺と稱す。文明年間一條兼良此寺に詣でて靈梅の詩を作れり。天文年中當郷の領主石川光延が父光清の爲め伽藍を再營し、獨秀の法孫、孤峰(大圓靈光禪師)を請じて中興開山とし改宗。朱印領五十五石。本堂の昆沙門天立像は木造寄木、玉眼嵌入、鎌倉時代の作にて國寶。また觀音堂の本尊千手觀音立像は木造漆箔、平安朝初期の優秀なる作として國寶。又觀音堂の須彌壇には此外薬師原時代の阿彌陀像を安置さる。何庫裡の玄關に安置せる韋駄天立像は木造寄木、高さ約二尺七寸(約〇・八米)玉眼嵌入、鎌倉末期の作にて類

品中の古作、國寶に指定さる。〔川越地藏〕大字饒島の乙津寺境内にある碧軍地藏の俗稱。慶長五年關ヶ原合戰の折、黒田長政の軍勢が河渡川の淺深を知らず、川を渡りかねし折、長政この地藏を念じて渡るを得しよりの名。

カガタ　加賀田村　大阪府河内國南河内郡の南部。北は長野町との間に三日市村を隔て、東は天見村、西は天野村に隣る。南院に近き和泉山脈の岩湯山（八九八米）の北東斜面にて土地北方に傾き山地をなし北部に小低地あり集落ここに發達す。米・麥の農産の外は主として林產を主要產物とす。社線南海鐵道高野線の三日市驛に近く、また道路は長野町方面に通じ、村の北部は交通不便ならず。古くは和名抄、錦部郡餘戸郷に屬せるものの如し。

カガチ　香々地町　大分縣豐後國西國東郡の東北端。東は東國東郡に界し北は周防灘に臨む。町内土地概ね高燥にして山林多きも、中央部は小流に沿ひて平地あり、水田拓く。東部より長崎、西部より尾崎斗出して小港香々地港を形成し船運の便あり。小路海岸に沿ひて東西に通ずるも陸路による交通は尙不便なり。長崎は西部海岸を成し形勝の地たり。町名香々地は古く香賀地・香地とも書き、郷名に呼ばれたるもその後の沿革詳かならず。

カガト　香登町　岡山縣備前國和氣郡の西南部。伊部町の西に隣り北は熊山村に、西南は鶏山村と界す。東北境の大瀧山（五〇九米）の麓、地勢南に傾斜し北半はその山地なるも南半は低地にて水田よく拓け、米・麥・繭を產しまた薄荷・梨を出す。もと中國街道の一驛をなせしも今は鐵道線より稍〻離れ僅に山麓沿ひに東西に通ずる國道（山陽道）及び村の東部にてこれより分岐する縣道により、夫々岡山市・牛窓町にバスの便あり。集落は宿場町としての名殘りを留め街村的集落をなし昭和三年町制を布く。又明治十八年八月七日明治天皇中國地方御巡遊の際、此地の楠原熊男宅にて御小休遊ばさる。此地いま明治天皇香登御小休所の指定史蹟。又大字大内にある臥龍松は天然記念物に指定さる。此地は鶏山村、伊部町の地と共に古くは和名抄、和氣郡香登郷（加加止と訓ず）に當るべし。郷名は諸本に登を止に作るも、續日本紀天平神護二年に割二邑久郡香登郷一隸二藤野郡一とあるにより香登に訂す。中世は荘名にも呼ばれ御宇多院領たり。而して寺祿五十石を有し眞言宗の密教々場たりし大瀧山福生寺ありしも、いま僅に其中の富吉年中に建立せしといふ多寶塔一基を留む。村名は蓋し郷荘名の遺稱なるべし。〔臥龍松〕指定天然記念物。大字大内、津田邸内にあり。省線山陽本線萬富驛の南方約六粁一株の黒松特異の樹形を呈するもの、横枝の方向種々に著しく伸張し奇觀を呈す。樹高六米を超えざるも根廻り約五・五米、横枝伸長幹圍より二七米に達し、枝端の全周約一三三米に及ぶと。〔西明院〕大字大内にあり。眞言宗。舊稱大瀧山福生寺。天長五年既存の古名刹。三重塔婆は三間三面、屋根本瓦葺、室町時代の遺構にして國寶。

カカトー　下茄苳堡　臺灣臺南州新營郡の古堡名。清康熙六十年代一堡を立て雍正十二年南北二堡に分つ。北堡は現在の後壁庄新營街の一部に當り南堡は白河庄及び嘉義郡水上庄一部を含む。明末鄭氏時代既に新營街の後衛、後壁庄の本協は開拓の要處にして、清領と共に後壁庄の下茄苳を中心とせるより堡名を生ず。大正九年地方制度改正と共に廢止さる。

カカトン　華家屯會　關東州蕃關店民政署管内の略〻中央部。東北は粉皮繪會、東南は長嶺寺會、西南は亮甲店會、西北は土城子會に隣接す。北部に二龍山東南麓の丘陵地、西南部に丘陵あるもその他は概ね平坦にて登沙河中部を南流す。農業行はれ高粱・大豆等を產す。金州・營子窩道の道路南部を略〻東西に走り、交通不便ならず。

カガノイ　加賀野井（かがのゐ）　→下中島村（岐阜縣羽島郡）

カカブリ　冠山　出雲風土記神門郡に見ゆる山。郡家東南五里、二百五十六歩とあり、粉山・宇比多伎・稻積・陰山などの連岡中にありと思はる。往時の神門郡は今は簸川郡に編入されしものなれば簸川郡内にある山なるべし。

カカホ　賀寶　周防國（山口縣）の古地名。和名抄吉敷郡に賀寶郷あり。其地今の吉敷郡嘉川村・井關村に當る。延喜兵部省式に「周防國賀寶駅馬廿疋」とあるは此地なり。一に香河に作る。今川了俊の道行振に「今夜は香河とかや申所にとどまりぬ、竹の一村侍るみこしに、鳥のちかゝゝと見えたるな、このさと人にとへば梅が崎といふ、立かへり春や來ぬらん梅か崎ちりにし花とみゆるなみかな、まことや、此の月は、すくなき春といふなるも、ことほりとおぼえて、山梨、李などまでも咲たり」

カカミ　疊美　摂津國（兵庫縣）の古地名。和名抄、兎原郡に疊美郷あり、訓を闕くも加加爲と讀むべし。今何れの地なるか詳かならざるも武庫郡御影町の邊に當るか。蓋し疊美とは鏡作連の居りし所なるべく、大和・伊豆に鏡作郷あり、鏡と御影山・御影濱とは相因むものか。

カガミ　加賀美・加加美　山梨縣中巨摩郡の舊庄名。今三恵村・鏡中條村の附近に當る。逸見太郎清光の子次郎遠光の居りし所といふ。後、勘修寺の所領となる。加賀美寺と稱する法華寺あり。

カガミ　各務（かがみ）

【各務（郡）】美濃國（岐阜縣）の古郡名。もと各牟（かむ）郡（大寶二年御野國の戸籍）。その各務郡に作るは蓋し奈良時代の初めならん。和名抄は加加美と訓じ、村國・大榛・各務・郷河・芥見・三井の六郷及び驛家一を置く。各務は鏡に因める郡名か。本郡に鏡作部の祖天糠戸命を祀る眞墨田神社あり。明治三十年厚見郡及び方縣郡の一部と合併し稻葉郡の稱を建つ。いま飛行場のある各務ヶ原に郡名を留む。

【各務村】岐阜縣美濃國稻葉郡の東部。岐阜市の東約一〇粁。北部は加茂・武儀兩郡に境し、東より南は鵜沼村、西は蘇原村・芥見村に隣接す。西北部に權現山（三一七米）聳え、其山麓東に延び、北・東・南の三方は低山性の丘陵を以て圍繞せらるるも中部及び西部は地低平にして田畑拓く。此地は即ち各務ヶ原の一部に位す。國道中山道南境を東西に走り、省線高山本線各務ヶ原驛（大正九年設置）あり。主產物は米・麥。この地は蘇原村と共に和名抄、各務郡各務郷の地、大字須賀字紹田山に多數の奈良・平安時代の窯址を遺存す。孰れも山の傾斜面を利用して作れる上り窯にて窯は長さ約六米、幅約二米内外あり、其壁の一部殘存す。古陶片夥めて多量に散亂し製陶業の盛大なりしを偲ばしむ。窯址は其西に接する蘇原村古市場字北山及び同村大字伊吹字北山を始め、岩村の大字岩瀧等にもあり。當國古陶器は奈良・平安時代朝廷に調物として奉れり。〔村國神社〕大字各務に鎮座。郷社。祭神、火明命・村國男依。創建年代詳ならずと雖も、延喜の制式内小社に列す。神祇誌料及び式社考證に云へる如く、この祭神、一座は村東の山上にありて村國白山と稱し、一座は御寶松といふ所にありて、山上にあるは村國連祖神、一つは村國連男依を祀るも、いま廢せり。白山社は即ち延喜神名式に見ゆる各務郡村國神社なること古記に見ゆ。例祭、十月十五日。

【各務野】→各務（かがみ）ヶ原

【各務ヶ原】また各務野ともいふ。もと各務郡の地。岐阜縣稻葉郡東部の原野。陸軍飛行場あり、東西約十二粁、南北約四粁。那加・蘇原・各務・鵜沼・前宮・更木の六村に亙る。本基郡の黒野、掛渡郡の大野と共に三野と稱せらる。此地の一部は明治維新後第三師團の射擊演習地なりしが、大正七年航空第二大隊が設置せられ、更に同九年航空第一大隊を所澤より移轉せられ、同十四年共に聯隊となり廣漠たる飛行場あり、今や本邦屈指の大飛行場たり。第一・第二飛行聯隊を置く。此原野中よりは石器時代の遺物を發見すること多し。〔各務原古墳群〕各務原南端にあり。鵜沼・前宮兩村地内に圓墳多數散在し已に破壞せるもの多く、祝部土器の破片等多く散在す。副葬品として勾玉・管玉・刀劍類の發見せられたるもの少からず。内には精巧美麗なる金銀杏葉二個を出土せり。〔ぼうの塚〕鵜沼村字中上の臺地上に位置し、西南に向ふ前方後圓式古墳なり。全長一〇〇米餘、後圓直徑約五十五米、直高約十米ありて、墳輪四側を存す。後圓の周圍には濠の痕跡を留む。此墳は明治十八年後圓頂上を發掘せしに、長さ約二米、幅約一・五米、厚さ二十四糎ある扁平なる蓋石あり、其下より副葬品を發見すといふ。この蓋石には彫刻あり。

【各務ヶ原線】社線名古屋鐵道の一部。岐阜市長住町驛より高山線に併行して同線鵜沼驛附近の岐阜縣稻葉郡鵜沼村小森の新鵜沼驛までの一七・七粁。軌間は一〇六七米にて電氣及びガソリン車運轉をなし省線と貨物の連帶運輸をなす。沿線よりの發送主要貨物は航空機位のものにて、主なる到著貨物は織及び鋼製品・セメント・木材類及び機械等なり。沿線に飛行第一及び第二聯隊あり。

カガミ　香美

【香美】美作國（岡山縣）の古地名。和名抄、苫西郡に香美郷あり、其地今の苫田郡香々美南村・香々美西村に當る。

【香美】美作國（岡山縣）の古地名。和名抄、勝田郡に香美郷あり、其地今の勝田郡豊國村逸に當り、大字下香山の香山は蓋し香々美山の訛か。

【香美】安藝國（廣島縣）の古地名。和名抄、賀茂郡に香美郷あり、刊本に香津とあるも疑はし。其地今の賀茂郡郷田村・御園生村・下見村に當るか。下見の南に鏡山あり、而して此地郷名を缺けばこの附近を往時香美郷と稱せるなるべし。

【香美郡】→香美（かみ）郡（高知縣）

カガミ　鏡

【鏡沼】陸奥國（岩代・福島縣）岩瀬郡鏡石村大字鏡田にありし沼。建暦年間和田胤長、父和田義盛の事に座して岩瀬に配流せらるるや其妻迫うて此地に至る。既にして誅せられしと聞き悲に堪へずして鏡を抱きて沼に投じて死す。鏡の光り尙水底に明かなりといふ。芭蕉翁が奥の細道に「今日は空曇りて物影うつらず」とあるは此傳説に因めるなり。※かげ沼

【鏡浦】千葉縣西海岸の一灣。通例、館山灣といひ、又別に菱花灣の名あり。海水浴の好適地。灣の南部に散在せる高ノ島・沖ノ島と共に風光麗はしく、また冬暖夏涼のため沿岸一帶の地は避暑避寒地として聞ゆ。沿岸に館山・北條・那古・船形等の諸町相連り安房の主要部をなす。里見八犬傳・九ノ五二「那古の浦は、一名を鏡の浦といふ、這地方の軸製魚は安房の名物なれば、平生に國守へ獻じて、もて食膳の料とす」

【鏡池】東京市淺草區橋場町總泉寺附近なる淺茅原にありし池。往昔梅若丸の母妙龜尼、我子を哀れ都よりさまよひ來たりしも、其殁せるを聞き此池に身を投ぜりと。又寛文九年吉原廓金屋の遊女栄女が、自分を見染めしが首尾を得ず格子先で自害せし若僧の志を哀れみ一首の和歌を遺して後を追ひし所といふ。明治十八年頃埋められ、いま淺川町出山寺に碑

あり。川柳「面影と殘る鏡の池の跡」

【鏡池】東京市豐島區高田南町南藏院境内に往古ありしといふ大池。當寺を大鏡山と號し、また此地に委見・佛等の橋名あるに因れるなりといふ。

【鏡池】東京市江戸川區下篠田町明顯寺にありし池。往昔親鸞上人東國遊化の時此地に三年留まり、歸洛の際自ら此池に面影を映して肖像を造り殘せりといふ。

【鏡井】東京市芝區增上寺境内觀智院中にありし井戸。天和三年開鑿。御供水を汲めるもの。

【鏡山】越後山脈飯豐山塊中の一峯。新潟縣東蒲原郡豐實村と岡島縣耶麻郡奥川村との境界に峙ち、標高一三三九米。東北麓は犹岩山(一六五四米)・三國岳(一六三一米)に、西南麓は立石山(九九〇米)・高陽山(一一二七米)に、西方は西南流する實川を隔てて笠掛山(一三九七米)に對し、また東方には代塚山(一二八二米)峙ち、中間褶合より奥川發源して西南流す。

【鏡川】筑紫國(富山縣)の歌枕。いま何れの地にありしか詳ならず。柳・月・紅葉・落葉・岸・岩の名所たり。夫木・四「花のちる山のふもとのかかみ河ひなへて春はぜくへかりけり」夫木・二四「かかみ川かけ見る月に底すみてしつむみくつのはつかしきかな　顯仲」

【鏡山】近江賀峰山塊中の一峯。琵琶湖の南岸より約十粁、東海道本線篠原驛の東南方約四粁に位す。滋賀縣蒲生郡鏡山村と野州郡篠原村との境界に峙ち、標高三八五米。太古は天目槍が住みしと傳へらる。北麓に鏡宿ありき。源平盛衰記に據れば源義朝の遺子牛若丸は奥州へ下る途中この宿にて元服し、源九郎義經と名乘れりと云ふ。ここに源義經元服の池と呼ぶ池あり。山頂より北方なる琵琶湖を俯瞰すれば明鏡に對する如き觀あり、古歌にその勝を歌ふものあり。「鏡山いさ立ちよりてみてゆかむ年へぬる身は老やしぬると　大伴黒主」

【鏡谷】近江國(滋賀縣)の古地名。書紀垂仁天皇三年紀の終りの註に見ゆ。卽ち新羅の王子天日槍の我國に歸化するや、天皇の御聽許を得て居住の地を求むる爲め菟道河を泝り、近江國吾名邑に暫し足を駐め、のち若狹を經て但馬國に至り住居を定む。鏡谷は天日槍に從ひ來れる陶人の居りし所ならん。其地は今蒲生郡鏡山村大字須惠の地なるべし。

【鏡野】近江國の歌枕。今の滋賀縣蒲生郡鏡山村大字鏡は、古の鏡宿の地なればその邊を指せるものならん。御集「かかみ野やたか爲の名のみしてこふるみやこのかけもうつらす　土御門院」

【鏡池】近江國の歌枕。今滋賀縣蒲生郡鏡山村に源義經の元服池と稱するものあり、恐らくは此池を指せしものならん。夫木集「かも影に見つつみをしむ花の色なかかかみの池にうつしうゑては　謙德公」

【鏡】↓鏡山村(滋賀縣)

【鏡山】天智天皇山科陵の後の山。今京都市東山區山科御陵御廟野町にあり。萬葉・二「やすみしし　わこ大王の　かしこきや　御陵仕ふる　山科の　鏡の山に」

【鏡瀨】備中國(岡山縣)の歌枕。川上郡内なりといふもいま詳かならず。大伴會歌集「限りなきとよのあかりにいととしく鏡の瀨さへ影をますかな　經衡」

【鏡山】中國山脈に屬する一峯。廣島市の東方二十數粁、廣島縣賀茂郡西條町の南方約四・五粁に位す。賀茂郡御薗宇村に聳え、標高約一〇〇米、山容秀麗なり。大内氏の築きし西條城址あり。大永二年大内義興これを築き、のち毛利氏に占守せられる。南麓部は西南流する黑瀨川の上源地たり。

【鏡村】愛媛縣伊豫國越智郡の北部、大三島の西北部を占む。東は盛日村、南は宮浦村と界し、北西部は海に臨み、北方は大久野島を距てて岡山縣豐田郡忠海町を望む。東北境の高度三九五米のホマーチ式火山の西斜面に被れ、西方に低き二五六米と二一二米の二つのホマーチありて夫々岬狀に突出し其中に鏡灣を抱き、西北海上に松島・櫛林島・金剛岩・神殿島等浮ぶ。傾斜面に畑よく拓け蜜作多く養蜂も行はる。街道は海岸沿ひに南北に通じ、盛日村より來る街道東西に走り大宇肥海にて之と接續す。

【鏡村】高知縣土佐國土佐郡の西南部。高知市の西北に隣り、東北は地藏寺村・土佐山村に、西南は吾川郡三瀨村に、西北は吾川郡上八川村と界す。西北に聳ゆる國見山(雪光山九二六米)の山脚東南に延び、土佐山村より流れ來る鏡川の上流東部を南に貫き西境を東南に流る。耕地は鏡川沿ひに發達するも山地廣く養蠶最も盛に行はれ米・麥・栗を產す。省線土讃線の旭驛(高知市地内)に近くバスの便あり。昭和三年十六村の一部を編入し現在に至る。

【鏡川】高知縣土佐郡を流るる川。一に潮江川にも作る。土佐山村の西南山地に發源し西に流れ山間の小支を合せ鏡村の西南部にて流路を南にとり、更に朝倉村にて高知平野に出で東流し高知市内の潮江町を貫き浦戸灣に注ぐ。流程約二四粁。夫木「かかみかはかけ見る月に底すみてしつむみくつのはつかしきかな　顯仲」

【鏡山】筑紫山脈筑豐山塊に屬す小丘にて、福岡縣直方市の東南方約一五粁、田川郡香春町の東北方約五粁の地に位し、同郡勾金村に峙つ。標高約四〇〇米。東北麓は障子岳(四二七米)に連り、西方は彦山川(遠賀川支流)の枝川を隔てて香春岳(五〇八米)に對す。山中に鏡山神社あり、神功皇后を祀る。皇后御鏡を安置して天神地祇を祀られし所といふ。又豐前國風土記に據れば、昔氣長足姫尊御鏡を此處に安置し給ひしが石と化せり、故にこれを鏡石と云ひ、之より鏡山なる山名出づと。古歌に「豐國の鏡の池の鏡石かくれもせしな顯れもせす」など持統天皇の御宇河内王筑紫大宰帥に任ぜられしが薨ぜられ、この鏡山の麓に葬られしと云ふ。これに就き手持女王の作歌三首萬葉集に殘る「おほきみのむつ魂あへや豐國の鏡山を宮と定むる」「豐國の鏡の山に石戸立て隱りにけらし待てと來ませす」「石戸ふる手力もかも手扇き女にしあれはすへの知らなく」之なり。萬葉・三「被作村主益人、豐前國より京に上る時、作れる歌一首、梓弓引豐國の鏡山見す久ならは戀ひしけむかも」

【鏡村】佐賀縣肥前國東松浦郡の中部。西北部は唐津市東北部の湊鳥に繋がり、西南は久里村、東は濱崎町に隣り、北は唐津灣の南支松浦潟に面し海岸一帶は砂丘をなし指定名勝たる虹の松原として著はる。地南北に長く南半には南境に三方山(五〇五米)、西境に夕日山(二七三米)あり て山地多し。北半は松浦川口になれる平野に當り、東境濱崎町との境上に領布嶺山(鏡山、二八四米)あるほか、一帶の平坦地にて田畑よく拓く。純農村にして農產は米を主とし麥・薯等あり。社線北九州線道海岸に沿ひて東西に走り、虹ノ松原驛(大正十三年開業)を置き、西方唐津市湊鳥にある東唐津驛を經て更に鏡驛(昭和六年開業)を過ぎ省線唐津線山本驛(鬼塚村内)に連り、道路また中部を斜に東北より西南に走り、交通便利なり。領布嶺(振)山は海拔二八四米、一に鏡山とよばる。玄武岩より成り、山容秀麗、何れより見るもその形同じきを以て七面山の名あり。頂上に周圍四〇〇米餘の池あり、山上の眺望甚遠にて唐津灣上に點在する幾多の島嶼を指呼し得。宣化天皇二年十月大伴狹手彦、新羅征討の勅を奉じて松浦潟より船出せし時、篠原長者の娘佐用姫、戀々の情に堪へず此山の巓に登り、領布を振りつつ遠ざかり行く征船を眺きて別れを惜しみ給ふと傳へられ、肥前風土記・萬葉集を始め諸書に載せられ遍く人の知るところ。※虹ノ松原(鏡神社)大宇鏡に鎭座。縣社。祭神、息長足姫命(一ノ宮、御香宮又は松浦宮)・大宰少貳藤原廣嗣(二の宮・板櫃社)。蓋し松浦宮の側に廣嗣の怨靈を祀れるもの。朝廷及び武家の崇敬篤かりし社。例祭、五月九日・十月九日。(惠日寺)大宇境にあり。曹洞宗。洞源山と號す。大伴狹手彦佐用姫の死を悼み、追福のため黃金佛を鑄造し小堂を建つ。以て當寺の濫觴とす。爾來數度の火災に罹りしも、のち宗祐之を再建す。寺城廣闊にして眺望絶佳なり。寺寶中銅鐘一口は朝鮮鐘にして旗擂あり、天人・蓮草文・連珠文卍くづし文樣等を鑄出す。天平六年丙寅九月日河清部鳴曲北寺鑄鐘壹驅入重百二十一斤棟梁僧諒日」の銘あり。また追刻銘により應安七年僧紗賢之を勝樂寺に施入せしことを知る。今國寶なり。

【鏡山】領布嶺(振)山の別稱。※鏡村(佐賀縣)

【鏡渡】肥前風土記に見ゆる古地名。肥前國松浦郡の地。宣化朝、任那に遣された大伴狹手彦連が、松浦郡篠原村に來りて弟日姫子を娶り、別れる時これに鏡を與ふ。弟日姫子は悲しみ泣きて栗川を渡りし際、鏡の緒が絶えて川に沈みしため此名ありと。肥前風土記・松浦郡の條に「鏡渡在二郡北一……大伴狹手彦連……至二於此村卽綾篠原村一弟日姫子成レ婚……分別之日取レ鏡與レ婦婦含悲嗟渡二栗川一所レ與之鏡緒絶沈レ川因名二鏡渡一」とあるによれば、栗川卽ち松浦川の渡なり。東松浦郡に鏡村あり、又その南に久利郷あり。これ篠原村に當ると云ふ。鏡渡又その近くならんと想像せらる。一に栗川は今の玉島川なりともいふ。

【鏡町】熊本縣肥後國八代郡の西北海岸。八代町を距ること東北約七粁、東北は和鹿島村・野津村に接し南は有佐村・文政村に隣り西北は八代海に面す。八代平野の中央部に位し、全町土地低平肥沃の耕地ななし、米を多產し、外に麥・薯・果實等の農產あり。沿岸は遠淺にて牡蠣・海苔等の水產また少からず。省線鹿兒島本線有佐驛に近く、道路また南北に通じ、南西は八代町、北は松橋町方面への交通は便利なり。古くは八代海に沿ふため海運上の一要地たりし處。明治三十七年細川家の舊「御紙」を利用して、始めて米麥倉庫設かれ、今尙ほ米穀の集散地を成す。また人造肥料工場・八代農業學校等あり。村社印鑰神社の東北方に鏡池あり。旱天にも池水涸渴することなく陽春の候には池中の島上にある櫻花爛漫として觀客を招く。往古は周圍四粁にも亙れりといふ。仲哀天皇の御宇、印鑰神社の祭神石川宿禰當地に兇徒儻定のため下向したる際、里人此池の鯉を獲へて饗應するといひ、今尙ほ印鑰神社祭日の前日(四月七日)町内の氏子等、池中に入りて手探にて鯉を捕へ神前に供するを例とし、其日は群集雜沓すと。

【鏡池】熊本縣阿蘇郡北小國村にある池。常には鏡のごとく淵靜に、人影を寫すこと鏡の如し。所謂人影傳說を伴ふ池として名高し。菊池氏の勢力を振ひ居りし頃は、肥後國を初め九州一帶の大旱魃に、郷村の里長等、阿蘇神社に三七日の斷食祈願參籠し滿願の日「南郷の池に人身御供を捧げるは汝なるべし」との神吉、最年少の惣右衞門といへる者に下りしと、彼自ら證明し、潔く明日の犧牲になる旨を衆に告げ、翌日、南郷谷の外輪山の麓の池に身を投ずるに至りしが、その時彼れは最愛の妻の殉死を厳しく戒め、記念の鏡のみをうけていふやう「われ永劫にこの池にあるべし。されば以後、人身御供は無用なり」と。殊さら妻に再會を誓ひて、池の底深く沈み行きぬ。その時誓

鏡たちどころに至り、大雨頻に降りそそぎたり。後日、妻この池中を跳むるとき忽ち鏡あらはれ夫の生身の姿ありありと鏡の上にあらはれしと傳ふ。爾來、これを鏡ヶ池と稱し、雨を祈るに犧牲なくして神靈現はるるといはれ、年に一度池の祭典あり。

【鏡山】 霧島火山脈に屬する一峯。八代海の東岸より東方十數粁に位す。熊本縣葦北郡大野村と球磨郡一勝地村との境界に峙ち、鹿兒島本線一勝地驛の西方約七粁の地點に位す。標高七二一米にして山體火山岩より成る。山頂より東西すれば八代灣（不知火海）の彼方に天草の島々を望見し、また南西方に大關山（九〇二米）、東南方に國見岳（九六九米）の聳ゆるを仰ぎ、東北麓を球磨川の北流するを俯瞰す。

【鏡山】 阿蘇火山脈に屬する一峯にして、耶馬溪の奥地、玖珠川上流右岸に位す。大分縣玖珠郡北山田村に聳え、標高六七五米。西南麓に湯山温泉湧く。南麓を久大線東西に走り、又玖珠川洗ひて東流す。東北方遙に谷耶馬溪・南耶馬溪の勝地あり。

【鏡坂】 豐後風土記に見ゆる古地名。今の大分縣日田郡日田町の南方にて玖珠川の南岸、上野村の東方といふ。豐後風土記・日田郡「鏡坂在ニ郡西ニ、昔者國向日代宮御宇（景行）天皇登ニ此坂上ニ、御ニ豐國形ニ、卽勝曰、此國地形似ニ鏡面一、故、因曰ニ鏡坂一、斯其緣也」。

【鏡山】 日向灘海岸より西方約六粁に峙ち、附近航海者の好目標たり。宮崎縣東臼杵郡南浦村と北川村の境界に聳ゆ。標高六四五米。東北麓は黑岩峠を經て岳山（六一四米）に連る。西麓を小川南流し、本川と合して北川となり、更に南流して日向灘に注ぐ。

【鏡山】 阿蘇火山脈の一峯にて、阿蘇山噴火口の東南方約二五粁に位す。宮崎縣西臼杵郡三ヶ所村と熊本縣阿蘇郡馬見原町との境界に峙つ。標高九一六米にて、全山火山岩より構成せらる。五ヶ瀬川の一支東南方より發源して北流す。

カガミイシ　鏡石村　鹿島縣岩代國岩瀬郡の東南部。矢吹町の北に位し、地勢概ね平坦、山地と思はるる點もなく河川としては廣戸川・隈戸川あり、灌漑の便に供さる。湿沼も多く、農產上重要なる役を為す。主生產は米作、其の他麥・大豆・馬鈴薯・蒟蒻・小豆・大根を產す。道路としては陸奥街道・牧本街道あり。鐵道として東北本線、鏡石驛（明治四十四年設置）あり。沿革は不詳なるも、德川時代、參覲交代其他一般の宿場町として發達せるものの如し。大字鏡田に鏡沼あり。鎌倉時代の頃、和田黑長郎を獲て陸奥の岩瀬に謫せらる。その妻、夫を慕うて來り夫の死を聞きて哀病に堪へず、雜鏡を抱きて沼に投じて死すといふ（白河風土記）。また村に東北御巡幸の際の明治天皇笠石御小休所・久米石御小休所あり、何れも史蹟に指定せらる。

カガミウラ　鏡浦村　三重縣志摩國志摩郡の東北端。鳥羽町の東南約八粁、南の長岡村、南西の加茂村に抱かれ東北は太平洋に面し、中央部に今浦の灣入あり。四周丘陵性山地にして中部灣岸に小低地を為す。米・麥の產あるも、村の主生業は漁業にてその產額も多し。海上交通の便よろし。古くは和名抄、答志郡伊可郷に屬せる地にて、大字石鏡は郷名の遺稱なるべし。村名は石鏡・浦村の舊二村を合併して、村制施行の際各一字を採りて命名せるもの。

カガミガハラ　各務ヶ原線（カガミガハラ）　↓各務ヶ原線

カガミキタ　香々美北村　岡山縣美作國苫田郡の中部。津山市の西北約九粁。加茂村・高田村の西に隣り、南は香々美南村に、西は奥津・泉兩村と界す。西境に泉山（一二〇九米）の山嶺南北に連亙し、東境にも入道山（七五二米）の山脈北に延び、この北部山地に發する吉井川の一支香々美川村の中部を南西に流れ、川沿ひは低地にて田畑拓け、米・麥・蒟蒻を產し、木炭・柿・蒟蒻を出す。省線作備線の院庄驛（津山市地內）に最も便よく香々美川沿ひに街道走り、津山市にバスの便あり。此地は香々美南村と共に和名抄苫西郡香美郷の地なるべし。大字寺和田の圓通寺は弘法大師の開創と傳へ、藩政時代寺祿百石を給せらる。（陸藏寺）大字市場にあり。眞言宗大谷派。泰景山と號す。本尊地藏菩薩。草創年代不詳。開山は圓通大世和尙なり。初め本尊の地藏尊は六體たりしゆゑ六地藏寺と號せしを、後世陸藏寺と轉訛せしものといふ。北條時頼諸國遊歷の時、之に新願しけるに應驗顯著なりしを以て堂宇を修營し寺領若干を寄進す。天正の末年火災に罹り一體を殘し他を燒失す。（圓通寺）大字和田にあり。眞言宗大覺寺派。本尊觀世音菩薩。弘法大師の開創。本堂・護摩堂・客殿・車禪・方丈・大師堂・仁王門等あり。大師堂に日輪大師を安置す。

カガミツクリ　鏡作　伊豆國（靜岡縣）の古地名。和名抄、田方郡に鏡作郷あり、加加美豆久里と訓ず。往時、鏡作連の居りし所なるべし。いま其の地詳かならず。沼津市上香貫・下香貫なりといふも疑はし。

カガミナカジョウ　鏡中條村（かがみなかじょう）　山梨縣甲斐國中巨摩郡の南部。甲府市の西南約八粁。釜無川の右岸に沿ふ。地は卽ち甲府盆地の中部に位するをもつて平坦にして且つ釜無川の灌漑よろしきを得て田畑拓く。養蠶業は本村に於ける主要產業にて、また米・麥の產額なからず。交通は甲府市に里道通ずるのみ。此地は中世西隣三恵村と共に加賀美郷と稱せられ、逸見太郎清光の子次郎遠光の居邑たり。（隆圓寺）大字下今井にあり。曹洞宗。寛禄二年周弘禪司の草創に係る。初め龍潤寺と稱せしが、鳳山和尙の時、現寺號に改む。瓦海和尙（十六世）の時火災に罹り延享二年再建す。天保年中再應類燒し、目下再建に努めつつあり。境內に傘松なる老松あり、垂枝二十坪間に及び翠蓋天日を蔽ふ。

カガミノセ　かがみのせ　更科日記に見ゆる古地名。當時下總武藏の堺なりし太井川（おほゐ）卽ち後の江戸川の東岸なるべし。其地今考ふべからず。此日記は筆者が幼少の時の記憶を辿りて記せるものなれば謬なしと云ふべからず。下總の國と武藏の境にあるふとゐ川といふかがみのせ、まつざとのわたりの津にとまりて夜一夜船にてかすかず物わたす……（聖朝船に車かき居えて渡してあなたの岸に車引き立てゝ云々）

カガミヤマ　鏡山村　滋賀縣近江國蒲生郡の西南隅。北は八幡町に近くそれと桐原村を隔て、東は馬淵村・苗村に隣りし、南は甲賀郡下田・岩根の二村と、西は野州郡篠原村と界す。西境には鏡山（三八五米）、南界にも四〇〇米程度の山ありて、村の西南半部は山地を為す。東北半部は概ね平坦にして田畑よく拓く。米を第一に、菜種・麥・綿・茶等の產も少からず。中山道北部を横ぎり、縣道これと岐れて村の東部を南下し下田村を經て舊東海道の水口に連り、村內の交通は便利なり。古くは和名抄、蒲生郡安吉郷に屬せるものの如し。これより古く書紀垂仁紀に新羅の王子天日槍歸化し居所を求めて近江に至り吾名邑に暫く居を定め、のち其の從者ここに留まりて鏡谷（かがみだに）の陶人（すえびと）となりしと見ゆ。蓋し此吾名邑は本村の邊なるべく、鏡谷はいま鏡山の山麓にして大字に須惠器の窯址數箇所あり、齋瓮（いはへ）・坏（つき）等の破片等を發見せり。また古墳數基して、石室の築構を全部露出して奇觀を呈す。鏡山は標高三八四米にて山高からざるも、湖東平野に屹立し、山頂より琵琶湖を望めば寔然明鏡に對するが如く、風光絶佳、古來多く詩藻に入る。山は上代天日槍の住みし處と傳へられ、山の北に源義經の元服池と稱するものを存す。大字鏡は鏡山の北麓に當り、鎌倉時代京より鎌倉へ向ふ鎌倉街道の古驛鏡驛の置かれし地なり。源平盛衰記に據れば牛若丸この驛にて元服し九郎義經と曰へりと傳ふ。東鑑・一五・建久六年三月四日「蒲軍出ニ江州鏡驛一」と見ゆ。また中世は中山道の鏡宿と呼ばれし處。承久の役、土豪鏡久綱官軍に屬し、姓名を鏡面に書し鬪り留まりて鎌倉軍を拒ぎて尾蓋に戰死す。其子孫此地にありて鏡氏を稱し、此地の居城城に據り佐々木氏に屬す。古今雜・上「鏡山いさ立よりて見てゆかむとし經ぬる身は老いやしぬると」拾遺「鏡山よりたる月もみかかれて明れば氷る志賀の浦なみ　定家」日本永代藏・二「草津の人宿にて年を取、能が餅をむかしの鏡山に見なし、頓て心の花も咲出る櫻山色も香も有若さかり」西鶴織留・一「道中いそぎけるに草津の宿の矢倉といふ所は能が餅の名物、勢田矢橋の迫分なり、近付の茶屋にしばし休みて氣色を見るに、鏡山の晏晴て松に風絶海に浪の音なくけふこそ渡し舟の乘日和」當流小栗判官・四「うたづめ川を打渡り、何故つくる委見の、餅の宿も引過ぎて、梢に囀く仇浪は、琴の調べか唐櫛の音か、松風の聲でないよの、恐び車かの、廻りめぐるや瀨田の橋」（鏡神社）大字鏡に鎮座。村社。祭神、天日槍尊。地方の古社。本殿（三間社流造、屋根柿葺）は桃山時代の作にして國寶たり。例祭、四月二十八日。（勝手神社）村社。祭神受霊命。本殿は三間社流造、屋根檜皮葺（現今銅板葺）、明應二年の再建と稱す。國寶たり。（石部神社）大字七里に鎮座。祭神天照大御神。一說に延喜式內社といふも詳ならず。（正光寺）大字西川にあり。天台宗。創盛派。草創詳かならず。天正年間新德再興すと云ふ。本尊木造阿彌陀如來立像一軀は國寶にして鎌倉期の作。（阿彌陀堂）大字藥師にあり。宗派なく同村の管理に屬す。木造天部形立像一軀は國寶にして、蘇原時代を降らざる作ならん。（吉詳寺）大字岡屋にあり。淨土宗。草創年代不詳。初め天台宗を奉ぜしが、寛文四年京醍醐山の時現宗に轉ず。近世旗本有馬家の菩提所となる。現に京都百萬遍知恩寺末とす。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は藤原期の作にして國寶たり。

カガム　各務　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄各務郡に各務郷あり、その地今の稻葉郡各務村・蘇原村に當る。各務郡の郡家此處にあり、各務氏世々郡領に任ぜらる。大同類聚方に各務郡各務郷濃原里とあり。

カガモリ　加々森山　赤石山脈中の一峯にて、赤石岳の西南方十六粁餘に位

瀨郡）

カガミノハザマ　鏡谷（かがみだに）　↓鏡谷（滋賀縣）

カガミミナミ　香々美南村　岡山縣美作國苫田郡の南部。津山市の西北約四粁。一宮村の西に隣り、北は香々美北村に、西は大野村に、南は田邑村と界す。南北約七粁、東西約三粁。東北境に聳ゆる桝形山（六四五米）の山脈西南に降り、香々美北村より流れ來る香々美川北部山地を切りて南に流れ、東南部に低地ありて田畑拓け米・麥・蒟蒻を產し、他に木炭・柿を出し酒造も行はる。省線作備線の院庄驛（津山市地內）に最も便よく津山市に至る街道南北に過ぎりバスの便あり。此地は香々美北村と共に和名抄苫西郡香美郷の地なるべし、村名蓋し郷名の遺稱なるべし。大字寺和田の圓通寺は弘法大師の開創と傳へ、藩政時代寺祿百石を給せらる。（陸藏寺）大字市場にあり。眞言宗大谷派。泰景山と號す。本尊地藏菩薩。草創年代不詳。開山は圓通大世和尙なり。初め本尊の地藏尊は六體たりしゆゑ六地藏寺と號せしを、後世陸藏寺と轉訛せしものといふ。北條時頼諸國遊歷の時、之に新願しけるに應驗顯著なりしを以て堂宇を修營し寺領若干を寄進す。天正の末年火災に罹り一體を殘し他を燒失す。（圓通寺）大字和田にあり。眞言宗大覺寺派。本尊觀世音菩薩。弘法大師の開創。本堂・護摩堂・客殿・車禪・方丈・大師

す。鉄岡藩・安倍藩・上川郡村と長野藩下伊那郡・高遠藩・飯田藩・高須藩・三四一九番本陣村と接し、郡高三四一九番本陣村に本陣を置く。郡内に本陣は一。

に本宿（三五九一米）・馬場宿（三五九一米）・高遠宿（三五九一米）・高遠宿（三五九一米）・高遠

偉へられ、日本三體の一として名高く、毎年五月八日な釋迦の降誕會と定め、遠近の善男善女參詣するもの多し。〔教證寺〕大字江崎にあり。眞宗本願寺派。草創年代不詳。もと天台宗。貞和年中圓可法師、本願寺覺如上人に歸依して改宗す。因つて圓可法師を中興開山とす。

カキ　牡蠣島　北海道釧路國厚岸郡厚岸湖の西北部にある島。牡蠣の自然巢枝して六十有餘の島嶼を成し、此等を總稱して牡蠣島といふ。此等にはスガモを始め多くの海草波浪に打ち上げられて堆積し、更にバクテリアの作用によりて分解せられ、泥土と混じて腐蝕土をなすに至る。かくして、シホマツバ・シバナ（一名ウミニラ）・厚岸草の如き特に鹹水中に生育し得る謂ゆる鹽性植物殖繁す。更に土壌が形成せられ、遂に海水に浸さるる處少きに至ればハマニンニク繁殖し、殆んど全島を植物にて被ふに至り、更に尙ほ多く植物移殖して全く普通海岸に見る海濱植物群を形成するに至るべし。この牡蠣島は無植物の狀態より順次鹽性植物・海濱植物と固有の植物群落の變化發達する有樣を示す好例とす。今これ等の植物は厚岸湖牡蠣島の植物群落として指定天然記念物たり。

カキ　嘉義　【嘉義市】臺灣臺南州二市の一。北は牛稠溪を以て民雄庄と境し、南は水上庄、東は竹崎庄、西は東石郡太保庄に接し面積三・五五方里、人口七萬三千。南北を牛稠溪・八掌溪八獒溪〕に挾れ、舊嘉義西堡の地なり。東境の山子頂・紅毛埤方面の竹崎庄の山脚地帶に接する外は一面の廣野にして行政區域は市内十七町の外に山子頂・盧厝・紅毛埤・台斗坑・後湖・埤子頭・北社尾・竹圍子・車店・下路頭・劉厝・港子坪・柴頭港・竹子脚・大溪厝の十五字を加ふ。市内は舊嘉義城内にして、鐵道嘉義驛を控へて郡下產業・經濟の中樞として郡役所を始め各種機關を設け中南部屈指の都市なり。清康熙四十三年縣治を此地に定めたるより街肆を形成す。是より先康熙二十三年諸羅山莊の設かるるや林日壽なる者台斗坑・埤子頭・後湖を開墾し次で乾隆初年東方なる盧厝・山子頂・紅毛埤及び南方の車店に進し、蔗利見なる者に依り竹圍子・北社尾・竹子脚を開拓せり。當市の產業は農業八十五萬六千餘圓にして、米の五十六萬五千圓を筆頭に甘蔗・甘藷の九萬圓前後を始め煙草・落花生等にて、果實類に鳳梨の六千四百圓、芭蕉の六千五百圓等、計二萬四千餘圓あり。林業は蓉炭・竹材の七千圓を始め一萬七千餘圓にして畜產は牛豚等の三十九萬圓は其居殺需要六十萬圓に達す。商業は各銀行・會社十八、產業同業組合十八を數へ金融資本の基礎を固め、工業は營林所の阿里山製材事業等百三十二萬圓を始め家内工業に至るまで總計四百三十萬圓。教育方面は嘉義中學・女學校・農林學校を始め小學校一、公學校四。官公署に市役所・郡役所・營林所嘉義出張所・飛行第十四聯隊等あり。〔嘉義神社〕山子頂嘉義公園にあり。縣社。祭神、天照大神・大國魂命外三神。大正四年の創建にして同六年に至り縣社に列す。

【嘉義郡】臺灣臺南州十郡の一。臺南州の東北部に位し、東は番地を以て臺中・高雄及び花蓮港廳に接し、新高主山（三九五〇米）を擁する中央山脈あり、北は北港溪及びその支流たる石龜溪を以て斗六・北港兩郡と境し、西は東石郡、南は新營郡と接し、嘉義市の北を牛稠溪西に流れ、南境に近く八掌溪、東方山地より曾文溪南西に向つて貫流す。東西六八粁、南北四四粁、平地面積九六〇方粁にて番地面積四八〇方粁を合すれば方域一四四〇方粁にして全島の二十五分の一に當り郡中第一に位す。東界を南北に縱走する中央山脈を除けば西南に坦々たる沃野を有し、大小河川に坡瓏を合すれば嘉南大圳の灌漑區域と共に二千六百三十餘甲に達し農產の發達を助く。行政區劃は水上・民雄・新巷・溪口・大林・小梅・竹崎・番路・中埔・大埔の十庄と、街庄を置かざる番地にツオウ族を主とする十七番社を有し人口十四萬八千八百、內蕃人千六百四十八人を含む。嘉義郡は和蘭人占據の當時より開拓行れ明末鄭氏の時代には天興縣を置かれ、清領と共に康熙諸羅縣を設置し、曾文溪を以て中路臺灣縣（現在の臺南州新化・新豐郡及臺南市）と境し、中央山脈以西の西部海岸一帶北路の政務を司り、雍正元年彰化縣・淡水廳の設置さるるや濁水溪を以て彰化縣と境し凡そ大正九年地方制度改正前の嘉義廳の管區を統治せり。諸羅縣は設置の當時縣治を今の北門郡佳里街に置き嘉義一帶の地を諸羅山莊と呼べるは、此地に平埔番ロツア部族のツウロオン社の在りしに因る。且つ嘉義と改稱せられたるは、乾隆五十二年、勅旨を以て福康安の逆匪林爽文を、諸羅縣城を好守備定せる功を嘉して、土民の義勇を賞せられしものなり。郡下の產業は農產額七百十五萬圓、米三百九十五萬二千三百五十八圓にして、その過半數を占め、甘蔗・甘藷の各百萬圓に落花生・豆類・煙草・バナナ・鳳梨・柑橘等二十五萬圓を有す。畜產は養豚業最も盛要に富み、七萬五千頭に達し、水牛・黃牛の一萬四千頭を始め鷄・鴨等の家禽類二十一萬羽に達す。林業は山脚地帶を除き、奥地に進むに從ひ森林を有し、阿里山に於ける殖產局營林所の扇柏・檜等の伐材造林事業はその大宗にして、年產額は主產物一百六十四萬餘圓、副產物二十萬餘圓を出し、竹崎庄金輪宮附近の天然大竹林、生毛樹大坪一帶の廣葉樹人工植林業は昭和・三菱・星等各會社の造林計畫及び近時總督府の山地開發事業計畫に依り、勤もすれば生產低下の傾向に在る阿里山製材事業を、此等新規事業により

補塡せられんとしつゝあり。饒業は小梅庄野子林・竹崎庄蓉算測等の石炭、中埔庄東子脚の石油等、未開發、乃至は其緒につけり。水產は淡水漁業にして、他地方の供給に待つ。工業は營林所嘉義製材所の製材工場に大日本・明治・新高各製糖會社工場に於ける五百六十余萬圓を筆頭に酒精製造の十四萬圓以下、家內釀造・精米等小規模なるあり。此等諸事業の景氣により商況を左右す。交通は嘉義市を中心に、縱貫鐵道の外に私設鐵道四種約二百哩、州道約八八粁、郡下道路六四〇粁は軌道・自動車の運送力を增大し、產業發展の一因を爲す。教育は郡下小學校五・公學校十四・分教場八を有し各庄設置の教化機關たる共榮會を中心として男女青年團を以て本島人の教化徹底を期し、總計十八の國語講習所は公學校に入學せざりし本島人の皇民化の直接機關として活躍す。氣溫は平均二三・二度にして冬季は西北の季節風强く降雨無く、夏季は南風にて雷雨多く、六・七・八月は雨期に屬し、水上庄を通過する北回歸線は本郡を以て南北氣候の差異を生ず。番地に對しては警務官の駐在所及交易所を設けて開發指導に當り、教育・經濟・衛生各般の改善を計れり。

【嘉義侯】臺灣臺南州嘉義郡の舊侯名。清康熙五十三年諸羅山莊と稱せしもの。乾隆五十二年嘉義と改名せらるるに及び嘉義侯と改め、道光年間更に東西二侯に分つ。東侯は番路庄・中埔庄及び水上庄の一部を、西侯は嘉義市の管區を含む。東侯の地は嘉義市の東南方番界に連り、康熙・雍正年間には此等の東境は全くの番山にして、嘉義市に近き中埔庄社口が阿里山番ツオウ族との往來を行へる關口たるに見るも明かなり。平埔番諸羅山（ツウロオサン）、哆咯嗎（トオロオコク社）のロツア族をして長佈せしめたる阿里山番を教化せし康熙末年の通事吳鳳の事蹟は有名なり。西侯は明末鄭氏の部將翁・陳・王等各姓の開墾行はれ、清領の翌康熙二十三年林目壽なる者墾首と爲りて此地を開き繁榮の基を築くと。大正九年地方制度改正に依り廢止さる。※中埔侯

ガキ　餓鬼　【餓鬼岳】餓鬼山とも稱す。飛騨山脈後立山連峯に屬し、主脈西方の一支峯たり。白馬岳の西南約十粁に位す。富山縣下新川郡黑部國有林地域に峙ち、標高二一二七・九米。全山郡石安山岩より成る。北方は黑部川支谷祖父谷の彼方に中背山（二〇七四・七米）を望み、南方は同じく黑部川支谷餓鬼谷を隔てて東谷山（二二九七・三米）に對し、東方には主脈峯たる唐松岳（二六九六・四米）・大黑岳（二四〇五米）聳立す。西麓を黑部川北流し、黑部下廊下の溪廻幽玄を極む。西北方に祖母谷溫泉湧く。この祖母谷溫泉より餓鬼ヶ岳の南麓を東に、更に大黑銅山跡を經て唐松岳に至る山徑通ず。

【餓鬼岳】日本北アルプス（飛騨山脈）に屬する一峯にして、燕岳の東北約五粁に位す。長野縣北安曇郡常盤村と平村との境界に跨り聳ゆ。標高二六四七米にして花崗岩より成る。西北麓は唐澤岳（二六三七米）に續き、東南方は清水岳（二七六三・四米）に向ひ、西南方は東澤乘越を經て燕岳（二七六三四米）に對し、西方高瀨川の彼方に烏帽子岳（二六二一米）聳立す。南麓は乳川國有林、西方は高瀨入國有林をなす。北斜面より高瀨川の一上支、また東南斜面より高瀨川の上支乳川源流す。北麓高瀨川の畔に葛ノ溫泉（葛ノ湯）あり。近時唐澤・餓鬼・燕の縱走行はる。

カキオ　柿生村　神奈川縣和機國都筑郡の北隅。東北は橘樹郡に境し、北西南の三方は東京府南多摩郡に界す。全村概ね山地にして林野多く、僅に南部鶴見川沿岸に低地ありて農耕行はるゝのみ。主生業は養蠶業にして繭の產多く、甘藷・麥等の產これに次ぐ。又此地は古くより柿の名所として知らる。省線小田原急行鐵道の柿生驛（昭和二年設置）あり。此地は近世都筑郡小机領に屬す。上麻生・下麻生・早野・王禪寺・五力田・古澤・萬福寺・栗木・片平・黑川の舊十箇村を以て成れるもの。今岡上村と組合町村をなし本村に役場を置く。大字萬福寺は近世麻生郷飯岡庄に屬す。往時萬福寺なる寺ありしによりかかる村名生ぜしものか。今此寺なく寺の傳說もなし。德川氏江戸入國後は幕領となり正保の頃は天野祿左衞門・柿井喜之助の二人に賜はりし地。大字吉澤は片平郷に屬し寛永元年朝倉綾部正に賜はりし地。大字黑川は元和元年駒井右京進親直が大阪陣の功により賜はりし地。大字栗木は天正十九年岡野平兵衞房恒に賜はりし地。大字五力田も寛永元年朝倉綾部正に賜はりし地。大字片平は片平郷と稱せし地にして小田原北條氏の頃は大熊修理亮の所領なりしが、德川氏江戸入國後は前場久三郎に賜はりし地。大字上麻生は德川氏江戸入國後は三井彌市郎吉正に賜はりし地にしてのち三井恒吉の知行所たりし地。大字下麻生は安藤一學の地頭たりし地。大字王禪寺は麻生郷小山田庄に屬す。往時は麻生村の內にて後に王禪寺の寺領となりしにより寺に因み王禪寺村と稱するに至る。德川氏江戸入國後は大久保石見守長安・神谷彌五郎の二人代官となり治めし地。〔王禪寺〕大字王禪寺にあり。新義眞言宗豐山派。星宿山華藏院と號す。開山は無空なりといひ、當初は禪律眞言三宗を兼學せしも、後世醍醐三寶院末寺となり、眞言宗を奉ず。朱印領三十石。

カキオカ　柿岡町　茨城縣常陸國新治郡の北部。東は林村、南より西は小鄕村・小幡村、西は幸穗村、北は瓦會村に隣接す。筑波山の東麓に當り西部は低山性の丘陵地を成すも東部は低平にして慰湖川の上源これを灌漑し田畑拓く。

市街は中央に形成され東方の岡部村・石岡町及び西方北條町・筑波町・眞壁町方面に縣道通ずゆ。両し石岡町方面の諸町村にバスの便あるのみにして他は車馬の便なし。水田多く拓けて米産多く小麥之に次ぐ。古くは和名抄、茨城郡拜師郷の内に屬す。永祿九年佐竹義重、客將大田氏の子梶原政景なして之に居らしめ後眞壁房幹、長倉義興之に代る。慶長中、江戸幕府の臣稻葉正勝の封邑となる。のち正勝家光に仕へ丹後守に任ぜられ柿岡二萬五千石を賜はると。のち旗本瀧川氏之に居し以て明治維新に及ぶ。また天正年中太田三樂片野城に居せる由見ゆ。今大字に片野あるも恐らくは隣村林村大字根小屋の地ならんといふ。新志補に據れば片野は初め小田の家臣八代將監の居せし地なり、其嫡上曾源三郎、佐竹氏の爲に討死せしが、佐竹氏其妻の歸する所なきを憐み三樂に妻すといふ。〔如來寺〕浄宗大谷派。歸命山無量壽院と號す。觀蟹門下二十四聖の第四南庄乘然（一に乘念に作る）の遺跡なり。安貞元年、親鸞、信田の浮島（現在稻敷郡浮島村）に一寺を建て、乘然を住せしめしが、明應七年現在の地に移る。〔淨土寺〕大字片野にあり。淨土宗。大音山正覺院と號す。那珂郡瓜連常福寺末。本尊阿彌陀佛。天文年中の草創、開山は空譽玉泉上人、開基を石塚城主佐竹越後守義高とす。慶安元年徳川家光より寺領五石の朱印を賜ふ。〔善慶寺〕青洞宗。國寶山と號す。本尊釋迦如來。延元元年の草創、開山を大圓宗覺和尚とす。開基不詳、一本新羅三郎に作る。もと長倉村にありしが享保元年長倉義村之を今の地に移す。

カギカケ　鍵懸　青森縣陸奥國東津輕郡西平内村板橋より土屋の往還道へ越える櫛木峠の俗稱。語原は、男女戀想の占ひとして、雙叉の木の枝を高き木の枝に投げ掛けしに基づく。投げ懸くれば念願成就、然らざれば悲戀に終るといふ。

カギガラチョー　螺殼町　東京市日本橋區内の町。米穀取引所あり、明治九年創立にして初は米商會所といへり。

カキコー　果穀後　臺灣臺南州新營郡柳營庄の大字。鄭氏時代開屯の際、此地に鎮營を置きたるより堡名を生じ、清領と共に開墾を行ひ雍正十二年一堡を立つ。堡域は柳營庄の大半を占め現在東部の新厝・大埔腹は嘉義縣管轄州府人に依り小埔腹は同省臭州人に依り、山子脚また臭州人の同族等に依り夫々開拓さるといふ。堡は大正九年地方制度改正と共に廢止されいま柳營庄の大字名となる

カキサキ　垣前　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄遠賀郡に垣前郷あり、其地今の遠賀郡遠賀村・蘆屋町に當る。一に岡垣村の邊にして近世の初めは垣塙莊と稱せりと。

カキザキ　柿崎町　新潟縣越後國中頸城郡の北岸。東北に米山村、東に下黒川村、西南は湯町村と界す。東部は三〇〇米以下の丘陵連るも西部は平地にて水田開け米・薯を產す。省線信越本線海岸に沿うて通じ、柿崎驛（明治三十年設置）を置く。また直江津町及び柏崎町にバス通ずゆ。域内は九戸瓶子・上下濱立會・栃窪・三ツ屋須・柿崎・東谷内・法音寺等十三に分る。柿崎諏訪町の淨願寺境内に明治天皇の行在所・眞宗本願寺派の淨善寺、同淨願寺・柿崎城址、馬正面の桃花、親鸞上人諸々の宿の舊蹟等あり。柿崎城は上杉謙信の臣柿崎景家の據りし所にして景家の卒ゐし一隊を柿崎衆と稱せり。〔明治天皇柿崎行在所附御膳水〕指定史蹟。大字柿崎字諏訪町淨願寺境内にあり。明治十一年北陸東海巡幸の際九月十二日及び還幸の翌同月二十四日御駐泊あらせられたる處にして建物は明治三十年十一月燒失せり。行在所跡は切石にて圍み石壇を築き玉垣を繞して保存し、附近に御膳水の井あり。〔淨善寺〕大字柿崎にあり。眞宗本願寺派。長井山と號し親鸞の法弟順信の開創。元祿年間本山掛所となり明治五年一般本寺となる。〔淨願寺〕大字柿崎にあり。眞宗本願寺派。扇谷山と號し親鸞の弟子善順の開基。

カキサコ　柿迫村　熊本縣肥後國八代郡の東部。東は仁田尾村、西は栗木村に隣り、南は球磨郡五木村と、北は下益城郡年圃村と界し、謂ゆる五家莊の一部をなす山村。保日岳（一二八一米）の山麓中部を南北に連亘して村を東西の兩斜面に分ちその谷地にまた山腹所々に延びて「迫」をなす處多し。農業・林業行はれ、農產に米・麥を出すも村内の需要を滿たすに足らず、林產に木材・椎茸を出しまた茶の產あり。西隣栗木村に出づれば八代平野に通ずゆバスの便あるも、交通はなほ不便たるを免れず。村名の起源は詳かならざるも、山間避隅の地にして所謂「迫」多く、往時は柿ノ木繁茂せしより起りしものならんといふ。中世私に四浦郷と稱す。いま栗木村・椎原村・仁田尾村・久連子村・葉木村・樅木村と共に組合村を成し役場を本村に置く。〔釋迦院〕天台宗。金海山大慈教寺と號す。延暦十八年の創建にして開山を莊善とす。同二十三年勅使下向ありて創建の功を賞せらる。爾來四宗を兼學し九州一の本山道場と公稱し、山内に七十五坊を置き、國内に七十五院を統べ寺門の隆盛西國に其比を見ず、里人稱して西の高野と唱ふ。時に太政官符を以て當國八代・益城兩郡の内寺領三千三百八十四町を賜ふ。文安年間比叡山延暦寺に屬す。天正年中城主小西行長寺領を沒收し堂塔伽藍を燒毀し荒廢に歸せしむ。萬治二年譚瑞再興し八町四方結界の公許を得。延寶五年領主更に寺領三十石を寄せ、寺字の修理を郡内に强役せしむ。爾來法燈連綿明治維新に至りしが、住持嘉澄故ありて歸俗せしより、

寺領境内爭げて上地となりたゞ堂宇のみ下附せらる。いま檀徒一千餘戸を有す。寺境は釋迦岳の頂上に位し、遠く八代の不知火海を望み國内無雙の勝地たり。

カキザワ　柿澤村　富山縣中新川郡の西部。上市町の南約三粁。東南は低山性の丘陵を成すも、西南に緩傾斜し西南部は卽ち富山平野の東部を占め土地低平耕地拓く。白岩川西境を北流し、東南隣大岩村に發源せる其支流村の東北部を曲流して西北端に於て本流に合す。これ等二川はよく村内水田の灌漑に便ゆ。上市町にバス通ゆ。平地少なき爲農產少なく、村民は專ら藥品の製造販賣に從事す。中世此地は弓庄の内に屬す。大字館に弓庄城址あり。弓庄城は土肥氏代々の居城たり。土肥氏は源頼朝の臣土肥實平より出で「新川一郡を領す。美作守政繁に至り天正十年八月佐々成政來り攻め、翌十一年四月成政四所に營を築き相持する事百餘日に及ぶ。韮に和議なり城を成政に渡し已は越後に赴くと。

カキシマ　垣島牛牧　延喜式兵部省式に見ゆる周防國の牛牧。其地詳ならざるも山口縣熊毛郡室積町の海上に浮ぶ牛島にこれを擬定す。

カキシマ　柿島村　徳島縣阿波國阿波郡の東南隅。八幡町の東に隣り、南は麻植郡鴨島町に、東は板野郡一條と界す。村の中央を吉野川東に流れ土地平坦、徳島平野の一部に當り、桑園よく發達し養蠶最も盛なる養蠶村なゆ。もとは葉藍の栽培行はれし所、いま略ど桑園と化し繭は南隣鴨島町の製絲工場に送る。搬送街道北境を東西に掠め、西篠町より來る街道村の西北隅にて之と合しバスの便あり、省線徳島本線の鴨島驛に最も近く交通便なるも中央を貫流する吉野川には稀なく渡船により兩岸を通ゆ。此地は和名抄、阿波郡高井郷の地。

カキセン　下岐川面　成鏡南道成興郡に屬する面。郡管内二十面中の一。郡の西北端に位置し、成興を距る北西四〇粁にあり。東は新興郡の加平・元平・西古川の諸面に、北は長津郡の新南面、西は平安南道寧遠郡の小白・大興の兩面に、西南は定平郡の高山、南は下朝陽の諸面に各相隣接す。郡内屈指の大面にして、南北二五粁、東西二〇粁の廣大な地域を占む。狼林山脈の東斜面に位置し、西境には黃峰（一七三六米）・馬柴山（一七四五米）等の高峰屹立し、北境には、雲峯（一三一四米）、東境には、五峯（二〇〇四米）、千佛山（一四五五米）等相連立して中央を黑林川東南に流れて城川に合し成興を經て成鏡灣に朝す。山地は何れも壯年期の地貌を呈し平地に乏しく黑林川の沿岸珠に東南部に稍平地を見る。農產物は米・粟・稗等を產し、麻布を產す。交通は東南成興、北方慈城に至る二等道路黑林川に沿ひ南北に貫通し北境を出づる地點に有名な黃草嶺一二〇〇米あり、其他は殆んど道路なく衆落亦殆んどこの沿線にあり。面邑上通は面の中央より稍南にありて黑林川の右岸に位置す。面事務所・普通學校等あり。人口、昭和五年七三六九、同十年一二四四

カキヅレ　柿其峠　木曾川中流右岸、長野縣西筑摩郡讃書村と田立村との境界に跨り、最高點一一一八米。中央線須原驛方面と岐阜縣惠那郡坂下町とを連絡する山道に當る。木曾川東麓より南麓へ廻流す。北方は其御料林たり。

カキツタ　垣津田池　大和國（奈良縣）の歌枕。今の高市郡飛鳥村にその池ありといふも詳かならず。一に之は地名に非ずともいふ。萬葉集童蒙抄に「垣津田は地名にて……大和に青垣山みかきの山と云地名ある其所を云歟。又垣津田の池と云一名の地跡とも聞ゆる也。何れにもあれ地名也」とあり。大和志に「在飛鳥村一名鹿垣池」、又高市郡志料に、飛鳥村大字飛鳥字ミノヤア（里俗天神山と稱す）の東麓にあるもの是れ歟。又の名鹿垣池里俗古池或は大池と呼べり、廣袤六段七畝一歩」と見ゆ。然れども萬葉代匠記には「垣津田とは第十九に和我勢故我垣都能藤爾とよめるは、谷の垣の如く廻りて有る云と聞ゆれば、今も三田屋守が庵を廻れる田を垣津田と云なるべし」とあり、圃ひの中にある田なりと解せり。萬葉・一三、詳論の　日かなる空の　九月の　時雨の降れば　鳴かず　神南備の　清き御田屋の　垣内田の　池の堤の　百足らず　齊槻が枝に　瑞枝さす　秋の赤葉　ままき持つ　小鈴も鎖に　手纏女に　吾はあれども　引攀ぢて　枝もとをなに　うち手折り　吾は持て行く　君が插頭に

カキツタニ　家内谷　→家内谷

カキノ　柿野町　三重縣伊勢國飯南郡の中部。松阪市の西約一八粁、東は大石村に隣り、東南部は櫛田川を隔てて多氣郡五ヶ谷村に對し、南は粥見村・宮前村に接し、西は一志郡多氣村に、北は同郡宇氣郷村と界す。紀伊山脈の東北部に當る高見山脈の東端部にて南境には局ゲ岳（一〇二八米）、北境には白猪山（八二〇米）の山嶺連亙し殆んど山地をなす。たゞ東南部の櫛田川に沿ふ斜面に平坦の地ありて田畑拓く。林產に木材・薪炭、農產に米・麥・茶あり。養蠶行はれ製絲業また精榮ゆ。和歌山街道櫛田川に沿ひて通じ松阪市へはバスの便あり、また松阪電鐵大石驛に遠からず交通比較的不便ならず。此地は古くより和歌山街道の要衝に當る山驛にして漸次發達せるもの。明治二十二年町村制實施の際、上仁柿・下仁柿・横野・深野の舊四箇村を合併し、各一字を採りて柿野村を建つ。大正十三年町制を布く。

カキノウラ　螺浦島　長崎縣西彼杵郡にある島。崎戸町に屬す。西彼杵半島の北端西方に横ほる大島の南方にあり。

大島との間に中戸瀬戸あり、西南は崎戸島に對す。地質は肥前松島炭田を含む西彼粁層群の叔ノ浦累層の上層、大島累層の下層に當る鯛ノ浦累層發達す。累層の下部は中粒綠灰白色砂岩にして礫岩層を挾在することあり。上部は淡綠又は濃綠色砂岩及び淡綠中粒又は粗粒にて慣層に富む雲母砂岩、稀に薄き礫岩を挾む。中部に具化石層發達す。層の厚さ五〇—八〇米。島の西岸は屈曲に富みその西部に鯛ノ浦の聚落あり好錨地をなす。

カキノキ　柿木村　島根縣石見國鹿足郡の西南隅。津和野町の東に隣り、北は日原村に、西南は山口縣阿武郡慈佐村及び同縣佐波郡楠野村に接し、南は山口縣都濃郡鹿野村と界す。南北約二一粁、東西約一一粁、面積約一三七方粁、本縣に於ける面積最も大なる山村。村の東南部に鈴ノ大谷山(一一〇三六米)蟠り西南の蔚ヶ嶽(一一〇〇四米)の山嶺北に延び、南部山地に發源する椛谷川山間の渓流を合せて北流し、村の北部にて西北流し來る吉賀川に合し更に北に流れ日原村に入り、各川沿ひに僅に低地ありて田畑拓け、米・繭を產し他に木材・新炭を出し、なほ山地の渓流を利用し麥の栽培行はる。省線山口線の津和野驛及び日原驛に最も便よく日原驛より麻里布町に至る省營自動車岩日線東北部を捉め特合所十ヶ所を設け、また津和野町より廣島市に至る街道北部を東西に走り交通比較的便なり。

此地は和名抄美濃郡大農郷に屬せしかといふも詳かならず、のち吉柯莊に屬す。

カギノタチ　鎹刀　出羽國(羽後、秋田縣)の古地名。和名抄山本郡に鎹刀郷あり、其地今の仙北郡角館町に當る。カギノヌチがカタノダチとなりカタダチとなりしものならん。一に長野町・清水村の邊に當るともいふ。

カキノミノノ　柿之御園　滋賀縣神崎郡東部愛知川の中流左岸の舊地名。和名抄の高屋郷の地に當る。名稱は文德天皇の皇子惟喬親王の幽棲地に因むと云ひ傳へ、數村に分れ居りしが今は合して御園村と稱す。

カキハミクルス　攪食栗林　また攪食栗栖にも作り、大和(奈良縣)忍海郡の古地名。書紀履中紀の初に地名見ゆ攪食は飼ち寮に同じく、栗林は忍海郡栗栖郷の地にして今の柳原に當るといひ共に今南葛城郡忍海村の中にあり。

カキミ　垣見　近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄神埼郡に垣見郷あり、その地今の神崎郡八幡村・栗見村・五峰村等に當る。八幡村大字垣見は郷の遺稱なるべし。八幡村に種村・神郷・長勝寺・體光寺・阿彌陀堂の大字あれば古は觀山山門の寺領なりしと。

カキヤ　加木屋　愛知縣知多郡にあり上村。明治三十九年本村は太田村・高横須賀村・養父村及び横須賀町と共に敷ぜられ新に横須賀町を置く。

カキヤマ　柿山村　大分縣下毛郡にありし村。昭和三年四月廢して諫耶馬溪村を建つ。

ガギュー　臥牛山　北海道函館市の南郊にある函館山の別稱。函館半島の南端に聳立する御殿山・藥師山・立待山の三峰相倚りてその形臥牛に似たるを以て此名出づといふ。

カキョー　化京面　平安北道江界郡に屬する面。郡管内十八面中の一。郡の西南端に位置し、東は立館面、北は前川、西は渭原郡の崇正面・楚山郡の古面、南は慈川郡の北面に各相隣接す。頗る廣大なる地域を擁し道中稀に見る大郡にして南北三〇粁、東西四五粁に達す。地勢は蓋馬熔岩臺地の西緣に位置し周緣峻嶮により圍繞す。卽ち、南境には高峻峻嶮々たる白山(一八七五米)を始め、頭臺山(一四五二米)・武双峰(一二四一米)・甑峰(一二五五米)等相連なり、東は廣之嚴山(一六四三米)松德山・(一一三四米)等聳立し、北は虎岩山(一二二一米)蓬田山(一一二八五米)等、西境を劃するものに白嚴山(一八二九米)・崇積山(一九九四米)・三峯山(一五八二米・大嚴山(一五六六米)等ありて高峻を極め之等周緣山地に發源せる諸谷流は中部に於て合流して化京川となり嵌入蛇曲の標式的流路を成し沿岸に河岸段丘を形成東北流し後禿善江に合す。耕地は段丘及び山麓の緩傾斜地を開拓して粟・馬鈴薯を栽培し白山北麓・頭臺峰の麓には火田民ありて燕麥を耕作す。森林に富めども交通不便のため林業未だ遑まず。面邑古仁は面の略中央化京川の左岸に位置し、面事務所・巡察官駐在所、一・六の日に開市さるる市あり。西方二粁碧嶺山の中腹に金を產し銀も併せて產す。人口、昭和五年一二七五七、同十年一三七四九。

カギリ　限山　上總國(千葉縣)の歌枕。其の所在に就ては諸說あり、村上忠順の名所案には、上總國長柄郡にありとす。長柄郡は明治二十九年埴生郡と合して長生郡を成せし故に、名所案に從へば、今の長生郡內なり。然るに上總町村誌には、夷隅郡老川村の大字筒森の東南方の一峯なりといひ、傳によれば往昔弘文天皇の皇后十市皇女、羣を望陀郡(今の君津郡)に遣れさせ給ひ、再び幾重の山を越えて、筒森の地に行啓し給ひ、望親すればなほ前面に山峰多く時に皇后疾を發し遂むべからず、遽じて限山と宣ひ終に此處に崩御あらせらる。よつて里人詞を建て筒森神社(一に御筒大明神)に祀ると。又一說に鮒山の別名を限山と稱すといへば或は鮒山の邊か。憤中「わかためにうき事みえはは世の中にいまはかぎりの山にいりなむ」

カキロマ　佳奇呂麻島　↓加計呂麻島

カキン　可金面　忠淸北道忠州郡に屬する面。郡管內十三面中の一。郡の中央より稍〻東南に位置し郡邑忠州の北西五粁にあり。東・北の二面は漢江の蛇曲部によつて東は忠州・金加・眞政の三面、北は蘇湖の諸面に各相對し、西は仰城・老隆・周德、南は利榥の諸面と相隣接す。地勢は南北に狹長なる地域を擁し、西・南兩境は寶蓮山(七〇四米)の餘脈東南に延びて江岸を抜く三〇〇米前後の頗る緩傾斜の丘陵ありて漸次江岸に向つて低夷し中部より東北部に亙り稍〻廣き平地を見、又河成丘陵の見事な發達を見る。地味概して肥沃にして米・麥・大豆・煙草・綿花・大麻等を產し、殊に煙草は米國種の黃色煙草の栽培盛んにして、爲に農家一般に富裕なり。面邑可興は面の北部に偏在すれども牧溪を經て道州に通ずる二等道路には乘合自動車の便あり。又此地を中心として面內は勿論隣接各面へも道路網放射狀に通じ交通便なり。人口、昭和五年五〇五三、同十年五四九七。

カク　賀來村　大分縣豐後國大分郡の中部。東北部は大分市の西南部に接し東南より南は大分川を隔てて植田村に對し西は阿南村、北は由布川村に隣る。面積七・九四方粁、中部は臺地性の丘陵なるも東部と東部大分川邊は低平にて田畑拓け米・麥その他の農產あり。省線久大線河邊平地と臺地の境に沿ひて通じ、賀來驛(大正四年設置)を置き、また大分市に隣接するを以て交通便利なり。古くは和名抄大分郡荏隈郷の內に屬す。中世の賀來郷。豐後遺事に祚原八幡(大分市)神主の賀來氏を稱せる由見ゆれば、蓋し其神領二百四十六町と云ふも賀來郷內に散在せしものならん。人類學會雜誌に錄れば村內に四十八塚と稱する古墳散在す。其一塚を發掘せしに塚穴造にて石郭中に石棺ありて朱を盛り、三尸體の骨骸を個へ、また銅鏡・金環玉等を多く出土すと。

〔國分寺〕　大字國分にあり。天台宗。醫王山と號し聖武天皇の勅願による一國一寺の一。當時壯大なる七堂伽藍を構へしが、のち衰頹す。天正十五年兵火に罹り燒亡しのち玉藏房圓海之を再興す。元祿十二年圓慶再中興す。木造藥師如來座像は行基の作と稱すれど鎌倉時代の作と推せらる。〔豐後國分寺址〕指定史蹟。大字國分の國分寺境內にあり。金堂址及び塔址の礎石存するも金堂址に元祿七年に建てられし藥師堂あり。土壇は殆んど破壞せられて僅に一部分を殘存するのみなるも、堂の向拜柱礎石、同堂の北側及び南側に存する礎石中には柱受の造出あるものあり。塔址はこの西にありて土壇を存し礎石上に享保九年の建立に係る觀音堂あり、今その床に心礎現存す。金堂址の北方、水田中に講堂址の殘礎とも認むべき礎石四あり。また寺域內より屬々出土せる奈良朝時代の樣式を示せる蓮華紋の巴瓦及び唐草瓦は今寺に藏せらる。

カグ　香具山・香久山　↓天香久山

ガク　學　德島縣(阿波國)麻植郡學島村の大字。德島本線の一驛(明治三十二年設置)あり。

カクイ　角井村　滋賀縣近江國愛知郡の中部。彦根市の南約一五粁。東より南は東小椋村・高野村・西小椋村に西は豐椋村に、西より北は東押立村・秦川村に夾〻隣り、東北は犬上郡に隣る。西部僅少の地は所謂近江平野の一部に位し地低平にして耕地拓くも、東部一帶は山地にして林野多し。主生業は農業にして、これを戶數別に見れば農業(自作二三三戶、自作兼小作二〇〇戶、小作一〇七戶)計五七〇戶、商業二五戶、工業二七戶、其他二八戶となる。主產物は米・麥・木材・薪炭・竹材にして其他柿・西瓜・松茸等の特產あり。殊に西瓜は其年產額一萬圓に及び角井西瓜の名を以て著名なり。往古のこと傳ふるなしと雖も、地に推古天皇の創建立せしと傳ふ古刹百濟寺あり、以て開發の古きを想ふべし。和名抄に愛智郡愛父郷とあるは或は本村の邊に當るものか。古くは百濟寺領・延曆寺領・日吉社領の三に分れ、明治以後も戶長役場に分立せしが、明治二十二年、市ヶ原・平尾・大覺寺・岡・上中野・百濟寺・下中野・大萩・池之尻を合併し村制施行、役場を市ヶ原に置く。村名は市ヶ原より大萩を經て東小椋村君ヶ畑方面に通ずる岳井峠の岳を角に代へ角井と改めしものとす。〔百濟寺〕大字百濟寺に在り。初め推古天皇の法興元年聖德太子の御願にて百濟國館雲寺の規模に則り大和國に創建せられたる大安寺を針明天皇の御世に此地に移し百濟大寺と改めたるもの。當時百五十六町五段の寺領を有し寺勢强大なりしが、延曆寺の盛時に天台宗に屬す。其後屢〻火災に罹り、殊に當寺が天正元年蒲江城を後援したる故を以て全山織田信長に燒かれて灰燼に歸し、江戶時代以後數回に亙り復興試みられしも舊觀を復するに至らず。明治以後は更に退轉し僅かに本堂の外岩本坊・一乘坊等を存するに過ぎず。寺寶頗る多く就中國寶に指定されしものに紺紙金泥妙法蓮華經入黑漆蒔繪函(鍍金飾金具付)・絹本着色日吉山王神像(以上鎌倉末期作)・渡金唐草浮模樣銅磬・孔雀機樣銅磬(以上鎌倉末期作)・鍍金唐草浮模樣銅磬・孔雀機樣銅磬あり。〔大覺寺〕大字大覺寺(觀音山)にあり。天台宗。行基菩薩の草創たり。往昔は瓦刹たりしが、今僅に觀音堂ほか二坊を存す。近江順禮三十三所第十七番の札所。

カクイ　鹿咋　鹿久井

【鹿咋山】　播磨國賀毛郡にありし山の名。風土記に應神天皇出獵の際此山に於て舌を咋へし白鹿に出會ひ給へり故に名づくとあり。播磨風土記・賀毛郡・餝(參)布里□所以號餝布者、此村在ノ井、一女汲、水卽被吸沒、號曰餝布、鹿咋山□布所以號鹿咋者、品太天皇(應神)狩行之時、白橫(鹿カ)咋己舌、遇於此山、故曰鹿咋山」鹿咋山の位置詳かならざるも餝布里は今の吸谷にして粟原縣

加西郡富田村の大字名たり。鹿咋山は恐らくは此附近なるべし。

【鹿久居島・鹿咋島】 岡山縣和氣郡東南の島。西南部は日生町に、東部は福河村に分屬す。東西約六粁、南北約二粁。中國本土との間に狹長なる淺き水道を挾み西南海上には曾島・鴻島・頭島・大多府島等の小島散點す。約二百米の低山性丘陵連亙しその邊緣海波に洗はれ處々に海崖を現す。

カクイチ　鶴一面　朝鮮江原道通川郡の中部。西は咸鏡南道安邊郡に境し、北は歙谷面に南は路鏡面・順巒面及び張陽郡に夫々接し、東は海に面す。西部道境に黃龍山(一二六五米)の高山連立し、その山脚東に緩傾斜し、東部沿岸は一帯に低平にして耕地拓く。西部山麓に發源せる小流面の北部を東流して、灌漑に便す。海岸線に沿ひて二等道路ほぼ南北に走り、これより分岐せる等外道路面の中部を西南に走る。

カクガン　閑岩　滿鮮本線の一驛(昭和七年設置)。朝鮮平安南道順川郡內南面にあり。

カクキョー　鶴橋面　朝鮮全羅南道咸平郡の南部。咸平面の東に隣り、西北は平陵面・大洞面に、西は嚴多面に、東は羅州郡文平面・多侍面と界す。二〇〇米內外の丘陵南北に連亙し南境を榮山江東西に貫流し、西部に低地あり地味肥沃農耕に適す。總督府線湖南本線中央を略〻東西に通じ郭山驛(明治四十一年設置)を置きまた之と並行に道路通じ交通便なり。いま南鎬洞・造山洞・石洞・鹽湖洞の四洞よりなる。

カクサン　鶴山

【鶴山面】 朝鮮忠淸北道永同郡の西南部。西より南は全羅北道に境し、東は龍化面に北は陽山面に夫〻隣接す。東北部鈴山里附近に小低地を見る外は、概ね山地を成し林野多し。二等道路南方全羅北道茂朱郡より來り面の東部を過ぎりて東北方永同面に通じ、また三等道路鈴山里より分岐し西北方に走る。いま池內・鳳山・鳳留・鶴山・鈴山・鷲岩・磚陽の七里を置く。

【鶴山面】 朝鮮全羅南道雲岩郡の一驛(大正八年設置)。朝鮮慶尙北道迎日郡浦項面にあり。

ガクシマ　學島村　德島縣阿波國麻植郡の北部。東の川島町、西の山瀨町に挾まれ、南は東山村に隣り、北は阿波郡市場町・久勝村と界す。南境に四國山脈の前山東西に連亙し北に急斜し、北部は德島平野の一部に當り其低地の中央を吉野川東に流れ、吉野川の南岸に河成段丘發達し桑落亦ここに發達す。主生業は農業にて米・麥を產するも桑園廣く養蠶最も盛に行はる。省線德島本線山麓に沿ひ東西に通じて學驛(明治三十二年設置)を置き、之と並行に德島街道走りバスの便あり。此地は和名抄、麻植郡忌部郷の地。中世は忌部庄に屬す。村名は大字學・見島・三ツ島に因むといふ。

カクジョー　鶴上面　朝鮮咸鏡北道城津郡の中部。鶴中面の西に隣り北は鶴西面に南は鶴城面に接し西は咸鏡南道端川郡南斗日面と界す。西北境の龍淵山(一五九八米)の山嶺西境に連亙し、山地東に下り、臨溟川の支流山地を開析し流域に低地ありて米・麥・大豆・玉蜀黍を產す。總督府線咸鏡本線東部を南北に通じ農城驛(大正十三年設置)を置き、また城津に至る一等道路東南部を掠め之に結ぶ二條の道路略〻東西に通じ交通便なり。松興洞に溫泉湧出し溫泉聚落をなす。いま城峴洞・玉泉洞・龍泉洞・湖通洞・湖陽洞・松興洞・王德洞・興坪洞・楊湖洞・水使洞・上坪洞よりなる。

カクジョー　鶴城

【鶴城面】 朝鮮咸鏡北道城津郡の南部。北は鶴上面、南は鶴南面に隣り、西北部に城津を包み、西部は咸鏡南道端川郡南斗日面・廣泉面と境し、西は海に臨む。西境に聳ゆる摩天嶺の山脚東に下り其麓直に海に迫り平地に乏しく僅に畑作あり、總督府線咸鏡本線海岸に沿うて雙龍驛(大正十三年設置)を置き、城津より廣泉面に至る一等道路略中央を東西に通ず。いま將峴洞・逵利洞・龍沼洞・松岩洞・雙潭洞・錦川洞・恩湖洞・晩春洞よりなる。

【鶴城面】 朝鮮咸鏡南道安邊郡の北部。元山府の東南約一四粁。東は江原道通川郡に境し、南は新茅面に西は文化面・培花面に北は安道面に夫〻隣接す。東部國境に黃龍山(一二六八米)峙ち、東部一帶は地高峻なるも、西部は南大川南北に緩流し其沿岸に低平なる沃野開く。三等道路及び等外道路四方に通じ、交通不便ならず。いま門內・紅門・上花山・玉・飛雲・果南・中花山・鶴城・美峴・盤田・下花山・斗得・門外・永岑・外石橋・塔・郭下・松鶴・內石橋の十九里を置く。

カクセー　各西港　↓岡墾港

カクセー　鶴西面　朝鮮咸鏡北道城津郡の北部。南は鶴中・鶴上の二面に隣り、東北は吉州郡德山面・長日面に、西は咸鏡南道端川郡北斗日面・南斗日面と界す。西境に德海山(一五〇六米)・龍淵山(一五九八米)の山嶺連亙しその山脚東南に延び東南境に雪峰山(六五八米)聳立す。德滿山の東南斜面に發する臨溟川中央を東南に流れ沿岸に僅に低地あり、米・粟・大豆等を產し城津鏡山より黑鉛を出す。總督府線咸鏡本線東部を掠め業億・院平(共に大正十三年設置)二驛を置き、又二等道路臨溟川沿ひに東南より西北に走り交通便なり。溫泉洞に溫泉あり。今青鶴洞・新興洞・水之洞・細川洞・業億洞・德仁洞・院月洞・塔坪洞よりなる。

カクセン　格仙島　間東州廣鹿島會の一屬島。裏長山列島の一にて廣鹿島の東北約六粁に浮び其間に瓜皮島を挾む。長さ三粁餘幅廣き處も一粁に滿たず、東部中部西北部は丘陵、その中間に小低地ありて格仙島屯をなす。※廣鹿島會

カクセン　鶴泉

【鶴泉面】 朝鮮咸鏡南道洪原郡の西部。咸興府の東北約二〇粁。東は州翼面に南は龍雲面に北は希賢面に夫〻隣り、西は新興郡及び咸州郡に境す。西南部に鵝峰(七二二米)聳え、西部は概ね丘陵地を成すも東部は稍〻低平にして耕地拓く。小流低地を南流して溫泉に便す。等外道路東部から南北に走る。いま豐浦・豐澤・孝達・銀杏・南豐・宮南・豐湖・鶴山・豐山・新上・新陽・中上・豐洞・山陽・豐陽・中陽・鶴洞・南坪・龍陵・壯南・豐西・壯洞・車上・新興の二十四里を置く。

【鶴泉面】 朝鮮平安南道孟山郡の南部。元南面の西南に隣り、西北は封仁面に東南は陽德郡化村・上龍・下龍の三面に、西南は成川郡雙龍面と各隣接す。四方に山地を繞らし中央に僅に盆地狀の低地あり粟・大豆等を產す。化村面より封仁面に至る道路略〻東西に通じ之と召倉里にて分れ雙龍面に至る道路あるも、險路ある を以て交通便ならず。いま召下里・五峯里・召倉里・咸朴里・遠井里・古上里・古下里・加里の八里よりなる。

カクダ　角田

【角田村】 北海道石狩國夕張郡の西北部。空知支廳管內。夕張町の西に隣り西南は由仁村に、北は空知郡栗澤村と界す。東境に雨鶏山(五〇九米)を主峯とする三—四〇〇米の山嶺南北に連り西に下り、之等山地に發する阿野呂川・ウエンペツ川等山地を開析して西南に流れ西境を北西に流るる夕張川に入り、その流域に低地ありて耕地拓け、米を始め馬鈴薯・大豆等の農產を主とし製麻・製繭の產も少からず、また石炭の產出多く夕張炭礦の一坑をなす。省線室蘭本線西北部夕張川沿ひに南北に通じ栗山驛(明治二十六年設置)を置き更にこの驛にて社線夕張鐵道に接続し夕張鐵道に角田・鰍立(共に大正十五年設置)の二驛を設く。また北方岩見澤町に至る街道西北部低地を通じ交通便なり。角田・栗山の聚落は阿野呂川ウエンペツ川の夕張川との合流點に發達する溪口聚落にして栗山は更に省線に沿ひ交通の要衝を占め、實科高等女學校あり。村名は仙臺領角田邑の人始めて此地に移住せしに起るといふ。いま角田・栗山の二大字よりなり角田に役場を置く。

【角田(縣)】 明治の初め磐城國に置きし縣。明治二年八月刈田郡白石に置きし白石縣廢を同年十一月に伊具郡角田に移し角田縣と改む、明治四年十一月これを廢し陸前國宮城郡仙臺に置きし仙臺縣に併す。翌五年正月仙臺縣は宮城縣と改稱す。

【角田町】 宮城縣磐城國伊具郡の北部。角田盆地の中央、阿武隈川の左岸に位し右岸は藤尾・枝野の兩村に相對し、南は館矢間村、北は櫻・北郷村と境し、西は僅かに斗蔵山の末端が臥牛城附近に及ぶ。道路は南に染川・丸森街道、中村街道あり、西方に丸森・白石街道通じ、東は北郷村江尻より東根村を經て亘理に達し、又金澤を經、明道峠を越えて亘理郡山下村へ通じ、西は北郷を經て船岡大河原へ道路開けり。刈田郡白石町よりの省營バス白中線の通路に當り又船岡よりもバスを通じ、東北本線或は常磐線に連絡し近時頓に交通の便を加ふ。本町は半商半農にして米・麥を產し、又蠶業も旺んにして酒の產額多し。農產に次で工產も又盛から寸林產を加へて總計年額約九四萬圓を擧ぐ。往古アイヌの居住せし所なり。有史時代に入りて樓官府の置かれし頃は豐烏命の統督下にあり、王朝時代は武隈多賀の國府下となる。降つて一七〇六年後冷泉天皇の永承時代は伊具十郎永衡の居館所領となり、一九九四年後醍醐天皇の建武の頃は樓官府吉野館の兩朝の勢力下に置かれ伊達彈正宗遠の邑地となる。紀元一九九六年後奈良天皇の永祿年間には伊達植宗がこの地に移動して來たりし時、植宗公の臣田手助三郎時實が臥牛館に居住せり。斗蔵山に鉢銘を寄進したるは實に田手氏にして、其の後數代は田手氏の居領せる所なりしも、二二三五年正親町天皇の天正の頃、田手宗光は相馬氏と通じて伊達氏に叛き天正十三年亡ぼされしため天正十四年より四年間、伊達成實が角田外十五邑村の邑主となり臥牛館主として此地に居す。二二五一年慶長三年石川大和昭光は松山千石村の邑より此地に移封、八千石の領主となりし以來連綿十二氏邦光公の明治維新に及ぶ。維新後廢藩置縣に及びて白石縣の支配となり、後變遷多く明治二年角田縣が臥牛館に設けらるるに及びて郡長鄕村長がおかれ郡役所及郡戶役場の設置を見、明治七年郡は大區、鄕村は小區と改稱されしも間もなく角田縣は仙臺縣となり、後宮城縣となる。同九年に磐前縣に編入され同

年再び宮城縣の所轄となり、同十二年郡區は更生されて伊具、亘理郡役所と改稱され、同十七年郡制實施と共に本郡は獨立郡となり當郡に戸長役場を置く。明治二十二年町制實施と共に角田・横倉・豊室等合併せられ角田町となり、昭和三年小田を併合して現在の大角田町となる。

【角田村】 新潟縣越後國西蒲原郡の西北海岸。東南は赤塚村・松野尾村に隣り南は浦潟村と界し、西北は日本海に臨む。南部に角田山(長者原山、四八二米)が屹立しこの北東に海岸砂丘連亙し、砂丘上に畑地拓け半農半漁の村落をなす。省線越後線の越後曽根驛(鎧郷村地内)に最も近く縣道赤之に通じ交通便なり。いま越前潟・角田潟・四ツ郷潟の三大字よりなる。〔紳光寺〕日蓮宗。正和二年僧日印の開創。地は日蓮が佐渡配流の途、漂著せる所と云ふ。薬原寺の舊稱。〔願正寺〕大字角田潟にあり。眞宗本願寺派。乙姑山と號しもと岩穴の前にあり、天台宗に屬せしが後眞宗の道場となる。

【角田山】 越後山脈彌彦火山群に屬する一峯にして、新潟縣三條市の西北方約二〇粁に位す。西蒲原郡角田・峰岡・浦潟の三村境界に峙ち、標高四八二米。輝石安山岩より成る。高からざれども日本海岸より二粁の地に位し、附近航海者の好目標たり。山頂に長者ヶ原あり、故に一名長者ヶ原山とも云ふ。西麓は角田岬に至りて海に没す。西南方は五ヶ峰を經て冬寶山(六三四米)に連なる。北麓には日蓮上人の舊蹟、紳光寺あり。義經記・七「米山を過ぎてかくた山を見つけて、あれ見給へや風はいまだ荒し風扇くならば縊を添へて押せやとぞ申ける云々」

カクタイイ 角帶圍 かくたいい ↓靜軍庄(臺灣臺南州北門郡)

カクダテ 角館町 秋田縣羽後國仙北郡の北部。正しくはカタダテなるも省線生保内線開通し驛名をカタノダテとせしより今兩樣に訓むに至る。↓角館町 かくだてまち

カクチ 角知 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄阿野郡に甲知郷あり、加久知と訓す。其地今の綾歌郡・昭和村・陶村に當る。近世は專ら河内郷と稱し、全讃史によれば府中郷と稱せりと。延喜兵部省式に讃岐國河内、驛馬四疋とあるも此地なり。

カクチュー 鶴中面 かくちゅう 朝鮮咸鏡北道城津郡の東部。鶴東面の西に隣り北は鶴西面に、西南は鶴上面と界し、南部は海に臨む。雪峰山(六六八米)の山脈東境に連亙しその端は半島狀をなして突出し、鶴西面の山中に發する臨溟川は東部山地の麓を繞うて南流し、流域は低地にして地味肥沃、米・麥・大豆・粟等を產しまた魚族の產あり。總督府線咸鏡本線西北部を南北に掠め農城驛(鶴上面地内)に最も近く、一等道路中部を略ゝ東西に通じ又之と臨溟洞にて分るる二等道路臨溟川に沿うて南北に通じ交通便なり。いま臨溟洞・水洞・松上洞・春洞・農城洞・海坪洞・松下洞・松中洞よりなる。

カクチンホ 革鎮堡曾 かくちんぼそう 關東州大連民政署管内の西北部。東は南關嶺會、南は周水子會、西は旅順民政署管内營城子會に隣接し北は金州灣に臨む。西南境に案子山(約三五〇米)ありてその山脚北東に延びて海に没し、南東部に玉山の丘陵あり、その中間は低地をなす。農を主とし高粱・麥・豆等を產す。滿鐵旅順線東南部より西北部に走りて革鎮浦・夏家河子の二驛(昭和六年開業)を設け道路赤南部を東西に通じ交通の便あしからず。

ガクデン 樂田村 がくでん 愛知縣尾張國丹羽郡の東部。一に學傳・額田にも作る。犬山町の東南約五粁。南は東春日井郡に境す。東南部は一帶に丘陵を成すも、西方に緩傾斜し、西部は卽ち東濃平野の東部に位し土地低平耕地拓く。縣道西部を南北に走り、江戸時代名古屋・木曽・伏見間の街道の宿驛たり。いま社線名古屋鐵道大曽根線の追分・樂田(共に昭和六年設置)を置く。主生業は農にして米・麥の產多きも養蚕業また盛んなり。此地は和名抄、丹羽郡小弓郷の内にして、村内に天正十二年豊臣秀吉の據りし樂田城址あり。〔樂田城〕 織田彈正左衛門尉久長築いて住し其後津田下野守信清當城を攻取り其の持城とす。永祿年中信長公信清を追ひ坂井右近政尙をして守らしむ。天正十二年豊臣秀吉、織田信雄と隙あり、徳川家康、信雄を援けて小牧山に陣するや秀吉之に對し樂田に陣す。長久手の戰後、堀秀政をして守らしむ。〔大縣神社〕 字宮山に鎭座。國幣中社。祭神、大縣命。大縣大明神とも稱し、眞清田の一ノ宮に對して二ノ宮とも稱す。徳川時代には尾州藩主徳川家の崇敬篤かりき。垂仁天皇二十七年の創祀といふも、そは慶長頃より稱へ出でたる說にして古傳にあらず。仁明天皇承和十四年十一月從五位下に叙し、文德天皇仁壽元年十一月官社に列せられ、同三年五月從四位下に陞り、清和天皇貞觀元年二月從四位上、同十五年八月正四位下となり、醍醐天皇延喜の制に名神大社に加へらる。其後神位累進し、正一位となる。社領は往古樂田四百八十町を神領としたれども、中頃亂世の爲にその大部分を失ひ、猶幾分を存す。後陽成天皇慶長五年社產若干を寄せられ、後水尾天皇元和八年、徳川義直神領百三十六石五斗一升七合を寄進し、後年二百石となる。社殿の造營は天武天皇朱鳥元年勅して再建のことあり。清和天皇貞觀元年御修理あらせられしも、後柏原天皇永正元年の火災に烏有に歸す。同十五年織田久長再建す。現在の社殿は舊藩主徳川光義の造營なり。明治元年七月縣社に昇格す。同十五年縣社に列し、大正七年十一月國幣中社に昇格す。神社より西約二粁の地に祭神の墳墓と稱せらるる前方後圓の大古墳あり。又本社を距る約一・五粁の所にある本宮山(一名眞宮山)の頂上に奥之宮本宮社あり。大縣社の靈魂を祀り、山麓なる本社に和魂を移し祀りしを以て本宮社と稱すといふ。山麓物語に依つて世に知らる。例祭十月十一日。他に主なる神事、田打祭(舊一月二日)・歌殿祭(三月一日)・御鎭座祭(舊六月十七日)・茅輪神事(舊六月十三日)・八ツ八尾除祭(新舊八月八日)等あり。〔本宮山〕大縣神社の後山にして、一に二宮山或は眞神山ともいへり。海拔七六一米。尾張の峻峰にして、山中に老樹奇巖多し。この山、尾張富士に對して或は大宮士とも稱す。大風嶺はその西南の高峰にして、上に風・雨の二宮を祭る。山腹に誓洞と稱する瓦窯あり南麓に砥鹿神社あり。魂は全く三河國に屬す。〔永泉寺〕臨濟宗妙心寺派。天文元年の草創。開山を泰秀和尙とす。天正年中兵燹に罹り諸堂焼失す。後政秀寺の徹源和尙中興す。

ガクデン 學田 がくでん 臺中線の一驛(昭和七年設置)。臺灣臺中州大屯郡烏日庄所在。

カクトー 加久藤村 かくとう 宮崎縣日向國西諸縣郡の西部。古くは學頭にも作る。土地南北に長く約一八粁、東西は廣き處も四粁内外に過ぎず。東は飯野村・西は真幸村に隣り、南は鹿兒島縣姶良郡の牧岡・栗野・吉松の三村に、北は熊本縣球磨郡藍田村に界す。南半は霧島火山群中の白鳥山(一三六三米)栗野岳(一〇九四米)の北側斜面に屬し、北部は國見火山群の西嶺につゞく國見山(八六一米)百貫山(六九三米)の南面に、いづれも山地をなす。中部はこの兩斜面間の平地にて川内川の上流東西に流れ水田・畑地廣く拓く。省線吉都線平地の南部を横ぎりて加久藤驛(大正元年設置)を置き、道路また熊本縣人吉町より村の北境なる加久藤越を下りて都城市方面に向ひこれより岐れし縣道は吉都線に並行して西し、交通不便ならず。米・麥等の農產を主とし林產と馬牛の畜產また少からず。此地或は和名抄「諸縣郡大田郷の内か。大字小田に加久藤城址あり。その築城年代は詳かならず。永祿年中島津義弘眞幸院に移り飯野城を居城とせる際、家臣川上三河忠智を加久藤の城主として此處に置く元龜三年伊東氏、其將伊東加賀守・伺右衛門尉をして之を攻めしむ。加賀守等夜陰に乘じて來りしが、山伏椿山常陸坊滝慶の居宅の加久藤城に似たるにより誤りて之を擊つ。此間に川上忠智兵を整へ討出でて奮戰數刻遂に敵を走らすと。また大字栗下に一本杉址あり。島津義弘加久藤に在りし時、城中より常に此杉を望みその高秀を愛す。朝鮮役には此杉の形に模擬して馬印を製して一本杉と稱す。今尙ほ島津氏に存すと。文化年間雷火に震壓せられて枯れ今あるは後年補植のもの本村より隣村飯野村に亘りて培養せる海堂の原種繁茂し、本邦唯一の自生地として著名。今海堂自生地として指定天然記念物たり。また本村の一部は霧島國立公園に屬す。

カクトー 鶴東面 かくとう 朝鮮咸鏡北道城津郡の東端。西は鶴中面に隣り東北は吉州郡東海・徳山の二面と界し東南は海に臨む。雪峰山(六五八米)の山脚西境を南部に延び山地東に傾斜し、東境を東南に流るる南大川の流域は低地にして灌漑の便よく農耕に適し米・麥・大豆等を產す。總督府線咸鏡本線の農城驛(鶴上面地内)に出づるに便よく一等道路西境中部の峠嶺峠(一六六米)を越え通ず。いま東興洞・荷川洞・龍浦洞・龍湖洞・城下洞・城上洞・塔下洞・阳洞・防洞・龍岩洞・龍潭洞・石湖洞よりなる。

カクナン 角南面 かくなん 朝鮮慶尙北道清道郡の西南部。東は華岳山(九三二米)を以て慶尙南道密陽郡に境し、東は華陽面・大城面に西は豊角面に北は伊西面に尖〻隣る。北部を小流東西に流れて、其沿岸に小低地ありて耕地拓くる外、他は概れ山地をなし林野多し。等外道路西隣豊角面より來り面の西北部に於て二つに分れ一は北部を東方に、一は中部を南方に走る。いま沙・玉山・咸博・鹿鳴・新堂・七星・日谷・九谷・華・禮里の十洞を置く。

カクナン 鶴南面 かくなん 朝鮮咸鏡北道城津郡の南端。北は鶴城面に隣り西は咸鏡南道端川郡廣泉面・利中面と界し東南は海に臨む。饒潤山(一五九八米)の山嶺南方に延び山地直に海に迫り平地に乏しく僅に大豆・粟・黍等を產し半農半漁の村落をなす。總督府線咸鏡本線海岸に沿うて通じ竟臺驛・晩春驛(昭和六年設置)を置く。いま松亭洞・豊湖洞・梨峠洞・龍潭洞・臺洞・琴山洞・禮洞・日新洞よりなる。

カクノダテ 角館町 かくのだて 秋田縣羽後國仙北郡の略中部。横手盆地の西北端にて雄物川の支流玉川の二上支生保内川と檜木内川の合流點に位す。生保内川の東岸は豊岡村、南岸は豊川村、檜木内川の西岸は雪澤村、中川村なり。東部には大威德山、中部には外ノ山あるもいづれも丘陵にて、その間と檜木内川沿岸に小平地あり。物產に清酒・繭・絹細工・馬・米あり、奏樂祭えて繭を出し、また古くより菅笠・春慶塗の家内工業行はる。大曲・生保内間の角館街道の中心にて、ここより北方米代川流域の鷹ノ巣町方面への大覺野街道分岐す。また省線生保内線南北に走り角館驛(大正十年設置)を置き、交通上の一中心をなす。應永年間戸澤家盛小松山に一城を築き角館城(一に小松城)と稱し町を今の北隣神代村本町に造り北前諸藩に覇を唱へ秋田氏小野寺氏等と相鼎立して大いに武威を張れり。慶長七年戸澤氏常州に轉じ替て佐竹氏封ぜらるるやその旗親芦名盛重を此處に置き一萬五千石を與ふ盛重元和六年角館城を破却し本町より今の地(當時體樂村)に移し拓殖經營以て今日の町を創造せり。軈て水

慶二年芦名氏斷絶するに及び落主義隆公明暦二年北家義陣を置きこの所を司らしめたり。爾來二百年の間子孫相繼いで本町を治めこの間文教の興隆町勢の發展に盡瘁すること少からず特に明和の頃に於て藩内警員の隆昌を見るに至り人物多く輩出し文教の地たる名聲を博するに至れり戊辰の役に際しては擧町よく王事に盡し岩瀬川原の守を全うせるは落政樽尾の誇りとする所なり。明治四年廢藩置縣の結果本町は第五大區第二小區に編入十一年區制を廢し戸長を置き二十二年岩瀬村を併合して角館町を成せり。地積狹少なりと雖も全地區殆ど市街地にして人家稠比し三百年前芦名氏創設當時既に戸數一千餘、人口四千五百餘を算し爾來消長を見ずして廢落に及び明治聖代に至りて漸次發展を見今日の狀態に達せり。いま町内に角館警察署・角館警察署・角館局・角館森林測候所及び縣立角館中學校・縣立角館高等女學校・秋田圖書館分館等あり。名所に古城山（角館城址）・大威德山（戊辰役史跡及びスキー場）、龍泉寺の白枝垂櫻（幹の周圍六米）等見るべきもの少なからず。また町名は古くはカタダテなるも、省線生保内線開通し驛名をカタノダテとせしより、今は兩樣に讀む。〔天寧寺〕曹洞宗。萬松山と號す。初め北會津郡東山村にありしが慶長七年當名氏角館移封の際共に此地に移され當時寺領百石を有せり。

カクバン　角板山　↓角板山

カクブラン——社　來綱臺東麓臺

東郡。大竹高溪の南方蕃地にあり。パイワン族ツクル系統のパカロカロに屬する高砂族部落なり。戸數一二、人口六三蕃稱Qapuhalan なり。

カクベツ　覺鼈・覺鼈城　奈良時代に蝦夷攻伐の爲め陸奥國に築きし城柵續紀寶龜十一年紀に建城の事見ゆ。紀の文意により北上川に沿へる舟行可能の地に近きものの如し。其地は詳かならざるも北上川の浮載は當時今の平泉（陸中）の邊までと思はるるを以て其所在は岩手縣陸中國膽澤郡衣川村大字下衣川の邊に擬せんとす。卽ち後に安倍氏の據れる衣川柵の邊に當るか。

カクホ　鶴浦　圓們線の驛（大正九年設置）。朝鮮咸鏡北道鏡城郡南山面にあり

カクホー　鶴鳳面　朝鮮江原道伊川郡の西南部。西は雪花山（五八一米）等の連山を以て黃海道新溪郡に境し、東は伊川面に南は西面に北は板橋面・山内面に隣る。四方山を以て圍らし臨津江東部を南北に過ぎり、西北部に發源せる小支流東南流してこれに合す。平地は僅に其等沿岸に見るのみにして他は概ね山地にして林野多し。東隣伊川面より來る二等道路面の東部を過ぎりて南隣西面に走り、また伊川面より來る等外道路は面の中部にて分れ一は西北方、一は西南方に走る。いま岡山・統北・公須灘・洪洞・魯洞・星洞・蒿項・墨幕・鶴峯・新坡・銀香亭・鶴項・射庭・大河縣の十四里を置く。

カクホク　角北面　朝鮮慶尙北道清道郡の西北部。大邱府の南約一六粁。東は伊西面に西より南は豐角面に隣り、北は迎城郡に境す。西北部に琵琶山（一〇八四米）峙ち其山脚ほゞ全面に延び面内概ね山地を成し、たゞ南山洞附近に小低地を見るのみ。いま南山・梧山・金川・芝琶・德村・三坪・牛山・明大の八洞を置く。

カクマ　角間

【角間峠】　東方の群馬縣吾妻郡嬬恋村と西方の長野縣小縣郡長村の境界に所在し最高點は一八〇四米なり。北麓は角間山（一九八〇米）に連り、南南方上田市方面より東方の吾妻郡長野原町に通ずる山路に當る。近年このスローブにてスキー練習行はれ、又附近山々のスキー登山試みらる。

【角間山】　小在池山（長野・群馬縣境）の別名。

【角間】　↓穂波村（長野縣下高井郡）

【角間川】　↓鹿角川（長野縣）

カクマ　鹿角川　長野縣信濃國北佐久郡にある千曲川の支流。一に角間川にも作る。春日村の南部、聖科山の北麓に發源して北流し、西方鳩和村より來る小流を左岸に入れて更に北流し、北御牧村の北、小縣郡との境上にて本流に合す。流程約二十五粁。沿岸概ね峡谷を成し、たゞ春日村の北部及び北御牧村の南部邊に小低地を見るのみ。

カクマガワ　角間川町　秋田縣羽後國平鹿郡の北東端。横手町の西北約一〇粁、仙北郡大曲町の南約四粁、雄物川と支流旭川の合流點に位す。横手盆地の略中央に當り、曾ては一大湖底たりしものの如く、湖中に堆積生成せる物質よりなり泥炭層を有す。古く澄酒鯛よく發達し水田多く、米を第一とし泥炭及び清酒を產す。永慶軍記に河隈川といひ、雪の羽後路にも之をひき、郡邑記には百九十一軒とあり羽後河港として益ゝ繁榮を極めしが鐵道開通後は振はずなれり。現在倚發蔵七棟大納屋址等殘存す。明治戊辰の役奥羽諸藩の盟主仙臺藩の軍この地に侵入し八月十三日之を攻略す。此日書を以て盛岡藩の出兵を促す。其略に曰く「昨一擧して横手を拔けり、將に進みて角館を居らんとす、貴藩速に角館の背後生保内を衝け」と。其勢に流石の佐竹勢も惣潰れとなりて退却せしため角間川に築けたる船橋破損し兵士の大半は溺死せりといふ。明治二十二年村制施行、同二十九年町制を布く。〔淨蓮寺〕淨土宗。寛永年間草創すと傳ふ。紺本著色當麻曼荼羅圖一幅は鎌倉末期製作の淨土變相の一例にして巧緻を極め現に國寶たり。

カクム　額部　↓額部（長門國）

カクモダニ　角茂谷　高知縣長岡郡天坪村の大字。土讃線の一驛（昭和五年設置）を置く。

ガクヤシンミチ　樂屋新道　江戸の町名。日本橋葺屋町堺町の西北裏通に當りし横町、市村座・中村座の樂屋口にあたりし故の名稱、現今岩代町。古契三題「樂屋新道を通りては、見たきものといへる清女のことのはを思ひあたる」柳樽「樂屋新道若後家の目立つとこ」

カクヤマ　香久山　愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年向山村、岩崎村と共に廢し其區域を以て日進村を置く。

カグヤマ　香久山村　奈良縣大和國磯城郡の西部。櫻井町と畝傍町との中間に位し、北は耳成・大福二村に、東は安倍村に隣り南より西は高市郡鴨公村に界す。大和盆地の南東部に當り土地概ね平坦、たゞ南部に西の畝傍北の耳成の二山と肩立して大和の三山とよばるる天香久山（一四八米）の聳立するあり。面積僅に三・九五方粁なるも田畑よく拓く。農産に米・麥多くまた繭を出し、賈藥製造行はる。省線櫻井線の香久山驛（大正二年設置）あり、また道路は上・中兩街道に繫がり交通の便よし。和名抄に十市郡池上郷とある地に屬す。香久山は歌枕として古來名高し。一に天香久山と云ひ大和三山の一なり。標高僅に一四八米に過ぎざるも大和平野展望の好位地にあり、古くより名山として著はる。古風土記逸文に「香山、天上有山分墜地、一片伊豫國之天山、一片大和國香山」とあるものこれなり。山頂を天の揖と稱し、其麓には埴安池あり、いま大字南浦に僅に其址を存す。神武天皇御東征の時神歌により、椎根津彥・弟猾等をして此山の埴土を採りて平瓮・手抴・嚴瓮を造らしめ、天皇親ら嚴呪詛（呪詛）みなし給ひ、皇徒を平定せらる。神武天皇の土を取り給ひし所は、山の北麓大字南浦なる天香山神社のある地なりと傳ふ。萬葉卷一に「春過きて夏來るらし白妙の衣ほしたり天の香具山」とあるは持統天皇の藤原宮にて此山を詠み給ひし御製なり。考別記に「やまとの國は山々四方にのみ廻り立て、國の中は平かなるに、香山、耳成山、畝火山の三つのみ各獨り立て、其あはひ各一里ばかりづつ有て、物の三つ足有が如し、藤原の宮所は此三の山の中にて、香山へよりしなり、さて畝火は高く、耳成はそれに次、香山は中に低かれど、形は富士の山をちいさく作れる如して、古へは西方の麓廣く木繁しつづきて、萬づたちひてうるはしかりければ、取よろふ天の香具山とはよみましゝなり、さて此山の畝尾は西へも引、ことに東へは長く曳渡りけん、今は其畝尾の形いさゝか殘れるが、其畝の本につきて二町四方ばかりの地あり、是ぞ古への埴安の池ののこれるなり、被池より八町ばかり東北に、池尻村、池内村でふ里今有は、古へ此池の大きなりし事しるべし」と云へり。〔畝尾坐健土安神社〕字下八釣に鎭座。村社。祭神、健土安比賣命・天兒屋根命。神武天皇の敕へにより、この社中の土を取り、平瓮・嚴瓮を造りて天神地祇を祭り、八十梟帥を平伏し給うたといふ。聖武天皇天平二年、神戸租稻九十束を以て祭神料に充て奉り、淸和天皇貞觀元年正月、從五位下より從五位上を授け、醍醐天皇延喜の制大社に列し、新年・月次・新嘗の案上幣帛に預かる。式內大社。例祭、九月二日。〔畝尾都多本神社〕大字宮之脇に鎭座。村社。祭神、嗜澤女命。初め伊非諸豫その妃神の神去りましし時、哭泣流涕し給うた淚が墮ちて神と化す。畝丘樹下に座すところの神、卽ち嗜澤女命なりといふ。また此地を哭澤杜といふ。萬葉集に「哭澤の神社に三輪すゑいのれどもわが大君の高日知られぬ」とありて著名なり。式內社。例祭、八月二十六日。〔天香山坐櫛眞知命神社〕大字南浦に鎭座。村社。祭神、櫛眞知命。式內大社。通稱、天香山社。例祭、九月二十四日。〔妙法寺〕大字池尻にあり。新義眞言宗豐山派。御厨子山と號し天平七年聖武天皇の勅を奉じて善覺の開創する所なりといふ。德川時代寺領百五十九石を附されたり。本尊本造十一面觀音は蜘蛛觀音と俗稱す。寺域は大和三山に圍繞せらるる景勝の地たり。〔埴安池〕大字南浦に僅にその後を存す。萬葉・二「はにやすの池の堤の隱沼の行方を知らに舍人は惑ふ　柿本人麿」〔日向寺〕大字南浦にあり。淨土宗。本尊阿彌陀如來。聖德太子、大日堂及び塔を建立せしものと傳ふ。近年まで塔の礎石を存す。〔興善寺〕新義眞言宗豐山派。もと香山寺文殊院と號す。草創年代不詳。中興開山は陳俊上人たり。往昔寺域方三町に亘り坊舍五、寺領三十石、豐臣秀吉以下三代の朱印ありしが、維新の際いづれも廢滅し、明治十三年一字を再興す。本尊安阿彌作文殊菩薩は國寶たり。〔惠蓮寺〕大字吉備にあり。淨土宗。もと心樂寺と號す。行基菩薩勅を奉じて、觀音堂を建立す。之當寺の禮佛とす。爾來星霜を經るに從ひ荒廢せしが、東大寺の明詮僧都再興して萬願寺と改稱す。其後火災に罹り中絶せしが、文祿二年圓覺崇榮三度び之を建立す。本尊大日如來。

ガクヨー　岳陽面　朝鮮慶尙南道河東郡の西部。北より東は青陵面・赤良面に南は河東面に西北は花開面に夫ゝ隣り西南は全羅南道に境す。西南部に小低地あるのみ、他は概ね山地なり。三蕃道路面の中央を南北に通ずる外交通の便なし。いま美店・丑只・新垈・新星・新興・中大・東梅・登村・梅溪・亭東・亭西・立石・鳳臺・平沙の十四里を置き、面事務所を亭東里に置く。

カクラ　神藏山　紀伊國（和歌山縣）牟婁郡の歌枕。今其の所在詳かならず。歌より推せば今の西牟婁郡の海邊熊野浦にありしものなるべし。續古今集「みくま野の神くら山の石たたみのほりはてても猶いのるかな　大政大臣」

カグラ　神樂
【神樂村】北海道石狩國上川郡の西部。上川支廳管内。旭川市の南に隣り東北は東旭川村・東川村に、西北は神居村に西は空知郡盧別村に、南は美瑛村と界す。西部に增達臺山（八五九米）・丸子山（八九六米）・神樂岳（五八三米）・神樂山（四九三米）の諸峯連り、東にも坊子山（四一九米）・陽明山（三五八米）・坊主山（三六六米）東西に逶迤し、その山麓神樂岡となりて西北方に延び、東西兩山地間を美瑛村の山地に發する美瑛川西北に流れ、俠長なる低地ん作りまた北邊を忠別川西北流しその流域に低地ありて田畑拓け、米・大豆を産す。省線富良野線神樂岡の麓に沿うて通じ、達別驛（明治三十二年）を置き之と並行に旭川市に至る街道通じバスの便あり。東神樂實踐女學校あり。明治二十五年本村を設置し永山村戸長役場に屬し同二十六年旭川戸長役場に分屬、同三十四年分離し本村及び神居村戸長役場を設置し同四十二年二級町村制を施行す。大正十四年神居村と分離し昭和四年一級町村制施行いま神樂町・東神樂・西神樂・神樂岡・八千代ヶ岡・忠比内・逢溪郎・千代ヶ岡の八大字よりなる。此地の神樂岡公園は帝室御料地なりしを大正十三年拂下げを受け公園とす。面積約四六〈タール、樹木鬱然として繁り峯地上に上川神社を祀る。北麓に忠別川流れ更に上川平野及び旭川市を一眸に望む。春の櫻花、夏の緑陰、秋の紅葉共によく、旭川市に近く市民の一大樂園地となる。〔上川神社〕神樂ヶ岡公園内に鎮坐。縣社。祭神、天照大神、大己貴命、少彦名命。明治二十六年上川地方開拓守護の神社として奉祀せるなその創建とす。例祭、七月二十一日。

カクライ　隱井　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄、那珂郡に洗井郷あり、蓋し洗井を以て新居と解し、即ち舊郡家の地は偏し不便なる故に新に郡家を移せるより新郡家を新居とする說あれど詳かならず。いま中山信名氏の說に從ひ、洗井は隱井の誤りとなすに從ふ。今の東茨城郡上中妻村の大字に加倉井あり、蓋し郷の遺稱ならん。久壽二年の鹿島神領目錄に那珂郡加久良伊とあるも此地なり

【神樂岡】宮城縣石卷市の西北方約二十粁に位し、遠田郡蒲生村に屬する丘。岳山（二二二米）の北方一〇〇米餘にあり。いま眺念嶺と云ふ。田村將軍はここに夷を打ちしと傳ふ。田村麻呂悔曰く「田村迫到東奥、大居其富、穀高丸於神樂岡」とあり。但し奥州には同名の地所々にあれば、確かにこの山とは定め難し。

【神樂坂】→神樂坂（東京市）

【神樂峯】越後山脈白根火山群中の一峯にして上信國境なる苗場山の東北嶺たり新潟縣南魚沼郡湯澤町の西南方約十四粁に位す。南魚沼郡三俣・三國兩村の山地と、中魚沼郡秋山村の三村境界に峙つ。標高二〇三〇米にして、全山輝石安山岩より成る。東北麓は雁ヶ巢（一六二四米）・高石山（一五八七米）西南麓は苗場山（二一四五米）・赤倉山（一九三八米）に連り、東麓を信濃川上流なる清津川北流し、これに沿ひ三國街道通ず。南麓清津川の畔に赤倉温泉湧出し、五重瀧かかる。

【神樂岡】→神樂岡（京都市）

【神樂】→江上村（長崎縣東彼杵郡）

カグラガオカ　神樂岡　京都市左京區吉田神樂岡町にある丘陵。一に吉田山ともいふ。標高一〇二米餘。類聚國史に、延曆十三年、桓武天皇崇樂岡に幸するとあるは此岡を指すものなり。京都に對する形勝の位置にあるを以て延元以後屢〻小競合を演ず。即ち延元元年、延曆寺の僧兵、官軍に應じ此地に城郭を構へて、宇都宮公綱と戰ひてこれを破りし古戰場なり。また正平六年にも官軍、足利義詮の兵を此に破り京師を收む。永祿四年七月、三好長慶の臣松永久秀、六角義賢とこの地に戰へり。いま西面には官幣中社吉田神社鎭座し、東面には神道黑住教の教祖を祀れる宗忠神社鎭座す。東麓に鶴如堂あり、附近に陽成天皇神樂岡東陵や、後一條天皇菩提樹院陵あり。黑谷の金戒光明寺もまた此丘の南端に位す。男色大鑑・五「神樂岡の邊りに色作りたる男集りて、婆からの酒事と見えて、慈をたたませ、夕日にうつりて紅したる袋をあらはに人の見るなもかまはず、提重のふかきに酒呑かはし喧嘩み脊にして有しが」當流小栗判官・二「神樂が岡に鳴く虫は、神の心をすず虫や、あらぬ方より吹く風に、尾花うなづく振見えて、堰いて逃はせぬ譬虫」

カグラザカ　神樂坂　東京市牛込區神樂町の坂路。坂の中腹に高田穴八幡の旅所あり。祭禮の時神樂を奏するよりその名出づといふ。東京市山の手有數の繁華地にして大震災後「山の手銀座」の名を高めその殷賑新宿に次ぐ。此坂はもと一層毎に段階なかし善國寺毘舍門堂前までみな武家屋敷なりしも明治維新後、毘舍門を中心として今の繁華を見るに至る。江戸名所圖會「牛込の御門より外の坂をいへり。坂の半腹右側に、高田穴八幡の旅所あり。祭禮の時は神輿此所に渡らせらる。其時神樂を奏する故に此號ありといふ。或は云、津久土明神田安の地より今の處へ遷座の時、此坂にて神樂を奏せし故にしか號くとも。又芳宮八幡の社近くして、常に神樂の音此坂遙きこゆるゆゑなりともいひ傳へたり」

カクレ　隱
【隱池】伊賀國（三重縣）の歌枕。今その所在詳かならず。夫木・二三「うき草にかくれの池の埋水はらへは下に月そありける　内大臣」

【隱小野】伊勢國にありといふ野。歌枕。隱野ともいふ。一說、伊賀國にありと。夫木・秋二「しばしなほしほれなはてそ夕日かけかくれのそのの鶯頻の花　經家」

【隱山】伊勢國にありといふ山。歌枕。或は伊賀國なりとの說あれども明かならず。夫木・秋山「みえもせぬ妻を慰ふとや秋霧の隱の山に鹿の鳴らん　行家」夫木・雜二「我が背子はいづちゆくらむ神つものかくれのやまを今日かこゆらん」

カクレッビ　格列飛列島　朝鮮忠清南道瑞山郡の西方海上に浮ぶ列島にして主島格列飛島に格列飛島燈臺の設置あり。明治四十二年の設置に係る。燈質速閃白光、十八秒を隔て十二秒間三閃光、光達距離二六浬なり。航船の霧中信號を聞きし際は三分を隔てて大砲を三發す。尙ほ必要と認むるときは十分時を隔てて之を反復す。

ガクレン　嶽蓮　富士山の別名。

カグロ　神久呂村　靜岡縣遠江國濱名郡の西部。濱松市の西約四粁。東は富塚村・入野村に、南は蒲原村に、西は雄踏村に、北は伊佐見村に夫々隣る。南部に小低地ある外概れ三—四〇米の丘陵を成し諸處に針闊混淆林を見るも田畑よく拓く。米・繭・茶を多產し、また織物業行はる。濱松市に近くバスの便あり。此地古くは和名抄、敷智郡柴江郷の內に屬せしものか。村名は神藤谷・大久保・志都呂を合して本村を建つる際各々其一字を取りて名附しもの。〔賀久留神社〕郷社。祭神、氣長帶比賣命・應田別命・玉依比賣命。式內社。神位、直觀四年從五位下。

カクワ　各和　→和田岡村（靜岡縣小笠郡）

カケ　可家湊　讃岐國（香川縣）の歌枕。其地いま詳かならず、萬葉・一一に「味鍾の鹽津を指して榜く船の名は告りてしを逸はさらめやも」とある味鍾と同じ所か。木田郡に庵治村あり、此の浦を庵治浦といふも此處とは關係なきか。萬葉集略解には、讃岐に庵治浦・鍾浦と云所ありと聞くと注せり。或は一に讃岐に非ずとの說もあり。萬葉・一四「味鍾の可家の湊に入る潮の高出すくもか入りて寢まくも」

カケ　可鷄山　相模國（神奈川縣）の歌枕。今詳かならざるも矢倉嶽の舊名か。新編相模風土記「矢倉ヶ嶽西北にあり、（萬葉集）に和乎可難山と有は、此山の舊名の由、俗仙覺に關本宿の驛翁が語り告し事、萬葉仙覺抄に見えたり、曰、建長三年霜月の頃、駿河國へ鹽俗りしに關本の宿にて岩の主の翁の髮、皆白けて黑きすぢなきが俗りしに、若やとて足柄の和乎可難山と云は何處ぞと問俗りしかば、いまだ知玉はずかと問返し俗りしかば、知らねばこそ問へと申せしかば、當時は矢倉の嶽と申なこそ、昔は和乎可難山とは申けると承ると、申俗りしとなり」

カケ　加計町　廣島縣安藝國山縣郡の南部。北は戸河內村に隣り、東と東南は都谷村・安野村に、西と西南は殿賀村・筒賀村に接す。東部には大九峰（七八〇米）の山脈南に延び、西北界には大箒山（一〇一四米）北境に五百米嶺の山地あり太田川西隣殿賀村より來り大箒山の東側山地を南流する瀧山川を合して急に南折して安野村に出づ。加計の聚落はこの山流部の北岸に位す。町內山地多きも太田川に沿ひて由狹き低地あり田畑拓く。農產に米・麥・繭あり、外に林產・牛の飼育行はれ、紬類の織物を出す。可部町より來る加計街道の終端にて大字加計は地方商業の一中心をなす。町內に廣島電氣會社加計發電所あり。昭和五年四月二十七日の設置にかかる。水利は瀧山川同支流內穀川に依り落差は二一七・五八米。出力は最大一二六〇〇キロワット常時、一一四〇〇キロワット、送電先は廣島變電所。古の事は詳かならざるも加計はもと壓に作る。寛政八年大水害を蒙りたりと。遺志に據れば此地より北方約一里半の瀧山川の上流に溫井と呼ぶ地あり。ここに江之淵とて、大磐石の下に大きなる深潭あり。其長さ凡そ五十間橫二十間許にして極めて幽邃の地なり。里民の傳ふるところに據れば此地は素戔嗚尊の大蛇を斬給ふ地なりといふ。明治二十二年町村制施行の際津浪村と加計村とを合併して加計村と稱し、同三十一年町制を施行す。いま加計・津浪の二大字より成り加計に役場を置く。

カケ　闕（郡）　摂津國（大阪府）の古郡名。東生郡と住吉郡との間にありし百濟郡の後稱。また欠郡にも作る。百濟の郡名は拾芥抄に見ゆるも其以後見えず、恐らくはその廢郡の期は幾國時代の頃なるべし。闕郡はのち住吉・東成二郡に分屬す。其地いま大阪市に入る。※百濟郡

カケ　かげ沼・影沼　陸奥國（岩代・磐島縣）岩瀨郡の古地名。また饒沼ともいふ。舊奥刺街道に當り、須賀川驛の南笠石驛との間に位しいま岩瀨郡饒石村大字饒田の地。奥の細道「とかくして越え行くままにあふくま川を渡る。左に會津根高く右に岩城相馬三春の庄、當陸下野の地をさかひて山つらなる。かげ沼と云ふ所を行くに今日は空曇りて物影うつらず。すか川の驛に等躬といふものを尋ねて四五日とどめらる。」とあり。饒沼には一の傳說を有す。※饒沼

カゲ　加宜（國）　國造本紀に見ゆる國名の一。即ち同書に「膳波高津宮（仁德）御世、能登國造同祖素都乃奈美留命定賜國造」とあり。されど素都乃奈美留命は前に崇神天皇の朝高志深江國の國造に定め賜へる旨同書に見ゆ。よりて或は重出ならん。從つて加宜國の所在詳かならず。然るに大日本地名辭書は加宜は加賀に同じく、ガとゲとは一語の轉なりとせり。記して後の考究を待つ。

ガケ　垰　→湖北村（埼玉縣南埼玉郡）

カケカイホツ　掛開發　富山縣射水